

# 目 次

<b>あ</b>	アジア観光論	大井 功	1	英語通訳Ⅱ	田中 一郎	41
	アジア文化研究A	大井 功	2	英語プレゼンテーションA	OTC	42
	アジア文化研究B	大井 功	3	英語プレゼンテーションB	OTC	43
	アフリカ文化研究A	川添 裕子	4	英語文学Ⅰ	阿部 美恵	44
	アフリカ文化研究B	川添 裕子	5	英語文学Ⅱ	阿部 美恵	45
	アメリカ観光論	末次 俊之	6	英語ライティングⅠ	岡部 佑人	46
	アメリカ文化研究A	廣本 和枝	7	英語ライティングⅡ	岡部 佑人	47
	アメリカ文化研究B	廣本 和枝	8	英語リスニングⅠ	岡部 佑人	48
	安全保障とリスク	高橋 敏哉	9	英語リスニングⅡ	岡部 佑人	49
<b>い</b>	イギリス文化研究A	阿部 美恵	10	英語リーディングⅠ	岡部 佑人	50
	イギリス文化研究B	阿部 美恵	11	英語リーディングⅡ	岡部 佑人	51
	異文化共生論A	伊藤 幹彦	12	エコツーリズム	古賀 学	52
	異文化共生論B	伊藤 幹彦	13	SDGsと人口	松浦 広明	53
	異文化コミュニケーション論Ⅰ	伊藤 幹彦	14	<b>お</b> 応用データ処理	井上 明也	54
	異文化コミュニケーション論Ⅱ	伊藤 幹彦	15	オペレーティングシステム	井上 明也	55
	異文化論A	川添 裕子	16	音楽で遊ぶ(音楽表現)	鹿戸 一範	56
	異文化論B	川添 裕子	17	音楽表現	鹿戸 一範	57
	インターンシップ	鈴木 秀顕	18	音声学	岡部 佑人	58
<b>え</b>	AI実践プログラミング	山本 美紀	19	<b>か</b> 会計学Ⅰ	上野 清貴	59
	AIとビジネスモデル	井上 明也	20		高橋 琢也	60
	AI入門	井上 明也	21	会計学Ⅱ	上野 清貴	61
	AIプログラミングⅠ	山本 美紀	22		高橋 琢也	62
	AIプログラミングⅡ	金 宰郁	23	外国史	伊藤 幹彦	63
	英語Ⅰ	OTC	24	カウンセリング入門	田村 修一	64
		末次 俊之	25	家族心理学	水本 深喜	65
		廣本 和枝	26	家族法	上地 一郎	66
	英語Ⅱ	OTC	27	神奈川文化論 飯島・川口・小林克	67	
		末次 俊之	28	体で遊ぶ(身体表現)	水原佐和子	68
		廣本 和枝	29	環境経営論Ⅰ 飯島 祥二	69	
	英語Ⅲ	阿部 美恵	30	環境経営論Ⅱ 飯島 祥二	70	
		OTC	31	環境(子どもと生活) 野川 智子	71	
		岡部 佑人	32	観光英語Ⅰ 中村 文男	72	
	英語Ⅳ	阿部 美恵	33	観光英語Ⅱ 中村 文男	73	
		OTC	34	観光概論 古賀 学	74	
		岡部 佑人	35	観光経営論 夏目千恵子	75	
	英語学概論A	岡部 佑人	36	観光産業論 飯島 祥二	76	
	英語学概論B	岡部 佑人	37	観光社会学 古賀 学	77	
	英語スピーキングⅠ	岡部 佑人	38	観光社会学Ⅰ 古賀 学	78	
	英語スピーキングⅡ	岡部 佑人	39	観光社会学Ⅱ 古賀 学	79	
	英語通訳Ⅰ	田中 一郎	40	観光情報論 飯島 祥二	80	

観光と法	福島 崇宏…… 81	経営管理論 I	清水 健太…… 125
観光文化史	飯島 祥二…… 82	経営管理論 II	佐久間信夫…… 126
観光文化論	古賀 学…… 83	経営組織論 I	清水 健太…… 127
観光マーケティング論	鈴木 秀顕…… 84	経営組織論 II	清水 健太…… 128
観光マーケティング論 I	鈴木 秀顕…… 85	経営文化論 I	小柏喜久夫…… 129
観光マーケティング論 II	鈴木 秀顕…… 86		清水 健太…… 130
韓国語 I	南 春英…… 87		仲 伯維…… 131
韓国語 II	南 春英…… 88	経営文化論 II	小柏喜久夫…… 132
韓国語コミュニケーション	南 春英…… 89		清水 健太…… 133
韓国文化研究 A	南 春英…… 90		仲 伯維…… 134
韓国文化研究 B	南 春英…… 91	経営分析論 I	高橋 琢也…… 135
監査論	高橋 琢也…… 92	経営分析論 II	高橋 琢也…… 136
漢文学	戸高留美子…… 93	経営リスクマネジメント論	宮林 正恭…… 137
管理会計論	川口 修…… 94	景観論 I	飯島 祥二…… 138
<b>き</b> 企業組織法 I	新城 将孝…… 95	景観論 II	飯島 祥二…… 139
企業組織法 II	新城 将孝…… 96	経済学	宮崎 隆…… 140
企业文化論 I	小柏喜久夫…… 97	経済原論 I	宮崎 隆…… 141
	仲 伯維…… 98	経済原論 II	宮崎 隆…… 142
企业文化論 II	小柏喜久夫…… 99	経済法 I	藤原 俊雄…… 143
	仲 伯維…… 100	経済法 II	藤原 俊雄…… 144
基礎ゼミ I	…… 101	刑事法 I	麻妻みちる…… 145
基礎ゼミ II	…… 103	刑事法 II	麻妻みちる…… 146
キャリアデザイン	夏目千恵子…… 105	契約法 I	新城 将孝…… 147
教育課程・保育課程論	野末 晃秀…… 106	契約法 II	新城 将孝…… 149
教育実習 I (幼稚園)	大沢・野末…… 107	健康(子どもと運動)	水原佐和子…… 151
教育実習 II (幼稚園)	大沢・野末…… 108	原価計算論 I	川口 修…… 152
教育実習事前事後指導 I (幼稚園)	大沢・野末…… 109	原価計算論 II	川口 修…… 153
		言語学	松浦恵津子…… 154
教育実習事前事後指導 II (幼稚園)	大沢・野末…… 110	現代家族論	荒木 光…… 155
		現代社会と文化	石井みどり…… 156
教育心理	田村 修一…… 111		横手 拓治…… 157
行政法 I	柳 裕治…… 112	現代文学(散文)	横手 拓治…… 158
行政法 II	柳 裕治…… 113	現代文学(韻文)	白石 佳和…… 159
近代文学(散文)	横手 拓治…… 114	憲法	三枝 昌幸…… 160
近代文学(韻文)	白石 佳和…… 115	憲法学 I	三枝 昌幸…… 161
金融概論	宮崎 隆…… 116	憲法学 II	三枝 昌幸…… 162
<b>く</b> グローバル化と文化A	安倍 宰…… 117	<b>こ</b> 行動観察法	田村 修一…… 163
グローバル化と文化B	安倍 宰…… 118	行動観察法演習	田村 修一…… 164
グローバル経済・経営ガバナンス	高橋 敏哉…… 119	行動分析学	牧 裕夫…… 165
<b>け</b> 経営学総論 I	小柏喜久夫…… 120	国際関係論 I	高橋 敏哉…… 166
	清水 健太…… 121		福島 崇宏…… 167
経営学総論 II	小柏喜久夫…… 122	国際関係論 II	高橋 敏哉…… 168
	清水 健太…… 123		福島 崇宏…… 169
経営管理論 I	佐久間信夫…… 124	国際観光論	田中 一郎…… 170

国際経営論 I	佐久間信夫	171	社会学	深谷 野亞	221
国際経営論 II	佐久間信夫	172	社会心理学概論	深澤 伸幸	223
国際経済論 I	宮崎 隆	173	社会心理学実験演習	水本 深喜	225
国際経済論 II	宮崎 隆	174	社会調査研究法演習	深澤 伸幸	226
国際政治学 I	高槻 敏哉	175	社会調査入門	深澤 伸幸	227
国際政治学 II	高槻 敏哉	176	社会調査法	深澤 伸幸	228
子育て支援	石橋 優子	177	社会的養護	中島健一朗	229
古典文学	伊藤 高雄	178	社会的養護内容	中島健一朗	230
古典文学(散文)	石上 七鞠	179	社会福祉概論	高玉 和子	231
	伊藤 高雄	180	宗教史	石上 七鞠	232
古典文学(韻文)	伊藤 高雄	181	集団の社会心理学	深澤 伸幸	233
言葉(子どもコミュニケーション)	古金 悅子	182	集団間の対立と和解	深澤 伸幸	235
言葉で遊ぶ(言語表現)	古金 悅子	183	食文化と観光	古賀 学	237
子ども教育原理	大沢 裕	184	書道	中島 裕子	238
子ども教育社会学	深谷 野亞	185	情報基礎	井上・金・鈴木・山本	239
子ども教育制度論	野川 智子	186	情報検索論	井上 明也	240
子ども教育相談	渡邊 真理	187	情報コミュニケーション論	鈴木 秀顕	241
子ども教育方法論	野末 晃秀	188	情報システム概論	金 宰郁	242
子どもの健康と安全	大脇・吉田	189	情報職業論	鈴木 秀顕	243
子どもの食と栄養	山口 恭子	191	情報処理概論	井上・金・鈴木・山本	244
子どもの保健	大脇・吉田	193	情報セキュリティ概論	金 宰郁	245
子ども保育者論	大沢 裕	194	情報セキュリティ論	金 宰郁	246
コミュニケーション心理学	水本 深喜	195	情報理論	金 宰郁	247
コンピュータグラフィックス	秋廣 誠	196	情報倫理	鈴木 秀顕	248
コンピュータプレゼンテーション	金・鈴木	197	人工知能と未来	井上 明也	249
コンベンションビジネス論	田中 一郎	198	人的資源管理論 I	沈 瑛	250
<b>さ</b> 財務管理論 I	上野 清貴	199	人的資源管理論 II	沈 瑛	251
財務管理論 II	上野 清貴	200	人的担保法	上地 一郎	252
財務諸表論	高橋 琢也	201	心理学	田村 修一	253
産業心理学概論	深澤 伸幸	202		深澤 伸幸	254
	牧 裕夫	204	心理学基礎 A	牧 裕夫	256
産業政策とイノベーション	高槻 敏哉	205	心理学基礎 B	牧 裕夫	257
<b>し</b> 事故の法的責任論	福島 崇宏	206	心理学研究法	水本 深喜	258
実践日本語トレーニング A	澤田帆奈美	207	心理学実験演習	荒木 光	259
実践日本語トレーニング B	澤田帆奈美	208	心理学実験法	荒木 光	260
実用英語 I	小倉美知子	209	心理統計法	荒木 光	261
実用英語 II	小倉美知子	210	<b>す</b> 数学	山本 美紀	262
質的調査法	水本 深喜	211	スポーツ実技 A	白井 大史	263
私法学 I	上地 一郎	212		小林夕紀恵	264
	新城 将孝	213	スポーツ実技 B	白井 大史	265
私法学 II	上地 一郎	215		小林夕紀恵	266
	新城 将孝	216	スポーツ論	小林夕紀恵	267
児童家庭福祉	高玉 和子	218	<b>せ</b> 性格心理学	牧 裕夫	268
児童文学	横手 拓治	220	政治学	末次 俊之	269

政治学	高槻 敏哉……270	調査研究(フィールドワーク)	川添 裕子……318
	三枝 昌幸……271	地理学	南 春英……319
成人・老年期の心理	荒木 光……272	地理情報システム	山本 美紀……320
青年期の心理	牧 裕夫……273	<b>て</b> ディスカッション	澤田帆奈美……321
生物学	橋詰二三夫……274		横手 拓治……322
<b>そ</b> 相談援助	石橋 優子……275	データサイエンス	井上 明也……323
造形で遊ぶ(造形表現)	小野 和……276	データサイエンスの統計学	井上 明也……324
造形表現	小野 和……277	データサイエンス I	井上 明也……325
総合ゼミ I	川口・小林克・伸……278	データサイエンス II	井上 明也……326
総合ゼミ II	伊藤 幹彦……280	データ処理	井上・金・山本……327
	沈 金澤……282	データマイニング	井上 明也……328
相続法	上地 一郎……284	データモデリング	山本 美紀……329
組織心理学	深澤 伸幸……285	デジタル技術と産業 I	飯島 祥二……330
租税法 I	郷原 廣行……287	デジタル技術と産業 II	井上 明也……331
	柳 裕治……288	デジタル社会とコミュニケーション	鈴木 秀顕……332
租税法 II	郷原 廣行……289	デジタル社会と人間	金澤 秀嗣……333
	柳 裕治……290	デジタル社会論	高槻 敏哉……334
<b>た</b> 対人関係の心理学	牧 裕夫……291	デジタルとエンターテイメント産業	真保安一郎……335
多変量解析法入門	水本 深喜……292	デジタル認証技術基礎	金 宰郁……337
<b>ち</b> 地域観光論	鶴尾 裕子……293	デジタルビジネスモデル論	鈴木 秀顕……338
地域観光論 I	鶴尾 裕子……294	哲学	金澤 秀嗣……339
地域観光論 II	鶴尾 裕子……295	伝統文化	石井みどり……340
地域振興論	飯島 祥二……296	<b>と</b> ドイツ語 I	金澤 秀嗣……341
地域振興論 I	飯島 祥二……297	ドイツ語 II	金澤 秀嗣……342
地域振興論 II	飯島 祥二……298	ドイツ語コミュニケーション	金澤 秀嗣……343
地域文化史 I	安倍 宰……299	統計学	井上 明也……344
地域文化史 II	安倍 宰……300	動画作成・メディア配信技術	秋廣 誠……345
地域文化論	小林 克……301	読書と豊かな人間性	横手 拓治……346
	福島 崇宏……302	特別の支援を必要とする幼児理解(障がい児保育)	
地域文化論 I	小林 克……303		荒木 光……347
	福島 崇宏……304	<b>に</b> 日本近世文化	石上 七鞘……348
地域文化論 II	小林 克……305		伊藤 高雄……349
	福島 崇宏……306	日本芸能史	伊藤 高雄……350
着地型・発地型観光論 I	大井 功……307	日本芸能論	伊藤 高雄……351
着地型・発地型観光論 II	大井 功……308	日本交流史	安倍 宰……352
中国語 I	沈 瑛……309	日本古代史	石上 七鞘……353
	但 繼紅……310	日本語 I	白石 佳和……354
	仲 伯維……311	日本語 II	白石 佳和……355
中国語 II	沈 瑛……312	日本語 III	白石 佳和……356
	但 繼紅……313	日本語 IV	白石 佳和……357
	仲 伯維……314	日本語概論	澤田帆奈美……358
中国語コミュニケーション	但 繼紅……315	日本語学(音声・音韻)	松浦恵津子……359
中国文化研究 A	但 繼紅……316	日本語学(語彙)	松浦恵津子……360
中国文化研究 B	但 繼紅……317	日本語学(待遇表現)	松浦恵津子……361

日本語学(文字)	澤田帆奈美	362	ビジネス法Ⅱ	新城 将孝	407
日本語学(文法)	松浦恵津子	363	ビジュアル情報論	秋廣 誠	409
日本語教育実習	松浦恵津子	364	美術史	秋廣 誠	410
日本語教育実習指導	澤田帆奈美	365	<b>ふ</b> ファイナンス法	新城 将孝	411
日本語教育方法論Ⅰ	澤田帆奈美	366	フィールドワーク	田村 修一	412
日本語教育方法論Ⅱ	松浦恵津子	367	物権法	上地 一郎	413
日本語教授法	澤田帆奈美	368	物的担保法	上地 一郎	414
日本語講読	松浦恵津子	369	フランス語Ⅰ	平野由里子	415
日本語史	松浦恵津子	370	フランス語Ⅱ	平野由里子	416
日本語プレゼンテーション	石井みどり	371	フランス語コミュニケーション	平野由里子	417
日本史	石井みどり	372	プログラミング基礎	鈴木 秀顕	418
	小林 克	373	プロジェクトマネジメント(起業論)	鈴木 秀顕	419
日本風俗史	石上 七鞘	374	文化遺産と観光	古賀 学	420
	伊藤 高雄	375	文化交流史A	安倍 宰	421
日本文化概論	石井みどり	376	文化交流史B	安倍 宰	422
日本文化研究	安倍 宰	377	文化心理学	菅沼 憲治	423
日本文化研究A	石上 七鞘	378	文化人類学A	川添 裕子	424
	伊藤 高雄	379	文化人類学B	川添 裕子	425
日本文化研究B	石上 七鞘	380	文章作法	澤田帆奈美	426
	伊藤 高雄	381	<b>ほ</b> 保育課程論	野末 晃秀	427
日本文化史	石上 七鞘	382	保育・教職実践演習(幼稚園)		
	伊藤 高雄	383		大沢・古金・小野・渡邊	428
日本文学	白石 佳和	384	保育原理	大沢 裕	429
日本文学概論	石上 七鞘	385	保育実習Ⅰ(施設)	小野・古金・渡邊	430
日本文学講読	伊藤 高雄	386	保育実習Ⅰ(保育所)	小野・古金・渡邊	431
日本文学史	白石 佳和	387	保育実習Ⅱ(保育所・施設)		
	石上 七鞘	388		小野・古金・渡邊	432
	伊藤 高雄	389	保育実習指導Ⅰ(保育所)		
乳児保育Ⅰ	石橋 優子	390		小野・古金・渡邊	433
乳児保育Ⅱ	石橋 優子	391	保育実習指導Ⅰ(施設)		
人間関係(子どもと生活)	渡邊 真理	392		小野・古金・渡邊	434
認知情報演習	牧 裕夫	393	保育実習指導Ⅱ(保育所・施設)		
認知情報論	牧 裕夫	394		小野・古金・渡邊	435
認知心理学	牧 裕夫	395	保育実践演習		
<b>ね</b> ネットワーク技術	秋廣 誠	396		大沢・古金・小野・渡邊	436
ネットワーク構築論	井上 明也	397	保育内容(環境)	野末 晃秀	437
<b>は</b> 発達心理学概論	田村 修一	398	保育内容(健康)	水原佐和子	438
発達と学習の心理	水本 深喜	399	保育内容(言葉)	古金 悅子	439
<b>ひ</b> 比較文化論Ⅰ	福島 崇宏	400	保育内容(人間関係)	大沢 裕	440
比較文化論Ⅱ	福島 崇宏	401	保育内容(表現)	古金 悅子	441
東アジアの文化史	伊藤 幹彦	402	保育内容総論	野末 晃秀	442
ビジネスとデータ	井上 明也	403	保育の心理学Ⅰ	荒木 光	443
ビジネスストラベル論	安本 達式	404	保育の心理学Ⅱ	荒木 光	444
ビジネス法Ⅰ	新城 将孝	405	法学	上地 一郎	445

法学	三枝 昌幸……446	レポートライティング	澤田帆奈美……495
簿記論 I	川口 修……447		横手 拓治……496
	高橋 琢也……448	ろ 労働法 I	福島 崇宏……497
簿記論 II	川口 修……449	労働法 II	福島 崇宏……498
	高橋 琢也……450		
簿記論 III(中級)	高橋 琢也……451		
簿記論 IV(中級)	高橋 琢也……452		
ホスピタリティ論	古賀 学……453		
	夏目千恵子……454		
ホテル経営論 I	小林 信次……455		
ホテル経営論 II	小林 信次……456		
ホテルサービス実務	小林 信次……458		
ボランティア論	仲 伯維……460		
ま マーケティング論 I	夏目千恵子……462		
	宮崎 隆……463		
マーケティング論 II	夏目千恵子……464		
	宮崎 隆……465		
マルチメディア A(画像)	秋廣 誠……466		
マルチメディア B(映像)	秋廣 誠……467		
み 民俗学	伊藤 高雄……468		
	小林 克……469		
め メディア・アート論	秋廣 誠……470		
メディア産業論	高橋 敏哉……471		
メディア情報論	鈴木 秀顕……472		
も モバイルアプリ作成	金 宰郁……473		
よ 幼児・児童期の心理	荒木 光……474		
幼児理解	大沢 裕……475		
ヨーロッパ観光論	安本 達式……476		
ヨーロッパ文化研究 A	廣本 和枝……477		
ヨーロッパ文化研究 B	廣本 和枝……478		
吉田松陰論	増田 裕彦……479		
り リスク心理学	深澤 伸幸……480		
旅行会社経営論 I	大井 功……482		
旅行会社経営論 II	大井 功……483		
旅行業務基礎 I	大井 功……484		
旅行業務基礎 II	大井 功……485		
旅行業論 I	大井 功……486		
旅行業論 II	大井 功……487		
臨床心理学	水本 深喜……488		
倫理学	金澤 秀嗣……489		
れ 歴史考古学	小林 克……490		
レストラン経営論 I	小林 信次……491		
レストラン経営論 II	小林 信次……492		
レストランサービス実務	小林 信次……493		

**【演習】**

演習 I	.....499～529
演習 II	.....530～558

**【教職課程科目】**

英語科指導法 I	廣本 和枝.....559
英語科指導法 II	廣本 和枝.....560
英語科指導法 III	廣本 和枝.....561
英語科指導法 IV	廣本 和枝.....562
外国史論 I	伊藤 幹彦.....563
外国史論 II	伊藤 幹彦.....564
教育課程論	山本・大沢.....565
教育原理	大沢 裕.....566
教育実習 I	深谷 野亜.....567
教育社会学	深谷 野亜.....568
教育心理学	田村 修一.....569
教育相談	田村 修一.....570
教育方法論(情報通信技術の活用含む)	山本・鈴木.....571
教師論	山本・大沢.....572
教職実践演習	深谷・大沢・石上・増田・山本.....573
公民科教育法 I	高乘 智之.....574
公民科教育法 II	高乘 智之.....575
国語科教育法 A	伊藤 高雄.....576
国語科教育法 B	伊藤 高雄.....577
国語科教育法 C	松浦恵津子.....578
国語科教育法 D	伊藤 高雄.....579
社会科教育法 I	増田 裕彦.....580
社会科教育法 II	増田 裕彦.....581
社会学概論	深谷 野亜.....582
情報科教育法 I	山本 美紀.....584
情報科教育法 II	山本 美紀.....585
心理学概論 I	深澤 伸幸.....586
生徒・進路指導論	田村 修一.....588
政治学概論 I	末次 俊之.....589
政治学概論 II	末次 俊之.....590
総合的な学習の時間の指導法	増田 裕彦.....591
地理学概論 I	南 春英.....592
地理学概論 II	南 春英.....593
哲学 I	金澤 秀嗣.....594
哲学 II	金澤 秀嗣.....595
道徳教育指導法	深谷 野亜.....596

特別活動論 増田・鈴木.....597

特別の支援を必要とする生徒の理解 荒木 光.....598

日本史概論 I 増田 裕彦.....599

日本史概論 II 増田 裕彦.....600

法学概論 上地 一郎.....601

**【司書教諭科目】**

学校経営と学校図書館	石上 七鞠.....602
学校図書館メディアの構成	鈴木 秀顕.....603
学習指導と学校図書館	石上 七鞠.....604
情報メディアの活用	鈴木 秀顕.....605

**【学芸員科目】**

生涯学習概論	夏目千恵子.....606
博物館概論	増田 裕彦.....607
博物館教育論	安倍 宰.....608
博物館経営論	小林 克.....609
博物館実習	小林 克.....611
博物館情報・メディア論	小林 克.....613
博物館資料保存論	小林 克.....614
博物館資料論	安倍 宰.....615
博物館展示論	小林 克.....616

**【社会教育主事・社会教育士科目】**

キャリアデザイン	夏目千恵子.....617
社会教育課題研究	増田 裕彦.....618
社会教育実習	増田 裕彦.....619
生涯学習概論 I	夏目千恵子.....621
生涯学習概論 II	夏目千恵子.....622
生涯学習支援論 I	中川 洋太.....623
生涯学習支援論 II	中川 洋太.....625
博物館経営論	小林 克.....627
ボランティア論	仲 伯維.....629



開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	アジア観光論 (Asian Tourism Studies)						科目分類	専門科目							
担当教員	大井 功														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に突入する。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。														
授業目標:	アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○														
授業計画・事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：配布プリントを読返す			講義 90分							
2	アジアの政治：開発独裁国家が発展した理由を学び、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
3	アジアの経済：先進国がアジア投資を拡大した背景を学び、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
4	アジアの女性：人身売買、国際移住労働などの課題解決策を討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
5	イスラム世界：名誉殺人が無くならない理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
6	仏教の浄土思想：悪人ほど極楽浄土に行ける理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
7	ヒンドゥ教の身分制度：カースト制度が無くならない理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
8	ユダヤ人迫害：ユダヤ人が迫害される理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
9	偽りのキリスト教：神がアダムのあばら骨からイブを創った理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
10	神道文化：日本の最高神アマテラスが女性である理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
11	儒教思想：現在も息づく儒教思想を検証し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
12	武士道：武士がバラより桜を愛する理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
13	客家：客家人から多くのアジアの指導者を排出した理由を考え、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
14	風水の科学：江戸の町が風水師の環境学により設計された痕跡を調べ、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
15	チベット仏教：輪廻転生の政治利用を検証し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分							
教本：	参考文献： プリントを配布する。 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ¥1,500+税														
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。	平常点（授業参加度、小テスト等）(40%)、定期試験 (60%) 等														
学生へのアドバイス：	グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	アジア文化研究A (Asian Cultural Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	大井 功																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要:	21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。																									
授業目標:	アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	オリエンテーション					事前:なし 事後:配布プリントを読返す	講義 90分																			
2	アジアがわかる(I):アジアの政治体制やアジア民族を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
3	アジアがわかる(II):アジアの経済動向やアジアの貿易を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
4	アジアの女性たち:アジアの女性指導者、人身売買を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
5	イスラム文化:イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
6	仏教文化:輪廻転生、仏教の教えなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
7	ヒンドゥー教:カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
8	ユダヤ文化:旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
9	キリスト文化:新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
10	神道文化:穢れと差別、言霊、怨靈信仰、天皇崇拝を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
11	儒教文化:批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
12	武士道:武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
13	客家:流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
14	風水:陰陽五行、風水都市、五行早生を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
15	チベット仏教:ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分 映像 20分 討議 20分																			
教本:	参考文献: プリントを配布する。 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ¥866+税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社 ¥780+税																									
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。	平常点(授業参加度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等																									
学生へのアドバイス:	グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。																									
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア文化研究B (Asian Cultural Studies B)					科目分類	専門科目		
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:	21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。								
授業目標:	アジアの課題を知り、解決策がわかる。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習・形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	アジアの水問題：水不足と水汚染、地下水の危機、国際河川、水道の民営化を考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
2	東南アジアの政治とビジネス：シンガポールとインドネシアの攻防を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
3	麻薬文化：阿片戦争、日本と阿片、マリファナと喫煙を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
4	人身売買：子供の誘拐、臓器売買、ペドファイルを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
5	アジアのリゾート：リゾート開発と観光文化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
6	アジアの世界遺産：世界遺産リストの問題点を考察し、討議する。（アンコール・ワット、タージマハルなど）					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
7	ロングステイ：日本人移民、シルバーコロンビア計画、海外ロングステイを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
8	リゾート開発と観光文化：開発による観光文化の変容を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
9	華人：アリババ商法、プリブミ、ペラナカンなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
10	貧困：物乞いと宗教、薬物依存、児童労働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
11	白人略奪の歴史：マゼランの海賊行為、イエズス会と殺戮などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
12	アジア史の真実：大英帝国とインド、日露戦争の意味を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
13	東南アジア史：経済発展、独立、開発独裁を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
14	シンガポールの過去・現在：政治的安定と高い経済水準を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
15	パレスチナ問題：イギリスの三枚舌外交の結末を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分 映像 20分 討議 20分
教本：	参考文献： プリントを配布する。 1. 柴田明夫著「水戦争」 ¥760+税 2. 山下清海著「チャイナタウン」 丸善 ¥2,300+税								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。	平常点（授業参加度、小テスト等）(40%)、定期試験(60%)等								
学生へのアドバイス：	グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。								
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																				
授業科目(英文)	アフリカ文化研究A (Introduction to African Cultures A)						科目分類	専門科目																																																					
担当教員	川添 裕子																																																												
履修条件	前提科目	なし			その他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom利用。																																																							
<p>授業概要：</p> <p>人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、ポピュラーアート、ライフスタイル、助け合いについて学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。</p>																																																													
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。</li> <li>アフリカの現在について理解する。</li> </ol>																																																													
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td> <td colspan="3" rowspan="2">○</td> <td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○																																								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																																																									
○	○																																																												
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。</td> <td>事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。</td> <td>事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。</td> <td>事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。</td> <td>事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。</td> <td>事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、植民地支配、搾取、独立、部族主義について学ぶ。</td> <td>事前：植民地支配 事後：2-4章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。</td> <td>事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>9・10</td> <td>3-1章「ポピュラーアート」：語りの技と冗談関係、大衆文学、大衆演劇、大衆映画、音楽、ダンスについて学ぶ。</td> <td>事前：アフリカ音楽 事後：3-1章の復習</td> <td>講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>3-2章「ライフスタイル」：携帯革命、情報革命、送金革命、金融革命、求職革命について学ぶ。</td> <td>事前：スマホ利用振り返り 事後：3-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>5-1章「助け合い」：自然発生的な助け合い、組織的な助け合い、賴母子講（タノモシコウ）について学ぶ。</td> <td>事前：助け合い経験 事後：4-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1-1章「民族と文化」：国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。</td> <td>事前：前期授業振り返り 事後：テスト準備</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>14・15</td> <td>授業全体を振り返る。最終テストを受ける。</td> <td>事前：テスト準備 事後：振り返り</td> <td>講義30分、テスト60分</td> </tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1・2	2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。	事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	3	1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。	事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	4	1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。	事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	5	2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。	事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	6	2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。	事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	7	2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、植民地支配、搾取、独立、部族主義について学ぶ。	事前：植民地支配 事後：2-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	8	1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。	事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	9・10	3-1章「ポピュラーアート」：語りの技と冗談関係、大衆文学、大衆演劇、大衆映画、音楽、ダンスについて学ぶ。	事前：アフリカ音楽 事後：3-1章の復習	講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分	11	3-2章「ライフスタイル」：携帯革命、情報革命、送金革命、金融革命、求職革命について学ぶ。	事前：スマホ利用振り返り 事後：3-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	12	5-1章「助け合い」：自然発生的な助け合い、組織的な助け合い、賴母子講（タノモシコウ）について学ぶ。	事前：助け合い経験 事後：4-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	13	1-1章「民族と文化」：国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。	事前：前期授業振り返り 事後：テスト準備	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義30分、テスト60分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																										
1・2	2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。	事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
3	1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。	事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
4	1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。	事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
5	2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。	事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
6	2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。	事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
7	2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、植民地支配、搾取、独立、部族主義について学ぶ。	事前：植民地支配 事後：2-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
8	1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。	事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
9・10	3-1章「ポピュラーアート」：語りの技と冗談関係、大衆文学、大衆演劇、大衆映画、音楽、ダンスについて学ぶ。	事前：アフリカ音楽 事後：3-1章の復習	講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分																																																										
11	3-2章「ライフスタイル」：携帯革命、情報革命、送金革命、金融革命、求職革命について学ぶ。	事前：スマホ利用振り返り 事後：3-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
12	5-1章「助け合い」：自然発生的な助け合い、組織的な助け合い、賴母子講（タノモシコウ）について学ぶ。	事前：助け合い経験 事後：4-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
13	1-1章「民族と文化」：国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。	事前：前期授業振り返り 事後：テスト準備	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義30分、テスト60分																																																										
<p>教本：</p> <p>参考文献： 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500+税 そのつど紹介する。</p>																																																													
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。</p>																																																													
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。</p>																																																													
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える</p>																																																													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																				
授業科目(英文)	アフリカ文化研究B (Introduction to African Cultures B)						科目分類	専門科目																																																					
担当教員	川添 裕子																																																												
履修条件	前提科目	なし			その他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom利用。																																																							
<p>授業概要：</p> <p>人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、政治的動乱、和解と共生、自然保護と地域住民について学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。</p>																																																													
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。</li> <li>アフリカの現在について理解する。</li> </ol>																																																													
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td> <td colspan="3" rowspan="2">○</td> <td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○																																								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																																																									
○	○																																																												
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。</td> <td>事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。</td> <td>事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。</td> <td>事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。</td> <td>事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。</td> <td>事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、搾取、独立、植民地支配、部族主義について学ぶ。</td> <td>事前：植民地支配 事後：章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。</td> <td>事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>9・10</td> <td>4-1章「政治的動乱」：独立後のアフリカ、旧宗主国の影響、植民地の負の遺産、冷戦、資源争奪について学ぶ。</td> <td>事前：紛争ニュース 事後：4-1章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5-3章「和解と共生」：実和解委員会、南アフリカ共和国、アパルトヘイト、マンデラ、対話とローカル参加について学ぶ。</td> <td>事前：携帯文化 事後：5-2章の復習</td> <td>講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>4-3章「自然保護と地域住民」：自然破壊、自然保護、観光、地域住民について学ぶ。</td> <td>事前：助け合い経験 事後：4-3章の復習</td> <td>講義60分、ディベート20分、小テスト10分</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「結び 未来を展望する」アフリカの困難、希望、潜在力について学ぶ。</td> <td>事前：後期授業振り返り 事後：テスト準備</td> <td>講義60分、ディベート20分、記述10分</td> </tr> <tr> <td>14・15</td> <td>授業全体を振り返る、最終テストを受ける。</td> <td>事前：テスト準備 事後：振り返り</td> <td>講義30分、テスト60分</td> </tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1・2	2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。	事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	3	1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。	事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	4	1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。	事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	5	2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。	事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	6	2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。	事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	7	2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、搾取、独立、植民地支配、部族主義について学ぶ。	事前：植民地支配 事後：章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	8	1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。	事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	9・10	4-1章「政治的動乱」：独立後のアフリカ、旧宗主国の影響、植民地の負の遺産、冷戦、資源争奪について学ぶ。	事前：紛争ニュース 事後：4-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	11	5-3章「和解と共生」：実和解委員会、南アフリカ共和国、アパルトヘイト、マンデラ、対話とローカル参加について学ぶ。	事前：携帯文化 事後：5-2章の復習	講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分	12	4-3章「自然保護と地域住民」：自然破壊、自然保護、観光、地域住民について学ぶ。	事前：助け合い経験 事後：4-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分	13	「結び 未来を展望する」アフリカの困難、希望、潜在力について学ぶ。	事前：後期授業振り返り 事後：テスト準備	講義60分、ディベート20分、記述10分	14・15	授業全体を振り返る、最終テストを受ける。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義30分、テスト60分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																										
1・2	2-1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。	事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
3	1-3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開畠、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。	事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
4	1-4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。	事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
5	2-2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。	事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
6	2-3章「奴隸交易」：人類史における奴隸、近世・近代奴隸制下の奴隸交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。	事前：奴隸のイメージ 事後：2-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
7	2-4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、搾取、独立、植民地支配、部族主義について学ぶ。	事前：植民地支配 事後：章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
8	1-2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。	事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
9・10	4-1章「政治的動乱」：独立後のアフリカ、旧宗主国の影響、植民地の負の遺産、冷戦、資源争奪について学ぶ。	事前：紛争ニュース 事後：4-1章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
11	5-3章「和解と共生」：実和解委員会、南アフリカ共和国、アパルトヘイト、マンデラ、対話とローカル参加について学ぶ。	事前：携帯文化 事後：5-2章の復習	講義60分、グループワーク 20分、小テスト 10分																																																										
12	4-3章「自然保護と地域住民」：自然破壊、自然保護、観光、地域住民について学ぶ。	事前：助け合い経験 事後：4-3章の復習	講義60分、ディベート20分、小テスト10分																																																										
13	「結び 未来を展望する」アフリカの困難、希望、潜在力について学ぶ。	事前：後期授業振り返り 事後：テスト準備	講義60分、ディベート20分、記述10分																																																										
14・15	授業全体を振り返る、最終テストを受ける。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義30分、テスト60分																																																										
<p>教本：</p> <p>参考文献： 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500+税 そのつど紹介する。</p>																																																													
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。</p>																																																													
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけて、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。</p>																																																													
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える</p>																																																													

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	アメリカ観光論 (American Tourism Studies)					科目分類	専門科目					
担当教員	末次 俊之											
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:	アメリカは世界有数の「観光大国」です。世界各地の人々が大挙してアメリカを訪問するようになり、訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカ観光の概要から、観光を支える各産業分野、アメリカ政府（連邦・州・自治体）の観光政策などについて学んでいきます。											
授業目標:	世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光分野を幅広く理解する。											
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養								
○	○											
授業計画・事前学習・事後学習、形式	授業計画・事前学習・事後学習、形式											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態					
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習	講義					
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
6	アメリカの宿泊産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
7	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
8	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習	小テストの実施・フィードバック					
9	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
10	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
11	各州の観光政策①—カリフォルニア州					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
12	各州の観光政策②—ニューヨーク州					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
13	アメリカの国立公園					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
14	アメリカの美術館・博物館					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
15	アメリカのテーマパーク 総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習	講義					
教本:	参考文献: 特に指定はありません。 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。											
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみて下さい。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	アメリカ文化研究A (American Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。																										
授業目標 :																										
アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることができます。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			◎																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																			
1	Introduction: The American Character					事前:なし 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
2	Native American Tribes					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
3	New England					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
4	The Pilgrims					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
5	The Three Northern Rural States and Boston					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
6	Metropolitan New York					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
7	Cosmopolitan New York					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
8	Appalachia					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
9	Thirteen Colonies					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
10	The Southern colonists and Slaves					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
11	The American Music Roots					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
12	Pennsylvania					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
13	The Industrial North					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
14	Middle America: The Prairie and Plain States					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
15	West and East of Middle America					事前:ハンドアウト 事後:設問解答	講義60分 ワークシート30分																			
教本 :					参考文献 :																					
Where Are You From? : American Regions J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ¥1,900+税 ISBN978-4-7553-0387-6					USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions A Regents Publication																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
毎回、授業内容を確認するために、設間に解答するようにしてください。復習になります。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 通年	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	アメリカ文化研究B (American Studies B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要 :																										
それぞれの地域に焦点を当てたテクストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。																										
授業目標 :																										
アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることができます。ハンドアウトとテクストは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			◎																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態																		
1	Introduction: American Family Life					事前:なし 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
2	Out West: California Gold Rush					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
3	Out West of the Twentieth Century					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
4	Alaska					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
5	European Colonies in America					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
6	How Colonies Differed					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
7	The Pacific Northwest: The First and Second Stage of Immigrants					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
8	The Pacific Northwest: Today					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
9	The Southwest: The Kingdom of New Mexico					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
10	The Southwest: Hispanic Population					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
11	Hawaii					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
12	Federal Government and States' Rights					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
13	Issues: Taxes and Textbook Adoption					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
14	Religion in the Regions					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
15	Who believes what in the West?					事前:ハンドアウト 事後:設問解答		講義60分 ワークシート30分																		
教本 :					参考文献 :																					
Where Are You From? : American Regions J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ¥1,900+税 ISBN978-4-7553-0387-6					USA : Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions A Regents Publication																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
毎回、授業内容を確認するために、設間に解答するようにしてください。復習になります。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	安全保障とリスク (Security and Risks)						科目分類	専門科目														
担当教員	高橋 敏哉																					
履修条件	前提科目	国際関係論Ⅰの事前履修が望ましい。			その他																	
授業概要：																						
国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見てきます。																						
授業目標：																						
①安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 ②安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	オリエンテーション				事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義															
2	国際関係学と安全保障：国際関係学と安全保障論の関係を理解します。安全保障とは何かについても触れます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
3	安全保障と脅威①：安全保障の要素である「脅威」について深く掘り下げてみます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
4	安全保障と脅威②：脅威を中心とした安全保障のモデルを概略していきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
5	リスク社会論①：現代社会におけるリスクとは何かについて紹介します。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
6	リスク社会論②：リスクをどう管理するか。リスク・マネージメント論を概略します。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
7	安全保障への当てはめ：安全保障へのリスク論の当てはめの状況と実例を紹介します。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
8	ミニテスト：前半のまとめをします。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		テストと解説															
9	軍事的安全保障とリスク：現代における軍事安全保障でのリスクの内容を探っていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
10	国内政治要因とリスク：今日の国内政治でのリスクの内容を探っていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
11	経済的安全保障とリスク：今日の経済安全保障でのリスクの内容を探っていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
12	環境の安全保障とリスク：今日の環境安全保障でのリスクの内容を探っていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
13	社会的安全保障(移民)とリスク：今日の移民問題でのリスクの内容を探っていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
14	安全保障でのリスク論の限界：安全保障でのリスク論の限界について触れていきます。				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分															
15	安全保障とリスク：まとめ				事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		ディスカッション															
教本：		参考文献：																				
各回ハンドアウトを配ります。		適宜指示します。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんには是非受講してみてください。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	イギリス文化研究A (English Study A)						科目分類	専門科目													
担当教員	阿部 美恵																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> ロンドンを中心とした生活習慣、観光、社会制度、文学、映画などの側面からイギリスの全体像を概観する。併せて、内容理解や文法力や語彙の強化など英語力の向上を図る。																					
<b>授業目標 :</b> 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的なさまざまな視点から学ぶことによって、異なる文化を理解し、受容する態度を習得することを目標とする。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	○	○																			
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)		授業形態														
1	Introduction				事前: シラバスを熟読する 事後: 授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説														
2	Unit 1 Fish and Chips				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
3	Unit 2 The River Thames — 'Liquid History'				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
4	Unit 3 The Festival Season				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
5	Unit 4 Going to School				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
6	Unit 1~Unit 4 Review				事前: Unit 1~4の復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A														
7	Unit 5 Singing a Song in Liverpool				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
8	Unit 6 Lending a Hand				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
9	Unit 7 The Amazing Harry Potter				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
10	Unit 8 Flower of Scotland				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
11	Unit 5~Unit 8 Review				事前: Unit 5~8の復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A														
12	Unit 9 Inside the British Museum				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
13	Unit 10 Cats, Dogs and Urban Foxes				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
14	Unit 11 Princess Diana's Levacy				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分														
15	イギリス文化研究Aについての総復習				事前: Unit 1~11 の復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A														
<b>教本 :</b> British Life Today: An Introduction (南雲堂)					参考文献 : 授業中に適宜資料を配布する。																
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (50%)、課題等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。																					
<b>学生へのアドバイス :</b> 常に世界の出来事に关心を持ち、積極的に授業に参加してください。																					
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	イギリス文化研究B (English Study B)						科目分類	専門科目														
担当教員	阿部 美恵																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
<b>授業概要 :</b> ロンドンを中心とした生活習慣、観光、社会制度、文学、映画などの側面からイギリスの全体像を概観する。併せて、内容理解や文法力や語彙の強化など英語力の向上を図る。																						
<b>授業目標 :</b> 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的なさまざまな視点から学ぶことによって、異なる文化を理解し、受容する態度を習得することを目標とする。																						
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																				
	○	○																				
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																						
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)		授業形態															
1	Introduction				事前: シラバスを熟読する 事後: 授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説															
2	Unit 12 The London Shopping Experience				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
3	Unit 13 Let's go to Paris				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
4	Unit 14 How European are the British?				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
5	Unit 15 Cambridge — 800 Years Old				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
6	Unit 12~Unit 15 Review				事前: Unit 12~15を復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A															
7	Unit 16 A Journey to Wales				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
8	Unit 17 'Slumdog Millionaire'				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
9	Unit 18 Government in Britain				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
10	Unit 19 Green Issues				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
11	Unit 20 The London Olympics				事前: テキストの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
12	Unit 16~Unit 20 Review				事前: Unit 16~20を復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A															
13	A Journey to Scotland				事前: プリントの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
14	A Journey to Ireland				事前: プリントの予習をする 事後: 授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分															
15	イギリス文化研究Bについての総復習				事前: Unit 12~20を復習 事後: 授業の復習をする		解説、Q&A															
<b>教本 :</b>		参考文献: British Life Today: An Introduction (南雲堂) 授業中に適宜資料を配布する。																				
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (50%)、課題等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。																						
<b>学生へのアドバイス :</b> 常に世界の出来事に关心を持ち、積極的に授業に参加してください。																						
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	異文化共生論A (Intercultural Understanding A)						科目分類	専門科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
本授業では、異文化共生理論、グローバリゼーション=地球の縮小化、多文化化、相互依存、自文化中心主義、グローバルな見方、文化の定義、ジェンダーの問題、外国人という言説、マイノリティとマジョリティ、多文化社会と社会統合、日本文化の価値観、日本の異文化交流史などについて説明する。																		
授業目標：																		
授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、日本政府が現在、推進している異文化共生政策や地域社会における学習者と日本人住民との接触の状況を理解させることである。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○						○												
授業計画・事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	異文化共生論Aの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化共生論Aの下読みをする。 事後：異文化共生論Aのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。アンケート10分。自己紹介30分。											
2	異文化共生理論（葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化共生理論の下読みをする。 事後：異文化共生理論のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q & A60分。アンケート10分。課題10分。											
3	グローバリゼーション（地球の縮小化、グローバル・イシュー）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：グローバリゼーションの下読みをする。 事後：グローバリゼーションのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q & A60分。アンケート10分。課題10分。											
4	多文化化（多文化社会、多文化の台湾、グローバル社会）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：多文化化の下読みをする。 事後：多文化化のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q & A60分。アンケート10分。課題10分。											
5	相互依存（社会変動、多文化共生）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：相互依存の下読みをする。 事後：相互依存のポイントをノートに書く。			講義説明20分。小テスト60分。アンケート10分。											
6	自文化中心主義（同心円的なパースペクティブ、白人のまなざし）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：自文化中心主義の下読みをする。 事後：自文化中心主義のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
7	グローバルな見方（多文化なパースペクティブ、グローバルなパースペクティブ）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：グローバルな見方の下読みをする。 事後：グローバルな見方のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
8	文化の定義（ハイブリッド〈混成したもの〉、グローバリゼーション）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：文化の定義の下読みをする。 事後：文化の定義のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
9	ジェンダーの問題（本質主義、構築主義）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：ジェンダーの問題の下読みをする。 事後：ジェンダーの問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
10	外国人という言説（白人性研究、日本人性）の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。アンケートをする。			事前：外国人という言説の下読みをする。 事後：外国人という言説のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。											
11	マイノリティとマジョリティ（多文化社会、外国人の子供と日本の学校）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：マイノリティとマジョリティの下読みをする。 事後：マイノリティとマジョリティのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
12	多文化社会と社会統合（日本の中のマイノリティ、アメリカの事例）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：多文化社会と社会統合の下読みをする。 事後：多文化社会と社会統合のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
13	日本文化の価値観（祖先崇拜、武士道、和の思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
14	日本の異文化交流史（儒教・仏教の受容、キリスト教の受容、西欧文明の受容）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q & A10分。課題40分。											
15	異文化共生論Aのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化共生論Aのまとめの下読みをする。 事後：異文化共生論Aのまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q & A10分。アンケート10分。											
参考文献：																		
松尾知明、『多文化共生のためのテキストブック』、明石書店、2011年、￥2,640。																		
参考文献：																		
加賀美常美代(編著)、「多文化共生論——多様性理解のためのヒントとレッスン」、明石書店、2013年、￥2,640。																		
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー）で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。私伊藤幹彦は自己効力感で学生の皆さんのがやる気を引き出し、成績を高める。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習											
授業科目(英文)	異文化共生論B (Intercultural Understanding B)						科目分類	専門科目												
担当教員	伊藤 幹彦																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
本授業では、グローバリゼーションの時代、世界を見るレンズ、南北問題、経済格差と貧困問題、環境問題、熱帯雨林の破壊、平和問題、平和な世界をめざして、国際協力と開発、国際協力を考える、日本人であること、日本社会の再構築、未来をつくるなどについて説明する。																				
授業目標：																				
授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、多文化共生社会になりつつある日本の現状と学習者と地域社会との異文化接触の状況を理解させることである。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要なに○○）																				
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○					○															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	異文化共生論Bの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化共生論Bの下読みをする。 事後：異文化共生論Bのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。													
2	グローバリゼーションの時代（システムとしての地球規模化、政治経済文化的グローバリゼーション）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：グローバリゼーションの下読みをする。 事後：グローバリゼーションのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。													
3	未来をつくる（多文化共生の台湾、多文化共生の日本）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：未来の下読みをする。 事後：未来のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。													
4	南北問題（南南問題、21世紀に存在する奴隸、多国籍企業）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：南北問題の下読みをする。 事後：南北問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。													
5	経済格差と貧困問題（経済格差の拡大、国際機関）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：経済格差と貧困問題の下読みをする。 事後：経済格差と貧困問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。													
6	環境問題（地球温暖化、砂漠化、地球環境の悪化）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：環境問題の下読みをする。 事後：環境問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
7	熱帯雨林の破壊（消える熱帯林、持続可能な開発）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：熱帯雨林の破壊の下読みをする。 事後：熱帯雨林の破壊のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
8	平和問題（グローバリゼーション、戦争、テロ）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：平和問題の下読みをする。 事後：平和問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
9	平和な世界をめざして（平和、積極的な平和、人権）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：平和な世界をめざしての下読みをする。 事後：平和な世界をめざしてのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
10	国際協力と開発（政府開発援助（ODA）、NGOによるボランティア、国際協力）の説明をする。ディスカッションをする。アンケートをする。			事前：国際協力と開発の下読みをする。 事後：国際協力と開発のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。													
11	国際協力を考える（青年海外協力隊、国境なき医師団）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：国際協力の下読みをする。 事後：国際協力のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
12	日本人であること（日本の学校を脱構築、日本人性の脱構築）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：日本人の下読みをする。 事後：日本人のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
13	日本社会の再構築（日本の学校を再構築、日本人性の再構築）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：日本社会の下読みをする。 事後：日本社会のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
14	世界を見るレンズ（教科書の中の人々、世界を捉える枠組み、グローバルとナショナル）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：世界を見るレンズの下読みをする。 事後：世界を見るレンズのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。													
15	異文化共生論Bのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化共生論Bのまとめの準備をする。 事後：異文化共生論Bのまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。													
教本：																				
参考文献：																				
松尾知明、「移民時代」の多文化共生論－想像力・創造力を育む14のレッスン、明石書店、2020年、￥2,420。																				
多文化共生キーワード事典編集委員会編、『多文化共生キーワード事典改訂版』、明石書店、￥2,200。																				
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー）で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。学生の皆さんの質問は歓迎する。																				
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論 I (Intercultural Communication I)			科目分類			専門科目											
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
本授業では、異文化コミュニケーションの定義、異文化コミュニケーション論の基礎、異文化コミュニケーション理論、自己とアイデンティティ、異文化適応曲線、成長過程としての異文化適応、異文化コミュニケーションの障壁、コミュニケーション・スタイル、国際文化交流、国際協力などについて説明する。異文化コミュニケーションは、文化的背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーションであると定義できる。																		
授業目標：																		
授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを行うための異文化コミュニケーションの理論と実践について、理解させることである。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画・事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	異文化コミュニケーション論 I の目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論 I の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論 I のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。											
2	異文化コミュニケーションの定義(平和構築、構造的暴力論、ナショナリズム)の説明をする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの定義の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの定義のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
3	日本の思想(仏教思想、神道思想、キリスト教思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：日本の思想の下読みをする。 事後：日本の思想のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
4	多民族国家台湾(台湾の民族、台湾の文化、台湾の歴史)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：多民族国家台湾の下読みをする。 事後：多民族国家台湾のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
5	台湾の同化主義(教育勅語、同化教育、皇民化教育)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の同化主義の下読みをする。 事後：台湾の同化主義のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
6	異文化コミュニケーション論の基礎(文化の定義、三層構造、二層構造)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの基礎の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの基礎のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
7	異文化コミュニケーション理論(異文化コミュニケーション・モデル)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーション理論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション理論のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
8	自己とアイデンティティ(自己概念、社会・文化的アイデンティティ、国民アイデンティティ)の説明をする。課題をする。			事前：自己とアイデンティティの下読みをする。 事後：自己とアイデンティティのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
9	異文化適応曲線(カルチャーショック、逆カルチャーショック、U曲線、W曲線)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化適応曲線の下読みをする。 事後：異文化適応曲線のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
10	成長過程としての異文化適応(否定段階、防衛段階、矮小化段階、受容段階、適応段階、統合段階)の説明をする。ディスカッションをする。			事前：成長過程としての異文化適応の下読みをする。 事後：成長過程としての異文化適応のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。											
11	異文化コミュニケーションの障壁(ステレオタイプ、偏見、差別)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの障壁の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの障壁のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
12	コミュニケーション・スタイル(自己主張、議論、フォーマル、シャイネス、自己開示)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：コミュニケーション・スタイルの下読みをする。 事後：コミュニケーション・スタイルのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
13	国際文化交流(二つの世界大戦、戦後の復興、経済大国へ、バブル経済崩壊以後)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：国際文化交流の下読みをする。 事後：国際文化交流のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
14	国際協力(国際協力の形態、異文化間の基本的問題、認識の違い)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：国際協力の下読みをする。 事後：国際協力のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
15	異文化コミュニケーション論 I のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論 I のまとめの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論 I のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。											
教本：																		
石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣、2013年、¥2,200。 2013年、¥7,600。																		
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらい、翌週重要な質問や意見や感想は紹介する。学生の皆さんの質問は歓迎する。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論II (Intercultural Communication II)						科目分類	専門科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし						その他	なし									
授業概要：																		
本授業では、異文化相互理解、異文化コミュニケーション能力、異文化が共生できる社会、異文化コミュニケーションの諸問題、言語メッセージと記号、非言語メッセージ、対人コミュニケーション、国家レベルの異文化接触、多文化社会日本、文化摩擦の諸側面、異文化理解教育、海外留学、外国人留学生などについて説明する。																		
授業目標：																		
授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、異なる文化的な背景を持つ人々とコミュニケーションを行うためのコミュニケーションの理論について理解させることである。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	異文化コミュニケーション論IIの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論IIの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論IIのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。											
2	異文化相互理解（異文化理解政策、異文化理解のコミュニケーション過程、異文化の台湾）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化相互理解の下読みをする。 事後：異文化相互理解のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
3	異文化コミュニケーション能力（効果性と適切性、個人的・文化的アイデンティティ、性格的な要素）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーション能力の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション能力のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
4	異文化が共生できる社会（外国人労働者問題、共生の現実、受容・排除の二元論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化が共生できる社会の下読みをする。 事後：異文化が共生できる社会のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
5	異文化コミュニケーションの諸問題（異文化、文化、コミュニケーション）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの諸問題の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの諸問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
6	言語メッセージと記号（記号からなる言語メッセージ、言語メッセージの機能、言語メッセージと文化）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：言語メッセージと記号の下読みをする。 事後：言語メッセージと記号のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
7	非言語メッセージ（バラ言語、非言語メッセージの重要性、非言語メッセージの普遍性）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：非言語メッセージの下読みをする。 事後：非言語メッセージのポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
8	対人コミュニケーション（対人コミュニケーションの大切さ、対人関係の発展の過程、人間関係の特徴）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：対人コミュニケーションの下読みをする。 事後：対人コミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
9	国家レベルの異文化接触（異文化コミュニケーションと外交、日米交渉、国家・民族・異文化コミュニケーション）の説明をする。課題をする。			事前：国家レベルの異文化接触の下読みをする。 事後：国家レベルの異文化接触のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
10	多文化社会日本（アイヌ、琉球王国、在日韩国・朝鲜人、同化主義、多文化主義）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。ディスカッションをする。			事前：多文化社会日本の下読みをする。 事後：多文化社会日本のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。											
11	文化摩擦の諸側面（ステレオタイプ、文化摩擦と経済摩擦、歴史観と文化摩擦、国民性と文化摩擦）の説明をする。課題をする。			事前：文化摩擦の諸側面の下読みをする。 事後：文化摩擦の諸側面のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
12	異文化理解教育（近代の国民国家、ユネスコの国際理解教育、国際意識の教育）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化理解教育の下読みをする。 事後：異文化理解教育のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
13	海外留学（海外留学の多様化、異文化への適応問題、異文化カウンセリング）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：海外留学の下読みをする。 事後：海外留学のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
14	外国人留学生（留学生10万人計画、留学生の問題、相互理解と障壁、留学生の異文化適応）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：外国人留学生の下読みをする。 事後：外国人留学生のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。											
15	異文化コミュニケーション論IIのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論IIのまとめの準備をする。 事後：異文化コミュニケーション論IIのまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。											
教本：																		
参考文献：																		
石井敏、久米昭元、遠山淳、松本茂、平井一弘、御堂岡潔、「異文化コミュニケーション・ハンドブック——基礎知識から応用・実践まで」、有斐閣、1997年。																		
久米昭元、長谷川典子、『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション——誤解・失敗・すれ違い』、有斐閣、2007年。																		
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：異文化コミュニケーション論の授業を通じて、君の異文化相互理解力を高め、異文化共生の知識を実践に生かし、多文化社会日本の中で、君の人間関係をよくしていくがいい。本授業に参加して、言語メッセージと非言語メッセージを理解し、異なる文化的な背景を持つ人々とコミュニケーションを行なうための異文化コミュニケーション能力（1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上）を高めていってほしい。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	異文化論 A (Cross Culture Theory A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川添 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
異文化とは外国の文化だけを指すわけではありません。日本社会を対象に異文化の視点について学びます。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。																										
授業目標:																										
1. 異文化の視点で自文化を捉えることができる。 2. 異文化の視点を日常生活、具体的な実践に応用できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1・2	視点としての異文化：カレンダーから多様な文化の共存の可能性について学ぶ。				事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
3	異文化～自文化：日本の在留外国人について学ぶ。神奈川県の多文化共生策について考える。				事前：外国に住むこと 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
4	先住民：世界の「先住民族」をめぐる動きを概観した後、日本における先住民アイヌの人々について学ぶ。				事前：記事、ニュース収集 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
5	宗教：キリスト教拡大以前と以後、「クリスマス」の展開を例に、古い文化的要素と新しい文化的要素の混合について学ぶ。				事前：クリスマス経験 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
6	宗教：イスラームについて、食についての「ハラール」（許されていること、もとの）規制について学ぶ。				事前：宗教のイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
7	異文化としての日本：捕鯨文化を例に、異文化としての日本について学ぶ。				事前：食のイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
8	映像授業				事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴60分、グループワーク20分、記述10分																			
9	ろう文化：聽覚障がいがあることを手話言語によってコミュニケーションする文化として学ぶ。				事前：パリアフリー経験 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
9	触文化：視覚障がいがあることを、触る文化と見る文化という視点から捉え直す。				事前：パリアフリー経験 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
10	タトゥー：身体を文化の視点から捉え、タトゥー/イレズミについて学ぶ。				事前：タトゥーのイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
11	美容整形：美容整形を切り口に日本社会と韓国社会について比較検討する。				事前：整形のイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
12	企業文化：ビジネスへの文化の視点の導入について、その歴史と現在について学ぶ。				事前：ブランドイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。				事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義60分、ディベート20分、記述10分																			
14・15	最終テストを受ける。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。				事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分																			
教本：			参考文献： そのつど紹介する。																							
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
各種情報や様々な情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝えます。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	異文化論B (Cross Culture Theory B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川添 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
本授業は、異文化理解に必要な視点、概念、理論として、オリエンタリズム批判、身体技法、グローバリズム、サブカルチャーについて学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。																										
授業目標:																										
1. 異文化を理解に必要な視点、概念、理論を理解する。 2. 異文化の視点を、身の周りの具体的な現象の解釈に応用できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
<input type="radio"/>			<input type="radio"/>																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1・2	中東世界：文明の交差点としてのオリエント（東洋）について学び、現在メディアで報道されるイメージとの違いを理解する。				事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
3	アラビアンナイトの成立：「アラビアンナイト」の形成過程について学ぶ。				事前：ディズニー映画 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
4	アラビアンナイトの再評価：18世紀ヨーロッパでの翻訳本人気について学ぶ。				事前：イメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
5	翻訳の問題：超訳、誤訳について学ぶ。				事前：翻訳経験 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
6	オリエンタリズム批評：エドワード・サイードの「オリエンタリズム」批判の論点を学ぶ。オリエンタリズム				事前：中東のイメージ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
7	映像授業				事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴60分、グループワーク20分、記述10分																			
8	グローバリズム、ローカリズム、グローカリズム：身近な商品やサービスから学ぶ。				事前：ファストフード経験 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
9	ヴェールの着用、ひげを例に、身体の文化的側面、衣装の記号論について学ぶ。				事前：ヴェール、ひげ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
10	身体技法：身体の使い方、あり方の文化的多様性を、「身体技法」、「プロクセミックス」から学ぶ。				事前：クセの意識化 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
11	サブカルチャー：映画、マンガ、アニメの展開について学ぶ。				事前：マンガ、アニメ 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
12	物語と文化：アラビアンナイトの今後の展開について考える。				事前：アラビアンナイト読解 事後：復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。				事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義60分、ディベート20分、記述10分																			
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。				事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分																			
教本：		参考文献： そのつど紹介する。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																										
オフィスアワー：																										
紹介講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	インターンシップ (Internship)					科目分類	基礎科目		
担当教員	鈴木 秀顕								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	企業等が行うインターンシップの参加必須。							
授業概要: 実習先の受け入れ人数に合わせて、履修人数を制限することがある。授業で、企業での業務実施の前に必要な知識やマナー、企業研究ならびに提出書類の書き方を習得する。就職活動と同じように自分の希望する業種や企業選びなどを行う。									
授業目標: 初回の授業で社会人になるために必要なことを学び、7月までにインターンシップを実施する。実体験することにより、目標を持つことの大切さ、それを達成するための過程、確認と検証、新たな目標の作成を学び、就職活動に役立てる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
○						○			
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	インターンシップ履修オリエンテーション			事前： 事後：配布資料の見直し				講義	
2	働くってどんなこと？ グループワークにてディスカッションを行いました内容を発表。			事前：精読（9-26） 事後：働く意味を理解した上で志について事前準備				講義・演習	
3	志を考える（発表）			事前：志の準備 事後：見直し				講義・演習	
4	インターンシップって何？ グループワークにてディスカッションを行いました内容を発表。			事前：精読（39-52） 事後：状況を調べる				講義	
5	なぜ企業はインターンを受け入れるのか？ インターンシップ状況を調べ、発表する。			事前：精読（53-68） 事後：状況を調べる				講義	
6	自分の希望と時期を考える			事前：希望企業等準備 事後：希望を再考する				演習	
7	業界研究・企業研究（発表）			事前：希望企業等準備 事後：調査応募準備				演習	
8	企業人としての心構え 面接練習			事前：面接準備 事後：振り返り				演習	
9	社会人になるためのマナー			事前：精読（87-104） 事後：振り返り				講義・演習	
10	提出書類の作成（履歴書）			事前：履歴書準備 事後：見直し				講義・演習	
11	提出書類の作成（自己紹介発表）			事前：資料準備 事後：振り返り				講義・演習	
12	インターンシップ計画、実施			事前：研修の準備 事後：研修報告書				演習	
13	インターンシップ計画、実施			事前：研修の準備 事後：研修報告書				演習	
14	インターンシップ計画、実施			事前：研修の準備 事後：研修報告書				演習	
15	インターンシップ報告（発表）			事前：研修報告書の仕上げ 事後：報告会の反省				演習	
教本：					参考文献：				
①『はじめてのインターンシップ』（アルテスパブリッシング） ②『思考法図鑑』（翔泳社）					①『内定獲得のメソッド インターンシップ』（マイナビ） ②『過去問で鍛える地頭力外資系コンサルの面接試験問題』（東洋経済新報社） ③『きみはスゴイぜ！一生使える「自信」をつくる本』（飛鳥新社）				
成績評価の方法、評価基準： 実習（60%）、事前事後の活動（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： プレ社会人としてのモラルを求めるので、1回目は必ず出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	AI実践プログラミング (Practical AI Programming)						科目分類	専門科目										
担当教員	山本 美紀																	
履修条件	前提科目	なし			その他	ノートパソコンを用意すること。												
授業概要 :																		
この授業では、人工知能 (AI : Artificial Intelligence) の歴史的背景を踏まえ、近年、AIプログラミングの開発で最も広く使用されているPython言語の基礎知識を学び、AIで代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。																		
授業目標 :																		
①AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ②Pythonを用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④プログラムで、データベースを操作することができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態											
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。			事前: シラバスを読む 事後: ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)											
2	Pythonとはどんな言語か、Pythonの開発環境を構築する。 サンプルプログラムを作成し、実行する。			事前: Pythonと開発環境について下調べ 事後: ミニッツペーパー			講義 (45分) 演習 (45分)											
3	Pythonの基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。			事前: Chapter 3を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
4	Pythonの基礎(2)コレクションについて学ぶ。			事前: Chapter 4を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
5	Pythonの基礎(3)条件分岐／繰り返しについて学ぶ。			事前: Chapter 5を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
6	Pythonの基礎(4)関数について学ぶ。			事前: Chapter 6を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
7	Pythonの基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。			事前: Chapter 7を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
8	Pythonの基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。			事前: Chapter 10を読む 事後: 演習問題			講義・演習 (60分) 小テスト (30分)											
9	Pythonの基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。			事前: Chapter 11を読む 事後: 演習問題			講義 (45分) 演習 (45分)											
10	Pythonによる機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。			事前: Chapter 13の1を読む 事後: 期末課題			講義 (45分) 演習 (45分)											
11	Pythonによる機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。			事前: 配布資料を読む 事後: 期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)											
12	Pythonによる機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。			事前: 配布資料を読む 事後: 期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)											
13	Pythonによる機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。			事前: Chapter 15の1を読む 事後: 期末課題			講義 (30分) 演習 (60分)											
14	Pythonによる機械学習(5)Webプログラミングについて学ぶ。			事前: Chapter 15の2を読む 事後: 期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義 (30分) 演習 (60分)											
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されているAIの技術についてトピックを紹介する。			事前: 学習ポートフォリオを整理する 事後: 学びの振り返りを行う			講義 (60分) グループワーク (30分)											
教本 :																		
松浦健一郎・司ゆき『Python [完全] 入門』SBクリエイティブ ISBN : 978-4-815607647																		
参考文献 :																		
授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等) : 60%、小テスト : 10%、期末課題 : 30%で総合評価する。																		
※学習ポートフォリオは、ループリック (評価基準) による自己評価を含む。																		
学生へのアドバイス :																		
プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること (対話) を楽しむことです。相手はコンピュータなのですから、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことを心がけましょう。																		
オフィスアワー :																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	AIとビジネスモデル (AI and Business Model)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 ノートパソコンを用意すること																										
授業概要： 近年、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどのデジタル技術の進化により、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。																										
授業目標： AIを中心とした技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ビジネスモデル理解の基礎Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義																		
2	ビジネスモデル理解の基礎Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
3	ビジネスモデル理解の基礎Ⅲ 戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
4	ビジネスに影響を与える技術動向 DX、AIの概要とビジネスへの影響について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
6	ビジネスモデルの紹介1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
7	ビジネスモデルの紹介2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
8	ビジネスモデルの紹介3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
9	ビジネスモデルの紹介4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
10	ビジネスモデルの紹介5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
11	ビジネスモデルの紹介6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
12	ビジネスモデルの紹介7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
13	ビジネスモデルの紹介8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分																		
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ					事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する		講義60分 演習30分																		
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分																		
教本： この一冊で全部わかる ビジネスマネジメント 基本・成功パターン・作り方が一気に 講義内で指示する 学べる、￥1,760																										
成績評価の方法、評価基準： レポート課題・プレゼンテーション等（100%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	AI入門 (Introduction to Artificial Intelligence)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
本講義では、人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成AIの概要とその活用法を理解した上で、どのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて理解する。																										
授業目標 :																										
人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成AIの概要とその活用法を理解することにより、現実の課題への活用法とその効果を理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																		
1	シラバスの説明、人工知能AI概説 この授業の目標、実施方法、内容等について説明する				事前: シラバスを読む 事後: 資料を復習する			講義																		
2	人工知能の歴史と論理的な思考法: 人工知能の歴史と人工知能の技術を理解する上で必要となる論理的な思考法について				事前: 前回の資料を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義60分 演習30分																		
3	AI技術1 機械学習の分類、基本的な考え方、評価指標等について学ぶ				事前: 前回の資料を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義60分 演習30分																		
4	AI技術2 予測を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分																		
5	AI技術3 分類を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分																		
6	AI技術4: ニューラルネットワーク&ディープラーニング、及び教師なし機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分																		
7	AI技術5 AIツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義60分 演習30分																		
8	AI技術6 AIツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義60分 演習30分																		
9	AI技術7 生成AIの歴史と自然言語処理と関連技術の進化について学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義60分 演習30分																		
10	人工知能技術の活用1 生成AI(ChatGPTと画像生成AI)の活用法を学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分																		
11	人工知能技術の活用2 生成AI(ChatGPTと画像生成AI)の活用法を学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分																		
12	人工知能技術の活用3 生成AI(ChatGPTと画像生成AI)の活用法を学ぶ				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分、 ディスカッション60分																		
13	AI戦略の取り組み概要: 国内におけるAI技術への取り組み概要とAI利活用ガイドラインについて学ぶ				事前: プレゼン資料を作成する 事後: 資料と課題を復習する			プレゼン30分 ディスカッション60分																		
14	人工知能のビジネス活用事例と課題1: AI技術が実装された対象のインパクトとリスク、課題について議論し、まとめる				事前: プレゼン資料を作成する 事後: 資料と課題を復習する			プレゼン30分 ディスカッション60分																		
15	人工知能のビジネス活用事例と課題2: 各自が選定したビジネス活用事例について検討した結果をプレゼンする				事前: プレゼン資料を作成する 事後: これまでの資料を復習する			講義10分 プレゼン80分																		
教本 :		参考文献 :																								
指定しない		講義内で指示する																								
成績評価の方法、評価基準 :																										
演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
授業に必ず出席する。疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	AIプログラミング I (AI Programming I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	山本 美紀																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 ノートパソコンを用意すること。																										
授業概要： この授業では、人工知能（AI : Artificial Intelligence）の歴史的背景を踏まえ、近年、AIプログラミングの開発で最も広く使用されているPython言語の基礎知識を学び、AIで代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。																										
授業目標： ①AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ②Pythonを用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④プログラムで、データベースを操作することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○） 知識・技能の習得 ○思考力・判断力・表現力の育成 ○学びに向かう力・人間性の涵養																										
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。			事前：シラバスを読む 事後：ミニツッペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）																			
2	Pythonとはどんな言語か、Pythonの開発環境を構築する。 サンプルプログラムを作成し、実行する。			事前：Pythonと開発環境について下調べ 事後：ミニツッペーパー			講義（45分） 演習（45分）																			
3	Pythonの基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。			事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
4	Pythonの基礎(2)コレクションについて学ぶ。			事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
5	Pythonの基礎(3)条件分岐／繰り返しについて学ぶ。			事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
6	Pythonの基礎(4)関数について学ぶ。			事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
7	Pythonの基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。			事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
8	Pythonの基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。			事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習（60分） 小テスト（30分）																			
9	Pythonの基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。			事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）																			
10	Pythonによる機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。			事前：Chapter 13の1を読む 事後：期末課題			講義（45分） 演習（45分）																			
11	Pythonによる機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）																			
12	Pythonによる機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）																			
13	Pythonによる機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。			事前：Chapter 15の1を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）																			
14	Pythonによる機械学習(5)Webプログラミングについて学ぶ。			事前：Chapter 15の2を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）																			
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されているAIの技術についてトピックを紹介する。			事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義（60分） グループワーク（30分）																			
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python [完全] 入門』SBクリエイティブ ISBN：978-4-815607647																										
参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニツッペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ループリック（評価基準）による自己評価を含む。																										
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること（対話）を楽しむことです。相手はコンピュータなのですから、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことを心がけましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	AIプログラミングⅡ (AI Programming Ⅱ)					科目分類	専門科目															
担当教員	金 宰郁																					
履修条件	前提科目	AI入門、AIプログラミングⅠ			その他	ノートパソコンを用意すること。																
授業概要 :																						
この授業では、AIプログラミング技術の習得に必要な知識や概念について、例題を用いながら説明する。その後、演習において関連するプログラムを多数作成することによって、AIプログラミングスキルの習得を目指す。また、AI全般や最新の技術についても紹介し、人工知能全般に関する知識を深める。																						
授業目標 :																						
Pythonを用いて、モジュールのインポートについて学び、ライブラリを活用したプログラムを書けるようになる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス、AIプログラミングの基礎：授業の概要、目的、進め方、評価方法、Pythonとライブラリ基礎の復習				事前：シラバスの確認 事後：AIプログラミングを調べる			講義40分、演習50分														
2	機械学習の基礎理論：機械学習と教師あり学習・教師なし学習・強化学習の概要				事前：プログラミングの開発環境の下調べ 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
3	データ前処理：データのクリーニング、欠損値処理、特微量エンジニアリング				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
4	回帰モデルの実装(Linear Regression)：線形回帰モデルの理論と実装、実データを用いた予測				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
5	分類モデルの実装(Logistic Regression)：ロジスティック回帰モデルの理論と実装、評価指標(正解率、混同行列)				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
6	決定木とランダムフォレスト：決定木のアルゴリズムとランダムフォレストの紹介、Pythonでの実装と評価				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
7	サポートベクターマシン(SVM)：SVMの理論とカーネル法、実装とハイパーパラメータの調整				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
8	教師なし学習：クラスタリング：K-means法と階層的クラスタリング、Pythonによるデータのグループ化				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
9	ニューラルネットワークの基礎：パーセプトロンと多層ニューラルネットワーク				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
10	ディープラーニング(1)：畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の理論、画像分類の実装				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
11	ディープラーニング(2)：再帰型ニューラルネットワーク(RNN)とLSTMの紹介、時系列データ処理				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
12	自然言語処理(NLP)：トークナ化、Word2Vec、BERTの概要、簡単なテキスト分類タスクの実装				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
13	モデルの評価とチューニング：モデルの過学習とその対策(正則化、ドロップアウト)、ハイパーパラメータチューニング				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
14	実践プロジェクト：各自のテーマに基づくAIモデルの構築、データの収集、前処理、モデルの学習と評価				事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題			講義40分、演習50分														
15	最終発表・振り返り：各自のプロジェクト発表とディスカッションを授業の総括と今後の学習方法のアドバイス。				事前：全資料を下読みする 事後：学びの振り返りを行う			講義20分 ディスカッション70分														
教本 :		参考文献 :																				
成績評価の方法、評価基準 :																						
課題提出 (40%)、期末プロジェクト発表 (40%)、授業への参加態度 (20%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス :																						
認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べること。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。																						
オフィスアワー :																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目														
担当教員	OTC																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるようになります。挨拶から始め、身の回りの物や国籍、数字、色などの英語の基本表現力を身につけます。																						
授業目標:																						
①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	Unit 1 : New friends (自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中でのbe動詞の使い方)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
2	Unit 1 : New friends (仕事や都市名について話す、YesとNoで答える質問文及び応答文)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：職業の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
3	Unit 2 : People and places (国籍や出身地について話す、場所を尋ねる疑問文の会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
4	Unit 2 : People and places (電話番号を正しく伝える、電話番号やメールアドレスを尋ねる表現)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：数字の発音を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
5	Unit 2 : People and places (家族と数字の説明、Who～や How old～を使った疑問文の会話)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
6	Unit 3 : What's that? (身近な物について話す、aとanの使い分け、複数形を使った会話)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
7	Unit 3 : What's that? (服装や色について話す、所有代名詞を使った会話) グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
8	Unit 4 : Daily life (電車、バスなど移動手段について話す、時間について尋ねる会話)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
9	Unit 4 : Daily life (毎日のスケジュールについて話す Yesと Noで答える質問文)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
10	Unit 5 : Free time (メールや音楽などの習慣について話す、頻度について話す表現)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
11	Unit 5 : Free time (買い物の表現について話す、値段を尋ねる表現)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
12	Unit 5 : Free time (自由時間の使い方について尋ねる、What, Who, Whenなどを使った疑問文)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
13	Unit 6 : Work and play (多様な職業名について話す、Whatなどの疑問文に does を加えた表現)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
14	Unit 6 : Work and play (できること、できないことについて話す、Canを使って能力について尋ねる)、グループワーク。				事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
15	Unit 6 : Work and play (できること、できないことについて話す、様々な職業について話す)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：仕事関連表現を確認			講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分														
教本:		参考文献:																				
Four Corners 1 (Cambridge)																						
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																						
学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。																						
学生へのアドバイス:																						
英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していくれば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習						
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目							
担当教員	末次 俊之														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初步リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。														
授業目標:	1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得 ○ 思考力・判断力・表現力の育成 ○ 学びに向かう力・人間性の涵養														
授業計画・事前学習・事後学習・形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義・対話								
2	Unit 1 : Welcome to Japan 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
3	Unit 1 : Welcome to Japan 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
4	Unit 2 : That Sounds Like Fun 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
5	Unit 2 : That Sounds Like Fun 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
6	Unit 3 : We Leave on Friday Morning 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
7	Unit 3 : We Leave on Friday Morning 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
8	Unit 4 : You Know a Lot About Trains 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
9	Unit 4 : You Know a Lot About Trains 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
10	Unit 5 : I Didn't Want to Leave 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
11	Unit 5 : I Didn't Want to Leave 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
12	Unit 6 : You're Working Late 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
13	Unit 6 : You're Working Late 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
14	Unit 7 : I'm Sure He'll Understand 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
15	Unit 7 : I'm Sure He'll Understand 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、グラマーチェック 15分、質疑応答 20分								
教本:	参考文献: Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。														
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。	学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに授業内評価（授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、定期試験、50%）を総合して評価します。														
学生へのアドバイス：	授業では、中学・高校英語の基礎的能力を再確認し、復習します。高校で使用した英語文法書を片手に復習すれば、より正確に基盤を定着させることができます。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。														

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語 I (English I)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
会話、文法、リーディングからなるテクストを使用します。英語の基礎的なスキルを学び直し、いわゆる学校文法の理解を確認する授業です。学生が英語を使う機会ができるだけ多くするために、ペア・ワーク、グループワーク、ゲームなども取り入れます。																										
授業目標:																										
英語コミュニケーションの基礎レベル、Common European Framework of Reference A2に達することを目指します。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	Unit 1 Introduction in the USA 現在形（一般動詞とbe動詞）					事前:p.13 事後:writing p.16		タスク実践60分 演習30分																		
2	Unit 2 The Natural Wonders of Iceland 現在進行形（一般動詞とbe動詞）					事前:p.19 事後:writing p.22		タスク実践60分 演習30分																		
3	Unit 3 Getting Around the UK 現在形の否定文と疑問文					事前:p.25 事後:writing p.28		タスク実践60分 演習30分																		
4	Unit 4 Tackling Rugby in Ireland 命令文					事前:p.31 事後:writing p.34		タスク実践60分 演習30分																		
5	Unit 5 Norwegian Folktales 過去形（be動詞・一般動詞）					事前:p.37 事後:writing p.40		タスク実践60分 演習30分																		
6	Unit 6 Food Tour in Germany 未来表現					事前:p.43 事後:writing p.46		タスク実践60分 演習30分																		
7	Unit 7 Austrian Symphony WH疑問文					事前:p.49 事後:writing p.52		タスク実践60分 演習30分																		
8	Unit 8 The Animals of Malta 助動詞(can, must, may, should)					事前:p.55 事後:writing p.58		タスク実践60分 演習30分																		
9	Unit 9 Moroccan Souvenirs 現在完了形					事前:p.61 事後:writing p.64		タスク実践60分 演習30分																		
10	Unit 10 Spanish Dancing Lessons 受動態					事前:p.67 事後:writing p.70		タスク実践60分 演習30分																		
11	Unit 11 Fashion Week in France 最上級					事前:p.73 事後:writing p.76		タスク実践60分 演習30分																		
12	Unit 12 a Fjord in Montenegro 比較級					事前:p.79 事後:writing p.82		タスク実践60分 演習30分																		
13	Unit 13 Swiss Sweets 不定詞・動名詞					事前:p.85 事後:writing p.88		タスク実践60分 演習30分																		
14	Unit 14 Fine Art in Italy 接続詞(when, before, after, because)					事前:p.91 事後:writing p.94		タスク実践60分 演習30分																		
15	Unit 15 Back Home to Japan 関係代名詞					事前:p.97 事後:writing p.100		タスク実践60分 演習30分																		
教本:					参考文献:																					
Make Your Way! Akira Tajino 金星堂 ¥2,000+税 ISBN978-4-7647-4216-1					How English Works M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press																					
成績評価の方法、評価基準:																										
英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	英語 II (English II)						科目分類	基礎科目													
担当教員	OTC																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要:																					
ネイティブ講師が担当し、各項目で必要な表現の説明を最小限に行い、使える表現の発話を繰り返すことで、生徒が能動的に英語での発話に参加できるように促します。食事や道案内などの会話表現及び過去形、進行形などの英語文法の基本表現を学びます。																					
授業目標:																					
①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	Unit 7 : Food (食べ物とその量について話す、some と any 【可算名詞と不可算名詞】の使い分け)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
2	Unit 7 : Food (料理と頻度について話す、毎日、週 1 回などの頻度について話す)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
3	Unit 8 : In the neighborhood (道案内の表現を覚える、会話の中での場所の前置詞の使い分け表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所の前置詞を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
4	Unit 8 : In the neighborhood (観光施設の場所を尋ねる、Turn left/左に曲がる等の表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：道案内の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
5	Unit 8 : In the neighborhood (道案内の情報を尋ねる、There is/are を使った表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所や時刻の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
6	Unit 9 : What's are you doing? (動作表現の動詞を覚える、ing を使った現在進行形の表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：前置詞の使い方を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
7	Unit 9 : What's are you doing? (興味のあることについての表現、疑問詞を使い現在進行形で尋ねる)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：近況表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
8	Unit 10 : Past experiences (過去の出来事について話す、規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：過去形の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
9	Unit 10 : Past experiences (不規則動詞を使い出来事を説明する、不規則動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：不規則動詞の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
10	Unit 11 : Getting away (感情表現について話す、be 動詞の過去形を使った表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：感情表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
11	Unit 11 : Getting away (ナチュラルに会話をつなげる、いいこと、悪いことについての表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：日常会話の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
12	Unit 11 : Getting away (休暇時の表現について話す、Where などの質問文の過去形の表現)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：休暇時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
13	Unit 12 : Time to celebrate (数詞と未来について話す、Be going to と Yes/No を使った文)、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数詞の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
14	Unit 12 : Time to celebrate (パーティーの計画について話す、疑問文で現在進行形を使って話す)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：未来の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
15	Unit 12 : Time to celebrate (世界各国の誕生日について話す、祝いに関する話をす)、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：祝いの表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分													
教本:		参考文献:																			
Four Corners 1 (Cambridge)																					
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																					
学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価 (50%) を総合して評価します。																					
学生へのアドバイス:																					
英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していくれば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習									
授業科目(英文)	英語 II (English II)						科目分類	基礎科目										
担当教員	末次 俊之																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
時事英語を扱う教科書を使い、ビジネス、文化、環境、社会、科学、ファッションなどのテーマでニュース記事を読みます。英文記事を用いて、リスニング、グラマーチェック、日本語訳などを行います。ニュース記事を読むことによって、語彙力のアップにもつながります。																		
授業目標:																		
1. ニュース英語に慣れ、表現に慣れる。 2. 英文記事からさまざまなテーマを通じて世界の動向を理解する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
2	Unit 8 : I'll Remember That 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
3	Unit 8 : I'll Remember That 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
4	Unit 9 : Hiro Forgot 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
5	Unit 9 : Hiro Forgot 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
6	Unit 10 : How Have You Been? 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
7	Unit 10 : How Have You Been? 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
8	Unit 11 : While They're Here 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
9	Unit 11 : While They're Here 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
10	Unit 12 : How Was Tennis? 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
11	Unit 12 : How Was Tennis? 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
12	Unit 13 : What Do you Mean? 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
13	Unit 13 : What Do you Mean? 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
14	Unit 14 : Well, What Are You Waiting For? 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
15	Unit 14 : Well, What Are You Waiting For? 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、グラマーチェック15分、質疑応答20分											
教本 :																		
参考文献 :																		
Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ : 基礎編』(金星堂、2020年)、¥1,900。																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%)ならびに授業内評価(授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、定期試験、50%)を総合して評価します。																		
学生へのアドバイス :																		
日常的に、新聞やニュースに触れておくことをお薦めします。																		
オフィスアワー :																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習											
授業科目(英文)	英語 II (English II)					科目分類	基礎科目													
担当教員	廣本 和枝																			
履修条件	前提科目	なし			その他															
授業概要:	リーディングとリスニングを中心にしたTOEICテクストを用いて、文法事項の確認をしながら、様々な分野について、頻度の高い語彙と表現を増やすことを目標とします。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、その課で学んだ英語を楽しく使う時間をできるだけ多くなるようにします。																			
授業目標:	英語コミュニケーションのCommon European Framework of Reference B1に到達することを目標とします。																			
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養															
○	○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態												
1	Unit 1 Daily Life 名詞					事前:p.19 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
2	Unit 2 Eating Out & Shopping 形容詞・副詞					事前:p.26 事後:handout		タスク実践60分 演習30分												
3	Unit 3 Classes & Lessons 動詞					事前:p.33 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
4	Unit 4 Events 現在形・現在進行形					事前:p.40 事後:Task for Review		タスク実践60分 演習30分												
5	Unit 5 Traffic & Travel 過去形・過去進行形					事前:p.47 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
6	Unit 6 News 未来表現					事前:p.54 事後:Task for Review		タスク実践60分 演習30分												
7	Unit 7 Job Offers & Employment 現在完了形					事前:p.61 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
8	Unit 8 Office Work & Meetings 受動態					事前:p.68 事後:Handout		テスト30分 発表90分												
9	Unit 9 Business 接続詞					事前:p.76 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
10	Unit 10 Announcement & Advertisements 前置詞					事前:p.83 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
11	Unit 11 Personnel 代名詞					事前:p.91 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
12	Unit 12 Health & Environment 不定詞					事前:p.99 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
13	Unit 13 Finance & Banking 助動詞					事前:p.109 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
14	Unit 14 Production & Logistics ～ing形					事前:p.119 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
15	Unit 15 Research and Development & ICT 関係詞					事前:p.127 事後:Handout		タスク実践60分 演習30分												
教本:	参考文献: <i>Climb High to the TOEIC L&amp;R Test</i> Masako Yasumaru 他 金星堂 ¥2,300+税 ISBN978-4-7647-4216-1																			
成績評価の方法、評価基準:	英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。																			
学生へのアドバイス:	授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。																			
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English III)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	阿部 美恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図る。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四つの能力を習得するためのタスクを行う。																										
授業目標 :																										
①語彙を増やし、基本的な文法を確認しながら英語の四つの技能の定着を図る。 ②日常生活で使用される英語表現からビジネス英語までを習得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																		
1	授業の進め方と評価方法についての説明 自己紹介				事前: シラバスを読む 事後: 授業の復習			解説																		
2	Unit 1 Nice to Meet You				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
3	Unit 1 Nice to Meet You				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
4	Unit 2 Getting Started				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
5	Unit 2 Getting Started				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
6	Unit 3 Office Tour				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
7	Unit 3 Office Tour				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
8	Unit 4 First Work Assignment				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
9	Unit 4 First Work Assignment				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
10	Unit 5 Small Talk with Co-Workers				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
11	Unit 5 Small Talk with Co-Workers				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
12	Unit 6 First Contact with a Client				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
13	Unit 6 First Contact with a Client				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
14	Unit 7 Client Meeting Preparation				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
15	Unit 7 Client Meeting Preparation				事前: 単語調べ 事後: 授業の復習			文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
教本 :		参考文献 :																								
テキストについては初回の授業で案内します。																										
成績評価の方法、評価基準 :																										
担当教員の評価 (50%)、英語統一テストの結果 (50%) で評価します。																										
担当教員の評価方法は授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス :																										
多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝えます。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習						
授業科目(英文)	英語III (English III)						科目分類	基礎科目							
担当教員	OTC														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるよう促します。趣味、スポーツ、天気、体調、テレビ番組などについての英語応用表現力を身につけます。														
授業目標:	①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）														
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	Unit 1 : My interests (自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中でのbe動詞の使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
2	Unit 1 : My interests (スポーツについて話す、会話の中での動詞の過去形の使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：スポーツの語彙			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
3	Unit 2 : Descriptions (人物描写、What…like?を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
4	Unit 2 : Descriptions (分からないことを確かめる、質間に答える表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：heとsheの発音			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
5	Unit 2 : Descriptions (容姿の説明、What…look like?を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
6	Unit 3 : Rain or shine (天気について話す、会話の中での副詞の使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
7	Unit 3 : Rain or shine (室内でのアクティビティについて話す、Would you like todo?を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
8	Unit 4 : Life at home (家の中の物について話す、How many/much…を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
9	Unit 4 : Life at home (家の中での動作について話す、掃除などについて話す)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
10	Unit 5 : Health (身体について話す、動作について話す)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
11	Unit 5 : Health (体調について話す、病院で体調を伝える会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
12	Unit 5 : Health (健康についての習慣について話す、How often…? を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
13	Unit 6 : What's on TV? (テレビ番組を説明する、hope to…、want to…などを使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
14	Unit 6 : What's on TV? (テレビについて話す、会話の中での現在進行形の使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
15	Unit 6 : What's on TV? (テレビ番組について話す、好きな番組を説明する)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：TV番組の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分							
教本:	参考文献: Four Corners 2 (Cambridge)														
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。	学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%) 並びに試験期間中の英語テストによる評価(50%)を総合して評価します。														
学生へのアドバイス:	英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していくれば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語III (English III)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要 :																										
本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。																										
授業目標 :																										
人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることを最重要項目とする。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	Punctuation（拘束課題）・学生発表に関しての説明（自由課題） (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分																		
2	Punctuation・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
3	8品詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
4	語句節・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
5	物質名詞と普通名詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
6	冠詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
7	5文型・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
8	Be動詞の意味・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
9	擬似補語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
10	ネクサス関係・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
11	意味上の主語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
12	There構文・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
13	新情報と旧情報・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
14	所有格・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
教本 :			参考文献 :																							
『英検準2級 出る順パス単』旺文社			なし																							
成績評価の方法、評価基準 :																										
レポート(50%)、英語統一テストの結果(50%)で評価します。																										
学生へのアドバイス :																										
よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語IV (English IV)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	阿部 美恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
英語I・IIで学習した英語のさらなる向上を図る。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四つの能力を習得するためのタスクを行う。																										
授業目標:																										
①語彙を増やし、基本的な文法を確認しながら英語の四つの技能の定着を図る。 ②日常生活で使用される英語表現からビジネス英語までを習得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	Unit 8 Final Preparations					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
2	Unit 8 Final Preparations					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
3	Unit 9 First Meeting					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
4	Unit 9 First Meeting					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
5	Unit 10 Time Management					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
6	Unit 10 Time Management					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
7	Unit 11 Meeting Follow-up					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
8	Unit 11 Meeting Follow-up					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
9	Unit 12 A Last-Minute Request					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
10	Unit 12 A Last-Minute Request					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
11	Unit 13 Giving Freeback					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
12	Unit 13 Giving Freeback					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
13	Unit 14 Final Steps					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
14	Unit 14 Final Steps					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
15	Unit 15 A Job Well Done					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分																		
教本:		参考文献:																								
テキストについては初回の授業で案内します。																										
成績評価の方法、評価基準:																										
担当教員の評価 (50%)、英語統一テストの結果 (50%) で評価します。																										
担当教員の評価方法は授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝えます。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	英語IV (English IV)						科目分類	基礎科目														
担当教員	OTC																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるよう促します。買物、観光地、経歴、食品などについての英語応用表現力を身につけます。																						
授業目標：																						
①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	Unit 7 : Shopping (軽い、薄いなど物の形状を説明する)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：形状表現の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
2	Unit 7 : Shopping (簡単な値段交渉の会話、enoughの会話の中での使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：買物表現の語彙			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
3	Unit 8 : Fun in the city (世界の観光地を説明する、shouldとCanの会話の中での使い方)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：観光地の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
4	Unit 8 : Fun in the city (人に勧めたり、お勧めを聞いたりする表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：勧誘表現の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
5	Unit 8 : Fun in the city (都市の特徴を説明する、比較級の最上級を使った会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：都市の説明表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
6	Unit 9 : People (職業、経歴を説明する、bornを使った表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
7	Unit 9 : People (確かである、不確かであることを伝える表現、会話の中でpositiveを使った表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：positiveを使った表現			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
8	Unit 9 : People (個人の経歴を伝える、過去の出来事を説明する表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
9	Unit 10 : In a restaurant (食べ物について説明する、会話の中で、a, an, theなどを使い分ける)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
10	Unit 10 : In a restaurant (フルーツやドリンクについて説明する、会話の中で完了形を使い分ける)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：完了形の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
11	Unit 11 : Entertainment (映画のタイプを説明する、会話の中でneither, eitherを使う表現)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：映画説明の表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
12	Unit 11 : Entertainment (音楽のタイプを説明する、会話の中でmost of, some ofなどを使い分ける)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：音楽説明の語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
13	Unit 12 : Time for a change (目標について話す、Good NewsとBad Newsについて話す)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：目標を語る語彙を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
14	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、会話の中でwill, may, mightなどを使って話す)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：将来の説明表現を確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
15	Unit 12 : Time for a change (将来について話す、インタビュー形式での会話)、グループワーク				事前：語彙・発音を調べる 事後：インタビュー用語確認			講義40分、会話30分、ディスカッション20分														
教本：		参考文献：																				
Four Corners 2 (Cambridge)																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																						
学期末に実施する「英語統一テスト」の評価(50%)並びに試験期間中の英語テストによる評価(50%)を総合して評価します。																						
学生へのアドバイス：																						
英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していくれば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語IV (English IV)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。																										
授業目標:																										
人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。																										
特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	不定代名詞 one (拘束課題)・学生発表に関しての説明（自由課題） (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分																		
2	Some と any・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
3	Itについて・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
4	形容詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
5	副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
6	前置詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
7	等位接続詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
8	関係代名詞 who, which・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
9	関係副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
10	接続詞 that, 関係詞 that・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
11	強調構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
12	強調表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
13	代用表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
14	取り扱っていない文法項目の紹介・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分																		
教本: 『英検準2級 出る順パス単』旺文社					参考文献: なし																					
成績評価の方法、評価基準:																										
レポート(50%)、英語統一テストの結果(50%)で評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	英語学概論A (English Linguistics A)					科目分類	専門科目												
担当教員	岡部 佑人																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要:	音声・単語・文法・意味など、様々な観点から英語学について講義する。ひとつひとつのテーマが明確に分かれば、英語学が狙いとしているものと考えてみると考える。																		
授業目標:	受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになることを目標とする。英語学とは何かを理解することがテーマである。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○	○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	Introductionを行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
2	音声学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
3	音韻論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
4	形態論（1）接辞及び語幹について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
5	形態論（2）かばん語などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
6	形態論（3）その他の形態論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
7	統語論（1）学校文法について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
8	統語論（2）構造言語学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
9	統語論（3）変形生成文法などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
10	統語論（4）コーパス言語学などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
11	意味論（1）日本語訳をするにあたってについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
12	意味論（2）意味の多様性について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
13	語用論（1）語用論とは何かについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
14	語用論（2）実際に語用論を用いて考えるについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
15	形態論・統語論・意味論・語用論の総まとめについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす	講義 90分												
教本:	参考文献: 『新 えいご・エイゴ・英語学』稻木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社																		
成績評価の方法、評価基準:	授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特にBBC Newsなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、利用報告をしてもらう。 定期試験（80%）、毎回の授業後のレポート等（20%）で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:	よくノートを取るようにしてください。																		
オフィスアワー:	初回講義日に伝えます。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	英語学概論B (English Linguistics B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
英語学とは何かということを説明する。そして、その英語学的な視点から物事を分析できるようになる。そのためには、ノートをしっかりと取ることが重要です。																										
授業目標:																										
受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになる。英語学概論Bでは、特に、英語史に関する内容を理解し、日々の英語学習に生かせるようにすることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	Introductionを行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
2	世界の英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
3	英語史 (1) 古英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
4	英語史 (2) 中英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
5	英語史 (3) 近代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
6	英語史 (4) 現代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
7	英語の語源について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
8	学生発表(1)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分																		
9	現代の英語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
10	社会言語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
11	学生発表(2)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分																		
12	コンピュータと英語学 (1) BNC corpusについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
13	コンピュータと英語学 (2) COHA, COCAなどについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
14	学生発表 (3)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分																		
15	世界の英語・英語史・現代の英語・社会言語学の総まとめについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分																		
教本 :																										
『新 えいご・エイゴ・英語学』稻木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社					参考文献 : 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特に、Dictionary.comなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、実際に利用報告をしてもらう。																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
定期試験 (80%)、毎回の授業の最後のレポート等 (20%) で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
よくノートを取るようにしてください。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語スピーキング I (English Speaking I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。																										
授業目標:																										
1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	Introduction(授業時の注意、成績評価についての確認を行う)					事前:なし 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
2	Vacation(休暇について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
3	Growing Up(生まれ育ちについて、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
4	Entertainment(娯楽、趣味について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
5	Food and Drink(食べ物、飲み物について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
6	Travel and Tourism(旅行と観光について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
7	Education(教育、教育制度について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
8	総まとめ					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
9	Fashion(ファッション、衣類について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
10	Living Abroad(海外生活について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
11	Working Life(仕事について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
12	Health(健康について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
13	Changing Times(時代の変遷について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
14	Student Life(学生生活について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
15	Speech Testを行う。					事前:授業内容で英作文 事後:なし		演習 90分																		
教本: なし					参考文献: 適宜、授業内で紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
課題およびパフォーマンス(50%)、Speech Test(50%)を総合して評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
たくさんの英語を話してみましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語スピーキングⅡ (English Speaking Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。																										
授業目標:																										
1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態																		
1	Introduction (授業時の注意、成績評価についての確認を行う)					事前:なし																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
2	The Arts (芸術について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
3	Shopping (買い物について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
4	Friends (友人、親友について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
5	Sport (運動、スポーツについて、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
6	Politics (政治問題について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
7	Animals (生物、動物について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
8	総まとめ					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
9	Money Matters (経済、お金について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
10	Cultural Identity (文化について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
11	Family (家族について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
12	Youth Culture (若者文化について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
13	Dating and Marriage (デート、結婚について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
14	Crime (犯罪について、英語で話せるようになる)					事前:授業内容で英作文																				
						事後:授業内容で英作文	演習 90分																			
15	Speech Testを行う。					事前:授業内容で英作文																				
教本: なし					参考文献: 適宜、授業内で紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
課題およびパフォーマンス (50%)、Speech Test (50%) を総合して評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
たくさんの英語を話してみましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語通訳 I (English Translation I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	田中 一郎																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要 :																										
国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用初級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。																										
英語ニュースの通訳では、比較的ゆっくりした速度の英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。																										
授業目標 :																										
旅行等における日常会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用初級レベル。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）				事前：— 事後：授業概要の復習			演習（説明 45分、質疑応答 45分）																		
2	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Train English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：— 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
3	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Train English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
4	Conversation (英日・日英逐次通訳) Taking an Airplane English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
5	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
6	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
7	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Hotel English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
8	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
9	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
10	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency 小テスト (60分、範囲は1~10で学習したところ)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 30分） 小テスト 60分																		
11	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
12	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
13	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
14	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																		
15	Summary : 重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（解説 45分、質疑応答 45分）																		
教本 :		参考文献 : 教科書は使用しない。プリントを配付する。 適宜、紹介する。																								
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																							
授業科目(英文)	英語通訳Ⅱ (English Translation Ⅱ)					科目分類	専門科目																									
担当教員	田中 一郎																															
履修条件	前提科目	なし																														
	その他	なし																														
授業概要:	<p>国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用中級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。</p> <p>英語ニュースの通訳では、ナチュラルスピードに近い英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。</p>																															
授業目標:	<p>旅行、ビジネス等における会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用中級レベル。</p>																															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td colspan="3">○</td><td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																												
○	○																															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																																
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																								
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）				事前：— 事後：授業概要の復習			演習（説明 45分、質疑応答 45分）																								
2	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：— 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
3	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
4	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Restaurant English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
5	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
6	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
7	Conversation (英日・日英逐次通訳) Shopping English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
8	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
9	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
10	Conversation (英日・日英逐次通訳) In the Office 小テスト (60分、範囲は1~10で学習したところ)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 30分） 小テスト 60分																								
11	Conversation (英日・日英逐次通訳) On the Street English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
12	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
13	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
14	Conversation (英日・日英逐次通訳) Accidents and Emergency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）																								
15	Summary : 重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）				事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習			演習（解説 45分、質疑応答 45分）																								
教本:	参考文献: 教科書は使用しない。プリントを配付する。 適宜、紹介する。																															
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																															
学生へのアドバイス:	英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。																															
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																															

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	英語プレゼンテーションA (English Presentation A)					科目分類	専門科目															
担当教員	OTC																					
履修条件	前提科目	基礎的なスピーチング力があることを前提とします。英語スピーチングI、IIの履修を推奨します。																				
その他																						
授業概要：																						
ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。																						
授業目標：																						
①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認), Self-Introductions (自己紹介) : プrezentationの概要の学習。問題点を検討。				事前：プレゼン語彙を調べる 事後：プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
2	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す) : クラスマートと各自のプロフィールについて話す。				事前：自己紹介の語彙の予習 事後：自己紹介の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
3	Unit 1 A good friend (パーソナリティや興味のあることなどについて話す) : 興味のあることを相手に説明する。				事前：興味、関心語彙の予習 事後：興味、関心語彙を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
4	Unit 1 A good friend (プレゼンテーションの始め方、終わり方) : プrezentの定型表現を学習する。				事前：プレゼン定型文の予習 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
5	Unit 1 A good friend (アイコンタクト) : 効果的なプレゼンテーションのためのスキルを学習する。				事前：プレゼンスキルの予習 事後：アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
6	Unit 1 A good friend (意見交換、ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。				事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
7	Unit 2 A favourite place (好きな場所について話す) : 場所を説明する語彙を学習する。				事前：好きな場所を考える 事後：学習した語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
8	Unit 2 A favourite place (プレゼンテーションの始め方、終わり方) : 聴衆が持てるよう終わる表現を学習する。				事前：導入と締め表現の予習 事後：締めの表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
9	Unit 2 A favourite place (ジェスチャー、ボディーランゲージ) : 姿勢や手の位置の良い例と悪い例を学習する。				事前：プレゼンスキルの予習 事後：ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
10	Unit 2 A favourite place (意見交換、ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。				事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
11	Unit 3 A prize possession (自分の宝物について話す) : 自慢の物を相手に説明する。				事前：所有物の説明の予習 事後：所有物の説明の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
12	Unit 3 A prize possession (どのような物なのか説明する) : 色、形、模様、大きさ、材質などを説明する。				事前：物の説明表現の予習 事後：材質などの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
13	Unit 3 A prize possession (物を見ながら説明する) : 相手に興味を持たせながら説明する。				事前：Show-and-tellの学習 事後：Show-and-tellの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
14	Unit 3 A prize possession (意見交換、ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。				事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分															
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)				事前：模擬プレゼンの準備 事後：後期授業の総復習		講義 10分、ディスカッション 20分、発表 60分															
教本：		参考文献：																				
Present Yourself 1, 2 <sup>nd</sup> edition (Cambridge 出版)																						
成績評価の方法、評価基準：																						
平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたらいいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	英語プレゼンテーションB (English Presentation B)						科目分類	専門科目														
担当教員	OTC																					
履修条件	前提科目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングI、IIの履修を推奨します。			その他	なし																
<b>授業概要 :</b> ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。																						
<b>授業目標 :</b> ①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意見を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。																						
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b>																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																						
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態														
1	Getting ready (プレゼンの基本事項の確認), Self-Introductions (自己紹介) : プrezentationの概要の学習。問題点を検討。				事前: プrezen語彙を調べる 事後: プrezen語彙の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
2	Unit 4 A memorable experience (自分の経験したことを話す) : 感動したこと、恐ろしかったこと、驚いたことなどを説明する。				事前: 感情の語彙を調べる 事後: 経験の語彙の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
3	Unit 4 A memorable experience (物事を順序立てて話す) : 連続した場面を順序立てて説明する。				事前: 物語の説明語彙の予習 事後: 順序の表現を確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
4	Unit 4 A memorable experience (始め方、終わり方など) : "pass the mike"/効果的なプレゼンの終わり方				事前: プrezen定型文の予習 事後: プrezen定型文の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
5	Unit 4 A memorable experience (声の大きさに注意する) : 声の大きさや抑揚に気をつけて話す。				事前: プrezenskiルの予習 事後: アイコントクトの確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
6	Unit 4 A memorable experience (ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。				事前: プrezen定型文の確認 事後: プrezen定型文の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
7	Unit 5 I'll show you how (技術や能力について話す) : 個人の技術力や才能とその有益性について話す。				事前: 自分のスキルを考える 事後: スキルの語彙の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
8	Unit 5 I'll show you how (料理手順を説明する) : 動作や変化を順序立てて説明する。				事前: 動作表現の予習 事後: 説明語彙の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
9	Unit 5 I'll show you how (ジェスチャーを的確に説明する) : 動作をしながら、その動きを説明する。				事前: 動作説明表現の予習 事後: ジェスチャーの確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
10	Unit 5 I'll show you how (意見交換、ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。				事前: プrezen定型文の確認 事後: プrezen定型文の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
11	Unit 6 Screen magic (映画やテレビ番組について説明する) : 画面の情報を説明する。				事前: 映画の説明表現の予習 事後: 情報の説明表現の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
12	Unit 6 Screen magic (聴衆に映画をお勧めして終わる) : 効果的な終わり方を学習する。				事前: 映画の推奨表現の理解 事後: 終わり方の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
13	Unit 6 Screen magic (文の中での抑揚や間を意識して発表する) : 効果的な話し方を学習する。				事前: 抑揚と間の効果の理解 事後: 抑揚と間の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
14	Unit 6 Screen magic (意見交換、ミニプレゼン) : ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。				事前: プrezen定型文の確認 事後: プrezen定型文の確認			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
15	Final Presentations (グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答)				事前: 模擬プレゼンの準備 事後: 後期授業の総復習			講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分														
教本 :		参考文献 :																				
Present Yourself 1, 2 <sup>nd</sup> edition (Cambridge 出版)																						
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 平常点 (60%)、課題およびパフォーマンス (40%) を総合して評価する。																						
<b>学生へのアドバイス :</b> 人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたらいいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。																						
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	英語文学 I (English Literature I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	阿部 美恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
授業では文学作品を材料に、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、様々な英語表現の習得、作品理解、多様な文化の理解を図る。																										
授業目標:																										
イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、それぞれの作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶごとによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
2	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
3	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
4	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
5	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
6	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
7	Chapter 4 『ブロークバック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
8	Chapter 4 『ブロークバック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
9	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
10	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
11	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
12	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
13	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
14	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
15	英語文学 I の総括をする				事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
教本：		参考文献： A Look at Love in Fiction (Asahi Press) 授業中に適宜資料を配布する。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
常に世界の出来事に关心を持ち、積極的に授業に参加してください。																										
オフィスアワー：																										
初回の講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	英語文学II (English Literature II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	阿部 美恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
授業では文学作品を材料に、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、様々な英語表現の習得、作品理解、多様な文化の理解を図る。																										
授業目標：																										
イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、それぞれの作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶごとによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	Chapter 8 『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
2	Chapter 8 『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
3	Chapter 9 『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
4	Chapter 9 『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
5	Chapter 10 『グレート・ギャッピー』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
6	Chapter 10 『グレート・ギャッピー』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
7	Chapter 11 『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
8	Chapter 11 『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
9	Chapter 12 『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
10	Chapter 12 『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
11	Chapter 13 『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
12	Chapter 13 『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
13	Chapter 14 『ワイフ・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
14	Chapter 14 『ワイ夫・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。				事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
15	英語文学IIの総括をする				事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、練習問題 20分																			
教本：A Look at Love in Fiction(Asahi Press)					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
常に世界の出来事に关心を持ち、積極的に授業に参加してください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語ライティング I (English Writing I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。																										
授業目標:																										
1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	Introduction(シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く)					事前:なし 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
2	人主語(英語における主語が人である事例について、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
3	無生物主語(英語における主語が物や事柄である事例について、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
4	時制(英語の時制の中でも特に現在形と過去形について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
5	冠詞(1)(不定冠詞について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
6	冠詞(2)(定冠詞について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
7	可算名詞(可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
8	不可算名詞(不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
9	形容詞(1)(形容詞が名詞を修飾する場合について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
10	形容詞(2)(形容詞が主語に対しての補語になる場合について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
11	副詞:(形容詞以外の修飾語として、副詞を理解する)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
12	時制の一致(時制の一致について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
13	二つの品詞性(二つの品詞性について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
14	その他、取り扱わなかった文法項目の概観					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
15	総まとめ(内容の概観を行う)					事前:授業内容で英作文 事後:なし		演習 90分																		
教本: なし		参考文献: 適宜、授業内で紹介する。																								
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス(100%)で評価する。																										
学生へのアドバイス: たくさんの英語を書いてみましょう。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ (English Writing Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。																										
授業目標:																										
1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	Introduction(シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く)					事前:なし 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
2	名詞構文(1)(名詞構文の中でも基本的な用法である原因を示す事例を理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
3	名詞構文(2)(名詞構文の中でも時や条件を表す事例を理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
4	助動詞(1)(助動詞の根源的用法について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
5	助動詞(2)(助動詞の認識的用法について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
6	不定詞(不定詞の本質について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
7	動名詞(動名詞の本質について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
8	不可算名詞(不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
9	否定(1)(否定について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
10	否定(2)(否定のなかでも含意否定や部分否定の例も含め、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
11	受動態(能動態と受動態の両方を書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
12	比較(同等比較・比較級・最上級について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
13	代名詞It(Itについて理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
14	副詞(副詞の種類について理解し、書けるようにする)					事前:授業内容で英作文 事後:授業内容で英作文		演習 90分																		
15	総まとめ(内容の概観を行う)					事前:授業内容で英作文 事後:なし		演習 90分																		
教本: なし		参考文献: 適宜、授業内で紹介する。																								
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス(100%)で評価する。																										
学生へのアドバイス: たくさんの英語を書いてみましょう。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニング I (English Listening I)					科目分類	専門科目		
担当教員	岡部 佑人								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:									
この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標:									
1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検準二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○		○							
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	Introduction, BBC Newsについて					事前：なし 事後：音声の復習			演習 90分
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション			演習 90分
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし			演習 90分
教本:		参考文献: BBC Newsの音声を用います。 適宜、授業内で紹介します。							
成績評価の方法、評価基準: 定期試験（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス: 英語を何度も聞いてみましょう。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニング II (English Listening II)					科目分類	専門科目		
担当教員	岡部 佑人								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要: この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標: 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○		○							
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	Introduction, BBC Newsについて					事前：なし 事後：音声の復習			演習 90分
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習			演習 90分
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション			演習 90分
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション			演習 90分
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし			演習 90分
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）で評価します。									
学生へのアドバイス： 英語を何度も聞いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習						
授業科目(英文)	英語リーディング I (English Reading I)					科目分類	専門科目								
担当教員	岡部 佑人														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要: 英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。															
授業目標: 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ） <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	英文コーパスについて知る。				事前：なし 事後：英文の予習			演習 90分							
2	「85歳の老人」（以下、括弧内はテキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
3	「オルダーニー牛の反芻」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
4	「ボジニー青年」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
5	「カタツムリ」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
6	「お住まいはどちらですか」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
7	「アイリーニを幸せに」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
8	「30年前に買ったワイン」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
9	「黄金時代の詩」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
10	「思いの丈、泣かせてあげよう」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
11	「コテージピアノ」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
12	「人を深く愛したことがありますか」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
13	「見た目は穏やか」の部分を精読する。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
14	総まとめおよび質問受付を行う。				事前：英文の予習確認 事後：英文の予習			演習 90分							
15	総まとめおよび質問受付を行う。				事前：英文の予習確認 事後：なし			演習 90分							
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。										
成績評価の方法、評価基準： レポート（100%）で評価する。															
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。															
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。															

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ (English Reading II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	岡部 佑人																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:	<p>英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。</p>																									
授業目標:	<p>1. 受講生は、様々なジャンルの英文を読み、目的に応じて情報や考え方を整理することができる。 2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。</p>																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習	演習 90分																			
2	「お見せできる一番の花」（以下、テキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
3	「あの犬は引っ搔く」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
4	「そのうち、なんとかなるでしょう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
5	「さて、いくらにしようか？」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
6	「ロンドンへ行く用事」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
7	「スミレの香り」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
8	「充実して過ごす」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
9	「三本か四本か」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
10	「ピアノのレッスン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
11	「カルメン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
12	「命」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
13	「4時が過ぎていた」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習	演習 90分																			
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし	演習 90分																			
教本:	<p>参考文献: 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。</p>																									
なし																										
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。	<p>レポート（100%）で評価する。</p>																									
学生へのアドバイス:	<p>英語を丁寧に読むようにして下さい。</p>																									
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	エコツーリズム (Ecotourism)					科目分類	専門科目								
担当教員	古賀 学			授業概要：	エコツーリズムの理念を踏まえて、国内外で実施されているエコツーリズムを検証することにより、自然の保護と観光活用のあり方について修得する。										
履修条件	前提科目	なし	その他	なし											
授業目標：	①エコツーリズムの理念と構造について修得する。 ②観光における環境保全・地域資源保護と利用のあり方について修得する。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）	知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養										
	○			○											
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	エコツーリズム論の構造：エコツーリズムの学問的体系について修得する。			事前：エコツーリズムの意味について理解する。 事後：エコツーリズム論の体系を確認する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
2	エコツーリズムの概念：エコツーリズムの発祥、理念、経緯等について修得する。			事前：エコツーリズムの歴史的経緯について考究する。 事後：エコツーリズムの理念について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
3・4	エコツーリズムと施策・法律：エコツーリズム推進法等関連法規及び国等行政における関連施策の内容について修得する。			事前：エコツーリズムに関する国の施策を考究する。 事後：政府エコツーリズムの施策について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
5	エコツーリズムの分類：エコツーリズムが目指す地域振興の目的と意義、保護と活用のあり方等によるエコツーリズムの分類について修得する。			事前：エコツーリズムと地域のあり方について考究する。 事後：自然資源の保護と活用について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
6・7	屋久島とエコツーリズム：屋久島のエコツーリズムの現状、屋久島公認ガイドなどエコツーリズムガイドの役割、制度等について修得する。			事前：地域ガイドの種類について考究する。 事後：エコツーリズムガイドの必要性について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
8	小笠原とエコツーリズム：小笠原におけるエコツーリズムの仕組みと旅行商品特性等について修得する。			事前：小笠原の観光の現状について考究する。 事後：自然と観光のあるべき姿について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
9	ニュージーランドとエコツーリズム：ミルフォードトラックを始めニュージーランドのエコツーリズムの現状、パッケージ型旅行商品の構造について修得する。			事前：ニュージーランドの観光特性について考究する。 事後：パッケージ型旅行商品の利点について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
10	ネパールとエコツーリズム：高地トレッキングなどエコツーリズムの現状、地域開発と環境変化等について修得する。			事前：ネパールの観光について考究する。 事後：ネパールにおける観光開発の法律を整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
11	エコツーリズムと計画：エコツアー及び受入体制の整備等エコツーリズム実現のためのプロセス及び計画要素について修得する。			事前：“計画”について考究する。 事後：エコツーリズム計画のプロセスを整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
12・13	エコツアーと旅行商品化：エコツアーの種類、実施内容及び受入体制と地域波及効果について修得する。			事前：エコツアーの既存商品について調査する。 事後：エコツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
14	エコツーリズム関連ツアー：ジオ・ツーリズム、里山観光など自然と人間とのかかわりをテーマとしたツアーの検証により、エコツーリズムの今後を考える。			事前：エコ関連ツアーの既存商品について調査する。 事後：エコ関連ツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、ディスカッション 10分								
15	これからのエコツーリズム：今までの講義をもとにこれからのエコツーリズムのあり方について議論する。			事前：講義の総復習 事後：ワークショップのまとめ			復習 60分 ワークショップ 30分								
教本：	参考文献： テキストは授業ごとにプリントを配布する。														
成績評価の方法、評価基準：	定期試験及び平常点を加味する。														
学生へのアドバイス：	観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。														

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	SDGsと人口 (Sustainable Development Goals and Population)							科目分類	基礎科目														
担当教員	松浦 広明																						
履修条件	前提科目	なし																					
その他 メールおよび授業 Website を定期的にチェックする事ができること																							
授業概要 :																							
2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、人口学の視点から、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取り組みについて概観します。																							
授業目標 :																							
持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。																							
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
◎						○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)				授業形態															
1	SDGsに向けて			事前:なし 事後:第2章(佐藤・松浦)				講義															
2	経済成長・発展とその決定要因			事前:第7章(佐藤・松浦) Ch3/4.(Sachs) 事後:授業の復習				講義															
3	貧困と不平等			事前:Ch2.(Sachs) 事後:授業の復習				講義															
4	国際機関の取り組み			事前:Handout 事後:授業の復習				講義															
5	人口と経済			事前:UNFPA(2012) 事後:授業の復習				講義															
6	移民と難民			事前:第14章(田中) 事後:授業の復習				講義															
7	教育と労働			事前:Ch8.(Sachs) 事後:課題				講義															
8	こどもと女性			事前:第4章(佐藤・松浦) 事後:課題				講義															
9	グローバル・ヘルスの挑戦:MDGsの下でのGH			事前:Ch9.(Sachs) 事後:授業の復習				講義															
10	グローバル・ヘルスの挑戦:SDGsの下でのGH			事前:前回の授業の復習 事後:授業の復習				講義															
11	グローバル・ヘルスの挑戦:新型コロナウィルスと世界			事前:前回の授業の復習 事後:授業の復習				講義															
12・13	国際観光・国際防災協力とレジリエントな都市			事前:世界観光ランキング(World Tourism Barometer)Ch11.(Sachs) 事後:なし				講義															
(12・13)	JICA横浜での研修			事前:Handout 事後:課題				演習															
14	SDGsとデータ			事前:第9章(佐藤・松浦) 事後:なし				講義															
15	まとめ			事前:レポート課題 事後:レポート課題				講義															
教本 :																							
佐藤・松浦「SDGsの人口学」(人口学ライブリー) 原書房, 2023																							
参考文献 :																							
田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編「SDGsと開発教育:持続可能な開発目標ための学び」学分社、2016																							
Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015																							
成績評価の方法、評価基準 :																							
授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)で総合評価する。																							
学生へのアドバイス :																							
定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。																							
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	応用データ処理 (Data Processing for Data Science)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 EXCELが使用可能なノートパソコンを用意すること																										
授業概要:																										
ビッグデータや人工知能(AI)技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスやAIに関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンス関連科目を学ぶために必要な基礎知識であるデータ処理技術の習得を目指す。本講義では、サンプルデータによる演習課題を通してデータ処理技術とその活用法を学ぶ。																										
授業目標:																										
データの基本処理、グラフ化を始めとする可視化処理、データの加工処理、関数やプログラミングによる算出処理など、データ処理・分析のために必要な表計算ソフトの基本操作から高度な活用法までの習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	シラバスの説明、データ処理・分析の概説					事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する		講義																		
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前:前回の資料を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
3	数式と基本関数の利用法					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
4	絶対／相対参照を活用したデータ算出処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
5	グラフの作成の基本操作と書式変更処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
6	分析目的に適した作表・グラフ化、書式変更処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
7	複数のデータシートを活用したデータ処理法					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
8	高度な関数の利用によるデータ管理表の作成					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
9	表形式による高度なデータの可視化・分析					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
10	分析目的に適したデータの抽出・加工処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
11	クロス集計によるデータ分析処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
12	分析目的に適した高度なグラフ化処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
13	プログラミング(マクロ)によるデータ分析処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
14	公開データを活用したデータ加工・分析処理					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
15	まとめ、総合演習問題					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
教本:		参考文献: 講義初回のガイダンスで指示する。																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。																										
学生へのアドバイス: 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	オペレーティングシステム (Operating System)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
オペレーティングシステムの適用対象は、大型計算機やパソコンが主対象であったが、現在では、スマート、家電製品、IoT関連機器等、対象は拡大している。オペレーティングシステムを理解することは、プログラミング技術やシステム開発技術を学ぶ上での基礎知識として非常に重要である。講義、演習、グループディスカッションを通じてオペレーティングシステムの基礎技術を理解する。																										
授業目標：																										
オペレーティングシステムの主要な概念とその動作原理を理解することを目的とする。また、近年の利用環境の変化を考慮し、ネットワーク機能、セキュリティ機能、運用管理機能等も含めて、幅広く理解することを目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割					事前：シラバスを読む 事後：学習内容を復習する		講義																		
2	ユーザインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
3	プログラミングインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
4	オペレーティングシステムの構成					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
5	入出力の制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
6	ファイルの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
7	プロセスとその管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
8	多重プロセス					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
9	メモリの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
10	仮想メモリ					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
11	仮想化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
12	ネットワークの制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
13	セキュリティと信頼性					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
14	システムの運用管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
15	性能、標準化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
教本：																										
参考文献： IT Text オペレーティングシステム 改定2版、野口、光来、品川、オーム社、¥3,080 講義内で指示する																										
成績評価の方法、評価基準：																										
小テスト・レポート等（100%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習										
授業科目(英文)	音楽で遊ぶ(音楽表現)(Play with Music)					科目分類	専門科目												
担当教員	鹿戸一範																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要:	子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識(楽典)やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。																		
授業目標:	領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。保育者に必要な音楽表現を身につけ楽しむ姿勢を持ち、適切に表現する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○	○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態												
1	オリエンテーション【授業内容、進め方について】					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1~8 弾き歌いの導入①					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9~16 弾き歌いの導入②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17~24 生活のうた弾き歌い①					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25~26 生活のうた弾き歌い②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27~32 春のうた弾き歌い①					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33~38 春のうた弾き歌い②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39~42 夏のうた弾き歌い①、中間発表会					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
9	高い音の練習 教本 No.43~46 夏のうた弾き歌い②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47~48 秋のうた弾き歌い①					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49~54 秋のうた弾き歌い②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
12	ハ長調の音階 教本 No.55~58 冬のうた弾き歌い①					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
13	ヘ長調の音階 教本 No.59~61 冬のうた弾き歌い②					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
14	ト長調の音階 教本 No.62~67 行事のうた弾き歌い					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
15	これまでの授業のまとめと発表					事前:課題曲の練習 事後:課題曲の仕上げ	演習												
教本:	参考文献: 『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『いちばんカンタン! 保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社 必要に応じてプリントを配布する																		
成績評価の方法、評価基準:	授業内容への参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、発表(50%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:																			
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	音楽表現 (Musical Expression)						科目分類	専門科目													
担当教員	鹿戸 一範																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要 :																					
子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。																					
授業目標 :																					
領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。保育者に必要な音楽表現を身につけ楽しむ姿勢を持ち、適切に表現する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	オリエンテーション【授業内容、進め方について】				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1~8 弾き歌いの導入①				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9~16 弾き歌いの導入②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17~24 生活のうた弾き歌い①				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25~26 生活のうた弾き歌い②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27~32 春のうた弾き歌い①				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33~38 春のうた弾き歌い②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39~42 夏のうた弾き歌い①、中間発表会				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
9	高い音の練習 教本 No.43~46 夏のうた弾き歌い②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47~48 秋のうた弾き歌い①				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49~54 秋のうた弾き歌い②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
12	ハ長調の音階 教本 No.55~58 冬のうた弾き歌い①				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
13	ヘ長調の音階 教本 No.59~61 冬のうた弾き歌い②				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
14	ト長調の音階 教本 No.62~67 行事のうた弾き歌い				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
15	これまでの授業のまとめと発表				事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ			演習													
教本 :																					
参考文献 :																					
『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『いちばんカンタン！ 保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社 必要に応じてプリントを配布する																					
成績評価の方法、評価基準 :																					
授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、発表（50%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス :																					
オフィスアワー :																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習									
授業科目(英文)	音声学 (Phonetics)						科目分類	専門科目										
担当教員	岡部 佑人																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。																		
授業目標及びテーマ：																		
中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態										
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について説明を行う					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		演習 90分										
2	音の発声ー母音と子音の種類について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
4	英語のリズムについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
5	紛らわしい母音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
6	紛らわしい子音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
7	つながって聞こえる音（連結）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
8	変化して聞こえる音（同化）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
9	聞こえなくなる音（1）単語間の脱落について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
10	聞こえなくなる音（2）単語内の脱落・短縮形について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
11	英語のイントネーションのパターンについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
12	英語のイントネーションと文中のボーズについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
13	World Englishesについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
14	英語の数量表現の聞き取りについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
15	まとめと復習、音声実技試験を行う。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分										
教本： 『新えいご・エイゴ・英語学』稻木昭子 ほか 松柏社					参考文献： 授業内で紹介する。													
成績評価の方法、評価基準：																		
期末考査（100%）で評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
英語の音声をたくさん聞くようにしてください。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																																																																
授業科目(英文)	会計学 I (Accounting I)						科目分類	専門科目																																																																	
担当教員	上野 清貴																																																																								
履修条件	前提科目	簿記論 I・II			その他	なし																																																																			
<b>授業概要 :</b> 会計学 I では、会計の意義と領域、会計の法的制度、会計の基本構造、利益計算の基本原理をまず解説する。これまで会計学の総論であるが、次に、会計学の各論を解説する。それは、現金・預金と金銭債権の会計、有価証券の会計および棚卸資産の会計である。																																																																									
<b>授業目標 :</b> 会計学 I および次の会計学 II は、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。																																																																									
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○																																																											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
○	○																																																																								
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画 (詳細に記入)</th> <th>事前・事後学習 (学習課題)</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>会計の意義と領域 (1) 会計の意義を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>2</td><td>会計の意義と領域 (2) 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>3</td><td>会計の法的制度 (1) 会計の規制に関する法律を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>4</td><td>会計の法的制度 (2) 金融商品取引法会計等を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>5</td><td>会計の基本構造 (1) 会計公準を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>6</td><td>会計の基本構造 (2) 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>7</td><td>会計の基本構造 (3) 企業会計原則の一般原則を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>8</td><td>利益計算の基本原理 (1) 財産法と損益法を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>9</td><td>利益計算の基本原理 (2) 資産負債観と収益費用観を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>10</td><td>現金・預金と金銭債権の会計 (1) 現金・預金の会計処理を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> <tr><td>11</td><td>現金・預金と金銭債権の会計 (2) 金銭債権の会計処理を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> <tr><td>12</td><td>有価証券の会計 (1) 有価証券の意義と分類を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> <tr><td>13</td><td>有価証券の会計 (2) 有価証券の会計処理を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> <tr><td>14</td><td>棚卸資産の会計 (1) 棚卸資産の意義と範囲を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> <tr><td>15</td><td>棚卸資産の会計 (2) 棚卸資産の会計処理を解説する。</td><td>事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする</td><td>講義 70分 設例の計算 20分</td></tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態	1	会計の意義と領域 (1) 会計の意義を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	2	会計の意義と領域 (2) 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	3	会計の法的制度 (1) 会計の規制に関する法律を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	4	会計の法的制度 (2) 金融商品取引法会計等を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	5	会計の基本構造 (1) 会計公準を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	6	会計の基本構造 (2) 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	7	会計の基本構造 (3) 企業会計原則の一般原則を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	8	利益計算の基本原理 (1) 財産法と損益法を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	9	利益計算の基本原理 (2) 資産負債観と収益費用観を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分	10	現金・預金と金銭債権の会計 (1) 現金・預金の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分	11	現金・預金と金銭債権の会計 (2) 金銭債権の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分	12	有価証券の会計 (1) 有価証券の意義と分類を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分	13	有価証券の会計 (2) 有価証券の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分	14	棚卸資産の会計 (1) 棚卸資産の意義と範囲を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分	15	棚卸資産の会計 (2) 棚卸資産の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																																																																						
1	会計の意義と領域 (1) 会計の意義を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
2	会計の意義と領域 (2) 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
3	会計の法的制度 (1) 会計の規制に関する法律を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
4	会計の法的制度 (2) 金融商品取引法会計等を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
5	会計の基本構造 (1) 会計公準を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
6	会計の基本構造 (2) 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
7	会計の基本構造 (3) 企業会計原則の一般原則を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
8	利益計算の基本原理 (1) 財産法と損益法を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
9	利益計算の基本原理 (2) 資産負債観と収益費用観を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 90分																																																																						
10	現金・預金と金銭債権の会計 (1) 現金・預金の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
11	現金・預金と金銭債権の会計 (2) 金銭債権の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
12	有価証券の会計 (1) 有価証券の意義と分類を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
13	有価証券の会計 (2) 有価証券の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
14	棚卸資産の会計 (1) 棚卸資産の意義と範囲を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
15	棚卸資産の会計 (2) 棚卸資産の会計処理を解説する。	事前: テキストの該当箇所を予習する 事後: テキストで授業の復習をする	講義 70分 設例の計算 20分																																																																						
教本 :		参考文献 :																																																																							
上野清貴著『財務会計の基礎』(第5版)』中央経済社																																																																									
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 毎回提出のレポートで評価する。																																																																									
<b>学生へのアドバイス :</b> 日々の予習復習を怠らないこと。																																																																									
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																																																																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	会計学 I (Accounting I)					科目分類	専門科目														
担当教員	高橋 琢也																				
履修条件	前提科目	簿記論 I・II			その他	なし															
授業概要:																					
会計学 I・IIでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めようとする。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。																					
授業目標:																					
会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	アカウンタビリティ・会計公準 企業が会計する理由と会計公準について解説する。					事前：テキスト14-21頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分													
2	財務諸表の特徴 貸借対照表と損益計算書の特徴について解説する。					事前：テキスト22-33頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
3	簿記1（取引と仕訳） 簿記一巡の手続きの仕訳について解説する。					事前：テキスト36-45頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
4	簿記2（勘定と試算表、決算整理） 簿記一巡の手続き以降の手続きについて解説する。					事前：テキスト46-51頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
5	企業会計原則・一般原則 企業会計原則における一般原則について解説する。					事前：テキスト54-67頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
6	損益計算書原則 損益計算書原則について解説する。					事前：テキスト68-77頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
7	貸借対照表原則 貸借対照表原則について解説する。					事前：テキスト78-81頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
8	収益認識 収益認識の手続きについて解説する。					事前：テキスト84-91頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
9	収益認識の具体的処理・債権 特別な取引と債権について解説する。					事前：テキスト92-100頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
10	棚卸資産 棚卸資産とそれに関わる処理について解説する。					事前：テキスト102-110頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
11	固定資産・減価償却 固定資産と減価償却について解説する。					事前：テキスト112-121頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
12	減損会計 固定資産の減損について解説する。					事前：テキスト122-129頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
13	無形固定資産 研究開発費とソフトウェア、のれんについて解説する。					事前：テキスト130-135頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
14	リース会計 リース取引について解説する。					事前：テキスト136-143頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分													
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分													
教本:																					
登川雄太『財務会計の基本』、日本実業出版社。																					
参考文献:																					
桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（最新版）、有斐閣アルマ。																					
成績評価の方法、評価基準:																					
試験（60%）および小テスト（40%）で評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	会計学II (Accounting II)					科目分類	専門科目															
担当教員	上野 清貴																					
履修条件	前提科目	会計学I 簿記論I・II			その他	なし																
授業概要 :																						
会計学IIでは、主として会計学の各論を解説する。具体的には、有形固定資産の会計、無形固定資産と投資その他の資産の会計、繰延資産の会計、負債の会計、純資産の会計、収益と費用の会計を解説する。最後に、財務諸表の作成を解説する。																						
授業目標 :																						
会計学IIおよび前の会計学Iは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	有形固定資産の会計 (1) 有形固定資産の意義と範囲を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
2	有形固定資産の会計 (2) 有形固定資産の減価償却を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
3	無形固定資産と投資その他の資産の会計 (1) 無形固定資産の意義と範囲を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
4	無形固定資産と投資その他の資産の会計 (2) 投資その他の資産の意義と範囲を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
5	繰延資産の会計 (1) 繰延資産の意義と範囲を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
6	繰延資産の会計 (2) 繰延資産の会計処理を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
7	負債の会計 (1) 負債の意義と分類を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
8	負債の会計 (2) 引当金と社債の会計処理を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
9	純資産の会計 (1) 純資産の意義と分類を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
10	純資産の会計 (2) 純資産の会計処理を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
11	収益と費用の会計 (1) 収益と費用の意義と分類を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
12	収益と費用の会計 (2) 収益認識基準の適用を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 70分 設例の計算 20分														
13	財務諸表の作成 (1) 貸借対照表と損益計算書を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
14	財務諸表の作成 (2) 株主資本等変動計算書を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
15	財務諸表の作成 (3) キャッシュ・フロー計算書を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
教本 :		参考文献 :																				
上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社																						
成績評価の方法、評価基準 :																						
毎回提出のレポートで評価する。																						
学生へのアドバイス :																						
日々の予習復習を怠らないこと。																						
オフィスアワー :																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	会計学II (Accounting II)					科目分類	専門科目																	
担当教員	高橋 琢也																							
履修条件	前提科目	会計学I			その他																			
授業概要:																								
会計学I・IIでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めようとする。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。																								
授業目標:																								
会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	有価証券 有価証券の取得や期末評価について解説する。					事前：テキスト146-159頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分																
2	ヘッジ会計・デリバティブ取引 ヘッジ会計・デリバティブ取引について解説する。					事前：テキスト160-168頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
3	債権の種類と評価 債権の種類と評価について解説する。					事前：テキスト169-173頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
4	引当金 引当金の処理について解説する。					事前：テキスト176-184頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
5	退職給付会計 退職給付会計について解説する。					事前：テキスト185-194頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
6	税効果会計の概要 税効果会計の概要（一時差異と永久差異）について解説する。					事前：テキスト196-204頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
7	繰延税金資産と資産負債法 繰延税金資産と資産負債法について解説する。					事前：テキスト205-212頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
8	純資産 純資産（株主資本とその他）について解説する。					事前：テキスト214-226頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
9	企業結合会計 企業結合とその処理について解説する。					事前：テキスト228-233頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
10	連結会計 連結会計とその処理について解説する。					事前：テキスト234-248頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
11	連結財務諸表特有の処理・持分法会計 連結財務諸表特有の処理・持分法会計について解説する。					事前：テキスト249-255頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
12	外貨建取引 外貨建取引や為替予約について解説する。					事前：テキスト258-270頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
13	財務諸表と連結財務諸表 財務諸表と連結財務諸表のそれぞれの関係について解説する。					事前：テキスト272-287頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
14	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書と活動区分について解説する。					事前：テキスト288-292頁 事後：復習ノートの作成		小テスト 20分 講義 70分																
15	問題演習 後期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分																
教本:		参考文献: 登川雄太『財務会計の基本』、日本実業出版社。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』(最新版)、有斐閣アルマ。																						
成績評価の方法、評価基準:																								
試験（60%）および小テスト（40%）で評価する。																								
学生へのアドバイス:																								
電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																								
オフィスアワー:																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	外国史 (History of the World)						科目分類	基礎科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心<感情の知性>、知・徳・体）を育む。インタークションで自己肯定感を高める。2. 多元的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識+討論+思考=独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる)。5. わかりやすい。6. ICT(情報通信技術)でやる気にさせる。7. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢 (Dreams come true. 夢が叶う)と目標を達成させる。																		
授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史（世界史）で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、近代史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めることである。																		
1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、2. 外国史の課題を追究させ、解決させ、3. 平和で民主的な公民を育成させる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）		事前・事後学習（学習課題）				授業形態											
1	(基礎)外国史の目次の説明(古代史、中世史、近世史、近代史、現代史)をする。自己紹介をする。アンケートをする。		事前：教科書の目次の下読みをする。 事後：教科書の目次をノートに書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。アンケート 10分。自己紹介 30分。											
2	文明の成立と古代文明の特質について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。		事前：文明の成立と古代文明の特質の下読みをする。 事後：文明の成立と古代文明の特質のポイントを書く。				講義説明 10分。口頭 Q&A60分。アンケート 10分。課題 10分。											
3	中央ユーラシアと東アジア世界について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。		事前：中央ユーラシアと東アジア世界の下読みをする。 事後：中央ユーラシアと東アジア世界のポイントを書く。				講義説明 10分。口頭 Q&A60分。アンケート 10分。課題 10分。											
4	南アジア世界と東南アジア世界の展開について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。		事前：南アジア世界と東南アジア世界の展開の下読みをする。 事後：南アジア世界と東南アジア世界の展開のポイントを書く。				講義説明 10分。口頭 Q&A60分。アンケート 10分。課題 10分。											
5	西アジアと地中海周辺の国家形成について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。第1回小テストを行う。		事前：西アジアと地中海周辺の国家形成の下読みをする。 事後：西アジアと地中海周辺の国家形成のポイントを書く。				講義説明 20分。小テスト 60分。アンケート 10分。											
6	イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向の下読みをする。 事後：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
7	ヨーロッパ世界の変容と展開について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：ヨーロッパ世界の変容と展開の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界の変容と展開のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
8	東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代の下読みをする。 事後：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
9	アジアの諸帝国の繁栄について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：アジアの諸帝国の繁栄の下読みをする。 事後：アジアの諸帝国の繁栄のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
10	近世ヨーロッパ世界の動向について説明する。第2回小テストを行う。		事前：近世ヨーロッパ世界の動向の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の動向のポイントを書く。				講義説明 30分。小テスト 60分。											
11	産業革命と環大西洋革命について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：産業革命と環大西洋革命の下読みをする。 事後：産業革命と環大西洋革命のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
12	イギリスの優位と欧米国民国家について説明する。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。		事前：イギリスの優位と欧米国民国家の下読みをする。 事後：イギリスの優位と欧米国民国家のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。ディスカッション 40分。											
13	アジア諸地域の動搖と帝国主義とアジアの民族運動について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：アジア諸地域の動搖と帝国主義とアジアの民族運動の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動搖と帝国主義とアジアの民族運動のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
14	第一次世界大戦と第二次世界大戦について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。		事前：第一次世界大戦と第二次世界大戦の下読みをする。 事後：第一次世界大戦と第二次世界大戦のポイントを書く。				講義説明 40分。口頭 Q&A10分。課題 40分。											
15	冷戦と今日の世界について説明する。(基礎)外国史のまとめをする。アンケートをする。		事前：冷戦と今日の世界の下読みをする。 事後：冷戦と今日の世界のポイントをノートに書く。				講義説明 60分。口頭 Q&A20分。アンケート 10分。											
教本：木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦(著)、『世界史探究 詳説世界史』、山川出版社、2023年3月出版、ISBN 978-4-634-70131-1、¥860。																		
参考文献：川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、「最新世界史図説タペストリー十七訂版」、帝國書院、2019年、957円。																		
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点(60%)。																		
学生へのアドバイス：私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。																		
1. 外国史の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらおう。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	カウンセリング入門 (Introduction Counseling)					科目分類	専門科目																			
担当教員	田村 修一																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
私たちは人生の中で様々な問題に直面し、選択を迫られることがある。カウンセリングは、このような誰もが遭遇する進路の選択や心の健康にかかわる問題にアプローチし、援助する活動のことである。本授業では、カウンセリングの歴史、基本的理論・技法、独自性などについて演習を交えながら学ぶ。この授業が、履修者の日常生活における well-being 向上につながるような学びとしたい。																										
授業目標：																										
1. カウンセリングの意義、目的、方法、独自性を理解できる。 2. カウンセリングの基本的な理論や技法の基礎を習得し、日常生活における自身の問題解決や他者の援助に生かすことができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明） カウンセリング心理学の独自性				事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
2	カウンセリング心理学の発達史				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
3	カウンセリング・プロセスとカウンセラーに必要な基本的態度				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
4	カウンセリング理論① 精神分析理論				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
5	カウンセリング理論② 認知行動理論				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
6	カウンセリング理論③ 自己理論（人間性心理学）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
7	カウンセリングの技法① グループ・アプローチ (SGE)				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 30分・演習 60分																		
8	カウンセリングの技法② グループ・アプローチ (GWT)				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 15分・演習 75分																		
9	カウンセリングの技法③ マイクロ・カウンセリング				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 60分・演習 30分																		
10	カウンセリングの技法④ 倾聴トレーニング				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 30分・演習 60分																		
11	カウンセリングの時期別（初・中・後期）面接技法の違い				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
12	心理アセスメント① 交流分析とエゴグラム				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 60分・演習 30分																		
13	心理アセスメント② 知能検査（WISC）の理解と活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
14	心理アセスメント③ 心理検査（描画法：バウムテスト）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 60分・演習 30分																		
15	現代人の課題：うつ病の理解と援助（認知行動療法）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義 90分																		
教本：																										
「はじめてのカウンセリング入門(下)ほんものの傾聴を学ぶ」諸富祥彦 誠信書房 2010年																										
参考文献：																										
「はじめてのカウンセリング入門(上)カウンセリングとは何か」諸富祥彦 誠信書房 2010年																										
「カウンセリングの技法」諸富祥彦 誠信書房 2014年																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
平常点(授業への参加態度、リアクションペーパー、振り返りレポート)50%と定期試験(50%)の総合評価。																										
学生へのアドバイス：																										
本科目の授業を学ぶことで、日常の問題解決能力の向上や自己理解、他者理解が深まることを期待しています。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	家族心理学 (Psychology of Family)						科目分類	専門科目													
担当教員	水本 深喜																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> 個人の「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達していく過程、その過程で生じる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、支援法を学ぶ。																					
<b>授業目標 :</b> 本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。これにより、心理臨床の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができる。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると期待される。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○◎、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)		授業形態														
1	オリエンテーション、ジェノグラム				事前: シラバスの確認 事後: 講義内容の復習		講義 40分、 グループワーク 50分														
2	家族システム理論				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
3	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
4	独身の若い成人期、結婚による家族の成立期				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
5	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
6	小学生の子ども、若者世代とその家族				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
7	自立とは? 親からの精神的自立				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
8	老年期の家族				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
9	家族への臨床的アプローチ				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
10	リフレーミング				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
11	夫婦関係の危機と援助				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
12	児童虐待				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
13	家族が経験するストレスと援助				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
14	現代の家族の問題 (発表会)				事前: 資料確認・課題検討 事後: 講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分														
15	事例検討: 不登校の事例				事前: 授業全般の復習 事後: 理解の補完		講義 30分、 グループワーク 60分														
<b>教本 :</b> 平木典子『家族の心理—家族への理解を深めるために』 第2版 サイエンス社					<b>参考文献 :</b> 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス																
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。																					
<b>学生へのアドバイス :</b> 授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。																					
<b>オフィスアワー :</b> 初回授業日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	家族法 (Family Law)						科目分類	専門科目														
担当教員	上地 一郎																					
履修条件	前提科目	私法学 I／私法学 II／物権法			その他	なし																
授業概要：																						
本講義では、民法第四編親族を中心に講義を行ないます。親族法の基礎理論、婚姻、離婚、親子、養子、扶養等を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																						
授業目標：																						
親族法の基本的な知識を習得し、ならびに親族法の主要な法律問題を説明できるようになること。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態															
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分															
2	家族法総論 家族法とは何かを解説する			事前：日本の家族法の特色について調べる。 事後：日本の家族法の特色、紛争解決手続をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
3	婚姻（1）総説/婚姻の効果（1）婚姻の法的効果として人格的効果を解説する			事前：婚姻の効果について調べる。 事後：婚姻の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
4	婚姻（2）婚姻の効果（2）婚姻の法的効果として財産上の効果を解説する			事前：婚姻による財産上の効果について調べる。 事後：婚姻による財産上の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
5	婚姻（3）婚姻の成立（1）実質的要件一意思の合致/婚姻意思の内/意思の存在期間/婚姻届作成後の翻意を解説する			事前：婚姻成立の実質的要件について調べる。 事後：婚姻届作成後の翻意についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
6	婚姻（4）婚姻の成立（2）実質的要件一婚姻適齢／重婚禁止／再婚期間禁止期間について解説する			事前：再婚禁止期間について調べる。 事後：婚姻成立の実質的要件の諸問題をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
7	離婚（1）総説/現代離婚法の法的な争点を解説する			事前：婚姻の解消原因について調べる。 事後：日本の離婚の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
8	離婚（2）離婚の方法（1）協議離婚とは何かを解説する			事前：協議離婚について調べる。 事後：協議離婚についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
9	離婚（3）離婚の方法（2）裁判離婚とは何かを解説する			事前：裁判離婚について調べる。 事後：日本の裁判離婚の特色についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
10	親子（1）嫡出子、非嫡出子について解説する			事前：嫡出子／非嫡出子について調べる。 事後：嫡出子／非嫡出子の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
11	親子（2）親子の法的効果を解説し、その問題を考える			事前：親権とは何かを調べる。 事後：親権の内容／要件／終了についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
12	養子（1）養子制度の概要を解説し、養子の成立、縁組の無効・取消などを解説する			事前：養子制度の概要について調べる。 事後：養子の成立／縁組の無効・取消しについてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
13	養子（2）縁組の法的効果、離縁とは何か、特別養子について解説する			事前：縁組の効果について調べる。 事後：特別養子縁組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
14	扶養の法的諸問題を取り上げ、解説する			事前：扶養法の問題点について調べる。 事後：扶養の諸問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
15	氏と戸籍の関係について解説し、夫婦の氏の問題を考える			事前：氏と戸籍の関係について調べる。 事後：夫婦の氏の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分															
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。																	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	神奈川文化論 (Cultural Analysis of KANAGAWA)						科目分類	基礎科目												
担当教員	飯島祥二・川口 修・小林 克																			
履修条件	前提科目	なし			その他	1回目から出席をすること。														
授業概要:																				
神奈川県とその周辺地域の歴史・文化等を多様な視点から紐解き、地域の文化・歴史のもつ複合性を学修する。本講義は3名の教員が担当しオムニバス形式で講義を進める。授業内容および計画の欄に( ) 担当教員を記載した。																				
授業目標:																				
神奈川県とその近隣地域の歴史・文化等について多角的に学修することにより、神奈川県における今後のより良き文化の形成に資する基礎を学修する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
( )			( )																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態												
1	オリエンテーション(講義の進め方と「複合領域としての地域学(Regionology)」の意味・特性の説明(飯島))				事前:シラバスの確認 事後:テーマの探求			講義90分												
2	神奈川の社会と地形(川口)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
3	神奈川の水資源と産業(川口)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
4	神奈川の名所旧跡・温泉・名産品(川口)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
5	神奈川の経済と工業製品(川口)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
6	神奈川の歴史と文化①旧石器時代～古墳時代(小林)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
7	神奈川の歴史と文化②古代～中世(小林)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
8	神奈川の歴史と文化③近世～近・現代(小林)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
9	神奈川の信仰と民俗(小林)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
10	神奈川の「文化と環境、文化とツーリズム」(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
11	神奈川の「沖積台地と洪積平野」(地形・生活環境)(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
12	神奈川の「八景：金澤八景」(風景の見方の系譜)(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
13	神奈川の「文化資源への眼差し」(藤沢遊行寺と大山)(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
14	神奈川の「観光文化資源の在り方」(箱根：観光資源のポートフォリオ性)(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
15	神奈川の「外国人のみた街道・旅の文化」(飯島)				事前:テーマ関連資料の収集 事後:テーマの探求			講義75分 小テスト15分												
教本:					参考文献: 適時指示する。															
授業ごとにプリントを配布する。																				
成績評価の方法、評価基準:																				
平常点(20%)、小テスト等(80%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
3名の担当教員で行うオムニバス授業のため講義形式、実施順等の変更があることもある。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。各講義担当教員より伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習														
授業科目(英文)	体で遊ぶ(身体表現) (Physical Expression)						科目分類	専門科目															
担当教員	水原佐和子																						
履修条件	前提科目 その他	特になし 運動をするにあたり、教員に知らせておきたい持病や怪我等がある場合は、事前に申告してください																					
授業概要: 領域「表現」のねらい、及び身体表現の指導に関する幼児の表現や発達段階、身体能力について理解するとともに、幼児の多様な身体表現・遊び・環境構成の在り方など、保育者を志す学生に求められる専門的知識や表現力を身に付ける。																							
授業目標: 保育者を目指す学生の身体表現力を高めるとともに、現場で活かせる身体表現活動に関する、基礎知識や技能の理解・習得を目指す。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態															
1	ガイダンス(・授業の目的を確認し、授業全体の見通しを共有する・ノートの作り方を確認する・簡単な準備運動を行う)				事前:シラバスを読んでおく 事後:目標を記録する			講義70分 実技20分															
2	領域「表現」について(・ねらいと内容の精読・身近な身体表現を自分自身、子どもの視点からディスカッションする)				事前:領域「表現」を読む 事後:振り返りを記録する			講義40分 グループワーク50分															
3	身体表現実技(・様々な歩き方~走り方、飛び方・思わず体が動かされてしまう刺激とは何か考え、感じ、実践する)				事前:子どもの歩き方を見る 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
4	遊びと身体表現(・手遊びや身体遊びを行い、体を小さく使う遊び、大きく使う遊びを発表する)				事前:遊び方の確認(1種類) 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
5	遊びと身体表現(・様々なじゃんけん遊びを行う・発達段階に即したじゃんけん遊びについて考え方合い、発表する)				事前:遊び方の確認(1種類) 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
6	遊びと身体表現(・童謡やわらべうたに合わせた様々な身体表現遊びを行う)				事前:遊び方の確認(1種類) 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
7	変身を楽しむ表現(・子どもの想像の世界について絵本を通じディスカッションする・動物ごっこや忍者ごっこ等、子どもならではの想像力豊かな遊びを行う) ※絵本持参				事前:関連する絵本を読む 事後:気づきを記録する			講義10分 グループワーク40分 実技40分															
8	縄・布の遊びと表現(・縄や布の様々な動きを通じ、物の特性に応じた身体の動きの幅を味わう)				事前:遊び方の確認(1種類) 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
9	保育者にふさわしい体づくり(・様々なリズムの動きを行い、リズミカルな刺激がもたらす身体感覚を味わう)				事前:視聴(からだダンダン) 事後:振り返りを記録する			講義20分 実技70分															
10	言葉遊びと身体表現(・絵本を手掛けたり動きを引き出すオノマトペとは何かディスカッションする・発表する) ※絵本持参				事前:言葉遊びの絵本を読む 事後:気づきを記録する			グループワーク50分 実技40分															
11	身体表現の作品創作(・ディスカッションを通じ題材を決定する・全体像の構想を練る)				事前:ノートを見返し復習 事後:必要な素材を準備する			講義20分 グループワーク70分															
12	身体表現の作品創作(・練習~発表をする・他学生の作品に参加する・感想や気づきを伝え合う)				事前:発表に向けた準備 事後:振り返りを記録する			実技60分 講義30分															
13	領域「表現」の内容を踏まえたパラバルーンの使い方を学ぶ				事前:特性について調べる 事後:扱い方の復習と記録			講義40分 実技50分															
14	領域「表現」の内容を踏まえた身近な素材との関わり(・「表現」に適した身近な素材の事例を出し合い、実技発表する)				事前:身近な素材を準備 事後:振り返りを記録する			講義20分 グループワーク70分															
15	保育者の役割と授業のまとめ:領域「表現」の視点から				事前:領域「表現」の再読 事後:記録の整理と振り返り			講義60分 討論30分															
教本: なし(適宜資料を配布)					参考文献: 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いずれも最新版)																		
成績評価の方法、評価基準: 授業参加状況等(50%)、表現創作と発表(30%)、記録レポート(20%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス: 主体的かつ積極的に参加する意欲、他者と協同する姿勢やコミュニケーション力が求められる。運動着と体育館シユーズ必須。																							
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	環境経営論 I (Environment Management I)						科目分類	専門科目																
担当教員	飯島 祥二																							
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																		
授業概要：																								
近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立つつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸にして「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系である。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																								
授業目標：																								
(1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 「持続可能観光」に関し環境マネジメントを通し理解する。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																								
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																			
		○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習、形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分																	
2	環境概念の変遷 (1) 「人間と環境の関係性について説明する」 (人間・環境系において)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
3	環境概念の変遷 (2) 「具体的に種々な環境について説明する」 (自然・社会環境領域において)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
4	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (1) (観光学の全体的枠組みについて)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
5	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (2) (旅行システムに関する考察)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
6	持続可能性の定義と各領域での応用 (1) (自然科学領域)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
7	持続可能性の定義と各領域での応用 (2) (社会・経済学領域)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
8	観光学における持続可能性の定義 (sustainable tourism の定義を巡って)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
9	持続可能観光と環境・観光マネジメント (1) (Eco tourism, Responsible tourism などを巡って)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
10	持続可能観光と環境・観光マネジメント (2) (観光行動「環境配慮行動等について」)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
11	持続可能観光と環境・観光マネジメント (3) (環境・観光マネジメント領域での課題)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
12	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (1) (観光行動、観光マーケティングを通して)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
13	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (2) (環境・観光マネジメントを中心)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
14	マスツーリズムとサステイナブルツーリズム (その対比と持続可能観光における意味)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分																	
15	まとめ				事前：今までの講義の復習 事後：講義全般的復習		前回の確認 10 分、講義 80 分																	
教本：		参考文献：																						
特に指定しない。毎回資料を配布する。		適時、指示する。																						
成績評価の方法、評価基準：																								
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス：																								
環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	環境経営論II (Environment Management II)					科目分類	専門科目							
担当教員	飯島 祥二			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸として「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系であり、講義は、「課題解決を目指すPBL的要素」を加えて実施する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。													
授業目標:	(1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 観光領域からの持続可能性へのアプローチを理解し各領域への応用力を涵養する。 (3) 持続可能性の評価について「評価システム」を通して理解する。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○○)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○○)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養									
○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	オリエンテーション				事前: シラバスの確認 事後: ノートを整理して復習			講義 90 分						
2	環境・観光マネジメントと持続可能性(1) (自然・工学領域)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
3	環境・観光マネジメントと持続可能性(2) (社会経済領域)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 80 分						
4	環境負荷とその課題(1) (わが国の環境科学の現状と課題)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
5	環境負荷とその課題(2) (国連会議、地球サミット等を通して)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
6	キャリング・キャパシティー(carrying capacity)について				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
7	持続可能観光という概念の誕生とその時系列的分析 (英国の事例を通して)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
8	持続可能観光における「持続可能性」に関する理論的根拠 (持続可能性という概念の理解を巡って)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 80 分						
9	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル(1) (観光目的地環境の発展・衰退等の時系列的分析)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
10	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル(2) (持続可能な環境・観光マネジメントへの応用と限界)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
11	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (観光学領域の側面から)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 80 分						
12	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (環境マネジメント領域の側面から)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
13	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例(1) (その具体的な事例:DIT-Acheiv Model等)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
14	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例(2) (多様な指標群のなかでの環境・マネジメントの役割と課題)				事前: 次回の予習 事後: ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分						
15	纏め				事前: 今までの講義の復習 事後: 講義全体の復習			前回の確認 10 分、講義 80 分						
教本:	参考文献: 指定しない。													
成績評価の方法、評価基準:	講義に際し適時、指示する。													
学生へのアドバイス:	平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。													
オフィスアワー:	環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。実践的内容を含みますので、今後の学修に役立ててください。													
初回講義日に伝える。														

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	環境(子どもと生活) (Environment (Children and Their Life))						科目分類	専門科目															
担当教員	野川 智子																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要:																							
幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領における「環境」の内容とその取扱いを理解し、子どもを取り巻く自然環境や人的環境が子どもの成長に影響を与えることから保育環境の在り方を考察する。また、野菜の栽培を通して成長、収穫、食する過程で植物の生命力を体験的に学ぶ																							
授業目標: 1. 領域「環境」のねらいや内容について理解する 2. 幼児の発達段階に応じた保育環境と子どもへの影響を理解する 3. 栽培活動に取り組み、自然環境をいかした保育方法を考察する																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態															
1	科目的概要・目標を理解し、見通しを持つ 環境の意義についての講義から理解を深める				事前:なし 事後:資料をノートにまとめる			講義(90分)															
2	幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領を読んで、「環境」のねらいと内容を理解する				事前:要領・指針の下読み 事後:一覧表に整理する			講義(45分) 討議(45分)															
3	自然環境、人的環境と幼児の関わりが育む非認知能力について学問的知見から理解を深める				事前:3章の下読みをする 事後:ノートに3章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
4	子どもの心身の発達(情緒、社会性等)の特徴と環境との関わりを乳児期、1~3歳未満、3歳以上の段階を追って理解する				事前:4章の下読みをする 事後:ノートに4章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
5	子どもの生活における3つの「間」や遊びの連続性と環境、学びを深める保育環境の在り方を考察する				事前:5章の下読みをする 事後:ノートに5章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
6	花や野菜の栽培を通して、自然に親しみながら命の尊さを実感する保育環境の在り方を考察する				事前:栽培法を調べる 事後:ノートに6章を整理する			講義(30分) 討議(60分)															
7	子どもが生活の中で数量や文字への興味をもつような教材の工夫や保育環境の作り方を考え、制作する				事前:教材を考える 事後:ノートに7章を整理する			講義(30分) 制作(60分)															
8	年間行事や季節の行事、地域の文化を取り入れた行事を保育環境とすることの意義を理解する				事前:8章の下読みをする 事後:ノートに8章を整理する			講義(30分) 討議(60分)															
9	現代の子どもを取り巻く情報機器(スマホ、タブレット)の実態をとらえ、保育への活用上の留意点を明らかにする				事前:9章の下読みをする 事後:ノートに9章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
10	環境を通しての学びにおける指導計画のあり方とその評価(PDCA)の意義を理解し、指導計画の例を学ぶ				事前:10章の下読みをする 事後:ノートに10章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
11	0~2歳児の保育における道具、遊具、自然環境とはどんなものを理解し、子どもに及ぼす影響を考察する				事前:道具、遊具の例を書き出す 事後:ノートに11章を整理する			講義(60分) 討議(30分)															
12	3~6歳児の保育における(言葉、体験)が子どもに及ぼす影響を考察し、発達を促す保育方法を理解する				事前:12章の下読みをする 事後:ノートに12章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
13	就学に向けて幼保小連携で進める接続期カリキュラムで幼稚園、小学校の双方の内容と必要性を理解する				事前:13章の下読みをする 事後:ノートに13章を整理する			講義(45分) 討議(45分)															
14	保育において特別な支援を必要とする子どもの理解と保育環境や活動参加への支援の方法を考察する				事前:ワークシートに予習する 事後:次の課題を調べる			講義(45分) 討議(45分)															
15	現代社会における環境問題(人間関係、自然、科学等)を調べてこれからの保育の在り方をレポートにする				事前:集めた資料の下読みをする 事後:完成レポートを提出する			講義(20分) 実習(70分)															
教本:コンパクト版保育内容シリーズ③「環境」					参考文献:適宜紹介、資料配布する																		
幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領																							
成績評価の方法、評価基準: 到達目標の達成度、レポート、定期試験を総合的に評価する 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス: 環境を通して成長する幼児にとって、保育者の役割は大きいものがあるのでしっかり学んでいこう。																							
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																							

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習					
授業科目(英文)	観光英語 I (English for Tourism I)					科目分類	専門科目							
担当教員	中村 文男			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	将来国内外の観光関係の仕事に携わることができることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、運用できるようにします。運用するには、受け身の学習では英語の運用力は身につきません。学生の皆さん自ら英語を運用し、間違え、それらを修正しながら英語の運用力を高める授業です。													
授業目標:	ツアーでなく単独で海外旅行ができる英語の運用力を身に着けることです。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養									
	○				○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	授業概要と評価の仕方及び英語の学び方について				事前:なし 事後:説明概要確認			演習説明50分アンケート20分質疑応答20分						
2	Unit 1 At the airport				事前:語彙確認 p 7 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
3	Unit 2 On the plane				事前:語彙確認 p 13 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
4	Unit 3 Arrival				事前:語彙確認 p 19 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
5	Unit 4 Checking in the hotel				事前:語彙確認 p 25 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
6	Unit 5 Getting information and sightseeing				事前:語彙確認 p 31 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
7	Unit 6 Ordering fast food				事前:語彙確認 p 37 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
8	確認テスト				事前:テスト準備 事後:テスト範囲の復習			テスト準備30分テスト60分						
9	Unit 7 Going to the theater				事前:語彙確認 p 43 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
10	Unit 8 At the restaurant				事前:語彙確認 p 49 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
11	Unit 9 Shopping				事前:語彙確認 p 55 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
12	Unit 10 Lost and found				事前:語彙確認 p 61 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
13	Unit 11 Using public transportation				事前:語彙確認 p 67 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
14	Unit 12 Renting bike				事前:語彙確認 p 73 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分リスニング30分						
15	確認テスト				事前:テスト準備 事後:テスト範囲の復習			テスト準備30分テスト60分						
教本:	参考文献: Enjoy Your Trip! 南雲堂 著者 竹内真澄 中井延美他 適宜紹介します。													
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(10%)、小テスト・レポート等(40%)、定期試験(50%)等で総合評価します。													
学生へのアドバイス:	英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、運用し間違いを犯すことが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通してスピーキングに慣れることができます。修得するための最初の一歩になります。													
オフィスアワー:	初回講義に説明します。													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習					
授業科目(英文)	観光英語 II (English for Tourism II)					科目分類	専門科目							
担当教員	中村 文男			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	将来、国内外のホテルや旅行代理店、航空関連などの観光関係の仕事に携わることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、基本的な英語の運用ができるようにする授業です。													
授業目標:	観光業務を遂行するために必要とする基本的な英語の運用ができるようにすることが目標です。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			○	学びに向かう力・人間性の涵養									
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	授業概要と評価の仕方及び英語の学び方について				事前:なし 事後:説明概要確認			演習説明50分アンケート20分質疑応答20分						
2	Unit 1 北海道(Hokkaido)				事前:語彙確認 p 5 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
3	Unit 2 京都(Kyoto)				事前:語彙確認 p 11 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
4	Unit 3 湯布院(Yufuin)				事前:語彙確認 p 17 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
5	Unit 4 沖縄(Okinawa)				事前:語彙確認 p 23 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
6	Unit 5 シンガポール(Singapore)				事前:語彙確認 p 29 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
7	Unit 6 バリ(Bali, Indonesia)				事前:語彙確認 p 35 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
8	確認テスト				事前:テスト準備 事後:テスト範囲の復習			テスト準備30分 テスト60分						
9	Unit 7 シドニー(Sydney, Australia)				事前:語彙確認 p 41 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
10	Unit 8 ハワイ(Hawaii, the USA)				事前:語彙確認 p 47 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
11	Unit 9 ロンドン(London, the UK)				事前:語彙確認 p 53 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
12	Unit 10 フランス(France)				事前:語彙確認 p 59 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
13	Unit 11 ヨーロッパの美術館(Museum in Europe)				事前:語彙確認 p 67 事後:復習 口頭65			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
14	Unit 12 ニューヨーク(New York, the USA)				事前:語彙確認 p 71 事後:復習 口頭練習			語彙20分口頭練習40分 リスニング30分						
15	確認テスト				事前:テスト準備 事後:テスト範囲の復習			テスト準備30分 テスト60分						
教本:	参考文献: English for Tourism 101 南雲堂 著者 津田 晶子 クリストファー・ヴァルヴォナ 岩本弓子													
成績評価の方法、評価基準:	適宜紹介します。													
授業参加状況等(10%)、小テスト・レポート等(40%)、定期試験(50%)等で総合評価します。														
学生へのアドバイス:	英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、英語を実際に運用し間違いをすることが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通して英語のスピーキングに慣れることができます。													
オフィスアワー:	初回講義に説明します。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習							
授業科目(英文)	観光概論 (Introduction to Tourism)					科目分類	専門科目									
担当教員	古賀 学			授業概要：												
履修条件	前提科目	なし	その他の履修条件	なし	授業概要：	観光学の体系、観光の成立要因と各要因の関係性、観光を学ぶために必要な用語とその意味・定義、観光の波及効果など、観光学の体系と観光の基礎につき修得する。										
授業目標：	①観光を深く学ぶために必要な基礎知識を修得する。 ②観光に関する語句を理解する。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）															
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○				○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態									
1	観光学の体系：観光学を構成する学問体系と松蔭大学が目指す観光教育のあり方について修得する。			事前：専門科目について理解する 事後：自己の観光における学習体系を考察する。			ガイダンス・講義 60分、能力テスト 30分									
2	観光の定義と構造：観光及び観光産業の特性について理解し、観光の定義について理解する。			事前：言語としての観光について考究する。 事後：観光の構成要因について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
3	観光行動の成立要因と実現：観光の各発生要因の詳細及び発生の歴史的経緯を理解することにより、観光の実現化要因について観光行動の特性を理解する。また、観光ルート・コースについても理解する。			事前：自身がなぜ観光するのかについて考究する。 事後：観光という現象がなぜ起こるのかを整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
4	観光客：観光の市場について、その分類と特徴、市場の変化について理解することにより、観光客の定義と特性について習得する。			事前：観光客とは何かについて考究する。 事後：観光とは何かについて整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
5	観光旅行形態：マス・ツーリズム、体験型観光旅行、リゾート、ニューツーリズムなど旅行の変遷と形態について、その特徴について修得する。			事前：観光とリゾートの違いについて考究する。 事後：今後より良き観光旅行形態について考察する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
6	ユニバーサル・ツーリズム：すべての人のための旅行環境の構築について学修する。			事前：ユニバーサルデザインについて学修する。 事後：Tourism for Allについて探求する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
7・8	観光資源：観光資源の定義、種類及び地域資源、観光資源、観光対象、観光商品の差異・変化、観光資源の価値評価等について修得する。			事前：観光の目的となるモノ・コトについて考究する。 事後：地域資源の観光資源化について事例検証を行う。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
9	温泉資源：温泉資源の特性及び利活用と観光資源としての活用について温泉法及び温泉観光地の事例から学習する。			事前：温泉法を理解する。 事後：温泉の地域資源としてのあり方を考察する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
10・11	観光地：観光の目的地である観光地の空間構造及び変容について理解し、観光地のあるべき姿について修得する。			事前：どのような観光地があるのかを考究する。 事後：観光地の種類について体験的整理を行う。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
12	観光施設：観光客の目的対象、資源の補完、利便化等の役割を果たす観光資源の種類、特徴、集客力などの原単位、役割等について修得する。			事前：観光施設の事例について考究する。 事後：観光施設の役割について再考する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
13	宿泊施設：宿泊施設のISOによる定義・目的分類・部屋分類・料金分類及び日本における宿泊施設の許認可、サービスの内容等について修得する。			事前：経験から宿泊施設の問題点を考究する。 事後：今後の宿泊施設のあり方について再考する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
14	観光関連組織：行政、観光協会、民間観光関連事業者、地域住民など観光に関する関連組織の特徴、事業内容、関連等について修得する。			事前：観光行政の政策内容について考究する。 事後：自身が目指すべき組織について考察する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
15	観光波及効果：観光現状における社会、地域、組織、住民等に与える影響について考察し、より良き観光振興の目指すべき方向について修得する。			事前：観光により発生する負の効果について考究する。 事後：観光のより良き効果の増大について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度チェック 10分									
教本：	参考文献： テキストは授業ごとにプリントを配布する。															
成績評価の方法、評価基準：	適宜指示する。 定期試験及び平常点を加味する。															
学生へのアドバイス：	観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。すべての内容を理解し、自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。															
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。															

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光経営論 (Tourism Management)					科目分類	専門科目																			
担当教員	夏目 千恵子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
観光産業の全体像を経営学の枠組みと理論に基づいて概観し、観光経営の基礎について学びます。																										
授業目標:																										
・観光経営に関する理論について説明できること ・さまざまな観光関係の事業体の現状と課題について理解し、説明できること																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション 観光経営の基礎					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義																		
2	観光政策・行政と観光まちづくり					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
3	観光行動と観光市場					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
4	旅行産業経営—旅行業の近未来					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
5	観光産業の人的資源管理と接遇と顧客満足					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
6	交通産業経営					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
7	ICT 革命と観光産業					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
8	宿泊産業経営とホテルアセットマネジメント					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
9	外食産業経営と集客戦略					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
10	博物館と美術館					事前：テキストの通読 事後：課題への対応		講義 40分 グループワーク 50分																		
11	発表会①					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分 グループワーク 50分																		
12	発表会②					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分																		
13	発表会③					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分																		
14	発表会④					事前：発表資料の通読 事後：理解の補完		発表 40分、討論 30分 講義 20分																		
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義																		
教本：					参考文献：																					
岡本伸之『観光経営学 よくわかる観光学1』朝倉書店					なし																					
成績評価の方法、評価基準：																										
定期試験 (60%)、レポートおよび小テスト (20%)、平常点 (20%)。到達目標が達成できたかを評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
これからの観光経営について考えていきましょう。																										
オフィスアワー：																										
月曜日の昼休み。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光産業論 (Tourism Industry)					科目分類	専門科目																			
担当教員	飯島 祥二																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。まず、観光産業の「観光領域での位置づけ」と各々の観光産業の事例と特徴を説明する。そして、「観光産業が扱う旅行（観光）商品の特性」について具体的に説明をする。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																										
授業目標:																										
(1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的内容を理解する。 (3) 観光産業に関わる観光商品の特性を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>																								
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義 90 分																		
2	観光産業の特徴とその定義				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
3	観光学の中での観光産業の位置づけ (1) (需要・供給関係を主題に : Leiper(1990))				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
4	観光学の中での観光産業の位置づけ (2) (旅行システム論を通して : Mill & Morrison(1985))				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
5	市場（需要サイド）における観光産業 (具体的な事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
6	輸送（移動）における観光産業 (具体的な事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
7	観光目的地（供給サイド）における観光産業 (1) (具体的な事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
8	観光目的地（供給サイド）における観光産業 (2) (具体的な事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 50 分、プレゼンテーション 30 分																		
9	観光産業における旅行商品の一般的特徴 (無形性、不均質性等)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
10	観光産業に関わる旅行商品の特性 (1) (Tourism product の属性の束的性格)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
11	観光産業に関わる旅行商品の特性 (2) (Tourism product の 4 つの側面：アトラクション、設備、輸送、ホスピタリティ)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
12	旅行商品のライフサイクルモデルと観光産業 (ライフサイクル論の応用 : Ryan(1991)の理解)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
13	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (1) (旅行商品の特性に関して)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分																		
14	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (2) (需要側、供給側等の対比を通して)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10 分、講義 50 分、プレゼンテーション 30 分																		
15	纏め				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			前回の確認 10 分、講義 80 分																		
教本:																										
教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。					参考文献: 適時指示する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、具体的な内容を丁寧に説明する。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	観光社会学 (Sociology of Tourism)					科目分類	専門科目							
担当教員	古賀 学			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これから社会における観光の役割と方向を探求する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。													
授業目標:	1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得													
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養											
	○		○											
授業計画、事前学習・事後学習、形式														
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。				事前: 観光社会学Ⅰの復習 事後: 余暇の現状について資料収集			ガイダンス・講義90分						
2	例【コロナ禍と観光の復権】コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
3・4	例【地方鉄道を考える】鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
5	例【ミッションアプリ「ディグ】】日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、ディスカッション60分						
6	例【観光産業復調と雇用】with coronaにおける観光産業の復調と雇用の現状を考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
7	例【宿泊施設の今後の在り方】宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
8	例【酒と観光】日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
9・10	例【観光とSDGs】SDGsにおける観光の役割について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、ディスカッション60分						
11・12	例【観光DMO】観光地運営の中核的役割を果たす観光DMOの現状と課題について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
13	例【キャンプの変容】キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
14	例【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
15	例【観光地の変容】コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。				事前: 出題課題への対応 事後: ニュースに关心を持つ			復習10分、講義70分、理解度テスト10分						
教本:	各講義毎のプリントを使用													
参考文献:	その都度適宜紹介													
成績評価の方法、評価基準:	授業参加及び授業態度等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等に关心を持つこと。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光社会学 I (Sociology of Tourism I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	古賀 学																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これから社会における観光の役割と方向を探求する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。																										
授業目標：																										
1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
◎			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。				事前：観光社会学 I の復習 事後：余暇の現状について資料収集			ガイダンス・講義90分																		
2	例【コロナ禍と観光の復権】コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
3・4	例【地方鉄道を考える】鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
5	例【ミッションアプリ「ディグ】】日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、ディスカッション60分																		
6	例【観光産業復調と雇用】with coronaにおける観光産業の復調と雇用の現状を考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
7	例【宿泊施設の今後の在り方】宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
8	例【酒と観光】日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
9・10	例【観光とSDGs】SDGsにおける観光の役割について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			講義30分、ディスカッション60分																		
11・12	例【観光DMO】観光地運営の中核的役割を果たす観光DMOの現状と課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
13	例【キャンプの変容】キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
14	例【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深堀り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
15	例【観光地の変容】コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。				事前：出題課題への対応 事後：ニュースに关心を持つ			復習10分、講義70分、理解度テスト10分																		
教本： 各講義毎のプリントを使用		参考文献： その都度適宜紹介																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等に关心を持つこと。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	観光社会学Ⅱ (Sociology of Tourism Ⅱ)					科目分類	専門科目								
担当教員	古賀 学			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	これまでの観光の潮流及び観光社会の今を踏まえて、現代社会における観光の役割・責任を探求する。														
授業目標:	1. 観光が社会にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。 2. 観光関連のニュース等情報から観光の現状と今後を考察する能力を培う。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得														
	○		思考力・判断力・表現力の育成		○										
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	観光社会学の体系：観光社会学における社会と観光との関係の体系について学修する。			事前：観光社会学Ⅰの復習 事後：社会における関連事象について深掘り			ガイダンス・講義90分								
2	観光の社会における波及効果：観光が社会に与える影響及び社会の変化における観光のあり方等について学修する。			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
3・4	観光社会の今：観光庁「観光白書」を元に、観光施策の現状について理解する。			事前：観光白書の既読 事後：観光施策のあり方の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
5・6	余暇社会と観光：余暇社会の変遷と観光への影響について休暇制度等を踏まえ学修する。 ・仕事と余暇との関係 ・余暇活動の変遷 ・余暇活動における観光の位置づけ			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
7・8	持続可能な観光と社会：持続可能な観光振興のあり方について学修する。 ・社会におけるSDGsの今日的位置づけ ・SDGsの活動における観光の果たすべき役割			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
9・10	観光とリスクマネジメント：リスクマネジメントの意味、観光と災害等との関係及び旅行業を始め観光産業におけるリスクマネジメントについて学修する。 ・リスクマネジメントと観光 ・旅行業等観光産業とリスクマネジメント			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
11・12	負の遺産と地域社会：人災・自然災害など災害の残した負の遺産のあり方について考察する。			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
13・14	コミュニティ社会と観光：地域におけるコミュニティ形成の目的・必要性及び現在の社会環境におけるコミュニティの内容、観光振興との関連等について学修する。			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			各講義：復習10分、講義70分、理解度テスト10分								
15	観光振興の社会における課題と今後：これから観光と社会におけるより良き関係について考える。			事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			講義：復習60分、講義30分								
教本：	参考文献： 各講義時に配布														
成績評価の方法、評価基準：	参考文献： 講義時に適宜紹介														
授業参加及び授業態度等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。															
学生へのアドバイス：	今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等により情報収集及び真意の深堀をしておくこと。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。														

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	観光情報論 (Tourism Informatics)					科目分類	専門科目					
担当教員	飯島 祥二			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要:	当該授業は、観光領域での課題解決における情報系手法やその考え方の重要性を説明し、多様な計量的な手法の事例を紹介する。そして、観光実務や観光研究における情報システムの有用性を示唆し、今後の学修に役立てることを目的とする。主に、旅行者心理学・モチベーションの領域を基軸に観光行動・マーケティングへの基礎的考察を提示する。当該講義は、問題解決に際し「質問票調査」等の「実習」を予定している。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。											
授業目標:	①観光学における「情報系領域」の有用性を理解する。 ②観光系領域の学習において情報系知識（計量的手法）の重要性を理解する。 ③観光行動、観光心理学領域における計量的手法の事例を理解する。											
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要な○○）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要な○○）											
授業回数	知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養					
	○			○								
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態					
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習	講義 90 分					
2	観光領域における情報系研究領域の役割 (観光学の枠組みを通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
3	観光領域における情報系研究領域の役割（需要一供給、日常・非日常、居住地・目的地等の二面性を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
4	旅行目的地の選択過程における観光情報（1） (旅行者意思決定プロセス・モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
5	旅行目的地の選択過程における観光情報（2） (旅行目的地選択モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
6	旅行目的地の選択過程における観光情報（3） (Witt & Wright の期待理論値モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
7	④-⑥に関わる纏めとディスカションと今後の展望 (旅行者モチベーションの多様性(冒險一リラックスの軸など)を含め、分析手法等を紹介する)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 30 分、 ディスカション 50 分					
8	アトラクションの認知とその総合的理解（1） (モチベーションからのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
9	アトラクションの認知とその総合的理解（2） (プロモーションからのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
10	アトラクションの認知とその総合的理解（3） (観光行動からのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
11	環境学と情報学（1） (人間・環境系からの視点)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
12	環境学と情報学（2） (環境計画[観光地計画]からの視点)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
13	マーケティングと情報（1）「個人差の抽出」 (レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングによる検討の説明)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分					
14	マーケティングと情報（2）「各環境要素の抽出」 (レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングと環境認識についての説明)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認 10 分、講義 40 分、 実習 40 分					
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習	前回の確認 10 分、講義 80 分					
教本:	参考文献: 指定しない。資料を配布する。 適時指示する。											
成績評価の方法、評価基準:	成績評価の方法、評価基準: 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	学生へのアドバイス: 観光学に関する情報系領域の重要性を説明し、基礎的な内容を具体的に丁寧に説明する。											
オフィスアワー:	オフィスアワー: 初回講義日に伝える。											

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	観光と法 (Tourism and Law)					科目分類	専門科目													
担当教員	福島 崇宏																			
履修条件	前提科目	法学または法の性格と役割																		
	その他	なし																		
授業概要：																				
東京オリンピック・パラリンピックの開催や外国人観光客の急激な増加などに伴い、インバウンドビジネスが急速に拡大している。そのような中で民泊やIR（統合型リゾート）など私たちの身边では新たな法制度をめぐるさまざまな問題が生じている。本授業では、このような観光に関して身近に起きる法律問題と共に考える機会を提供する。																				
授業目標：																				
1. 社会調査結果の読み方と観光関連指標について理解する。 2. 場所に記憶されたもの（宗教、戦争、災害等）と観光との関わりと、社会における観光の意義についての理解を深める。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。				事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
2	インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。				事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
3	インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。				事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
4	観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。				事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
5	旅行業と法（1） ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。				事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
6	旅行業と法（2） ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。				事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
7	宿泊事業と法（1） ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。				事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
8	宿泊事業と法（2） ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。				事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
9	移動・交通手段と法（1） ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。				事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
10	移動・交通手段と法（2） ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。				事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
11	集客と法（1） ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。				事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
12	集客と法（2） ・集客に関する個別の法律問題を考える。				事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
13	観光資源の保護・活用と法（1） ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。				事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
14	観光資源の保護・活用と法（2） ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。				事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
15	まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。				事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分												
教本：					参考文献：															
高橋一夫、柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎、2016年。					森・濱田松本法律事務所観光法プラクティスグループ編『ガイドンス インバウンド・観光法』商事法務、2019年。															
成績評価の方法、評価基準：																				
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、期末試験（50%）で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
社会の中で観光と法がどのように結びついているのかについて、日頃から新聞や報道等で取り上げられている事件や事故を基に主体的に考える習慣をつけることが大切です。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光文化史 (History of Tourism Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	飯島 祥二																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要 :																										
歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を説明し、現代の実務的課題や研究方法に向けての新しい糸口を検討するための有益な視点を提供する。現在の観光学において、「旅行行動機」、「旅行者の類型化」等の領域で有用な視点が提出されており、これらの成果を観光史の観点から考察することにより、今後の学修に有用な視点を提供する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																										
授業目標 :																										
(1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史の理解を通して、現在の観光現象に対する有用な知見の理解を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション：授業の進め方や内容の説明を実施し、オリエンテーションを実施。				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義90分																		
2	観光史の概要 (観光史の歴史的変遷の俯瞰：歴史年表を通して)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
3	旅の歴史の観光学における位置づけと意義 (観光学の体系性の中での観光史の意味、Cohen(1974)の概念ツリー [旅行者の特徴と規定] に関する考察)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義60分、ディスカション20分																		
4	旅の歴史のマクロ的アプローチ (1) (Smith(1992)の「巡礼者—旅行者(聖から俗)」のパスについて)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
5	旅の歴史のマクロ的アプローチ (2) (Cohen(1979)の「創始期巡礼、伝統的巡礼、マス観光」の対比)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
6	旅の歴史のマクロ的アプローチ (3) (近代における旅行特性の変化：TravellerとTourist : Boorstin(1962)による)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
7	旅の歴史のマクロ的アプローチ (4) (わが国における昭和初期における「旅」から「旅行」への変遷)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義60分、小レポート10分																		
8	前回まで (講義前半) の纏めと、総合的ディスカション				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義30分、ディスカション50分																		
9	旅行者のモチベーション研究と観光史 (1) (Pearce(1982)：観光史におけるモチベーションの類型)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
10	旅行者モチベーション研究と観光史 (2) (モチベーション論から観光史へのアプローチ)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
11	観光史における旅行者類型論的分析 (1) (「共時的」と「通時的(歴史的)」との関係性)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
12	観光史における旅行者類型論的分析 (2) (旅行者類型論からの観光史へのアプローチ)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義60分、ディスカション20分																		
13	事例分析：「観光文化史」の一次資料の分析 (1) 「江戸期の美術作品を通して」				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
14	事例分析：「観光文化史」の一次資料の分析 (2) 「江戸期の文学作品を通して」				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分																		
15	当該講義の纏め、およびディスカション				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			講義60分、ディスカション30分																		
教本：					参考文献：																					
授業ごとにプリントを配布する。					適時指示する。																					
成績評価の方法、評価基準：																										
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
共時的観光の理解も難しいが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	観光文化論 (Tourism and Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	古賀 学																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
観光と文化(社会)の様々な関係について、観光客という視点から観光活動の現状や歴史的な経緯、各種文化の特性等を踏まえて、よりよき観光文化形成のあり方について探求する。前半は時系列からみた観光文化の変容、後半は観光空間の整備による観光文化の変容について学修する。																										
授業目標：																										
①観光客の行動特性、観光の効果について習得する。 ②観光文化の変容形態とその要因について習得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態																			
1	観光文化論の構成：観光文化論の内容及び他観光学における位置づけと関連について学修する。			事前：観光文化論の体系を理解する。 事後：観光文化の学ぶべき点について整理する。			ガイダンス・講義 80分																			
2	観光と文化：観光及び文化、そして観光文化の意味について理解する。			事前：文化とは何かについて調査する。 事後：観光文化とはについて整理する。			復習 10分、講義 70分																			
3・4	江戸における対州の旅の形成：江戸時代における旅の大衆化と、その目的となった宗教の旅と保養療養の旅について学修する。			事前：江戸時代の旅について調査する。 事後：温泉と宗教の旅について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分																			
5	明治の観光文化の形成の変容とキーワード：明治時代における西洋文化の流入による新たな観光活動の形成について学修する。			事前：明治時代の観光の歴史を学修する 事後：観光活動の発生と現在を比較検討する。			復習 10分、講義 70分																			
6	大正時代の観光文化の変容とキーワード：明治時代を黎明期とすると大正時代は醤油(うんじょう)期であるともいえる。また、大正モダンなどともいえあれ洋風文化が浸透し始めてくる。			事前：大正ロマンについて学修する。 事後：横浜観光と大正ロマンについて検証する。			各回：復習 10分、講義 70分																			
7	昭和戦前の観光文化の変容とキーワード：昭和元年から第2次世界大戦前までの観光関連史である。観光行政の台頭とそれに伴う観光関連組織の形成などが行われた。また、自然公園行政及び法の確立により、各地で国立公園が指定された。			事前：昭和の観光史について学修する。 事後：観光の組織や法律を理解する。			各回：復習 10分、講義 70分																			
8～10	昭和戦後から現代の観光文化の変容とキーワード：第2次世界大戦復興期における新たな観光の発生、高速交通体系の整備、行政、観光協会等観光関連組織の変遷、新全国総合開発計画による大規模開発やリゾート法の制定など観光を取り巻く環境の変化について学修する。			事前：昭和の観光史について学修する。 事後：戦前と戦後の観光文化の変遷について比較検討する。			復習 10分、講義 70分																			
11～15	地域における観光文化の形成：都市、農山村、自然地、温泉地など地域における観光空間の整備と観光文化の形成について学修する。松江市、高柳町、富士河口湖町、箱根などを予定。			事前：観光地形成の事例について学修する。 事後：地域における観光空間の鷲尾及びより良き観光文化の形成について学修する。			11回：手順の解説 20分、講義 70分 12～14回：復習 10分、講義 80分 15回：復習 60分、ディスカッション 30分																			
教本：					参考文献： 適宜指示する。																					
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。																										
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光マーケティング論 (Tourism Marketing)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 1回目にチーム編成をします。1回目から出席してください。																										
授業概要: 社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県県央地域の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。																										
授業目標: 本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	神奈川県県央地域の地域資源をサービスマーケティング思考で考える				事前：精読（3-13） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
2	誘致誘客からマーケティングへ				事前：精読（23-36） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
3	観光のブランドづくりとは				事前：精読（37-46） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
4	強いブランドを生む				事前：精読（47-58） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
5	イメージが浮かばなければ選ばれない				事前：精読（59-72） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
6	ブランドと地名の違い				事前：精読（73-80） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
7	地域の尖りを考える				事前：精読（81-96） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
8	何かで一番になろう				事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
9	強いブランド				事前：精読（111-125） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
10	地域の引力				事前：精読（127-142） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
11	食によるブランド				事前：精読（143-169） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
12	ブランドづくりの6ステップ				事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
13	観光立国について考える、質の観光という発想				事前：精読（193-222） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分																		
14	神奈川県県央地域の観光に関するワールドカフェ				事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成			ワールドカフェ90分																		
15	持続可能な観光の実現、グループ発表				事前：精読（223-251） 事後：テスト準備			発表70分 講義20分																		
教本： 『観光ブランドの教科書』（日本経済新聞出版社）																										
参考文献： 神奈川県観光地図																										
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 神奈川県県央地域の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	観光マーケティング論 I (Tourism Marketing I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 1回目にチーム編成をします。1回目から出席してください。																										
授業概要: 社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県県央地域の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。																										
授業目標: 本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	神奈川県県央地域の地域資源をサービスマーケティング思考で考える				事前：精読（3-13） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
2	誘致誘客からマーケティングへ				事前：精読（23-36） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
3	観光のブランドづくりとは				事前：精読（37-46） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
4	強いブランドを生む				事前：精読（47-58） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
5	イメージが浮かばなければ選ばれない				事前：精読（59-72） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
6	ブランドと地名の違い				事前：精読（73-80） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
7	地域の尖りを考える				事前：精読（81-96） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
8	何かで一番になろう				事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
9	強いブランド				事前：精読（111-125） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
10	地域の引力				事前：精読（127-142） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
11	食によるブランド				事前：精読（143-169） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
12	ブランドづくりの6ステップ				事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
13	観光立国について考える、質の観光という発想				事前：精読（193-222） 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分																			
14	神奈川県県央地域の観光に関するワールドカフェ				事前：精読（171-191） 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ90分																			
15	持続可能な観光の実現、グループ発表				事前：精読（223-251） 事後：テスト準備		発表70分 講義20分																			
教本： 『観光ブランドの教科書』（日本経済新聞出版社）																										
参考文献： 神奈川県観光地図																										
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 神奈川県県央地域の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	観光マーケティング論II (Tourism Marketing II)						科目分類	専門科目												
担当教員	鈴木 秀顕																			
履修条件	前提科目	観光マーケティング論I (未取得者は相談してください)			その他	グループワーク中心の講義になります。事前準備をしっかりしておいてください。														
授業概要:																				
観光を基軸としたマーケティングにおいては、観光客目線のほか、行政目線での考え方を理解しておくことも大切である。本講義では、行政目線による観光を知り、ディスカッションで理解を深め、かつ自分事として考え、Webメディア「あつぎ学」を作り発表する。																				
授業目標:																				
行政から見た観光を理解し、自分ごととしての思考を身につける。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	今、地域は景観形成に何を求めているのか（グループディスカッション）				事前：精読①（1-7） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
2	魅力的な景観形成の理念（グループディスカッション）				事前：精読①（10-25） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
3	魅力的な景観形成の戦略（グループディスカッション）				事前：精読①（28-47） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
4	人を呼び込む景観まちづくりの技法（グループディスカッション）				事前：精読①（50-95） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
5	「まち」を読み解く視点 事例：江の島（グループワーク、発表）				事前：精読①（98-132） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
6	観光と観光産業（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（10-39） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
7	地域威儀と観光資源の活用（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（40-74） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
8	地域ブランド戦略（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（75-111） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
9	観光と文化・環境問題と資源（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（112-137） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
10	事例：門司港（グループワーク、発表）				事前：精読①（133-165） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
11	事例：湘南C-X・事例：長浜（グループワーク、発表）				事前：精読①（166-229） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
12	事例：岩瀬・足守（グループワーク、発表）				事前：精読①（230-257） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
13	事例：湘南鶴沼（くげぬま）・小布施（グループワーク、発表）				事前：精読①（258-290） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
14	地方政府の時代における「景観まちづくり」の課題と展望（ディスカッション、発表）				事前：精読①（304-320） 事後：議論レポートの作成			講義30分 ディスカッション60分												
15	「あつぎ学」発表会				事前：発表準備 事後：テスト準備			発表70分 講義20分												
教本：					参考文献：															
①『人を呼び込むまちづくり』（ぎょうせい）					『自治体職員のための観光政策立案必携』（第一法規）															
②『観光コーディネート学』（日本販路コーディネータ協会出版局）																				
成績評価の方法、評価基準：																				
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
グループワーク中心の講義になります。各自がしっかり準備をして講義に臨むようにしてください。また、Webメディア「あつぎ学」は公開します。学生ならではのアイデアを出せるよう、しっかり講義に臨んでください。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	韓国語 I (Korean I)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	南 春英																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
韓国語を初步から学習する。まず、韓国語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいく。																										
授業目標:																										
韓国語の文字(=ハングル)を読み、書けるようにすること、基本的な語彙を習得すること、基本的な文法をマスターすることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	ガイダンス&韓国語の概要について説明する。 基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:なし 事後:母音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
2	基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:母音字を暗記する 事後:母音字と单語を暗記する			講義30分 演習60分																		
3	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄱ」から「ㅁ」まで				事前:母音字を暗記する 事後:子音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
4	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㅂ」から「ㅎ」まで				事前:子音字を暗記する 事後:子音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
5	子音字の激音形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:子音字を確認する 事後:激音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
6	子音字の濃音の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:子音字を確認する 事後:濃音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
7	中間試験				事前:復習する 事後:パッチムを予習する			講義30分 演習60分																		
8	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <k型>から<p型>まで				事前:激音と濃音字を暗記する 事後:パッチムを暗記する			講義60分 演習30分																		
9	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <m型>から<l型>まで				事前:パッチムを暗記する 事後:復習する			講義60分 演習30分																		
10	合成母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:合成母音字を予習する 事後:合成母音字を暗記する			講義60分 演習30分																		
11	発音変化の仕組みについて説明をし、発音の練習を行う。				事前:合成母音字を暗記する 事後:例を読み込んで暗記する			講義60分 演習30分																		
12	挨拶の言葉を紹介し、読み書きの練習を行う。				事前:発音の変化を暗記する 事後:挨拶の言葉を暗記する			講義60分 演習30分																		
13	発音と会話練習				事前:母音字と子音字の復習をする 事後:会話練習を行う			講義30分 演習60分																		
14	発音と会話試験				事前:挨拶の言葉と配布文章を暗記する 事後:全体の語彙を暗記する			講義30分 演習60分																		
15	全体の復習をする。 筆記試験を行う。				事前:1学期の内容をまとめる 事後:なし			演習30分 試験60分																		
教本:					参考文献:																					
「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義・演習																																																																
授業科目(英文)	韓国語 II (Korean II)					科目分類	基礎科目																																																																		
担当教員	南 春英																																																																								
履修条件	前提科目 その他	韓国語 I 韓国語を母語としないこと。韓国語文字の読み書きができること。																																																																							
<p>授業概要：</p> <p>春学期に引き続き、韓国語の基本的な文法を学習する。また、実際の会話でよく使う表現文型を紹介する。</p>																																																																									
<p>授業目標：</p> <p>基本的な文法と語彙をさらに習得し、簡単な文の読み書きができる目標とする。</p>																																																																									
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○																																																											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
○	○																																																																								
<p>授業計画・事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の内容を復習する。</td><td>事前：前期の内容を復習する 事後：前期の内容を復習する</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>2</td><td>単語と「～は」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：配布した単語を予習する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義60分 演習30分</td></tr> <tr><td>3</td><td>「～です／～ですか」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義60分 演習30分</td></tr> <tr><td>4</td><td>単語と「～です（か）」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>5</td><td>漢数字を覚え、練習を行う。</td><td>事前：配布の課題を行う 事後：漢数字を暗記する</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>6</td><td>単語と「～が」「誰」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：漢数字を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>7</td><td>「～ではありません」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト</td><td>事前：単語と文法を暗記する 事後：語彙の発音練習する</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>9</td><td>単語と「～に」、固有数字を覚え、練習を行う。</td><td>事前：漢数字を確認する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>10</td><td>「あります（います）／ありません（いません）」を覚え、練習を行う。</td><td>事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>11</td><td>単語と「～の」「何」を覚え、練習を行う。 曜日と助詞「と」「から」「まで」を使った文章作りを行う。</td><td>事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>12</td><td>固有数字を覚え、練習を行う。</td><td>事前：固有数字を確認する 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>13</td><td>発音と会話練習</td><td>事前：発音の練習をする 事後：配布の課題を行う</td><td>講義30分 演習60分</td></tr> <tr><td>14</td><td>発音と会話テスト</td><td>事前：第1～5課の本文を暗記する 事後：全体の語彙と文法を暗記する</td><td>演習90分</td></tr> <tr><td>15</td><td>全体を復習する。 テストを行う。</td><td>事前：1学期の内容をまとめる 事後：なし</td><td>演習30分 テスト60分</td></tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	前期の内容を復習する。	事前：前期の内容を復習する 事後：前期の内容を復習する	講義30分 演習60分	2	単語と「～は」を覚え、練習を行う。	事前：配布した単語を予習する 事後：配布の課題を行う	講義60分 演習30分	3	「～です／～ですか」を覚え、練習を行う。	事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義60分 演習30分	4	単語と「～です（か）」を覚え、練習を行う。	事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	5	漢数字を覚え、練習を行う。	事前：配布の課題を行う 事後：漢数字を暗記する	講義30分 演習60分	6	単語と「～が」「誰」を覚え、練習を行う。	事前：漢数字を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	7	「～ではありません」を覚え、練習を行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	8	中間テスト	事前：単語と文法を暗記する 事後：語彙の発音練習する	講義30分 演習60分	9	単語と「～に」、固有数字を覚え、練習を行う。	事前：漢数字を確認する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	10	「あります（います）／ありません（いません）」を覚え、練習を行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	11	単語と「～の」「何」を覚え、練習を行う。 曜日と助詞「と」「から」「まで」を使った文章作りを行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	12	固有数字を覚え、練習を行う。	事前：固有数字を確認する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	13	発音と会話練習	事前：発音の練習をする 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分	14	発音と会話テスト	事前：第1～5課の本文を暗記する 事後：全体の語彙と文法を暗記する	演習90分	15	全体を復習する。 テストを行う。	事前：1学期の内容をまとめる 事後：なし	演習30分 テスト60分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																						
1	前期の内容を復習する。	事前：前期の内容を復習する 事後：前期の内容を復習する	講義30分 演習60分																																																																						
2	単語と「～は」を覚え、練習を行う。	事前：配布した単語を予習する 事後：配布の課題を行う	講義60分 演習30分																																																																						
3	「～です／～ですか」を覚え、練習を行う。	事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義60分 演習30分																																																																						
4	単語と「～です（か）」を覚え、練習を行う。	事前：単語を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
5	漢数字を覚え、練習を行う。	事前：配布の課題を行う 事後：漢数字を暗記する	講義30分 演習60分																																																																						
6	単語と「～が」「誰」を覚え、練習を行う。	事前：漢数字を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
7	「～ではありません」を覚え、練習を行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
8	中間テスト	事前：単語と文法を暗記する 事後：語彙の発音練習する	講義30分 演習60分																																																																						
9	単語と「～に」、固有数字を覚え、練習を行う。	事前：漢数字を確認する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
10	「あります（います）／ありません（いません）」を覚え、練習を行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
11	単語と「～の」「何」を覚え、練習を行う。 曜日と助詞「と」「から」「まで」を使った文章作りを行う。	事前：単語と文法を暗記する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
12	固有数字を覚え、練習を行う。	事前：固有数字を確認する 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
13	発音と会話練習	事前：発音の練習をする 事後：配布の課題を行う	講義30分 演習60分																																																																						
14	発音と会話テスト	事前：第1～5課の本文を暗記する 事後：全体の語彙と文法を暗記する	演習90分																																																																						
15	全体を復習する。 テストを行う。	事前：1学期の内容をまとめる 事後：なし	演習30分 テスト60分																																																																						
教本：		参考文献：																																																																							
<p>「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁</p>																																																																									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>																																																																									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。</p>																																																																									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>																																																																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	韓国語コミュニケーション (Korean Communication)						科目分類	専門科目										
担当教員	南 春英																	
履修条件	前提科目	韓国語Ⅰと韓国語Ⅱ履修済、A評価以上						その他										
授業概要 :																		
この授業は韓国語Ⅰと韓国語Ⅱで学んだことを土台に、社会的活動を実現するために必要な韓国語について学習者が主体的に学ぶ授業である。コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。																		
授業目標 :																		
インタビューから得られたことをもとに、自己紹介と他人と韓国語でコミュニケーションすることができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態										
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義を説明する。				事前: 教科書の準備をする 事後: 自己紹介を予習する			講義 90 分										
2	自己紹介に関して学習する。				事前: 自己紹介を予習する 事後: 自己紹介する準備			講義 40 分 演習 50 分										
3	自己紹介する。				事前: 自己紹介する準備 事後: 自己紹介を復習			講義 40 分 演習 50 分										
4	他己紹介をする (グループ活動)。				事前: 他己紹介をする準備 事後: 他己紹介を復習			講義 40 分 演習 50 分										
5	もの、場所に関する表現を学習する。				事前: 他己紹介を復習 事後: もの、場所に関する表現を復習			講義 40 分 演習 50 分										
6	学内の人、もの、場所、ことを表現する。				事前: 学内の場所の表現を予習 事後: 学内の場所の表現を復習			講義 40 分 演習 50 分										
7	学外や地域の人、もの、場所、ことを表現する。				事前: 学外や地域の表現を予習 事後: 学外や地域の表現を復習			講義 40 分 演習 50 分										
8	レストランでのメニューの注文に関する表現を学習する。				事前: 注文に関する表現を予習 事後: 注文に関する表現を復習			講義 40 分 演習 50 分										
9	レストランでのメニューの注文を表現する (グループ活動)。				事前: 注文に関する表現を復習 事後: インタビューする内容を考える			演習 90 分										
10	グループ活動① インタビューする内容について考える。				事前: インタビューする内容を考える 事後: 予行練習			講義 40 分 演習 50 分										
11	グループ活動② インタビューする予行練習をする。				事前: 予行練習 事後: 振り返り			演習 90 分										
12	グループ活動③ インタビューした結果を成果物にまとめる。				事前: インタビューの準備をする 事後: グループ活動の反省点を考える			演習 90 分										
13	韓国語で動画を制作する。				事前: パソコン準備 事後: 動画を制作の振り返り			演習 90 分										
14	他の人の動画を見て、自分の韓国語を自己評価する。				事前: 動画を制作の振り返り 事後: 発表の振り返り			講義 20 分 演習 70 分										
15	まとめ				事前: まとめ			講義 40 分 演習 50 分										
教本 :																		
参考文献 : 「ソウルアカデミー韓国語Ⅰ」金宰郁他、蒼学舎、¥2,000 「ソウルアカデミー韓国語Ⅰ」Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス :																		
初回の授業に必ず出席すること。語学は聞いてから話すものなのでとりあえずCDを聞くこと。																		
オフィスアワー :																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	韓国文化研究A (Korean Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	南 春英																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。																										
授業目標 :																										
隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						◎																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め	講義																			
2	韓国の自然環境					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
3～5	韓国の料理（主食）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
6・7	韓国の料理（おかず）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
8～10	韓国の料理（調味料、お酒など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
11～14	発表 日本 VS 韓国 伝統文化比較					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討	発表・討論																			
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか	講義																			
教本 :		参考文献 :																								
なし。必要に応じてプリントを配布します。		書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。																								
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。																										
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	韓国文化研究B (Korean Studies B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	南 春英																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。																										
授業目標 :																										
隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め	講義																			
2	韓国の経済と産業					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
3	韓国の世界遺産概要					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
4～7	韓国の服装（韓服、飾りなど）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
8～10	韓国の歳時風俗（しめ縄、トル、祭事など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる	講義																			
11～14	発表 韓国の世界遺産を調べる					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討	発表・討論																			
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか	講義																			
教本 :		参考文献 :																								
なし。必要に応じてプリントを配布します。		書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。																								
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。																										
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	監査論 (Auditing)					科目分類	専門科目														
担当教員	高橋 琢也																				
履修条件	前提科目	会計学 I・II			その他	なし															
授業概要 :																					
企業が作成する財務諸表は、必ずしも適正であるとは言えない。そこで、作成した財務諸表が適正に作成されているのかを調査するために、「監査」をする必要がある。本講義では、財務諸表と監査について学ぶ。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。																					
授業目標 :																					
監査の役割やプロセスなどについて理解を深めることを目標とする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	監査の必要性と法定監査制度 監査の必要性と法定監査制度について解説する。					事前：テキスト2-19頁 事後：復習ノートの作成		講義90分													
2	監査全体の流れ 監査のプロセスについて解説する。					事前：テキスト22-37頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
3	監査基準1（監査基準の意義、制定、改訂） 監査基準の意義、制定、改訂について解説する。					事前：テキスト40-52頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
4	監査基準2（監査基準の構成、不正リスク対応基準） 監査基準の構成と不正リスク対応基準について解説する。					事前：テキスト52-61頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
5	リスク・アプローチ監査 リスク・アプローチ監査について解説する。					事前：テキスト63-79頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
6	内部統制 内部統制の構造やその限界について解説する。					事前：テキスト82-93頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
7	監査計画 監査計画に関わる手続きについて解説する。					事前：テキスト96-111頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
8	監査の実施1（監査とリスク） リスク・アプローチ監査とリスクについて解説する。					事前：テキスト114-128頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
9	監査の実施2（重要性、監査の結果） 監査における重要性や監査結果の取りまとめを解説する。					事前：テキスト128-135頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
10	監査結果の報告1（監査報告書） 監査報告書の意義や構成について解説する。					事前：テキスト137-152頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
11	監査結果の報告2（監査意見） 監査意見の種類や追記事項について解説する。					事前：テキスト152-165頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
12	監査の品質管理1（前半） 監査に関する品質管理基準について解説する。					事前：テキスト168-179頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
13	監査の品質管理2（後半） 前回に続き、監査に関する品質管理基準について解説する。					事前：テキスト179-189頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
14	内部統制監査 内部統制監査について解説する。					事前：テキスト202-219頁 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分													
15	問題演習 授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習90分													
教本 :																					
長吉眞一 他『監査論入門』（最新版）、中央経済社。																					
参考文献 :																					
蟹江章 他『スタンダードテキスト監査論』（最新版）、中央経済社。																					
成績評価の方法、評価基準 :																					
試験（100%）で評価する。																					
学生へのアドバイス :																					
日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																					
オフィスアワー :																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習										
授業科目(英文)	漢文学 (Chinese Classical Literature)					科目分類	専門科目												
担当教員	戸高 留美子																		
履修条件	前提科目	なし			その他	適宜指示する													
授業概要:																			
漢和辞典や初步的な解説書を参照しながら中国古典文学や漢文学について学ぶ。また、現在私たちの生活の中で活用されている故事成語や漢字文化について学ぶ。授業期間の後半は教材のパワーポイントなどをつかいながら受講者自身がグループを組んで発表をする。																			
授業目標:																			
漢詩文の基本的知識を習得する。漢詩文や漢字文化の知識を身に付け自身の生活と結びつける。																			
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態											
1	ガイダンス 発表のためのグループ分け				事前: 教科書の購入 事後: 演習問題の解答			ガイダンス 30分											
2	漢字、漢語の成り立ち 基本文法 返読文字 置字				事前: 発表準備 グループ学習 事後: 課題の解答: 置字			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
3	故事成語 現代に生きる故事成語① 基本文法 再読文字				事前: 発表準備・課題選定 事後: 課題の解答: 再読文字			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
4	故事成語 現代に生きる故事成語② 基本文法 否定①				事前: 発表準備・調査 事後: 課題の解答: 否定形①			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
5	漢詩の名作① 漢詩の基本的知識 基本文法 否定②				事前: 発表準備・調査 事後: 課題の解答: 否定形②			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
6	漢詩の名作② 中国文学史① 文法 特別な読み方をする文字				事前: 発表準備・調査まとめ 事後: 課題の解答: 文法			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
7	親しまれる名文①思想 中国文学史② 基本文法 使役形				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 課題の解答: 使役形			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
8	親しまれる名文②思想 発表① 基本文法 受身形				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 課題の解答: 受身形			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
9	親しまれる名文③歴史 発表② 故事成語				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 授業の感想を書く			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
10	親しまれる名文④歴史 基本文法 発表③ 故事成語				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 授業の感想を書く			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
11	中国由来の日本の文化 節句 発表④ 中国の有名な思想家				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 授業の感想を書く			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
12	日本文学と漢文 発表⑤中国の有名な思想家				事前: 発表準備・発表物作成 事後: 授業の感想を書く			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
13	日本文学と漢詩 夏目漱石 発表⑥ 中国の有名な詩人				事前: 夏目漱石について調べる 事後: 本講義全体の振り返り			前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分											
14	学期末試験				事前: 学期末試験の準備 事後: 学期末試験の復習			学期末試験 90分											
15	学期末試験解説 事後指導・補足など				事前: 事後:			テスト返却 10分、講義 80分											
教本:																			
参考文献:																			
配布プリント 『社会人のための漢詩漢文小百科』田部井文雄ほか大修館書店 1990年																			
成績評価の方法、評価基準:																			
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス:																			
教本をうまく活用しながら課題を達成し発表の準備をしてください。グループ発表の準備は事前に予定を立てメンバー同士連携して取り組んでください。																			
オフィスアワー:																			
初回講義日に伝える。授業後15分程度を予定。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	管理会計論 (Managerial Accounting)					科目分類	専門科目													
担当教員	川口 修																			
履修条件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ、経営管理論Ⅰ・Ⅱ																		
	その他	なし																		
授業概要 :																				
この講義では、企業の目的とそれを達成するために遂行される経営者職能と会計の役立ちを論ずる。企業の活動は、資金の調達から生産・販売・流通に至る広範囲なものであり、最近では製品の廃棄処分に至るまでの過程を考慮することが求められるようになってきている。このような活動を計画しそれを実現・統制するために経営者が存在する。経営者職能は経営の階層によってそれぞれ異なるが、各階層での職務を効率的に遂行するために会計情報が必要とされる。																				
管理会計とは、この会計情報をいう。この講義では、Top Management の職能に焦点を当てて講義を行う。																				
授業目標 :																				
企業の経営管理者にとってその職務遂行に会計情報は、必須のものである。この講義では、経営者の職務・目的的理解とその遂行に必要な会計情報の関連を論ずる。企業経営で行われる管理会計の実務を理解し、その基礎にある考え方を理解することを目標とする。																				
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態													
1	序					事前: テキストの予習 事後: 管理会計の理解	講義 90分													
2	財務会計と管理会計					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
3	企業とその目標					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
4	会計情報システム					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
5	管理会計の意義					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
6	経営者職能					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
7	意思決定と計画					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
8	統制					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
9	問題発見のための会計 ①					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
10	問題発見のための会計 ②					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
11	問題発見のための会計 ③					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
12	収益性分析 ①					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
13	安全性分析 ①					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
14	安全性分析 ②					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
15	まとめ					事前: テキストの予習 事後: 復習	講義 90分													
教本 :					参考文献 :															
初回に指示する。					「管理会計」岡本・廣本・尾畠・挽著 中央経済社															
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (20%) 定期試験 (80%) 等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス : 休まないことと、予習・復習の実施を希望する。																				
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	企業組織法 I (Corporate Law I)					科目分類	専門科目													
担当教員	新城 将孝																			
履修条件	前提科目	私法学 I・II			その他	なし														
授業概要:																				
本講義は、会社法総論について触れ、その後は株式会社法を対象とする。株式会社の設立、株式等についてその概略を講義する。																				
授業目標:																				
会社、その中でも株式会社についての理解を深める。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
			○			○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態													
1	会社法の概要 会社法・株式会社法とはどのような法であるかを考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
2	会社の権利能力 会社の権利能力について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
3	法人格否認の法理 法人格と取引の安全について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
4	会社の種類 合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
5	株式会社法の基礎 株式、有限責任、強行法規性等、その基礎について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
6	株式会社の設立(1) 募集設立、発起設立（一般概要）等について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
7	株式会社の設立(2) 具体的設立手続きについて考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
8	株式会社の設立(3) 設立登記と会社成立の効果について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
9	設立中の会社 設立中の会社について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
10	株式の基礎 株式の意義、株式の種類等、その基礎について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
11	種類株式 種類株式について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
12	株券、株式の流通 株券、株式の流通、株式の譲渡制限について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
13	自己株式の取得 自己株式の取得について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
14	株式の消却・併合・分割 株式の消却・併合・分割について考える。					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習	講義 60分 質疑応答 30分													
15	前期講義の総まとめ					事前：講義内容の確認 事後：講義内容の総まとめ	講義 60分 質疑応答 30分													
教本:																				
田中亘『会社法 第2版』東京大学出版会。																				
参考文献:																				
江頭憲治郎『株式会社法 第8版』有斐閣。 神田秀樹『会社法 第23版』法律学講座双書。 別冊ジュリスト『会社法判例百選 第4版』。																				
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等(25%)、小テスト・レポート等(25%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
授業では、六法は必ず持ってくること。上記教本又は参考文献、複数購入し、自宅学習も積極的に務めてください。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	企業組織法 II (Corporate Law II)						科目分類	専門科目													
担当教員	新城 将孝																				
履修条件	前提科目 その他	私法学 I・II、企業組織法 I、ビジネス法 I なし																			
授業概要： 本講義は、企業組織法 I の続きとする。本講義では、株式会社の機関を中心において進める。																					
授業目標： 会社、その中でも株式会社についての理解を深めていきたい。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
		○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	株式会社における機関の概要 株式会社における機関について総論的に考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
2	株主総会(1) 株主総会の意義、総会の招集等について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
3	株主総会(2) 株主提案権、議決権、総会の決議等について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
4	株主総会(3) 株主総会の決議の瑕疵等について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
5	取締役・取締役会・代表取締役(1) 取締役の選任・資格・終任等について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
6	取締役・取締役会・代表取締役(2) 会社の業務執行と代表について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
7	取締役・取締役会・代表取締役(3) 取締役会について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
8	取締役・取締役会・代表取締役(4) 代表取締役について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
9	会社役員・会計参与 会社役員としての会計参与について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
10	監査役・監査役会 監査役・監査役会について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
11	指名委員会等設置会社 指名委員会等設置会社について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
12	監査等委員会設置会社 監査等設置会社について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
13	会社と会社役員等との法律関係・役員等の義務 会社と会社役員等との法律関係・その義務について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
14	役員等の責任 会社に対する責任、第三者に対する責任について考える。				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の復習			講義 60分 質疑応答 30分													
15	後期講義の総まとめ				事前：講義内容の確認 事後：講義内容の総まとめ			講義 60分 質疑応答 30分													
教本： 田中亘『会社法 第2版』東京大学出版会。																					
参考文献： 江頭憲治郎『株式会社法 第8版』有斐閣。 神田秀樹『会社法 第23版』法律学講座双書。 別冊ジュリスト『会社法判例百選 第4版』。																					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス： 授業では、六法は必ず持ってくること。上記教本又は参考文献、複数購入し、自宅学習も積極的に務めてください。																					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小柏 喜久夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
個人に個性があるように、企業も個々に企业文化を有しアイデンティティの確立を図っています。また、その一方で、従来の組織構造、コントロール・システム、評価システム、戦略技術の枠組みでは捉えきれない世界を考察するためにも、企业文化の視点の重要性が指摘されています。そこで、この授業では、まず企业文化に関する諸問題を洗い出し、次いでそれらを理解する枠組みを歴史的・理論的視点から整理したうえで、企业文化論の内容を具体的に学習していきます。																										
授業目標：																										
企业文化論のフレームワークを通して企业文化理解の基礎力を養成します。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	ガイダンス			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
2	企业文化論生成の背景を1980年代のアメリカを探る			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により背景をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
3	企业文化論の諸問題を俯瞰する			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により諸問題を整理する			講義 70分質疑応答 20分																			
4	企业文化論の学説（1）——ピーターズ＆ウォーターマンの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
5	企业文化論の学説（2）——ディール＆ケネディの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
6	企业文化論の学説（3）——シャインの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
7	企业文化論の学説（4）——コッター＆ヘスケットの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
8	企业文化概念を吟味：概念の多義・多様性の理解と本講義での定義づけを行う			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
9	企业文化の構造（1）——文化の構成要素を整理する：基本的仮定、価値観、思考様式			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
10	企业文化の構造（2）——文化の構成要素を整理する：行動様式、人工物、コミュニケーションズ			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
11	企业文化の機能（1）——文化の働きを対個人、対組織、対社会において検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
12	企业文化の機能（2）——文化の逆機能を解説する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
13	企业文化の類型——文化が型をなすことを理解する			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
14	企业文化のメカニズムとダイナミズムを解説する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
15	企業と文化、企業の文化——文化の重層性を理解する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
教本：																										
1. E. H. シャイン『企业文化』白桃書房、¥3,500+税 2. 印刷資料も用います。																										
参考文献：																										
授業の中で随時紹介します。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
定期試験（100%）で総合評価します。																										
学生へのアドバイス：																										
欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝えます。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)					科目分類	専門科目																	
担当教員	仲 伯維			履修条件	前提科目	なし	その他	なし																
授業概要:																								
授業目標:	文化がそうであるように「企业文化」も、さまざまな捉え方がある。企业文化は、营利性、公共性、社会性を構成要素として成り立っている。营利性は、企業の継続と成長を制度化し、革新を楽しめる企業利益である。企業の発展にとって、企业文化が大きく関係していることを解明する。																							
	授業目標:																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○						○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	組織・経営・企业文化論の系譜					事前:なし 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
2	多彩な文化概念と文化の要素					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
3	企業の知性、そして経営美					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
4	経営理念と企業ビジョン					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
5	目標管理の現状と課題					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
6	企業組織の価値体系					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
7	組織文化・経営文化・企业文化のパターン					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
8	産業文化、業種文化					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
9	企业文化を識る					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
10	企业文化の機能性に関して					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
11	企业文化はどう業績とリンクするか					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
12	業績評価システム					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
13	文化の視点で企業経営を診る					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
14	21世紀の企業像					事前:前回の配布資料を読む 事後:今回の配布資料の読み返し		講義																
15	企业文化の革新と創造					事前:前回の配布資料を読む 事後:なし		講義																
教本: 教材は授業時に配布する。		参考文献: 梅澤正『組織文化 経営文化 企业文化』同文館。 村山元英『企业文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企业文化 経営理念とCSR』学文社。																						
成績評価の方法、評価基準: 授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。																								
学生へのアドバイス: よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。																								
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																								

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	企業文化論 II (Corporate Culture II)					科目分類	専門科目													
担当教員	小柏 喜久夫																			
履修条件	前提科目	企業文化論 I																		
	その他	なし																		
授業概要：																				
「企业文化のダイナミズムを読み解き、そのダイナミズムをマネジメントすることがリーダーないし経営者の仕事である」と言われます。その意味の理解を事例およびモデル学習によりながら深め、企業が自らの文化の確認・形成・再生・変革・創造を行う過程で「変わらぬもの」と「見えるもの」の見極めを通して企业文化のあり方を追求している姿を見ていきます。																				
授業目標：																				
企业文化の構造と機能の理解を深め、企业文化のダイナミズムをマネジメントする力を養います。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	ガイダンス			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
2	企业文化のダイナミズムとリーダーシップ——企业文化論から見たリーダーシップの本質を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
3	企业文化の形成と定着の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
4	事例1 リクルートの組織文化(1)：文化の形成・定着過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
5	事例1 リクルートの組織文化(2)：文化の形成・定着過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
6	事例1 リクルートの組織文化(3)：文化の形成・定着過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
7	企业文化の固定化と逆機能の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
8	事例2 JR西日本のトラブル(1)：文化の固定化・逆機能過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
9	事例2 JR西日本のトラブル(2)：文化の固定化・逆機能過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
10	事例2 JR西日本のトラブル(3)：文化の固定化・逆機能過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
11	企业文化の変革の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
12	事例3 GEの変革(1)：文化の変革過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
13	事例3 GEの変革(2)：文化の変革過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
14	事例3 GEの変革(3)：文化の変革過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
15	企业文化論のこれから——企业文化論の可能性について述べる			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
教本：																				
参考文献：																				
1. 東北大大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税 E. H. シャイン『企业文化』白桃書房、¥3,500+税																				
2. 印刷資料も用います																				
成績評価の方法、評価基準：																				
定期試験（100%）で総合評価します。																				
学生へのアドバイス：																				
欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝えます。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	企業文化論 II (Corporate Culture II)					科目分類	専門科目																	
担当教員	仲 伯維			履修条件	前提科目	なし	その他	なし																
授業概要 :																								
授業目標 :	企業と社会の関係はこの数十年の間に大きく変化しており、企業に期待される役割や責任も変わってきている。持続可能な生産と消費というテーマはSDGsの一つとしても位置づけられている。本授業ではこの時代企業経営に何が求められているのか、国内外の潮流を踏まえて考えていく。																							
	企業の発展と生き残りに企业文化が不可欠であることを理解することが出来る。 企業を社会との関係から捉える視点を身につける。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○						○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	企业文化の構造					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
2	企业文化と文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
3	企业文化の創生と形成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
4	企业文化の変容と変革					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
5	企业文化の理念の側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
6	経営理念、行動規範の歴史的変遷					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
7	ビジョナリー・カンパニー					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
8	コーポレート・アイデンティティ					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
9	国民文化と異文化コミュニケーション					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
10	企业文化の国際比較					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
11	企业文化の重要性—企業のケース・スタディからの検証					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
12	グローバル企业文化の構築					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
13	企业文化の倫理的側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
14	CSRと企业文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義																
15	ESG、SDGs及び統合報告					事前：前回の配布資料を読む 事後：なし		講義																
教本：		参考文献： 梅澤正『組織文化 経営文化 企业文化』同文館。 村山元英『企业文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企业文化 経営理念とCSR』学文社。																						
成績評価の方法、評価基準：																								
授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。																								
学生へのアドバイス：																								
よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 通年	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習			
授業科目(英文)	基礎ゼミ I (Preliminary Seminar I)					科目分類	基礎科目					
担当教員												
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:												
	初めての大学生活に適応できるように、ポートフォリオによる自己管理をしながら自己肯定感を高め、多様な活動によってコミュニケーション力の向上を図る。											
	また、「教えてもらう」から「主体的な学び」への転換を図り、基礎学力の向上と具体的な学修スキルを身につけていく。基礎学力としての「読み・書き・プレゼンテーション力」は、実感を伴った学びを重ねて向上をするようにする。											
授業目標:												
	①大学生活に適応するように、ポートフォリオを活用して、目標管理、人間関係づくりをすすめる。 ②基礎学力（漢字力、語彙力、図書館活用等）の向上と、プレゼンテーション力の向上を図る。 ③大学生としての学修スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、パワーポイント作成等）を身につける。											
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）												
	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養							
	○	○										
授業計画、事前学習・事後学習、形式												
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態				
1	聴解力 ・ガイダンスを聞き基礎ゼミ I からの4年間を見通す プレゼン力・レジュメを作って自己紹介をする					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習				
2	自己決定力 ・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		講義・演習				
3	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオの記入、自己目標と具体的な取り組みを決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：清書して提出		講義・演習				
4	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習				
5	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習				
6	アイデンティティ形成、コミュニケーション力 ・スポーツ大会の出場種目を相談して決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		演習				
7	聴解力、集中力、税の話（税務署員の話）					事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文を書く		講義				
8	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」・ノートの目的、テクニック					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習				
9	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」・実践して、検証する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習				
10	図書館活用力、聴解力 ・図書館の利用（大学図書館、厚木図書館 要予約）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習				
11	読書力、読解力 ・ビブリオバトルをしよう・方法を理解し、ワークシート作成					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習				
12	読書力、プレゼン力（グループワーク） ・ビブリオバトルを実践する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習				
13	聴解力、要約力 ・「情報整理」「本を読む」・要約のスキル、読書ノートの作成法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理		講義・演習				
14	ディスカッション力、思考力 ・提示された文章を要約し、意見をまとめ、グループで討議する					事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする		演習				
15	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに振り返りを記入する。必要に応じて面談する。					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習				

16	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに後期目標を記入する。必要に応じて面談する。	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
17	ディスカッション力、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭① 出店に関して相談し、見通しをもつ	事前：出店の考えを持つ 事後：担当教員が指示した課題	演習
18	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭② グループ別相談等	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
19	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭③ 制作等	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
20	理解力、レジュメ力、PCスキル ・パワーポイント作成の方法 文字入力、見出し、箇条書き等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
21	プレゼン力、要約力、PCスキル ・パワーポイント作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
22	聽解力、読解力、要約力 ・「問い合わせる」「レポートを書くとは」構成、原則、引用等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義
23	構成力、要約力、情報収集力（教材は、担当教員が選択、工夫） ・小レポート作成① 構成、資料収集	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	プレゼン力、表現力、PCスキル ・小レポート作成② パワーポイント作成 原稿作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	プレゼン力、表現力、コミュニケーション力 ・小レポート作成③ 発表 感想交流	事前：資料や原稿のチェック 事後：資料作成、構成を考える	演習
26	構成力、文章力、情報収集力 ・個人レポート作成① 問いを立てる、アウトライン、資料読み	事前：資料作成、構成を考える 事後：資料作成、構成を考える	演習
27	プレゼン力 ・個人レポート作成② レポート文章作成、資料	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	プレゼン力 ・個人レポート作成③ 発表 感想交流	事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文（振り返り）を書く	演習
29	就職力・キャリア指導（キャリアセンター） ・税の話（動画視聴）厚木	事前：進路について考える 事後：感想文（振り返り）を書く	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りを記入して提出	事前：ポートフォリオの下書き 事後：なし	演習

教本：

- ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」  
￥1,000+税 慶應義塾大学出版会
- ・必要な資料を配付します。

参考文献：

漢字検定問題集（多く出版されています。目標に合わせて用意してください。）  
その他については授業時に指示します。

成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート(60%)等で総合評価します。

学生へのアドバイス：

大学生活が始まりました。心機一転、新たな気持ちで多くの人と関係を結び、新しい学びに一生懸命に取り組みましょう。基礎ゼミは週に1回ですが、一番多くのメンバーと会える時間ですから休まずに出席すること。

オフィスアワー：

初回講義日に伝えます。

開講年次	2年次 通年	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	基礎ゼミⅡ (Preliminary Seminar Ⅱ)						科目分類	基礎科目													
担当教員																					
履修条件	前提科目	基礎ゼミⅠ			その他	なし															
<p>授業概要：</p> <p>ポートフォリオを作成することで、次のステップでの自分をイメージし、自律した大学生活を送りながら自己理解を深める。</p> <p>学修面では、専門科目への興味・関心を持続しながら専門用語の理解、論理的な考え方の展開の仕方等を学び、いっそうの基礎力向上とプレゼンテーション能力を高める。また、3年次に向けて卒業後を見据えたキャリアデザインを考えていく。</p>																					
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活の充実を図るように、自己目標を設定、管理して、人間関係を広げたり協働したりして自己理解を深める。</p> <p>②基礎学力の向上とともに、学修スキルとして、論理的なレポートの書き方や、専門科目の理解、グループワーク、プレゼンテーション力のいっそうの向上を目指し、主体的に学ぶ。</p> <p>③3年次に向けて、職業の選択肢を検討し、具体的な進路登録カードが作成できるようにする。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	聴解力 ・基礎ゼミⅡの1年間の見通しをもつ 自己決定力・履修指導を受けながら時間割表を作成する			事前：なし 事後：履修届を提出する			講義・演習														
2	アイデンティティ形成、自己決定力 ・取得できる免許や資格情報を参考に目標を設定する			事前：ポートフォリオ下書き 事後：目標の内容を再考			講義・演習														
3	コミュニケーション力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオを元に、個別面談する			事前：担当教員が指示した課題 事後：ポートフォリオ提出			講義・演習														
4	聴解力、レジュメ力 ・「情報収集の基礎」の講義 情報に対する態度、文書資料			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			講義・演習														
5	聴解力、レジュメ力 ・レポート力・「情報収集の基礎」の講義 資料検索の方法-データベース活用法			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			講義・演習														
6	聴解力、レジュメ力 ・「本を読む」の講義 批判的論理的思考（自分の考え=思考力）			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			演習														
7	文章力、思考力 ・「本を読む」の講義 クリティカルリーディングとその練習			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			実習														
8	就職力、集中力、聴解力			事前：担当教員が指示した課題 事後：情報整理、感想を書く			演習														
9	集中力、読解力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを理解し、論文を読む			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			演習														
10	集中力、文章力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを書く			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			演習														
11	プレゼン力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを発表する			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			演習														
12	思考力、プレゼン力 ・「情報整理」KJ法の講義 KJ法でグループの意見を整理する			事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習			演習														
13	レポート力（PCスキル） ・「情報整理」EXCELの使い方の基本を知る			事前：担当教員が指示した課題 事後：授業の復習			演習														
14	プレゼン力、自主性 プrezen大会での発表に向けて① ・プレゼンかポスターか テーマについて話し合う			事前：テーマを考える 事後：進め方、方法を考える			演習														
15	アイデンティティ形成（並行して基礎力ワーク） ・ポートフォリオに振り返りを記入・面談			事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する			演習														

16	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに後期の目標、具体的な取り組みを記入・面談	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
18	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：準備を進める 事後：準備を進める	演習
20	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）【別に前日準備あり】	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
21	アイデンティティ形成 主体的・協働的な態度の育成	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
22	就職力、聽解力 【キャリアガイダンス】 【ライフキャリアを考える】	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義・演習
23	就職力 ・漢字検定、資格試験、就職試験等の準備をする	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	問題発見力 個人テーマのレポート作成① ・テーマ決定 問い 情報・資料収集等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	要約力、読解力 個人テーマのレポート作成② ・アウトライン、資料読みを進める 精読カード等	事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする	演習
26	読解力、文章力 個人テーマのレポート作成③ ・レポート作成	事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする	演習
27	プレゼン力、コミュニケーション力 個人テーマのレポート作成④ ・グループ代表を選ぶ 代表によるプレゼンテーション	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	聽解力、就職力	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
29	就職力、アイデンティティ形成 【キャリアガイダンス】 ・進路登録カード作成	事前：進路について考える 事後：担当教員に提出	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りをして提出する	事前：ポートフォリオの記入 事後：なし	演習

教本：

- ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」
- ￥1,000+税 慶應義塾大学出版会
- ・必要な資料を配付します。

参考文献：

授業時に指示します。

成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。

授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート(60%)等で総合評価します。

学生へのアドバイス：

2年次は基礎から専門へのかけ橋になる学年です。自らの目標に向かって学んで行くことを支えます。授業の時間を大切にすること、分からぬときや困ったときには自分から行動することが大事になります。

オフィスアワー：

初回講義日に伝えます。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	キャリアデザイン (Career Design)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	夏目 千恵子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
キャリアデザインとは、自分の職業人生を自らの手で主体的にデザインすることです。この授業では、主体的にデザインできるスキルを身に付けることができるような授業を行います。																										
授業目標:																										
(1)キャリア形成の上での転機の存在を知り、立ち止まって振り返り、修正することが可能であることを理解する。(2)自分の意見や考えを他者に伝えることができる。(3)PDCAサイクルに基づいた行動計画を立てることができる。(4)コミュニケーションを図る上で必要なマナーを習得する。以上4点を本科目の目標とします。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション キャリアとは何か				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
2	キャリアデザイン1 これまでの自分を振り返る				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
3	キャリアデザイン2 人生における自分の役割				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
4	キャリアデザイン3 未来の自分(ライフイベント・人生の転機)				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
5	社会を知る1 社会と自分のキャリアの関連性				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
6	社会を知る2 働くとは何か				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
7	社会におけるルールのいろいろ				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
8	社会人基礎力について				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
9	好感をもたれる人「第一印象」				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
10	言葉遣い				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
11	コミュニケーション「聞く、話す、話し合う」				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
12	電話応対				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
13	訪問のマナー				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
14	文書作成				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
15	まとめ				事前: テキストの通読 事後: テキストの理解			講義 40分 グループワーク 50分																		
教本:																										
参考文献:																										
稻本恵子・北村伊都子・白井弘子・田中美和・太原靖一郎・和田百子著「キャリア なし デザイントレーニング～キャリア理論／自己理解／社会人基礎力」(晃洋書房)																										
成績評価の方法、評価基準:																										
定期試験(60%)、レポート(20%)、平常点(20%)。到達目標が達成できたかを評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
変化の激しい世の中では自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたら良いか、授業を通じて考えていきましょう。																										
オフィスアワー:																										
月曜日の昼休み																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	教育課程・保育課程論 (Curriculum and Early Childhood Education Courses) (子ども)		科目分類		専門科目									
担当教員	野末 晃秀													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。													
授業目標:	教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○													
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態							
1	オリエンテーション(授業の進め方と評価について) カリキュラムの意味と保育計画				事前:特になし 事後:本授業の復習		講義 90分							
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解:カリキュラム・マネジメントとは				事前:指針、要領の講読 事後:本授業の復習		講義 90分							
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム(明治期・大正期・昭和期・平成期)				事前:歴史・思想の確認 事後:本授業の復習		講義 90分							
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム(創設の背景とその役割)				事前:歴史・思想の確認 事後:本授業の復習		講義 90分							
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開				事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分							
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程				事前:指針、要領の講読 事後:本授業の復習		講義 90分							
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画				事前:子どもの発達の理解 事後:本授業の復習		講義 90分							
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方				事前:指導計画の理解 事後:本授業の復習		講義 90分							
9	指導計画作成の実際				事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分							
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点				事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分							
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程				事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分							
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程				事前:地域について知る 事後:本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分							
13	命を大切にする心を培う保育実践と教育課程・保育課程				事前:道徳について知る 事後:本授業の復習		講義 90分							
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程				事前:環境について調べる 事後:本授業の復習		講義 90分							
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望				事前:考えをまとめる 事後:特になし		講義 60分、 グループ討議 30分							
教本:	参考文献: 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) フレーベル館(2013年) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)													
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。	授業参加状況等(10%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(70%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいてください。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	3年次 通年	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習										
授業科目(英文)	教育実習 I (幼稚園) (Teaching Practice at Kindergarten I)			科目分類			専門科目												
担当教員	大沢 裕・野末 晃秀																		
履修条件	前提科目	教育実習事前事後指導 I			その他	2年次末までに修得しなければならない専門科目（卒業必修科目）38単位のうち30単位以上を修得していること。													
<b>授業概要：</b> 幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習 I と教育実習 II をそれぞれ 3 年生と 4 年生でそれぞれ 2 週間ずつ履修しなければならない。教育実習 I (幼稚園) 2 週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。																			
<b>授業目標：</b> 教育実習 I (幼稚園) では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。 • 幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 • 幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 • 幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 • 幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。																			
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;"></td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">○</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																	
	○	○																	
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">授業回数</td> <td style="width: 50%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</td> <td style="width: 30%;">事前・事後学習（学習課題）</td> <td style="width: 20%;">授業形態</td> </tr> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																
1 教育実習の計画…3年次2週間の教育実習計画について知る。 2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。 3 3歳児とのかかわり…①遊びに参加することで3歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ②3歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 4 4歳児とのかかわり…①4歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで4歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ②4歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 5 5歳児とのかかわり…①5歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで5歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育ってほしい10の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ②5歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、部分実習に向けた準備を行う。 7 部分実習 I …指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 8 部分実習 II …改善した新たな指導案の下、新たな部分実習を行う。反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 9 2週間の振り返り…教育実習 I 全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り、今後の課題を明確にする。																			
※事前事後指導については教育実習事前事後指導 I の授業で行う。																			
<b>教本：</b> 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開』萌文書林 (ISBN : 4893470760) 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日誌の書き方』萌文書林 (ISBN : 4893470817)																			
<b>参考文献：</b> 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」																			
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 実習園からの評価 (60%)、実習日誌による評価 (40%) (実習日誌に部分指導案を添付することを評価の条件とする)。																			
<b>学生へのアドバイス：</b> • 1年次から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 • 紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアター・ペーパーバーストなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 • ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。																			
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。 実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。																			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習												
授業科目(英文)	教育実習Ⅱ(幼稚園)(Teaching Practice at Kindergarten II)						科目分類	専門科目													
担当教員	大沢 裕・野末 晃秀																				
履修条件	前提科目	教育実習事前事後指導Ⅱ																			
	その他	教育実習(幼稚園) I																			
授業概要:																					
幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱをそれぞれ3年生と4年生でそれぞれ2週間ずつ履修しなければならない。教育実習Ⅱ(幼稚園)2週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。																					
授業目標:																					
教育実習Ⅱ(幼稚園)では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。</li> <li>・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。</li> <li>・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。</li> <li>・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。</li> </ul>																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態													
1 教育実習の計画…4年次2週間の教育実習計画について知る。																					
2 事前学習:事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。																					
3 3歳児とのかかわり…①遊びに参加することで3歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通じた学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ②3歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。																					
4 4歳児とのかかわり…①4歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで4歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助意図やねらいを読み取り実習生として子どもへ積極的にかかわる。 ②4歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。																					
5 5歳児とのかかわり…①5歳児クラスで幼児の遊びに加わり参加することで5歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育ってほしい10の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ②5歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。																					
6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、一斉活動の部分実習に向けた準備を行う。																					
7 部分実習…指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。																					
8 一日実習…責任実習とも言う。登園から降園までの一日の流れを考え、ねらい、内容を幼児の実態に即して立て、一日実習の指導案を作成する。事前に、担任の指導を受け実践する。(一斉活動の内容など楽しいものを考える)																					
9 2週間の振り返り…教育実習Ⅱ全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り今後の課題を明確にする。																					
※事前事後指導については教育実習事前事後指導Ⅱの授業で行う。																					
教本:					参考文献:																
相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習—実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817)					「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」																
久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技—児童文化財の魅力とその活用・展開—』萌文書林 (ISBN:4893470760)																					
成績評価の方法、評価基準:																					
実習園からの評価(60%)、実習日誌による評価(40%)(実習日誌に一日指導案を添付することを評価の条件とする)。																					
学生へのアドバイス:																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。</li> <li>・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアター・ペーパーバーストなどの教材を事前にいくつか作成しておく。</li> <li>・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。</li> </ul>																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					
実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導 I (幼稚園) (Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice I (Kindergarten))							科目分類	専門科目
担当教員	大沢 裕・野末 晃秀								
履修条件	前提科目 その他	2年次までに修得しなければならない専門科目(卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を修得していること。 なし							
授業概要:									
	教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。								
	指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。								
	作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。								
	実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、次の実習に向けての準備をどのようにしていくか考える機会を持つ。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。								
授業目標:									
	幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)									
	知識・技能の習得 ○	思考力・判断力・表現力の育成					学びに向かう力・人間性の涵養 ○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習Iの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ				事前: 教育実習の手引きを読んでおく 事後: 一日の流れのプリントを仕上げ次回提出			講義	
2	指導案の作成(1) ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など書き方の基本を学ぶ。 「朝の受け入れ」の部分指導案を作成する				事前: 一日の流れを復習しておく 事後: (1)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
3	指導案の作成(2) 降園時の活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②(2人ずつ新しい曲にチャレンジ(皆の前で演じる))				事前: 手遊び実技の担当者は練習しておく 事後: (2)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
4	指導案の作成(3) 紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④				事前: 手遊び実技の担当者は練習しておく 事後: (3)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
5	指導案の作成(4) 歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥				事前: 実技の担当者は練習しておく 事後: 指導案④-1、2を仕上げ次回提出			講義・演習	
6	模擬保育(1) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧				事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
7	模擬保育(2) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩				事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
8	模擬保育(3) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫				事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
9	模擬保育(4) ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭				事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど実習日記の具体的記入の仕方を学ぶ。 絵本・紙芝居の実演①②③④				事前: 実習の手引きを持参する 事後: 教科書と手引きと日誌を照らしあわせる			講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて学ぶ 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦				事前: 実技の準備をしておく 事後: 実技を振り返り改善する			講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩				事前: 実技の練習に向き合う 事後: 実技を振り返り改善する			演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成				事前: 教材を作成して持参する 事後: 指導案を作成して持参する			講義	
14	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようする。 実習日誌の提出、個別面談(1)				事前: 事後: 実習後の反省			教員との面談	
15	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようする。 個別面談(2)				事前: 事後: 実習後の反省			教員との面談	
教本:	参考文献: 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習一実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技ー児童文化財の魅力とその活用・展開ー』解説 萌文書林 (ISBN: 4893470760)								
成績評価の方法、評価基準:	平常の授業参加状況等(20%)、実技・模擬保育等(40%)、指導案作成・提出物(40%)等で総合評価する。(尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする)								
学生へのアドバイス:	教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。								

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	授業・演習	
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導II(幼稚園) (Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice II (Kindergarten))								科目分類	専門科目
担当教員	大沢 裕・野末 晃秀									
履修条件	前提科目	教育実習事前事後指導I(幼稚園)及び教育実習I(幼稚園)を修得していること。								
	その他	なし								
授業概要:										
教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。										
指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。										
作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。										
実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、自分の課題を克服し、就職に向けての意欲につなげる。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。										
授業目標:										
幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養					
○					○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習IIの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ					事前: 教育実習の手引きを読んでおく 事後: 一日の流れのプリントを仕上げ次回提出			講義	
2	指導案の作成(1) ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など。 自分で実習中に行う活動計画を立てる。					事前: 一日の流れを復習しておく 事後: (1)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
3	指導案の作成(2) 自自分で実習中に行う部分実習に関する活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②(2人ずつ新しい曲にチャレンジ(皆の前で演じる))					事前: 手遊び実技の担当者は練習しておく 事後: (2)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
4	指導案の作成(3) 紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前: 手遊び実技の担当者は練習しておく 事後: (3)指導案を仕上げ次回提出			講義・演習	
5	指導案の作成(4) 歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前: 実技の担当者は練習しておく 事後: 指導案④-1、2を仕上げ次回提出			講義・演習	
6	模擬保育(1) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧(ふれあいあそびなど)					事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
7	模擬保育(2) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩(一斉活動・作って遊ぶ)					事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
8	模擬保育(3) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫(一斉活動・ゲームなど)					事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
9	模擬保育(4) ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭(一日指導案を作成する)					事前: 指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後: 直したもの次回提出			演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど書き方の再確認をする。保育の中での声かけなど出し合う。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前: 実習の手引きを持参する 事後: 教科書と手引きと日誌を照らしあわせる			講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて再確認をする。 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前: 実技の準備をしておく 事後: 実技を振り返り改善する			講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩(3、4、5歳児・季節にふさわしいものを選ぶ)					事前: 実技の練習に向き合う 事後: 実技を振り返り改善する			演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成(3、4、5歳児にふさわしいものを作る)					事前: 教材を作成して持参する 事後: 指導案を作成して持参する			講義	
14	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち課題にする。 実習日誌の提出、個別面談(1)					事前: 事後: 実習後の反省			教員との面談	
15	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち克服する気持ちを高めていく。個別面談(2)					事前: 事後: 実習後の反省			教員との面談	
教本:	参考文献: 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習一実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技ー児童文化財の魅力とその活用・展開ー』解説 萌文書林 (ISBN: 4893470760)									
成績評価の方法、評価基準: 平常の授業参加状況等(20%)、実技・模擬保育等(40%)、指導案作成・提出物(40%)等で総合評価する。(尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする)										
学生へのアドバイス:										
教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。										
教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。										
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	教育心理 (Educational Psychology)						科目分類	専門科目												
担当教員	田村 修一																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わる者として必要な発達と学習の支援のあり方について考える。																				
授業目標:																				
1. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程を理解できる。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 発達とは何か（成熟と学習の違いについて考える）				事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
2	発達段階と発達課題（エリクソンの生涯発達論）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
3	運動と言語の発達				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
4	認知の発達（ピアジェの認知発達論）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
5	社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
6	思春期・青年期の発達（アイデンティティの確立）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
7	学習の理論（条件づけと観察学習）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
8	認知と学習（記憶のメカニズム）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 45 分・演習 45 分												
9	学習形態と指導				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
10	動機づけ				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
11	学級のアセスメントと集団づくり（Q-Uの理解と活用）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
12	学習の評価				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
13	発達と教育（これからの教育に必要なことについて考える）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 60 分・演習 30 分												
14	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の理解				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
15	発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の支援				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90 分												
教本：					参考文献：															
「学習と発達」内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020年					「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年															
成績評価の方法、評価基準：																				
平常点（リアクションペーパー・振り返りレポート）(40%) と定期試験 (60%) の総合評価。																				
学生へのアドバイス：																				
「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません、しっかり学びましょう。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	行政法 I (Administrative Law I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	柳 裕治																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要 :																										
私たちは、日常の生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。この様々な法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。																										
授業目標 :																										
行政法の基礎的知識・行政法的思考の修得																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス（行政法 I 学修の概要）					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義																		
2	行政法学修の実益					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
3	行政法の基本構造					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
4	法律による行政の原理					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
5	行政法の一般原則					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
6	法行政上の法律関係					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
7	行政組織法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
8	行政基準					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
9	行政行為					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
10	行政裁量					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
11	行政契約					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
12	行政指導					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
13	行政計画					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
14	行政調査					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
教本 : 参考文献 :																										
櫻井恵子・橋本博之『行政法（第6版）』弘文堂（2019年8月） 適宜指定 行政法 I II は同じテキスト使用																										
成績評価の方法、評価基準 :																										
小テスト・授業参加状況等（20%）、終了テスト（80%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
行政法 I II をセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	行政法Ⅱ (Administrative Law Ⅱ)					科目分類	専門科目												
担当教員	柳 裕治																		
履修条件	前提科目	なし (行政法Ⅰの単位取得が望ましい)			その他	なし													
<b>授業概要 :</b> 私たちは、日常の生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。この様々な法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。																			
<b>授業目標 :</b> 行政法の基礎知識・行政法的思考の修得																			
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○					
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																	
○	○																		
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																			
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態												
1	ガイダンス (行政法Ⅱ学修の概要)					事前: シラバスの確認 事後: 講義内容の復習	講義												
2	行政上の義務履行確保					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
3	行政罰					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
4	行政手続					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
5	情報公開・個人情報保護					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
6	行政上の救済手続					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
7	行政事件訴訟法概観					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
8	取消訴訟(1)訴訟要件					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
9	取消訴訟(2)審理・判決・執行停止・教示					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
10	取消訴訟以外の抗告訴訟					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
11	当事者訴訟・争点訴訟					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
12	国家賠償・損失補償					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
13	警察法・公物法					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
14	租税法・環境法					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
15	総括 (終了テスト・解説)					事前: 教科書確認 事後: 講義内容確認	講義												
<b>教本 :</b> 櫻井恵子・橋本博之『行政法 (第6版)』弘文堂 (2019年8月) <b>参考文献 :</b> 適宜指定 <b>行政法ⅠⅡは同じテキスト使用</b>																			
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 小テスト・授業参加状況等 (20%)、終了テスト (80%) 等で総合評価する。																			
<b>学生へのアドバイス :</b> 行政法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。																			
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	近代文学(散文) (Modern Japanese Literature (Prose))					科目分類	専門科目					
担当教員	横手 拓治			○	○	○	○	○	○			
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:	日本の近代小説は、短い期間にさまざまな展開を見せてきた。本講では、著名な作品の本文を紹介しつつ開化期から村上春樹までをコンパクトにまとめた安藤宏『日本近代小説史』をテキストに、近代小説の全像理解へと導いていく。双方向性を適宜導入する。											
授業目標:	*「言葉で世界をつくること」である小説に登場した、日本語におけるさまざまな表現を味わうことで、文章についての可能性を理解する。 *日本の小説の発展史を学ぶことで、対外的に日本のものについて発信する能力の一端を養う。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養							
○	○				○							
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	ガイダンスおよび『日本近代小説』の「序」「I 文明開化と『文学』の変容」1~3を扱う。*講義と読解のはか関連データの紹介等も適宜実施する。リアクションペーパー提出適宜。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
2	『日本近代小説』「I 文明開化と『文学』の変容」4、および「II 明治中期の小説文体」1~3を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
3	『日本近代小説』「II 明治中期の小説文体」4を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
4	『日本近代小説』「III 自然主義文学と漱石・鷗外」のうち1~3を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
5	『日本近代小説』「III 自然主義文学と漱石・鷗外」のうち4を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
6	『日本近代小説』「IV 大正文壇の成立」のうち1と2を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
7	『日本近代小説』「IV 大正文壇の成立」のうち3、および「V マルキシズムとモダニズム」のうち1と2を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
8	『日本近代小説』「V マルキシズムとモダニズム」のうち3と4を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
9	『日本近代小説』「VI 第二次世界大戦と文学」1を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
10	『日本近代小説』「VI 第二次世界大戦と文学」2~4を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
11	『日本近代小説』「VII 戦後文学の展開」1~3を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
12	『日本近代小説』「VII 戦後文学の展開」4と5を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
13	『日本近代小説』「VIII 高度経済成長期とポストモダン」1と2を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
14	『日本近代小説』「VIII 高度経済成長期とポストモダン」3~6を扱う。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 復習、関連作品を読む	講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分					
15	『日本近代小説』「VIII 高度経済成長期とポストモダン」7~9を扱い、まとめの講義とともに、授業内最終試験を実施。*同。					事前: テキスト範囲を読む 事後: 全体の復習	講義30分、作品鑑賞と読解15分、試験45分					
教本:	参考文献: 『日本近代小説史』(安藤宏、中央公論新社) *教員は本書の担当編集者であり、作品については授業時に紹介する。											
制作に関わってきた。												
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	取りあげる作家については、図書館やwebで知識を増やし、作品をよく読んでおくこと。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	近代文学(韻文) (Modern Japanese Literature (Verse))					科目分類	専門科目							
担当教員	白石 佳和													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	近代詩(短歌・俳句)の代表的作品を精読しつつ、作品や作者の分析方法を学ぶ。また、複数の作品・作者の分析を通じて近代詩歌の歴史を大まかに把握する。													
授業目標:	1. 近代詩(短歌・俳句)の読み方を習得し自分の意見が表現できる。 2. 近代詩(短歌・俳句)の歴史を大まかにとらえる。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○	○													
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	オリエンテーションとして近代詩の成立について学ぶ。				事前: 近代詩について調べる 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
2	島崎藤村の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
3	上田敏『海潮音』の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
4	萩原朔太郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
5	高村光太郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
6	西脇順三郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
7	「戦争と詩」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
8	石川啄木の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
9	与謝野晶子の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
10	斎藤茂吉の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
11	「戦争と短歌」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
12	高浜虚子の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
13	河東碧梧桐の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
14	水原秋桜子の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
15	「戦争と俳句」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ			講義40分、ディスカッション30分、発表20分						
教本:	参考文献: プリントを配布する。													
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、レポート(50%)、期末試験(30%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	さまざまな詩歌を読み、自分のことばの世界を広げましょう。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	金融概論 (Introduction to Finance)					科目分類	専門科目																			
担当教員	宮崎 隆																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
金融論の入門編です。金融論は近年「貨幣的経済学」や「ファイナンス」、「貨幣論」などと呼ぶこともありますが、何れも個人の金融や銀行のしくみと役割、国の金融政策を含みます。本講座はさらに国際金融やバーチャル・マネー(仮想通貨)、クレジット(消費者信用)にもふれます。																										
授業目標：																										
マネーに関する知識の習得。PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス：金融論の意味と範囲 (1)貨幣とは何か (2)身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
2	家計と金融1： (1)家計の資産と負債 (2)収入と支出、貯蓄について (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
3	家計と金融2： (1)家計の金融資産(中・長期) (2)預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
4	家計と金融3： (1)クレジット(消費者信用)とは (2)クレジットカード (3)キャッシング 他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
5	国際金融論：(1)為替レートとは何か (2)為替レートはなぜ変動するか (3)円高と円安 (4)リスク・ヘッジ 他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
6	銀行論1： (1)わが国の銀行の分類と役割 (2)バンキングとは何か (3)金融統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
7	銀行論2： 中央銀行の役割(1)世界の中央銀行 (2)わが国の中央銀行(日本銀行)の機能					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
8	金融政策1： (1)金融政策と財政政策 (2)日本銀行の政策と近年の動向 (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
9	金融政策2： (1)インフレーションと失業の選択 (2)ケインジアン vs. マネタリスト政策論争					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
10	金融政策3：(1)マネタリズムとは何か (2)新自由主義経済学 (3)合理的予想理論を導入したマクロ経済学					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
11	投資の経済学1： (1)投資とは何か (2)株式会社と株式市場 (3)投資の実際 (4)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
12	投資の経済学2： (1)指標・データの見方 (2)投資市場分析 (3)近年の動向					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
13	バーチャル・マネー(仮想通貨)： (1)種類と解釈 (2)投資対象としての仮想通貨 (3)問題点					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
14	保険の経済学： (1)リスクマネジメント (2)保険の基本構造 (3)生命保険 (4)損害保険					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
15	本講座のまとめ					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
教本： 適宜、資料を配布します。					参考文献： 初回講義日に提示します。																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験またはレポート(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
勉強する項目は比較的多いですが、身近なトピックスもあります。必ずや今後の経済活動に役立ちます。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	グローバル化と文化A (Globalization and Culture A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	安倍 宰																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
グローバル化という言葉は日々、耳にします。しかし、よくある「グローバルスタンダードに従うにはどうすればいいのか」という言説には一定の疑いを持ってみてみる必要を説くことを主な目的とします。文化人類学の立場から、広いまなざしで考察してみましょう。																										
授業目標:																										
何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	グローバル化とはどのような現象か					事前：特になし 事後：なし		講義 90分																		
2	文化のグローバル化					事前：特になし 事後：ノート		講義 90分																		
3	経済人類学と交易港					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
4	経済のグローバル化と文化のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
5	リージョナリズムとローカリズム					事前：安倍論文（配布） 事後：ノート		講義 90分																		
6	文化の支配—被支配					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
7	文化資本化の現象					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
8	世界的価値変動					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
9	SNSがグローバル化に果たしている役割					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
10	民俗文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
11	民俗文化とグローバル化2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
12	グローバル化を前にした生活文化の変容					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
13	グローバル化を前にした生活文化の変容2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
14	コスプレ文化はグローバルなものか					事前：自分とコスプレ 事後：授業資料		講義 90分																		
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート																		
教本：			参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。																							
使用しません。																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
多面的な人間社会の現実に照らし合わせて考えてみましょう。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	グローバル化と文化B (Globalization and Culture B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	安倍 宰																									
履修条件	前提科目	グローバル化と文化A																								
	その他	なし																								
授業概要:																										
グローバル化と文化Aを受けて、世界の文化のなかにおける日本文化の地位を論じてゆく。映画、アニメ、音楽などの海外向け日本文化と日本人にとっての日本文化は、どこが同じでどこが異なるのかを考えていきます。																										
授業目標:																										
何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	グローバル化と文化Aの復習					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
2	日本映画のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
3	日本映画のグローバル化2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
4	映画にみる日本文化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
5	「ゴジラ」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
6	「ゴジラ」の国際的評価2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
7	「大魔神」					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
8	「大魔神」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分																		
9	「グレンダイザー」というアニメの物語					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
10	J-pop の成立					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
11	日本におけるロック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
12	J-pop の国際的評価					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
13	洋楽と日本のポップミュージック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
14	コスプレ文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																		
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分																		
教本:		参考文献: 使用しません。 授業内で紹介する。たくさん読んでください。																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (10%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	グローバル経済・経営ガバナンス (Governance of Global Economy and Business Management)						科目分類	専門科目																
担当教員	高橋 敏哉																							
履修条件	前提科目	基礎科目として経済学、SDGsの政治経済学等の関連科目を既に履修していること。			その他																			
授業概要：																								
グローバルに広がる経済活動やビジネスには共通の価値やルールが根付いています。環境、移民、資源、AIの在り方等も世界共通の課題です。各国の経済政策や企業の行動は無制約ではなく、様々な規範やルール、また処理の在り方等を遵守すべきものがあります。本講義では、グローバルな経済・経営活動に関する制度、規範、ルールの現状とその変化について学びます。																								
授業目標：																								
①グローバルな経済体制の変容について理解する。 ②企業経営にもその体制が影響していることを知る。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	オリエンテーション：講義の全容を知る。					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
2	ガバナンスとは何か：政府(government)とガバナンス(governance)の違いについて、基本的概念を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
3	貿易・投資のガバナンス①：ブレトンウッズ体制の内容を知り、その成立と背景について学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
4	貿易・投資のガバナンス②：地域における自由貿易体制の成立とその限界を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
5	貿易・投資のガバナンス③：自由貿易への抵抗としての保護主義の諸相を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
6	貿易・投資のガバナンス④：G 20、グローバルサウスの台頭の中で自由貿易の考え方はどう変わってきたのかを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
7	開発協力のガバナンス：ブレトンウッズ体制での自由貿易の前提にあり、その後世界に共有される開発協力を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
8	開発協力の進展とその限界：開発協力は広く世界の規範となっているが、どのような限界があるかを学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
9	草の根からの開発協力：開発協力の問題について、裨益者の課題等を現場のNGOの視点等から学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
10	デジタル化の規制のガバナンス：企業活動にも大きく関わるAI、SNS等への各国の規制の動きを学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
11	環境問題とガバナンス：SDGs等で企業活動に定着しつつある環境問題へのグローバルなルールを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
12	グローバルガバナンスと経営①：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
13	グローバルガバナンスと経営②：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
14	グローバルガバナンスと経営③：グローバル経営において遵守すべき規範について、その変化を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
15	まとめ：講義全体の総括をする。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分																
教本：		参考文献： 教材は毎回配布しますので購入は不要です。																						
講義で紹介します。																								
成績評価の方法、評価基準：																								
授業参加（積極的か否か。ただ出席するのではなく）とレポートで総合評価します。																								
授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）																								
学生へのアドバイス：																								
積極的に知識を付けたい皆さんのお受講を希望します。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営学総論 I (Principle of Management I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小柏 喜久夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。経営戦略の具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。																										
授業目標:																										
①経営学、特に経営戦略論の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態																			
1	ガイダンス			事前:シラバスの通読 事後:シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
2	経営学の特質を述べる			事前:教本序章を通読 事後:ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
3	事例:フォードとGMの競争の歴史を概観する			事前:教本56-64頁通読 事後:ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
4	環境・戦略・組織の関係を考える			事前:教本64-70頁通読 事後:ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
5	課題学習			事前:教本56-70頁精読 事後:課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分																			
6	事例:コマツのビジネス・システム革新の過程を解説する			事前:教本110-123頁通読 事後:ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
7	ビジネス・システムの進化について考える			事前:教本123-129頁通読 事後:ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
8	課題学習			事前:教本110-129頁精読 事後:課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分																			
9	事例:マクドナルドとモスバーガーの競争の歴史を概観する			事前:教本71-82頁通読 事後:ノート・教本により競争の仕方の違いをまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
10	いかに競争するか(競争戦略論)について解説する			事前:教本83-88頁通読 事後:ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
11	課題学習			事前:教本71-88頁精読 事後:課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分																			
12	事例:サムスン電子のグローバル戦略を説明する			事前:教本169-181頁通読 事後:ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
13	「統合と適応のジレンマ」の解決過程を解説する			事前:教本181-189頁通読 事後:ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
14	課題学習			事前:教本169-189頁通読 事後:課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分																			
15	経営とは何か			事前:印刷資料の通読 事後:ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分																			
教本:																										
参考文献: 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣、¥2,700+税 授業の中で随時提示します。																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業内容への参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)で総合評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝えます。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科目分類	専門科目										
担当教員	清水 健太																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
本講義では、19世紀末から現在まで多種多様な展開をみせているアメリカ経営学を中心に「経営学の生成と展開」について解説する。経営理論を単なる学説史的な知識として習得するだけでなく、それらが企業の実践的要請にどのように応えてきたのか、現実の企業経営にどのような影響を与えてきたのか、そして現在の経営課題とどのように関連づけることができるかについて、理解し思考することが本講義の目標である。																		
授業目標：																		
【知識・理解】経営学の生成と展開をわかりやすく説明できる。【思考・判断】経営に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】現実の企業経営のケースを経営理論と結び付けて考えることができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	オリエンテーション：経営学の学び方				事前：参考書の確認 事後：配布資料の確認		講義 90分											
2	生産と管理の合理化 (1) 科学的管理法：泰勒				事前：労働者の怠業問題 事後：科学的管理法について		講義 60分・小テスト 30分											
3	生産と管理の合理化 (2) 大量生産体制：福特				事前：大量生産体制 事後：科学的管理法との関係		講義 60分・小テスト 30分											
4	生産と管理の合理化 (3) 管理過程と管理原則：ファヨール				事前：管理過程とは何か 事後：科学的管理法との相違		講義 60分・小テスト 30分											
5	人間の理論 (1) 人間性への着目：人間関係論				事前：人間関係論の背景 事後：科学的管理法の問題点		講義 60分・小テスト 30分											
6	人間の理論 (2) 行動科学的思想：マズローとマグレガー				事前：経済仮説との関係 事後：欲求階層説について		講義 60分・小テスト 30分											
7	組織の理論 (1) 公式組織論：バーナード				事前：組織の定義 事後：人間協働の意味		講義 60分・小テスト 30分											
8	組織の理論 (2) 意思決定論：サイモン				事前：最適化原理 事後：満足化原理		講義 60分・小テスト 30分											
9	組織の理論 (3) 組織の環境適合：コンティンジェンシー理論				事前：環境変化とは何か 事後：理想的組織は何か		講義 70分・小テスト 20分											
10	戦略の理論 (1) 戦略計画学派：アンソフ ① アンソフの成長マトリックス				事前：戦略論の背景 事後：多角化戦略の意味		講義 70分・小テスト 20分											
11	戦略の理論 (2) 戦略計画学派：アンソフ ② 多角化戦略				事前：多角化の様々な形態 事後：多角化とリスクの関係		講義 70分・小テスト 20分											
12	戦略の理論 (3) ポジショニング・ビュー：ポーター ① 5つの競争要因				事前：ポーターの基礎理論 事後：5つの競争要因		講義 70分・小テスト 20分											
13	戦略の理論 (4) ポジショニング・ビュー：ポーター ② 競争戦略				事前：競争戦略全般 事後：ポーターの基礎理論		講義 70分・小テスト 20分											
14	戦略の理論 (5) リソース・ベースト・ビュー：ハメル&プラハラード				事前：資源ベース論 事後：模倣困難性の意味		講義 70分・小テスト 20分											
15	全体のまとめ				事前：全体の内容 事後：		講義 90分											
教本：																		
佐久間信夫・坪井順一(2016)『現代の経営管理論』第三版 学文社																		
参考文献：																		
①北野利信編『経営学説入門』有斐閣																		
②渡辺峻・角野信夫・伊藤健市編『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房、他																		
成績評価の方法、評価基準：																		
下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。																		
小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような講義を目指します。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	経営学総論II (Principle of Management II)					科目分類	専門科目													
担当教員	小柏 喜久夫																			
履修条件	前提科目	なし																		
その他																				
授業概要：																				
環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。企業論、事業論、組織論及び管理論の各領域における具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。																				
授業目標：																				
①経営学の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	ガイダンス			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
2	経営学の体系			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により全体観をつくる			講義 70分質疑応答 20分													
3	事例：メルカリのビジネス・モデルを説明する			事前：教本10-20頁通読 事後：ノート・教本によりモデルを理解する			講義 70分質疑応答 20分													
4	企業を起こす、起業のプロセスを解説する			事前：教本20-31頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
5	課題学習			事前：教本10-31頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
6	事例：カゴメのファン株主拡大戦略を説明する			事前：教本32-45頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
7	コーポレート・ガバナンスを解説する			事前：教本45-54頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
8	課題学習			事前：教本32-54頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
9	事例：破壊的技術への富士フィルムの対応を説明する			事前：教本130-144頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
10	製品開発と新規事業創造を解説する			事前：教本144-150頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
11	課題学習			事前：教本130-150頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 45分小テスト 45分													
12	事例：サントリーの新飲料開発を説明する			事前：教本253-263頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
13	成熟市場における商品開発について解説する			事前：教本263-270頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分													
14	課題学習			事前：教本253-270頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分													
15	再び、経営とは何か、を考える			事前：印刷資料の精読 事後：ノート・教本により要点と自分の意見をまとめる			講義 45分質疑応答 45分													
教本：																				
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税 随時提示します。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）で総合評価します。																				
学生へのアドバイス：																				
欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝えます。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい																								
その他																										
授業概要:																										
経営学総論Ⅱでは、経営学総論Ⅰで経営学の基礎理論を学んだ学生を前提として、企業の実態を学ぶ企業論に近い内容に重点を置き、企業の行動原理や企業の仕組みを理解することを目的にする。																										
授業目標:																										
①企業の行動原理について説明できる。 ②日本企業の課題や特徴について説明できる。 ③経営学の専門科目を学ぶ基礎的知識や学習方法を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション: 経営学の学び方				事前: 参考図書の確認 事後: 講義計画の確認			講義 90分																		
2	企業の行動原理①株式会社の成立				事前: 企業と株主の関係 事後: 株主の有限責任			講義 70分・小テスト 20分																		
3	企業の行動原理②起業と資金調達				事前: 企業と銀行の関係 事後: 株主からの資金調達			講義 70分・小テスト 20分																		
4	企業の行動原理③投資家と株式公開				事前: 株主の行動原理 事後: 株式公開とは何か			講義 70分・小テスト 20分																		
5	コーポレート・ガバナンス①企業統治の仕組み				事前: 所有と経営の分離 事後: 企業統治の形態			講義 70分・小テスト 20分																		
6	コーポレート・ガバナンス②経営者報酬の仕組み				事前: 所有と経営の分離 事後: 経営者報酬の形態			講義 70分・小テスト 20分																		
7	企業グループの形成①持株会社の成立				事前: 独占禁止法との関係 事後: 全社戦略と事業戦略			講義 70分・小テスト 20分																		
8	企業グループの形成②多角化経営と事業ポートフォリオ				事前: PPM分析 事後: 金のなる木の衰退			講義 70分・小テスト 20分																		
9	企業グループの形成③選択と集中の戦略				事前: シナジーとは何か? 事後: 長期の戦略との関係			講義 70分・小テスト 20分																		
10	イノベーション①経営環境の変化とイノベーションシステム				事前: イノベーションの定義 事後: イノベーションの定義			講義 70分・小テスト 20分																		
11	イノベーション②オープン・イノベーションへの変化				事前: オープン・イノベーションとは何か? 事後: オープン・イノベーションとは何か?			講義 70分・小テスト 20分																		
12	イノベーション③大企業からの新事業創造				事前: 現代のイノベーションシステム 事後: 現代のイノベーションシステム			講義 70分・小テスト 20分																		
13	企業の戦略①成長戦略				事前: アンゾフの成長マトリクス 事後: アンゾフの成長マトリクス			講義 70分・小テスト 20分																		
14	企業の戦略②競争戦略				事前: 5つの競争要因 事後: 5つの競争要因			講義 70分・小テスト 20分																		
15	全体のまとめ				事前: 全体の内容 事後: 全体の内容			講義 90分																		
教本:																										
佐久間信夫・坪井順一(2016)『現代の経営管理論 第3版』学文社																										
参考文献:																										
①忽那憲治他『ベンチャーキャピタルハンドブック』、②柿崎洋一『企業論』、③井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』																										
成績評価の方法、評価基準: 下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。																										
小テスト(6点×13回: 78%)、定期試験(22%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような授業を目指します。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営管理論 I (Business Management I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	佐久間 信夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要 :																										
アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。LTD(討論による学習法)やプレゼンテーションも実施する。																										
授業目標 :																										
(1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。 (2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																		
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する				事前: テキストの確認 事後: 講義計画の確認			講義 90分																		
2	現代企業の諸形態①				事前: 企業の法律形態の下読み 事後: 企業経済形態をまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
3	現代企業の諸形態②				事前: プrezenの準備 事後: プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
4	日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス①				事前: 会社機関の下読み 事後: 取締役会をまとめる			講義 90分																		
5	日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス②				事前: プrezenの準備 事後: プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
6	アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス①				事前: 会社機関の下読み 事後: 機関投資家のまとめ			講義 45分、LTD 45分																		
7	アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス②				事前: 企業統治活動の下読み 事後: 企業改革法をまとめる			講義 90分																		
8	現代企業とステークホルダー①				事前: ステークホルダーを学習 事後: 企業不祥事をまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
9	現代企業とステークホルダー②				事前: プrezenの準備 事後: プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
10	現代企業の社会的責任①				事前: CSRの概念の下読み 事後: 各国のCSRをまとめる			講義 90分																		
11	現代企業の社会的責任②				事前: CSRの新動向の下読み 事後: SRIをまとめる			講義 90分																		
12	現代の企業倫理①				事前: プrezenの準備 事後: プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
13	現代の企業倫理②				事前: 企業の実践例を下読み 事後: 企業倫理の制度化			講義 45分、LTD 45分																		
14	現代企業の環境経営①				事前: プrezenの準備 事後: プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
15	現代企業の環境経営②				事前: 環境経営の類型を下読み 事後: 環境経営の方法のまとめ			LTD 90分																		
教本 :					参考文献 :																					
佐久間・大平編『新 現代経営学』学文社					佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
小テスト (70%)、レポート等 (30%) で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
授業には、必ず教科書と筆記用具を持って出席すること。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営管理論 I (Business Management I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	経営学総論 I を履修していることが望ましい																								
その他																										
授業概要:																										
経営管理論では、経営管理論の学説史的な発展を理解することを目的にしている。講義内容についての理解度を問う小テストを毎回行うことにより、基礎的な理解力を高めることを目的にする。																										
授業目標:																										
① 経営管理論の基本的な理論を説明できる。 ② 経営管理論の歴史的発展過程を説明できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション：経営管理論の学び方				事前：参考書の確認、 事後：講義スケジュールの確認			講義 90分																		
2	経営管理論の発展の概観				事前：経営管理論の背景 事後：経営管理論の流れ			講義 70分・小テスト 20分																		
3	経営管理者の仕事：ドッカーラー				事前：経営管理者の役割 事後：ドッカーラーの経営学			講義 70分・小テスト 20分																		
4	泰勒の科学的管理：①課業管理				事前：動作研究等 事後：差別の出来高給制度			講義 70分・小テスト 20分																		
5	泰勒の科学的管理：②職能別職長制				事前：専門的組織の意義 事後：職能別職長制の課題			講義 70分・小テスト 20分																		
6	法ヨールの経営管理過程論：①管理過程				事前：管理過程の流れ 事後：管理原則と管理論			講義 70分・小テスト 20分																		
7	法ヨールの経営管理過程論：②管理原則				事前：管理原則の内容 事後：大量生産方式との関連			講義 70分・小テスト 20分																		
8	フォードの大量生産方式				事前：科学的管理の関係 事後：専門化の原則			講義 70分・小テスト 20分																		
9	メイヨーらの人間関係論：ホーソン実験				事前：古典的管理の問題点 事後：人の感情と管理論			講義 70分・小テスト 20分																		
10	人間関係論と近代管理論				事前：欲求階層説 事後：科学的管理との関係			講義 70分・小テスト 20分																		
11	近代管理論と目標管理				事前：X理論の限界 事後：Y理論と目標管理			講義 70分・小テスト 20分																		
12	バーナードの組織論				事前：組織と共に目的 事後：組織の3要素			講義 70分・小テスト 20分																		
13	サイモンの意思決定論				事前：満足化原理 事後：満足化原理			講義 70分・小テスト 20分																		
14	事例研究				事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ			講義 70分・小テスト 20分																		
15	全体のまとめ				事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ			講義 90分																		
教本：																										
佐久間信夫・坪井順一(2016)『現代の経営管理論 第3版』学文社																										
参考文献：																										
渡辺峻 他『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』、 佐久間信夫・壽永欣三郎編『現代経営学の基礎』他																										
成績評価の方法、評価基準：下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。																										
小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる講義を目指します。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	経営管理論Ⅱ (Business Management Ⅱ)					科目分類	専門科目					
担当教員	佐久間 信夫			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要:	アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。											
授業目標:	(1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。 (2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養					
				○			○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式												
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する					事前: テキストの確認 事後: 講義計画の確認	講義 90分					
2	今日の企業制度① 企業形態の発展過程、現代企業への発展、制度的私企業形態と公私企業					事前: 企業形態の発展過程 事後: 私企業形態と公私企業	講義 45分、LTD 45分					
3	今日の企業制度② 株式会社の結合形態、現代企業のコーポレート・ガバナンス					事前: 株式会社の結合形態 事後: 株式会社のガバナンス	講義 90分					
4	現代の企業経営とマネジメント 現代社会の変化と企業経営、企業組織のマネジメント機能					事前: マネジメントの下読み 事後: マネジメント機能	講義 90分					
5	管理の主体と権限・責任① 現代における経営者の機能と責任、管理者の機能と責任					事前: プレゼンの準備 事後: プレゼンのまとめ	プレゼンテーション 90分					
6	管理の主体と権限・責任② 権限の源泉についての3つの理論上位権限説					事前: 上位権限説の下読み 事後: 権限職能説のまとめ	講義 45分、LTD 45分					
7	ティラーの科学的管理論① ティラーの生涯と業績、科学的管理論の背景、課業管理					事前: 科学的管理論 事後: 課業管理をまとめる	講義 90分					
8	ティラーの科学的管理論② 精神革命論、科学的管理法への批判と労働組合、科学的管理法の継承者たち					事前: 精神革命論の下読み 事後: 科学的管理法の継承者	講義 45分、LTD 45分					
9	ファヨールと管理過程学派① ファヨールの生涯と業績、企業管理と管理教育、管理原則					事前: プレゼンの準備 事後: プレゼンのまとめ	プレゼンテーション 90分					
10	ファヨールと管理過程学派② 経営管理の要素、ファヨール管理論の特質、管理過程学派					事前: 経営管理の要素の下読み 事後: 管理過程学派をまとめる	講義 90分					
11	人間関係論① 人間関係論の成立背景、ホーソン実験 照明実験 面接プログラム					事前: ホーソン実験の下読み 事後: インフォーマル組織	講義 90分					
12	人間関係論② 人間関係論の思想的・理論的基盤、人間関係論の意義および限界					事前: プレゼンの準備 事後: プレゼンのまとめ	プレゼンテーション 90分					
13	フォレットの経営管理論 プロセス観の基礎 組織化のプロセス 管理者の役割とリーダーシップ					事前: 状況の法則を下読み 事後: 管理者の役割をまとめる	講義 45分、LTD 45分					
14	経営計画の機能とその策定プロセス 企業における経営計画の諸機能 経営計画の策定プロセス					事前: プレゼンの準備 事後: プレゼンのまとめ	プレゼンテーション 90分					
15	組織デザインと調整、統合 組織デザインの考え方 組織形態とその具体的活用					事前: 組織原則を下読み 事後: 動態的組織をまとめる	LTD 90分					
教本:	参考文献: 佐久間信夫・犬塚正智編著『現代経営管理要論』創成社											
成績評価の方法、評価基準:	佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社 小テスト(70%)、レポート等(30%)で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	授業には、必ず教科書と筆記用具を持って出席すること。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営組織論 I (Management Organization I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	経営学総論 I を履修していることが望ましい																								
	その他	なし																								
授業概要:																										
経営組織論における理論的発展を学習することを目的にする。																										
授業目標:																										
【知識・理解】経営組織論の基本的な理論をわかりやすく説明できる。【思考・判断】経営組織論に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】現実の企業経営のケースを経営組織論と結び付けて考えることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	オリエンテーション：組織論の学び方			事前：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。 事後：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。			講義 90分																			
2	組織とは何か？			事前：組織の定義・概念について理解する。 事後：組織の定義・概念について理解する。			講義 70分・小テスト 20分																			
3	組織構造の設計			事前：組織構造の様々な形態を理解する 事後：組織構造の様々な形態を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
4	官僚制組織の発展			事前：官僚制組織の意義 事後：官僚制組織の課題			講義 70分・小テスト 20分																			
5	外部の不確実性への対応と経営組織			事前：外部環境と組織の関係を理解する 事後：外部環境と組織の関係を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
6	コンティンジェンシー理論：環境変化への適応			事前：環境変化と組織の関係 事後：環境変化と組織の関係			講義 70分・小テスト 20分																			
7	事例分析：コーネーテクモホールディングス (コンティンジェンシー理論：環境変化への適応)			事前：事例の企業の概略を理解していく 事後：			講義 70分・小テスト 20分																			
8	資源ベース論（リソース・ベースド・ビュー）			事前： 事後：資源ベース論における組織の役割を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
9	コア・コンピタンス経営			事前： 事後：コア・コンピタンスとは何か？			講義 70分・小テスト 20分																			
10	事例分析：サンリオ (資源ベース論)			事前：事例の企業の概略を理解していく 事後：			講義 70分・小テスト 20分																			
11	合併・買収と大規模企業グループの形成			事前：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する 事後：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
12	組織文化の統合と合併・買収			事前：合併・買収における組織文化の問題を理解する 事後：合併・買収における組織文化の問題を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
13	ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ			事前：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する 事後：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する			講義 70分・小テスト 20分																			
14	事例分析：京セラ (ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ)			事前：事例の企業の概略を理解していく 事後：			講義 70分・小テスト 20分																			
15	全体のまとめ			事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ			講義 90分																			
教本：					参考文献：																					
佐久間信夫・坪井順一(2011)『現代経営組織論の基礎』学文社					柿崎洋一『企業論』、井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』、 萩原俊彦『多角化戦略と経営組織』、他																					
成績評価の方法、評価基準：																										
下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる講義を目指します。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営組織論 II (Management Organization II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	経営学総論 I を履修していることが望ましい																								
その他																										
授業概要:																										
後期の経営組織論は多角化経営などにより複雑に変化した企業組織の問題を理解することを目的にしている。																										
授業目標:																										
【知識・理解】経営組織論の基本的な理論をわかりやすく説明できる。【思考・判断】経営組織論に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】現実の企業経営のケースを経営組織論と結び付けて考えることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)				授業形態																		
1	オリエンテーション:組織論の学び方			事前:講義スケジュールの確認 事後:講義スケジュールの確認				講義 90分																		
2	組織とは何か?			事前:前期の復習 事後:前期の復習				講義 70分・小テスト 20分																		
3	産業資本主義の発展と企業成長			事前:企業成長と産業資本主義の関係 事後:企業成長と産業資本主義の関係				講義 70分・小テスト 20分																		
4	単一事業の限界と多角化戦略			事前:企業成長と多角化経営の関係 事後:企業成長と多角化経営の関係				講義 70分・小テスト 20分																		
5	多角化戦略と事業ポートフォリオの最適化			事前:事業ポートフォリオに関する理解 事後:事業ポートフォリオに関する理解				講義 70分・小テスト 20分																		
6	事業ポートフォリオの最適化とPPM分析			事前:PPM分析における木の意味 事後:PPM分析における木の意味				講義 70分・小テスト 20分																		
7	事例分析1:カプコン (企業成長と多角化戦略)			事前:事例企業の概略を理解していく 事後:				講義 70分・小テスト 20分																		
8	事例分析2:ソフトバンク (事業ポートフォリオの最適化とPPM分析)			事前:事例企業の概略を理解していく 事後:				講義 70分・小テスト 20分																		
9	組織における経営者の役割			事前:経営者と経営理念 事後:				講義 70分・小テスト 20分																		
10	持株会社形態の発展と企業グループの形成			事前:持株会社形態の意義を理解する 事後:持株会社形態の意義を理解する				講義 70分・小テスト 20分																		
11	全社戦略と事業戦略			事前:持株会社形態における戦略レベルの違いを理解する 事後:持株会社形態における戦略レベルの違いを理解する				講義 70分・小テスト 20分																		
12	オープン・イノベーションと組織を超えたネットワーク			事前:企業という組織を超えたイノベーションシステムを理解する 事後:企業という組織を超えたイノベーションシステムを理解する				講義 70分・小テスト 20分																		
13	事例分析1:株式会社バンダイナムコホールディングス (持株会社形態と経営戦略)			事前:事例企業の概略を理解していく 事後:				講義 70分・小テスト 20分																		
14	事例分析2:KDDI (オープン・イノベーションと組織を超えたネットワーク)			事前:事例企業の概略を理解していく 事後:				講義 70分・小テスト 20分																		
15	全体のまとめ			事前:全体のまとめ 事後:全体のまとめ				講義 90分																		
教本:																										
佐久間信夫・坪井順一(2011)『現代経営組織論の基礎』学文社																										
参考文献:																										
柿崎洋一『企業論』、井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』、 萩原俊彦『多角化戦略と経営組織』、他																										
成績評価の方法、評価基準:																										
下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト(6点×13回:78%)、定期試験(22%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる講義を目指します。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論 I (Business Culture I)					科目分類	専門科目		
担当教員	小柏 喜久夫			履修条件	前提科目	なし	その他	なし	
授業概要:									
	経営と文化の関係づけを通して現実の経営の諸問題について学習していきます。この学習は、企業活動の国際化の進展・深化ならびに社会関係の複雑化とともに重要性をより増しています。そこで、この授業では、経営と文化の関係づけの基礎となる見方・考え方・感じ方・決め方を検討し、授業計画に示した各課題をひとつずつ解説していきます。								

## 授業目標:

経営を文化の視座からアプローチすることにより、経営の諸問題に対応可能な実践知識を身につけていきます。

## カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
○		○

## 授業計画・事前学習・事後学習・形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	経営文化論と松蔭大学：経営文化学部の講義としての経営文化論のあり方を考える	事前：シラバスを通読 事後：シラバスに示されているストーリーを復習	講義 70分質疑応答 20分
2	経営文化論の背景を三点説明する	事前：参考文献の読み取り 事後：三点の確認	講義 70分質疑応答 20分
3	経営の見方と文化の見方、またその関係を考える	事前：教本1.の読み取り 事後：特に二者の関係を確認	講義 70分質疑応答 20分
4	経営と文化の諸問題を列挙し、経営学と人類学の交わりを追う	事前：参考文献の読み取り 事後：経営学と人類学との交流の事例をまとめ、なぜかを考える	講義 70分質疑応答 20分
5	経営の統合原理としての文化基準を考える	事前：教本1.の読み取り 事後：なぜ経営文化なのか、をまとめる	講義 70分質疑応答 20分
6	二つのアプローチ：エティックとイーミックによる文化理解の方法を解説する	事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
7	日米比較経営論と日本の経営論：二つのアプローチから日本の経営の把握を行う	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
8	経営文化の変容モデル：四つのモデルを説明する	事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
9	多文化組織の経営：ダイバーシティ・マネジメントの諸問題を解説する	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
10	国際経営組織の心理と文化：C.A.バートレット & S.ゴシャールの仮説を検討する	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
11	事例学習1——小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者vs米国の株主(1)	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
12	事例学習1——小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者vs米国の株主(2)	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
13	事例学習2——ソニーの海外事業買収と経営文化(1)	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
14	事例学習2——ソニーの海外事業買収と経営文化(2)	事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ	講義 70分質疑応答 20分
15	経営文化学の構想	事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ	講義 70分質疑応答 20分

## 教本:

1. 宮森千嘉子・宮林隆吉『経営戦略としての異文化適応力』  
日本能率協会マネジメントセンター、¥1,800+税  
2. 印刷資料も用います。

## 参考文献:

1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂、¥3,800+税  
2. 東北大大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣、¥2,500+税

## 成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価します。

授業内容への参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)で総合評価します。

## 学生へのアドバイス:

欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。

## オフィスアワー:

初回講義日に伝えます。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営文化論 I (Business Culture I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
企業が経営を行うことにより、その組織における長い習慣などから経営文化や企業文化が成立する。こういった経営文化や企業文化が経営行動にどのような影響を与えるのかを学習する。																										
授業目標:																										
経営組織における経営文化の成立などについて理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義資料の確認		講義 90分																		
2	経営文化論の背景を理解する					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
3	経営文化と経営組織の関係					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
4	ドメインと経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
5	経営理念と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
6	事例研究 1：松蔭大学					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
7	事例研究 2：任天堂					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
8	事例研究 3：カブコン					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
9	事例研究 4：コロプラ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
10	経営文化の変容					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
11	経営文化とグローバル化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
12	ダイバーシティと経営文化(1)					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
13	ダイバーシティと経営文化(2)					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
14	期末試験の説明と前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
15	前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
教本：																										
佐久間信夫・村山元理・井上善博（2024）『経営文化論』法律文化社 参考文献：																										
特になし																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（65%）、定期試験（25%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
欠席すると単位の取得は難しくなります。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	経営文化論 I (Business Culture I)						科目分類	専門科目														
担当教員	仲 伯維																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
現代企業を取り巻く環境の変化は加速度を高め、その展開対象たる場の範囲、内容、質等の多岐にわたる高度化が一層進展する状況にある。企業活動は、企業内共有された価値観である経営文化から強い影響を受けるとされている。内容としては、現代企業における実践的活動課題としての国際経営に関する諸検討を主たる構成とし、これまでの経営学に文化を重視した視点を取り込む。これらに鳥瞰的検討と分析を通じて本講義の主たる目的への到達を図る。																						
授業目標：																						
日本、アメリカおよび中国の経営を考察することによって、経営文化の本質が理解できる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	イントロダクション：講義の目的と全体像				事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
2	経営理念とビジョン：松蔭大学の建学精神「知行合一」から				事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 60 分 + ディスカッション 30 分															
3	株式会社の形成と日本における近代企業の展開と発展				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
4	日本経営の特徴				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
5	日本経営の諸機能				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分 + ディスカッション 30 分															
6	中国の経営文化の形成：「秦始皇帝の中央集権」と「経営戦略（孫子兵法）」				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
7	日中企業の経営比較：理論とケーススタディ				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分 + ディスカッション 30 分															
8	アメリカ経営文化とアングロ・サクソン文化の変質				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
9	日米企業の経営比較：キャビタリスト・キャビタリズム（株主中心資本主義）とカンパニー・キャビタリズム（会社中心型資本主義）				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分 + ディスカッション 30 分															
10	エネルギー革命—環境経営文化：CSR 経営の評価：環境・CSR 報告書、SRI（社会的責任投資）の評価基準、ESG				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
11	日本式経営海外での展開				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 + 小レポート															
12	経営文化の変容と融合：海外日系企業の現地社員の育成				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
13	伝統的な経営文化—事業継承における経営文化の統合				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
14	新経営文化の形成—ビッグ・テック：GAFA(米)、BAT(中) Google, Apple, Facebook, Amazon; Baidu, Alibaba, Tencent				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分 + ディスカッション 30 分															
15	レポート作成指導と全体のまとめ				事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 90 分															
教本：		参考文献： 特に指定しない。プリントを配布。																				
授業中に適宜、参考図書及び参考ウェブサイトを提示する。																						
成績評価の方法、評価基準：																						
出席重視。授業参加状況等（30%）、小テスト・小レポート（10%）、レポート（60%）で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	経営文化論Ⅱ (Business Culture Ⅱ)					科目分類	専門科目												
担当教員	小柏 喜久夫																		
履修条件	前提科目	経営文化論Ⅰ			その他	なし													
授業概要：																			
経営文化論Ⅰの理解を基礎にして、日本の経営文化を表層にとどまることなく深層から理解すべく、これまでのフィールドワークの成果に基づき、日本の経営文化の諸問題の現在と今後の課題について考えていきます。経営理念および思考方式、意思決定方式、人事・教育・開発・養成、財務・経営報告の諸領域に及ぶ日本の経営文化の諸問題を体系的に認識したうえで、事例学習によりその理解を確かめています。																			
授業目標：																			
日本の経営文化を理解し、経営を文化との関係において考察する手法を身につけ、時代の変化のなかで経営のパラダイムシフトの方向について考える力をつけていきます。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○						○													
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	日本の経営文化－理解の枠組みを考える			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義70分質疑応答20分												
2	－経営理念および経営思考様式			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分												
3	－組織と意思決定方式			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分												
4	－人事・能力開発および経営者教育			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分												
5	－マーケティング構造と生産方式			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分												
6	事例1 日立製作所：「日本の経営」とは何だったのか、を考える(1)－事例の通読			事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ			講義70分質疑応答20分												
7	事例1 日立製作所：「日本の経営」とは何だったのか、を考える(2)－事例の解説			事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ			講義70分質疑応答20分												
8	事例1 日立製作所：「日本の経営」とは何だったのか、を考える(3)－課題学習			事前：印刷資料の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分												
9	事例2 トヨタ自動車：日本の生産システムの特徴を理解し、「日本の」の根拠を考える(1)－事例の通読			事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分												
10	事例2 トヨタ自動車：日本の生産システムの特徴を理解し、「日本の」の根拠を考える(2)－事例の解説			事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分												
11	事例2 トヨタ自動車：日本の生産システムの特徴を理解し、「日本の」の根拠を考える(3)－課題学習			事前：教本の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分												
12	事例3 双日：「日本の経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(1)－事例の通読			事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分												
13	事例3 双日：「日本の経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(2)－事例の解説			事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分												
14	事例3 双日：「日本の経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(3)－課題学習			事前：教本の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分												
15	パラダイム・シフトの方向			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義70分質疑応答20分												
教本：																			
1. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税 2. 印刷資料も用います。																			
参考文献：																			
1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂、¥3,800+税 2. 宮森千嘉子・宮林隆吉『経営戦略としての異文化適応力』日本能率協会マネジメントセンター、¥1,800+税																			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。																			
授業内容への参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)で総合評価します。																			
学生へのアドバイス：																			
欠席しないことが大前提です。積極的に取り組み、自己学習能力を高めるよう期待します。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝えます。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営文化論 II (Business Culture II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	清水 健太																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要： 企業が経営を行うことにより、その組織における長い習慣などから経営文化や企業文化が成立する。こういった経営文化や企業文化が経営行動にどのような影響を与えるのかを学習する。																										
授業目標： 経営組織における経営文化の成立などについて理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義資料の確認		講義 90分																		
2	日本の経営文化を理解する					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
3	トヨタ生産方式					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
4	京セラのアメーバ経営					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
5	日本型経営と経営文化論					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
6	日本型経営とアメリカ型経営					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
7	コーポレートガバナンスと経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
8	経営文化と企業倫理					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
9	経営文化とコンプライアンス					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
10	グループ経営と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
11	グローバル化と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
12	事例研究1：トヨタ自動車					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
13	事例研究2：ソニー					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
14	期末試験の説明と前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
15	前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
教本： 佐久間信夫・村山元理・井上善博（2024）『経営文化論』法律文化社					参考文献： 特になし																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（65%）、定期試験（25%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 欠席すると単位の取得は難しくなります。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	経営文化論Ⅱ (Business Culture Ⅱ)					科目分類	専門科目												
担当教員	仲 伯維																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要:																			
古今東西を問わず、歴史上、転換期は激動の時代であった。地球温暖化による気候変動や、世界を一変させた新型コロナのパンデミックは、社会・経済・環境にまたがる複合的な変革に突きつけている。現在、企業経営は大きな変容のなかにある。特に価値観や社会文化の変化は、企業経営の基盤を根本的に変革させる。内容としては、変化しない文化と変化する文化を統合する日本の経営文化の特質について言及する。次に、春学期に引き続き基本テーマは、経営学に文化を重視した視点を取り込む。グローバル化の現在、国によりコア文化が違うことから異国経営文化を理解した上で、ケーススタディを通じて日本企業の諸現象を論理的考える能力を高め、日本の経営文化の特質分析を行う。																			
授業目標:																			
皆さんの一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非社会で実践してください。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態												
1	イントロダクション：講義の目的と全体像、成績の評価					事前：なし 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
2	日本の底部文化と上部文化：集団主義と個人主義					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
3	JIT (Just in Time)－トヨタ生産方式					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 60 分 + ディスカッション 30 分												
4	人的資産管理の全体最適：シェアード・サービス					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
5	小売・流通業界に向けたグループ化と経営文化融合					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 60 分 + ディスカッション 30 分												
6	日本の経営文化の特質：コーポレート・ガバナンス 日本の経営者とアメリカの株主					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
7	企業、社員の再教育とBSC (バランスド・スコア・カード)					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
8	WACC (平均加重資本コスト) の考え方と責任管理システム					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 60 分 + ディスカッション 30 分												
9	MPC : (Micro Profit Center) : 京セラのアーベンバ経営とハイアールの「班組」					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
10	分権性組織の業績管理					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
11	事業部制とカンパニー制					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 60 分 + 小レポート												
12	天然資源枯渇問題と関連企業の環境経営					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
13	環境経営の評価と環境ハーフォーマンス：環境と経済と経営・会計との関わり。持続可能な経済社会の実現 (SDGs)					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 60 分 + ディスカッション 30 分												
14	経営文化と企業倫理・コンプライアンスの新展開：ECS2000					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
15	レポート作成指導と全体のまとめ					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習	講義 90 分												
教本：					参考文献： 勝山進(2004)『環境会計の理論と実態』中央経済社。 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂。														
成績評価の方法、評価基準：																			
授業参加状況等 (30%)、小テスト (10%)、レポート (60%) で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経営分析論 I (Business Analysis I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	高橋 琢也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
経営分析論 I・IIでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのかを理解できるようにする。経営分析論 I では、安全性分析と収益性分析についてグループワークをとおして学修する。																										
授業目標：																										
財務諸表（連結財務諸表）の特徴および安全性分析と収益性分析、効率性分析を理解することを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	経営分析の基礎 経営分析の意義や方法等について解説する。				事前：第1章を読む 事後：復習ノートの作成			講義90分																		
2	連結貸借対照表 連結貸借対照表の特徴について解説する。				事前：テキスト22-33頁 事後：復習ノートの作成			講義70分 問題演習20分																		
3	安全性分析1（短期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いた短期の安全性分析について解説する。				事前：テキスト50-58頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分																		
4	安全性分析2（長期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いた長期の安全性分析について解説する。				事前：テキスト58-69頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分																		
5	グループワーク1（短期の安全性分析） 短期の安全性分析についてグループで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分																		
6	グループワーク2（長期の安全性分析） 長期の安全性分析についてグループで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分																		
7	グループ発表1（安全性分析） グループで行った安全性分析の結果を発表してもらう。				事前：発表資料の準備 事後：発表を行っての反省			発表90分																		
8	連結損益計算書 連結損益計算書の特徴について解説する。				事前：テキスト34-39頁 事後：復習ノートの作成			講義70分 問題演習20分																		
9	収益性分析1（売上高と利益） 連結損益計算書の売上高と利益の分析について解説する。				事前：テキスト78-92頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分																		
10	収益性分析2（ROA・ROIC） ROA・ROICについて解説する。				事前：テキスト100-105頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分																		
11	収益性分析3（ROE） ROEについて解説する。				事前：テキスト105-116頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分																		
12	グループワーク3（売上高と利益） 売上高と利益の分析についてグループで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分																		
13	グループワーク4（ROA） ROAによる分析についてグループで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分																		
14	グループワーク5（ROE） ROEによる分析についてグループで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分																		
15	グループ発表2（収益性分析） グループで行った収益性分析の結果を発表してもらう。				事前：発表資料の準備 事後：発表を行っての反省			発表90分																		
教本：																										
乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館出版。																										
参考文献：																										
桜井久勝『財務諸表分析』（最新版）、中央経済社。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
発表（50%）およびレポート（50%）で評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	経営分析論Ⅱ (Business Analysis Ⅱ)					科目分類	専門科目															
担当教員	高橋 琢也			授業概要 :																		
履修条件	前提科目	なし	授業目標 :																			
	その他	なし	経営分析論Ⅰ・Ⅱでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのか理解できるようにする。経営分析論Ⅱでは、経営分析論Ⅰの内容を踏まえて、付加価値生産性と効率性分析、キャッシュ・フロー（CF）に関する分析についてグループワーク（GW）をとおして学修する。	授業目標 :																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	経営分析論Ⅰのおさらい1（安全性分析） 経営分析論Ⅰで扱った安全性分析についてGWで確認する。				事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成			講義30分 問題演習60分														
2	経営分析論Ⅰのおさらい2（収益性分析） 経営分析論Ⅰで扱った収益性分析についてGWで確認する。				事前：配布資料の確認 事後：復習ノートの作成			講義30分 問題演習60分														
3	付加価値生産性1（付加価値生産性と基本指標） 付加価値生産性について解説する。				事前：テキスト210-221頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
4	付加価値生産性2（付加価値生産性の分解による指標） 付加価値生産性に関する指標について解説する。				事前：テキスト210-221頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
5	グループワーク1（付加価値生産性と基本指標） 付加価値生産性と基本指標についてGWで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分														
6	グループワーク2（付加価値生産性の分解による指標） 付加価値生産性の分解による指標についてGWで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分														
7	グループ発表1（付加価値生産性） GWで行った付加価値生産性について発表してもらう。				事前：発表資料の準備 事後：発表を行っての反省			発表90分														
8	効率性分析 効率性分析に関する指標について解説する。				事前：テキスト120-128頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
9	グループワーク3（効率性分析） 効率性分析についてグループワークで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分														
10	キャッシュ・フロー計算書の区分間の関係 キャッシュ・フローの区分間の関係について解説する。				事前：テキスト134-148頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
11	キャッシュ・フローに関する分析1（総合的な分析） キャッシュ・フローの総合的な分析について解説する。				事前：テキスト148-155頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
12	キャッシュ・フローに関する分析2（効率性分析） 回転率・回転期間について解説する。				事前：テキスト148-155頁 事後：復習ノートの作成			講義50分 問題演習40分														
13	グループワーク4（CFの総合的な分析） CFの総合的な分析についてグループワークで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分														
14	グループワーク5（CFの効率性分析） CFの効率性分析についてグループワークで取り組む。				事前：復習ノートの確認 事後：作業状況の確認			講義20分 グループワーク70分														
15	グループ発表2 GWで行った効率性分析とCF分析について発表してもらう。				事前：発表資料の準備 事後：発表を行っての反省			発表90分														
教本 :		参考文献 : 乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館出版。 桜井久勝『財務諸表分析』（最新版）、中央経済社。																				
成績評価の方法、評価基準 :																						
発表（50%）およびレポート（50%）で評価する。																						
学生へのアドバイス :																						
必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																						
オフィスアワー :																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	経営リスクマネジメント論 (The Risk and Crisis Management for Business Administration)						科目分類		専門科目								
担当教員	宮林 正恭																
履修条件	前提科目	なし		その他	なし												
授業概要：																	
ビジネスには、リスクはつきものである。また、大きな収益を狙おうとすれば、より高いリスクを許容せざるを得ないのが通常である。リスクは発現し危機となる可能性のあるから、ビジネスにおいては、時には危機となることもありうる。この授業では、ビジネスに於ける、リスク・コントロールなどリスクの取り扱いの仕方、リスクのある状況の中での組織の運営、そして、万一、危機が発生したときの経営の仕方やあり方ならびにその関連事項について学ぶ。																	
学生が経営とは何か、どのように経営が行われているか、経営の基礎理論などについて十分知識を有していない場合はそのような経営の基礎にまで遡つて授業を行う予定である。その場合は必ずしも下記のスケジュールにこだわらず授業を行うことになる。																	
授業目標：①経営におけるリスクと危機の概念を理解する。 ②経営におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのような特性を持っているか理解する。 ③経営におけるリスクや危機をどのようにコントロールするかを理解する。 ④リスクを低減するためのマネジメント手法および危機になった時の行動の仕方について理解する。 ⑤リスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションなどリスクや危機に際しての対外関係のあり方の理解をする。 ⑥その他、経営におけるリスクや危機に関する関連事項を理解する。																	
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																	
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	オリエンテーション 経営におけるリスクおよび危機の存在			事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
2	経営の際のリスクマネジメント 事業継続マネジメント			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
3	不況、経営不振、ガバナンスリスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
4	コーポレートガバナンス（内部統制、監査システム）			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
5	人に絡むリスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
6	市場リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
7	投資リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
8	投資リスクへの金融手法の活用、供給リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
9	技術関連リスク 環境・社会関連リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
10	災害リスク、将来迎えるであろう環境変化のリスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
11	リスクの取り扱いに関する考え方			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
12	リスクの取り扱いの方法論			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
13	リスクへの備え（危機マニュアル、リスクファイナンス、リスクコミュニケーション、リスク監視）			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
14	企業（組織）の危機時の行動のあり方			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
15	全体のまとめ			事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分										
教本：		参考文献：															
なし		『リスク危機マネジメントのすすめ』宮林正恭、丸善出版															
成績評価の方法、評価基準：																	
中間レポート、期末レポートを含む授業への参加度合い(60%)、期末試験(40%)等で総合評価する。																	
学生へのアドバイス：																	
ビジネスの世界は常に動いている。それを題材にするので、社会の経済ニュースに常に关心を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報を入手し、理解するように努めてほしい。																	
オフィスアワー：																	
初回講義日に伝える。																	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	景観論 I (Landscape Studies I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	飯島 祥二																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
景観研究の学際性を検討し、観光学領域から景観学を概観する。そして、観光学における景観現象の「解釈」と「実践」を説明する。観光領域に関する「景観環境」はアトラクション認知に深く関わる重要な要素であり、この構造を観光学領域において体系的に説明する。そして、観光地計画等への応用と共に、観光学の枠組みにおける景観環境の役割を考察する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																										
授業目標：																										
①景観の構造について理解する。 ②観光学（魅力特性）の枠組みにおける景観の意味を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分																			
2	景観概念とそのタームの歴史的理 解 (景観という語の誕生とその変遷)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
3	景観学領域の学際性 (美術・地理学研究領域からのアプローチ)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
4	感性工学から検討した景観(1) (五感における視覚の優位性について)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
5	感性工学から検討した景観(2) (サウンドスケープ等、その他の感覚における環境認識と景観環境)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 60分、ディスカッション 20分																			
6	観光学からのアプローチの特性 (観光対象を提示するという意味での景観環境)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
7	観光資源学からの景観(1) (地理的領域からの景観環境)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
8	観光資源学からの景観(2) (観光資源の分類と景観環境)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
9	観光資源学からの景観(3) (観光資源と観光対象(attraction)の類似と相違を巡って)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
10	「観光者がまなざし(gaze)を向ける対象」としての景観(1) (眼差しと景観環境)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
11	「観光者がまなざしを向ける対象」としての景観(2) (ツーリストのattractionの認知と景観)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 60分、ディスカッション 20分																			
12	景観学各論(1) (ヨーロッパの景観観)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
13	景観学各論(2) (中国の景観観)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
14	景観学各論(3) (わが国の景観観)				事前：次の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、小レポート 10分																			
15	纏め				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10分、講義 80分																			
教本：		参考文献： 授業ごとにプリントを配布する。 適宜指示する。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
観光学の立場から景観を分かりやすく説明します。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	景観論II (Landscape Studies II)						科目分類	専門科目														
担当教員	飯島 祥二																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
景観学の学際性を検討し、景観の認知に関わる枠組みの理解を深める。当該講義は、観光系の講義であるため、観光学（マーケティング）における景観環境の役割の構造的理解を促す。本講義は、森羅万象的な景観要素のうち、「景観認知」に着眼し、「景観の意味」、「景観の計測・分析法」、「景観の観光学・マーケティングへの応用」などを通じ、観光学における応用を学修する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																						
授業目標：																						
①景観の構造について理解する。 ②観光学の枠組みでの景観現象を理解する。 ③景観環境のもつ魅力特性(attraction)の側面の構造的理解を促す。 ④景観学と観光学の学際的領域の理解を深める。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義 90分														
2	景観環境と景観形成 (景観の分類、関連法規、景観計画の実際)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
3	景観環境の各構成要素と「景観環境」の観光学における意味 (各基幹学問領域と観光学の学際性)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
4	景観学の研究史 (景観の研究史とその現在)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
5	景観という環境 (身近な環境としての景観環境)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
6	景観の認知(1) (景観の認知に関わる人間・環境系 [環境心理学])				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分														
7	景観の認知(2) (日常性と非常常性 [観光行動学])				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
8	景観の構造的理解(1) (その分析手法の紹介)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分														
9	景観の構造的理解(2) (その分析手法による事例)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分														
10	景観の地域的差異(1) (既存研究の分析から)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 30分、 フィールドワーク 50分														
11	景観の地域的差異(2) (地域的差異の観光学的意味)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 30分、 フィールドワーク 50分														
12	景観の地域的差異(3) (地域的差異の観光マーケティング)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
13	景観環境とマーケティング (景観環境と魅力特性(attraction)とベネフィット(benefit))				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
14	今後、景観環境をどのように観光学に応用するか (景観学と観光学の接点)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分														
15	纏め				事前：今までの講義の復習 事後：講義全般的復習			前回の確認 10分、講義 80分														
教本：		参考文献：																				
授業ごとにプリントを配布する。		適宜指示する。																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
景観色彩を分かりやすく説明します。また、色彩学の基礎も説明し、色彩学への道筋を教示する。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	経済学 (Economics)					科目分類	基礎科目					
担当教員	宮崎 隆			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要：	私たちが誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としてモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をすること。CO <sub>2</sub> の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。											
授業目標：	先ず、専門用語と統計数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作つて下さい。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。PBL(課題解決型学習)もやります。											
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養							
○	○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態					
1	ガイダンス：授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。情報収集の方法等。					事前：経済問題をメモ 事後：経済用語表を作成	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
2	世界の中の日本：日本はどうに成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。					事前：日本経済の歴史を知る 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。					事前：統計数字を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態、コロナ禍で地方移住は進むか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。					事前：専門用語を知る 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
8	エネルギー経済：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等					事前：電気理論の基礎を学ぶ 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
10	交通経済学：電気自動車 なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わらるのか。					事前：EVの基礎を学ぶ 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
12	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
13	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
14	医療の経済学1：医療政策 わが国の行政と医療。新型コロナ禍にみる政策の展開。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
15	医療の経済学2：医療資源（人的資源、医療施設・医療機器・医薬品など）と今後の動向。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)					
教本：	参考文献： なし。(適宜、資料を配布します。) なし。(関連情報源を随時提示します。)											
成績評価の方法、評価基準：	成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。なお、指定のリポートの他に追加の自主リポートの提出を認め、成績に加算します。											
学生へのアドバイス：	学生へのアドバイス： 経済学の対象は多種多様ですが、皆さんのが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。											
オフィスアワー：	オフィスアワー： 初回講義日に伝える。											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経済原論 I (Economics Theory I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	宮崎 隆																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
経済学は社会科学の一分野ですが、歴史も長く、理論水準も高い学問です。その範囲も私たちの暮らしから国と国との取引までほとんどすべての領域が経済学のツールで分析されます。本講座はマクロ(巨視的)経済と呼ばれる国単位の経済を論じます。																										
授業目標:																										
メディアから出される経済情報を理解し、自ら考えられるようになって下さい。PBL(課題解決型学習)も行います。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス: 経済学の範囲と方法 マクロ経済学とは何か。基本用語と数値の概説。					事前: 経済用語表作成 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
2	経済指標: GNP、GDP他 代表的な経済指標とマクロと社会会計の説明。わが国の経済と外国経済の比較。					事前: 先進国のGDP調査 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
3	経済学説史: アダム・スミスからフリードマンまで ケインズ主義や新自由主義とは何か。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
4	消費理論: ケインズの消費関数他 なぜ私たちは消費するのか。消費に与える影響因は何か。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
5	投資理論: 資本の限界効率 なぜ企業は投資するのか。投資に影響を及ぼす要素は何か。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
6	乗数理論: 消費と投資の相乗効果、国際貿易と政府支出がないと仮定した場合の国民所得の決定まで。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
7	政府の財・サービス購入: マクロ経済における政府の役割 政府支出の内訳。大きな政府と小さな政府。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
8	経済成長・循環論: なぜ景気は変動するのか 成長理論と循環理論の基礎。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
9	分配論: 所得格差の問題 ローレンツ曲線とジニ係数					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
10	経済政策論(1): 財政政策 政府の役割。ケインジアンとマネタリスト論争。失業対策					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
11	経済政策論(2): 金融政策 中央銀行の役割。主な金融政策。利子論。合理的予想理論を導入したマクロ経済学。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
12	オープン・マクロ経済学: ケインズ理論からマンデル・フレミング理論へ 国際貿易を考慮した場合の経済政策の帰結。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
13	国際金融論: 為替レート ブレトンウッズ体制から変動相場制まで。為替レートの決定。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
14	環境経済学: エネルギー問題、限られた資源と経済政策、地球温暖化に対する各国の対応他					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
15	経済学について考える: 経済学者と経済理論 ノーベル経済学賞。経済学への批判。経済学の有効性。					事前: 配布資料の精読 事後: 講義の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
教本:																										
参考文献:																										
石橋春男『対話で学ぶ経済学「超」入門』税務経理協会 2020。 (適宜、資料を配布します。)																										
参考文献:																										
なし。(関連情報源を随時提示します。)																										
成績評価の方法、評価基準:																										
小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。なお、指定のリポートの他に追加の自主リポートの提出を認め、成績に加算します。																										
学生へのアドバイス:																										
本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	経済原論II (Economics Theory II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	宮崎 隆																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要：																										
本講座はミクロ(微視的)経済学の領域を講義します。「ミクロ」とは経済学の場合個別経済単位、すなわち消費者や企業、さらに同種の生産物を生産・販売する企業群(産業)の経済行動を分析します。したがって、消費数量や価格、所得、売上、利益などを説明することになりますが、ミクロ経済学の応用・拡張分野として、情報や教育の経済学も取り扱います。																										
授業目標：																										
(1) 経済学的思考ができるようになること。 (2) 身近な経済問題が解けるようになること。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要な○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス：分析ツールとしてのミクロ経済学 基本用語の解説およびミクロ経済学の有効性を概説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
2	需要と供給：経済学の基本ツール、需給均衡、曲線の傾き、弾力性、部分均衡理論と一般均衡理論。需要理論のトピックス					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
3	消費理論(1)：効用理論 経済学者は消費による満足度を計測できると考えていたが、やがて無差別曲線分析に発展した。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
4	消費理論(2)：価格の理論 価格は消費にどう影響するか。予算戦と消費者均衡、需要曲線の導出、代替効果と所得効果。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
5	生産理論(1)：生産関数 生産の3要素とは。効率的な生産量は存在するか。生産の規模と効率性。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
6	生産理論(2)：費用の理論 生産に要する費用の分類と定義。生産・利潤の最大化。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
7	生産理論(3)：長期費用曲線 経済学における短期と長期、超長期の定義と企業の成長。費用遞減産業と費用増産業等					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
8	市場と競争の理論(1)：完全競争市場と不完全競争市場 市場の形態。競争市場と市場支配力。独占の弊害について解説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
9	市場と競争の理論(2)：コンテストブル市場の理論、埋没費用(サンク・コスト)と市場参入					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
10	厚生経済学：パレート最適 完全競争均衡。アダム・スミスの「(神の)見えざる手」					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
11	情報の経済学(1)：情報の非対称性(レモンの経済学) 情報の欠落による消費費購入の失敗(市場の失敗)。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
12	情報の経済学(2)：シグナリング理論、契約の理論 モラルハザードと逆選抜。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
13	教育の経済学：G.ベッカーの「人的資本」の考え方 教育の経済的効果、教育投資論について概説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
14	ゲームの理論：「ゲームの理論と経済行動」囚人のジレンマ。ナッシュ均衡。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
15	新しいミクロ経済学のトピックスについて					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約	講義(60分：PBL含む) 小レポート(30分)																			
教本：		参考文献： なし。(適宜、資料を配布します。)																								
		なし。(関連情報源を随時提示します。)																								
成績評価の方法、評価基準：																										
小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。なお、指定のリポートの他に追加の自主リポートの提出を認め、成績に加算します。																										
学生へのアドバイス：																										
本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済法 I (Economic Law I)						科目分類	専門科目	
担当教員	藤原 俊雄								
履修条件	前提科目	私法学 I・II、民法の財産法分野、企業組織法 I・II							
	その他	なし							

授業概要：

この授業では、経済法といわれる法分野のうち、とくに消費者トラブルに関する法律問題を検討する。消費者トラブルは、大きく、1. 消費者が事業者との間で行う取引をめぐるトラブルと、2. 消費者の安全をめぐるトラブルに分けられる。経済法 I の授業では、主に前記1について、消費者と事業者の間で締結された契約の勧説や契約内容をめぐるトラブルや取引の対象となる商品や役務に関する表示をめぐるトラブルなどを材料として、分析・検討したいと思っている。

授業目標：

- ①トラブルが生じたケースが消費者法において問題となるものかどうかを判別し、その理由を説明することができる。
- ②消費者問題に関するケースについて、そのケースの規制は何か、根拠となる法令・条文は何かを判断・提示できる能力を身につける。

カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
○	○	

授業計画・事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	なぜ消費者法が必要か 消費者事件と消費者立法を振り返る	事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで学習	講義 90分
2	消費者を保護する仕組み 消費者政策の機関、消費者庁、国民生活センター、消費者団体、消費者教育の推進など	事前：教科書該当箇所の精読、報告準備 事後：事件で学習	講義 60分、討論 30分
3	「消費者法」とは何か (1) その意味、役割、内容、消費者救済の法制度	事前：教科書該当箇所の精読、報告準備 事後：掲載ケースで学習	講義 60分、討論 30分
4	「消費者法」とは何か (2) 消費者救済の制度	事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで学習	講義 60分、討論 30分
5	消費者契約 (1) 消費者契約の規制、消費者契約法に定める「消費者」、消費者契約の成立から履行まで等	事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載裁判例で学習	講義 60分、討論 30分
6	消費者契約 (2) 特商法に定める取引類型、商品・サービスそのものに対する規制	事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載裁判例で学習	講義 60分、討論 30分
7	広告・表示規制 (1) 景品表示法、定義と規制内容、優良誤認表示、有利誤認表示	事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文の再チェック	講義 60分、討論 30分
8	広告・表示規制 (2) 不正競争防止法の内容、独占禁止法の規制、消費者基本法など	事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文の再チェック	講義 60分、討論 30分
9	広告・表示規制 (3) 食品に対する表示規制、アフリエイト広告など	事前：教科書該当箇所の精読 事後：概念の確認	講義 60分、討論 30分
10	勧誘規制 (1) 勧誘規制の目的、「勧誘」の意義、情報提供気味、適合性原則、特定商取引法上の制度など	事前：教科書該当箇所の精読 事後：概念の確認	講義 60分、討論 30分
11	勧誘規制 (2) 意思表示に関する法律について 意思の完全性から不当勧説アプローチへ、誤認類型、困惑類型	事前：教科書該当箇所の精読 事後：概念の確認	講義 60分、討論 30分
12	勧誘規制 (3) 過量契約類型、取消件の行使・効果、契約締結の媒介・代理	事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで確認	講義 60分、討論 30分
13	契約内容規制 (1) 内容規制の意義、民法の規制	事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文のチェック	講義 60分、討論 30分
14	契約内容規制 (2) 消費者契約法による規制 損害賠償責任を制限する条項、解除権放棄条項、損害賠償額の予定・違約金条項、消費者の利益を一方的に害する条項	事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文のチェック	講義 60分、討論 30分
15	これまでの授業内容のまとめ	事前：なし 事後：報告書の作成	教員のまとめ 90分

教本：

宮下修一ほか『消費者法』(有斐閣、2022年)

参考文献：

教本に掲載されている。

成績評価の方法、評価基準：

プレゼンの内容 (30%)、定期試験 (70%) で総合評価する。

学生へのアドバイス：

上記シラバスの内容から解るように、学生の積極的授業参加が求められる。それを承知の上で受講すること。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	経済法II (Economic Law II)					科目分類	専門科目													
担当教員	藤原 俊雄																			
履修条件	前提科目	経済法I、私法学I・II、民法の財産法分野、企業組織法I・II																		
	その他	なし																		
授業概要：																				
この授業では、経済法といわれる法分野のうち、とくに消費者トラブルに関する法律問題を検討する。消費者トラブルは、大きく、1. 消費者が事業者との間で行う取引をめぐるトラブルと、2. 消費者の安全をめぐるトラブルに分けられる。経済法IIの授業では、主に前記2について、商品や役務（サービス）によって消費者の生命・身体等の健康被害が生じるトラブルを材料として、分析・検討したいと思っている。																				
授業目標：																				
①トラブルが生じたケースが消費者法において問題となるものかどうかを判別し、その理由を説明することができる。 ②消費者問題に関するケースについて、そのケースの規制は何か、根拠となる法令・条文は何かを判断・提示できる能力を身につける。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態												
1	多少のガイダンス 消費者による権利の行使 事業者による債務不履行の場合の消費者の権利、契約履行の請求、契約の拘束力の否定、損害賠償の請求					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで学習	講義 90分													
2	消費者の救済 (1) 裁判上の解決（個別型、集団型）、裁判外の解決、ADR、ODR					事前：教科書該当箇所の精読、報告準備 事後：事例で学習	講義 60分、 討論 30分													
3	消費者の救済 (2) 消費者債務の軽減					事前：教科書該当箇所の精読、報告準備 事後：掲載ケースで学習	講義 60分、 討論 30分													
4	電子商取引 (1) その意義、規制する法律、特定商取引法における通信販売としての規制、広告規制、返品、申込み画面の表示に関する規制など					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで学習	講義 60分、 討論 30分													
5	電子商取引 (2) 電磁的方法による問題に関する諸制度 一契約成立時期、電子消費者契約法3条、電磁的方法によるその他の法律					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで学習	講義 60分、 討論 30分													
6	電子商取引 (3) デジタルプラットフォームに関する問題 一事業者の責任、その他の重要問題、関連法令					事前：教科書該当箇所の精読 事後：なし	講義 60分、 討論 30分													
7	継続的役務提供型取引 (1) その概念、その特徴、何が問題となるのか 例：エステ規制内容—まず広告規制について					事前：教科書該当箇所の精読 事後：事例で再チェック	講義 60分、 討論 30分													
8	継続的役務提供型取引 (2) 規制内容—不当な勧誘行為の禁止、書面交付義務・財務内容開示義務、クーリング・オフ、中途解約権と損害賠償額の規制					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで確認	講義 60分、 討論 30分													
9	金融商品取引・投資取引 説明義務、断定的判断の提供、適合性原則、不招請勧誘、民法と金融サービス提供法の関係					事前：教科書該当箇所の精読 事後：概念の確認	講義 60分、 討論 30分													
10	不動産取引 トラブルの全体像、生活に密着した不動産取引をめぐるトラブル、投資を目的とした不動産取引をめぐるトラブルなど					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで確認	講義 60分、 討論 30分													
11	製造物責任 概念の確認、民法の責任との比較、安全性に関する他の法令					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで確認	講義 60分、 討論 30分													
12	連鎖販売取引(マルチ商法) 定義と仕組み、無限連鎖講との違い、規制の対象となる取引、規制の内容、契約の解消					事前：教科書該当箇所の精読 事後：掲載ケースで確認	講義 60分、 討論 30分													
13	消費者信用取引 (1) 消費者取引の仕組み、消費者取引とは、クレジットカード決済を用いる販売信用取引の仕組み					事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文のチェック	講義 60分、 討論 30分													
14	消費者信用取引 (2) 割賦販売法による規制、割賦販売法が適用される取引、抗弁の対抗、既払金の返還、名義貸しの立替払い、過量販売解除、不実告知等に基づく取消し					事前：教科書該当箇所の精読 事後：条文のチェック	講義 60分、 討論 30分													
15	これまでの授業内容のまとめ					事前：なし 事後：報告書の作成	教員のまとめ 90分													
教本：					参考文献：															
宮下修一ほか『消費者法』(有斐閣、2022)					教本に掲載されている。															
成績評価の方法、評価基準：																				
プレゼンの内容 (30%)、定期試験 (70%) で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
上記シラバスの内容から解るように、学生の積極的授業参加が求められる。それを承知の上で受講すること。																				
オフィスアワー：																				
初回の講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	刑法法 I (Criminal Law and Criminal Procedure I)						科目分類	専門科目	
担当教員	麻妻 みちる								
履修条件	前提科目	履修条件は特に設けませんが、刑事案件に関心をもち、真摯に取り組む受講生の履修を希望します。							
	その他	法律を初めて学ぶ方を対象に、わかりやすく「法学概論」を含め基本から理解できるよう説明しますのでご安心ください。							

授業概要:

刑法法とは、犯罪と刑罰にかかる法分野の総称を言います。

本講座は、「法学概論」に触れながら刑法や刑事訴訟法を学ぶ講座です。

最初の2、3回で法学の基礎を確認するとともに、「犯罪白書」を利用して日本の犯罪と刑罰の現状を知りましょう。

その後「刑法法 I」では主に、刑法の総則、犯罪の成立について学習します。犯罪とは何か、どのような理由で国家が個人に刑罰を科すことができるのか考えてみましょう。具体的な問題を掲げて、刑法総論の概要を判りやすく解説します。

初めて聞く言葉も多いでしょうが、難解な概念や論点については、裁判例や事例問題と一緒に検討することで抽象的な議論を具体的に頭に描けるように努めます。

授業目標:

法律を初めて学ぶ方を対象に、「法学概論」やどのような要件(条件)が整うと犯罪が成立すると判断できるのか、「刑法総論」の基本知識を定着させ、体系的に理解することを目的とします。

たとえば、たとえ人を殺す行為をしても殺人罪とならない場合があります。刑法総論は、抽象的な学問で初学者には難解と言われますが、具体的な事例も織り交ぜて、犯罪とは何か、一見犯罪でありそうなのに犯罪とならない行為がどうしてありうるのか、ゆっくり楽しんで勉強しましょう。

カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
○		○

授業計画・事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態
1	ガイダンス 「正しい」エスカレーターの乗り方を説明してください、幹事として集めた飲み会の会費を使い込んだら犯罪か、社会生活における法と法律について考える	事前: 身の周りの法律 事後: 法と法律の違い	双方向対話型講義 講義 90分
2	「六法」とは法律が6種類しかないことなのか、わが国の法体系、国家の法規範における刑事法の位置づけ	事前: 六法とは 事後: 公法と私法の違い	双方向対話型講義 講義 90分
3	有罪率99.9%といわれる背後にはどういう意味があるのか、犯罪白書から犯罪と刑罰の現状を知る	事前: 99.9%の意味とは 事後: 犯罪の現状	双方向対話型講義 講義 90分
4	日本では、妻や夫がいる人と不倫をしても犯罪ではなく、賭博や堕胎が犯罪であるのはなぜか、刑法の意義・機能	事前: 妨害とは 事後: 法益保護	双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分
5	患者の秘密を漏らしても、医者は処罰され、看護師は処罰されないのはなぜか、罪刑法定主義、法の適用と解釈	事前: 秘密漏示罪とは 事後: 罪刑法定主義が憲法の要請であること	双方向対話型講義 講義 90分
6	たとえ人を殺したとしても殺人罪とは限らず、傷害致死罪、過失致死罪の可能性があるのはなぜか、実行行為、行為論、構成要件該当性	事前: 犯罪が成立するには何が必要か 事後: 構成要件該当性	双方向対話型講義 講義 90分
7	「何もしないこと」で殺人罪や放火罪や詐欺罪に問われることはあるのか、不作為犯	事前: 実行行為とは 事後: 不真正不作為犯	双方向対話型講義 講義 90分
8	人に暴行を加え軽いけがをさせた。治療のため救急搬送されたがその途中交通事故で死亡してしまった場合、傷害致死罪に問われるのか、因果関係の判断の仕方	事前: 因果関係とは 事後: 我が国の裁判所の立場	双方向対話型講義 講義 90分
9	「なんかやばそうなもの」という認識で持っていただけで覚せい剤所持罪は成立するのか、故意	事前: 故意と過失の違いとは 事後: 犯罪成立要件の主観面	双方向対話型講義 講義 90分
10	他人のポケットからティッシュ13枚をスリ取ることは窃盗罪という犯罪になるのか、違法性の意義と本質	事前: 安楽死は犯罪か 事後: 違法性の本質	双方向対話型講義 講義 90分
11	日ごろから敵対する関係にあるグループが攻撃を仕掛けてくる準備をしているという情報があったので、やられる前にやってやろうと攻撃を加える行為は正当防衛になるか	事前: 正当防衛とは 事後: 違法性阻却事由	双方向対話型講義 講義 90分
12	泥酔状態で人を殴っても犯罪とならないのか、責任の本質、責任能力、少年による犯罪	事前: 子どもの犯罪行為は許すべきか 事後: 責任主義	双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分
13	砂糖を飲ませて人を殺そうとした場合処罰されるのか、空のピストルで人を撃った場合はどうか、未遂犯	事前: 不能犯とは 事後: 未遂と既遂の区別	双方向対話型講義 講義 90分
14	みんなで強盗をしようとか謀して、Aは強盗を実行し、Bはリーダー格として電話で指示するだけ、Cは見張りをした。それぞれ何罪か、共犯の意義、共犯の種類	事前: 共同で犯罪を行うことはなぜ悪いのか 事後: 共同正犯	双方向対話型講義 講義 90分
15	犯罪と刑罰、前期のまとめ	事前: 刑法はなぜあるのか 事後: 刑法の目的	双方向対話型講義 講義 90分

教本:

教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を読んで勉強するものですので、右記を参考に予習をして講義に臨んでください。

参考文献:

井田良「基礎から学ぶ刑法(第6版)」有斐閣 ¥1,980

成績評価の方法、評価基準: 平常点(30%)、ペーパー提出(30%)、試験の成績(40%)で総合的に判断します。

①平常点は、毎回の授業に取り組む姿勢(発言や議論を含む)などから判断いたします。

②毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。

③定期試験については、授業中に配布したレジュメと資料の持ち込みが可能です。

学生へのアドバイス: ニュースなどの報道はもちろん、テレビの「警察24時」などの番組、あるいは刑事もの、法廷もののドラマでも結構です。世の中で起こっている犯罪や事件、事故、あるいは裁判などに興味、関心をもってください。

また、お友達同士で誘い合って裁判の傍聴に行くこともお勧めします。

オフィスアワー:

授業開始前30分程度非常勤講師室で待機。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																							
授業科目(英文)	刑法法Ⅱ (Criminal Law and Criminal Procedure Ⅱ)					科目分類	専門科目																									
担当教員	麻妻 みちる																															
履修条件	前提科目	「刑法法Ⅰ」を履修済み、もしくは同時履修していることが望ましい。 刑事事件に関心をもち、真摯に取り組む受講生の履修を希望します。																														
	その他	法律を初めて学ぶ方を対象に、わかりやすく刑法の基本から理解できるよう説明しますのでご安心ください。																														
授業概要:	<p>刑法とは、犯罪と刑罰にかかる法分野の総称をいいます。</p> <p>本講座は、具体的な事件や裁判例に焦点をあてて刑法や刑事訴訟法を学ぶ講座です。</p> <p>「刑法法Ⅱ」では、具体的な問題を解決する刑法各論や手続法である刑事訴訟法、立法論、政策論である刑事政策などを含めた広い意味での刑事法学を概観し、犯罪と刑罰に関する刑事手続きの流れや具体的事例について学びます。</p> <p>犯罪が我々の社会に対する大なる脅威であることは言うまでもありませんが、同時に、国家による捜査活動や刑罰を科すための刑事手続が、日本国憲法が保障する個人の基本権を侵害することのないよう十分配慮する必要があります。</p> <p>本講座の前半では、国家による適正な刑罰権の行使と人権保障のバランスをとることの難しさ、公正・公平な刑事手続とはいかなるものかについて一緒に勉強するため、主に捜査を学習し、後半では、社会の脅威となる犯罪の具体的な類型に重点を置いて進めて行きます。</p>																															
授業目標:	<p>個別の犯罪類型を定めた刑罰法規の解釈を通して、犯罪の具体的な内容、犯罪類型相互の関係性など「刑法各論」の基礎理論を修得するとともに、社会の脅威となる重大犯罪の本質を理解することを目指します。加えて、刑事手続の全体構造や手続上の原理・原則を学習しながら、国家が刑罰を科すことには社会においてどのような意味をなすのかについて理解し、ひいては法的の考え方、いわゆるリーガルマインドの涵養を目指します。</p>																															
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td colspan="3">○</td><td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																												
○	○																															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																																
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																								
1	ガイダンス ヒトはいつから人になるのか、人の始期、刑法における人とは、民事と刑事の違い、これから学習する範囲の認識				事前: 犯罪とは 事後: 法の分類			双方向対話型講義 講義 90分																								
2	会社や大学は犯罪を犯すことができるのか、犯罪成立要件、犯罪主体、過失犯とは				事前: 法人の犯罪能力 事後: 業務上過失致死傷罪			双方向対話型講義 講義 90分																								
3	大岡裁きの「子争い」「三方一両損」は誤りか、法律上の3つの責任追及、刑事事件とは、裁判員制度				事前: 「大岡裁き」は間違えか 事後: 3つの法的責任追及の方法			双方向対話型講義 講義 90分																								
4	「警察にお世話をなる」ときとはどういうときか、法規範における刑事法の位置づけ、刑事手続に関与する者の役割(裁判官、検察官、弁護人、警察官、被疑者・被告人、被害者、裁判員)、刑事手続の流れ				事前: 民事と刑事の違い 事後: 刑事手続に関与する者の理解			双方向対話型講義 講義 90分																								
5	駅前を歩いていると警察官に呼び止められた。質問に答える、バッグの中を見せる、交番へ移動するなどどこまで協力するべきなのか、強制採尿・採血、写真撮影など、憲法と刑事訴訟法				事前: 捜査は任意か強制か 事後: 市民として警察に協力すること			双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分																								
6	飲酒運転の疑いのある交通事故で、現場で呼気検査を実施しようとしたが運転者は拒否することができるか、逮捕・勾留・捜索・押収				事前: 被疑者になると何が変わるか 事後: 令状主義			双方向対話型講義 講義 90分																								
7	被疑者となったら警察に何も協力しなくてもよいのか、黙秘権、被疑者取調べと可視化、被疑者段階の弁護権と接見交通権				事前: 取調べは必ず受けなければならないのか 事後: 被疑者・被告人の権利			双方向対話型講義 講義 90分																								
8	警察官が熱意の余り組み伏せ、無理やり着衣を脱がせたところ覚せい剤を発見した。この覚せい剤は証拠となるのか、公訴手続、公判構造など、その他排除法則、正義とは				事前: ケーキの切り方 事後: 正義を実現するいろいろな方法			双方向対話型講義 講義 90分																								
9	被害者の同意があると、同じ殺人という行為でも処罰が軽くなるのはなぜか、自殺閑戻・同意殺人罪				事前: 自殺が適法とは言えないわけ 事後: 尊属殺人とは			双方向対話型講義 講義 90分																								
10	朝起きると自宅の庭に知らない人が倒れていたが、時間がないのでそのままにした行為は遺棄罪となるか、保護責任者遺棄罪				事前: 遺棄の罪とは 事後: 保護責任者			双方向対話型講義 講義 90分																								
11	ファストフード店のコンセントから無断で携帯電話の充電をする行為は犯罪か、なぜ情報を盗んでも窃盗罪にならないのか、窃盗罪、財物の意義、不法領得の意思				事前: 無断で人の自転車を乗り回したら窃盗か 事後: 壊すつもりで人の自転車を盗んだら窃盗か			双方向対話型講義 講義 90分																								
12	窃盗犯が盗んだ物を取り返されることを防ぐために被害者をナイフで脅した場合強盗罪か、事後強盗罪				事前: 事後強盗罪とは 事後: 強盗の本質			双方向対話型講義 講義 90分																								
13	家人を皆殺しにしたのちその住居を放火しても一番刑の重い放火罪の適用がないのはなぜか、現住建造物等放火罪				事前: 放火罪の類型 事後: 放火罪の本質			双方向対話型講義 講義 90分																								
14	大学入学試験の際に替え玉受験を行なう行為はなぜ文書偽造罪になるのか、私文書偽造罪、公文書偽造罪、その他偽造の罪				事前: 文書偽造とは、名義人を偽ることか、内容を偽ることか 事後: 責任追及ができること			双方向対話型講義 講義 90分																								
15	18歳、19歳に死刑という刑罰を科すことは正しいか、刑の執行、刑罰制度、犯罪者の処遇、死刑制度、まとめ				事前: 死刑制度は正しいか 事後: 国家の刑罰権の行使			双方向対話型講義 講義 60分 ディスカッション 30分																								
教本: 教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を読んで勉強するものですので、右記を参考に予習をして講義に臨んでください。	参考文献: 井田良「基礎から学ぶ刑法(第6版)」有斐閣 ￥1,980 椎橋隆幸編「ブリッジブック 刑事裁判法」信山社 ￥2,200																															
成績評価の方法、評価基準: 平常点(30%)、ペーパー提出(30%)、試験の成績(40%)で総合的に判断します。	<p>①平常点は、毎回の授業に取り組む姿勢(発言や議論を含む)などから判断いたします。</p> <p>②毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。</p> <p>③定期試験については、授業中に配布したレジュメと資料の持ち込みが可能です。</p>																															
学生へのアドバイス: ニュースなどの報道番組や、テレビなどの「警察24時」などで、今、社会で何が問題となっているのかを見て、感情を揺さぶられ、何らかの意見を持つください。	また、お友達同士で誘い合って裁判の傍聴に行くこともお勧めします。																															
オフィスアワー:	授業開始前30分程度非常勤講師室で待機。																															

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	契約法 I (Contract Law I)						科目分類	専門科目									
担当教員	新城 将孝																
履修条件	前提科目	私法学 I、私法学 II、ビジネス法 I、ビジネス法 II (同時履修も含め、好ましい。)															
その他																	
授業概要:																	
民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って集約し、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにします。																	
授業目標:																	
契約法についての概要の理解および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。																	
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																	
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
			○			○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）		事前・事後学習（学習課題）				授業形態										
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特色（概要）を示し、契約法 I を学んでいくうえでの心構え等を説明する。		事前：なし 事後：次回講義のための準備、六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
2	民法（債権法）のガイダンスを行う。民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について概説する。		事前：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認する。 事後：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
3	契約法理解のため、物権と物権変動について概観する。物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について概説する。		事前：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認する。 事後：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
4	民法の改正と契約現象について概観する。民法の諸改正、債権法の改正について概説する。		事前：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認する。 事後：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
5	契約法の構成について概観する。契約総則、契約各則について概説する。		事前：契約総則、契約各則について確認する。 事後：契約総則、契約各則について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
6	契約の種類について概観する。典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、單発契約と継続契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について概説する。		事前：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認する。 事後：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
7	契約の意義と契約法の形成と思想について概観する。契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について概説する。		事前：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認する。 事後：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
8	契約の自由の原則とその制限について概観する。契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について概説する。		事前：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認する。 事後：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
9	意思自治の原理（契約の拘束力）について概観する。契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について概説する。		事前：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認する。 事後：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
10	契約の完結性について概観する。契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階における課題、契約成立後の課題、契約存続中の課題、契約終了段階での課題、契約と他の契約と関連性（個別性・相対性の例外）、契約の完結性の修正等について概説する。		事前：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認する。 事後：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
11	契約の成立について概観する。契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方針による契約の成立、約款と定型約款、懸賞廣告等について概説する。		事前：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方針による契約の成立、約款と定型約款、懸賞廣告等について確認する。 事後：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方針による契約の成立、約款と定型約款、懸賞廣告等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										

12	契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、危険負担について概説する。	事前：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認する。 事後：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
13	契約の効力（その2）、契約譲渡について概観する。第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について概説する。	事前：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認する。 事後：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
14	契約の解除（その1）について概観する。契約の解除とその種類、解除権の行使について概説する。	事前：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認する。 事後：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
15	契約の解除（その2）について概観する。解除の効果、解除権の消滅等について概説する。	事前：解除の効果、解除権の消滅等について確認する。 事後：解除の効果、解除権の消滅等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 初回講義日に伝えます。		参考文献：			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	契約法II (Contract Law II)						科目分類	専門科目									
担当教員	新城 将孝																
履修条件	前提科目 その他	私法学I・II、ビジネス法I・II 契約法I (同時履修も含め、好ましい。) なし															
授業概要:																	
民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って概説します。また、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにし、契約実務等を強く意識したものとします。契約法各論の分野となります。																	
授業目標:																	
契約法について、その概要の理解および法的もの見方を身につけ、実務への応用を図りうることを目標とします。																	
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																	
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
			○			○											
授業計画・事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特色（概要）を示し、契約法IIを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前：なし 事後：次回講義のための準備、六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
2	贈与契約について概観する。贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について概説する。			事前：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認する。 事後：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
3	売買契約（その1）について概観する。売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について概説する。			事前：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
4	売買契約（その2）について概観する。買い戻し、特殊の売買について概説する。			事前：買い戻し、特殊の売買について確認する。 事後：買い戻し、特殊の売買について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
5	消費貸借契約について概観する。消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について概説する。			事前：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認する。 事後：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
6	賃貸借契約（その1）について概観する。賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替（転貸）、賃貸借契約の期間と終了について概説する。			事前：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替（転貸）、賃貸借契約の期間と終了について確認する。 事後：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替（転貸）、賃貸借契約の期間と終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
7	賃貸借契約（その2）について概観する。借地の法律関係、借家の法律関係について概説する。			事前：借地の法律関係、借家の法律関係について確認する。 事後：借地の法律関係、借家の法律関係について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
8	使用貸借契約について概観する。使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について概説する。			事前：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認する。 事後：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
9	雇用契約について概観する。雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について概説する。			事前：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認する。 事後：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
10	請負契約について概観する。請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について概説する。			事前：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認する。 事後：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
11	委任契約について概観する。委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について概説する。			事前：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認する。 事後：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										
12	寄託契約について概観する。寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について概説する。			事前：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認する。 事後：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。										

13	組合契約（その1）について概観する。組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について概説する。	事前：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認する。 事後：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
14	組合契約（その2）について概観する。組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について概説する。	事前：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認する。 事後：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
15	終身定期金契約、和解契約について概観する。終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について概説する。	事前：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認する。 事後：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習									
授業科目(英文)	健康(子どもと運動) (Health (Children and Their Exercise))						科目分類	専門科目										
担当教員	水原 佐和子																	
履修条件	前提科目	なし			その他	運動をするにあたり、教員に知らせておきたい持病や怪我等がある場合は、事前に申告してください												
授業概要:																		
幼児の運動遊びの基礎的な知識や技術を習得し、学生の身体能力や運動技術の向上を図る。また、保育現場における運動遊びと幼児の発達段階に応じた指導法、援助法、安全管理を学ぶ。様々な運動遊びを組み合わせる応用力と遊びの立案・計画、実践について学ぶ。																		
授業目標:																		
○幼児の発達を理解し、運動遊びの指導力を身に付ける ○遊具・用具の特性に応じて動きを組み合わせ、遊びを展開することができる ○自己の身体能力や運動技術の向上を目指す ○運動遊びの企画・立案・実践を行う																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	ガイダンス(・授業の進め方や目的を確認する・評価方法の説明・個別の目標を設定する・子どもの身体活動について)				事前:シラバスを読んでおく 事後:授業／個別目標の復習			講義70分 演習20分										
2	幼児の運動遊び(・基本的な動きの洗練化について:幼児期運動指針を手掛かりに全体像をつかむ・実際に体を動かす)				事前:幼児期運動指針 関連箇所を読む 事後:振り返りを記録			講義60分 演習30分										
3	多様な動き、調整力とは何か(・36の基本的な動きと分類・日常生活における調整力の場面を討議し、動いてみる)				事前:調整力について調べておく 事後:振り返りを記録			講義60分 演習30分										
4	多様な動きを引き出す運動遊び(・移動系の様々な動きを考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、感覚を味わう)				事前:移動運動の具体例を考える 事後:振り返りを記録			講義20分 演習70分										
5	多様な動きを引き出す運動遊び(・バランス系の様々な動きを考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、感覚を味わう)				事前:バランス運動の具体例を考える 事後:振り返りを記録			講義20分 演習70分										
6	多様な動きを引き出す運動遊び(・操作系の様々な動きを考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、感覚を味わう)				事前:操作運動の具体例を考える 事後:振り返りを記録			講義20分 演習70分										
7	身近な素材(新聞紙)を使った遊び(・発達段階別の遊び方を考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、素材感を味わう)				事前:新聞紙遊びを思い出しておく 事後:新聞紙遊びと留意点の復習			講義20分 演習70分										
8	遊具(マット)を使った遊び(・発達段階別の遊び方を考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、肌感覚を味わう)				事前:マット遊びを思い出しておく 事後:マット遊びと留意点の復習			講義20分 演習70分										
9	遊具(平均台)を使った遊び(・発達段階別の遊び方を考え合う・他学生の発表を聞き、実際に動き、平衡感覚を味わう)				事前:平均台遊びを思い出しておく 事後:平均台遊びと留意点の復習			講義20分 演習70分										
10	リトミック・リズム運動:音楽に合わせた運動遊び(・グループで発達段階別の遊び方を考え、発表し、ともに体験する)				事前:リズム運動の具体例を調べておく 事後:リズム運動の内容と留意点の復習			講義20分 演習70分										
11	運動遊びの指導案作成(・これまでの授業内容を踏まえ、多様な動きを引き出す運動遊びの指導案を立案、作成する)				事前:これまでの動きの種類を復習する 事後:必要な素材を準備する			講義20分 演習70分										
12,13	運動遊びの模擬保育(・個別に模擬保育の発表を行う・保育者(発表)、子ども(参加者)、両者の立場を体験する)				事前:教材や資料の準備・持参 事後:振り返りを記録			講義10分 演習80分										
14	模擬保育の振り返り:成果と課題(・自身の活動への気づきと課題、他学生の発表から得た気づきについて討議する)				事前:自身の模擬保育の振り返り 事後:振り返りを記録			講義30分 演習60分										
15	振り返りと総括(・多様な動きの経験が育む調整力についての再確認:のびやかな心身と「健康」の視点から)				事前:領域「健康」の再読 事後:記録の整理と振り返り			講義60分 演習30分										
教本:																		
参考文献: 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いずれも最新版)「幼児期運動指針」																		
成績評価の方法、評価基準:																		
授業参加状況等(40%)、発表(40%)、レポート(10%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:																		
運動遊びの基礎を学ぶ科目であり、保育を行うための方法や技術を身に付け、子どもの運動発達を支える専門的知識をもった総合的実践力を構築することを目指す。着替えと体育館シューズを持参すること。																		
オフィスアワー:																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	原価計算論 I (Cost Accounting I)					科目分類	専門科目												
担当教員	川口 修																		
履修条件	前提科目	簿記論 I・II			その他	なし													
授業概要:																			
工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品(給付)と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。																			
授業目標:																			
工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。2級に挑んで欲しい。																			
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態											
1	序、工業簿記の特色					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
2	原価計算基準と原価の一般概念					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
3	原価の要素・種類					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
4	原価の態様、非原価項目					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
5	原価計算の意義と目的、原価計算の種類					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
6	工業簿記の構造、材料費の計算I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
7	材料費の計算II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
8	労務費の計算I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
9	労務費の計算II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
10	経費の計算					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
11	製造間接費の配賦計算I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
12	製造間接費の配賦計算II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
13	製造間接費の配賦計算III					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
14	部門別計算					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
15	個別原価計算					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分											
教本:																			
柳田 仁編著『原価計算ガイド』中央経済社、¥2,600+税					参考文献: 岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義(2級工業簿記)』														
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(20%) 定期試験(80%) 等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス: 簿記論I・IIを理解していることが前提となる。簿記を学んでから履修することを希望する。																			
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	原価計算論 II (Cost Accounting II)					科目分類	専門科目														
担当教員	川口 修																				
履修条件	前提科目	原価計算論 I			その他																
授業概要:																					
工業は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場で消費された価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品(給付)と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。「原価計算論 I」で学んだことを基礎にさらに総合原価計算・標準原価計算などを学ぶ。																					
授業目標:																					
工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態													
1	原価計算論 I の復習					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
2	総合原価計算 I (総合原価計算の意義)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
3	総合原価計算 II (单一工程単純総合原価計算、平均法と先入先出法)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
4	総合原価計算 III (特級別計算・組別計算)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
5	総合原価計算 IV (工程別計算)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
6	総合原価計算 V (仕損品の処理)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
7	標準原価計算 I (意義)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
8	標準原価計算 II (材料費差異・労務費差異)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
9	標準原価計算 III (間接費差異 I)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
10	標準原価計算 IV (間接費差異 II)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
11	CVP 分析(損益分岐点分析)					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
12	直接原価計算 I					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
13	直接原価計算 II					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
14	営業費計算					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
15	まとめ					事前: テキストの予習 事後: 復習		講義 90分													
教本:																					
柳田 仁編著『原価計算ガイド』中央経済社、¥2,600+税																					
参考文献:																					
岡本清・廣本敏郎編著『新検定簿記講義(2級工業簿記)』																					
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
原価計算論 I を履修・理解していることが前提となる。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習														
授業科目(英文)	言語学 (Linguistics)						科目分類	専門科目															
担当教員	松浦 恵津子																						
履修条件	前提科目 その他	日本語概論 なし																					
<b>授業概要 :</b> 第1回～第5回で言語の特性や言語の類型について扱ったあと、分野別に中心的な項目について考える。そして、ふだん使っている身近な存在である言語が、学問の対象として豊かで奥深い内容を擁していることに気づいていく。																							
<b>授業目標 :</b> 1. 諸言語から共通して取り出せる言語の特徴を理解し、どのようなしくみで人が言語を产出・理解しているのかを学ぶ。 2. 言語学の基礎的な考え方、言語を客観的に観察するための方法について学ぶ。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																							
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																						
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																
1	オリエンテーション 世界の言語（分布・系統）について知り、日本語を相対的に把握する。			事前：世界の言語を調べる 事後：ノート・プリントの整理			オリ 30分 講義40分 考察 20分																
2	言語の特性：言語の記号性・恣意性・分節性・生産性・体系性等を理解し、具体例を示しながら説明できるようにする。			事前：言語の特性を調べる 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
3	言語の機能：言語は何のためにあるのか。言語の熟達度を構成する能力について学ぶ。			事前：言語の機能について考える 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
4	言語学の対象（ラング・パロール・共時態・通時態）：言語学は、どのような言語を考察の対象とするのかについて考える。			事前：キーワードを調べる 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
5	言語の類型：異なる言語間で、共通した特徴や相違点について考える。			事前：2つ以上の言語の比較 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
6	言語学の諸分野：言語はどのような側面から考察できるのか。 形態論①（形態素）：意味をもつ最小単位について考える。			事前：言語学の諸分野を調べる 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
7	形態論②（語構成）：単語は、意味をもつ単位によってどう構成されているかを考え、例をあげ説明できるようにする。			事前：語構成を調べる 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
8	形態論③（文法的意味をもつ形態素）：どの「形」がどんな文法的意味を表し、語形の中にどう現れるのかについて考える。			事前：文法的な意味とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
9	統語論（文の構造・日本語文法における統語論）：1つの文の構造について分析する。日本語の文構造について考える。			事前：統語論とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
10	意味論：単語・文・談話の意味、語用論的意味を考える。			事前：意味論とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
11	談話論：談話の構造、コンテクスト、結束性と統合性、発話行為について考える。			事前：談話論とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
12	社会言語学①：年齢・職業・地域等による言葉のちがいについて考える。			事前：社会言語学とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
13	社会言語学②：言語行動—ことばのストラテジー、ことばの切り換えについて考える。			事前：ことばのストラテジーとは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
14	言語政策と言語使用①：他国の言語政策、言語権・多言語主義・公用語			事前：言語政策とは 事後：プリントの確認			講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分																
15	言語政策と言語使用②：継承語・やさしい日本語・手話・標準語政策と方言・国語施策			事前：言語政策と社会・文化 事後：総復習、期末試験準備			質疑応答																
教本： プリントを配布する。		参考文献： 佐久間淳一、加藤重広、町田健（2004）『言語学入門』研究社 ¥1,944 佐久間淳一（2008）『言語学基本問題集』研究社 ¥2,052																					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（45%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																							
<b>学生へのアドバイス：</b> 人間の言語のしくみを考えます。日本語や知っている外国語を具体例として考えるので、興味がもてると思います。人間の言語の、機能的で精巧なつくりに驚かされるでしょう。																							
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義							
授業科目(英文)	現代家族論 (Contemporary Family Studies)					科目分類	専門科目									
担当教員	荒木 光															
履修条件	前提科目	なし														
	その他	なし														
授業概要:	家族は、時代とともに形を変え、社会の映し鏡となってきた。この授業は「家族って何だろう?」から始まり、ジェンダー、結婚観、介護、家族の多様性など、現代社会を生きる私たちに直結するテーマを深掘りする。															
授業目標:	1. 現代の家族を多角的に理解し、ジェンダーや結婚観、介護など社会とのつながりを考える。 2. 講義やディスカッションを通して、多様な意見に触れながら自分の家族観を深める。 3. 討論やリアクションペーパーを通じて、現代の家族問題を社会の中で捉え、自分なりの視点を持つ。															
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
	○					○										
授業計画・事前学習・事後学習、形式																
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態								
1	イントロダクション:「家族って何?」					事前:シラバスの確認 事後:復習(1回目の内容)		講義60分 討議30分								
2	昔と今の家族:「家族はずっと同じ形だった?」					事前:予習(2回目の内容) 事後:復習(2回目の内容)		講義60分 討議30分								
3	少子高齢化と家族:「子どもが減ると家族はどうなる?」					事前:予習(3回目の内容) 事後:復習(3回目の内容)		講義60分 討議30分								
4	家族とジェンダー:「家事って誰がする?」					事前:予習(4回目の内容) 事後:復習(4回目の内容)		講義60分 討議30分								
5	多様な家族のかたち:「“ふつうの家族”ってある?」					事前:予習(5回目の内容) 事後:復習(5回目の内容)		講義60分 討議30分								
6	メディアと家族観:「ドラマやアニメの家族像はリアル?」					事前:予習(6回目の内容) 事後:復習(6回目の内容)		講義60分 討議30分								
7	家族内コミュニケーション:「親子ゲンカはなぜ起きる?」					事前:予習(7回目の内容) 事後:復習(7回目の内容)		講義60分 討議30分								
8	恋愛・結婚観の変化:「結婚は必要?」					事前:予習(8回目の内容) 事後:復習(8回目の内容)		講義60分 討議30分								
9	離婚・再婚と子ども:「家族は壊れるの?」					事前:予習(9回目の内容) 事後:復習(9回目の内容)		講義60分 討議30分								
10	家族と仕事:「仕事と家族、どっちが大事?」					事前:予習(10回目の内容) 事後:復習(10回目の内容)		講義60分 討議30分								
11	介護と家族:「親の介護、誰がする?」					事前:予習(11回目の内容) 事後:復習(11回目の内容)		講義60分 討議30分								
12	家族政策と社会:「国は家族をどう支えている?」					事前:予習(12回目の内容) 事後:復習(12回目の内容)		講義60分 討議30分								
13	現代家族が抱える課題:「家族は幸せの場?」					事前:予習(13回目の内容) 事後:復習(13回目の内容)		講義60分 討議30分								
14	未来の家族:「10年後の家族はどうなっている?」					事前:予習(14回目の内容) 事後:復習(14回目の内容)		講義60分 討議30分								
15	まとめ:「家族について、自分はどう考える?」					事前:予習(15回目の内容) 事後:復習(15回目の内容)		講義60分 討議30分								
教本:	参考文献: 「問い合わせはじめる家族社会学 改訂版」 有斐閣 ¥1,800 「よくわかる家族社会学」 ミネルヴァ書房 ¥2,400															
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。															
学生へのアドバイス:	家族は誰にとっても身近な存在ですが、その仕組みや関係性は意外と知られていません。自分自身の家族や周囲の人間関係を振り返りながら学ぶことで、より理解が深まります。															
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。															

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	現代社会と文化 (Modern Society and Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石井 みどり																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
私たちは日常生活のさまざまな問題を解決することに追われていますが、事実を見ているのでしょうか。本講義では、ディスカッションやグループワークを取り入れ、現代社会を取り巻く文化について理解を深めていきます。																										
授業目標：																										
本講義では、大学生の身近にある社会現象について、問題としてとらえ解決を試みるのではなく、事実を見て、理解を深めることを目的としています。学生同士で話し合い、お互いの考えに違いがあっても差がないことを理解してください。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：現代社会の特徴			講義 90分																		
2	現代社会の様相				事前：現代社会の特徴 事後：現代社会の様相			講義 90分																		
3	情報社会におけるSNSの普及 ①				事前：SNSの使い方 事後：SNSの普及と変化			講義 60分 ディスカッション 30分																		
4	情報社会におけるSNSの普及 ②				事前：SNSの長所と短所 事後：SNSの普及と変化			講義 40分 グループワーク 50分																		
5	現代社会のコミュニケーション ①				事前：家族、友人との関わり 事後：家族、友人との関わり			講義 60分 ディスカッション 30分																		
6	現代社会のコミュニケーション ②				事前：社会との関わり 事後：社会との関わり			講義 40分 グループワーク 50分																		
7	恋愛と結婚 ①				事前：大学生の恋愛観 事後：恋愛を取り巻く環境			講義 60分 ディスカッション 30分																		
8	恋愛と結婚 ②				事前：大学生の結婚観 事後：結婚を取り巻く環境			講義 40分 グループワーク 50分																		
9	男らしさと女らしさ ①				事前：男らしさと女らしさ 事後：男らしさと女らしさ			講義 60分 ディスカッション 30分																		
10	男らしさと女らしさ ②				事前：男らしさと女らしさ 事後：「違い」と「差」			講義 40分 グループワーク 50分																		
11	大学生の消費行動とお金 ①				事前：お金の使い方 事後：お金とは何か			講義 60分 ディスカッション 30分																		
12	大学生の消費行動とお金 ②				事前：大学生の消費行動 事後：消費行動の分析			講義 40分 グループワーク 50分																		
13	大学生の価値観と働き方 ①				事前：大学生の価値観 事後：価値観の分析			講義 60分 ディスカッション 30分																		
14	大学生の価値観と働き方 ②				事前：大学生の働き方 事後：働き方の分析			講義 40分 グループワーク 50分																		
15	まとめ				事前：「違い」と「差」 事後：「違い」と「差」			講義 90分																		
教本：					参考文献： 資料を配布するので、教科書は指定しません。 適宜、指示します。																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(40%) 授業中の課題、定期試験(60%) 等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス：																										
文字だけで判断するのではなく、まず「見る」ことを心がけてください。																										
オフィスアワー：																										
初回の授業で教えます。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	現代社会と文化 (Modern Society and Culture)						科目分類	専門科目										
担当教員	横手 拓治																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要 :																		
日本のマンガはいまや世界の共通文化と位置づけられ、若者世代を中心には社会を映す鏡にもなっている。本講ではこうしたマンガ文化の様相を、アニメも含め歴史と現在を繋げて講義する。双方向性授業およびアクティブ・ラーニングを適宜導入する。																		
授業目標 :																		
*国際社会に生きる現代人にとって、日本発のこの文化現象に対して、制作の実状も含めて深い知見を持つことは大切であり、本講はその獲得を目標とする。																		
*テキスト『日本マンガ全史』の著者自らが講じることを通して、現代社会との関わりなども理解する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態										
1	ガイダンス、および導入として同時代マンガを概観する。*講義と読解のほか関連データ・映像の紹介等も適宜実施する。アクションペーパー提出適宜。				事前: テキスト序章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
2	『日本マンガ全史』第1章を扱う *同。				事前: テキスト1章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
3	『日本マンガ全史』第2章を扱う *同。				事前: テキスト2章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
4	『日本マンガ全史』第3章を扱う *同。				事前: テキスト3章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
5	『日本マンガ全史』第4章を扱う *同。				事前: テキスト4章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
6	『日本マンガ全史』第5章を扱う *同。				事前: テキスト5章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
7	『日本マンガ全史』第6章を扱う *同。				事前: テキスト6章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
8	『日本マンガ全史』第7章を扱う *同。				事前: テキスト7章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
9	『日本マンガ全史』第8章を扱う *同。				事前: テキスト8章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
10	『日本マンガ全史』第9章を扱う *同。				事前: テキスト9章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
11	事前課題に基づき学生各自が発表を行う。*発表後は学生同士の意見交換と教員の講評を実施。*レビューシート提出あり。				事前: テキスト既範囲の再読 事後: レビューの自主整理			発表45分、応答15分、講評30分										
12	『日本マンガ全史』第10章を扱う *同。				事前: テキスト10章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
13	『日本マンガ全史』第11章を扱う *同。				事前: テキスト11章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
14	『日本マンガ全史』第12章を扱う *同。				事前: テキスト12章を読む 事後: 復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と分析30分、応答15分										
15	まとめの講義と、授業内課題を実施。				事前: テキスト全体の復習 事後: 全体の再復習			講義45分、課題45分										
教本 :																		
『日本マンガ全史』(澤村修治著、平凡社)。本書は教員の筆名著書である。																		
参考文献 :																		
授業において適宜示し、またコピーを配布する。																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス :																		
取りあげる作家・作品については、図書館やweb情報、web動画で知識を増やし、作品に触れておくこと。教員は『少年マガジン』編集長に編集を学び、学生には就活や持ち込みのアドバイスも行ってきた。助言が必要な学生は尋ねるように。																		
オフィスアワー :																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	現代文学(散文) (Contemporary Japanese Literature (Prose))						科目分類	専門科目							
担当教員	横手 拓治														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要:	<p>小説における表現の豊かさを理解し読解力を身につけるために現代小説を幅広く取りあげる。昭和末期のポストモダンをプロローグとして、平成・令和の各種小説を扱い、ライトノベルも対象とする。双方向性授業およびアクティブラーニングを適宜導入する。</p>														
授業目標:	<p>*生き生きと躍動している同時代小説の多様な姿を理解する。      *ある小説に「感動する」というのはどうして起きるのか。駆使された表現を理解することで、この問いに向き合う。      *他の文章創作表現(脚本、エッセイ等)にも応用できる能力の一端を養う。</p>														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態								
1	ガイダンス、および導入として同時代小説を概観する。*講義と読解のほか関連データの紹介等も適宜実施する。リアクションペーパー提出適宜。				事前: 現代小説を読んでおく 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
2	村上春樹とポストモダン① *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
3	村上春樹とポストモダン② *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
4	平成期① 1990年代の小説 *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
5	平成期② 2000年代の小説 *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
6	平成期③ 2010年代の小説 *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
7	本屋大賞と芥川・直木賞① *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
8	本屋大賞と芥川・直木賞② *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
9	ライトノベル① *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
10	ライトノベル② *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
11	文体研究~読み比べの実施① *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
12	文体研究~読み比べの実施② *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
13	令和期(同時代の小説)① *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
14	令和期(同時代の小説)② *同。				事前: 作家の知識を増やす 事後: 復習、関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分								
15	まとめの講義と、授業内課題を実施。				事前: 全体の復習 事後: 現代小説を読んでおく		講義45分、課題45分								
教本:	<p>参考文献:      なし。作家・作品の理解に関わる素材等については、授業内で適宜示す。      *教員の文芸書『幽霊のはなし』(彩流社)。      *ポストモダンについては『日本近代小説史』(安藤宏、中央公論新社) ⇒教員は本書の担当編集者であり、制作に関わってきた。</p>														
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。</p>														
学生へのアドバイス:	<p>取りあげる作家については、図書館やwebで知識を増やし、作品をよく読んでおくこと。教員は文芸編集者を務めた経験があり、また翻訳小説の刊行(『幽霊のはなし』)もしている。実作について助言が必要な学生は尋ねるように。</p>														
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	現代文学(韻文) (Contemporary Japanese Literature (Verse))					科目分類	専門科目																			
担当教員	白石 佳和																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
現代詩(短歌・俳句)の代表的作品を精読しつつ、作品や作者の分析方法を学ぶ。また、複数の作品・作者の分析を通じて現代詩歌の歴史を大まかに把握する。																										
授業目標:																										
1. 現代詩(短歌・俳句)の読み方を習得し自分の意見が表現できる。 2. 現代詩(短歌・俳句)の歴史を大まかにとらえる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																			
1	オリエンテーションとして連歌・連詩を端緒にして現代詩歌について考える。				事前: 連詩について調べる 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
2	石原吉郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
3	谷川俊太郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
4	茨木のり子の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
5	伊藤比呂美の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
6	高橋睦郎の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
7	辻征夫の詩の作品分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
8	塚本邦雄の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
9	俵万智の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
10	穂村弘の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
11	21世紀の短歌作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
12	寺山修司の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
13	金子兜太の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
14	長谷川権の俳句作品の分析や作者の背景、時代状況について検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
15	「俳句の国際化」というテーマについて具体的な作品を読みながら検討を行う。				事前: 課題の下調べ 事後: 振り返りとまとめ		講義40分、ディスカッション30分、発表20分																			
教本:		参考文献: プリントを配布する。																								
成績評価の方法、評価基準:		授業で紹介する。																								
学生へのアドバイス:		さまざまな詩歌を読み、自分のことばの世界を広げましょう。																								
オフィスアワー:		初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	憲法 (Constitutional Law)					科目分類	基礎科目					
担当教員	三枝 昌幸			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要:	本講義では憲法の基礎について学習する。最初に憲法の意義や歴史を解説し、次に統治の仕組みを解説する。これらの知識を踏まえつつ、憲法が保障する人権の意義や内容、限界について解説する。講義では具体的な事例も取り上げて、憲法問題の解決方法を探る。											
授業目標:	1. 憲法の基礎知識を習得すること。 2. 具体的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになること。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養								
○	○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	憲法の意義や歴史について学習する。 憲法の役割について各自の見解をまとめる。					事前:シラバスの熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
2	国会の仕組みや権限について学習する。 国会に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
3	内閣の仕組みや権限について学習する。 内閣に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
4	裁判所の仕組みや権限について学習する。 裁判所に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
5	地方自治の仕組みについて学習する。 地方自治に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
6	人権の歴史や分類について学習する。 人権の意義について各自の見解をまとめる。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
7	信教の自由の意義や内容について学習する。 信教の自由に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
8	表現の自由の意義や内容について学習する。 表現の自由に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
9	職業選択の自由の意義や内容について学習する。 職業選択の自由に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
10	刑事手続上の権利の意義や内容について学習する。 刑事手続上の権利に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
11	生存権の意義や内容について学習する。 生存権に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
12	労働基本権の意義や内容について学習する。 労働基本権に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
13	選挙権の意義や内容について学習する。 選挙権に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
14	法の下の平等の意義や内容について学習する。 法の下の平等に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
15	新しい人権の実現方法や内容について学習する。 新しい人権に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
教本:	参考文献: 使用しない(レジュメを配布する)。											
成績評価の方法、評価基準:	使用しない。											
授業参加状況等(50%)、試験(50%)等で総合評価する。												
学生へのアドバイス:	日頃からニュースを確認して憲法に関する情報を収集しておくこと。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	憲法学 I (Japanese Constitutional Law I)						科目分類	専門科目														
担当教員	三枝 昌幸																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
本講義では憲法が定める人権保障の仕組みについて学習する。最初に憲法がどのような法であるかを解説し、次に人権の歴史や主体、限界などを解説する。これらの知識を前提に、個別の人権について具体的な事例を取り上げつつ検討していく。																						
授業目標：																						
1. 人権論の基礎知識を習得すること。 2. 具体的な人権問題について自身の見解を説明できるようになること。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	憲法の意義や歴史について学習する。 憲法の意義について各自の見解をまとめる。				事前：シラバスの熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
2	人権の意義や歴史について学習する。 人権の意義について各自の見解をまとめる。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
3	人権が保障される主体や人権の限界について学習する。 人権の享有主体に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
4	幸福追求権と新しい人権の実現方法について学習する。 新しい人権に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
5	法の下の平等の意義や内容について学習する。 法の下の平等に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
6	思想良心の自由の意義や内容について学習する。 思想良心の自由に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
7	信教の自由の意義や内容について学習する。 信教の自由に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
8	表現の自由の意義や内容について学習する。 表現の自由に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
9	集会結社の自由の意義や内容について学習する。 集会結社の自由に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
10	職業選択の自由の意義や内容について学習する。 職業選択の自由に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
11	財産権の意義や内容について学習する。 財産権に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
12	刑事手続上の権利の意義や内容について学習する。 刑事手続上の権利に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
13	生存権の意義や内容について学習する。 生存権に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
14	勤労の権利の意義や内容について学習する。 勤労の権利に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
15	選挙権の意義や内容について学習する。 選挙権に関する事例問題を検討する。				事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分															
教本：		参考文献： 使用しない（レジュメを配布する）。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法[第8版]』(岩波書店)。¥3,400(税別)																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等(50%)、試験(50%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
日頃からニュースを確認して人権問題に関する情報を収集しておくこと。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	憲法学II (Japanese Constitutional Law II)					科目分類	専門科目					
担当教員	三枝 昌幸			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要:	本講義では憲法の定める統治の仕組みについて学習する。最初に憲法とはどのような法であるかを解説し、次に統治の基本原理を解説する。これらの知識を前提に、統治の仕組みについて具体的な事例を取り上げつつ検討していく。											
授業目標:	1. 統治機構の基礎知識を習得すること。 2. 統治に関する具体的な憲法問題について自身の見解を説明できるようになること。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得											
	思考力・判断力・表現力の育成		○	学びに向かう力・人間性の涵養								
授業計画、事前学習・事後学習、形式												
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	憲法の意義や歴史について学習する。 憲法の意義について各自の見解をまとめる。					事前:シラバスの熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
2	日本憲法史について学習する。 明治憲法と日本国憲法の違いについて検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
3	権力分立と国民主権について学習する。 それぞれの基本原理が抱える現代的課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
4	象徴天皇制について学習する。 天皇制に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
5	選挙制度と政党制について学習する。 現代の制度が抱える課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
6	国会の地位や組織について学習する。 国会に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
7	国会の権限や議員の特権について学習する。 国会に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
8	内閣の地位や組織について学習する。 内閣に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
9	内閣の権限について学習する。 内閣に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
10	裁判所の地位や組織について学習する。 裁判所に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
11	裁判所の権限について学習する。 裁判所に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
12	地方自治の仕組みについて学習する。 地方自治に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
13	財政の仕組みについて学習する。 財政に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
14	平和主義の仕組みについて学習する。 平和主義に関する事例問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
15	憲法改正の手続について学習する。 憲法改正に関する様々な議論を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
教本:	参考文献: 使用しない(レジュメを配布する)。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法[第8版]』(岩波書店)。¥3,400(税別)											
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(50%)、試験(50%)等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	日頃からニュースを確認して憲法や政治に関する情報を収集しておくこと。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	行動観察法 (Behavior Observation Method)					科目分類	専門科目																			
担当教員	田村 修一																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
本授業では、心理学の研究法の一つである「観察法」について学ぶ。「観察法」の意義、目的、方法、独自性を学んだ後、演習を交えながら人間行動を実際に観察し、観察記録データを適切に記述するトレーニングを行う。そして、観察記録データを用いて量的分析や質的分析ができるようになるための基礎的能力を培う授業とする。																										
授業目標：																										
1. 心理学の研究法の一つである「観察法」の意義、目的、方法、独自性について理解できる。 2. 人間の行動を詳細に観察し、観察記録データとして適切に記述することができる。 3. 観察記録データから、人間行動に対する心理学的解釈や考察ができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 心理学研究法としての「観察法」：他の研究方法との違い				事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入			講義90分																		
2	研究法としての「観察法」：見え方は、みんな同じなのか？				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義60分・演習30分																		
3	「観察法」を用いた量的研究（時間見本法）の概説と研究事例の紹介				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義90分																		
4	行動観察の量的研究① 演習：「教師の発話」の量的分析				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義30分・演習60分																		
5	行動観察の量的研究② 演習：「カウンセラーの面接技法」の量的分析				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義30分・演習60分																		
6	「観察法」を用いた質的研究（事象見本法）の概説と研究事例の紹介				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義90分																		
7	行動観察の質的研究① 演習：思春期の子どもたち(1) 客観的事実の観察記録と主観的解釈を書き分ける				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義20分・演習70分																		
8	行動観察の質的研究② 演習：思春期の子どもたち(2) 観察記録の質的分析、発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分																		
9	行動観察の質的研究① 演習：集団就職する青年女子(1) 客観的事実の観察記録と主観的解釈を書き分ける				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義20分・演習70分																		
10	行動観察の質的研究② 演習：集団就職する青年女子(2) 観察記録の質的分析、発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分																		
11	行動観察の質的研究① 演習：記憶をなくした老年男子(1) 客観的事実の観察記録と主観的解釈を書き分ける				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義20分・演習70分																		
12	行動観察の質的研究② 演習：記憶をなくした老年男子(2) 観察記録の質的分析、発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分																		
13	行動観察の質的研究① 演習：自閉症の青年男子(1) 客観的事実の観察記録と主観的解釈を書き分ける				事前：なし 事後：演習の観察記録の整理			講義20分・演習70分																		
14	行動観察の質的研究② 演習：自閉症の青年男子(2) 観察記録の質的分析、発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分																		
15	学びの振り返り、発表とディスカッション				事前：ポートフォリオの準備 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分																		
教本：					参考文献：																					
「なるほど！ 心理学観察法」 佐藤 寛 編著 北大路書房 2018					「子どもエスノグラフィー入門」 柴山真琴 新曜社 2006年																					
					「心理学マニュアル・観察法」 中澤潤・大野木裕明・南博文 北大路書房 1997年																					
成績評価の方法、評価基準：																										
平常点（授業への参加状況・演習への取り組み）50%と観察記録（50%）の総合評価。																										
学生へのアドバイス：																										
人間行動に対する観察力を向上させるためには、一定量の「見る」練習が不可欠です。この授業でしっかりとトレーニングしましょう。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習											
授業科目(英文)	行動観察法演習 (Practical Training of Behavior Observation)						科目分類	専門科目												
担当教員	田村 修一																			
履修条件	前提科目	「行動観察法」の授業を履修済みであること。						その他												
授業概要:																				
心理学の研究法の一つである「観察法」を用いて質的研究が遂行できる能力を培う授業としたい。具体的には、映画の登場人物や、学内のさまざまな人々の行動を実際に観察・記録し、その観察記録データを用いて質的分析（主にKJ法）を体験的に学ぶ。																				
授業目標:																				
1. 人間の行動を詳細に観察し、適切な観察記録データとして記述することができる。 2. 観察記録データを用いて、質的分析法の一つであるKJ法によって、人間行動の意味づけ・解釈・考察ができる。 3. 文献研究の調査データも加味して、より詳細に人間行動の意味づけ・解釈・考察ができる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 研究法としての「観察法」に関する重要事項の復習				事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入			講義90分												
2	円卓シネマ① 演習：映画1の視聴（観察と記録） 映画の視聴、登場人物の行動観察と記録、映画の感想の記述				事前：なし 事後：観察記録の整理			講義15分・演習75分												
3	円卓シネマ② 演習：観察記録データの分析 行動観察データの分析（KJ法）、結果の整理と考察				事前：なし 事後：発表のための準備			演習90分												
4	円卓シネマ③ 演習：人間行動に対する考察 発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			演習90分												
5	円卓シネマ④ 演習：映画2の視聴（観察と記録） 映画の視聴、登場人物の行動観察と記録、映画の感想の記述				事前：なし 事後：観察記録の整理			講義15分・演習75分												
6	円卓シネマ⑤ 演習：観察記録データの分析 行動観察データの分析（KJ法）、結果の整理と考察				事前：なし 事後：発表のための準備			演習90分												
7	円卓シネマ⑥ 演習：人間行動に対する考察 発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			演習90分												
8	宇宙人課題(個人)① 演習：詳細に記録するトレーニング 学内にいる人で一番になった人の行動を観察し記録する。				事前：なし 事後：観察記録の整理			講義20分・演習70分												
9	宇宙人課題(個人)② 演習：観察記録データの分析 行動観察記録を分析・考察し、レポートを作成する。				事前：なし 事後：発表のための準備			演習90分												
10	宇宙人課題(個人)③ 演習：人間行動に対する考察 発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義20分・演習70分												
11	観察研究入門(グループ)①「見る」「聞く」 映画3を視聴し、登場人物の行動・発話を観察・記録する。				事前：なし 事後：観察記録の整理			講義15分・演習75分												
12	観察研究入門(グループ)②「調べる」「書く」 映画3の時代背景の文献調査、観察対象・行動観察の焦点化				事前：なし 事後：文献調査の整理			演習90分												
13	観察研究入門(グループ)③「考える」 観察データの分析（KJ法）と考察、発表用スライドのまとめ				事前：なし 事後：発表のための準備			演習90分												
14	観察研究入門(グループ)④「発表する」「対話する」 発表とディスカッション				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			演習90分												
15	学びの振り返りとディスカッション				事前：ポートフォリオの準備 事後：授業の振り返りの記入			講義30分・演習60分												
教本：					参考文献：															
「なるほど！ 心理学観察法」 佐藤 寛 編著 北大路書房 2018					「子どもエスノグラフィー入門」 柴山真琴 新曜社 2006年															
					「心理学マニュアル・観察法」 中澤潤・大野木裕明・南博文 北大路書房 1997年															
成績評価の方法、評価基準：																				
平常点（授業への参加状況、演習への取り組み）50%と観察記録・プレゼン発表作品（50%）の総合評価。																				
学生へのアドバイス：																				
人間行動に対する「観察力」「記述力」を向上させるためには一定量の練習が不可欠です。この授業でしっかりトレーニングしましょう。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	行動分析学 (Behavior Analysis)					科目分類	専門科目													
担当教員	牧 裕夫																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
TVコマーシャルで繰り返し「地球社会を体験する宇宙人が缶コーヒーを飲む」体験し特定の缶コーヒーが気になる。この体験の機序とは? 1913年J.B.ワトソン『行動主義者からみた心理学』に始まる心理学である。後半では心理臨床での活用へ展開する。																				
授業目標:																				
①前述した「授業概要」で示した様に、日常での行動分析学から理解できる場面が多々あることを知る ②行動主義心理学を創始したJ.B.ワトソンは「大臣にでも、大泥棒にでも出来る」とした。この手法の可能性と限界を検討したい。																				
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態												
1	オリエンテーション				事前: シラバスの精査 事後: シラバスの確認			講義60分、 ディスカッション30分												
2	行動分析学の哲学的な背景(デカルト、進化論等)からワトソンの行動主義へ(心理学史の中の位置づけ)				事前: 人と動物の違い 事後: 背景の哲学をまとめる			講義60分、 ディスカッション30分												
3	レスポンダント条件づけ(I.P.パブロフ)の展開				事前: 梅干しを見て唾液から 事後: コマーシャルにみる条件づけ例			講義60分、 ディスカッション30分												
4	新行動主義への展開(B.F.スキナーオペラント条件づけ、C.L.ハルの動因低減説)				事前: ネズミ、鳩と人の行動 事後: パブロフとスキナー			講義60分、 ディスカッション30分												
5	新行動主義への展開(E.C.トールマン、目的論的行動主義)				事前: 松蔭大学のマップ画けるかな? 事後: 近道を見つける認知			講義60分、 ディスカッション30分												
6	言葉も行動として制御(A.パンデューラ、観察学習から認知行動療法へ)				事前: 動物の「真似」はあるか 事後: スキナーとの差異			講義60分、 ディスカッション30分												
7	1956年認知革命(人工知能研究、チョムスキー、ブルーナーらによる)から認知心理学の登場				事前: 動物とは違うヒトの行動へ 事後: 認知心理学登場の背景			講義60分、 ディスカッション30分												
8	動物実験等からの基礎研究から応用行動分析(ABA)の登場				事前: 心理臨床での応用 事後: 自身の行動の修正			講義60分、 ディスカッション30分												
9	応用行動分析の例(不登校事例、課題分析、フラッディング法、フェイディング等)				事前: 前授業の手法を確認 事後: 自身の行動の修正計画			講義60分、 ディスカッション30分												
10	応用行動分析の例(就労支援、トラウマ関連での展開)				事前: コミュニティでの課題 事後: 応用行動分析の実際			講義60分、 ディスカッション30分												
11	心理臨床での適応(第一世代: ABA応用行動分析) 不登校事例等の学校臨床例ほかでの活用				事前: 行動分析での課題 事後: 第一世代での課題			講義60分、 ディスカッション30分												
12	心理臨床での適応(第二世代: 認知行動療法) 抑うつ関連事例から				事前: 「考えて」認知を行動とした 事後: 認知行動療法への展開			講義60分、 ディスカッション30分												
13	心理臨床での適応(第三世代: マインドフルネス) 不安やストレスの軽減等から				事前: 自力本願「座禅」の効果 事後: 「座禅」との違いは?			講義60分、 ディスカッション30分												
14	ダイバーシティ(多様性)時代での行動分析学(我一汝関係問題から)				事前: ディズニー作品 事後: 個性の在り方への対応			講義60分、 ディスカッション30分												
15	行動分析学と他理論との対比からのまとめ				事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習			講義60分、 ディスカッション30分												
教本:					参考文献: 適宜紹介する。															
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等(30%)、レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
行動分析学から他理論・技法との差異に関心をもつという相対化からの学びで取り組みたい。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	国際関係論 I (International Relations I)						科目分類	専門科目														
担当教員	高橋 敏哉																					
履修条件	前提科目	なし			その他	世界史、日本史の基礎的な知識が必要です。																
授業概要：																						
国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。Iにおいては現実主義の国際関係論のパースペクティブから国際関係を見る訓練を行います。																						
授業目標：																						
1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである現実主義の概略を知る。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	オリエンテーション：国際関係論はどのようなことを学ぶのか、なぜ生まれたのかを中心にお話しします。				事前：特になし 事後：配布物精読		講義（対話式を講義の半分に採用）															
2	分析のための視点とは？：現実主義、自由主義、構成主義の3つの視点の概要を紹介します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
3	国際関係とウェストファリア体制：ウェストファリア体制とは何か。また主権と内政不干渉の問題を扱います。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
4	現実主義① 現実主義の思想：トゥキディデスの「歴史」の現実主義的思想の理解を深めます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
5	現実主義② 現実主義の思想：マキャベリの現実主義的思想の理解を深めます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
6	現実主義③ 現実主義の思想：ホップスの現実主義的思想を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
7	現実主義④ 現実主義の思想・理論：カー、モーゲンソーの思想と現実主義の理論を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
8	現実主義⑤ 新現実主義の理論：ウォルツとミアシュミアーの現実主義の理論を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
9	現実主義⑥ 現実主義の理論：キッシンジャーの議論を紹介しながら、バランス・オブ・パワーの意味を理解します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
10	現実主義⑦ 現実主義の理論：近代ヨーロッパの国際関係を紹介しながら、バランス・オブ・パワーの意味を理解します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
11	第一次世界大戦とバランス・オブ・パワー：第一次世界大戦の原因としてのバランス・オブ・パワーの失敗について触れます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
12	第二次世界大戦とバランス・オブ・パワー：第一次世界大戦の原因としてのバランス・オブ・パワーの失敗について触れます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
13	冷戦とバランス・オブ・パワー：冷戦におけるバランス・オブ・パワーの意味の変化を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
14	ポスト冷戦とバランス・オブ・パワー：ポスト冷戦期における米中対立を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
15	国際関係の諸課題をどう見るか：国際関係を見るために我々が持つべき視点を整理します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分															
教本：		参考文献： 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。																				
各回の講義の中で必要に応じお知らせします。																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業参加状況等（授業態度、講義中の質問への回答含む）(50%)、レポート・定期試験(50%)等を目安に総合評価する。授業参加状況等が基準に満たない場合は、レポート等の評価はしない。																						
学生へのアドバイス：																						
国際関係論はこれから時代にとても重要なものです。講義の効果を上げるために、普段からテレビ、新聞、ネットでの国際関係に関するニュースに気を留めておくことが大事です。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	国際関係論 I (International Relations I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	福島 崇宏																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要：																										
私たちの生活に少なからず影響を与える国際問題。たとえば、ガソリンの価格が高くなったり安くなったりするのは、なぜなのだろうか。ガソリンの価格変動の裏には、石油産出国のみならず石油を買う国家や企業、さらには私たち個人を含めた多様なアクター間の利害関係がある。本講義ではこのような国際問題を考える上で必要な知識を習得することで、国際問題の利害関係を見る眼を養う。																										
授業目標：																										
本講義では、グローバル時代の国際関係を理解する上で必要な基礎知識（歴史的背景・国際関係理論など）の習得を第一目標として取り組む。最終的には新聞やメディアを通して伝えられる国際問題を正確に理解できるようになることを目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	国際関係論を学ぶに当たり、導入となる講義と討議を行う。				事前：教科書Unit.0の精読 事後：国際関係相関図作成			講義 60分、討議 30分																		
2	国際関係のあゆみ ①主権国家の誕生 ・ヨーロッパにおける国家の誕生について理解を深める。				事前：教科書Unit.1の精読 事後：主権国家の年表作成			講義 60分、討議 30分																		
3	国際関係のあゆみ ②ナショナリズムと列強の時代 ・列強による世界の植民地化について理解を深める。				事前：教科書Unit.2の精読 事後：植民地の白地図作成			講義 60分、討議 30分																		
4	国際関係のあゆみ ③第一次世界大戦 ・世界規模で展開された初の総力戦について理解を深める。				事前：教科書Unit.3の精読 事後：勢力図をノートに整理			講義 60分、討議 30分																		
5	国際関係のあゆみ ④第二次世界大戦 ・世界を二つに分けた戦争について理解を深める。				事前：教科書Unit.4の精読 事後：勢力図をノートに整理			講義 60分、討議 30分																		
6	国際関係のあゆみ ⑤冷戦 ・米日対立と相互依存体制の確立について理解を深める。				事前：教科書Unit.5の精読 事後：冷戦構造を白地図に			講義 60分、討議 30分																		
7	国際関係のあゆみ ⑥ポスト冷戦 ・グローバリゼーションの進展について理解を深める。				事前：教科書Unit.6の精読 事後：あゆみを年表形式に			講義 60分、討議 30分																		
8	国際関係の見方 ①パワーと国益 ・力による平和について理解を深める。				事前：教科書Unit.7の精読 事後：勢力均衡をノート整理			講義 60分、討議 30分																		
9	国際関係の見方 ②対立と協調 ・話し合いによる平和について理解を深める。				事前：教科書Unit.8の精読 事後：国連の各機関を整理			講義 60分、討議 30分																		
10	国際関係の見方 ③規範と制度 ・NGO（非政府組織）による平和について理解を深める。				事前：教科書Unit.10の精読 事後：NGO活動の整理			講義 60分、討議 30分																		
11	国際関係の見方 ④支配と従属 ・世界システム論について理解を深める。				事前：教科書Unit.9の精読 事後：国連平和維持活動整理			講義 60分、討議 30分																		
12	国際関係の見方 ⑤安全保障A ・日米安保体制・集団的自衛権について理解を深める。				事前：教科書Unit.11の精読 事後：特徴と課題の整理			講義 60分、討議 30分																		
13	国際関係の見方 ⑥安全保障B ・日本の国際貢献と平和維持について理解を深める。				事前：教科書Unit.11の精読 事後：国連平和維持活動整理			講義 60分、討議 30分																		
14	国際関係の見方 ⑦国際政治経済 ・多国籍企業について理解を深める。				事前：教科書Unit.12の精読 事後：多国籍企業の世界展開			講義 60分、討議 30分																		
15	国際関係の見方 ⑧国際関係における文化 ・文明の衝突について理解を深める。				事前：教科書Unit.13の精読 事後：異文化理解の現状整理			講義 60分、討議 30分																		
教本：		参考文献： 村田晃嗣他『国際政治学をつかむ【第3版】』有斐閣、2023年。 公共ライブラリー編集委員会編『公共ライブラリー2024-25』清水書院、2024年。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
日頃から国際関係に関する報道に対して興味・関心を持った上で授業に臨んで下さい。なお、授業中の携帯電話の使用及び私語は厳禁とします。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	国際関係論 II (International Relations II)						科目分類	専門科目																
担当教員	高橋 敏哉																							
履修条件	前提科目	できれば国際関係論 I を履修済であること。			その他	なし																		
授業概要：																								
国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。IIにおいては自由主義の国際関係論のパースペクティブから国際関係を見る訓練を行います。																								
授業目標：																								
1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである自由主義の概略を知る。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																	
1	オリエンテーション：講義全体の流れと、国際関係論の諸分野の概略をお話します。				事前：特になし 事後：配布物精読		講義（対話式を講義の半分に採用）																	
2	国際関係論の現実主義と自由主義：Iで学んだ現実主義を復習しながら、自由主義のパースペクティブの概要を見ます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
3	自由主義 自由主義の思想①：政治学での自由主義の3つの伝統を学びます。国際関係の場面との違いを知ります。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
4	自由主義 自由主義の思想②：カント、ベンサムの国際関係思想を中心に、自由主義的国際主義を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
5	自由主義 自由主義の思想③：コブデンの商業主義的自由主義とその歴史的背景を学び、今日までの応用を考えます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
6	自由主義 自由主義の理論①：戦間期のアイデアリズムを学びます。とりわけ「法」による解決の場面を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
7	自由主義 自由主義の理論②：戦間期のアイデアリズムを学びます。理性と教育、民主主義について見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
8	自由主義 自由主義の理論③：戦間期のアイデアリズムを学びます。集団的安全保障の仕組みを見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
9	自由主義 自由主義の理論④：自由主義的制度論を学び、機能主義から統合論の流れを見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
10	自由主義 自由主義の理論⑤：新自由主義を学び、アナキーの中の協力について学んでいきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
11	自由主義 自由主義の理論⑥：国際レジーム論、相互依存論を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
12	自由主義 自由主義の理論⑦：民主的平和論を学び、その論理と限界を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
13	自由主義 自由主義の理論⑧：安全保障共同体論を学び、その特徴を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
14	第二次世界大戦後の自由貿易と安全保障：戦後の自由貿易体制の果たした安全保障、国際秩序での役割を見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
15	まとめ：学習した内容を踏まえ、自由主義の国際関係論の可能性を探っていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 50分、ディスカッション 40分																	
教本：		参考文献： 毎回ハンドアウトを配布します。																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																								
授業参加状況等（授業態度、講義中の質問への回答含む）(50%)、レポート・定期試験(50%)等を目安に総合評価する。授業参加状況等が基準に満たない場合は、レポート等の評価はしない。																								
学生へのアドバイス：																								
国際関係論Iを更に深めます。日本の周りの国際環境は大きく変わろうとしています。この講義は国際関係を考えるための視点を養うことに力点を置いています。自ら考えていくことが将来の皆さんに重要なことです。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	国際関係論 II (International Relations II)						科目分類	専門科目														
担当教員	福島 崇宏																					
履修条件	前提科目	国際関係論 I						その他														
授業概要：																						
私たちの住む地球には、80億人を超える人が暮らしている。共存共栄を図るために、私たち地球人はさまざまな組織や規則を作り、連帶して数々の難問を乗り越えてきた。それでは、今日国際社会が抱えている難問（国際問題）はどうすれば解決することが出来るのだろうか。受講生と知恵を絞り、その解決策を探りたい。																						
授業目標：																						
本講義では、国際関係論 I で培った国際関係を考えるうえでの基礎的な知識（歴史・理論）を基に、国際社会が抱える諸課題について歴史的背景を踏まえた上で自らの言葉で表現することが出来るようになることが最終目標である。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	国際関係の正確な理解のために ・国際関係を取り巻くアクターを整理する。				事前：教科書Unit.0の精読 事後：アクター関係図の完成			講義 60分、討議 30分														
2	国際社会のしくみ ①政治体制 ・民主主義による平和について理解を深める。				事前：教科書Unit.14の精読 事後：民主主義概念の理解			講義 60分、討議 30分														
3	国際社会のしくみ ②外交交渉 ・領土問題について理解を深める。				事前：教科書Unit.16の精読 事後：北方領土問題の概要			講義 60分、討議 30分														
4	国際社会のしくみ ③対外政策決定過程 ・領土問題について理解を深める。				事前：教科書Unit.15の精読 事後：外交官の役割整理			講義 60分、討議 30分														
5	国際社会のしくみ ④国連の役割 ・国際法による国際秩序の形成と発展について理解を深める。				事前：教科書Unit.17の精読 事後：国連諸機関の役割整理			講義 60分、討議 30分														
6	国際社会のしくみ ⑤地域主義 ・地域統合と経済連携について理解を深める。				事前：教科書Unit.18の精読 事後：地域機関の整理			講義 60分、討議 30分														
7	国際社会のしくみ ⑥脱国家主体 ・グローバル化社会の特徴と課題について理解を深める。				事前：教科書Unit.19の精読 事後：多国籍企業の活動整理			講義 60分、討議 30分														
8	国際社会の課題 ①核兵器・原発問題 ・核兵器開発の歴史と課題について理解を深める。				事前：教科書Unit.20の精読 事後：原発と核兵器の整理			講義 60分、討議 30分														
9	国際社会の課題 ②新しい戦争 ・テロ・宗教について理解を深める。				事前：教科書Unit.21の精読 事後：テロと宗教の関係整理			講義 60分、討議 30分														
10	国際社会の課題 ③国連PKO活動 ・アフリカにおける資源獲得競争について理解を深める。				事前：教科書Unit.22の精読 事後：PKO活動の整理			講義 60分、討議 30分														
11	国際社会の課題 ④人権と民主主義 ・アフリカにおける民族対立について理解を深める。				事前：教科書Unit.23の精読 事後：ルワンダ民族対立整理			講義 60分、討議 30分														
12	国際社会の課題 ⑤グローバリゼーション ・ヒト、モノ、カネの移動について理解を深める。				事前：教科書Unit.24の精読 事後：グローバル化の整理			講義 60分、討議 30分														
13	国際社会の課題 ⑥開発援助 ・持続可能な発展に向けた現状と課題について理解を深める。				事前：教科書Unit.25の精読 事後：日本ODAの現状整理			講義 60分、討議 30分														
14	国際社会の課題 ⑦地球環境問題 ・大気・海洋汚染問題について理解を深める。				事前：教科書Unit.26の精読 事後：地球温暖化メカニズム			講義 60分、討議 30分														
15	国際社会の課題 ⑧生物資源の保護と利害対立 ・動植物の資源保護について理解を深める。				事前：教科書Unit.27の精読 事後：恩恵と課題の整理			講義 60分、討議 30分														
教本：		参考文献： 村田晃嗣他『国際政治学をつかむ【第3版】』有斐閣、2023年。 公共ライブラリー編集委員会編『公共ライブラリー2024-25』清水書院、2024年。																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
日頃から国際関係に関する報道に対して興味・関心を持った上で授業に臨んで下さい。なお、授業中の携帯電話の使用及び私語は厳禁とします。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	国際観光論 (International Tourism)						科目分類	専門科目													
担当教員	田中 一郎																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
国際ツーリズム（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際ツーリズムの促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論では、国際ツーリズムとは何か、国際ツーリズムの意義、世界および日本における国際ツーリズムの現状、ツーリズム・マーケティング、日本の国際ツーリズム政策など、国際ツーリズムについての基礎を学ぶ。																					
授業目標：																					
1. 国際ツーリズム（国際観光）の意義と世界における現状を理解すること 2. 日本における国際ツーリズムの現状を理解し、その重要性を認識すること																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
WS = 授業内容に関するワークシートに学生が記入・提出																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習(学習課題)		授業形態														
1	第1章 ツーリズム（観光）とは何か：ツーリズムの定義、ツーリズムの形態、ツーリズムの構成要素、ツーリズム研究の方法等、まとめ				事前：— 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
2	第2章 国際ツーリズムの意義：経済効果と雇用促進、相互理解の増進による世界平和への貢献、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
3	第3章 世界の国際ツーリズムの変遷と動向：世界の国際ツーリズムの変遷と動向、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
4	第4章 日本の国際ツーリズムの変遷と動向：訪日外国人旅行と日本人海外旅行、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
5	第5章 ツーリズム・マーケティング：デスティネーション・マーケティング、魅力あるデスティネーションづくり、効果的な宣伝、ターゲット・マーケットの選定、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
6	第6章 日本の国際ツーリズム政策と日本政府観光局：観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画、日本の国際ツーリズム政策、ビジット・ジャパン事業、日本政府観光局、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
7	第7章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：韓国・台湾・中国・香港・タイ・シンガポールマーケット				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
8	第7章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：豪州・米国・カナダ・英国・フランス・ドイツマーケット				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
9	小テスト																				
10	第8章 国際会議・インセンティブトラベル（報奨旅行）：MICEの意義、世界における国際会議、日本における国際会議、インセンティブトラベル（報奨旅行）、MICEの誘致、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
11	第9章 地方における国際ツーリズムに対する取り組み、まとめ 第10章 国際ツーリズムと交通産業・宿泊業・旅行業：交通産業				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
12	第11章 国際ツーリズムと交通産業・宿泊業・旅行業：宿泊業、旅行業、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
13	第12章 ツーリズム調査：ツーリズム調査とは、ツーリズム調査のプロセス、ツーリズム調査の方法、日本のツーリズム調査統計、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
14	第13章 国際ツーリズムと環境：エコツーリズム、持続可能な発展のための実践の現状、日本の取り組み、まとめ				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
15	全体のまとめ：第1章～13章全体を振り返り、重要なポイントを説明				事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分														
教本：																					
参考文献： 教科書は使用しない。プリントを配付する。 適宜、紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準：																					
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
世界の他の国々と同様に日本においても国際ツーリズムはますます重要な産業となってきている。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	国際経営論 I (International Management I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	佐久間 信夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
市民の活動や企業の活動はグローバル化が進んでいる。国際化する社会で活動するためには国際経営についての知識が必要である。本講義では、国際経営についての基礎的な知識と理論および身近な事例について学習する。																										
授業目標:																										
(1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。																										
(2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTDとディスカッションについても説明する。				事前:テキストの確認 事後:講義計画の確認			講義 90分																		
2	多国籍企業の概念と多国籍企業発展モデル① EPRG プロファイル ストップウォード=ウェルズのモデル				事前:EPRGを下読み 事後:発展モデルをまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
3	多国籍企業の概念と多国籍企業発展モデル② 集権化、分権化、プロダクト・ライフ・サイクル				事前:PLC理論の下読み 事後:集権化をまとめる			講義 90分																		
4	多国籍企業の理論的発展過程① 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト				事前:産業組織論的アプローチ 事後:取引コストをまとめる			講義 90分																		
5	多国籍企業の理論的発展過程② 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト				事前:プレゼンの準備 事後:プレゼンのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
6	多国籍企業と海外直接投資の歴史と現状 海外直接投資、資源開発型の海外直接投資、市場志向型の海外直接投資				事前:歴史と現状の下読み 事後:海外直接投資のまとめ			講義 45分、LTD 45分																		
7	多国籍企業の集権化と分権化 本社機能と地域統括会社 分化ネットワーク、地域統括会社				事前:地域統括会社の下読み 事後:分化ネットワーク			講義 90分																		
8	多国籍企業と所有政策 非持分形態進出、華人資本、商社参加型合弁				事前:所有政策の下読み 事後:非持分形態進出			講義 45分、LTD 45分																		
9	多国籍企業の研究開発戦略 基礎研究、応用研究、開発研究、研究開発の分散と集中、研究者のマネジメント				事前:研究開発戦略 事後:研究者のマネジメント			プレゼンテーション 90分																		
10	多国籍企業のロジスティックス戦略 QR、ECR、貨物追跡システム、集荷指令システム				事前:QR、ECRの下読み 事後:ロジスティックス戦略			講義 90分																		
11	多国籍企業と企業倫理 企業倫理、倫理相対主義、企業倫理の制度化				事前:企業倫理の制度化 事後:倫理相対主義をまとめる			講義 90分																		
12	EU統合と多国籍企業の活動① EU統合の歴史 欧州石炭鉄鋼共同体 EEC 通貨統合				事前:統合の歴史を下読み 事後:通貨統合をまとめる			プレゼンテーション 90分																		
13	EU統合と多国籍企業の活動② EU統合、M&A 全型式認定、GSM統一規格、公正さと調和の原則				事前:M&Aを下読み 事後:公正さと調和の原則			講義 45分、LTD 45分																		
14	NAFTAと多国籍企業の活動 NAFTA、米加自由貿易協定、原産地規則、米州自由貿易圏				事前:NAFTAを下読み 事後:FTAについてまとめる			プレゼンテーション 90分																		
15	AFTAと多国籍企業の活動 アセアン (ASEAN)、産業集積 メコン経済圏 経済特区 東西経済回廊				事前:東西経済回廊を下読み 事後:AECをまとめる			LTD 90分																		
教本:		参考文献: 佐久間信夫編著『現代の多国籍企業論』学文社																								
成績評価の方法、評価基準:																										
小テスト(70%)、レポート(30%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
授業には、必ず教科書と筆記用具を持って出席すること。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	国際経営論 II (International Management II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	佐久間 信夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
今日、日本では中小企業にいたるまで、国際化が進展している。企業の国際的な取引はもちろん、人材の国際化により、外国人労働者も増加している。社会生活を営むうえでも国際経営の知識は不可欠になっている。																										
授業目標:																										
(1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。																										
(2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTD やディスカッションについても説明する。				事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認			講義 90分																		
2	国際経営の主要理論 フェアウェザーの国際経営の枠組み ダニングの折衷理論				事前：国際経営の次元 事後：EPRG をまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
3	グローバル組織の発展過程 国際事業部 グローバルな事業部 グローバルなマトリックス組織				事前：国際事業部の下読み 事後：地域統括会社をまとめる			講義 90分																		
4	国際経営とグローバル人材の育成 國際人的資源管理とグローバル人材の育成 日本企業におけるグローバル人材育成				事前：国際経営環境の変化 事後：グローバル人事制度			講義 90分																		
5	経営管理手法の国際移転 日本企業のグローバル化と生産システム 海外拠点の管理手法				事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
6	国際経営の立地展開と多国籍化 メコン地域における拠点立地環境 生産分業に 関わる陸上交通網				事前：メコン地域の下読み 事後：消費の拡大のまとめ			講義 45分、LTD 45分																		
7	グローバル・マーケティング戦略 グローバル・マーケティング戦略の枠組み マーケティング・マネジメント				事前：OEM について下読み 事後：内部化理論をまとめる			講義 90分																		
8	グローバル・アライアンス戦略 アライアンスの種類と目的 内部化理論とグローバル・アライアンス				事前：アライアンスの下読み 事後：内部化理論をまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
9	グローバルM&A 戦略 成長戦略としてのクロスボーダーM&A 日本電産のM&A 戰略				事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
10	EUの深化と国際経営 EU統合の歴史 EUの危機とドイツの躍進				事前：東方拡大の下読み 事後：ブレギットをまとめる			講義 90分																		
11	NAFTAにおける経済政策の変化と国際経営 NAFTAの創設とその内容 NAFTAの発展と国際分業				事前：NAFTA の下読み 事後：NAFTA 再交渉			講義 90分																		
12	アジアをつなぐ AEC と国際経営 ASEANの成立から AEC 設立へ				事前： プrezenの準備 事後： プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
13	RCEP とインドの役割 ASEANの発展とRCEPの創設 AFTA と AFTA プラス				事前：RCEP を下読み 事後：AFTA プラスをまとめる			講義 45分、LTD 45分																		
14	異文化マネジメント 国際経営と文化 組織における異文化マネジメント				事前： プrezenの準備 事後： プrezenのまとめ			プレゼンテーション 90分																		
15	多国籍企業のCSR 戦略 CSR 戦略 CSR の歴史的展開と新パラダイム				事前：国際機関の指針を下読み 事後：企業の事例をまとめる			LTD 90分																		
教本：		参考文献： 佐久間信夫編著『現代国際経営要論』創成社																								
成績評価の方法、評価基準：																										
小テスト (70%)、レポート (30%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
授業には、必ず教科書と筆記用具を持って出席すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	国際経済論 I (International Economics I )					科目分類	専門科目																
担当教員	宮崎 隆																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要：																							
マクロ経済学は消費や投資、経済政策などの相互関係を学びますが、これに貿易が加わった国際経済学はさらに多くの経済変数の相互依存関係を考えなければなりません。古くは国家間のモノの貿易だけでしたが、現在はサービス貿易の比率も上がり、円滑な取引を求めるよりよい制度を模索しています。本科目は歴史と制度、理論の3分野を講義します。																							
授業目標：																							
メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○			○																				
授業計画・事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と情報収集法の説明。(2) 経済学体系の概説と国際経済学のカテゴリズ。					事前：経済用語表を作成。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
2	世界の中の日本経済：“Japan as No.1”わが国は戦後23年でGNP世界第二位まで成長する。この過程と要因とを解説する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
3	ブレトンウッズ体制：国際通貨基金(IMF)と世界銀行、GATT. 戦後の体制づくりとそのシステム。金本位制。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
4	固定相場制から変動相場制へ：ニクソン・ショック 米大統領R.ニクソンの「金とドルの兌換停止」宣言。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
5	為替レートの決定：為替リスクとは何か 円／ドル・レートは日々変動する。その理由と影響を説明する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
6	国際收支とマクロ経済：「双子の赤字」とレーガンomics 米大統領R.レーガンの経済政策とアメリカ経済。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
7	国際貿易の内訳：モノとサービス 近年はサービス収支(輸送や旅行、金融等)が増大している。その背景と動向を概説する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
8	開放下の経済政策：マンデル・フレミング・モデル 閉鎖経済を前提としたケインズ・モデルを開放経済で拡張。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
9	貿易の基礎理論：なぜ貿易するのか。D.リカードによる比較優位論(1817)はその後の国際経済学の基礎となっている。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
10	貿易政策：貿易立国と呼ばれているが、行政が特定産業を誘導することを産業政策とよび日本経済の特徴となっている。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
11	貿易問題：品目と交渉の歴史 国際貿易は紛争の歴史もある。 (1) 日米貿易摩擦 (2) 織維、家電、自動車他					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
12	産業構造調整：貿易が産業に及ぼす影響 (1) 衰退産業と保護政策 (2) 産業のセットアップ					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
13	世界貿易機関(WTO)について：GATTの後継機関 自由貿易を目的として1995年設立。歴史と設立の背景を解説。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
14	多国籍企業：複数の国で開発・生産・販売 (1) アメリカの多国籍企業 (2) 日本の多国籍企業					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
15	拡大する国際金融市场：バブル景気を契機としたリスク問題 (1) 拡大の経緯 (2) ジャパン・マネーの拡大と衰退					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約	講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)																
教本：		参考文献： なし。適宜、資料を配布します。																					
		なし。関連情報源を随時提示します。																					
成績評価の方法、評価基準：																							
小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。なお、指定のリポートの他に追加の自主リポートの提出を認め、成績に加算します。																							
学生へのアドバイス：																							
本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。																							
オフィスアワー：																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	国際経済論 II (International Economics II )					科目分類	専門科目																			
担当教員	宮崎 隆																									
履修条件	前提科目	国際経済論 I を履修していることが望ましい。																								
その他																										
授業概要:																										
国際経済論 I は主として国際経済学の制度と歴史、理論について扱いましたが、本講座は当該分野における近年のトピックスを取り上げます。また、国際経済学は国際政治と密接に関連していますので、随時政治問題にもふれます。																										
授業目標:																										
メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス: 講義の進め方と範囲、評価の方法他を説明。予備資料の配布等。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
2	世界の主要な経済連携 1 : ECC, EU マーストリヒト条約に基づいて設立された背景、イギリスの脱退等について概説					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
3	世界の主要な経済連携 2 : APEC 1989年発足のアジア太平洋経済協力。現在21か国加盟。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
4	世界の主要な経済連携 3 : ASEAN 1967年発足の東南アジア諸国連合。現在10か国加盟。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
5	世界の主要な経済連携 4 : TPP 2016年発足の経済連携協定。正式名称は「環太平洋パートナーシップ協定」					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
6	貿易の実態 1 : アメリカ 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
7	貿易の実態 2 : 中国 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
8	貿易の実態 3 : 欧州 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
9	貿易の実態 4 : アジア他 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
10	わが国の貿易 1 : 特徴と動向 繊維から鉄鋼、船舶、家電、自動車他、いわゆる重厚長大から軽薄短小までの変遷。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
11	わが国の貿易 2 : 特徴と動向 サービス貿易の実態と動向。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
12	エネルギー問題: 原油と天然ガス他 次世代エネルギーの電力をつくるために貿易構造も変化する。経済成長とエネルギー。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
13	自動車の大変革と国際経済: 電気自動車 世界的に自動車がEV化する。これが世界経済をどうかえるか。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
14	暗号資産(仮想通貨)問題: インターネット利用の通貨 仮想通貨は貨幣だろうか。貨幣の経済学から仮想通貨を考える。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
15	インターネットと国際経済: GAFAの台頭と国際経済 巨大なITサービス企業が世界経済システムを変えつつある。					事前: 経済用語表の作成。 事後: 講義内容の要約	講義(60分:PBL含む) 小レポート(30分)																			
教本:		参考文献: なし。適宜、資料を配布します。																								
		なし。関連情報源を随時提示します。																								
成績評価の方法、評価基準:																										
小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。なお、指定のリポートの他に追加の自主リポートの提出を認め、成績に加算します。																										
学生へのアドバイス:																										
本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練するためにメディア情報にふれてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	国際政治学 I (International Politics I)						科目分類	専門科目													
担当教員	高橋 敏哉																				
履修条件	前提科目 その他	特に限定はしませんが、できるだけ国際関係論 I の履修が済んでいる方が望ましいです。 なし																			
授業概要： 国際政治学の入門を国際秩序の理論的な枠組みを学びながら行います。19世紀からの国際政治秩序を現代まで追っかけていきます。同時に戦争・平和、安全保障の話を時事的な問題にも触れながら探究していきます。																					
授業目標： 1. 国際政治の背景にある秩序の変化を知る。 2. その変化の中で、国際経済・経営の現象を理解し考えることができる素地を作る。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	オリエンテーション：講義の概要や進め方について説明します。				事前：特になし 事後：ハンドアウト復習			講義													
2	18世紀、19世紀の近代ヨーロッパ国際システム：近代ヨーロッパの国際関係秩序を概略します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
3	第一次世界大戦：第一次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
4	ベルサイユの平和：第一次世界大戦後の平和体制であるベルサイユ体制について見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
5	戦間期とアイデアリズム：集団的安全保障と戦争の違法化戦間期の理想主義であるアイデアリズムを見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
6	アイデアリズムの陥穀：戦間期のアイデアリズムの失敗を、E.H.カーの『危機の20年』に触れながら見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
7	ミニテスト①：前半のまとめをします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			テストと解説													
8	第二次世界大戦：第二次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
9	サンフランシスコの平和と冷戦の始まり：国連等を中心に第二次世界大戦後の国際関係秩序について見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
10	冷戦と東西の熱戦（朝鮮戦争・ベトナム戦争）：冷戦の仕組みと代理戦争であった朝鮮戦争、ベトナム戦争を分析します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
11	冷戦と多極化：中ソ対立、欧州や日本の経済的台頭による国際秩序の変化に触れます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
12	冷戦の終焉：冷戦の終わりはなぜ起きたのか、その変化の原因について学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
13	冷戦後の世界秩序：アメリカ一極体制から、多極化あるいは米中2極と言われる変化を追います。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
14	ミニテスト②：後半のまとめをします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			テストと解説													
15	民主主義の危機と国際政治における変化：ポスト・ファクト（事実）あるいはフェイクニュース、偏狭なナショナリズムの高揚と移民排斥の現象の中で、国際政治の秩序はどうなっていくのか、何をすべきか考えてみます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分													
教本： 資料を配布します。（オンライン配布も検討します）					参考文献： 各回の講義の中でハンドアウトを配ります。																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス： 日本の周辺で起きている国際政治を理解し、自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持ってそうでしたら講義に参加してみて下さい。暗記より考えることを重視した講義になります。																					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	国際政治学Ⅱ (International Politics Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	高橋 敏哉																									
履修条件	前提科目 その他	特にないが、国際政治学Ⅰや国際関係論Ⅰの事前受講が望ましい。 なし																								
<b>授業概要：</b> 日本の経営や経済を深く見ていくには、国際政治での重要な事例での意思決定や日本の外交史の知識も必須です。本講義は国際関係論における意思決定論（外交政策）と日本外交の歴史を概略し、基本的な事例を通じ、意思決定の重要性と限界を見ていきます。																										
<b>授業目標：</b> 1. 意思決定論の概要と重要な事例の背景を理解する。 2. 戦後日本経済を発展させてきた日本外交の流れを知る。																										
<b>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 5px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○	○																									
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション：講義の概略を説明し、意思決定論と外交史の位置づけをします。				事前：特になし 事後：資料熟読			講義																		
2	歴史的な意思決定の事例①：キューバ・ミサイル危機の事例をアリソンの3つのモデルとともに紹介します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
3	歴史的な意思決定の事例②：第1次世界大戦の始まりでの欧州列強諸国の意思決定の問題を見てていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
4	歴史的な意思決定の事例③：真珠湾攻撃への日本の意思決定の問題点を見てていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
5	戦前日本外交の意思決定①：日本の戦前の意思決定モデルにつき学術の議論を紹介し、満州事変の事例を見てきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
6	戦前日本外交の意思決定②：日中事変とノモンハン事件の事例を見てきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
7	戦前日本外交の意思決定③：なぜ太平洋戦争を途中で止められなかったか、日本の意思決定の仕組みの問題を見てきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
8	ミニテスト：前半の復習をします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			テストと解説																		
9	戦後日本外交①：戦後の経済中心・軽武装路線である吉田外交を、吉田の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
10	戦後日本外交②：戦後の再武装・独自外交路線である鳩山外交を鳩山の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
11	戦後日本外交③：戦後の再武装・独自外交路線である岸外交を岸の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
12	高度経済成長と日本外交：高度経済成長を支えた戦後日本の外交路線を見てきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
13	アジア太平洋での日本のリーダーシップと多国間主義外交：戦後日本の新たなアジア太平洋外交の流れを見てきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
14	米中対立の中の日本外交：米中対立の流れ、その本質、今後の展開につき視点を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
15	まとめ：全体の総まとめをします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義60分 ディスカッション30分																		
<b>教本：</b> 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。					<b>参考文献：</b> 講義の中で必要に応じ紹介します。																					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																										
<b>学生へのアドバイス：</b> 國際関係論より覚える知識を増やしている講義ですが、力点は単なる暗記より考える部分に置いています。ここで学ぶ知識は将来必ず役に立つものですから、是非、頑張って受講してみましょう。																										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講習													
授業科目(英文)	子育て支援 (Child care support)						科目分類	専門科目														
担当教員	石橋 優子																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。																						
授業目標：																						
保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	オリエンテーション・子育て支援・保護者支援について考える。				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
2	子育て支援の意義について考える。 (保護者への子育て支援と保育の特性、保育者の専門性)				事前：P 133～144予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
3	子育て支援の基本1 (子どもの最善の利益と福祉の重視について考える。)				事前：P 151～159予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
4	子育て支援の基本2 (子どもの成長・発達の喜びの共有について考える。)				事前：P 161～163予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
5	子育て支援の基本3 (保護者の養育力の向上のための基本について考える。)				事前：P 164～175予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
6	子育て支援の基本4 (信頼関係を基本とした対人援助の原則について考える。)				事前：指定資料の予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
7	子育て支援の基本5 (地域資源の活用と関係機関との連携・協力について考える。)				事前：P 176～181予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
8	子育て支援の実際1 (保育と保護者支援について考える。)				事前：P 183～186予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
9	子育て支援の実際2 (子育て支援の内容・方法・技術について考える。)				事前：P 187～193予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
10	子育て支援の実際3 (保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンスについて考える。)				事前：P 194～200予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
11	児童福祉施設における子育て支援1 (保育所における子育て支援の実際について考える。)				事前：P 201～218予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
12	児童福祉施設における子育て支援2 (特別な支援を必要とする家庭への支援について考える。)				事前：P 219～225予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
13	児童福祉施設における子育て支援3 (要保育児童の家庭への支援)について考える。				事前：P 226～227予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
14	児童福祉施設における子育て支援4 (障害児施設、母子生活支援等における支援について考える。)				事前：P 228～230予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
15	子育て支援の現状と課題について考える。				事前：指定資料の予習 事後：学習範囲の復讐			講義（60分）・ グループ討議（30分）														
教本：		参考文献：																				
相談援助 保育相談支援		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																				
著書：笠師知恵、小橋明子 株式会社中山書店																						
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（20%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
子どもや保護者を取り巻く社会情勢はますます厳しくなっており、その身近な支援者である保育者には特に大きな期待が寄せられている。支援の実際を学ぶ中で、子どもに関わる専門職として何ができるか、何をしなければならないかを考える機会としてほしい。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	古典文学 (Classical Literature)					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
日本最初のアンソロジー（詩歌集）『万葉集』を対象として授業を行う。本文の校訂、語釈、口訳、鑑賞（解釈）を行い、発生論的な思考法を学びながら、作品成立の意味や文学的な位置づけを行う。																										
授業目標:																										
上代の文学作品を読み、適切な解釈を行うことができる。『万葉集』の特質、研究について説明することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス。『万葉集』を読む意味を考える					事前：シラバスを読む。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義																		
2	『万葉集』入門					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義																		
3	短歌、和歌の読み方について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義																		
4	恋の歌を読む。相聞歌の世界について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
5	宮廷儀礼歌を読む。雑歌の世界について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
6	死者追悼の歌を読む。挽歌の世界について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
7	『死者の書』の世界。古代の歌と現代文学の発生について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
8	皇位継承の問題① 大津皇子と大来皇女の文学について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
9	皇位継承の問題② 大津皇子と大来皇女の文学について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
10	辞世の歌と挽歌の世界について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
11	額田王と柿本人麻呂について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
12	高市黒人と山部赤人について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
13	大伴旅人と山上憶良について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
14	大伴坂上郎女と大伴家持について考える					事前：授業内容の予習。 事後：授業の予習、次回の予習。		講義・演習																		
15	東歌と防人歌について考える。まとめ。					事前：授業内容の予習。 事後：まとめ		講義																		
教本：		参考文献： なし。プリント配布。 櫻井満編『必携万葉集要覧』その他。授業時に示します。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（20%）、コメント・カードの提出（30%）、レポート（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
予習・復習をして休まずに出席すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	古典文学(散文) (Classical Literature (Prose))					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七鞘																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
物語の発生からその展開について解説する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説等を理解する。長編物語と短編物語、男性の物語と女性の物語の比較、また日記文学や隨筆について講義・演習を通じて古典文学を深く理解する。講義のほか、学生の研究発表の形式を探る。																										
授業目標:																										
1. 日本の古典文学(散文)について、時代別、ジャンル別・作品別にその特質を理解する。古典の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な方法や知識を習得する。古典の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。 2. 古典の理念と変遷を理解する。古典の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典の各分野(物語・和歌・隨筆・日記等)の展開や価値を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	日本文学の発生、「古事記」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義																		
2	「日本書紀」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
3	「風土記」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
4	「日本靈異記」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
5	「竹取物語」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
6	「伊勢物語」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
7	「源氏物語」を読む1(概論、成立、作者紫式部、男源氏、女源氏)					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
8	「源氏物語」を読む2(桐壺巻)					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
9	「平家物語」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
10	「大鏡」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
11	「土佐日記」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
12	「更級日記」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
13	「枕草子」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
14	「方丈記」「徒然草」を読む。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																		
15	散文文学のまとめを行う。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義																		
教本: 授業時にプリントを配布。		参考文献: 1. 『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ¥872 2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著 有斐閣ブックス ¥2,520																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト(15%)、授業への参加度(25%)、試験(60%)																										
学生へのアドバイス: 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー: 木曜日 昼休み。総合研究センター(3号館7階、3716)																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習			
授業科目(英文)	古典文学(散文) (Classical Literature (Prose))					科目分類	専門科目					
担当教員	伊藤 高雄			○	○	○	○	○	○			
履修条件	前提科目	なし	○	○	○	○	○	○	○			
その他	なし	○	○	○	○	○	○	○	○			
授業概要:	物語の発生からその展開について考察する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説などを理解する。短編物語から長編物語へ、男性の物語と女性の物語、日記文学や隨筆についても講義・演習を通じて古典文学における散文的要素について考えていく。											
授業目標:	1. 日本の古典文学(散文)について、時代別、ジャンル別、作品別にその特質を理解する。 2. 古典文学(散文)の背景としての歴史・環境・風土について理解する。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			○	○	○	○	○	○			
○	○			○	○	○	○	○	○			
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	ガイダンス。日本文学の発生 「古事記」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
2	「日本書紀」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
3	「風土記」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
4	「日本靈異記」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
5	「竹取物語」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
6	「伊勢物語」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
7	「源氏物語」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
8	「平家物語」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
9	「大鏡」・鏡物を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
10	「土佐日記」・「更級日記」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
11	「枕草子」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
12	「方丈記」・「徒然草」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
13	近松淨瑠璃を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
14	「奥の細道」を読む					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
教本:	参考文献: 授業時にプリントを配布。 各社の国語便覧その他。適宜、授業中に指示する。											
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、コメント・カードの提出(30%)、レポート(50%)等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	予習・復習をして休まずに出席すること。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	古典文学(韻文) (Classical Literature (Verses))					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:	詩歌の発生や作品にみられる特質について考える。講義のほか、学生によるテーマ発表を行う。																									
授業目標:	日本文学史上の韻文作品の特質を発生から始まって、系統的に理解し、概説が出来る。																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	日本文学の発生。「古事記歌謡」を読む。神話と歌謡の関係について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義																			
2	「日本書紀歌謡」を読む。日本の古代と歌謡について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
3	「風土記歌謡」を読む。風土について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
4	「万葉集」を読む1. 歌をうたうことと文字で記すことについて考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
5	「万葉集」を読む2. 天皇の歌、貴族の歌、庶民の歌、女歌について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
6	「古今和歌集」の歌を読む。六歌仙の歌、平安時代中期の歌について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
7	「新古今和歌集」の歌を読む。平安時代後期の歌を考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
8	「百人一首」の歌を読む1. 概論、編者、成立を考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
9	「百人一首」の歌を読む2. 後世の文学とのかかわりも考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
10	「梁塵秘抄」の歌を読む。後白河法皇、白拍子とは何か、考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
11	近世歌謡、和歌を読む。国学と文学の関係について考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
12	「奥の細道」を読む。俳諧連歌の世界を考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
13	学生の発表①					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
14	学生の発表②					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習																			
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義																			
教本:	参考文献: なし。プリント配布。 各社の国語便覧。																									
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、コメント・カードの提出(30%)、レポート(50%)等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス:	予習・復習をして休まずに出席すること。																									
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																
授業科目(英文)	言葉(子どもコミュニケーション) (Language (Communication with Children))		科目分類		専門科目																				
担当教員	古金 悅子																								
履修条件	前提科目	保育内容(言葉) 保育内容(表現)																							
授業概要:																									
乳幼児が言葉を身に付けていく過程を理解し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」の領域「言葉」の内容を理解したうえで、子どもの豊かな言葉を育む援助や指導について実践できるようにする。領域「言葉」の特性を活かして教材を活用し、具体的な指導方法を身につける。																									
授業目標:																									
子どもが言葉を獲得していく過程を踏まえた保育内容と指導のあり方について学ぶ。具体的な事例を通して環境や保育者のかかわり、援助について考えていく。言葉の領域に関する教材について、実技を経験しながら幼児理解を深めていく。																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																					
○				○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)		授業形態																			
1	オリエンテーション、領域「言葉」について			事前:シラバスを読んでおく 事後:授業ポイントをまとめる		講義40分、ペアワーク20分、発表30分																			
2	「言葉」の指導法の内容とねらい			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
3	言葉の発達と環境			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
4	3歳未満児の言葉と保育者の指導・支援 前言語期のコミュニケーションについて			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
5	3歳児の言葉と遊び・子どもの言葉から心をつかむ			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
6	4・5歳児の言葉と遊び・文字への興味・関心を育てる			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
7	言葉と国語教育・就学までに身につけたい言語力			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
8	言葉を豊かにする言葉遊び			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
9	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
10	保育者の言葉と家庭支援			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		講義45分、グループワーク45分																			
11	言葉を育てる児童文化財の研究			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		学生による実践発表50分、協議40分																			
12	言葉を育てる保育実践(事例検討①)			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		グループワーク30分、発表30分、協議30分																			
13	言葉を育てる保育実践(事例検討②)			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		グループワーク30分、発表30分、協議30分																			
14	言葉を育てる保育実践(事例検討③)			事前:前時の復習をしておく 事後:配布資料をまとめる		グループワーク30分、発表30分、協議30分																			
15	「言葉」の領域のまとめ			事前:14回の資料をまとめておく 事後:これまでの総復習をする		講義と解説50分、確認テスト25分、授業アンケート15分																			
教本:		参考文献:																							
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説																									
成績評価の方法、評価基準:授業内での取り組み、発言や発表を重視します。 授業参加状況等(70%)、小テスト・レポート等(30%)、等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス:																									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	言葉で遊ぶ(言語表現) (Play with Words (Expression in Language))			科目分類			専門科目															
担当教員	古金 悅子																					
履修条件	前提科目	保育内容(言葉)						その他														
授業概要:																						
乳幼児期の言語発達の道筋や特徴などについて学び、子どもの「言葉」を育てるための「言葉遊び」や言語表現を用いた様々な教材を体系的に理解する。保育者として表現技術指導の基礎的知識を身に付け、実際に活用するための基礎力を養成する。入門的言語表現教材の開発の理論と知識を学ぶ。																						
授業目標:																						
乳幼児の言葉の獲得や発達の過程を知り、保育者として感性を豊かにすると共に、言語表現に関する教材や児童文化財の活用のための理論を理解し、指導力と実践力を身に付ける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など				事前:シラバスの確認 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
2	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 言葉のリズムを楽しむわらべ歌の様々な遊び方を工夫する				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
3	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 話し言葉・書き言葉を育てる言葉遊びを知り、経験する				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
4	絵本と紙芝居 それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
5	パネルシアター ① パネルシアターの仕組みや活用の仕方を考える				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
6	パネルシアター ② パネルシアターの作り方を学び、実践できるようにする				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義10分、 作品制作80分														
7	パネルシアター ③ 教材としてのパネルシアターの扱い方を身につける				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義20分、 作品発表70分														
8	様々な児童文化財を知る ① それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
9	様々な児童文化財を知る ② かるたについて学ぶ				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 グループワーク60分														
10	素話の技術を身につけ、実践する① 言語表現の実際を知り、指導について考える				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
11	わらべうたの技術を身につけ、実践する① 年齢や発達に応じた遊び方や指導法を工夫する				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 発表60分														
12	わらべうたの技術を身につけ、実践する②				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 発表60分														
13	わらべうたの技術を身につけ、実践する③				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 発表60分														
14	わらべうたの技術を身につけ、実践する④				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 発表60分														
15	学修のまとめ				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分														
教本: 必要に応じて資料を配付します。		参考文献: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領																				
成績評価の方法、評価基準: 授業内発表等(50%)、小テスト・レポート等(30%)、作成教材(20%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス: 積極的に参加することで実践力を身に付けて下さい。子ども学科の学生は途中、幼稚園実習が入りますので、他の回は休まないようにして下さい。																						
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	子ども教育原理 (Principles of Childhood Education)						科目分類	専門科目												
担当教員	大沢 裕																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
教育の理念と意味、教育思想の歴史的変遷（我が国と欧米の場合）、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼児の教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。																				
授業目標：																				
子どもの教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、子ども教育の基礎的理論を理解する。子どもの教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	子どもの教育の本質と意義			事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
2	教育の目的・理念			事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
3	家庭教育（家族の教育）			事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分													
4	学校教育			事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
5	社会教育			事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
6	諸外国の子どもの教育思想と歴史（古代）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
7	諸外国の子どもの教育思想と歴史（中世ヒルネッサンス期）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
8	諸外国の子どもの教育思想と歴史（近代）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
9	我が国の子どもの教育思想と歴史			事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
10	子どもの人権教育			事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を振り返る			グループ討論 60分 発表 30分													
11	近代の教育制度・教育法規の基礎			事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
12	子どもの教育の内容			事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
13	子どもの教育の方法			事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分													
14	子どもの教育実践の様々な取り組み			事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を振り返る			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分													
15	生涯学習と現代の教育課題			事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：			グループ討論 45分 講義 45分													
教本：なし					参考文献： 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 『教育の知恵 60』（大沢裕編著、一藝社） 適宜、授業時に指示する。															
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 幼児教育者として必須の、子どもの教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方方が身についているかを討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。																				
学生へのアドバイス： 教育の時事問題に関心を持つこと。																				
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	子ども教育社会学 (Sociology of Child Education)						科目分類	専門科目												
担当教員	深谷 野亞																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
<b>授業概要 :</b> この授業では、現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型の授業を目指していきたい。																				
<b>授業目標 :</b> 教育がどのような制度／法律下で子どもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようにすることを目的としている。具体的には以下の5つを目標とする。 ①学校教育に与える社会の影響を理解する ②制度や法律と学校教育のかかわりについて理解する ③学校改善のための取組について理解する ④地域と学校の連携の重要性を理解する ⑤安心・安全な学校作りへの取組を理解する。																				
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○◎、重要なに○○)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 5px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																		
○	○																			
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																				
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態													
1	社会変化と学校 情報化を取り上げながら、社会変化が学校教育にどう影響を与えていたかを考えていきます。			事前:なし 事後:次回の配布資料を読む			講義 70分・ ディスカッション 20分													
2	家族変化と学校： 少子化が子どもの成長・教育に対してどういう影響を与えていたかを考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分													
3	公教育の原理について考える 公教育としての学校について、日本の学校の特徴や学校教育における公共性の問題を考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ グループワーク 30分													
4	日本の教育制度とは何か： 明治以降の教育制度の変遷をたどりながら、制度と教育の関連について考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 70分・ グループワーク 20分													
5	諸外国の教育改革と課題を考える： 諸外国の教育改革を理解し、その上で日本の教育改革の現状と課題を理解します。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ グループワーク 30分													
6	教育政策と教育行政： 教育政策や教育行政の原理を理解し、課題と改善策を考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 70分・ グループワーク 20分													
7	日本国憲法と教育基本法 日本国憲法と教育基本法の関係を理解すると共に、教育基本法がどう改正されたかを考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 80分・ グループワーク 10分													
8	学校教育法と関連法規 学校に関連するさまざまな関連法規について理解します。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分													
9	学級経営とは何か 生徒たちが主体的に学習する組織にするために、学級経営の在り方について考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ グループワーク 30分													
10	教育評価と学級経営 学級経営を評価し、次年度以降の改善にどうつなげているのか、その方法を理解していきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ グループワーク 30分													
11	評価というシステム—PDCAサイクルを理解する— PDCAサイクルを理解し、自ら実践できるようにします。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 20分・ グループワーク 50分・ 発表 20分													
12	チームとしての学校という視点 中教審答申を中心に、チームとしての学校という視点を理解します。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ グループワーク 30分													
13	開かれた学校Ⅰ（地域の教育力の活用） 学校・家庭・地域社会の連携の在り方を理解します。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分													
14	開かれた学校Ⅱ（学校評議委員・学社連携の模索） 地域から信頼できる学校作りのための実践例を学習し、課題について考えます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分													
15	開かれた学校と安心・安全な学校作り 「開かれた学校」と生徒にとっての安全な学校作りの兼ね合いは非常に難しい。 いくつかの実践例から、課題を考えていきます。			事前:配布資料を読む 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			発表 60分・講義 30分													
教本:なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめ ていきます。					<b>参考文献 :</b> 高妻紳次郎『新・教育制度論：教育制度を考える15の視点』ミネルヴァ書房、2014年。 その他授業中に適宜紹介します。															
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価します。																				
<b>学生へのアドバイス :</b> 社会学的思考を自ら実践できるようになることを目的としています。授業には積極的に参加してください。																				
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝えます。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	子ども教育制度論 (Childhood Education System)						科目分類	専門科目														
担当教員	野川 智子																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
現代の学校教育と幼児教育の法と制度の基礎を理解するとともに、教育を支える学校組織、教育行政、家庭や地域の実情と連携について相互に関連しながら教育や保育が実践されていることを理解する。また、今日的な課題について調べて発表することを通して望ましい教育や保育の在り方について考えを深める。																						
授業目標：																						
①教育・保育の法と制度について変遷と現状を理解する。 ②教育・保育を支える仕組みを学校経営や家庭・地域の連携、行政の役割など多面的に理解し、教育・保育の在り方を考える。 ③特別支援教育、社会教育、教育の方法などを理解した上で、今日的な課題についてのプレゼンテーションを行う。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	現行の教育の法と制度の概要について講義を聞いて理解する				事前：なし 事後：配布資料まとめ			講義(90分)														
2	明治以降の学校制度の変遷について講義を聞いて理解する 小学校の法と制度の資料をまとめる				事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理			講義(45分) 演習(45分)														
3	教育基本法と学習指導要領から教育の目的・目標についてノートにまとめながら理解する				事前：教育法規を調べる 事後：テキストまとめ(4章)			講義(45分) 演習(45分)														
4	学校教育の内容について教育活動と教育課程の構成原理を講義で理解する				事前：テキスト下読み(6章) 事後：ノート整理			講義(90分)														
5	学校教育を支える教職員の組織、教員に求められる資質や能力、社会環境について討議する				事前：テキスト下読み(8章) 事後：レポート①			講義(45分) 討議(45分)														
6	学校教育を支える学級担任の役割、学級経営の充実のための諸課題について理解し、望ましい教師像を描く				事前：テキスト下読み(9章) 事後：ノート整理			講義(45分) 討議(45分)														
7	就学前教育・保育の現状と課題を出し合い、社会や家庭、園との関わりについて話し合う				事前：ニュースを調べる 事後：ノート整理			講義(45分) 討議(45分)														
8	少子化と家庭教育、幼児教育・保育の関係について現状を理解する　家庭の役割について話し合う				事前：少子化を調べる 事後：テキストまとめ(2章)			講義(45分) 討議(45分)														
9	保育所保育指針、幼稚園教育要領等から就学前教育の目標について「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」についてまとめる				事前：参考資料の下読み 事後：レポート②仕上げ			発表(20分)講義(40分) レポート(30分)														
10	幼児期の教育の制度や幼稚園・保育所の歴史を理解して、幼児期の教育の課題を話し合う				事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理			講義(60分) 演習(30分)														
11	特別支援教育制度の概要を理解し、現状の課題を明らかにしてこれから特別支援教育を考える				事前：配布資料の下読み 事後：レポート③仕上げ			講義(60分) レポート(30分)														
12	学校保健安全法に基づいて子どもの健康と安全が守られていることを理解して、教員・保育者としての留意点を話し合う				事前：学校事故情報を収集 事後：ノート整理			発表(20分)講義(60分) 討議(10分)														
13	学校保健安全法における災害に対する危機管理の内容を理解し、学校経営・学校組織との関係を考える				事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理			講義(90分)														
14	国、地方公共団体が行う教育行財政の組織と機能から公教育としての義務教育、教育財政について理解する				事前：配布資料の下読み 事後：レポート③			講義(90分)														
15	現代の学校の課題（いじめ、保護者、教師不信等）についてレポートを発表する				事前：レポートの確認 事後：なし			演習(90分)														
教本：		参考文献： 「教育の法と制度」藤井穂高編著 ミネルヴァ書房 ¥2,200																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
専門科目なので初めての言葉や内容が多くあります。正しく理解して基礎知識を身につけていきましょう。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	子ども教育相談 (Educational Counseling of Children)						科目分類	専門科目										
担当教員	渡邊 真理																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
本講座では、子ども・児童生徒が人として望ましく成長するための支援方法として保育・教育者が身につけるべき教育相談活動について基本的な理論や知識を学んでいく。さらには相談活動に必要なカウンセリングの方法をロールプレイやグループワークなどで体験的に学習していく。																		
授業目標:																		
1. 教育相談の基礎的な知識や理論等を学び、子ども・児童生徒の支援について考える。 2. 子ども・児童生徒の悩みや問題行動について理解し、教育者として対処できる相談技術を習得する。 3. 個別的な対応だけでなく集団への対応をも視野に入れた相談活動を習得し、各専門機関などとの連携を学ぶ。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	教育相談とは 保育・教育相談の意義			事前：シラバスを読む 事後：授業の内容を復習			講義70分・まとめ20分											
2	教育相談に関わる心理学の基礎理論			事前：心理学と教育相談について考える 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・まとめ20分											
3	教育相談とカウンセリングマインド 保育所・幼稚園、学校場面			事前：カウンセリングマインドを調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義40分・演習50分											
4	カウンセリングの基礎 代表的なカウンセリング理論と技法(傾聴、受容、共感的理解)			事前：カウンセリングについて調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義40分・演習50分											
5	子ども・児童生徒の理解の方法(1) 発達・成長を見据えた支援			事前：子どもの成長を調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・ワーク20分											
6	子ども・児童生徒の理解の方法(2) 問題行動発生のメカニズム			事前：問題行動について調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・ワーク20分											
7	子ども・児童生徒の理解の方法(3) アセスメントの方法 SOS(シグナル)を察知する力			事前：アセスメントについて調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・ワーク20分											
8	教育（保育）相談活動の実際(1) 発達障害への対応			事前：発達障害について調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義30分・グループワーク40分・まとめ20分											
9	教育（保育）相談活動の実際(2) 虐待への対応			事前：虐待について考える 事後：授業内容を整理、復習			講義30分・グループワーク40分・まとめ20分											
10	教育（保育）相談活動の実際(3) 就学へ向けての対応			事前：就学について調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義30分・グループワーク40分・まとめ20分											
11	教育（保育）相談活動の実際(4) 多文化共生			事前：多文化共生について調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義30分・グループワーク40分・まとめ20分											
12	教育（保育）相談活動の実際(5) 支援目標、立案、支援計画の策定			事前：支援計画を調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義30分・グループワーク40分・まとめ20分											
13	保護者支援のあり方－保護者との連携と支援			事前：保護者対応について考える 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・ワーク20分											
14	教育相談に活かす多職種及び他機関との連携(1) 医療・福祉・心理職者との連携			事前：多職種とは何か調べる 事後：授業内容を整理、復習			講義70分・ワーク20分											
15	教育相談に活かす多職種及び他機関との連携(2) 地域、自治体の機関、児童相談所他 専門機関との連携			事前：児童相談所について調べる 事後：			講義70分・ワーク20分											
教本:																		
使用しない。適宜、参考資料を配布。																		
参考文献:																		
第6巻子ども理解と相談援助 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会 全国社会福祉協議会等 授業内で紹介する																		
成績評価の方法、評価基準:																		
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:																		
授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単元によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。シラバスの内容は履修学生の理解度などにより変更もあります。																		
オフィスアワー:																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	子ども教育方法論 (Curriculum Method of Teaching)						科目分類	専門科目															
担当教員	野末 晃秀																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要：																							
現代の我が国における教育、保育の現状及び子どもの実情を理解し、その状況に適合し合致するような、それぞれの機関における教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学ぶ。その具体的な内容としては、年齢や学力に合わせた指導案（及びカリキュラム）の計画・立案方法を学び、それぞれが立案できるようにする。またその案を使用しての模擬保育にも発展させる。また現在不空している様々な最新の情報機器などの種類や活用方法についても学ぶ。それぞれが自分独自の教育方法を模索しながら、自分の教育・保育方法を立案し、展開ができるように展開していきたい。																							
授業目標：																							
「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示された内容を理解し、実践例を参考にしながら具体的な教育方法についての専門的な知識の習得、及び認識を深める。また各自が具体的な指導案の作成方法や、教材研究の方法の習得を目指す。さらに現在必須の情報通信機器も使用し、教育方法のひとつとして実際の教育現場において活用し、実践できる能力を身に付ける。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																
1	本授業のガイダンス 教育方法とは何か			事前：教育の様々な記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
2	「幼稚園教育要領」とは何か またそこに示される教育方法とは			事前：幼稚園とは何かを事前に知っておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
3	「保育所保育指針」に示される教育方法とは何か			事前：自分が受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
4	現在の保育施設における様々な教育方法の実践例			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
5	幼稚園における年齢別の教育方法、環境構成の意義と、教育方法の種類			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
6	現代の子どもに育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
7	興味・関心を促進するような教育方法、教育評価、評価方法			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
8	幼稚園における様々な教育方法と、その活用方法			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
9	幼稚園・保育所における理解者に対する基礎的な対応			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
10	保育における遊びと環境を通した教育方法の実践例			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
11	各地域における連携と特色のある教育方法とその実践例			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
12	保育における計画の立案と指導案の重要性（日案、週案などの作成）			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
13	教育現場における様々な情報機器の操作と活用方法（その諸注意、実践例など）			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分																
14	情報機器を活用した教材の作成と実践			事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分																
15	良い教育方法とは何か、またその今後の課題について考える			事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：ノート整理・復習			グループ討論 45分、 講義 45分																
教本：		参考文献：																					
谷田貝公昭 監修 大沢裕 藤田久美編著、保育士を育てる③『子どもの理解と援助』一藝社 (ISBN 9784863592025)		・文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省																					
成績評価の方法、評価基準：																							
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス：																							
授業時間だけではなく教育の時事的問題に関心を持ちインターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。																							
オフィスアワー：																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習						
授業科目(英文)	子どもの健康と安全 (Health and Safety of Children)						科目分類	専門科目							
担当教員	大脇淳子・吉田裕子														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
子どもの健康を保持増進するための保健活動の実践に必要な体調管理の方法、基本的養護と教育、病気や怪我の対応とその予防に関する基礎的な技術を修得し、子どもと家族の健やかな発育と発達を促進するための保育活動について考える。															
授業目標:															
1. 子どもの健康の保持増進に必要な健康管理の方法を学修する。 2. 子どもの生活習慣の自立支援の方法を身に付ける。 3. 子どもの体調不良時の対応および応急処置の技術を身に付ける。 4. 子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割を学修する。															
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○◎、重要に○1つ)															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
◎			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態							
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明				事前: シラバスの確認 事後: 学習の流れの確認			講義							
2	保育における健康と安全管理 子どもを養護するための基本技術 ・安全・安楽を考慮した技術: 抱っこ・おんぶ、遊び				事前: 抱っこ・おんぶ・遊びに該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後: 演習技術の復習			講義 演習							
3	保育における保健的対応 ① ・子どもの生活に対する援助: オムツ交換、衣服の着脱				事前: オムツ交換、衣服着脱に該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
4	保育における保健的対応 ② ・子どもの生活に対する援助: 食事援助(授乳・離乳食) 食習慣と食育、歯磨き				事前: 食事援助・歯磨きに該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
5	保育における保健的対応 ③ ・子どもの健康観察と発育評価: バイタルサイン測定、 身体計測、発育評価				事前: 観察・身体測定に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
6	子どもの安全な保育環境と安全管理 ・発達の特徴と起こりやすい事故、安全な保育環境				事前: 安全な保育環境に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 GW							
7	子どもの感染症の特徴と衛生管理 ・子どものかかりやすい感染症と予防対策 ・感染予防のための手洗い方法、手袋・エプロンの脱着方法				事前: 感染予防に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
8	子どもの体調不良への対応 ① 発熱・けいれん 脱水 ・観察、脱水予防と対処方法				事前: 発熱・けいれん・脱水に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 GW							
9	子どもの体調不良への対応 ② 下痢・嘔吐 ・清潔援助(臀部浴、陰部洗浄)				事前: 下痢・嘔吐・臀部浴に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
10	個別的な配慮が必要な子どもへの対応 ・アレルギー疾患: 食物アレルギー				事前: アレルギーに該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 GW							
11	子どもの応急手当 ① ・おもな怪我と重症度の分類、対応方法				事前: 応急手当に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
12	子どもの応急手当 ② ・一次救命処置: 心肺蘇生法、気道内異物除去				事前: 一次救命処置に該当する箇所の予習 事後: 授業内容の復習			講義 演習							
13	子どもと家族のヘルスプロモーション ・保護者への健康教育と支援のあり方				事前: 第6章の該当する箇所の予習 事後: 保護者への健康教育の復習			講義 GW							
14	子どもの健やかな健康と保育に関するプレゼンテーション 保護者への健康教育				事前: 自己の課題の準備 事後: レポート課題のまとめ			講義 ワーク							
15	子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動 における保育者の役割				事前: 第14回の復習 事後: 子どもと家族のヘルスプロモーション活動について考える			ワーク							

教本：	参考文献：
鈴木美恵子著：これだけはおさえたい保育者のための「子どもの健康と安全」 【改訂版】、創成社（最新版）	これだけはおさえたい保育者のための「子どもの保健」最新版 ＊適宜提示する。
成績評価の方法、評価基準：	
授業参加状況等（10%）、プレゼンテーション等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
子どもの健やかな健康を保持・増進するための支援方法を学びます。身近な子どもの反応や言動に关心を寄せ、子どもと家族がどのように日常を過ごしているか、子どもの言動や親の接し方に注目してみましょう。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	子どもの食と栄養 (Food and Nourishment for Children)						科目分類	専門科目	
担当教員	山口 恭子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:	乳幼児期の食生活は、健全な発育・発達に大きな影響を及ぼすだけでなく、生涯にわたる食習慣の基礎を作る上でも重要なものである。保育者として、子どもや家庭を支援するための基本的な栄養学的知識と食育の意義、目的を理解するとともに、演習・実習を通して実践力、展開力を身につける。								
授業目標:	1. 食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し説明できる。 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解し実践できる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. アレルギーや疾病、障害など特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえて理解を深める。								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○○)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○○)								
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1・2	子どもの健康と食生活の意義(心身の健康と食生活、食生活の現状と課題) 子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識① (発育・発達の基本的知識)				事前: テキスト精読 (pp.1-8、pp.9-15) 事後: 子どもの健康に食生活が与える影響について説明できる。			講義	
3・4	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識② (栄養の基本的知識)				事前: テキスト精読 (pp.29-45) 事後: 5大栄養素について説明できる。			講義	
5・6	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識③ (消化器官・排泄機能の発達)				事前: テキスト精読 (pp.16-19) 事後: 栄養素の消化・吸収に関わる消化器官のはたらきについて説明できる。			講義	
7・8	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識④ (食べる機能の発達、食事と食品／献立作成と料理の基本)				事前: テキスト精読 (pp.20-25、pp.49-52) 事後: 子どもの摂食機能の発達・献立作成のポイントについて説明できる。			講義	
9・10	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識⑤ (栄養状態の評価／小児の食事摂取基準食事摂取基準)				事前: テキスト精読 (pp.26-28、pp.46-48) 事後: 子どもの発育について栄養状態から説明できる。			講義	
11・12	ライフステージ別の栄養と食生活(学童期、妊娠期、成人期・高齢期)				事前: テキスト精読 (pp.101-110、pp.63-69) 事後: ライフステージごとの生理的特徴と栄養の必要性について説明できる。			講義	
13・14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①(疾病及び体調不良、障害)				事前: テキスト精読 (pp.135-149、pp.155-170) 事後: 子どもに起こりやすい体調不良と栄養ケアについて説明できる。			講義	
15・16	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②(食物アレルギー)				事前: テキスト精読 (pp.171-186) 事後: 食物アレルギーの特徴と栄養ケアについて説明できる。			講義	
17・18	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活① 【実習】調乳				事前: テキスト精読 (pp.70-80) 事後: 乳児期の栄養ケアについて説明できる。 調乳における殺菌方法や留意点を説明できる。			講義 90分 演習 90分	
19・20	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活② 【実習】離乳食の基本 おかゆをつくる				事前: テキスト精読 (pp.80-90) 事後: 乳児期の離乳食の意義とすすめ方について説明できる。			講義 90分 演習 90分	
21・22	幼児期の心身の発達と食生活① 【演習】幼児のお弁当、おやつを考える				事前: テキスト精読 (pp.90-100) 事後: 幼児期の栄養ケアについて説明できる。 また、その知識をもとに幼児食の献立を考えることができる。			講義 90分 演習 90分	
23・24	幼児期の心身の発達と食生活② 【演習】箸の持ち方				事前: テキスト精読 (pp.90-100) 事後: 幼児期の食行動の特徴とケアについて説明できる。			講義 90分 演習 90分	
25・26	食育の基本と内容① (保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価) 【演習】食育教材作成(食育カルタづくり)				事前: テキスト精読 (pp.111-121) 事後: 食育の目的と意義、基本的な考え方について説明できる。 また、対象と目的に合った教材を考えることができる。			講義 90分 演習 90分	

27・28	食育の基本と内容② (食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携) 【実習】特別な配慮を要する子どもへの食事づくり	事前：テキスト精読 (pp.122-131) 事後：食育の実践方法について説明できる。 食物アレルギーを持った子どもへの対応について説明できる。	講義 90分 演習 90分
29・30	食育の基本と内容③ (食生活指導及び食を通した保護者への支援) 【演習】食育だよりを作成する 総括	事前：テキスト精読 (pp.132-133) 事後：食育活動を企画立案し、実践計画を立てることができる。	講義 90分 演習 90分
教本： 森脇千夏ら「イラスト 子どもの食と栄養」(東京教学社、2022年)		参考文献： 厚労省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2019年改訂版) 厚労省「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月) 厚労省「授乳・離乳の支援ガイド」(2019年改訂版)ほか	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20%）、演習・実習レポート（30%）、試験（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 保育活動における食育の重要度は近年ますます高まっています。保育士を目指す学生として、身近な食の問題に关心を持ち、授業で身に付けた知識や技術を日常の食生活にも取り入れ活かしてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	子どもの保健 (Child Health)					科目分類	専門科目							
担当教員	大脇淳子・吉田裕子			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	子ども期の心身の健康、発育と発達、病気や事故の予防など安全な保育環境について概説し、保育の専門家として、地域の多職種との連携と協働による子どもの健やかな発育・発達の支援に必要な基礎的知識を修得する。													
授業目標:	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学修する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と評価、心身の健康状態と把握の方法について学修する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び子どもの安全を守るために適切な対応について学修する。 4. 配慮が必要な子どもと家族の理解と適切な対応について学修する。 5. 子どもの健やかな発育・発達の支援するための他職種間の連携・協働における保育者の役割について考える。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○)	(1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養									
○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式														
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明 子どもの心身の健康と保健の意義: 健康の概念と保健活動				事前: シラバスの確認、第1章の予習 事後: 学修の流れの確認			講義						
2	子どもの発育・発達と保健①: 身体のつくりと身体発育				事前: 第2章の予習 事後: 成長・発達の特徴の復習			講義						
3	子どもの発育・発達と保健②: 生理機能・感覚器(視覚・聴覚)の発達				事前: 第2回授業の振り返り 事後: 生理機能、視覚・聴覚の発達の復習			講義						
4	子どもの発育・発達と保健③: 精神機能の発達				事前: 第3回授業の振り返り 事後: 精神機能の発達の復習			講義						
5	子どもの発育・発達と保健④: 発育・発達の評価と健康診断				事前: 第4回授業の振り返り 事後: 発達評価の方法を復習			講義						
6	子どもの栄養と食行動の発達: 離乳食から幼児食へ				事前: 第4章の予習 事後: 子どもの栄養の意義を復習			講義						
7	子どもの病気とその対応①: 免疫機能発達と感染症				事前: 第5章の予習 事後: 感染症の特徴を復習			講義						
8	子どもの病気とその対応②: 衛生管理と感染予防対策、予防接種				事前: 第7回授業の振り返り 事後: 感染症予防対策を復習			講義						
9	子どもの病気とその対応③: 発熱・かぜ				事前: 第8回授業の振り返り 事後: 呼吸器・消化器の病気の復習			講義						
10	子どもの病気とその対応④: アレルギー、特に食物アレルギーを中心に				事前: 第9回授業の振り返り 事後: アレルギーの特徴を復習			講義						
11	子どもの事故と安全教育: チャイルドビジョン、チャイルドマウス(誤飲チェック)				事前: 第6章の予習 事後: 事故の特徴を復習			講義						
12	子どもの精神保健①: 配慮が必要な子ども 発達障害の理解と対応				事前: 第3章の予習 事後: 発達障害の理解の復習			講義						
13	子どもの精神保健②: 配慮が必要な子ども 児童虐待の理解と対応				事前: 第3章の復習 事後: 児童虐待と対応を復習			講義						
14	子どもの健康と安全を守る 地域との連携・協働、法律と政策				事前: 第8章の予習 事後: 地域との連携と協働を復習			講義						
15	子どもの健康と健やかな発育・発達の支援をするための保育者の役割				事前: 第8章の復習 事後: 保育者の役割を考える			講義						
教本:	参考文献: 鈴木美恵子著: これだけはおさえたい保育者のための子どもの保健、 保育所保健指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領 創成社(最新版)													
成績評価の方法、評価基準:	到達目標が達成できたかを評価する。													
授業参加状況等(10%)、課題・レポート等(30%)、定期試験(60%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	急速に進む少子化、養育に関する様々な社会問題の中で、発達ニーズをもつ乳幼児期の子どもたちが健やかに育つための発育支援の役割を担う一員として保育者に何ができるか、一緒に考えましょう。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	子ども保育者論 (Childcare Workers)						科目分類	専門科目							
担当教員	大沢 裕														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	時代とともに変わる保育のさまざまな実態にも機敏に対応していく保育者について学ぶとともに、専門性とコンプライアンスに基づいた確固たる使命感と熱意を持ち、保育を行うことのできる実践の在り方について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。														
授業目標:	教職の意義、現代課題に基づく保育者の役割、職務内容、必要とされる資質能力について身に付ける。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	我が国における教職の社会的意義について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
2	専門職としての幼稚園教諭、保育教諭、保育士の社会的責務について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
3	今日的課題を踏まえた幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
4	幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力などを育成していくための研修について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
5	チーム学校への対応と園における公務分掌について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
6	教職員研修の意義と制度について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
7	幼稚園教諭、保育教諭、保育士の服務と身分保障について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
8	幼稚園教諭、保育教諭、保育士のコンプライアンスについて考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
9	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園において求められる保育者の役割と職務内容について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
10	組織マネジメントと保育者の関連性について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
11	地域の中で子育てを支える保育者の役割について考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
12	園長を招いて話を聞く（組織の一員としての責任と自覚）				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
13	幼稚園教諭を招いて話を聞く（園内における役割、保護者への支援）				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
14	ライフステージに応じたキャリア形成について考えるとともに自身のキャリアステージについて考える。				事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習			講義（60分）・ グループ（30分）							
15	これから求められる幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割と資質・能力について考える。							発表（90分）							
教本:	参考文献: 谷田貝公昭 編著『コンパクト版 保育者論』一藝社 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省														
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	保育・保育者に関するニュースや情報を調べて授業に臨むこと。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	コミュニケーション心理学 (Psychology of Communication)						科目分類	専門科目											
担当教員	水本 深喜																		
履修条件	前提科目	なし						その他の履修条件	なし										
	その他	なし																	
授業概要:	本講義では、私たちが日常的に行っているコミュニケーションに関する社会心理学の理論を学びながら、コミュニケーション場面で生じていることを理解し、より快適なコミュニケーションをとるためにどうしたらよいのかについて演習を通して考える。																		
授業目標:	コミュニケーション場面で何が生じているのかについて心理学的に理解し、より円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成						学びに向かう力・人間性の涵養												
○	○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	オリエンテーション				事前：シラバスの精読 事後：講義内容の復習			グループワーク 50分 講義 40分											
2	ワンウェイコミュニケーション、トゥーウェイコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
4	説得的コミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
5	自己開示と自己呈示				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
6	インターネットによるコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
7	交流分析①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
8	交流分析②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
9	リフレーミング①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
10	リフレーミング②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
11	アサーション①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
12	アサーション②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
13	共感傾聴				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
14	家族のコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分											
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義											
教本:	参考文献: なし。授業中に資料を配布する。																		
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:	授業には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただぐ。																		
オフィスアワー:	初回授業日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	コンピュータグラフィックス (Computer Graphics)					科目分類	専門科目																			
担当教員	秋廣 誠																									
履修条件	前提科目	情報基礎																								
	その他	PCの操作スキルを習得していない場合、必ず上記科目から履修すること																								
授業概要：																										
デジタル画像は現代のデジタルコンテンツの重要な基本要素である。デジタル画像に関する知識と編集技術について、Photopea や Google Earth Studio といった Web アプリケーションの操作を通して、深く学ぶ。																										
授業目標：																										
1. デジタル画像に関する用語を理解し、説明ができる。 2. 視覚表現の意図に沿って、計画的にデジタル画像を編集することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	シラバスの説明／デジタル画像の分類を理解する				事前：シラバスを読む 事後：デジタル画像の分類を調べる			講義																		
2	カメラの仕組みと撮影環境を理解する デジタル画像の仕組みの概要を理解する				事前：撮影機材の準備 事後：授業内で指示する			講義 60分 演習 30分																		
3	講義内容を踏まえ撮影を実践する				事前：撮影の計画を練る 事後：画像データを整理する			講義 60分 演習 30分																		
4	画像編集ソフトの基本操作について理解する				事前：画像編集ソフトを準備する 事後：画像編集ソフトについて復習する			講義 60分 演習 30分																		
5	画像にレタッチを施す／画像ファイルの管理方法を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：レタッチについて復習する			講義 60分 演習 30分																		
6	画像編集におけるレイヤーの概念、使用方法とその応用を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：レイヤーについて復習する			講義 60分 演習 30分																		
7	画像編集におけるフィルターの使用方法とその応用を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：フィルターについて復習する			講義 60分 演習 30分																		
8	これまでの演習を踏まえコラージュを作成する／作例を鑑賞する				事前：コラージュについて調べる 事後：コラージュを作成する			講義 60分 演習 30分																		
9	デジタル画像の諸調と色彩が、どのように保存されるかを理解する／色空間の概念を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：諸調と色彩の表現について復習する			講義 60分 演習 30分																		
10	文字の要素による視覚効果を理解する／事例をもとに誘目性について検討する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：文字要素と誘目性について復習する			講義 60分 演習 30分																		
11	画像編集ソフトによる描画方法を理解する／多様な2次元グラフィックツールについて説明する				事前：グラフィックツールについて調べる 事後：Google Earth Studioについて調べる			講義 60分 演習 30分																		
12	Google Earth Studio の基本操作／3D操作の考え方				事前：課題制作の準備をする 事後：作品を企画する			講義 30分 演習 60分																		
13	Google Earth Studio のキーフレームの考え方				事前：課題制作の準備をする 事後：課題制作の素材を準備する			講義 30分 演習 60分																		
14	Google Earth Studio による作品制作				事前：課題制作の準備をする 事後：作品を完成させる			講義 30分 演習 60分																		
15	作品相互レビュー／総括				事前：作品を提出する 事後：ポスターについて理解を深める			講義																		
教本：					参考文献：																					
講義内で指示する					講義内で指示する																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。																										
学生へのアドバイス： 3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。履修希望者が定員を超えた場合、初回授業にて抽選を行う。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	コンピュータプレゼンテーション (Computer Presentation)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	金 宰郁・鈴木秀顕																									
履修条件	前提科目	情報基礎																								
	その他	※「学生へのアドバイス」参照																								
授業概要:																										
プレゼンテーション能力はアカデミックのみならず、一般社会においても必要不可欠な能力となっている。とりわけ現代社会においては、PCを活用したプレゼンテーションが求められており、PCを効果的に活用したプレゼンテーションの手法について、演習を通して学習する。																										
授業目標:																										
基礎的なプレゼンテーション手法について理解し、PCで情報を的確に伝えるスライドを作成し、それらを効果的に活用したプレゼンテーションを行うことが目標となる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの確認、プレゼンテーションとPCの活用					事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習		講義60分 演習30分																		
2	スライドファイルの作成と基本操作					事前：ID・パスワード、ファイル保存の準備 事後：プレゼン資料の作成		講義60分 演習30分																		
3	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（1）					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
4	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（2）					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
5	効果的なスライドの作成					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義60分 演習30分																		
6	グループでのプレゼンテーション ～企画立案					事前：テーマについて考える 事後：メンバーと議論する		講義45分 演習45分																		
7	グループでのプレゼンテーション ～リサーチと構成					事前：資料を集め 事後：メンバーと資料を検討する		講義45分 演習45分																		
8	グループでのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：スライドのデザインを決める 事後：スライドを完成させる		講義30分 演習60分																		
9	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表（1）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
10	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表（2）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
11	プレゼンテーション手法の研究					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義60分 演習30分																		
12	個人でのプレゼンテーション ～企画立案、リサーチ					事前：テーマについて考える 事後：資料を集め		講義45分 演習45分																		
13	個人でのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：資料を検討する 事後：スライドを完成させる		講義45分 演習45分																		
14	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（3）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
15	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（4）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義15分 演習75分																		
教本：		参考文献： 講義内で指示する																								
指定しない																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内の演習・発表（60%）、授業への取り組み（20%）、課題提出（20%）等で総合評価する。																										
講義の1/3以上欠席した場合、提出課題が不足している場合、発表を規定回数行わなかった場合等は単位を認定しない。																										
学生へのアドバイス：																										
授業時間外での準備が非常に重要となります。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。欠席等でグループメンバーに迷惑をかけないよう心がけて行動して下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、USBメモリ等、ファイルを保存する手段を各自用意して下さい。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	コンベンションビジネス論 (Convention Business)					科目分類	専門科目																			
担当教員	田中 一郎																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
ビジネストラベルのうち、国際会議 (conventions) とインセンティブトラベル (企業報奨旅行、incentive travel) に焦点を当てて詳しく学ぶ。																										
授業目標:																										
コンベンションビジネスの現状を理解し、その重要性を認識すること																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
WS = 授業内容に関するワークシートに学生が記入・提出																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	導入授業: 授業の進め方と授業概要の説明 第1章 MICE とは					事前: — 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
2	第2章 MICE の概要 (1): MICE の開催効果、MICE 関連産業、MICE と都市・地域、MICE 誘致機関					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
3	第3章 MICE の概要 (2): MICE と観光、日本の MICE の沿革、欧米の MICE 産業の歴史と現況					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
4	第4章 国際会議 (conventions) とは					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
5	第5章 世界における国際会議開催状況 第6章 日本における国際会議開催状況					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
6	第7章 日本における国際会議の事例					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
7	第8章 インセンティブトラベル (1)					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
8	第9章 インセンティブトラベル (2)					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
9	小テスト																									
10	第10章 国際会議誘致の具体的方法					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
11	第11章 国際会議とインセンティブトラベル誘致のための国の取り組み					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
12	第12章 国際会議とインセンティブトラベル誘致のためのJNTOの取り組み					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
13	第13章 国際会議誘致に関わる買い手・売り手・仲介業者					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
14	第14章 MICE の動向と市場展望、MICE 産業確立に向けた施策					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
15	全体のまとめ					事前: 前回の授業内容 事後: 今回の授業内容	反転授業・講義 60分・質疑応答 10分・WS 20分																			
教本:																										
参考文献: 教科書は使用しない。プリントを配付する。 適宜、紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス: 国際会議とインセンティブトラベルはMICEの中でも特に重要な分野であり、そのため日本や世界の国々が互いにしのぎを削って誘致合戦を行っている。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	財務管理論 I (Financial Management I)					科目分類	専門科目															
担当教員	上野 清貴																					
履修条件	前提科目	会計学 I・II			その他	なし																
授業概要：																						
財務管理論 I では、財務環境、財務制度、財務管理と企業経営、資本運用の新たな動きについて解説する。具体的には、情報革命、機関投資家、コーポレート・ガバナンス、証券市場、財務分析、利益管理、リスクマネジメント、キャッシュフロー管理等を解説する。																						
授業目標：																						
財務管理論 I および次の財務管理論 II は、最新の財務制度を取り扱いつつ、現代の財務環境および財務管理の意義から考察を始めて、財務管理論の内容を全般的に理解し、現代の企業に対する考え方および最新の財務管理論の考え方を理解することを目標としている。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	財務環境の問題点と株主価値経営の破綻 株主価値経営の意義と問題点を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
2	環境問題とは 環境問題の軌跡と新しい資本概念を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
3	貧困と格差 実体経済と金融経済の乖離を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
4	情報革命 デジタルトランスフォーメーション（DX）を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
5	機関投資家 ESG投資と機関投資家を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
6	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンスの方法を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
7	持株会社制度の導入 持株会社に期待される効果を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
8	証券市場 有価証券と証券市場およびその役割を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
9	ディスクロージャーと財務分析 財務諸表を用いた財務分析を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
10	利益管理とEVA EVAの求め方と投下資本利益率（ROIC）を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
11	リスクマネジメント リスクマネジメントのプロセスと戦略を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
12	運転資本管理と設備資本管理 資本管理の重要性とその内容を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
13	キャッシュフロー管理 キャッシュフローと企業価値を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
14	株価と投資評価 正味現在価値と投資の評価を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
15	総括 これまでの財務管理論の内容を総復習する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
教本：		参考文献：																				
鳥居陽介編『テキスト 財務管理論（第6版）』中央経済社																						
成績評価の方法、評価基準：																						
毎回提出のレポートで評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
ファイナンスの基礎を身に付けておくこと。日々の予習復習を怠らないこと。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	財務管理論 II (Financial Management II)					科目分類	専門科目															
担当教員	上野 清貴																					
履修条件	前提科目	財務管理論 I 会計学 I・II			その他	なし																
授業概要：																						
財務管理論IIでは、資金調達の新たな動き、財務戦略、財務管理の新展開について解説する。具体的には、銀行業の発展と今日的課題、今後の証券化金融市場の行方、資本政策と自社株取得、知的財産、デリバティブ、ESG投資、これからの財務管理等を解説する。																						
授業目標：																						
財務管理論IIおよび前の財務管理論Iは、最新の財務制度を取り扱いつつ、現代の財務環境および財務管理の意義から考察を始めて、財務管理論の内容を全般的に理解し、現代の企業に対する考え方および最新の財務管理論の考え方を理解することを目標としている。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	財務管理論IIの概要説明 これからの講義内容の概要を説明する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
2	借入金の調達 借入金の形態とBIS規制を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
3	銀行業の発展と今日的課題 ファンド化・情報化を進める銀行経営を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
4	今後の証券化商品市場の行方 証券化商品の意味と証券化市場の行方を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
5	社債と格付け 社債の意味と債券の格付けを解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
6	CPとMTN CP・MTNの意味と最近の動向を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
7	資本政策と自社株取得 資本政策の意味と株主還元政策を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
8	M&A M&Aの意味と財務上の考慮点を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
9	知的財産 知的財産戦略の意味とその焦点を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
10	デリバティブ デリバティブの意味と財務の関係を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
11	新たな中小企業経営 新しい中小企業財務の動きを解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
12	新ベンチャービジネスとクラウドファイディング 新ベンチャービジネスの資金調達の特徴を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
13	ESG投資、SDGsと企業財務 ESG情報開示の必要性と企業財務を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
14	これからの財務管理 ESG、SDGsと社会的価値の追求を解説する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
15	総括 これまでの財務管理論の内容を総復習する。				事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする			講義 90分														
教本：		参考文献：																				
鳥居陽介編『テキスト 財務管理論（第6版）』中央経済社																						
成績評価の方法、評価基準：																						
毎回提出のレポートで評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
ファイナンスの基礎を身に付けておくこと。日々の予習復習を怠らないこと。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	財務諸表論 (Financial Accounting)					科目分類	専門科目																	
担当教員	高橋 琢也																							
履修条件	前提科目	会計学Ⅰ・Ⅱ			その他	なし																		
授業概要：																								
企業会計は、財務会計と管理会計とに分類できる。中でも、財務会計は、企業外の利害関係者に対して財務諸表を公表することを目的とする。財務諸表論では、財務会計を中心に財務諸表の特徴およびそれにかかる原則等について学修する。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。																								
授業目標：																								
財務諸表に関する知識およびその活用方法を習得することを目標とする。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	財務諸表 財務諸表の特徴について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
2	会計情報 会計情報が持つ特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
3	貸借対照表 貸借対照表の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
4	損益計算書 損益計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
5	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
6	株主資本等変動計算書 株主資本等変動計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
7	財務諸表の関係性 それぞれの財務諸表同士の関係性について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
8	損益計算1（損益計算方法としての財産法） 損益計算としての財産法の特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
9	損益計算2（損益計算方法としての損益法） 損益計算としての財産法の特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
10	会計利益観1（収益費用観の基本的特質） 収益費用観の基本的な特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
11	会計利益観2（資産負債観の基本的特質） 資産負債観の基本的な特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
12	会計利益観3（会計利益観としての財産法） 会計利益観として捉えた財産法について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
13	会計利益観4（会計利益観としての損益法） 会計利益観として捉えた損益法について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
14	会計利益観5（会計利益観と損益計算） 会計利益観と損益計算の関係性について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分																
15	問題演習 授業内容について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習90分																
教本：		参考文献： 資料を配布する。 適宜、指示する。																						
成績評価の方法、評価基準： 試験（100%）で評価する。																								
学生へのアドバイス： 念のため電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																								
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	産業心理学概論 (Occupational Psychology)					科目分類	専門科目								
担当教員	深澤 伸幸			○	○	○	○	○	○						
履修条件	前提科目	なし	○	○	○	○	○	○	○						
その他	なし	○	○	○	○	○	○	○	○						
授業概要:	<p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進める。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、「安全」と「リスク」の定義、リーダーシップと生産効率、及び事故防止に向けた危険感受性訓練法等である。授業形態は講義を中心としますが討議法も隨時用い、「分かりやすい授業」を目指す。</p>														
授業目標:	<p>①生産効率にかかる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。</p>														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、ディスカッション 20分							
2	ミュンスター大学に始まる産業心理学の発展・展開を産業心理学史Ⅰとして学ぶ。その中で特に重要であるティラーを取り上げ、彼が主張した科学的管理法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
3	産業心理学史Ⅱとして、産業心理学を大きく飛躍させる契機となった「ホーン実験」を取り上げ、その後の人事相談制度が開設されるまでのいきさつを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をとは何かを学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、評価実習 30分、PBL 20分							
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されているactive safety、passive safetyの定義と方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
9	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
10	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、PBL 20分							
11	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
12	リーダーシップ研究を概観し、またレヴィンらの実験手法を伴うリーダーシップ研究の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
13	代表的なリーダーシップ理論である「PM理論」と「マネジリアルグリッド理論」を学び、その意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
14	行動変容をもたらす集団訓練方法（危険感受性訓練法）を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、ディスカッション 20分							

教本：	参考文献：
授業内で指示	
成績評価の方法、評価基準：	
定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の 1 / 3 を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	産業心理学概論 (Occupational Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	牧 裕夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
20世紀の世纪末、バブル景気の終焉、大手企業としても倒産等がある。人生100歳時代でのライフスタイルの変化、ファミレスでは猫型ロボットが料理を運び、society 5.0でのロボット化、人工知能の進化が進んでいる。その産業領域での心理学である。																										
授業目標:																										
ネット社会でのクラウドの範囲は世界に及ぶ。ウラウド体験は心での広大な未知の無意識との対話のようだ。「感動」「共感」として顧客と従業員及び従業員同士での共有である。今日での産業領域で求められる心理学の感触を深めたい。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション（人生100年時代のマルチステージライフとSociety 5.0の産業構造）				事前：組織内ならではの心理 事後：マルチステージライフ時代			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
2	企業「PDCA」サイクルでの「計画」と「実践」の関係 ーストーン・スプーン物語とマーケティング				事前：偶然体験を振り返る。 事後：「計画・実践」と偶然			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
3	創発するマーケティング ー「メディアの展開」「ハイ・コンセプト」「フラット化」ー				事前：企画の実現へ過程 事後：経営者と顧客の関係			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
4	創発するマーケティング（求められる消費者・企業者関係「ターゲットからプレイヤー」等）				事前：成功企業の取り組み 事後：今日の職場の変化			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
5	就労現場で働く無意識のメカニズム（文脈効果、システム正当化理論、認知的不協和理論等）				事前：心理学で関心ある事項 事後：日常から振り返る			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
6	組織集団の組織集団でのポジティブな側面とネガティブな側面、無意識からの影響				事前：働きやすい職場 事後：集団内の無意識体験			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
7	ワークパーソナリティ（D. スーパーのライフキャリアの虹、E.H. シャインのキャリアアンカー）				事前：学校体験で役に立そうなこと 事後：支えるキャリアアンカー			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
8	ワークパーソナリティ（J.I. ホランドのVPI:職業選択にみるパーソナリティ、職業興味検査の体験）				事前：自身の性格を活かす 事後：職業興味検査からの気づき			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
9	リーダーシップの代表的な理論—「PM理論」「SL理論」等の理解				事前：職場での理想の上司とは… 事後：働く現場でのリーダーシップ			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
10	リーダーシップの代表的な理論—「マネジメント・グリッド理論」等の理解				事前：リーダーシップへの疑問点 事後：対比的にリーダー論を語れる			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
11	ライフサイクル論とワーキングライフ				事前：中年期以降の自身を創造 事後：ライフサイクル論と自己実現			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
12	産業領域でのメンタルヘルスー働く我が国での制度面の変遷ー				事前：職場ストレスの所在場面 事後：今日の安全衛生法			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
13	産業領域でのメンタルヘルスー働く我が国での対策ー				事前：職場ストレスに備える体験 事後：現状のストレス対策を説明			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
14	ダイバーシティ（多様性）時代の産業界				事前：ダイバーシティと就労 事後：障害者雇用の実際			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
15	まとめ				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習			講義60分、小レポート・ディスカッション30分																		
教本:		参考文献: 授業で随时配布する。																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（20%）、小レポート（40%）、学期末テスト（40%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス: ウラウド時代の産業構造の中、「君はどう生きるか」																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	産業政策とイノベーション (Industrial Policy and Innovation)						科目分類	専門科目							
担当教員	高橋 敏哉														
履修条件	前提科目	グローバル経済・経営ガバナンス、基礎科目として経済学、政治学等の関連科目を履修していること。			その他	担当教員の国際関係の科目を「他の科目」として履修していることが望ましい。									
授業概要：															
昨今は経済安全保障の枠組みの中で産業政策が語られるようになりました。デジタル社会における産業政策の特徴は、半導体やバッテリー等の戦略的産業への積極的な支援策です。イノベーションのために産業政策は不可欠ですが、その課題も多くあります。本講義では各国の産業政策の歴史やその内容を振り返りながら、イノベーションに必要な産業政策の光と影を学びます。															
授業目標：															
①産業政策の歴史について理解する。 ②デジタル社会での産業政策の功罪を知る。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）															
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○		○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	オリエンテーション：講義の全容を知る。					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
2	産業政策とは何か：産業政策、イノベーションといった基本概念を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
3	日本の産業政策の歴史①：殖産興業から太平洋戦争までの日本の産業政策の歴史を追う。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
4	日本の産業政策の歴史②：戦後日本の産業政策をリードした通産省（現経産省）（MITI）の政策とその海外の評価を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
5	日本の産業政策の歴史③：MITIからMETI（経産省）への移行の理由とその後の産業政策の歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
6	アメリカの産業政策の歴史：技術開発、イノベーションへの国家の関わりに積極的な米国の産業政策の歴史を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
7	イギリスの産業政策の歴史：米国と対照的に国家の関わりを避ける英国の産業政策の考え方、歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
8	2010年代後半からの「経済安全保障」言説と政策：世界の主要国で唱導される経済安全保障政策の動きを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
9	アメリカ、欧州、豪州、中国の経済安全保障としての産業政策：諸外国の経済安全保障政策の概要を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
10	日本の経済安全保障としての産業政策：日本の経済安全保障としての産業政策を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
11	日本の半導体政策の事例①：日本における半導体への産業政策の経緯と最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
12	日本の半導体政策の事例②：最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
13	日本のレアアース政策の事例：レアアース問題の所在とその日本における対応について学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
14	日本の産業政策の功罪：日本の産業政策はイノベーションを生むのか。その功罪について議論を進める。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
15	まとめ：講義全体を総括する。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分							
教本：		参考文献： 教材は毎回配布しますので購入は不要です。													
授業参加（積極的か否か。ただ出席するのではなく）とレポートで総合評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）															
学生へのアドバイス：		積極的に知識を付けたい皆さんのお受講を希望します。													
オフィスアワー：		初回講義日に伝える。													

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	事故の法的責任論 (Legal Responsibility for Accidents)						科目分類	専門科目												
担当教員	福島 崇宏																			
履修条件	前提科目	リスク危機マネジメント基礎論、法の性格と役割						その他												
授業概要：																				
私たちの日常生活では、さまざまな事故に遭遇する。交通事故や契約上のトラブルなどがその代表であろう。そのような事故に遭遇した場合、どのような法律を基に当事者間の紛争を解決すればよいのかについて、①底流を流れる法理論の把握とともに、②実際に起きた紛争についてどのような判断がなされ、またどのような問題点をはらんでいるのかについて主体的に考える機会を提供する。																				
授業目標：																				
1. 紛争の解決に向けた判断基準となる法概念を身につける。 2. 実社会で起きている紛争をもとに、論点と解決策を提示できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	大学生の法的立場を考える（導入）				事前：教本1章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
2	契約と消費者トラブル				事前：教本2章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
3	学生生活と法～学生生活における法トラブルについて考える				事前：教本3章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
4	働くことを考える				事前：教本4章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
5	就職活動で知っておきたい法律				事前：教本5章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
6	労働者の保護と法律				事前：教本6章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
7	結婚における法トラブル				事前：教本7章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
8	子どもの権利・子育てにおける法トラブル				事前：教本8章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
9	生活設計～お金にまつわる法トラブル				事前：教本9章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
10	犯罪と私たちの生活				事前：教本10章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
11	交通事故における法の適用				事前：教本11章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
12	公的医療保険・介護保険制度				事前：教本12章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
13	年金・相続における法トラブル				事前：教本13章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
14	民主主義とそのための仕組み				事前：教本14章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
15	市民社会と国際平和～開発・貧困における法の役割				事前：教本15章精読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分												
教本：					参考文献：															
森川幸一『新版大学生が知っておきたい生活のなかの法律』 慶應義塾大学出版会、2022年。					授業中に適宜紹介する。															
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業への参加状況等(20%)、授業内での課題(30%)、期末試験(50%)で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
自らの周りで起きる紛争について、なぜ起きたのか、どのような解決法があるのか、という視点を常に意識しながら受講して下さい。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	実践日本語トレーニングA (Practical Japanese Training A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
「情報、知識、感情、意思」を相手とどのように共有すればビジネスにおけるコミュニケーションや、関係構築がスムーズにできるのかを学ぶ。具体的には、インターンシップや就職活動等で必要な社会人としての心構えや基本動作、接遇・電話応対等におけるビジネス会話、メールやビジネス文書の作成等、様々な知識を、グループワーク等を通じて、実践的に身につけていく。																										
授業目標:																										
①ビジネスの場面にふさわしいマナー、敬語の用法、表現技法等の知識を有し、適切に用いることができる。 ②メールやビジネス文書作成に必要な基本事項、表現技法等の知識を有し、実際に作成することができる。 ③秘書検定のマナー接遇、技能の分野の問題を正しく答えられるような知識を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス 第一印象の重要性(おしゃれとみだしなみ)					事前:シラバスを読む 事後:配付資料の読む	講義(60分) 意見出し・演習(30分)																			
2	ビジネスコミュニケーション(社会人基礎力 話し方・聞き方)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
3	挨拶(おじぎの分類) 基本動作(立ち姿勢・座り姿勢)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
4	社内でのマナー(指示の受け方、報告のしかた ほうれんそう)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
5	ビジネス敬語の基本(敬語の用法の確認) ビジネス敬語 実践トレーニング(ロールプレイ)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
6	バイト敬語(会話スキットを視聴。よくないところを指摘、正しい言い方を考える)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
7	ビジネス敬語 実践トレーニング(ロールプレイ)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
8	電話のマナー① 電話を受ける 実践トレーニング					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) ディスカッション・実践練習(60分)																			
9	電話のマナー② 電話をかける 実践トレーニング					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
10	応接のマナー(来客対応 席次)					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習(60分)																			
11	ビジネスにおける文書の取り扱い(受取り・郵便発信等) ビジネスメール 書き方 実践トレーニング [ノートPC持参]					事前:事前配付の資料を読む 事後:文書の作成(次週提出)	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
12	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング(社内文書) [ノートPC持参]					事前:事前配付の資料を読む 事後:文書の作成(次週提出)	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
13	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング(社外文書) [ノートPC持参]					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
14	訪問のマナー 名刺交換のマナー 実践トレーニング					事前:事前配付の資料を読む 事後:ワークシートの記入	講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)																			
15	全体のまとめ					事前:質問事項の洗い出し 事後:なし	講義(50分)・演習(40分)																			
教本:教材は、授業前に配布します。																										
参考文献:																										
『DVDで学ぶできる人のビジネスマナー』西東社 『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社 『ビジネス日本語 内定者編』凡人社 『ビジネス日本語 新入社員編』凡人社 『ビジネススマナー基礎実習』早稲田教育出版社																										
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかどうかで評価します。																										
グループワーク等授業への取り組み姿勢(30%)、課題・提出物等(30%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
ビジネス会話・文書作成のスキルを、学生のうちから身につけておくと、就活の際、武器になります。毎回の予習復習をしっかりと行うことで着実にスキルが身につきますので、目標意識を明確にして取り組みましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習											
授業科目(英文)	実践日本語トレーニングB (Practical Japanese Training B)						科目分類	専門科目												
担当教員	澤田 帆奈美																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
社会で通用し、ビジネスや研究の場で必須となる日本語力を身につけ、就職試験や就職後につながる実践的な日本語力を身につける。日本語検定2、3級の知識、秘書検定2、3級に出てくる日本語やビジネス関連の言葉を学んでいく。授業では、検定問題に解答するだけでなく、人に説明できるレベルまで理解を深めるため、担当者に日本語関連の専門用語について調べ、発表してもらうことも行う。																				
授業目標：																				
1. 仕事や研究で必要な実践的な日本語力を身につける。 2. 就職後に日常的に使うことばを理解し、使用できる語彙を広げる。 3. 日本語検定2、3級、秘書検定2、3級（マナー接遇問題、一般知識問題）の問題を正しく解答できるようになる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス 日本語検定、秘書検定について 秘書検定単語クイズ 次週の出題箇所の説明				事前：シラバスを読む 事後：なし			講義(60分) 演習(30分)												
2	秘書検定単語クイズ：敬語基本 接遇用語 語彙 言葉と言葉の関係				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
3	秘書検定単語クイズ：賀寿、六曜の用語、贈答用のマナー 語彙 類義語 対義語				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
4	秘書検定単語クイズ：葬儀に関する用語 言葉の意味 多義語				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
5	秘書検定単語クイズ：慶事、弔事と上書きと水引の用語 言葉の意味 慣用句 ことわざ 故事成語				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
6	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ① 漢字 漢字熟語の構成				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
7	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ② 漢字 同音異義語				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
8	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われる略語 漢字 同音異字 同訓異字				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
9	秘書検定単語クイズ：企業経営組織の知識 漢字 四字熟語				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
10	秘書検定単語クイズ：人事・労務の用語 表記 仮名づかい 送りがな				事前：課の予習 事後：練習問題残り			講義(45分) 演習(45分)												
11	秘書検定単語クイズ：マーケティングの用語 文法 用言の活用と接続				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
12	秘書検定単語クイズ：会計・財務の用語 文法 可能動詞・受身と使役				事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り			講義(30分) 発表・演習(60分)												
13	秘書検定単語クイズ：税務の用語 文法 文のねじれ 接続語				事前：課の予習 事後：練習問題残り			講義(45分) 演習(45分)												
14	秘書検定単語クイズ：金融の用語、印鑑の知識 文法 助詞 助動詞				事前：課の予習 事後：練習問題残り			講義(45分) 演習(45分)												
15	全体のまとめ				事前：なし 事後：なし			講義(20分) 演習(60分)												
教本：プリント教材を配布する 『ステップアップ日本語 中級』東京書籍 『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社					参考文献： 『ステップアップ日本語 上級』東京書籍															
成績評価の方法、評価基準：																				
発表担当、授業参加度等の授業態度（40%）、提出物（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	実用英語 I (Practical English I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小倉 美知子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:	読み、聞き、話し、書く能力をバランスよく育て、各自の専門や将来の職業に役立つ知識を習得し、英語力の向上を図る。																									
授業目標:	話題を常に英語で考え、状況に応じて表現の仕方を変えて相手の理解を得る柔軟性を身に付ける。																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																						
○	○																									
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態																			
1	Introduction & Chapter 1			事前:教科書のcontentsを見ておくこと 事後:Chapter 1の復習			授業の進め方の説明(45分)と 演習(45分)																			
2	Chapters 2 & 3			事前:Chapters 2 & 3の予習 事後:Chapters 2 & 3の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
3	Chapter 4			事前:Chapter 4の予習 事後:Chapter 4の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
4	Chapter 5			事前:Chapter 5の予習 事後:Chapter 5の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
5	Chapter 6			事前:Chapter 6の予習 事後:Chapter 6の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
6	Chapters 7 & 8			事前:Chapters 7 & 8の予習 事後:Chapters 7 & 8の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
7	Chapter 9			事前:Chapter 9の予習 事後:Chapter 9の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
8	Chapter 10			事前:Chapter 10の予習 事後:Chapter 10の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
9	Chapters 11 & 12			事前:Chapters 11 & 12の予習 事後:Chapters 11 & 12の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
10	Chapter 13			事前:Chapter 13の予習 事後:Chapter 13の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
11	Chapters 14 & 15			事前:Chapters 14 & 15の予習 事後:Chapters 14 & 15の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
12	Chapter 16			事前:Chapter 16の予習 事後:Chapter 16の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
13	Chapter 17			事前:Chapter 17の予習 事後:Chapter 17の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
14	Chapter 18			事前:Chapter 18の予習 事後:Chapter 18の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
15	Chapters 19 & 20			事前:Chapters 19 & 20の予習 事後:Chapters 19 & 20の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
教本:	参考文献: <i>Grand Tour New Discoveries</i> (Seibido, 2024) 授業中に紹介する。																									
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス:	英語で考え、書き、話すこと。毎回簡単な質問を出るので、その答えを分り易い英語で解答すること。																									
オフィスアワー:	できる限り授業後に質問を受け付ける。																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	実用英語II (Practical English II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小倉 美知子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:	世界共通語としての英語を、各自の専門や将来の職業に役立つように習得し、英語力の向上を図る。																									
授業目標:	話題を常に英語で考え、状況に応じて表現の仕方を変えて相手の理解を得る柔軟性を養う。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																						
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	Introduction & Unit 1			事前：教科書のcontentsを見ておくこと 事後：Unit 1の復習			授業の進め方の説明(45分)と 演習(45分)																			
2	Unit 2			事前：Unit 2の予習 事後：Unit 2の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
3	Unit 3			事前：Unit 3の予習 事後：Unit 3の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
4	Units 4 & 5			事前：Units 4 & 5の予習 事後：Units 4 & 5の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
5	Unit 6			事前：Unit 6の予習 事後：Unit 6の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
6	Units 7 & 8			事前：Units 7 & 8の予習 事後：Units 7 & 8の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
7	Units 9 & 10			事前：Units 9 & 10の予習 事後：Units 9 & 10の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
8	Unit 11			事前：Unit 11の予習 事後：Unit 11の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
9	Unit 12			事前：Unit 12の予習 事後：Unit 12の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
10	Units 13 & 14			事前：Units 13 & 14の予習 事後：Units 13 & 14の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
11	Unit 15			事前：Unit 15の予習 事後：Unit 15の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
12	Unit 16			事前：Unit 16の予習 事後：Unit 16の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
13	Unit 17			事前：Unit 17の予習 事後：Unit 17の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
14	Unit 18			事前：Unit 18の予習 事後：Unit 18の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
15	Units 19 & 20			事前：Units 19 & 20の予習 事後：Units 19 & 20の復習			演習 (reading 45分と Q&A 45分)																			
教本:	参考文献： <i>Our World, Our Stories</i> (Seibido, 2025) 授業中に紹介する。																									
成績評価の方法、評価基準：	授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス：	英語で考え、書き、話すこと。毎回簡単な質問を出るので、その答えを分り易い英語で解答すること。																									
オフィスアワー：	できる限り授業後に質問を受け付ける。																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	質的調査法 (Qualitative Survey Methods)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
質的研究法とは、数値データを分析する量的研究法とは異なり、人の語りや記述などの言語データを分析する研究法である。本講義では質的研究法の基本について、概論の講義と質的研究法を用いた研究論文により学び、その上で代表的な質的研究法のひとつであるKJ法を実際に体験する。																										
授業目標 :																										
質的研究法について理解し、代表的な質的研究法のひとつであるKJ法ができるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講義																		
2	量的研究と質的研究				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習			講義																		
3	質的調査法を用いた研究論文紹介①				事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む			講義																		
4	質的調査法を用いた研究論文紹介②				事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む			講義																		
5	質的調査法を用いた研究論文を検索し、読み込む（グループワーク）				事前：資料確認・課題検討 事後：グループを決めて論文を読む			講義 40分、 グループワーク 50分																		
6	論文の内容をまとめる（グループワーク）				事前：グループを決めて論文を読む 事後：発表資料作成			グループワーク 90分																		
7	発表資料を作成する				事前：発表資料作成 事後：発表準備			グループワーク 90分																		
8	発表会①				事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる			発表・討議 90分																		
9	発表会②				事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる			発表・討議 90分																		
10	KJ法を用いた研究の実施（グループワーク）				事前：KJ法について調べておく 事後：データの検討			講義 40分、 グループワーク 50分																		
11	KJ法を用いた研究の実施（グループワーク）				事前：データの検討 事後：発表資料作成			グループワーク 90分																		
12	KJ法を用いた研究の実施（グループワーク）				事前：発表資料作成 事後：発表準備			グループワーク 90分																		
13	発表会				事前：発表準備 事後：発表内容を振り返る			発表・討議 90分																		
14	結果をレポートにまとめる				事前：発表内容を振り返る 事後：レポート作成			講義																		
15	まとめ				事前：レポート作成 事後：理解の補完			講義																		
教本 :					参考文献 :																					
なし。授業中に資料を配布する。					授業中に、適宜紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。																										
オフィスアワー :																										
初回授業日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	私法学 I (Private Law I)						科目分類	専門科目												
担当教員	上地 一郎																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																				
授業目標：																				
①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②契約の基本構造を説明できる。 ③意思表示の基本理論を説明できる。 ④私法における個人間の関係モデルを説明できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
			○			○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	オリエンテーション 私法の一般法としての民法典の構成について概説し、授業計画などについて説明する			事前： 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分													
2	私法とは何か、またその特質について説明する			事前：資料の予習 事後：私法の特徴をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
3	民法典の構造と民法典の構成を理解する			事前：民法の構成について調べる。 事後：民法典の体系について調べる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
4	民法財産法とは何か (1) 物権法の概要を中心で解説する			事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
5	民法財産法とは何か (2) 債権法の概要を中心で解説する			事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
6	契約の主体 (1) 権利能力について説明する			事前：権利能力について調べる。 事後：権利能力の始期と終期、例外をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
7	契約の主体 (2) 権利能力・意思能力・行為能力とは何か、またこれらがどのような役割を果たしているのか理解する			事前：権利能力・意思能力・行為能力の関係を調べる。 事後：権利能力・意思能力・行為能力の関係をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
8	契約の主体 (3) 行為能力と成年後見制度につき、新しい成年後見制度が果たすべき目的などを理解する			事前：行為能力と成年後見制度を調べる。 事後：成年後見制度の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
9	意思表示 (1) 意思表示とは何か／心裡留保とは何かを解説する			事前：意思表示とは何かを調べる。 事後：心裡留保についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
10	意思表示 (2) 虚偽表示とは何かについて解説し、権利外觀法理について解説する			事前：虚偽表示とは何かを調べる。 事後：権利外觀法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
11	意思表示 (3) 虚偽表示における第三者の範囲／94条2項と権利外觀法理の射程を理解する			事前：虚偽表示における第三者の範囲を調べる。 事後：94条2項と権利外觀法理をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
12	意思表示 (4) 錯誤とは何かにつき新旧の錯誤法を解説する			事前：錯誤とは何かを調べる。 事後：錯誤法についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
13	意思表示 (5) 詐欺・強迫につき新規定を中心に解説する			事前：詐欺・強迫を調べる。 事後：詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
14	契約の拘束力、また契約が効力を失う場合（無効・取消し・解除）について解説する			事前：契約の無効・取消し・解除のちがいを調べる。 事後：契約の無効・取消し・解除をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
15	まとめ 意思表示理論についての総括と理解度を確認する			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分													
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。															
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：到達目標が達成できたかを評価する。 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																				
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法 I (Private Law I)					科目分類	専門科目		
担当教員	新城 将孝			履修条件	前提科目	なし	その他	なし	
授業概要:	私法（民法・商法）学び方について概説する。中心となるのは、民法総論となる。そして、商法の領域も見ることとする。日常生活の中での法、とりわけ、法類型の中での私法、財産取引を中心とする。								
授業目標:	財産法を中心とするが、資本主義経済社会の法としての視点から、私法、民法・商法への理解を深める。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得								
	思考力・判断力・表現力の育成			○	学びに向かう力・人間性の涵養				
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特色（概要）を示し、私法を学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、私法分野についての事前のチェックをする。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
2	私法の全体像を概観する。これから学習する個別問題を全体の中での位置確認に向けた指標とする。			事前：民法典、商法典、会社法典等の法典構成の確認をする。 事後：これから学ぶ範囲（私法領域）を確認し、ノートにまとめる			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
3	私権の構造を概観する。理解を深めるため、私法上の権利、公法上の権利を概説し、私権の種類に関し概観し、その概説等を行う。			事前：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認する。 事後：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
4	私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用、いわゆる民法（私法）の基本原則（民法第1条）について概説する。			事前：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認する。 事後：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
5	権利の主体および権利能力の取得、喪失について概説する。			事前：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認する。 事後：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
6	権利主体、その中の法人について概観する。具体的には、民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にしながら、法人一般についての理解を深める。			事前：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認する。 事後：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
7	私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について概観し、生活における役割等を考える。			事前：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について調べ、その働きを確認する。 事後：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）およびその働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
8	権利客体としての「物」について、概観する。具体的には、動産、不動産について概説し、権利変動を留意し、とりわけ、今日における取引実情を考慮し、権利客体に関する考察をする。			事前：権利客体としての物について調べ、かつ、今日における取引実情を概観し、権利客体一般に関する確認をする。 事後：権利客体としての物、かつ、今日における取引実情を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
9	人の能力（権利能力、意思能力、行為能力）について概観する。 それを基礎に、権利の変動に触れつつ、法律行為について概説する。			事前：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認をする。 事後：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		

10	前回の講義を基礎にして、意思無能力制度、制限行為能力者制度について概観する。	事前：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認する。 事後：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
11	前回の講義を基礎にして、意思表示の欠缺および瑕疵について概観する。具体的に、心理留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・脅迫等について概説する。	事前：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をする。 事後：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をし、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
12	代理について概観する。法定代理及び任意代理に関する説明をし、任意代理を中心に概説する。	事前：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認等をする。 事後：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
13	表見代理について概観する。代理権授与表示による表見代理、代理権越による表見代理、代理権消滅後の表見代理について概説する。	事前：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認等をする。 事後：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
14	期限と条件について概観する。確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について概説する。	事前：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認等をする。 事後：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
15	時効について概観する。取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について概説する。	事前：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認をする。 事後：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
教本： 「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	私法學 II (Private Law II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	上地 一郎																									
履修条件	前提科目	法学／私法學 I																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																										
授業目標：																										
①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②代理の基本構造を説明できる。 ③法律行為の内容と一般的有効要件を説明できる。 ④法人法制の基礎を説明できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	オリエンテーション 権利能力・意思能力・行為能力・意思表示を振り返り、授業の進め方などについて説明する			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分																			
2	意思表示の復習（1）心裡留保／虚偽表示を復習し、理解を深める			事前：心裡留保、虚偽表示について復習する。 事後：権利外觀法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
3	意思表示の復習（2）錯誤／詐欺・強迫を復習し、理解を深める			事前：錯誤、詐欺・強迫について復習する。 事後：錯誤、詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
4	代理（1）代理の法律関係を解説し、法的論点を理解する			事前：代理制度とは何かを調べる。 事後：代理の法律関係についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
5	代理（2）代理行為—代理人と相手方との関係について説明し、代理の効果について理解を深める			事前：代理行為の有効性をめぐる問題を調べる。 事後：代理行為の有効性、その効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
6	代理（3）無権代理とは何か、無権代理人と取引した相手方はどのような手段をとることができるのかを解説する			事前：無権代理に関する民法のルールを調べる。 事後：無権代理の相手方がとりうる手段をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
7	代理（4）表見代理（1）代理権授与表示表見代理、代理権越前の表見代理を中心に表見代理を解説する			事前：表見代理とは何かを調べる。 事後：109条と110条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
8	代理（5）表見代理（2）代理権消滅後の表見代理を中心に表見代理を解説する			事前：代理権消滅後の表見代理を調べる。 事後：110条と112条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
9	契約の有効性 契約が有効となる条件について解説し、理解を深める			事前：契約の一般的有効要件について調べる。 事後：契約の一般的有効要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
10	契約の効力発生時期について、条件・期限・期間を中心に解説する			事前：契約の条件と期限の種類と区別について調べる。 事後：契約の条件と期限、期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
11	時効（1）消滅時効とは何かを中心に解説し、時効の諸問題を検討する			事前：消滅時効とは何かについて調べる。 事後：消滅時効の論点を整理する。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
12	時効（2）の効力の中止・停止、時効の効果、除斥期間を解説し、時効の理解を深める			事前：中止と停止について調べる。 事後：時効の効果と除斥期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
13	法人（1）法人総論 法人とは何か、法人制度をめぐる法的論点を解説する			事前：法人とは何かについて調べる。 事後：法人制度の基本枠組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
14	法人（2）社団と組合に違いがあるのか、また権利能力のない社団をめぐる法的諸問題を考える			事前：社団と組合は違うのかについて調べる。 事後：社団論についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
15	法人（3）一般法人の組織について検討し、法人制度の理解を深める			事前：一般法人の組織について調べる。 事後：一般法人の組織についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																			
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	私法学II (Private Law II)						科目分類	専門科目													
担当教員	新城 将孝																				
履修条件	前提科目	私法学I (同時履修も含め、好ましい。)			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> 私法学Iを基礎とし、私法（民法・商法）学び方について概説する。中心となるのは、民法総論となる。そして、商法の領域も見ることとする。日常生活の中での法、とりわけ、法類型の中での私法、財産法、商法を中心とするが、最後に、家族法についても触れてていきたい。																					
<b>授業目標 :</b> 私法学Iを基礎とし、財産法を中心とし、資本主義経済社会の法としての視点から、私法（民法・商法）への理解を深める。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	○	○																			
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特色（概要）を示し、私法学IIを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、私法分野についての事前のチェックをする。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
2	物権法全体について概説する。具体的には、物権の概念、種類等について概観する。			事前：民法第2編物権の構成を確認し、その種類について確認をする。 事後：民法第2編物権の構成を確認し、その種類について確認をし、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
3	物権変動について概説する。具体的に、物権の変動（取得、喪失、移転等）について概観する。			事前：物権変動の基本構造の確認、二重譲渡、不動産登記等について確認する。 事後：物権変動の基本構造の確認、二重譲渡、不動産登記等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
4	占有権、所有権について概説する。占有権の概要、占有権の効力等について概観する。所有権の概要、所有権の制限等について概観する。			事前：占有権及び所有権の概要等について確認する。 事後：占有権及び所有権の概要等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
5	用益物権（地上権、永小作権、地役権）について概観する。			事前：用益物権（地上権、永小作権、地役権）の概要について確認する。 事後：用益物権（地上権、永小作権、地役権）の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
6	担保物権（留置権、先取特権、質権、抵当権）について概観する。			事前：担保物権（留置権、先取特権、質権、抵当権）の概要について確認する。 事後：担保物権（留置権、先取特権、質権、抵当権）の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
7	債権の発生原因、債権の種類、債権の効力等について概観する。			事前：債権の発生原因、債権の種類、債権の効力等の概要について確認する。 事後：債権の発生原因、債権の種類、債権の効力等の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
8	債務不履行と損害賠償について概観する。			事前：債務不履行と損害賠償の概要について確認する。 事後：債務不履行と損害賠償の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
9	契約の成立、契約の効力、典型契約等について概観する。			事前：契約の成立、契約の効力、典型契約等の概要について確認する。 事後：契約の成立、契約の効力、典型契約等の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														
10	一般不法行為及び特殊不法行為について概観する。			事前：一般不法行為及び特殊不法行為の概要について確認する。 事後：一般不法行為及び特殊不法行為の概要について確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分														

11	商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等について概観する。	事前：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認する。 事後：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
12	会社、会社の種類、会社の機関等について概観する。	事前：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認する。 事後：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
13	有価証券、手形・小切手法を中心に概観する。	事前：有価証券、手形・小切手法の概要について確認する。 事後：有価証券、手形・小切手法の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
14	夫婦、親子、そして、親族について概観する。	事前：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認する。 事後：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
15	相続、遺言、祭祀承継等について概観する。	事前：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認する。 事後：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中の質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分		
教本： 「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	児童家庭福祉 (Child and Family Welfare)						科目分類	専門科目							
担当教員	高玉 和子														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	<p>現代における児童家庭福祉の意義を理解し、子どもや家庭に対する法制度や行財政、実施機関・施設、歴史的変遷などについて学習する。また子どもの人権について考え、国際社会や日本における子どもの人権擁護を理解し、少子化社会の現状に対応した施策や子育て支援など、保育士資格に必要な基礎的知識と最新情報を学んでいく。</p>														
授業目標:	<p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>児童家庭福祉の意義や目的を理解できるようになる。</li> <li>歴史的変遷を経て現在の法制度等が成り立っていることを知り、現代社会の問題を理解できるようになる。</li> <li>子どもの基本的人権を保障する仕組みについて理解し、子どもの最善の利益を考えることができるようになる。</li> <li>子育て支援策を学び、子どもと家庭への支援の必要性を理解できるようになる。</li> </ol>														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>知識・技能の習得</th> <th>思考力・判断力・表現力の育成</th> <th>学びに向かう力・人間性の涵養</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	子ども家庭福祉の目的・理念を学び、子どもとその家庭に対する支援の必要性について学ぶ。子育て家庭の問題についてグループディスカッションを行う。			事前：子どもと家庭に関する記事等を読み、自分の意見を下書きする。 事後：グループディスカッションで発表された意見をまとめる。			講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分								
2	少子高齢社会における子ども家庭福祉の現状を学び、家庭支援の意味を考え、超少子化社会における子育てについてグループディスカッションを行う。			事前：超少子高齢社会に関する記事等を読み、200字程度にまとめる。 事後：家族形態の変化と共働き世帯の増加との関連性についてまとめる。			講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分								
3	欧米や日本における子ども家庭福祉の歴史的変遷を学ぶ。その当時の社会問題と向き合い、法制度や施設ができた経緯を理解する。			事前：中世以降のイギリスの歴史的発展を調べておく。 事後：法制度・施設の成立経緯を200字程度で整理する。			講義 70分、リアクションペーパーの記入 20分								
4	国際社会および日本での子どもの人権保障の仕組みを学ぶ。人権侵害に関する問題に関する問題に関するグループディスカッションを行い、認識を深めていく。			事前：日本国憲法における基本的人権に関する事項を読み、ノートにまとめる。 事後：グループディスカッションの内容を200字程度でまとめる。			講義 70分、グループディスカッション 20分								
5	基本となる子ども家庭福祉の法体系を学び、子どもに関する法律の理念と目的を学ぶとともに、関連する法制について学習する。			事前：テキスト第5章を読んでおく。 事後：グループディスカッションの内容を200字程度でまとめる。			講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分								
6	子ども家庭福祉の行財政や実施体制を学び、子ども家庭福祉に関する機関等の役割や機能について理解する。			事前：テキスト第6章を読んでおく。 事後：地域にある児童福祉機関の所在地と業務内容についてまとめる。			講義 75分、学習した内容について意見交換をする 15分								
7	日本の子ども福祉施設の成り立ちを知り、施設で働く専門職について理解する。			事前：保育士資格で勤務できる児童福祉施設を調べる。 事後：専門職に課せられている要件を整理しまとめる。			講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分								
8	子育て支援施策や地域における子育て支援の現状について学ぶ。			事前：居住地域の保育施設（保育所・認定こども園・幼稚園等）数を調べる。 事後：子育て支援施策の変遷をまとめる。			講義 70分、子育て支援施策について意見交換をする 20分								
9	子どもの育ちや親支援に対する母子保健の必要性を理解し、子どもの健全育成の現状について学ぶ。			事前：テキスト第9章を読んでおく。 事後：児童館で実施されている子どもの健全育成について調べ、意見交換する。			講義 50分、ディスカッション 20分、発表 20分								
10	児童虐待等の要因やそれに対応する法制度、支援について学ぶ。被虐待児など家庭で養育が困難となった子どもの養育についてグループディスカッションを行う。			事前：近年起きた児童虐待事件を調べ、200字程度で意見を書く。 事後：児童虐待に対応する児童福祉機関等を整理する。			講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分								

11	障害のある子どもに対する福祉施策やサービス等について学ぶ。子どもの権利との関係についてグループディスカッションを行う。	事前：テキスト11章を読んでおく。 事後：障害のある子どもがどのような保育施設等を利用しているか調べる。	講義 75分、調べた内容について意見交換 15分		
12	社会的適応が難しい子どもへの福祉的支援について学ぶ。非行少年や不登校児について理解する。	事前：テキスト第12章を読んでおく。 事後：子どもの人権との関連性について、自分の意見を200字程度でまとめる。	講義 50分、グループディスカッション 20分、発表 20分		
13	ひとり親家庭の現状と支援策について学ぶ。	事前：ひとり親家庭の実態について調べ、200字程度でまとめる。 事後：ひとり親家庭を支援する機関・施設を整理する。	講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分		
14	子どもの貧困について、現状を知るとともに支援策を学び理解を深める。	事前：地域の子ども食堂などの支援活動を調べ、レポートを作成する。 事後：子どもの貧困の支援策の課題を考える。	講義 70分、事前学習に関する意見交換 20分		
15	子ども家庭福祉の未来と課題について学ぶ。	事前：こども家庭庁について調べる。 事後：諸外国と日本のこども家庭福祉の相違点を整理する。	講義 60分、事前学習のレポート内容発表 30分		
教本： 高玉和子・和田上貴昭編著、『これから学ぶ・理解する子ども家庭福祉』一藝社、(2024年3月刊行)		参考文献： 授業中に適宜提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・グループディスカッション（50%）、課題レポート（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 子育て家庭を取り巻く社会状況や問題に関する本や新聞記事などを読み、関心を持って主体的に調べることを望みます。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	児童文学 (Children's Literature)						科目分類	専門科目													
担当教員	横手 拓治																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
明治の興隆期から宮澤賢治まで。近代日本に登場し、現代も読み継がれる児童文学の作家と作品を取りあげ読解するとともに、イメージ作りの方法、キャラクター設定、映像想起力・オノマトペ表現の特徴なども含め講じる。なお授業の趣旨をふまえ、作者の価値観や作品世界を映像的・演劇的に解釈した、戦後の作品を上映・放送する回を挟んでゆく。小課題、双方向性のやり取りを適宜実施。																					
授業目標：																					
*日本児童文学（童話）の魅力を学修し、それを通じて日本語の豊かさと創造性を把握する。 *古典となった童話作品が近年のポップシーンにも刺激を与えていた点を重視し、時代を超えた表現の力について理解を深める。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	ガイダンスおよび明治の児童文学について				事前：対象に知識を増やす 事後：リアベ200字		講義60分、応答30分														
2	浜田広介と「泣いた赤鬼」ほか				事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
3	小川未明と「赤いろうそくと人魚」ほか				事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
4	坪田譲治と生活童話				事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
5	『赤い鳥』と鈴木三重吉				事前：対象作者の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
6	新美南吉と「ごんぎつね」ほか				事前：対象作者の知識を得る 事後：リアベ200字		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
7	課題に合わせたワーク、宮澤賢治① 導入部				事前：宮澤賢治の知識を得る 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
8	宮澤賢治② 評伝を中心に				事前：賢治の知識を増やす 事後：関連作品を読む		講義45分、資料映像 鑑賞30分、応答15分														
9	宮澤賢治③ 生前唯一の童話集『注文の多い料理店』				事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞30分、 応答15分														
10	宮澤賢治④ 5大童話の第1回。「風の又三郎」「グスコーブドリの伝記」を扱う				事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
11	賢治作品の鑑賞① アニメ「グスコーブドリの伝記」				事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		映像鑑賞中心														
12	宮澤賢治⑤ 5大童話の第2回。「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。アニメ作品鑑賞を含む。				事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		講義30分、作品鑑賞60分														
13	宮澤賢治⑥ 5大童話の第3回。「ボラーノの広場」「銀河鉄道の夜」を扱い、「ざし童子(ぼっこ)のはなし」等小品も紹介。				事前：対象作品を読んでおく 事後：関連作品を読む		講義45分、作品鑑賞と 読解30分、応答15分														
14	賢治作品の鑑賞② 演劇動画「銀河鉄道の夜」				事前：対象作品を読んでおく 事後：リアベ200字		講義30分、動画鑑賞60分														
15	まとめの講義と授業内最終試験				事前：全体の復習 事後：全体の再復習		講義45分、試験45分														
教本：					参考文献： 澤村修治『宮澤賢治のことば』（理論社）＊本書は教員の筆名書籍である。 横手拓治「宮澤賢治はなぜ童話作家になったのか」（web公開）																
成績評価の方法、評価基準：																					
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
対象作品はよく読んでおくこと。なお授業で配るものもある。レジュメは再読し、復習に活用すること。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	基礎科目							
担当教員	深谷 野亞														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響をうけているのか(社会化)③社会学的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。															
授業目標:															
社会学的想像力／社会学的思考を身につけることを目標とします。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）															
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○		○													
授業計画・事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：次回の配布資料を読む			講義 70分・発表 20分							
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分							
3	「社会学的想像力」とはなにか 社会学の基本的な考え方である社会学的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分							
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクション』を中心に階層について考えていきます。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分							
5	「社会化」とはなにか 社会の中でのわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分							
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・グループワーク 30分							
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分							
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分							
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分							
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分							
11	社会学史 I 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分							
12	社会学史 II 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインテラクションズム」といった社会学理論を考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分							
13	社会学の手法 I 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいか考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 20分・グループディスカッション 60分・発表 10分							
14	社会学の手法 II 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えています。				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 20分・グループディスカッション 60分・発表 10分							
15	まとめ				事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分							

教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。	参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。	
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	社会心理学概論 (Social Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	深澤 伸幸																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
社会心理学はその研究対象が極めて広いため、幾つかのトピックスを取り上げて授業を行う。本授業では主に、個人における対人認知のあり方や、集団内における対人関係性のあり方、及び集団が個人に対する意見や態度変容を促す要因や仕組みを学ぶ。授業形態は、講義はもちろんあるが履修生の自発的な関心を高めるために、討議や履修生の発表を中心として行う。																										
授業目標:																										
各トピックスが内包する心理学的な知識の習得にとどまらず、各事例が有する問題点に気付き、自分なりに考え、解釈することが出来るようになるまでが目標である。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、ディスカッション 20分																		
2	社会心理学の歴史、社会心理学の扱うテーマ・方法等の概略を学ぶ。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
3	傍観者効果、多元的無知の現象を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
4	社会的促進、社会的抑制、注意のコンフリクトの現象を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
5	メイヨーやレスリスバーガーらが行った「ホーソン実験」、及び実験後に生まれた人間関係論を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
6	集団行動にみられる同調行動、集団齊一性、集団規範、集団凝集性の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
7	フェスティングラーが主張する「認知的不協和理論」と共に、「反態度的行動」の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
8	社会行動を理解するには、我々が有する「態度（社会的な態度）」と、態度を構成する認知的成分、感情的成分、行動的成分の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
9	社会的アイデンティティ、及びハイダーらが主張する「バランス理論」の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
10	自己知覚理論、内発的動機づけ、自己効力感の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
11	社会行動を理解するには、内集団、外集団、ステレオタイプ、偏見等の意味を考えることが重要であり、それらの現象の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
12	集団で話し合いを行い決定を下す際には、集団的浅慮、心理的拘泥現象等が関係する。これらの意味を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
13	説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデルを学び意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
14	ジンバルドらによって実行されたスタンフォード監獄実験、並びに没個性化、社会的従属性の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分																		
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、ディスカッション 20分																		

教本：	参考文献：
山岸俊男監修「徹底図解 社会心理学」(新星出版) ¥1,600	
成績評価の方法、評価基準：	
小テスト・レポート等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	社会心理学実験演習 (Social Psychology Experimentation)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	心理学実験法、心理学統計法、データ処理入門を履修していることが望ましい																								
その他																										
授業概要：																										
本演習では、社会心理学の基本的な研究方法について、グループでの演習を行いながら学ぶ。基本的には、実験や調査によるデータ取得の方法とあわせてそのデータの解析方法を学び、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」から成る研究レポートを提出していただく。																										
授業目標：																										
実験・調査を体験し、研究レポートを作成することにより、人間の行動や内的状態を測定し、得られたデータから結論を導き出すプロセスを体得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション、レポートの書き方					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義																		
2	社会心理学実験・調査①：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習																		
3	社会心理学実験・調査①：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習																		
4	社会心理学実験・調査①：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習																		
5	社会心理学実験・調査①：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習																		
6	社会心理学実験・調査②：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習																		
7	社会心理学実験・調査②：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習																		
8	社会心理学実験・調査②：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習																		
9	社会心理学実験・調査②：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習																		
10	社会心理学実験・調査③：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習																		
11	社会心理学実験・調査③：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習																		
12	社会心理学実験・調査③：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習																		
13	社会心理学実験・調査③：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習																		
14	研究発表					事前：資料確認・課題検討 事後：演習内容の復習		発表30分、 討議60分																		
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		演習																		
教本：					参考文献： なし。授業中に資料を配布する。																					
授業中に適宜紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(40%)、レポート(60%)で総合評価する。授業の3分の2以上に出席し、かつ3本のレポート全てを提出した場合にのみ、成績評価の対象となる。																										
学生へのアドバイス：																										
グループで行った実験・調査の結果をレポートにまとめていく演習であるため、授業への出席は、非常に重要である。																										
オフィスアワー：																										
初回授業日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習														
授業科目(英文)	社会調査研究法演習 (Practical Training of Field Work)			科目分類			専門科目																
担当教員	深澤 伸幸																						
履修条件	前提科目 その他	社会調査入門、社会調査法、及び心理統計学のすべての単位を取得済みであること (必須条件) 各自 PC を持参すること、演習という性質上履修生は10名以内とする																					
授業概要 :																							
本授業では、社会調査研究法のまとめとして、自らが調査を企画し、調査項目の選定から調査票を作成することができ、さらに得られた調査データに基づく検定を行い、調査報告書を作成できるまでを授業の到達目標とします。この目標に到達するに当たり、事前に社会調査入門、社会調査法、加えて心理統計学における様々な知見が必ず必要となります。本授業においては、講義の部分は極力削減し、各人の演習を中心とします。授業評価は調査報告書の手続き上の適切さ、結果の処理や考察の完成度を対象として行います。																							
授業目標 :																							
自らが社会調査を企画し、調査の実施と調査報告が作成できることを授業の到達目標とします。																							
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態															
1	オリエンテーション (評価方法と学び方) を行う。				事前 : シラバスを読むこと 事後 : シラバスの確認			講義70分、 ディスカッション20分															
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。				事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述			講義70分、 ディスカッション20分															
3	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える (1)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
4	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える (2)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
5	研究テーマの設定、目的等の調査企画を決定				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
6	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える (1)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
7	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える (2)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
8	質問項目を決定、調査票の作成				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
9	調査実施				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義30分、ディスカッション30分、実習30分															
10	調査データの入力作業				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義20分、実習70分															
11	調査結果の分析、作図・作表の作成				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義20分、実習70分															
12	統計検定法を用いての分析 (1)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義20分、実習70分															
13	統計検定法を用いての分析 (2)				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義20分、実習70分															
14	調査報告書作成作業				事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。			講義20分、実習70分															
15	報告書修正作業、調査報告書提出				事前 : 全体を復習する。 事後 : 再度全体を復習する			講義20分、実習70分															
教本 :																							
宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」 (弘文堂)、¥2,500					参考文献 : 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」 (SBクリエイティブ)																		
成績評価の方法、評価基準 :																							
小テスト・レポート (100%) 等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス :																							
欠席回数が全体の1／3を超える場合には、報告書を提出しても評価しないので注意されたい。																							
オフィスアワー :																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	社会調査入門 (Primary Social Research)					科目分類	専門科目																			
担当教員	深澤 伸幸																									
履修条件	前提科目	統計に関わる授業を履修していることが望ましい																								
	その他	各自 PC を持参すること																								
授業概要:																										
社会調査とは何か、また調査結果をどのような形で分析に繋げることが出来るのか、という一連の過程を学ぶ。具体的には、得られた調査結果をエクセルのシート上に入力することに始まり、各で初步の統計法を用いることで調査対象が有する潜在的な特性を明らかにする。社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PC を用い、各自で表計算用のエクセルの活用ができるまでとする。																										
授業目標:																										
社会調査の意味や手続きに加え、初步の統計に関わる知識も学ぶ。この過程において、各自で PC を用い、エクセル上で初步の分析ができ、かつ結果を正しく解釈できるまでを授業目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認	講義 90分																			
2	社会調査の目的・種類、調査実施方法、数値の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分																			
3	社会調査研究のプロセス、操作的定義と仮説の設定の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分																			
4	社会調査の倫理、インフォームド・コンセントの意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分																			
5	量的調査の性質、平均値、分散、標準偏差を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 70分、 ディスカッション 20分																			
6	表計算シートのエクセルを用い、平均値・分散の意味、平均値や分散に関する計算の実習を行い、用語の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
7	エクセルシート上で例題を通じ、ヒストグラム分布を作成する手順を実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
8	引き続き履修生全員がエクセルシート上でヒストグラム分布を作成する手順を習得するまで実習を続ける。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
9	例題を通じて得られたヒストグラム分布結果を作図する実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
10	エクセルシート上で「データ分析ツール」を開き、基本統計量算出の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
11	SD 法、カラーイメージの測定実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
12	カラーイメージ測定結果の入力方法、入力書式決定の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
13	カラーイメージの測定結果から基本統計量を算出し、結果を空間表示できるまでの実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分																			
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する	講義 90分																			
教本:																										
参考文献: 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」(SBクリエイティブ) ￥2,500																										
成績評価の方法、評価基準:																										
小テスト・レポート等 (60%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習											
授業科目(英文)	社会調査法 (Social Research)					科目分類	専門科目													
担当教員	深澤 伸幸																			
履修条件	前提科目 その他	社会調査入門を履修済みであること 各自 PC を持参すること																		
<b>授業概要 :</b> 社会調査入門では、調査結果が量的数値として得られる場合を学んできたが、本授業では主に郵送調査や電話調査、様々なアンケートにおいて得られる質的数値での調査法を学ぶ。本授業においては社会調査に関する知識のみにとどまらず、PCを用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。																				
<b>授業目標 :</b> 社会調査の意味や手続きに加え、初歩的統計に関わる知識も学び、最終的に各人で質問項目を作成・実施し、かつ分析できるまでを授業目標とする。その過程でエクセルシートを活用し、データ入力、分析、結果のまとめとしても作図・作表方法を習得する。																				
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b>																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																				
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態													
1	オリエンテーション (評価方法と学び方) を行う。					事前 : シラバスを読むこと 事後 : シラバスの確認	講義 70分、 ディスカッション 20分													
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分													
3	調査の実施、母集団と標本、無作為抽出法の意味を理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分													
4	質的調査の特徴・種類、観察法の実施・記録法の意味を理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 振り返りシートに記述	講義 70分、 ディスカッション 20分													
5	質問紙調査とプロセス、調査票の基本構成を理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 70分、 ディスカッション 20分													
6	質的社会調査の実際例、研究デザイン、データ収集方法を学び、各手続きを理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 70分、 ディスカッション 20分													
7	調査手続きを理解するため、実際に調査テーマを設定し、質問項目作成、分析、レポート作成までを実習する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
8	実際に実行する調査のテーマを、集団ブレーンストーミングを通じて話し合い、調査目的を設定するまでを実習する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
9	実際の調査項目選定に向け、集団ブレーンストーミングを通じて話し合い、調査項目を設定するまでを実習する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
10	引き続き実際の調査項目選定に向け、集団ブレーンストーミングを通じて話し合い、調査票の作成までを実習する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
11	回収したデータをエクセルシート上に入力作業を行う。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
12	上記で得られた調査データを群ごとに区分し、再度項目毎に基本統計量を算出する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
13	基本統計量の算出、作図・作表実習に加え、基礎的な統計検定法を用いた演算の実習を行う。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前 : 予習に取り組む 事後 : 授業内容を復習する。	講義 20分、実習 70分													
15	まとめ・全体を振り返る					事前 : 全体を復習する。 事後 : 再度全体を復習する	講義 70分、 ディスカッション 20分													
<b>教本 :</b> 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」(SBクリエイティブ) ￥2,500																				
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 小テスト・レポート等 (60%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																				
<b>学生へのアドバイス :</b> 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。																				
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	社会的養護 (Social Care)					科目分類	専門科目							
担当教員	中島 健一郎			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	本科目では、児童養護施設など、社会的養護を担う児童福祉施設の実践内容について学ぶ。特に児童養護施設の実践を中心に、子どもたちの生活とそれを支える援助者（保育士など）の役割、求められるスキル、社会的養護の実践が抱える課題について、理解を深める。													
授業目標:	本科目では、社会的養護領域の施設で生活する子どもたちの現状と、施設養護実践における援助者側の課題理解を目指とする。自分自身の生活体験などと比較しつつ、社会的養護についての問題意識を明確にし、家庭養護との関連性について理解することを到達点とする。													
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養									
○	○													
授業計画・事前学習・事後学習、形式	授業計画・事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態						
1	授業オリエンテーション、社会的養護とはなにか 「社会的養護」の学問的位置づけと重要性について解説する。				事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認			講義60分、質疑10分、演習20分						
2	社会的養護に関する社会的状況 子どもと家庭を取り巻く環境の変化について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
3	子どもの人権と社会的養護 社会的養護における子どもの権利の考え方について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
4	社会的養護の制度と法体系 児童相談所や市町村など関係機関の機能について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
5	社会的養護の施設（1） 乳児院など養護系施設の概要について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
6	社会的養護の施設（2） 障害児入所施設など障害系施設の概要について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
7	家庭養護 里親制度ならびに関連する支援施策を概観する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
8	社会的養護の変遷／理念と概念 社会的養護の歴史を概観し、基本理念の変遷を概観する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
9	社会的養護の基本原則 社会的養護の6つの基本原理について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
10	社会的養護の理論（1） 心理学領域を中心に社会的養護に関する諸理論を概観する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
11	社会的養護の理論（2） 家族再統合などソーシャルワーク領域の諸理論を概観する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
12	社会的養護の実施体系 児童養護施設など社会的養護の施設の体系を概観する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
13	社会的養護にかかる専門職 社会的養護関係施設に従事する専門職について解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
14	被措置児童等虐待の防止 被措置児童等虐待防止の取り組みについて解説する。				事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習			小テスト20分、講義60分、質疑10分						
15	授業のまとめ 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。				事前：テキスト全体の通読 事後：授業全体の振り返り			小テスト30分、講義50分、質疑10分						
教本:	参考文献: よくわかる！保育士エクササイズ13「社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック」松本峰雄 監修、ミネルヴァ書房、￥2,800+税													
成績評価の方法、評価基準:	授業時に実施する小テスト（40%）、期末試験（40%）、授業参加状況等（20%）で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に关心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。													
オフィスアワー:	講義初回に伝える。													

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	社会的養護内容 (Social Care Content)						科目分類	専門科目														
担当教員	中島 健一郎																					
履修条件	前提科目	社会的養護			その他	なし																
授業概要：																						
本科目では、社会的養護の歴史的変遷や、児童養護施設を中心とした児童福祉施設の現状と課題を理解した上で、子どものウェルビーイングを保障するための、保育士（対人援助職）としての責務と専門職倫理、必要となる援助技術について学ぶ。																						
授業目標：																						
本科目では、社会的養護の実践現場で必要となる援助方法や、そのために必要となる専門スキル、活用すべき社会資源などの知識を獲得することを目標とする。また、今日の社会情勢を広い視野で捉え、多様な角度から考察できる知識と問題意識の獲得を目指す。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	授業オリエンテーション、社会的養護の実践について（概要） 「社会的養護」の授業を踏まえ、養護実践について概観する。				事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認			講義50分、質疑10分、演習30分														
2	社会的養護とは何か（その概要について） 講義と、子どもの貧困問題を中心とした事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
3	社会的養護を必要とする背景（社会が抱える問題） 講義と、児童虐待問題を中心とした事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
4	施設養護の原理・原則 養護の原理原則に基づく支援について、事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
5	養護系施設の実践内容・1（乳児院の実践について） 乳児院の実践について、事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
6	養護系施設の実践内容・2（児童養護施設の実践について） 児童養護施設の実践について、事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
7	障害系施設の実践内容（障害児入所支援について） 講義と、障害児者支援に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
8	施設における支援過程の理解・1（年齢に応じた支援） 講義と、施設入所児童の年齢別課題に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
9	施設における支援過程の実際・2（入所～退所への流れ） 講義と、施設における援助過程に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
10	施設における支援過程の実際・3（1日の生活） 講義と、施設における日常生活支援に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
11	施設の小規模化と里親制度 講義と、里親支援に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
12	里親・里子の関係性を考える 講義と、里親、養子縁組制度に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
13	里親制度と養子縁組制度 講義と、子どもの「出自を知る権利」に関する事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
14	「生い立ちの整理」とライフストーリーワーク（LSW） 講義と、LSW実践における課題についての事例検討を行う。				事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り			小テスト10分、講義50分、演習30分														
15	授業のまとめ 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。				事前：過去の資料を精読 事後：授業全体の振り返り			小テスト30分、講義40分、演習20分														
教本：		参考文献： なし（授業時にレジュメ配布） 授業中に指示する。																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業時に実施する小テスト（70%）、授業参加状況等（30%）で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に関心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。																						
オフィスアワー：																						
講義初回に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																
授業科目(英文)	社会福祉概論 (Introduction to Social Welfare)					科目分類	専門科目																		
担当教員	高玉 和子																								
履修条件	前提科目	なし																							
	その他	なし																							
授業概要:	私たちの生活を支える社会福祉の仕組みについて理解し、福祉ニーズや課題についてグループディスカッションを通して思考力を養う。社会福祉の成り立ちや法制度、福祉サービス等を学び、少子高齢社会への対応について自分の意見を述べられる力を培う。社会福祉や保育等の現場で実践者としての基本的技術・知識を習得して対応する力をつける。																								
授業目標: 到達目標は以下の通りである。	1. 社会福祉の意義と目的を理解できるようになる。 2. 社会福祉制度について理解し、知識として活用できるようになる。 3. 社会福祉の知識・技術を身につけ、福祉・保育等の現場で活用できるようになる。																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)																								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																								
授業計画・事前学習・事後学習・形式																									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	社会福祉に関する身近な生活問題についてグループで話し合ってみよう			事前: テキストの第1章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、グループワーク、グループ発表40分																		
2	社会福祉の歴史を理解し、今日の社会福祉の成り立ちを理解する			事前: テキスト第2章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループ発表40分																		
3	社会問題について現代生活の中で何が起きているか関心をもち、グループディスカッションを行う			事前: テキストの第3章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
4	日本の福祉政策を調べ、それぞれの施策についてグループディスカッションを行う			事前: テキストの第4章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
5	福祉サービスの供給を実際に担っている事業について調べ、グループディスカッションを行う			事前: テキストの第5章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
6	社会保障制度、特に現在の年金制度や医療制度、公的扶助等について知り理解を深め、グループワークを行う			事前: テキストの第6章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループ発表40分																		
7	相談援助の基盤と方法について理解し、模擬体験する			事前: テキストの第7章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ロールプレイ、感想40分																		
8	地域社会の社会資源の活用について考え、地域福祉についてグループディスカッションを行う			事前: テキストの第8章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
9	共生社会とは何か身近な事例をあげて考え、グループディスカッションを行う			事前: テキストの第9章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
10	子育て家庭の現状と支援を理解し、現在の問題についてグループディスカッションを行う			事前: テキストの第10章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
11	障害者の現状や生活実態に対し、何が求められているかを考え、グループディスカッションを行う			事前: テキストの第11章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
12	高齢者への福祉対応が喫緊の課題となっている状況を考え、グループディスカッションを行う			事前: テキストの第12章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
13	権利擁護の仕組みについて理解し、私たちの権利についてグループディスカッションを行う			事前: テキストの第13章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
14	日本とは異なる文化・経済背景をもつ諸外国の福祉の相違を理解しながら、福祉の在り方についてグループディスカッションを行う			事前: テキスト第14章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
15	これから必要とされる社会福祉の課題への対応について、グループディスカッションを行う			事前: テキスト第15章を読んでおく 事後: ワークの確認、まとめ			講義50分、ワーク、グループディスカッション、発表40分																		
教本:	参考文献: 高玉和子・和田上貴昭編著『これから学ぶ・理解する社会福祉』一藝社(2023年3月刊行) 授業中に適宜提示する。																								
成績評価の方法、評価基準:	ワークおよびグループディスカッションのまとめ(50%)、レポート(50%)で総合評価。																								
学生へのアドバイス:	少子高齢社会の中で学習することの意義は大きくなっています。自分で調べて理解する力についてください。																								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	宗教史 (Religion)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標:																										
日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション、宗教とは。日本宗教の形成と展開について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	(通史) 宗教の風景について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	(古代) 神々の世界 神社の歴史と役割について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	(古代) 儒教と道教と仏教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	(中古) 平安時代の宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	(中古) 平安仏教〔最澄・空海〕について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	(中世) 鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	(近世) 近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	(近世) 国学と国体について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	近代日本における政教分離の形成について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	一神教と多神教。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	宗教の未来。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	まとめ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本：																										
授業時にプリント配付。																										
参考文献：																										
1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
発表とレポート（50%）と試験（50%）などで評価する。仔細は授業時に明示する。																										
学生へのアドバイス：																										
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー：																										
木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	集団の社会心理学 (Social Psychology of Group-Behaviors)						科目分類	専門科目							
担当教員	深澤 伸幸														
履修条件	前提科目	なし						その他	なし						
<b>授業概要:</b> それぞれの集団において、互いのコミュニケーションを図るために様々なジェスチャーやサイン行動等の表出を行っている。本授業では社会心理学並びに比較行動学の視点から、主になわばり行動（人間の空間行動）、身体的なサインやノンバーバルコミュニケーション行動を取り上げ、集団を含む社会行動の意味を理解する。															
<b>授業目標:</b> 我々が集団の一員として行う様々な社会行動の意味を学び、それらの意味と問題点が理解できることを、本授業の到達目標とする。															
<b>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）</b>															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
			○			○									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む			講義 70分、 ディスカッション 20分							
2	「動作」には生得的動作に始まり、発見動作、同化動作、訓練された動作に加え、獲得された混合動作があり、それらの動作の意味を理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
3	「ジェスチャー」には偶発ジェスチャー、表出ジェスチャー、模倣ジェスチャー等があり、各ジェスチャーの持つ意味を理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
4	「サイン（合図）」には肯定・否定のサインや、凝視行動、歓迎と送別や挨拶を示す行動などが含まれる。我々が他者に示す様々なサイン行動の意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
5	我々が安心感や安らぎを求める際には、「身体接触結合サイン」や「自己接触行動」等を表出す。これらのサインが有する意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
6	我々が肯定や否定を行う際には、「矛盾信号」や「不足信号」、及び「過剰信号」等の身体表出を行っている。これらのサインが有する意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
7	我々が示す「なわばり行動」すなわち「バーソナルスペース（空間行動）」は、我々の快一不快の感情とも密接な関係がある。我々が有する空間行動の意味を理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
8	我々が強敵から身を守る際には「身をすくめる」、「防衛する」に加え、「服従する」等の行動を取る。これらの行動の意味を理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
9	様々な争いの際に見られる「利他的行動」や「闘争行動」に加え、「勝利のディスプレイ」を示す。これらの行動の意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
10	外部からの刺激が遮断されると、我々は様々な精神的不安定状態に置かれる。「ひきこもり」現象のように、外部刺激が遮断されることが自律神経信号に変調をもたらすことを理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
11	人を不快にさせる他者の表出行動には「軽蔑信号」や「威嚇行動」等があり、これらの行動の意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
12	人は男らしさや女らしさの信号として「着衣信号」や「身体装飾」等を行うが、これらの信号の意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
13	他者との接触を求める際に、我々は「親信号」や「幼児信号」等を表出す。これらの信号の意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
14	集団で行われるスポーツ行動の歴史と意味を考え理解する。				事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、 ディスカッション 20分							

教本：	参考文献：
デズモンド・モリス（藤田 統訳）「マンウォッキング 人間の行動学」、 小学館、¥4,800	
成績評価の方法、評価基準：	
小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	集団間の対立と和解 (Conflict and Compromise among Groups)						科目分類	専門科目							
担当教員	深澤 伸幸														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要:	<p>歴史的に見ても、様々な国や集団において対立や和解が起きている。これらの対立や和解には、他の集団に対する偏見や社会的な態度が大きく関わっている。また偏見や社会的態度を構成する要因としては、様々な社会的な事象や出来事が大きく関与している。本授業においては、対立や和解を生じさせる各種の要因を取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する。</p>														
授業目標:	<p>集団間の対立と和解を生み出す幾つかの社会的な要因をトピックスとして取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を考え、理解できることを到達目標とする。</p>														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）			事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む			講義 70分、ディスカッション 20分								
2	「グローバリゼーション」と「ソーシャルネットワーク」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
3	「うわさと流行の心理」と「報道と世論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
4	「社会的偏見と差別」と「社会的ジレンマ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
5	「集団主義文化と個人主義文化」と「都市環境と人の幸福」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
6	「社会的促進と社会的抑制」と「社会的手抜き」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
7	「同調行動」と「集団的浅慮」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
8	「リーダーシップ」と「集団規範」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
9	「マイノリティ・インフルエンス」と「集団間葛藤と集団エゴイズム」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
10	「社会的アイデンティティ」と「没個性化」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
11	「子供どうしの人間関係」と「いじめ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
12	「自尊心と感情の関係」と「愛の三角理論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
13	「自己開示」と「自己呈示」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
14	「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する			事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分								
15	まとめ・全体を振り返る			事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、ディスカッション 20分								

教本：	参考文献：
無藤 隆・森敏 昭・池上知子・福丸由佳編 「よくわかる心理学」、ミネルヴァ書房、¥3,000	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	食文化と観光 (Food Culture and Tourism)					科目分類	専門科目																			
担当教員	古賀 学																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
我が国における食文化の現状と特性及び食文化を活かした観光の現状と分析、海外との比較と外国人観光客にとっての食の魅力等を学修することにより、食文化と観光の今後のあり方について探求する。																										
授業目標：																										
①我が国の食文化の特性について理解する。 ②食文化と国内観光・国際観光の現状と今後の食文化観光 (Food Tourism) のあり方を考察する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																								
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	食文化と観光の構造：食文化と観光との関係について理解するための体系について学修する。また、味覚と環境：味覚の基本的な構造及び味覚と環境との関係について学修する。				事前：和食の魅力について調査する。 事後：食文化と観光について整理する。			ガイダンス 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
2	和食の特徴：日本食の秀でているところ、世界遺産としての和食の認定要件等、日本料理の特徴について学修する。				事前：食の無形文化遺産について調査する。 事後：和食の特徴について整理する。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
3	地域と食文化：地域の生活と密着して形成された食の素材・料理等における地域固有の食文化・地域特性について学修する。				事前：B級グルメについて事例検索する。 事後：食の地域性について整理する。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
4	東西の食文化：食文化における観光の成立に大きな影響を与える、地形的特性及び東西地域文化の特性の空間的境目と食文化の差異について理解する。				事前：関西と関東の食文化の違いについて検索する。 事後：東西の食文化の違いをまとめる。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
5	食観光の変遷：観光における食の体験の類型と、観光の変遷に伴う食体験の変容について学修する。				事前：江戸時代の食について調査する。 事後：食観光の今日における課題を整理する。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
6	フードツーリズムとガストロノミーツーリズム：フードツーリズム及びガストロノミーツーリズムについて学修することにより、食文化と観光のあり方について深く考察する。				事前：フードツーリズムについて調査する。 事後：ガストロノミーツーリズムの意味を再考する。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
7~11	食空間と観光：宿泊施設、食堂、路上(食べ歩き)、自然環境など観光における食と関連する場・施設やその内容の現状を把握することにより食と観光との関連について学修する。都市と食環境・港・市場と食環境、鉄道と食（観光列車、駅弁など）				事前：観光地の食事場所について検索する。 事後：食の場・施設と観光の関係について整理する。			復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
12~14	ソールフードの特性：ラーメン、日本そばなど麺食などを中心に、地域の生活文化の中から生まれた食を検証することにより、食文化の形成について理解する。				事前：ソールフードの意味を理解する。 事後：時代における食の形成について検証する。			各回：復習 10分、 講義(ディスカッション)80分																		
15	塩文化と観光：塩の製造文化、塩の道、塩とエステ、塩と温泉など、塩と観光との連携について学修する。				事前：塩の効用と地域性について調査する。 事後：塩と観光との連携について整理する。			復習 60分、 ディスカッション 30分																		
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。																					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	書道 (Calligraphy)					科目分類	専門科目							
担当教員	中島 裕子													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	中学校国語科書写の学習指導に必要な知識、技能、指導法を学び、書写指導の必要性と意義を理解する。また、日本の伝統や文化の中で育まれた文字文化について理解し、身の回りの多様な表現に対応する思考力、表現能力を養う。楷書、行書の基本的な書き方を毛筆、硬筆の実習を通して理解する。													
授業目標:	書写に関する基礎的な知識、技法を身につけ、楷書、行書の書き方、指導法を習得する。文字文化の豊かさを理解し、日常的に文字を書く習慣を身につける。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○◎、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
◎				○										
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	中学校国語科指導要領について理解する。 文房四宝など用具用材について、種類や使い方を学ぶ。				事前:シラバスを通読 事後:用具用材を揃える			講義50分 実技30分 質疑応答10分						
2	書道史を学び、漢字の変遷や書体、文字文化について理解する。 姿勢、執筆法を実習する。古典の各書体を臨摹し理解する。				事前:書道史を調べる 事後:姿勢、執筆法を復習する			講義50分 実技40分						
3	楷書の基本点画、字形、配列、書き方を学ぶ。 楷書の基本用筆を実習する。				事前:楷書の書き方を調べる 事後:楷書の基本用筆を練習する			講義40分 実技50分						
4	楷書の筆順、文字の組み立て方を学び、実習する。 古典を臨摹し、楷書の技法を習得する。古典を臨摹する意義を学ぶ。				事前:古典の特徴を調べる 事後:楷書の技法を練習する			講義40分 実技50分 半紙に楷書を書いて提出						
5	中学書写的楷書指導を理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)				事前:楷書の技法を纏める 事後:楷書の技法を練習する			楷書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分						
6	行書の筆使い、筆脈など基本的な書き方を学ぶ。 古典を臨摹し行書の技法を習得する。				事前:行書の書き方を調べる 事後:行書の基本用筆を練習する			講義40分 実技50分						
7	点画の省略・変形、筆順の変化など、行書の特徴を学ぶ。 行書の基本用筆を実習する。				事前:古典の特徴を纏める 事後:行書の技法を練習する			講義40分 実技50分 半紙に行書を書いて提出						
8	中学書写的行書指導を理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)				事前:行書の指導法を纏める 事後:行書の技法を練習する			行書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分						
9	同じ字を楷書と行書で書き、違いを理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)				事前:楷・行書の指導法を纏める 事後:楷書、行書を練習する			講義30分 実技60分 半紙に書いて提出						
10	ひらがな、カタカナについて字源、書き方を学ぶ。 ひらがな、カタカナを筆で実習する。				事前:ひらがなの字源を調べる 事後:技法を練習する			講義40分 実技50分 半紙に書いて提出						
11	漢字と仮名を交えて書く書き方を学ぶ。目的に応じて書体を選び、効果的に書くことを理解する。行書に調和する仮名を実習する。				事前:生活の中の文字を調べる 事後:硬筆を練習する			字源小テスト10分 講義40分 実技40分						
12	硬筆について、筆記用具の持ち方、書き方を学ぶ。 楷書、行書、仮名交じり、縦書き、横書きを実習する。				事前:硬筆について調べる 事後:技法を練習する			講義40分 実技50分 硬筆用紙に書いて提出						
13	日本の古典から仮名を学ぶ。 書く文字を選び、漢字と仮名を交えてちらし書きをする。				事前:書く文字を選定 事後:技法を練習する			講義30分 実技60分						
14	大字の書き方を学ぶ。 大字を書き、指導法を実践する。				事前:条幅に書く字を選定 事後:技法を練習する			講義30分 実技60分						
15	条幅に大字を書き、作品についてディスカッションし発表を行う。 授業のまとめ				事前:技法を練習する 事後:なし			実技60分 発表20分 まとめ10分 条幅を提出						
教本:	参考文献: 書の古典と理論 改訂版(光村図書) 国語科書写の理論と実践(萱原書房)													
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。														
授業参加状況等(50%)、小テスト・提出物等(50%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	実技を通して、書き方、指導法を習得していきますので、積極的に学び、書写技術の向上を目指してください。													
オフィスアワー:	事前に教科書を注文してください。道具については初回講義日に伝えます。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	情報基礎 (Basic Course of Information Technologies)						科目分類	基礎科目													
担当教員	井上明也・金宰郁・鈴木秀穎・山本美紀																				
履修条件	前提科目	なし			その他	高校の情報科目的基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを勧める。															
授業概要:																					
学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。																					
授業目標: 具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。																					
1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要なICTを活用する基本スキル																					
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。			事前: シラバスを読む 事後: 情報について調べる			講義70分、発表20分														
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、Gメール、Gドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。			事前: ID、パスワードを用意する 事後: 授業関連課題を行う			講義40分、実習10分、課題40分														
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読み込みなどを習得し、その課題を行う。			事前: WindowOSについて調べる 事後: タイピングを練習する			講義40分、実習10分、課題40分														
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。			事前: ペイントについて調べる 事後: 絵描きソフトを纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。			事前: 文書形式について調べる 事後: 授業関連課題を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。			事前: 文字揃えなどを調べる 事後: 文字揃えなどを纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。			事前: 段組などを調べる 事後: 段組などを纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。			事前: 表作成、表編集を調べる 事後: 表作成、表編集を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
9	タイピングソフト練習、英語文書作成(段組み、ドロップキャップ、ページ罫線)し、その課題を行う。			事前: 英語文書を調べる 事後: 英語文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。			事前: 図形描画を調べる 事後: 図形描画を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。			事前: トリミングを調べる 事後: トリミングなどを纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。			事前: 数式入力を調べる 事後: 数式入力を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
13	タイピングソフト練習、文書(レポート)作成を行い、その課題を提出する。			事前: レポート文書を調べる 事後: レポート文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
14	タイピングソフト練習、文書(論文)作成を行い、その課題を提出する。			事前: 論文文書を調べる 事後: 論文文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分														
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。			事前: 総合課題を作成する。 事後: 総合課題を提出する			講義50分、ディスカッション40分														
教本:																					
参考文献:																					
『大学生のための情報処理演習』(立野貴之、共立出版)																					
成績評価の方法、評価基準:																					
出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢(30%)、タイピングテスト(20%)、提出課題(50%)等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	情報検索論 (Information Retrieval Theory)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
情報検索の技術は、大容量の多種多様な情報資源の中から必要な情報を効率的に見つけ出すために重要な基盤技術である。本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術について学ぶ。また、近年急速に普及している生成AIを活用した情報検索技術についても学ぶ。合わせて、具体的な検索対象を想定した演習により、効率的な情報検索方法を理解する。																										
授業目標:																										
本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術を理解するとともに、必要な情報を効率的に得るための情報検索方法の修得も目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、情報検索技術の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義																		
2	情報検索システムの構成と処理概要					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
3	文書の収集・変換					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
4	索引付け					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
5	検索モデル					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
6	問い合わせ処理とユーザインターフェース					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
7	情報検索システムの性能評価、分類とクラスタリング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
8	ソーシャル検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
9	各種メディアの検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
10	多言語情報アクセス					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
11	テキストマイニング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
12	生成AI技術の概要とAI利活用ガイドライン					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
13	情報検索手法の基礎と生成AI技術を活用した検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
14	情報検索演習I					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
15	情報検索演習II					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
教本：					参考文献： 講義初回のガイダンスで指示する。																					
成績評価の方法、評価基準：					講義内で指示する。																					
学生へのアドバイス：																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	情報コミュニケーション論 (Information and Communication)						科目分類	専門科目														
担当教員	鈴木 秀顕																					
履修条件	前提科目	なし			その他	PCを持参の上、参加してください。																
授業概要:																						
本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれにまつわる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。																						
授業目標:																						
現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス（産業社会とメディアの変容）				事前：なし 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミュニケーションをとります。				事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（115-124） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（125-137） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（138-147） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（148-158） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（159-168） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（169-180） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読①（181-190） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読②（1-28） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読②（29-46） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読（47-66） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読（67-96） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読（97-120） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読（121-152） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分														
教本:		参考文献:																				
①『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店）		②『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店）																				
成績評価の方法、評価基準:																						
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	情報システム概論 (Introduction to Computer Systems)						科目分類	専門科目														
担当教員	金 宰郁																					
履修条件	前提科目	情報処理概論			その他	なし																
授業概要:																						
情報システムの役割、情報技術、情報リテラシーの必要性、情報収集・加工・分析、情報の表現、論理的思考、ネットワーク化による資源の共有、インターネットの概要、電子メールによる業務の効率化、グループウェアとその機能などについて学習する。																						
授業目標:																						
情報システムの構成要素であるコンピュータなどのハードウェア、ネットワークそして、ソフトウェアまでの基本的な知識が理解・修得ができる、また実際のビジネスの中で情報システムがどのように活用されているか、理解できることを学習する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス、授業科目名である情報システムについて説明し、確認をする。				事前：教科書の準備をする 事後：情報について調べる			講義 80分、ディスカッション 10分														
2	情報の歴史から現在のコンピュータの開発経緯まで説明し、その後、課題を行う。				事前：情報の歴史について調べる 事後：コンピュータ経緯を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
3	データの基礎的表現について説明する。n進数の相互変換について、その関係を含めて、理解し、その課題を行う。				事前：n進数について調べる。 事後：n進数を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
4	コンピュータ内で、数値、文字、画像、音声などのデータについて構造を説明する。その後、課題を行う。				事前：各種データについて調べる 事後：各種データを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
5	アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明し、プログラミングを用いて課題を行う。				事前：デジタル信号を調べる 事後：デジタル信号を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
6	コンピュータの5大装置（入力、制御、記憶、演算、および出力装置）について学習する。その後、課題を行う。				事前：コンピュータ仕組みを調べる 事後：コンピュータの5大装置を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
7	ソフトウェアの基本構成（基本ソフトウェア、ミドルウェア、及び応用ソフトウェア）について理解し、その後、課題を行う。				事前：ソフトウェアを調べる 事後：ソフトウェアを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
8	OS (Operating System) のプログラム、および役割（種類、構成等）について理解し、その後、課題を行う。				事前：OSについて調べる 事後：OSを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
9	言語処理ソフトウェアの機械語、アセンブラー言語、及び高水準言語の種類及びその処理方式について学習し、課題を行う。				事前：言語処理を調べる 事後：言語処理を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
10	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について説明する。その後、課題を行う。				事前：FAT32 NTFS等を調べる 事後：ファイルシステムを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
11	ネットワーク（プロトコルと OSI 参照モデルなど）と情報システムについて説明し、課題を行う。				事前：OSI 参照モデルを調べる 事後：OSI 参照モデルを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
12	ネットワーク基礎について学習する。その後、課題を行う。				事前：伝送速度について調べる 事後：インターネットを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
13	データベースの構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習し、課題を行う。				事前：データベースを調べる 事後：データベースを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
14	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学習し、課題を行う。				事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分														
15	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。				事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分														
教本: なし		参考文献: 「情報システム概論、和泉順子他、サイエンス社、2018」																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業参加状況等 (40%)、課題 (30%)、発表 (30%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
初回の授業に必ず出席すること。情報システムの基礎知識（定義）を事前に調べること。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	情報職業論 (Information Vocational Theory)						科目分類	専門科目															
担当教員	鈴木 秀顕																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要:																							
現代社会における職業は、情報によるDXが進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。																							
授業目標:																							
デジタルビジネスモデルやデザイン思考、イノベーション理論を理解し、デジタルトランスフォーメーションDXに対する考え方を身につける。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態															
1	ガイダンス「DXの基礎知識」				事前：精読①（21-52） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
2	「DXを支えるテクノロジー」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読①（53-81） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
3	「データ分析の基礎」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読①（83-108） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
4	「ビジネスモデルの立案・実行と組織の動き方」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読①（109-130） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
5	「組織にとってのDXと定着法」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読①（131-154） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
6	「DXを取り組むに当たり考えておくべき社会との関係性」について学習した内容をもとに、ディスカッションを行う。				事前：精読①（155-180） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
7	「データサイエンスとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（14-24） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
8	「機械学習の基本とその精度評価」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（36-43） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
9	「データの可視化」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（48-64） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
10	「テキストマイニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（68-79） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
11	「ディープラーニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（80-102） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
12	「オープンデータとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（108-116） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
13	「オープンデータの成り立ち」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（118-129） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
14	「データと倫理」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。				事前：精読②（132-143） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
15	データサイエンスによるSDGs課題解決への取り組み				事前：精読②（148-161） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分															
教本:					参考文献:																		
①『DXの教養』（インプレス）					①『デジタル・ビジネスモデル』（日本経済新聞出版社）																		
②『データサイエンスリテラシー』（実教出版）					②『ワイヤレスIoTプランナーテキスト』（リックテレコム）																		
成績評価の方法、評価基準:																							
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス:																							
ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりしてから臨んでください。																							
オフィスアワー:																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	情報処理概論 (Basic Course of Information Technologies)			科目分類			専門科目											
担当教員	井上明也・金宰郁・鈴木秀穎・山本美紀																	
履修条件	前提科目	なし			その他			高校の情報科目的基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを勧める。										
授業概要：																		
学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。																		
授業目標：具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。																		
1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要なICTを活用する基本スキル																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。				事前：シラバスを読む 事後：情報について調べる			講義70分、発表20分										
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、Gメール、Gドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。				事前：ID、パスワードを用意する 事後：授業関連課題を行う			講義40分、実習10分、課題40分										
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読み込みなどを習得し、その課題を行う。				事前：WindowOSについて調べる 事後：タイピングを練習する			講義40分、実習10分、課題40分										
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。				事前：ペイントについて調べる 事後：絵描きソフトを纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。				事前：文書形式について調べる 事後：授業関連課題を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。				事前：文字揃えなどを調べる 事後：文字揃えなどを纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。				事前：段組などを調べる 事後：段組などを纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。				事前：表作成、表編集を調べる 事後：表作成、表編集を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
9	タイピングソフト練習、英語文書作成（段組み、ドロップキャップ、ページ罫線）し、その課題を行う。				事前：英語文書を調べる 事後：英語文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。				事前：図形描画を調べる 事後：図形描画を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。				事前：トリミングを調べる 事後：トリミングなどを纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。				事前：数式入力を調べる 事後：数式入力を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
13	タイピングソフト練習、文書（レポート）作成を行い、その課題を提出する。				事前：レポート文書を調べる 事後：レポート文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
14	タイピングソフト練習、文書（論文）作成を行い、その課題を提出する。				事前：論文文書を調べる 事後：論文文書作成を纏める			講義40分、実習10分、課題40分										
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。				事前：総合課題を作成する。 事後：総合課題を提出する			講義50分、ディスカッション40分										
教本：																		
参考文献：																		
『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）																		
成績評価の方法、評価基準：																		
出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢（30%）、タイピングテスト（20%）、提出課題（50%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	情報セキュリティ概論 (Introduction to Information Security)			科目分類			専門科目													
担当教員	金 宰郁																			
履修条件	前提科目	情報処理概論						その他												
授業概要 :																				
情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウィルス、電子透かし等の脅威やOS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。																				
授業目標 :																				
情報セキュリティの必要性を理解し、最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態													
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。			事前 : 教科書の準備をする 事後 : 情報セキュリティを調べる			講義 80分、ディスカッション 10分													
2	情報セキュリティの考え方、技術の歴史について説明し、その後、課題を行う。			事前 : セキュリティ歴史を調べる 事後 : セキュリティ歴史を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
3	情報セキュリティ基礎であるセキュリティの考え方(3要素、時系列、及び管理方法)を学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : セキュリティ要素を調べる 事後 : セキュリティ要素を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
4	情報セキュリティに対するインシデントの具体例、企業の対策状況を学ぶ。			事前 : インシデントを調べる 事後 : セキュリティのインシデントを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
5	情報セキュリティにおける脅威(不正アクセス、ウィルス感染等)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : セキュリティ脅威を調べる 事後 : セキュリティ脅威を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
6	情報セキュリティ技術の基礎となる暗号技術について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : 暗号技術について調べる 事後 : 暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
7	電子署名、電子認証、及びPKIの方式、運用について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : PKIについて調べる 事後 : 電子署名、PKIを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
8	情報セキュリティ対策(ファイアウォール機能、種類、構成など)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : ファイアウォールを調べる 事後 : ファイアウォールを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
9	情報セキュリティ対策(有効なウィルス対策、SPAMメール対策、及び認証の強化など)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : SPAMメールを調べる 事後 : セキュリティ対策を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
10	侵入技術、DOS攻撃、実装攻撃について現状と技術について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : DOS攻撃を調べる 事後 : セキュリティ攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
11	安全なネットワーク構成の考え方について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : DMZについて調べる 事後 : 安全なネットワーク構成を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
12	情報セキュリティポリシー策定(必要性、概念等)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : セキュリティポリシーを調べる 事後 : セキュリティポリシーを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
13	情報セキュリティの国際標準と法規について学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : 情報セキュリティの国際標準を調べる 事後 : 情報セキュリティの国際標準を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
14	クラウドコンピューティングの考え方と情報セキュリティリスクについて学ぶ。その後、課題を行う。			事前 : セキュリティリスクを調べる 事後 : セキュリティリスクを纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分													
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。			事前 : 全資料を下読みする。 事後 : 総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分													
教本 :																				
参考文献 :																				
情報セキュリティ初級公式問題集 全日本情報学習振興協会																				
参考文献 :																				
情報セキュリティ初級認定試験関連の参考書																				
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業参加状況等 (40%)、課題 (30%)、発表 (30%) 等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス :																				
初回の授業に必ず出席すること。情報セキュリティの基礎知識(定義)を事前に調べること。																				
オフィスアワー :																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	情報セキュリティ論 (Information Security)						科目分類	専門科目															
担当教員	金 宰郁																						
履修条件	前提科目	情報セキュリティ概論			その他	なし																	
<b>授業概要 :</b> この授業では、情報システムとネットワークなどで重要になっているセキュリティ技術および関連するソフトウェア技術を、コンピュータで実習を行なながら習得する。																							
<b>授業目標 :</b> 企業にとっての情報管理の本質である機密性、一貫性及び可用性の確保とは何かを理解し、そのために必要な情報セキュリティの問題の本質を理解しながら、情報セキュリティの基礎と応用の最新技術を習得する。プログラミングを用いて演習も行う。																							
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																						
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																							
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。			事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる			講義 80分、ディスカッション 10分																
2	情報セキュリティの必要性、対策について説明し、その後、課題を行う。			事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
3	不正攻撃（ハッカーとクラッカー、及びサイバーテロ）について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：ハッカーを調べる 事後：不正攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
4	不正攻撃 (DoS、トロイの木馬、及びセキュリティホールなど) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：トロイ木馬を調べる 事後：不正攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
5	ウイルス（不正プログラムの種類、ウイルスの種類、及びワームなど）について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：ウイルスを調べる 事後：ウイルスを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
6	共通鍵暗号 (DES、3DES、AESなど) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：共通鍵暗号について調べる 事後：共通鍵暗号を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
7	公開鍵暗号 (RSAなど) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：RSAについて調べる 事後：公開鍵暗号を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
8	ブロック暗号のモード (ECBモード、CBCモードなど) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：ブロック暗号を調べる 事後：ブロック暗号を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
9	ハイブリッド暗号システムについて学ぶ。その後、課題を行う。			事前：ハイブリッド暗号を調べる 事後：ハイブリッド暗号を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
10	一方向ハッシュ関数 (MD5、SHA-3など) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：MD5について調べる 事後：ハッシュ関数等を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
11	メッセージ認証子 (MAC、HMACなど) について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：MACについて調べる 事後：メッセージ認証子を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
12	デジタル署名（技術、利用など）について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：デジタル署名を調べる 事後：デジタル署名を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
13	ステガノグラフィと電子透かしについて学ぶ。その後、課題を行う。			事前：電子透かしを調べる 事後：電子透かしを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分																
14	鍵・乱数・応用技術について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：暗号技術の鍵・乱数を調べる 事後：暗号技術の鍵・乱数を纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分																
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。			事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分																
教本 :		<b>参考文献 :</b> 情報セキュリティ概論、瀬戸洋一 他著																					
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (40%)、課題 (40%)、発表 (20%) 等で総合評価する。																							
<b>学生へのアドバイス :</b> 情報セキュリティの概要と基礎理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。予習・復習を行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。																							
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	情報理論 (Information Theory)						科目分類	専門科目													
担当教員	金 宰郁																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要 :																					
情報データを数理的に取り扱う理論とデジタル表現に変換する方法を学ぶ。次に、デジタル情報データについて、圧縮したり、誤りが生じたときにそれを検出・訂正したり、情報を暗号化したりする方法について説明する。数値・文字・音声・画像・動画などのさまざまな形態の情報が、その特性に応じてどのような方式でデジタル情報として処理されているかを解説する。																					
授業目標 :																					
情報データの圧縮、誤り検出・訂正、暗号化、符号化の方法について理解する。数値・文字・音声・画像・動画を実際にデジタル化する。																					
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○○1つ)																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態													
1	ガイダンス、授業科目名であるメディア技術について説明し、確認をする。				事前: 教科書の準備をする。 事後: メディア関連書を調べる。			講義 80分、ディスカッション 10分													
2	メディア技術において数学的準備である情報 (数値データ) のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。				事前: n進数について調べる。 事後: 数値データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
3	メディア技術において数学的準備である情報 (文字データ) のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前: 文字データを調べる。 事後: 文字データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカションを行い、発表を行う。				事前: バイナリデータを調べる。 事後: バイナリデータ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
5	メディア技術において数学的準備である情報 (画像データ) のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前: 画像データを調べる。 事後: 画像データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
6	メディア技術において数学的準備である情報 (音声データ) のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前: 音声データを調べる。 事後: 音声データ化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカションを行い、発表を行う。				事前: RGB,CMYK を調べる。 事後: RGB,CMYK を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
8	オープンネットワーク社会におけるメディア技術の概要、および動向を説明し、課題を行う。				事前: メディア技術を調べる。 事後: メディア技術の概要、および動向を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
9	メディア技術の処理基礎である情報圧縮技術について説明し、課題を行う。				事前: 情報圧縮技術を調べる。 事後: 情報圧縮技術を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
10	メディア技術の処理基礎である音声、音響符号化、および復号化技術について説明し、課題を行う。				事前: 音響符号化を調べる。 事後: 音響符号化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
11	メディア技術の処理基礎である画像圧縮、および符号化について説明し、課題を行う。				事前: 画像圧縮、符号化を調べる。 事後: 画像圧縮、符号化を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
12	メディア技術の処理基礎である復号化技術について説明し、課題を行う。				事前: 復号化技術を調べる。 事後: 復号化技術を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分													
13	マルチメディア作品として動画制作をしながら、コンセプトシート (テーマ、企画立案、構成など) を作成する。				事前: SNSについて調べる。 事後: コンセプトシートを纏める。			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分													
14	動画制作の最終確認を行う。コンセプトシートを提出する。				事前: 動画の編集を行う。 事後: 動画の最終確認を行う。			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分													
15	課題発表会にて動画を上映し、評論する。				事前: 全資料を下読みする。 事後: 発表の振り返り。			発表 60分、ディスカッション 30分													
教本 :					参考文献 :																
なし					なし																
成績評価の方法、評価基準 :																					
授業参加状況等 (40%)、課題 (30%)、発表 (30%) 等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス :																					
初回の授業に必ず出席すること。情報理論の基礎知識 (定義) を事前に調べること。																					
オフィスアワー :																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義							
授業科目(英文)	情報倫理 (Information Ethics)					科目分類	専門科目									
担当教員	鈴木 秀顕															
履修条件	前提科目	なし														
	その他	なし														
授業概要:	情報社会が進展している。その中には、本来知るべき情報のほか、人々が興味を持つことだけが優先されてしまうためにフェイクニュースなども出回ってしまっている。それは、人としての倫理観が失われていることにはかならない。本講義では、情報社会における倫理観を知り、醸成とともに現代社会のニュースによるディスカッションを行うことにより理解を深める。															
授業目標:	本講義の目的は、情報倫理の基本的な考え方を身につけ、ニュース時事能力検定3級程度の実力を身につけることである。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得															
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養		○											
○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	情報倫理の必要性（グループディスカッション）				事前：シラバスを読む 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
2	情報通信社会とインターネット、進化と変遷（グループディスカッション）				事前：精読（21-34） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
3	ネット時代のコミュニケーション（グループディスカッション）				事前：精読（35-47） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
4	メディアの変遷（グループディスカッション）				事前：精読（49-61） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
5	メディアリテラシー（グループディスカッション）				事前：精読（63-76） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
6	情報技術とセキュリティ（グループディスカッション）				事前：精読（77-88） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
7	インターネットと犯罪（グループディスカッション）				事前：精読（89-100） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
8	個人情報とプライバシー（グループディスカッション）				事前：精読（101-114） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
9	知的所有権とコンテンツ（グループディスカッション）				事前：精読（115-128） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
10	企業と情報倫理（グループディスカッション）				事前：精読（129-140） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
11	科学技術と倫理（グループディスカッション）				事前：精読（141-153） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
12	ビッグデータとAIの倫理（グループディスカッション）				事前：精読（155-169） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
13	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン（グループディスカッション）				事前：精読（171-184） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
14	SNSと情報モラル（グループディスカッション）				事前：精読（185-196） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
15	情報通信社会とリテラシー（グループディスカッション）				事前：精読（197-204） 事後：議論レポートの作成			講義45分 ディスカッション45分								
教本:	参考文献: 『情報倫理』（技術評論社） ①2025年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4級対応） ②『倫理資本主義の時代』（ハヤカワ新書）															
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。															
学生へのアドバイス:	事前準備として、テキストの精読は準備しておいてください。また、ディスカッションはニュースに基づいたテーマにより行われます。常にニュースを気にしつつ、ディスカッションへは積極的に参加するようにしてください。															
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。															

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	人工知能と未来 (Artificial Intelligence and the Future)						科目分類	専門科目											
担当教員	井上 明也																		
履修条件	前提科目	なし			その他	ノートパソコンを用意すること													
授業概要：																			
本講義では、人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成AIの概要とその活用を理解した上で、どのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて理解する。																			
授業目標：																			
人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成AIの概要とその活用法を理解することにより、現実の課題への活用法とその効果を理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○		○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	シラバスの説明、人工知能AI概説 この授業の目標、実施方法、内容等について説明する				事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する			講義											
2	人工知能の歴史と論理的な思考法：人工知能の歴史と人工知能の技術を理解する上で必要となる論理的な思考法について				事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分											
3	AI技術1 機械学習の分類、基本的な考え方、評価指標等について学ぶ				事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分											
4	AI技術2 予測を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 演習60分											
5	AI技術3 分類を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 演習60分											
6	AI技術4：ニューラルネットワーク＆ディープラーニング、及び教師なし機械学習の手法と適用事例について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 演習60分											
7	AI技術5 AIツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分											
8	AI技術6 AIツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分											
9	AI技術7 生成AIの歴史と自然言語処理と関連技術の進化について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分											
10	人工知能技術の活用1 生成AI（ChatGPTと画像生成AI）の活用法を学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 演習60分											
11	人工知能技術の活用2 生成AI（ChatGPTと画像生成AI）の活用法を学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 演習60分											
12	人工知能技術の活用3 生成AI（ChatGPTと画像生成AI）の活用法を学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義30分 ディスカッション60分											
13	AI戦略の取り組み概要：国内におけるAI技術への取り組み概要とAI利活用ガイドラインについて学ぶ				事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する			プレゼン30分 ディスカッション60分											
14	人工知能のビジネス活用事例と課題1：AI技術が実装された対象のインパクトとリスク、課題について議論し、まとめる				事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する			プレゼン30分 ディスカッション60分											
15	人工知能のビジネス活用事例と課題2：各自が選定したビジネス活用事例について検討した結果をプレゼンする				事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する			講義10分 プレゼン80分											
教本：		参考文献：																	
指定しない		講義内で指示する																	
成績評価の方法、評価基準：																			
演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義他											
授業科目(英文)	人的資源管理論 I (Human Resources Management I)						科目分類	専門科目												
担当教員	沈瑛																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
本講義では事例を活用しながら、企業などの組織における人的資源管理とは何かについて考えてみる。前半は人的資源管理の基本を理解し、後半は人的資源管理の各分野を知る。																				
授業目標：																				
1. 企業の人的資源管理への関心を高める。 2. 事例研究を通して、企業が直面する人的資源管理に関する課題を知る。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション（人的資源管理論の研究対象と学び方）				事前：特になし 事後：テキストの精読			講義												
2	企業経営と人的資源管理				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
3	人的資源管理の基本的課題				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
4	人的資源管理の諸機能①				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
5	人的資源管理の諸機能②				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
6	従業員のモチベーション①				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
7	従業員のモチベーション②				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
8	ミニテスト①（前半のまとめをする）				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			テストと解説												
9	リーダーシップとは何か①				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
10	リーダーシップとは何か②				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
11	組織と従業員の関係				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
12	組織構造と職務内容①				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
13	組織構造と職務内容②				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
14	ミニテスト②（後半のまとめをする）				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			テストと解説												
15	人的資源管理の諸課題をどう見るか (企業を見るために私たちが持つべき視点を整理する)				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読			講義60分、 ディスカッション30分												
教本：																				
奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。															
中央経済社、2010年。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
講義の効果を上げるためにには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気を留めておくことが大事です。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義他																	
授業科目(英文)	人的資源管理論 II (Human Resources Management II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	沈瑛																									
履修条件	前提科目	担当教員による人的資源管理論 I を履修していること																								
その他																										
授業概要:																										
人的資源管理論 I の内容を深め、企業が抱える経営課題を整理しながら人的資源管理の問題を掘り下げる。社会の状況を踏まえつつ、人的資源管理の方向性を考えていく。																										
授業目標:																										
1. グローバリゼーションが人的資源管理に与えた影響を理解する。 2. 企業における人的資源管理の重要性を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション (①講義全体の流れ ②人的資源管理の諸分野の概略)					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義																		
2	モチベーション戦略と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
3	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
4	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
5	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
6	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
7	ミニテスト ① (前半のまとめをする)					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説																		
8	就業形態多様化と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
9	就業形態多様化と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
10	女性労働者の能力活用と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
11	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分																		
12	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分																		
13	外国人労働者の人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
14	ミニテスト ② (後半のまとめをする)					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説																		
15	全体のまとめ（人的資源管理の方向性について考える）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分																		
教本：																										
奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。																										
参考文献：																										
授業中に適宜文献を紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
講義の効果を上げるためにには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気を留めておくことが大事です。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	人的担保法 (Personal Collateral Law)						科目分類	専門科目															
担当教員	上地 一郎																						
履修条件	前提科目	法学／私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法						その他	なし														
授業概要：																							
本講義では、債権総則を中心に講義を行ないます。弁済、債務不履行、責任財産の保全といった債権総則の基本を学習したうえで、人的担保としての保証を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																							
授業目標：																							
債権総則の基本的な知識を習得し、ならびに債権の効力、人的担保とは何かについて説明できるようになること。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する			事前： 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分																
2	債権法の概要 債権法の全体像を解説し、債権法とは何かを理解する			事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
3	債権総論(1) 債権の発生原因・内容による分類、種類債権と「特定」の問題を解説し、債権についての理解を深める			事前：債権と請求権について調べる。 事後：種類債権と「特定」についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
4	債権総論(2) 債権の目的（給付内容）の法的問題を解説し、債権についての理解を深める			事前：債権の「目的」の要件について調べる。 事後：債権の「目的」の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
5	債権の効力の概要を解説し、債権についての理解を深める			事前：債権に含まれる力について調べる。 事後：債権の効力と概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
6	債務不履行(1) 債務不履行とは何かを解説し、債務不履行に対する債権の効力を理解する			事前：債務不履行の類型について調べる。 事後：履行の強制についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
7	債務不履行(2) 債務不履行と損害賠償、追完について解説する			事前：債務不履行における損害賠償について調べる。 事後：損害賠償の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
8	人的担保(1) 人的担保としての保証の概要を解説し、人的担保とは何かを理解する			事前：人的担保について調べる。 事後：現代における保証の類型についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
9	人的担保(2) 債権者と保証人の関係を中心に取り上げ、その法的関係について理解する			事前：保証契約について調べる。 事後：保証契約の成立における要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
10	人的担保(3) 保証債務と主たる債務の関係について付従性を中心に取り上げ、解説する			事前：付従性とは何かを調べる。 事後：付従性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
11	人的担保(4) 保証人と主たる債務者との関係について隨伴性・補充性の法的論点について理解する			事前：隨伴性・補充性について調べる。 事後：隨伴性・補充性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
12	人的担保(5) 保証人と主たる債務者の関係について、求償権・通知義務などを中心に解説する			事前：求償権とは何かを調べる。 事後：求償権についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
13	人的担保(6) 個人保証の規律 保証人保護の法的諸問題を解説する			事前：保証人保護の規律について調べる。 事後：保証人保護についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
14	人的担保(7) 保証の特殊形態について解説し、人的担保の理解を深める			事前：連帯保証・共同保証・根保証について調べる。 事後：保証の特殊形態についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
15	多数当事者間の債権債務関係を解説する			事前：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務を調べる。 事後：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分																
教本：		参考文献： とくになし（資料を配布します）。																					
授業中に適宜指示します。																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス：																							
法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																							
オフィスアワー：																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)					科目分類	基礎科目		
担当教員	田村 修一								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:									
はじめて心理学を学ぼうとする学生を対象に「科学としての心理学」の入門的な位置づけで授業を行う。そのため、一部の特定領域の心理学についてのみ深く掘り下げて学ぶのではなく、広い領域にわたる心理学に関する基本的な理論や知見について広く学ぶ授業としたい。授業は講義中心であるが、テーマによっては個別演習やグループワークも実施する。受講後に興味が高まり、さらに各自で深く心理学を学んでいただければ幸いである。									
授業目標:									
1 心理学の基本的な理論と知見について理解できる。 2 心理学を学んだことで、心理学的な見方や考え方を今後の日常生活や自己理解・他者理解にいかそうとする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○					○				
授業計画・事前学習・事後学習・形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 概説：心理学とはどのような学問か（歴史、研究法、研究領域）				事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
2	認知心理学① 知覚：人間の視覚の不思議				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
3	認知心理学② 記憶：なぜ、人は忘れるのか？（短期記憶と長期記憶）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 45分・ 演習 45分	
4	認知心理学③ 思考と言語：演習（グループワーク）：生き残り大作戦				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			演習 90分	
5	学習心理学① 学習理論：条件づけと観察学習				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
6	学習心理学② 動機づけ理論：やる気のメカニズム				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
7	社会心理学 印象形成と対人認知、説得的コミュニケーション、同調行動				事前：なし 事後：中間レポートの作成			講義 70分・ 演習 20分	
8	発達心理学① エリクソンの生涯発達理論				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
9	発達心理学② 社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
10	発達心理学③ 認知の発達（ピアジェの認知発達理論）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
11	発達心理学④ 青年期の発達（アイデンティティの確立）				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
12	臨床心理学① フロイトの精神分析理論				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 90分	
13	臨床心理学② 交流分析とエゴグラム				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 70分・ 演習 20分	
14	臨床心理学③ 認知行動理論（認知行動療法）				事前：なし 事後：期末レポートの作成			講義 90分	
15	臨床心理学④ 人間性心理学とポジティブ心理学				事前：なし 事後：授業の振り返りの記入			講義 75分・ 演習 15分	
教本： 「心理学入門」 板口典弘・相馬花恵 編著 講談社 2017					参考文献： (授業中に紹介する)				
成績評価の方法、評価基準：									
平常点（①心理学実験レポート、②授業の振り返りレポート）50%と定期試験（50%）の総合評価。									
学生へのアドバイス：									
心理学は、高校まで学ぶ機会が無かった学問だと思いますが、大変面白く日常生活に役立つ学問です。是非、一緒に楽しく学びましょう。									
オフィスアワー：									
初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目							
担当教員	深澤 伸幸														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
心理学概論Ⅰでは主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどの様な心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進めます。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機付け、及びリーダーシップなど、人間理解に必要となる基礎的な心理学的知識を学び、理解する。															
授業目標:															
主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
			○			○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。			事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、 ディスカッション 20分								
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、実習 30分、 PBL 20分								
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感觉器の働きを学び、感觉情報の意味を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、 PBL 20分								
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
12	リーダーシップに関する代表的な学説であるPM理論とマネジアアルグリッド理論の主張する内容を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
15	まとめ・全体を振り返る			事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、 ディスカッション 20分								

教本：	参考文献：
授業内で指示	
成績評価の方法、評価基準：	
定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	心理学基礎A (Introduction to Psychology A)						科目分類	専門科目														
担当教員	牧 裕夫																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
ドイツのライプチヒ大学に心理学研究室を設立したW.M.ヴントにより1879年から心理学の歴史が始まる。時に名探偵コナン君が「眞実は一つ」という。「生きる感覺」は多様だ。心理学の先人達は様々な魅力ある枠組みを呈示だが、その探索は尽きることはない。本講義では紀元前からの哲学の歴史には遠く届かないものの、科学という知による心理学からの人間探求の枠組みを概観しよう。																						
授業目標：																						
1. 心理学とは何か、心理学の目的、心のモデル、研究方法について理解する。 2. 心理学の基礎知識及び実践分野に加えて他職種連携の意義を学ぶ。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス －心理学の様々な三角形①（生きてる生きてく）－				事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
2	心理学の様々な三角形②（認知－行動－感情）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
3	心理学の様々な三角形③（学習心理学－認知心理学－ゲシュタルト心理学－）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
4	心理学の様々な三角形④（行動主義－精神分析－人間性心理学）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
5	心理学の様々な三角形⑤（今ここで－近い過去－遠い過去）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
6	カウンセリングだけじゃない心理学				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
7	感覚・知覚の仕組み				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
8	学習の仕組み				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
9	認知とは何か				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
10	発達心理学の基礎				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
11	教育心理学の基礎				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
12	臨床心理学の基礎				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
13	障害心理学の基礎				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
14	ダイバーシティ時代の心理学－ジェンダー、ASD等－				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
15	心理学基礎Aで開設した内容の確認と振り返り				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分															
教本：		参考文献： 授業にて適宜配布する。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等(40%)、レポート(20%)、期末テスト(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 本授業は、心の科学としての心理学を含め日々進化している魂としての実践心理学について論じる。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	心理学基礎B (Introduction to Psychology B)					科目分類	専門科目															
担当教員	牧 裕夫																					
履修条件	前提科目	心理学基礎Aを履修していること																				
	その他	なし																				
授業概要：																						
生物－心理－社会モデルはEngel, G. I.が1970年代に提唱した。現代心理学は、医学・教育・福祉・産業と組織・司法と矯正などの5大領域を中心に相談室に籠った心理学でなく、アリストテレスの時代から蓄積された生きる知見をどのようにマルチステージな今日の生活者を目指すか、対人支援に活かすか、カウンセリングだけじゃない心理学を共有したい。																						
授業目標：																						
多職種連携を求める公認心理師時代、その知見とノウハウにはカウンセラーだけじゃない心理学として企業活動をはじめ、様々な人間関係でも共通しているテーマとして展開したい。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	21世紀からの心理学（科学とどう折り合うか）				事前：シラバスの精査。 事後：シラバスの確認			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
2	自然災害と心の「ハーディネス」から「レジリエンス」へ				事前：自然災害で心を支える 事後：「レジリエンス」発想			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
3	成功体験を積み重ねて心の健康なのか？ 「自尊感情」VS「本来感」				事前：幸福感（well-being）体験は何か。 事後：「本来感」どう実現するのか。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
4	「自己実現」を実現する過程とは？				事前：今、自分らしく生きていますか。 事後：「自己実現」の為に気づいたこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
5	心理学の動向と今日の活躍の場 カウンセラーだけじゃない心理学				事前：心理学が役に立つ場面 事後：カウンセラーだけじゃない心理学			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
6	クラウド時代の企業マーケティング				事前：「クラウド」からの連想されるもの 事後：クラウドを活用した企業の試み			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
7	クラウド時代での対人支援				事前：SNS等から失ったこと 事後：Z世代をどう生きる？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
8	「見立て」としても多職種連携時代の「ケースフォーミュレーション」				事前：目的どおりに進んだ体験の報告 事後：偶然を活かす為に必要なこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
9	保健・医療領域での心理学				事前：改善してから実践への疑問 事後：スタッフ同士の立ち話の意義			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
10	福祉心理学領域での心理学				事前：福祉のお世話になるテーマは？ 事後：心理が活躍する為に何が必要か。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
11	教育領域での心理学				事前：スクールカーストの実体験 事後：多職種連携として変？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
12	犯罪・非行領域での心理学				事前：犯罪で気になるエピソードは？ 事後：なぜ、非行に走るでしょうか？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
13	産業・組織領域での心理学				事前：将来性のある会社とは？ 事後：ストレスへの対応			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
14	地域を活かす心理学				事前：地域で自分らしくいられる場所？ 事後：心理学から活躍できる場面は？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
15	この時代「君たちはどう生きるのか」…				事前：自身を受け止めるとは 事後：本授業から気づいたこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分														
教本：		参考文献： 授業で随時配布する。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
本授業は、科学としての心理学を含め日々進化している実践心理学について論じる。そこで、生活等である自分のエピソード体験と関連させての理解を各位に求めたい。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	心理学研究法 (Approaches to Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:																										
本講義では、心理学の研究法、心理学の研究論文の検索方法、論文の読み方、論文のまとめ方を学ぶ。																										
授業目標:																										
心理学研究の論文を検索し、読んで理解し、概要を記述することができるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講義																		
2	心理学における研究とは、論文検索の方法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義 50分、演習 40分																		
3	様々な心理学研究法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義																		
4	心理学論文の構成				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の構成を確認する			講義 50分、演習 40分																		
5	心理学論文の読み方				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の内容をまとめる			講義 50分、演習 40分																		
6	心理学論文内容の理解				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文を読み込む			講義 20分、グループワーク 70分																		
7	心理学論文のまとめ①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分																		
8	心理学論文のまとめ②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分																		
9	心理学論文のまとめ③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表準備			講義 20分、グループワーク 70分																		
10	発表会①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分																		
11	発表会②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分																		
12	発表会③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分																		
13	発表会④				事前：論文検索 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分																		
14	論文形成での記述方法				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文のまとめレポートを作成する			発表 20分、討論 30分、講義 40分																		
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義																		
教本:					参考文献: なし。授業中に資料を配布する。																					
					授業中に、都度紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等（50%）、レポートまたはテスト等（50%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。																										
オフィスアワー:																										
初回授業日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	心理学実験演習 (Seminar on Psychology Experiment)					科目分類	専門科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	心理学実験法、心理統計法の単位を修得していること																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
心理学実験を実施・分析・報告する力を養うことを目的とする。統計法・実験法を履修済みの学生が無理なく実践的な経験を積めるよう、ストループ効果、SD法によるイメージ測定、系列位置効果の3つの実験を中心に進める。																										
授業目標：																										
1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。 2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。 3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。 4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
2	ストループ効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
3	ストループ効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分																		
4	ストループ効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
5	ストループ効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
6	SD法によるイメージ測定：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
7	SD法によるイメージ測定：質問紙作成					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分																		
8	SD法によるイメージ測定：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
9	SD法によるイメージ測定：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
10	系列位置効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
11	系列位置効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分																		
12	系列位置効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
13	系列位置効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
14	総合演習（実験結果の考察ワークショップ）					事前：13回までの復習 事後：考察をまとめる		実習 90分																		
15	総合演習（グループ要約レポート作成とまとめ）					事前：要約作成の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分																		
教本：					参考文献：																					
使用しない。適宜、参考資料を配布。					「よくわかる心理学実験実習〔第2版〕」ミネルヴァ書房 ¥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ〔第2版〕」北樹出版 ¥2,400																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
本授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	心理学実験法 (Experimental Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	心理統計法を履修していること																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
心理学実験の基礎を体験し、知覚・潜在態度・顕在態度を実証的に学ぶ。ミュラー＝リヤー錯視、IAT、質問紙調査を通して、方法・分析・考察までを体験する。グループワークとディスカッションを交え、心理学実験の理解を深める。																										
授業目標：																										
1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。 2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。 3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。 4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
2	ミュラー＝リヤー錯視：錯視とは何か・実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 60分 実習 30分																		
3	ミュラー＝リヤー錯視：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分																		
4	ミュラー＝リヤー錯視：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
5	ミュラー＝リヤー錯視：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
6	IAT（潜在連合テスト）：実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
7	IAT（潜在連合テスト）：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分																		
8	IAT（潜在連合テスト）：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
9	IAT（潜在連合テスト）：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
10	質問紙調査：質問紙調査とは何か					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分																		
11	質問紙調査：質問紙作成					事前：資料を読む 事後：データの収集		講義 30分 実習 60分																		
12	質問紙調査：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分																		
13	質問紙調査：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分																		
14	総合演習①（3つの実験結果をまとめること）					事前：13回までの復習 事後：ポスターの作成		実習 90分																		
15	総合演習②（3つの実験結果をポスター発表する）					事前：ポスター発表の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分																		
教本：					参考文献：																					
使用しない。適宜、参考資料を配布。					「よくわかる心理学実験実習【第2版】」ミネルヴァ書房 ¥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ〈第2版〉」北樹出版 ¥2,400																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
この科目は、実験演習の基礎科目です。「心理学実験演習」、「社会心理学実験演習」を受講予定の学生は必ず履修してください。本授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	心理統計法 (Psychometrics)					科目分類	専門科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
心理学で必要な統計手法を実践的に学ぶ。前半は電卓で基礎統計を理解し、後半はPCでt検定・カイ二乗検定・回帰分析を実践する。統計の使い分けと結果の解釈力を養う。																										
授業目標：																										
1. 心理学でなぜ統計が必要なのかを説明できるようになる。 2. 心理統計に関する基礎的な知識を説明できるようになる。 3. 統計手法を目的に応じて選べるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	心理統計とは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 演習30分																		
2	代表値（平均・中央値・最頻値）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 演習30分																		
3	散布度（分散・標準偏差）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 演習30分																		
4	記述統計法					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 演習30分																		
5	標準化（Z得点）					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 演習30分																		
6	相関分析（散布図と相関係数）					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 演習30分																		
7	統計的仮説検定の基礎					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 演習30分																		
8	Excelの基本操作					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 演習30分																		
9	記述統計をPCで可視化					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 演習30分																		
10	対応のあるt検定（同じ集団の前後比較）					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 演習30分																		
11	対応のないt検定（独立した2群の比較）					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 演習30分																		
12	カイ二乗検定（カテゴリーデータの比較）					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 演習30分																		
13	回帰分析（基礎）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 演習30分																		
14	総復習と検定の使い分け					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 演習30分																		
15	まとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 演習30分																		
教本：																										
「統計嫌いのための心理統計の本」 創元社 ¥2,200																										
参考文献：																										
授業中に随時紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
統計は「慣れ」が大切です。演習を重ねて手を動かし、データを読む力を身につけましょう。難しく感じても、基礎を押さえれば必ず理解が深まります。わからないことは積極的に質問し、仲間と学び合う姿勢を大切にしてください。授業では、電卓（2回目以降）や表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコン（8回目以降）を使った計算や分析を行うので用意してください。詳細は初回授業でお伝えします。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	数学 (Mathematics)					科目分類	基礎科目		
担当教員	山本 美紀								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							

授業概要：

この授業では、数学の歴史的背景を踏まえ、さまざまな数式の作り方、また、数式と図を関連づけたグラフ（座標）の書き方について学び、解の導き方を身に付けることによって、数学的思考力の向上を目指します。さらに、線形代数におけるベクトルと行列について学び、大学数学の基礎を身に付けます。

授業目標：

- ①数列の一般項を数式で表すことができ、数列の和を求めることができる。
- ②数式と座標の関係を理解し、さまざまな関数のグラフを書くことができる。
- ③微分とは何か理解し、微分係数と導関数の計算ができる。
- ④ベクトル及び行列とは何か理解し、それらを用いた計算ができる。
- ⑤偏微分とは何か理解し、基礎的な計算ができる。

カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○1つ）

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
○	○	

授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	イントロダクション「数学」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 数と数学についての学び方を学ぶ。	事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー	アイスブレイク（15分） 講義（75分）
2	数列と素数について学ぶ。	事前：数学ノートを準備する 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） グループワーク（30分）
3	$\Sigma$ と数列の和について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
4	デカルトと関数のグラフについて学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
5	関数のグラフと方程式の解、不等式の解について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
6	ニュートンと微分法と積分法(1) 微分法について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
7	ニュートンと微分法と積分法(2) 積分法について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 小テスト（30分）
8	ピタゴラスと三角関数について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
9	オイラーと指數・対数について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
10	線形代数学(1) ベクトルについて学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
11	線形代数学(2) ベクトルの内積・外積について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
12	線形代数学(3) 行列について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
13	線形代数学(4) 行列式と逆行列について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：ミニッツペーパー	講義（60分） 演習（30分）
14	線形代数学(5) 連立一次方程式とガウスの消去法（掃き出し法）について学ぶ。	事前：出題する問い合わせ 事後：学びのマップ作成	講義（60分） 演習（30分）
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。	事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う	講義（40分） 試験（50分）

教本：

藤田岳彦、他「Primary 大学ノート よくわかる基礎数学」実教出版、2021年（第3刷）  
ISBN 978-4-407-32513-3

参考文献：

必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価の方法、評価基準：

学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、数学ノート、振り返り等）：60%、小テスト：10%、試験：30%で総合評価する。  
※学習ポートフォリオは、ループリック（評価基準）による自己評価を含む。

学生へのアドバイス：

数学ノートについて、初回講義日に説明する。

オフィスアワー：初回講義日に伝える。

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	スポーツ実技A (Physical Exercises A)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	白井 大史																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること																								
授業概要:																										
本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。																										
授業目標:																										
近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。																										
また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						◎																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
2	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
3	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
4	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
5	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
6	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
7	ソフトボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
8	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
9	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
10	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
11	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
12	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
13	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
14	バドミントンⅣ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
教本：		参考文献：																								
特になし		特になし																								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	スポーツ実技A (Physical Exercises A)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	小林 夕紀恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること																								
授業概要:																										
本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。																										
授業目標:																										
近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。																										
また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						◎																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
2	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
3	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
4	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
5	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
6	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
7	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
8	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
9	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
10	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
11	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
12	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
13	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
14	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
教本：			参考文献：																							
特になし			特になし																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習											
授業科目(英文)	スポーツ実技B (Physical Exercises B)						科目分類	基礎科目												
担当教員	白井 大史																			
履修条件	前提科目	なし			その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること														
授業概要：																				
本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バスケットボール、バレーボール、サッカー、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。																				
授業目標：																				
近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。																				
また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○			○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
2	フットサルⅠ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
3	フットサルⅡ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
4	サッカーⅠ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
5	サッカーⅡ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
6	サッカーⅢ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
7	バスケットボールⅠ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
8	バスケットボールⅡ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
9	バスケットボールⅢ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
10	バスケットボールⅣ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
11	バレーⅠ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
12	バレーⅡ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
13	バレーⅢ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
14	バレーⅣ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
15	本講のまとめ				事前：なし 事後：なし		実技 90分													
教本：		参考文献：																		
特になし		特になし																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。																				
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	スポーツ実技B (Physical Exercises B)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	小林 夕紀恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること																								
授業概要:																										
本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バレーボール、バスケットボール、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。																										
授業目標:																										
近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。																										
また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						◎																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
2	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
3	卓球					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
4	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
5	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
6	バレーボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
7	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
8	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
9	フットサルⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
10	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
11	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
12	バスケットボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
13	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
14	レクリエーションスポーツⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分																		
教本：			参考文献：																							
特になし			特になし																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	スポーツ論 (Health and Sports Education)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	小林 夕紀恵																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
「健康である」ということは、生涯において深く関わることであり、充実した生活を送るための基盤となっていることである。本講は、「健康づくりのためのスポーツ」または「スポーツを介した健康づくり」について学び、自らの健康について考え、より豊かな生活を送るための知識や方法を身につけることを目的としている。																										
授業目標：																										
現代社会の生活の中において適度にスポーツ習慣を持つことは、ストレス発散や健康維持・増進につながり「心身の健康」に大きく寄与する。「健康スポーツ」の成立の背景及びその発展の経緯を教示し、自発的にスポーツに取り組むための知識や方法、これからの健康維持・増進に不可欠とされる基礎理論を学習することを目標としている。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義																		
2	体育からスポーツへ					事前：なし 事後：なし		講義																		
3	スポーツの意義と役割					事前：なし 事後：なし		講義																		
4	生涯スポーツと健康①（健康観の変遷、健康の現状と課題）					事前：なし 事後：なし		講義																		
5	生涯スポーツと健康②（メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームとは）					事前：なし 事後：なし		講義																		
6	生涯スポーツと健康③（体力について）					事前：なし 事後：なし		講義																		
7	生活習慣病について					事前：なし 事後：なし		講義																		
8	救急法について					事前：なし 事後：なし		講義																		
9	休養とは（ストレスと健康）					事前：なし 事後：なし		講義																		
10	スポーツと栄養					事前：なし 事後：なし		講義																		
11	スポーツマネジメント					事前：なし 事後：なし		講義																		
12	スポーツの心理					事前：なし 事後：なし		講義																		
13	スポーツのデータ収集・分析①					事前：なし 事後：なし		講義																		
14	スポーツのデータ収集・分析②					事前：なし 事後：なし		講義																		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義																		
教本： 適宜資料配付			参考文献： 必要時に提示する。																							
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（20%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
遅刻は絶対しないこと。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	性格心理学 (Personality Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	牧 裕夫																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
私達が体験している「こころ」の中で様々な感情がうごめいている。そこに個人差を求める性格心理学がある。個々がどのような枠組みをもって自身の「こころ」に思いをよせるか、性格心理学ではコナン君のように「答えは一つ」ではなく様々な可能性を学ぶ。																										
授業目標：																										
1. 自身や他者に思いを寄せる様々な可能性に関心をもてること 2. 「答えが一つ」でないことから様々な可能性に開かれている体験となることを期待したい。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーション（人間ならでは探究、「性格」と「人格」の差異、それぞれの方向性）生まれつき or 生後の体験から？				事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
2	「魂」から「心」への展開（S.フロイトの展開と心の成り立ち）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
3	今日の性格探究への端緒（20世紀初頭のウィーンでの後の巨匠たち S.フロイトから離反した A.アドラーと C.G.ユング）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
4	深層心理（無意識）をめぐる三巨匠の対立、冰山のようなゴツゴツな心のカタチに批判からユング、アドラーの展開。				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
5	アート作品にみる C.G.ユングの集合的無意識の展開（ジブリ作品を彷彿させる元型論からの性格）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
6	C.G.ユングのタイプ論、ライフサイクル論の展開				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
7	A.アドラーの目的論、器官劣等説（そもそもネガティブな性格でもどう生きるか、乗り越えるかが自己実現と関わる）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
8	性格の分類への心理学理論（基本的な枠組み特性論・類型論）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
9	性格心理学の展開（古典的な理論の凄み）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
10	特性論・類型論それぞれから発展した性格検査				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
11	性格理論の今日（最新のパーソナリティ理論最近の心理学研究動向）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
12	性格理論の今日（ビック・ファイブ、クロニンジャーの7因子）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
13	性格検査の体験（質問紙法・エゴグラム等）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
14	性格検査の体験（投映法・コラージュ作品等）				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
15	まとめ：なぜか蚊に刺されやすいO型、血液型は性格に関連するのか…ユングタイプ論のMBTIが求めるものは？				事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																			
教本：		参考文献： 授業で随時配布する。																								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等 (30%)、小レポート等 (30%)、学期末テスト (40%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
本授業では、特に性格の成り立ちとして発達的、力動的な視座を重視した。自己理解にも資すると期待している。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目							
担当教員	末次 俊之														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要:	<p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんのか、これを問い合わせているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。</p>														
授業目標:	<p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。</p>														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td>思考力・判断力・表現力の育成</td><td>学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td></td><td>○</td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態								
1	オリエンテーション: 講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことをお話します。				事前: 特になし 事後: 配布物復習		講義と対話								
2	「政治」とは何か: 「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
3	国家: 国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
4	政治体制: 政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
5	政治制度と政治過程: 政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
6	公共政策: 政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
7	中間テスト: 前半の復習を行います。				事前: 前半の復習 事後: テスト復習		テスト、 フィードバック								
8	議会: 政治過程での議会と行政との関係を中心にお話します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
9	政党: 政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
10	利益団体: 政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
11	選挙制度: 政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
12	投票: 人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
13	マスメディア: マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすか考えます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
14	国際関係: 国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
15	総括				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分								
教本:	<p>参考文献: 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>														
	<p>久米、川出、古城、田中、真渕著『政治学 補訂版』(有斐閣、2011年) ¥3,400を推薦します。</p>														
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。</p>														
学生へのアドバイス:	<p>近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。</p>														
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>														

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目						
担当教員	高橋 敏哉													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問い合わせにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。													
授業目標:	1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身につける。													
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）	知識・技能の習得 ○ 思考力・判断力・表現力の育成 ○ 学びに向かう力・人間性の涵養 ○													
授業計画・事前学習・事後学習、形式														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態						
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治と政治過程というものについてわかりやすくお話しします。				事前：特になし 事後：ハンドアウト復習			講義と対話						
2	民主主義と政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
3	市民革命と民主主義：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
4	民主主義と現代の政治体制：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
5	権力分立と行政と立法：権力分立の形と背景を学び、行政と立法の意味と関係について概略します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
6	選挙：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
7	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			テストとフィードバック、対話						
8	政党：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
9	利益団体：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
10	大衆社会、ネット社会と民主主義：大衆社会での民主主義の姿とネット時代でのその変化について学んでいきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
11	大衆社会と選挙：大衆社会での選挙行動について、その理論の系譜を追なながら考えていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
12	国家と権力：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介します。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
13	民主主義と寛容さ：自由な民主主義にとって不可欠な寛容さの問題を、政治学の歴史を背景に学んでいきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			テストとフィードバック、対話						
15	政治とは何を目指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方と一緒に考えていきます。				事前：指定教材学習 事後：配布物精読			講義 60分 ディスカッション 30分						
教本：	参考文献： 毎回ハンドアウト（配布資料）を配ります。それに従って講義を進めます。													
成績評価の方法、評価基準：	授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。													
学生へのアドバイス：	18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみて下さい。													
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	政治学 (Politics)					科目分類	基礎科目					
担当教員	三枝 昌幸											
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:	本講義では政治とはどのような営みであるかを学習する。最初に政治の basic concept や歴史、具体的な政治制度について解説し、それらの知識を踏まえつつ政治や政治学が直面している具体的な課題を検討していく。											
授業目標:	1. 政治学の基礎知識を習得すること。 2. 現代の政治や政治学が直面している問題について自身の見解を説明できるようになること。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養								
○	○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	政治とは何かについて様々な見解を検討する。政治の意義について検討する。					事前:シラバスの熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
2	権力分立の理念やその具体的な仕組みについて学習する。権力分立の意義や課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
3	国民主権の理念やその具体的な仕組みについて学習する。国民主権の意義や課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
4	明治維新から第二次世界大戦終結までの日本政治史を学習する。戦前の日本政治の課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
5	第二次世界大戦後の日本政治史を学習する。戦後の日本政治の課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
6	国の政治制度のうち立法機関について学習する。立法過程に関する具体的な問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
7	国の政治制度のうち行政機関について学習する。行政過程に関する具体的な問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
8	地方自治の仕組みについて学習する。地方自治に関する具体的な問題を検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
9	世界各国の政治制度について学習する。各国の政治制度の長所と短所について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
10	選挙制度について学習する。現行選挙制度の長所と短所について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
11	政党制度について学習する。現代日本の抱える政党制度の課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
12	世論と政治の関係について学習する。政治の分野でマスメディアが果たすべき役割について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
13	国際政治の仕組みについて学習する。現代の国際政治が直面している課題について検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
14	国際紛争について学習する。これから政治や政治学が国際紛争にどのように対処すべきか検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
15	環境問題について学習する。これから政治や政治学が環境問題にどのように対処すべきか検討する。					事前:配布資料の熟読 事後:授業内容のまとめ	講義 70分、演習 20分					
教本:	参考文献: 使用しない(レジュメを配布する)。											
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(50%)、試験(50%)等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	日頃からニュースを確認して政治に関する情報を収集しておくこと。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	成人・老年期の心理 (Psychology of Adults and Elderly)						科目分類	専門科目												
担当教員	荒木 光																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
成人期から老年期にかけての発達と心理的变化を学ぶ。加齢に伴う認知・運動機能の変化やパーソナリティの発達、人間関係やキャリアの特徴を理解し、老年期の心理的課題についての知識を深める。																				
授業目標：																				
1. 成人・老年期における発達課題と心理的变化を理解し、主要な理論や概念を説明できるようになる。 2. 成人・老年期の多様なライフイベントや社会的関係について、自分の意見を述べられるようになる。 3. 成人・老年期の心理的課題に対して共感的な視点を持ち、コミュニケーションの在り方を考えられるようになる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
			○			○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	成人・老年期の心理とは？				事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）			講義60分 討議30分												
2	成人期の発達課題とアイデンティティ				事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）			講義60分 討議30分												
3	ライフイベントと心理的適応				事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）			講義60分 討議30分												
4	中年期の危機（ミッドライフ・クライシス）				事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）			講義60分 討議30分												
5	親子関係と中年期の心理				事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）			講義60分 討議30分												
6	仕事とキャリアの心理学				事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）			講義60分 討議30分												
7	パートナーシップと愛情関係の変化				事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）			講義60分 討議30分												
8	老年期の発達課題と幸福感				事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）			講義60分 討議30分												
9	記憶と加齢（認知機能の変化）				事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）			講義60分 討議30分												
10	老年期の社会的つながりと孤独				事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）			講義60分 討議30分												
11	ロールモデルとしての高齢者像				事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）			講義60分 討議30分												
12	喪失とグリーフ（悲嘆）の心理学				事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）			講義60分 討議30分												
13	健康とメンタルヘルス（成人・老年期のこころと身体）				事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）			講義60分 討議30分												
14	高齢者とのコミュニケーションのコツ				事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）			講義60分 討議30分												
15	成人・老年期の心理のまとめ				事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）			講義60分 討議30分												
教本：					参考文献： 「発達心理学15講」 北大路書房 ¥2,200															
使用しない。適宜、参考資料を配布。																				
成績評価の方法、評価基準：																				
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
発達や加齢の影響を学ぶだけでなく、支援を必要とする人々の立場に立って考え、実践的な視点を持つとともに、自身の将来を見通す意識を持って授業に参加することを期待します。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	青年期の心理 (Psychology of Adolescent Age)						科目分類	専門科目															
担当教員	牧 裕夫																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要：																							
スタジオジブリ作品『ハウルの動く城』その魔法使いハウルが住む城は青年期の姿そのものだ。大砲の攻撃性、大きな口は貪欲さ、心への入口は小さい。特に最大の特徴はなんと「動く城」なのだ。映画作品としてではなく心理学からその姿を読み取ってゆきたい。																							
授業目標：																							
①米国の心理学者スタンレー・ホールによれば青年期は「疾風怒濤」という。青年期での心理学的な展開に关心を深める。 ②青年期以前とそれ以降のライフステージへの意義へ『君たちはどう生きるか』自身にさらに問う契機となることを期待する。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○						○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																
1	オリエンテーション導入 『ハウルの動く城』にみる青年期			事前：シラバスの精査 事後：自身と対比し、まとめる。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
2	発達と青年期（期での共同注意と共感：M.トマセロ・九ヵ月革命、砂場から社会へ…）			事前：幼少期の体験と今に关心をもつ。 事後：幼少期での砂場体験との関連を			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
3	発達と青年期 (最早期での二者関係：S.フロイト、M.クライン)			事前：幼少期での親との関連 事後：振り返った内容をまとめる。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
4	発達と青年期（分離・個体化理論：M.マーラー、P.プロス）			事前：母と子で公園デビューな体験から 事後：安心・信頼感の所在を確認する。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
5	生涯発達と青年期（アイデンティティ：E.エリクソン）			事前：自分らしさを気に入っているのか 事後：今後の人生で味わいへの創造			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
6	生涯発達と青年期 (A.アドラー、C.ユングでの自己実現)			事前：変えてみたい行動パターンは 事後：アドラー、ユングどちらお好き			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
7	青年期の中一ギャップからの友人関係の形成 （「大人に愛される」から「友達にどう思われるか」）			事前：中学生での大人になることの体験 事後：中・高校体験の自身振り返る。			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
8	青年期と学校（不登校にみる青年期の心性）			事前：学校に通うことを支えていた体験 事後：長期化する不登校の背景			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
9	青年期と学校（いじめ・虐待等での心性）			事前：「いじめ」受けた者への思いを想像 事後：ロシアンルーレットとの関連			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
10	社会に出て行くということ（ニート・ひきこもりの心性と対応）			事前：大学に行きたくないにある思い 事後：「ひきこもり」をどう受け止める			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
11	青年期と仲間関係 (ギャングエイジ➡チャムグループ➡ピアグループへ)			事前：ガングロとう現象を理解 事後：仲間体験と今の自身の関連			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
12	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・100年時代)			事前：人生100年時代の青年期 事後：改めて社会参加の在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
13	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・ダイバーシティ時代)			事前：性別・ジェンダーへの理解 事後：多様性としての自身の在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
14	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・「出会い」とは…)			事前：今に至った「出会い」とは何か。 事後：青年期での「出会い」とその未来			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
15	青年期であること（であったこと）への気づき・考えしたこと			事前：「生きている、生きてく」に思う 事後：受講者を動かしたアートシーン			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分																
教本：		参考文献： 授業で随時配布する。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、期末テスト（40%）で総合評価する。																							
学生へのアドバイス： 『ハウルの動く城』を鑑賞しよう。アートシーンから心理学の繋がりを楽しめる契機となることを期待する。																							
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	生物学 (Biology)						科目分類	基礎科目														
担当教員	橋詰 二三夫																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
生物学は、生命現象を対象として異なる生命体に共通する部分と共通しない部分の識別・追求から始まり、発展してきた。内容は分子レベルにまで達しているが、詳細（ミクロ）追求のみでは、全体像（マクロ）を見失う場合もあるので、両者のバランスを保ちつつ認識を培う。なお、授業は板書で行い、必要に応じて資料を配布し、パワーポイントなどで説明する。																						
授業目標:																						
1. 生命現象から、発生、環境応答、生態、進化に至る生物の基本的事項が理解できる。 2. 教養として役立つと思われる生物学的基礎知識を習得できる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス：生物に関するこれまでの学習履歴の確認				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
2	細胞：核、細胞膜、真核生物、原核生物、微生物などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
3	酵素：タンパク質、基質、温度、pH、補酵素などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
4	呼吸：ミトコンドリア、ATPなどについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
5	光合成：クロロフィル、明反応、暗反応、光補償点、光飽和点などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
6	遺伝 ①：体細胞分裂、DNA、複製、転写、翻訳などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
7	遺伝 ②：減数分裂、優性の法則、分離の法則、独立の法則、組換え価などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
8	遺伝 ③：突然変異などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
9	発生：胚の発生過程、内胚葉、中胚葉、外胚葉などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
10	恒常性：自律神経、ホルモンなどについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
11	生体防御：白血球、免疫などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
12	植物：発芽、成長、開花、結実、植物ホルモンなどについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
13	個体群：生物群集、植生、共生、なわばり、ニッチなどについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
14	生態系：物質循環、生産者、消費者、分解者、環境などについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
15	進化：系統、分類、種、生活環、ドメインなどについて				事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ			講義 90 分														
教本：		参考文献：																				
視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修 数研出版		なし																				
￥1,243																						
成績評価の方法、評価基準：																						
本年度からの担当のため、状況により変更もありうるが、授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																						
授業中の私語、スマートフォン操作は厳禁																						
学生へのアドバイス：																						
範囲は広いものの、難易度は低めに設定。																						
オフィスアワー：																						
講義終了後、講義室ないし講師室で対応																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	相談援助 (Consultation Assistance)						科目分類	専門科目														
担当教員	石橋 優子																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
社会福祉専門職としての「相談援助」を理解し、保育士に求められているソーシャルワークとしての相談援助を学ぶ。そして、相談援助の方法と技術を具体的に展開する方法を事例や演習を通して学ぶ。																						
授業目標:																						
保育士が行う「相談援助」の知識と技術を理解し、習得したうえでの実践であることが求められる。この科目を通して相談援助の概要を理解しつつ、「保育士による相談援助」のための知識と技術の獲得を目標としている。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	オリエンテーション 相談援助の概要を説明する。 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解する。				事前：シラバスの確認をする 事後：相談援助の概要をまとめること			講義 60分、概要のまとめ 30分														
2	相談援助の意義と機能 相談援助が重要とされる根拠や背景について理解する。				事前：相談援助の背景を調べる 事後：社会状況をまとめること			講義 60分、調査 30分														
3	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとしての相談援助の特徴について理解する				事前：ソーシャルワークの下読み 事後：相談援助の特徴をまとめること			講義 60分、事例検討 30分														
4	相談援助のための基本技術 厚木市療育相談センターについて事前調査し、療育の基本を学ぶ				事前：療育について予習 事後：質問事項をまとめること			講義 60分、事前調査 30分														
5	厚木市療育相談センターの視察研究 子どもの療育の相談について実際に視察する。				事前：職員への質問の整理 事後：レポートにまとめること			視察研修 90分														
6	療育相談センター内での相談状況や環境の口頭発表 レポートにまとめ発表をする。				事前：研修の意義やまとめ 事後：他の学生の発表を聞く			口頭発表 60分、レポート 30分														
7	相談援助の方法と技術 相談援助の利用者が抱える内容や、援助課題などを理解する				事前：相談援助の技術を予習 事後：援助課題をまとめること			講義 60分、事例検討 30分														
8	相談援助のための実践アプローチ 相談援助における実用的な実践アプローチを理解する。				事前：援助の態度などを考える 事後：話し合ったことをまとめること			講義 60分、事例検討 30分														
9	相談援助の演習 事例に基づいて皆で討論し、発表する。				事前：援助者の心構えを考える 事後：他の人の意見をまとめること			講義 30分、事例検討 30分、発表 30分														
10	相談援助の具体的展開 計画、記録、評価の方法や必要な事柄について検討する。				事前：相談者の気持ちを考える 事後：事例のまとめ			講義 30分、事例検討 30分、発表 30分														
11	専門機関との連携 専門機関や専門職等の連携について学ぶ				事前：専門機関の下調べをする 事後：保育士と協働する社会資源			講義 60分、調査 30分														
12	社会資源の活用、調整、開発 様々な社会資源について調べ、発表してみる。				事前：社会資源について考える 事後：口頭発表の反省			講義 30分、検討 30分、発表 30分														
13	虐待の予防と対応に関する事例分析 虐待のケース発見からアウトーチまででの課程を理解する。				事前：虐待の定義を予習 事後：児童虐待の過課程をまとめること			講義 60分、事例分析 30分														
14	障害のある子どもとその保護者への支援に関する事例分析 事例を通して援助者としての対応を身に付ける。				事前：障害のあることを理解 事後：事例のまとめをする			講義 60分、事例検討 30分														
15	ロールプレイ、フィールドワークなどによる事例分析とまとめ 事例を基に援助場面を体験して学びを深める。				事前：今までの事例を見直す 事後：事例をまとめ、振り返る			講義 30分、事例分析 30分、まとめ 30分														
教本:		参考文献: 相談援助 保育相談支援 著者: 笠師千恵、小林明子 発行所: 中山書店 ¥2,500																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
事例検討や演習問題、調査後の口頭発表となるべく学生の参加型の授業にする。積極的に参加してほしい。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習							
授業科目(英文)	造形で遊ぶ(造形表現)(Playing with Art)					科目分類	専門科目									
担当教員	小野 和															
履修条件	前提科目	なし			その他	なし										
授業概要:																
これまでに学んだ造形表現のための知識と技能を基礎とし、領域「表現」のねらいや内容に沿った、保育の造形活動について考える。幼児の発達に応じた、課題の設定、教材の選択、画材や道具の使い方を確認するとともに、環境構成についても考え、課題設定や教材研究、指導計画の立案と展開、保育活動の実践を想定した授業を行う。																
授業目標:																
これまでに学んだ子どもの表現力をはぐくむための知識を基礎として、保育の全体構造に基づいて、子どもの造形的な表現について理解を深め、発達過程に即した教育への知見を深める。																
この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○			○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式																
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1	ガイダンス『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』と図画工作・造形表現の意義について検討する。				事前:各自の造形経験を考える。 事後:配布資料を読む。			講義60分、ディスカッション30分								
2	子どもの造形表現の発達の道筋や特徴について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義60分、ディスカッション30分								
3	遊びと造形について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
4	図画工作の内容「表現(1)」と造形遊びについて検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
5	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す (1)発想と表現について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
6	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す (2)材料と表現について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
7	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す: 用具と表現について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
8	図画工作の内容「鑑賞」と鑑賞教材について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
9	造形で遊ぶ(1)素材とイメージについて検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
10	造形で遊ぶ(2)色や形からの表現について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
11	造形で遊ぶ(3)共同の取り組みについて検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
12	現代的教育課題と造形・図画工作(1) 多様なニーズへの対応について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
13	現代的教育課題と造形・図画工作(2) 保育所・こども園・幼稚園・小学校の連携について検討する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
14	作品・資料集を作成する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、グループワーク60分								
15	総合レポートを作成する。				事前:配布資料を読む。 事後:授業の内容を整理する。			講義30分、ディスカッション60分								
教本:																
『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省、日本文教出版、¥100+税					参考文献: 『造形表現が深まるヒント』平田智久・小野和監修、ひかりのくに、¥1,800+税 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、¥240+税 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』平田智久・小野和編著、教育情報出版、¥1,905+税 『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、¥350+税 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、¥320+税											
成績評価の方法、評価基準:																
授業内容への参加状況・授業態度等(50%)、課題作品・レポート等(50%)で総合評価する。																
学生へのアドバイス:																
個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。																
オフィスアワー:																
初回講義日に伝える。																

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	造形表現 (Modeling Expression)						科目分類	専門科目														
担当教員	小野 和																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
領域「表現」のねらい及び内容について、造形表現の視点から幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について理解を深める。さらに、造形表現の視点から幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識や技能、表現力を身に付ける。																						
授業目標：																						
造形表現の視点から、幼児の表現の姿や、発達を理解する。造形表現の基礎的な知識や技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	領域「表現」における造形表現とは				事前：造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。			講義 60分、 ディスカッション 30分														
2	幼児の遊びや生活における造形表現…映像により理解を深める				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 60分、 ディスカッション 30分														
3	造形表現が生成する過程…記録				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
4	幼児の表現への気づきと共感…記録の検討				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
5	多様な造形表現の研究(1) イメージ				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
6	多様な造形表現の研究(2) 素材の特性				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
7	多様な造形表現の研究(3) 表現の楽しさを生み出す要因				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
8	多様な造形表現の研究(4) 「共感」…撮影・記録				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
9	多様な造形表現の研究(5) 「想像」・「創造」…撮影・振り返り				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
10	多様な造形表現の研究(6) 豊かな感性と造形表現				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
11	多様な造形表現の研究(7) 思考力の芽生え				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
12	多様な造形表現の研究(8) 「構造」				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
13	多様な造形表現の研究(9) 「協同」				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
14	多様な造形表現の研究(10) 異年齢とのかかわり、小学校との連携				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
15	多様な造形表現の研究(11) 総合的な造形表現				事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。			講義 30分、 ディスカッション 60分														
教本：		参考文献：																				
・「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) ￥164		・「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) ￥164																				
・「幼保連携認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府) ￥164		・「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」(教育情報出版) ￥2,095																				
・「<感じること>からはじまる 子どもの造形表現」(教育情報出版) ￥2,200		・「0歳児～5歳児みんないきいき絵の具で描こう！」(株式会社サクラクレパス出版部) ￥2,090																				
・「造形表現が深まるヒント」(ひかりのくに) ￥1,980																						
成績評価の方法、評価基準：授業への参加姿勢、課題作品やレポートの内容等により総合的に評価する。																						
1. 受講者全員から作品・レポートの提出を求め、内容を成績評価に考慮する (70%)																						
2. 授業態度、質疑応答、授業への参加度を成績評価に考慮する (30%)																						
学生へのアドバイス：																						
子どもと造形表現について意欲的に学び、造形表現の楽しさや喜びを体験し、知識や技能を習得することを期待する。個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	総合セミ I (Comprehensive Seminar I)						科目分類	専門科目													
担当教員	川口 修、小林 克、仲 伯維																				
履修条件	前提科目	基礎科目全般			その他	なし															
<p>授業概要：</p> <p>少人数のクラスを編成し、担当教員の指導のもとで、コミュニケーション・スキル、自己管理力、就職力、チームワーク、リーダーシップの向上を図る。講義方式による指導ではなく、課題を与え学生自らがそれを解き、教員と学生相互の討議によるフォローアップによるレベルアップを図る方式で進める。</p> <p>以下の「授業内容及び計画」は一応の目安であり、具体的な実施内容は各担当教員の指導に基づく。履修者は初回講義に必ず出席する事（欠席した場合には履修を認めない）。</p>																					
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：到達目標：社会人としての基礎能力の習得</p> <p>テーマ：「学士力」に関連したコミュニケーション・スキル、自己管理力、就職力、チームワーク、リーダーシップなど演習を通じて習得できるスキルや態度を学ぶ。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	◎							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	◎																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	コミュニケーション・スキル（読み）				事前：なし 事後：なし			演習													
2	コミュニケーション・スキル（読み）				事前：なし 事後：なし			演習													
3	コミュニケーション・スキル（書き）				事前：なし 事後：なし			演習													
4	コミュニケーション・スキル（書き）				事前：なし 事後：なし			演習													
5	コミュニケーション・スキル（聴き）				事前：なし 事後：なし			演習													
6	コミュニケーション・スキル（聴き）				事前：なし 事後：なし			演習													
7	コミュニケーション・スキル（話す）				事前：なし 事後：なし			演習													
8	コミュニケーション・スキル（話す）				事前：なし 事後：なし			演習													
9	コミュニケーション・スキル（話す）				事前：なし 事後：なし			演習													
10	自己管理力（目標カード）				事前：なし 事後：なし			演習													
11	自己管理力（目標カード）				事前：なし 事後：なし			演習													
12	自己管理力（TODOリスト）				事前：なし 事後：なし			演習													
13	自己管理力（TODOリスト）				事前：なし 事後：なし			演習													
14	自己管理力（セルフコントロール）				事前：なし 事後：なし			演習													
15	前期まとめ				事前：なし 事後：なし			演習													

16	ガイダンス	事前：なし 事後：なし	演習
17	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
18	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
19	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
20	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
21	面接	事前：なし 事後：なし	演習
22	面接	事前：なし 事後：なし	演習
23	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
24	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
25	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
26	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
27	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
28	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
29	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 必要とする教材をその都度準備・提供する。		参考文献： 各教員が指定する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題・レポートの提出状況、討議への参加・発言内容などを総合的に判断して評価する。			
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻は認めない。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習																		
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ (Comprehensive Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目																				
担当教員	伊藤 幹彦			前提科目	なし	その他	なし																				
授業概要:	<p>学術論文としての卒業論文が執筆できるように、論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）について説明し、自己肯定感と自己効力感を高め、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）によって、人格形成（モラルの向上）をさせ、人間力（力強く生きていくための力）を養成する。「主体的な学び」への意識の転換を図り、論理的思考力と論文執筆力を身につけさせる。自己肯定感と自己効力感を高め、この授業では、私伊藤幹彦の台湾居住16年（私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授）の経験から得た台湾における実際の生きる力（儒教思想でいう人徳者になること）も説明する。</p>																										
授業目標:	<p>卒業論文を完成させること。1. 論理学（論理的思考力、「論証」「論拠」「前提」「根拠」「結論」「演繹的論証」「帰納的論証」「単純論証」「結合論証」「合流論証」）の修得。2. 論文執筆力（論文とは何か、論文の構成〈序論、本論、結論〉、研究テーマの決定、文献や資料の収集、論文の構想、文献や資料の探し方、図書館活用、文献や資料の分析、注のつけ方、参考文献の書き方）の修得。3. 自己肯定感（自分は今までばらしいという思考）と自己効力感（自分はできるというプラス思考、信念+努力=成功と考え、自分の目標は必ず達成できることと考えること）向上、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。勉学意欲（プラス思考）の修得。以上の1. 2. 3. を基礎とし、卒論を完成させる。</p>																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td colspan="2">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td colspan="2">○</td> <td colspan="6" rowspan="2"></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養						○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																								
○	○																										
授業計画、事前学習・事後学習、形式																											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																				
1	総合ゼミⅡの授業内容の説明（論理学と論文執筆力と自己効力感）をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：総合ゼミⅡの下読みをする。 事後：総合ゼミⅡのポイントを書く。			講義説明 60分（含む口頭Q&A、アンケート）。自己紹介 30分。																				
2	論理学（論理的思考力）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：論理学の下読みをする。 事後：論理学のポイントを書く。			講義説明 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。																				
3	論文執筆力（論文の書き方）(1)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。			講義説明 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。																				
4	論文執筆力（論文の書き方）(2)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。			講義説明 60分。口頭Q&A 30分。																				
5	論文執筆力（論文の書き方）(3)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：論文執筆力の下読みをする。 事後：論文執筆力のポイントを書く。			講義説明 60分。口頭Q&A 30分。																				
6	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(1) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
7	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(2) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
8	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(3) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
9	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(4) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
10	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(5) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
11	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(6) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
12	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(7) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
13	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(8) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
14	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(9) 口頭Q&Aをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 30分。																				
15	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(10) 口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。			卒論指導 60分。口頭Q&A 20分。 アンケート 10分。																				

16	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(11) 口頭Q&Aをする。アンケートをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A20分。 アンケート10分。		
17	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(12) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
18	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(13) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
19	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(14) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
20	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(15) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
21	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(16) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
22	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(17) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
23	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(18) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
24	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(19) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
25	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(20) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
26	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(21) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
27	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(22) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
28	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(23) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
29	卒論指導（学生が家で執筆してきた卒業論文を指導教授伊藤幹彦先生に見せ、直してもらう）(24) 口頭Q&Aをする。	事前：家で卒業論文を執筆する。 事後：家で卒業論文を修正する。	卒論指導60分。口頭Q&A30分。		
30	総合ゼミⅡのまとめをする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。卒論を大学に提出する。	事前：総合ゼミⅡの準備をする。 事後：総合ゼミⅡのまとめをする。	講義説明60分（含む口頭Q&A、アンケート）。練習問題30分。		
教本： プリントを配布する。		参考文献： 戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』、日本放送出版協会、2012年、¥1,320。 福澤一吉、『論理的思考—最高の教科書』、SBクリエイティブ、2017年、¥1,100。 S・トゥールミン著、戸田山和久・福澤一吉訳、『議論の技法—トゥールミンモデルの原点』、東京図書、2011年、¥3,520。			
成績評価の方法、評価基準： 卒業論文（40%）。授業態度やアクティブラーニングや課題への参加や授業への寄与度などの平常点（60%）。					
学生へのアドバイス： 私伊藤幹彦は基礎ゼミの授業を通して学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、勉強は必ずできるようになる」と自己肯定感とファシリテーションで学生の皆さんのがんばりを引き出し、成績を高める。頭脳の知性（総合ゼミⅡの専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。儒教思想でいう人徳者になることも説明する。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ (Comprehensive Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	沈瑛、金澤秀嗣																									
履修条件	前提科目	文化人類学、社会学、哲学、伝統文化、経済学、地理、歴史など																								
	その他	なし																								
<b>授業概要 :</b> 担当教員の指導のもとで、多方面の研究活動を行います。総合ゼミⅠの延長上にあるため、各担当教員の指示を受けて下さい。																										
<b>授業目標 :</b> テーマを立て、それに基づいて調査し、データを集め、報告書完成に至る。これから皆さんに対して、生起する様々な問題などに対して、自身の考えをもって対応できるようにすることが目標です。報告書の完成にいたるプロセスも大切な学習機会であり、自身の希望に向けての思考を確立する方法です。 (※論文の執筆もできます。)																										
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	◎											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
	○	◎																								
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	各自の興味・関心事からテーマのガイドラインを策定				事前：地域社会を考える 事後：テーマについて考える			ゼミナール																		
2	テーマを確定する				事前：テーマについて考える 事後：地域を絞り込む			ゼミナール																		
3	それぞれの地域社会に関する文献収集				事前：図書館や資料館の検索 事後：収集作業			ゼミナール																		
4	それぞれの地域社会に関する文献収集				事前：収集作業 事後：収集作業			ゼミナール																		
5	地域社会に関する調査方法の考察（観察、インタビューなど）				事前：収集作業 事後：収集検討			ゼミナール																		
6	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
7	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
8	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
9	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
10	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
11	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
12	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
13	調査・研究				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
14	調査・研究の中間報告				事前：調査・研究 事後：調査・研究			ゼミナール																		
15	調査の結果、進捗の再検討				事前：調査・研究 事後：夏休み、後期への展望			ゼミナール																		

16	後期の見通し、継続か方向転換を再検討します	事前：報告 事後：再検討	ゼミナール
17	研究方法の再検討	事前：再検討 事後：各自の事情により異なる	ゼミナール
18	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
19	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
20	調査・研究と報告書の再検討	事前：調査・研究 事後：テーマ決め	ゼミナール
21	報告書のレジュメ作成	事前：大きなまとめ 事後：レジュメ作成	ゼミナール
22	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：レジュメ作成	ゼミナール
23	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：本文原案	ゼミナール
24	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
25	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
26	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
27	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
28	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
29	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
30	報告書完成	事前：報告書作成 事後：報告書完成	ゼミナール
教本：		参考文献： その時々で指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： じっとしているのが苦手な方、歓迎します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	相続法 (Inheritance Law)					科目分類	専門科目												
担当教員	上地 一郎																		
履修条件	前提科目	私法学 I / 私法学 II / 物権法 / 家族法			その他	なし													
授業概要:																			
本講義では、民法第五編相続を中心に講義を行ないます。相続法の法定原則、共同相続、遺言、遺贈、遺留分減殺請求権を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																			
授業目標:																			
相続法の基本的な知識を習得し、ならびに相続法の主要な問題を説明できるようになること。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態											
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などについて説明する			事前: 事後：配布資料の見直し				講義60分 質疑応答30分											
2	相続法総論 相続制度の全体像を解説する			事前：日本の相続制度について調べる。 事後：相続制度の根柢についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
3	家督相続から遺産相続へ 日本の相続制度の特色を説明する			事前：家督相続とは何かを調べる。 事後：相続回復請求権の意義についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
4	相続財産(1) 積極財産とは何かを解説し、現行制度の問題を考える			事前：包括承継について調べる。 事後：現行制度の問題について調べる。				講義60分 ディスカッション30分											
5	相続財産(2) 消極財産とは何かを解説し、財産分離・限定承認の相互関係の理解を深める			事前：消極財産の相続について調べる。 事後：財産分離・限定承認の相互関係についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
6	相続人(1) 相続人の法定 相続人となる者を解説する			事前：現行法のもとでの相続人となる者を調べる。 事後：法定相続人と法定相続分の問題をまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
7	相続人(2) 相続人の増減(1) 相続人の減少について解説する			事前：相続欠格／廃除人について調べる。 事後：相続欠格／廃除人についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
8	相続人(3) 相続人の増減(2) 相続人の増加について解説する			事前：養子／遺言について調べる。 事後：養子の状況と濫用についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
9	遺産分割(1) 特別受益・寄与分(1) 特別受益・寄与分の概要について解説する			事前：特別受益・寄与分について調べる。 事後：特別受益・寄与分についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
10	遺産分割(2) 特別受益・寄与分(2) 被相続人の意思と相続人間の衡平（調整の性質）を解説する			事前：寄与分における「貢献」について調べる。 事後：被相続人の意思と相続人間の衡平についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
11	遺産分割(3) 相続に関わる第三者の問題を解説する			事前：共同相続人とは何かを調べる。 事後：共同相続人間の法律関係についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
12	遺産分割(4) 分割の協議、それに伴う法的問題を解説する			事前：遺産分割の方法について調べる。 事後：遺産分割の法的問題についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
13	遺言と遺留分(1) 遺言と遺留分に関わる諸問題を解説する			事前：遺言について調べる。 事後：遺留分／減殺請求についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
14	遺言と遺留分(2) 遺言の方式とその法的問題を考える			事前：公正証書遺言について調べる。 事後：遺言に関する問題（事後救済）についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
15	まとめ 相続制度とその法的諸問題への理解を深める			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。				講義60分 ディスカッション30分											
教本:					参考文献: 授業中に適宜指示します。														
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス: 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																			
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習												
授業科目(英文)	組織心理学 (Organizational Psychology)						科目分類	専門科目													
担当教員	深澤 伸幸																				
履修条件	前提科目	産業心理学概論を履修していること			その他	なし															
授業概要:																					
現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にある。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、生理的特性や動機づけ、及び作業行動の発生過程までを学ぶ。授業形態は講義を中心とするが、随時討議や実習も行い、「分かりやすい授業」を目指す。																					
授業目標:																					
組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			○			○															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、ディスカッション 20分													
2	組織とは何か。組織の定義に始まり、組織構造、組織規範を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分													
3	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分													
4	動機づけを基にした目標管理制度の意味と、そこで用いられるPDCAサイクルの意味と、OJTやoff-JT等の研修の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
5	産業場面で発生するヒューマンエラーには、人間の生理的な特性も関与している。サークルディアンリズムとこれに連動する大脳覚醒水準の特性を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
6	事故や労働災害を減少するには、人間の行動の仕組みを知ることが不可欠である。我々の作業行動を理解することを目指し、作業行動モデルの作成を行う。ここでは集団ブレーンストーミング法を行い、作業行動を考え合う。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、ディスカション 70分													
7	前回に引き続き集団ブレーンストーミングを通じて得られた様々なアイデアを、KJ法を用いてカテゴリ化を図る。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、ディスカション 70分													
8	前回に引き続きKJ法で得られたカテゴリ間に関連性を持たせ、人の作業行動のあり方、プロセスの図化を試み、その後班ごとに発表を行い、作業行動の仕組みを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 20分、ディスカション 70分													
9	用語としてのストレスの意味と使用方法の変遷、ストレスの構造とセリエの考えを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
10	精神的ストレスの定義、ライフイベント研究、ストレスの測定方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
11	ラザラスらが主張する心理学的ストレスモデルを学び、ストレスからの脱出方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、PBL 20分													
12	精神的ストレスを軽減するためのソーシャルサポート、THP、ストレスチェックの方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、職場安全管理対策の重要性を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
14	職場安全風土醸成を目指す集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分ディスカッション 10分、PBL 20分													
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、ディスカッション 20分													

教本： 授業内で指示	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	租税法 I (Tax Law I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	郷原 廣行																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
物の売買や金銭の授受など、経済取引をすると必ず種々の課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動をすることは自己の財産を守るために不可欠です。授業では、租税法の基本原則、租税判例、時事問題、課税事務の実例などを中心に講義します。																										
授業目標：																										
(1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考（租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力）の修得。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○○）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	租税及び租税法とは 租税法律関係の特色					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
2	租税法の基本原則 1 租税法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
3	租税法の基本原則 2 租税公平主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
4	納税義務・課税要件・申告納税制度					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
5	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
6	租税法律主義と租税法律主義を争う憲法訴訟					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
7	申告納税制度と租税法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
8	通達課税と租税法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
9	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
10	課税要件と要件事実の認定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
11	所得税法 I 所得税の基本原則					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
12	所得税法 II 課税所得の分類					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
13	所得税法 III 所得税法の構造と計算の仕組み					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
14	所得税法 IV 必要経費、所得控除、税額控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分																		
教本：					参考文献：																					
「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。					「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定																					
成績評価の方法、評価基準：																										
レポート、授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	租税法 I (Tax Law I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	柳 裕治																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要：租税は経済生活のほとんどの局面に深い関わりをもつため、私たちは、通常、経済取引を行う場合、租税の問題を考慮することなしには経済的意思決定を行うことはできない。また、原則として、第一次的に納税者自らが課税標準及び税額を計算し、申告・納付しなければならないことから、当然に租税法を理解していることが要求される。そこで本講義では、租税法の基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて体系的に説明していく。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。																										
授業目標： 租税法の基礎的知識・租税法的思考の修得																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス（租税法 I 学修の概要）					事前：シラバス確認 事後：講義内容確認		講義																		
2	租税法学修の実益					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
3	租税・租税法学の意義及び隣接諸科学					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
4	租税法の法源と効力					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
5	租税法の基本原則(1)租税法律主義					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
6	租税法の基本原則(2)租税平等主義					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
7	租税の解釈適用(1)租税法と私法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
8	租税法の解釈適用(2)信義誠実の原則					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
9	租税法の解釈適用(3)租税回避（節税・脱税・租税回避）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
10	租税法律関係・租税要件					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
11	納税義務の成立・確定・消滅					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
12	租税手続法（申告納税・推計課税・税務調査等）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
13	租税救済法（再調査の請求・審査請求・訴訟）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
14	租税制裁法（附帯税・租税犯）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義																		
教本： 柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』財経詳報社（2023年9月） 適宜指定 租税法 I II は同じテキスト使用																										
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20%）、終了テスト（80%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 租税法 I II をセットで履修することが望ましい。特に所得税法・法人税法等について学びたい受講生は、租税法 II を併せて履修することが望ましい。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																												
授業科目(英文)	租税法II (Tax Law II)					科目分類	専門科目																														
担当教員	郷原 廣行																																				
履修条件	前提科目	租税法I (Tax Law I)																																			
	その他	なし																																			
授業概要:	<p>経済的取引や相続・贈与による財産の移転など、経済取引等を行うと必ず課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動をすることは自己の財産権を守るために不可欠です。授業では、法人・消費税・相続税法などの租税実体法を中心に講義します。また、所得税の確定申告の実務知識を修得します。</p>																																				
授業目標:	<p>(1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考（租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力）の修得。</p>																																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td colspan="3">○</td><td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○																
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																																	
○	○																																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																														
1	基礎理論 租税法の基本原則と課税要件総論					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
2	法人税法I 法人税の納税義務者と課税所得等の範囲等					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
3	法人税法II 課税所得の基礎的計算構造					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
4	法人税法III 益金と損金の計上時期・同族会社の行為・計算否認規定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
5	消費税法I 消費税法の概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
6	消費税法II 消費税法の計算の仕組み・控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
7	相続税法I 相続税・贈与税の意義と概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
8	相続税法II 相続税法の構造と計算の仕組み（法定相続分課税方式）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
9	相続税法III 相続税法の構造と計算の仕組み（税額の算定）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
10	相続税法IV 相続財産の評価と問題点					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
11	相続税法V 贈与税の課税財産					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
12	租税手続法の構造・適用 租税回避行為・更正の請求					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
13	法人税・消費税・相続税のまとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
14	所得税法V 所得税の確定申告（確定申告作成の実務）					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習	講義 90分																														
教本:	<p>「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。</p>																																				
	<p>参考文献:      「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著)      「法人税法講座」中江博行(著)、岸田貞夫(監修)      「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定</p>																																				
成績評価の方法、評価基準:	<p>レポート、授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。</p>																																				
学生へのアドバイス:	<p>税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。</p>																																				
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	租税法Ⅱ (Tax Law II)					科目分類	専門科目														
担当教員	柳 裕治																				
履修条件	前提科目 その他	なし (租税法Ⅰの単位取得が望ましい。 なし)																			
授業概要:																					
租税法Ⅰの履修を前提に、租税実体法、特に所得課税制度の基礎である所得税法・法人税法、さらに消費税法・相続税法に関する基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて説明する。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。																					
授業目標:																					
所得課税制度等の基礎理論と実践の修得																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	ガイダンス（租税法Ⅱ学修の概要）					事前：シラバス確認 事後：講義内容確認		講義													
2	所得税の意義と所得税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
3	所得概念・課税単位・納税義務者等					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
4	利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
5	給与所得・退職所得・山林所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
6	譲渡所得・一時所得・雑所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
7	損益通算・所得控除・税率・税額控除・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
8	法人税の意義と法人税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
9	益金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
10	損金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
11	同族会社の所得課税					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
12	企業会計と課税所得計算・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
13	消費税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
14	相続税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義													
教本:																					
柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』財経詳報社（2023年9月） 適宜指定。 租税法Ⅱは同じテキスト使用 柳裕治編著『税務会計論（第4版）』創成社（2023年4月）																					
成績評価の方法、評価基準:																					
小テスト・授業参加状況等（20%）、終了テスト（80%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
租税法Ⅱをセットで履修することが望ましい。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	対人関係の心理学 (Interpersonal Psychology)						科目分類	専門科目												
担当教員	牧 裕夫																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
カウンセリング・セラピーでの関係性は確かに心理臨床の構造の中で發揮される知見である。しかし、逆にそれらの中にある関係性の知はそもそも日常の場面の健康的な側面からもたらされている。心理臨床でのエッセンスから日常での人間関係への適応を図りたい。																				
授業目標:																				
日々の一つひとつの関係性「現在、過去、未来」「感情、行動、認知」等重層的に関わっている見方ができることを期待したい。																				
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態													
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス			事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
2	対人関係にある『対話』一単に情報の収集や提供に止まらないー			事前: 「対話」を深めている背景 事後: 「対話」の中にあるカウンセリング			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
3	こころという器(育ちのなかで培われる心、W.R.ビオン等から)			事前: 乳幼児で養育者と受講者 事後: 乳幼児期での体験と今日の対話			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
4	「本当の自分(true self)」(その出会いのために、D.W.ウイニコット等)			事前: 「自分らしさ」と乳幼児期の体験 事後: 今日の「自分らしさ」			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
5	気持ちを分かちもつ(C.R.ロジャーズの共感等から)			事前: 対話を味わうヒント? 事後: 倾聴技法を意識した対話を実践			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
6	様々な三角形(エディプス関係、洞察の三角形等)			事前: 上手くいかなさから学ぶ 事後: 「断念」体験と「自分らしさ」			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
7	心と心を合わせる(C.G.ユング、共同注意等から)			事前: なぜ世界に同じ童話等があるのか 事後: 複数ある深層心理のカタチ			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
8	相手の心を映す心のスクリーン(S.フロイトの転移等から)			事前: ネガティブな相手の思いの受止め 事後: 転移・逆転移と自己理解			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
9	心のイガイガ虫「いていいよ」と対話する(E.ジェンドリンのフォークシング等から)			事前: ネガティブ虫君は出て行かない 事後: ロジャーズからの展開			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
10	心の境界を行き来(システム論から)			事前: 次回を楽しみな居場所の体験 事後: 寂しさゆえに我慢・人生の味わい			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
11	地と図の反転(錯視体験と対人関係の関連)			事前: 同じ場面でも違った体験な人生 事後: 錯視、生きるヒントがそこにある			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
12	集団場面での対人関係(健康な側面)			事前: 集団ならではの味わいとは 事後: ヤロムの集団体験での健康な側面			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
13	集団の大きさとその中の関係性の変化			事前: グループの人数による関係の変化 事後: W.R.Bionの基底的想定集団			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
14	PTSDとASD(災害下での心理)			事前: ショック体験を振り返る 事後: PTSDと異なるASDへの体験			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
15	まとめ			事前: 利用できそうな内容を振り返る。 事後: ノートの整理・復習			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分													
教本:					参考文献: 授業者から適宜提供したい。															
参考文献: 授業者から適宜提供したい。																				
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等(20%)、レポート等(30%)、期末試験(50%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
将来の進路との関係から関心を持てることを期待したい。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	多変量解析法入門 (Introduction to Multivariate Statistical Analysis)						科目分類	専門科目											
担当教員	水本 深喜																		
履修条件	前提科目	心理学統計法、心理学研究法、社会調査法、社会心理学実験演習等、基礎的な統計学、研究法を履修済みであること																	
その他																			
授業概要：																			
統計解析において多変量解析法が用いられるることは多く、多変量解析法による分析の結果を読みこなせるようになることにより、客観的記述を正確に理解することができるようになるだろう。本授業では、多変量解析法として、因子分析、二元配置の分散分析、重回帰分析／パス解析を取り上げる。前半では多変量解析を用いた論文の読み方を学んだ上で分析の実際を体験する。そして後半では、自分たちが立てた問い合わせに基づく調査を実施して、データを分析し、結果をまとめ、発表し、レポートにまとめるといった一連の研究のプロセスを体験する。																			
授業目標：																			
多変量解析を用いた論文を読んで理解できるようになる。																			
自分の研究（卒業論文など）で多変量解析を用いることができるようになる。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態											
1	オリエンテーション、データ解析の基礎			事前：学習済みのデータ解析法について復習しておく 事後：データ解析法の復習				講義											
2	多変量解析とは			事前： 事後：多変量解析を用いた原著論文を検索する				講義											
3	因子分析を用いた論文を読む			事前：因子分析を用いた論文を持参する 事後：因子分析を用いた論文を読む				講義											
4	因子分析演習			事前：因子分析について復習しておく 事後：因子分析をやってみる				講義 40分、演習 50分											
5	二元配置の分散分析を用いた論文を読む			事前：二元配置の分散分析を用いた論文を持参する 事後：二元配置の分散分析を用いた論文を読む				講義											
6	二元配置の分散分析演習			事前：二元配置の分散分析について復習しておく 事後：二元配置の分散分析をやってみる				講義 40分、演習 50分											
7	重回帰分析／パス解析を用いた論文を読む			事前：重回帰分析／パス解析を用いた論文を持参する 事後：重回帰分析／パス解析を用いた論文を読む				講義											
8	重回帰分析演習			事前：重回帰分析／パス解析について復習しておく 事後：重回帰分析をやってみる				講義 40分、演習 50分											
9	多変量解析を用いた研究の体験：研究デザインの立案			事前：研究デザインを考える 事後：調査紙を作成する				講義 20分、 グループワーク 70分											
10	多変量解析を用いた研究の体験：調査の実施			事前：調査紙を準備する 事後：調査を実施する				講義 20分、 グループワーク 70分											
11	多変量解析を用いた研究の体験：データ解析			事前：回答済み調査紙を回収する 事後：データ解析する				講義 20分、 グループワーク 70分											
12	多変量解析を用いた研究の体験：解析結果の解釈			事前：解析結果を解釈してみる 事後：解析結果を解釈する				講義 20分、 グループワーク 70分											
13	多変量解析を用いた研究の体験：結果発表資料の作成			事前：研究の流れを振り返る 事後：発表資料を作成する				講義 20分、 グループワーク 70分											
14	多変量解析を用いた研究の体験：研究発表会			事前：発表準備 事後：各発表内容について考察する				発表 30分、討議 60分											
15	まとめ、レポートの書き方			事前：多変量解析について復習する 事後：研究結果をレポートにまとめる				講義 40分、演習 50分											
教本：					参考文献： 授業中に紹介する。														
指定しない																			
成績評価の方法、評価基準：																			
授業参加状況等（50%）、レポート・テスト（50%）で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。																			
オフィスアワー：																			
初回授業日に伝える。																			

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	地域観光論 (Regional Tourism)						科目分類	専門科目										
担当教員	鷲尾 裕子																	
履修条件	前提科目	なし						1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年次前期に受講することを奨める。										
授業概要： 南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめる。ここでは、23都道府県を学ぶ。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論Ⅱで残り24府県に取り組む。																		
授業目標： 1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
<input checked="" type="radio"/>			<input type="radio"/>															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。				事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認する			講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分										
2～14	2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について 3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について 4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について 6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について 7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目で学ぶ。 8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について 9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について 10. 甲信越・北陸のまとめ 甲信越・北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について 12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 13. 神奈川県・厚木市の観光資源について 14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。				事前：前回の都道府県の地図を見直す。 事後：今回の都道府県を地図で確認する。			2・3・5・6・8・9・11・13回目 講義60分白地図記入合計30分 (地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認(30分) 発表と感想(60分)										
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。				事前：白地図ファイルの整理 事後：23都道府県の再確認			事前確認10分 テスト60分 再確認20分										
教本： 日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。 授業時に紹介する。																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 白地図(30%)、発表(30%)、テスト(40%)等で総合評価する。初回時、説明する。																		
学生へのアドバイス： 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年次に受講することを奨める。																		
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	地域観光論 I (Regional Tourism I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鷲尾 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める																								
授業概要:																										
南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめる。地域観光論Iで23都道府県を学ぶ。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論IIで24府県に取り組むので続けて履修することを薦める。																										
授業目標:																										
1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養																					
○	○																									
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。				事前: シラバスを読む 事後: 地図帳で確認する			講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分																		
2~14	2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について 3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について 4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について 6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について 7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目で学ぶ。 8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について 9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について 10. 甲信越・北陸のまとめ 甲信越・北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について 12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 13. 神奈川県・厚木市の観光資源について 14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。				事前: 前回の都道府県の地図を見直す。 事後: 今回の都道府県を地図で確認する。			2・3・5・6・8・9・11・13回目 講義60分白地図記入合計30分 (地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認(30分) 発表と感想(60分)																		
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。				事前: 白地図ファイルの整理 事後: 23都道府県の再確認			事前確認10分 テスト60分 再確認20分																		
教本:	参考文献: 日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。授業時に紹介する。																									
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 白地図(30%)、発表(30%)、テスト(40%)等で総合評価する。初回時、説明する。																										
学生へのアドバイス:	国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。																									
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	地域観光論Ⅱ (Regional Tourism Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鷲尾 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。																								
授業概要:																										
南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート(授業時配布する用紙)に学んだ内容をまとめ、15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。																										
授業目標:																										
1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。				事前: シラバスを読む 事後: 地図帳で確認する			講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分																		
2~14	2. 滋賀県・京都府の観光資源について 3. 三重県・奈良県・和歌山県の観光資源について 4. 兵庫県・大阪府の観光資源について 5. 関西のまとめ 関西7県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 6. 鳥取県・島根県の観光資源について 7. 岡山県・広島県・山口県の観光資源について 8. 愛媛県・香川県の観光資源について 9. 徳島県・高知県の観光資源について 10. 中国・四国まとめ 中国・四国9県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。 11. 福岡県・佐賀県・長崎県の観光資源について 12. 大分県・熊本県・宮崎県の観光資源について 13. 鹿児島県・沖縄県の観光資源について 14. 九州・沖縄のまとめ 九州・沖縄8県の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。				事前: 前回の都道府県の地図を見直す。 事後: 今回の都道府県を地図で確認する。			2・3・4・6・7・8・9・11・12・13回目 講義60分白地図記入合計30分 (地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。) 5・10・14回目 発表要旨のまとめと確認(30分) 発表と感想(60分)																		
15	15. 24府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。				事前: 白地図ファイルの整理 事後: 24府県の再確認			事前確認10分 テスト60分 再確認20分																		
教本:																										
参考文献: 日本地図帳(中学校、高校時のものがあればそれを)初回時、説明する。 授業時に紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 白地図(30%)、発表(30%)、テスト(40%)等で総合評価する。初回時、説明する。																										
学生へのアドバイス:																										
国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	地域振興論 (Regional Promotion)					科目分類	専門科目								
担当教員	飯島 祥二			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の現状とその内容を概説する。最初に、地域振興の基本的課題である産業振興（観光振興を含む）・コミュニティの育成・地域資源のブランド化などを、基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域環境のデータ分析を行い、今後の持続可能な地域振興・観光振興の在り方を検討する。また、近年の観光振興の新しい流れをこれらの観点から説明する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。														
授業目標:	①地域振興の概念・歴史等を理解する。②都市計画の概念と地域振興との関係性において理解する。③地域振興と観光振興の関係性を理解する。④地域環境を地方自治体の規模別に俯瞰し、今後の地域振興・観光振興の在り方を考察する。														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)														
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式														
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1	オリエンテーション			事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習			講義90分								
2	地域振興の意味と定義			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
3	都市計画・地域振興・観光振興 (ハード的・ソフト的という軸における関係性)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
4	都市計画の歴史 (都市という居住空間の計画史と地域振興)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
5	わが国の都市計画 (原理と基本的タームの理解)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
6	国土計画と観光振興(1) (全国総合開発計画の歴史的変遷)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、実習40分								
7	国土計画と観光振興(2) (観光振興と全国総合開発計画)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
8	地域振興とコミュニティ (コミュニティの歴史と現状と地域振興)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、実習40分								
9	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析(地域の人口・産業振興・福祉・行政・医療等):データの読み方			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
10	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:データの分析から見られる地域振興(政策)の特性と今後の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
11	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:観光振興の観点からの分析と今後の観光政策の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
12	地域振興と観光振興(1) (その複合的側面:事例の提示を通して[国内])			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
13	地域振興と観光振興(2) (それらの複合的側面:事例の提示を通して[海外])			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
14	DMO(Destination management organization)等の新しい観光振興の在り方の妥当性の分析と今後の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
15	まとめ			事前:今までの講義の復習 事後:講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分								
教本:	参考文献: 毎回資料を配布する。														
参考文献: 適時教示する。															
成績評価の方法、評価基準:	平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興の在り方」を考えること。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	地域振興論 I (Regional Promotion I)					科目分類	専門科目								
担当教員	飯島 祥二			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の現状とその内容を概説する。最初に、地域振興の基本的課題である産業振興（観光振興を含む）・コミュニティの育成・地域資源のブランド化などを、基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域環境のデータ分析を行い、今後の持続可能な地域振興・観光振興の在り方を検討する。また、近年の観光振興の新しい流れをこれらの観点から説明する。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。														
授業目標:	①地域振興の概念・歴史等を理解する。②都市計画の概念と地域振興との関係性において理解する。③地域振興と観光振興の関係性を理解する。④地域環境を地方自治体の規模別に俯瞰し、今後の地域振興・観光振興の在り方を考察する。														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)															
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1	オリエンテーション			事前:シラバスの確認 事後:ノートを整理して復習			講義90分								
2	地域振興の意味と定義			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
3	都市計画・地域振興・観光振興 (ハード的・ソフト的という軸における関係性)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
4	都市計画の歴史 (都市という居住空間の計画史と地域振興)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
5	わが国の都市計画 (原理と基本的タームの理解)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
6	国土計画と観光振興(1) (全国総合開発計画の歴史的変遷)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、実習40分								
7	国土計画と観光振興(2) (観光振興と全国総合開発計画)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
8	地域振興とコミュニティ (コミュニティの歴史と現状と地域振興)			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、実習40分								
9	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析(地域の人口・産業振興・福祉・行政・医療等):データの読み方			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
10	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:データの分析から見られる地域振興(政策)の特性と今後の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
11	地域振興と地域環境:人口規模別データの分析:観光振興の観点からの分析と今後の観光政策の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
12	地域振興と観光振興(1) (その複合的側面:事例の提示を通して[国内])			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
13	地域振興と観光振興(2) (それらの複合的側面:事例の提示を通して[海外])			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
14	DMO(Destination management organization)等の新しい観光振興の在り方の妥当性の分析と今後の課題			事前:次回の予習 事後:ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、小レポート10分								
15	まとめ			事前:今までの講義の復習 事後:講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分								
教本:	参考文献: 毎回資料を配布する。														
成績評価の方法、評価基準:	参考文献: 平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興の在り方」を考えること。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	地域振興論 II (Regional Promotion II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	飯島 祥二																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
わが国の地域振興の成立と内容を観光振興の観点から概説する。本講義の目的は、観光振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を修得することにある。近年、地域・都市を観光対象とするツーリズムが拡大し、そのマーケティング的対応が急務となっている。それ故、「都市・地域の魅力特性(attraction)」の分析を通じ基礎的知識と分析方法を習得することは有用と考えられる。また、「魅力特性」の分析手法は、持続可能観光など新しいタイプのツーリズムの分析にも重要と思われる。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。																										
授業目標：																										
① 観光による地域振興の現状・意義・役割を修得する。 ② テーマ別・地域・形態別の観光振興の手法について修得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習			講義90分																		
2	地域振興と観光振興（1） (成立と両者の差異)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
3	地域振興と観光振興（2） (観光学の枠組の視点から見た両者の関係性)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
4	地域振興と観光まちづくり（1）：その概念と内容				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
5	地域振興と観光まちづくり（2）：その課題（類似性と異質性）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
6	新しいタイプの地域を観光対象とした観光形態の現在的意味：その分類と特徴				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
7	地域・都市を観光対象とする観光商品（1）：その概念と構造(Smith(1994))を中心に				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分																		
8	地域・都市を観光対象とする観光商品（2）：その分析方法の枠組				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
9	地域・都市を観光対象とする観光商品（3）：ワークシートの作成（中核・支援・付加的商品）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
10	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：その特性・分析方法				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分																		
11	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：魅力特性の分析方法とその事例(Lew(1987)の三つの視点)				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
12	地域・都市を対象とした観光商品の魅力特性(attraction)：魅力特性の分析の観光振興への援用（SWOT分析等）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
13	持続可能観光等、新しいツーリズムの形態への応用と今後の課題				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義40分、 実習40分																		
14	「地域振興」と「観光振興」の現在：融合と相克をめぐって				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習			前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分																		
15	まとめ				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習			前回の確認10分、講義80分																		
教本：		参考文献：																								
毎回資料を配布する。		適時指定する。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
地域振興と観光振興の方法や事例を紹介する。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史 I (Cultural History of Areas I)					科目分類	専門科目		
担当教員	安倍 宰								
履修条件	前提科目	文化人類学などの文化学							
	その他	なし							
授業概要:	東アジア、とりわけ日本の文化を歴史的な視点から捉えなおすことが、本講義の目的になる。								
授業目標:	教科書的歴史だけではない歴史を知ること。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	地域とは何か、地域文化とは何か					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
2	社会構造という考え方					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
3	歴史と構造					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
4	日本の地域文化					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
5	日本の地域文化 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
6	沖縄・宮古の地域文化					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
7	沖縄・宮古の地域文化 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
8	琉球文化と地域性					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
9	地域文化と盛り場空間 新宿					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
10	地域文化と盛り場空間 新宿 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
11	地域文化と盛り場空間 新宿 3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
12	地域文化と盛り場空間 渋谷					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
13	地域文化と盛り場空間 渋谷 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
14	地域文化と盛り場空間 渋谷 3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：			試験あるいは レポート
教本:	参考文献: なし								
	授業中にたくさん紹介します。								
成績評価の方法、評価基準:	授業内容への参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(30%)等で総合評価する。								
学生へのアドバイス:	わからないことがあっても、あきらめないこと。								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史 II (Cultural History of Areas II)					科目分類	専門科目		
担当教員	安倍 宰								
履修条件	前提科目	文化人類学などの文化学							
	その他	なし							
授業概要:	前期の地域文化史Iをベースに、範囲を拡大し、東南アジアまでを視野に入れていく。								
授業目標:	異なる文化とどのように関係を創り上げていくのかに関して、自分の視点を持つ。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	地域文化史Iの復習					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
2	東南アジアの地域性					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
3	大陸の文化					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
4	大陸の文化2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
5	大陸の文化3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
6	島嶼部の文化					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
7	島嶼部の文化2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
8	島嶼部の文化3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
9	異文化接触と地域文化					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
10	異文化接触と地域文化2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
11	地域文化と政策					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
12	地域文化と政策2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
13	地域文化と政策3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
14	地域と歴史					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：			試験あるいは レポート
教本:	参考文献: なし								
	授業中にたくさん紹介します。								
成績評価の方法、評価基準:	授業内容への参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(30%)等で総合評価する。								
学生へのアドバイス:	複雑なことから逃げないように。								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	地域文化論 (Regional Cultures)					科目分類	専門科目															
担当教員	小林 克																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんのが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。																						
授業目標:																						
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)														
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等				事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
6	地域の文化資源の発見とリスト化① それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集。 事後：発表為の調査と資料作成			講義(50分)、 演習(40分)														
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見ながら解説				事前：地方企業のCSR等を検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
9	地域の文化資源の発見とリスト化② 学生による発表とディスカッション				事前：資料作成、発表準備。 事後：配布資料の内容確認			演習(90分)														
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索。 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、 ディスカッション(60分)														
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源としての評価				事前：文化資源、観光資源の関係を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、組織、史跡など				事前：観光における文化資源の活用を検索。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)														
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：居住する地域の広報戦略を考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)														
教本:		参考文献: 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。																				
成績評価の方法、評価基準:																						
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかるわらず課題を課す。																						
学生へのアドバイス:																						
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義							
授業科目(英文)	地域文化論 (Regional Cultures)					科目分類	専門科目									
担当教員	福島 崇宏			履修条件	前提科目	なし	その他	なし								
授業概要:	グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れるこの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。															
授業目標:	1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得															
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養													
○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態									
1	授業概要の説明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
4	文化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
5	文化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
7	コミュニケーション ② 想像／創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
8	言語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
9	言語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
12	時間・空間—記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
15	まとめ ・地域文化論の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分									
教本：	参考文献： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。															
成績評価の方法、評価基準：	授業中に課す小レポート（40%）、及び期末試験（60%）で総合評価する。															
学生へのアドバイス：	外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。															
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。															

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	地域文化論 I (Regional Cultures I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小林 克																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんのが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。																										
授業目標：																										
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。																										
地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)																		
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等				事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
6	地域の文化資源の発見とリスト化①。それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集 事後：発表為の調査と資料作成			講義(50分)、 演習(40分)																		
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見ながら解説				事前：地方企業のCSR等を検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)																		
9	地域の文化資源の発見とリスト化②。学生による発表とディスカッション				事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認			演習(90分)																		
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、 ディスカッション(60分)、																		
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源としての評価				事前：文化資源、観光資源の関係を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)																		
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、組織、史跡など				事前：観光における文化資源の活用を検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)																		
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：居住する地域の広報戦略を考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)																		
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 デスカッション(45分)																		
教本：		参考文献： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかるわらず課題を課す。																										
学生へのアドバイス：																										
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持つください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	地域文化論 I (Regional Cultures I)					科目分類	専門科目							
担当教員	福島 崇宏			○	○	○	○	○	○					
履修条件	前提科目	なし	○	○	○	○	○	○	○					
その他	なし	○	○	○	○	○	○	○	○					
授業概要：	グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れるこの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。													
授業目標：	1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。													
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得													
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養		○	○	○	○	○					
授業計画・事前学習・事後学習、形式														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態							
1	授業概要の説明 ◇地域文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
4	文化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
5	文化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
7	コミュニケーション ② 想像／創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
8	言語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
9	言語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
12	時間・空間—記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
15	まとめ ・地域文化論 I の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成	講義 60分、討論 30分							
教本：	参考文献： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。													
成績評価の方法、評価基準：	授業中に課す小レポート (40%)、及び期末試験 (60%) で総合評価する。													
学生へのアドバイス：	外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。													
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	地域文化論 II (Regional Cultures II)					科目分類	専門科目															
担当教員	小林 克																					
履修条件	前提科目	地域文化論 I			その他	なし																
授業概要:																						
様々な地域文化の構成要素である多様な文化資源の関係性を学んでいく。地域文化の捉え方を理解し、その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等をどのように活用することが出来るのか考える。実際の地域文化による地域活性化事例を確認して、分析する。																						
授業目標:																						
地域文化とは何かを考察し、その様々な構成要素である各種資源について、その活性化と活用方法を学ぶ。 地域文化のベースとなる多種多様な文化等の資源の関係性を明らかにし、環境(文化)クラスターとしての保存と活性化を理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。				事前: 地域、文化の意味を調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(60分)、 アンケート(30分)														
2	地域と文化の多様な捉え方について考える。地域文化の資源である伝統文化、歴史、民俗、景観等との関係性について				事前: 地域文化とは何か、自分で考える。 事後: 配布資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)														
3	日本の地域文化の特性を、世界の中で比較しつつ考察する。				事前: 居住する自治体のHPを検索する。 事後: 配布資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)														
4	地域文化と構成資源① 地域文化と地域の食文化の関係				事前: 食文化について調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
5	地域文化と構成資源② 地域文化と地域の歴史、地域の人との関係性				事前: 地域史の調べ方について調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(50分)、 小テスト(40分)														
6	地域文化と構成資源③ 地域文化と自然や風土との関係性				事前: 風土という言葉を調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(50分)、 小テスト(40分)														
7	地域文化と構成資源④ 地域文化と鉄道などの交通や近代産業、伝統的産業や民俗、宗教との関係性				事前: 日本における鉄道の歴史を調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
8	地域文化の事例研究① 関東地方を中心に様々な地域文化の事例についてみていく。学生が地域文化事例を調査研究する地域を検討する。				事前: 関東地方の地図を確認 事後: 対象地域を調べて決める。			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
9	地域文化の事例研究② 学生が地域文化事例を調査研究する地域を決めて調査に着手する。				事前: 資料作成、発表準備 事後: 配布資料の内容確認			講義(20分)、演習(70分)														
10	地域文化の事例研究③ 都市東京の中での伝統文化の捉え方と事例を説明。				事前: 東京の地図をみて位置関係を確認 事後: 配布資料の内容確認			講義(60分)、 ディスカッション(30分)														
11	地域文化の事例研究④ 新潟県十日町を中心とした地域の事例について説明				事前: 十日町市についてネットで調べる。 事後: 配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
12	調査・研究発表① 学生が事例研究について発表。				事前: 報告準備 事後: 発表に関する評価とコメント作成			報告(60分)、討論(30分)														
13	調査・研究発表② 学生が事例研究について発表				事前: 報告準備 事後: 発表に関する評価とコメント作成			報告(60分)、討論(30分)														
14	調査・研究発表③ 学生が事例研究について発表				事前: 報告準備 事後: 発表に関する評価とコメント作成			報告(40分)、討論(30分)、 講評(20分)														
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前: 授業全体を振り返る。 事後: 配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)														
教本:		参考文献: 特にありません。多くの回で資料プリントを配布します。																				
成績評価の方法、評価基準:																						
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
授業参加状況(発表や配布資料含)等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、試験(30%)等で総合評価する。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	地域文化論Ⅱ (Regional Cultures Ⅱ)					科目分類	専門科目														
担当教員	福島 崇宏																				
履修条件	前提科目	地域文化論Ⅰ			その他	なし															
授業概要：																					
グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れるこの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。																					
授業目標：																					
1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	授業概要の説明 ◇地域文化論Ⅱの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83~95精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95~108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37~50精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50~59精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例を検討する。					事前：教本 pp.61~90精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90~108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
8	文化のポリティクス 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159~169精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181~188精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189~192精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。					事前：教本 pp.192~205精読 事後：まとめノートの作成		報告 60分、討論 30分													
12	研究発表1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分													
13	研究発表2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分													
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分													
15	まとめ ・地域文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分													
教本：																					
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション －多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。																					
参考文献：																					
授業中に適宜紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準：																					
授業中の小レポート（40%）及び期末試験（60%）で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 I (Alternative Tourism and Mass Tourism I)						科目分類	専門科目									
担当教員	大井 功																
履修条件	前提科目	なし															
	その他	なし															
授業概要:	映像でイメージを掴み、着地型観光の特性を理解した上でメリットとデメリットを討議。																
授業目標:	着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
○	○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態										
1	オリエンテーション					事前:なし 事後:配布プリントを読返す	講義90分										
2	地域はなぜ観光に向かうのか:観光による地域おこしについて考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
3	着地型観光と地域資源:地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップし、発表する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
4	着地型観光の事業主体:地域の観光の運営主体は誰かについて考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
5	着地型観光の商品企画:実際に商品企画をしてみて、行程、販売価格、販売対象などを考え、発表する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
6	着地型観光の流通・販売:地域の観光資源をどのように販売したら良いか考え、発表する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
7	着地型観光における住民の役割:観光による地域振興における住民の果たす役割について考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
8	体験交流型観光:体験型観光の重要性について考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
9	ニューツーリズム開発:持続可能な観光について考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
10	エゴツーリズム:エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
11	放射線の効用:放射線のホルミシスについて考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
12	温泉文化:体に良い温泉、体に悪い温泉を考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
13	嗜好品文化:世界各国の嗜好品について考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
14	食の安心・安全:危険な食とは何かについて考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
15	ディズニーランド:ディズニーランドのリピーターが多い理由を考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義50分、映像20分、討議20分										
教本:	参考文献: プリントを配布する 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畠書店 ¥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畠書店 ¥1,500+税																
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(授業参加度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等																	
学生へのアドバイス: 楽しくなければ観光は学べない。																	
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 II (Alternative Tourism and Mass Tourism II)						科目分類	専門科目									
担当教員	大井 功																
履修条件	前提科目	着地型・発地型観光論 I を同時履修か、過去に履修したことがある。															
その他	なし																
授業概要:	映像によりイメージを掴み、発地型観光の多様な形態を学び、そのメリットとデメリットを討議する。																
授業目標:	発地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。																
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
○	○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態									
1	海外旅行の基礎(I)：3レターコードにより、航空会社や都市名を表示する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
2	海外旅行の基礎(II)：時差や国際便の航空機の飛行時間の計算方法を理解し、問題を解く。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
3	食 旅：安全・安心の食、危険な食、地産地消などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
4	祭 旅：祭りによる町おこしを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
5	産業観光：産業観光を活用した地域振興の方法を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
6	スポーツ・ヘルス・ツーリズム：スポーツを活用した観光や健康づくりを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
7	メディカル・ツーリズム：医療を目的とした観光振興の是非について考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
8	肉食文化：肉食文化と穀物文化を比較し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
9	航空機のなぞ：ジェット燃料とは何か、ジャンボジェット機はなぜ、姿を消したのかなどについて考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
10	カジノミクス：総合レジャー施設建設に伴うメリット、デメリットを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
11	ホテル利用法：国際ホテルの利用方法を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
12	エアライン・クライシス：航空会社経営環境の変化に伴う営業戦略の変化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
13	旅行の健康管理：旅行に伴う体調の変化と病を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
14	海外旅行犯罪：海外旅行で遭遇する犯罪と被害に遭わないための方策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
15	麻薬文化：麻薬に対する厳罰国と容認国考え方の違いを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義50分、映像20分、討議20分									
教本：	参考文献： プリントを配布する。 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畠書店 ¥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畠書店 ¥1,500+税																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。	平常点（授業参加度、小テスト等）(40%)、定期試験(60%)等																
学生へのアドバイス：	楽しくなければ観光は学べない。																
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。																

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	沈瑛																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を学びます。																										
授業目標：																										
1. 中国への関心を高める。 2. 発音・文法の初步から初めて、中国語の基礎を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：特になし 事後：テキストの精読	講義																			
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
3	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
4	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
5	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
6	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
7	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	テストと解説																			
8	教科書第3課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
9	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
10	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
11	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
12	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
13	教科書第6課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義50分、ディスカッション20分、発表20分																			
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	テストと解説																			
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読	講義20分、ディスカッション30分、発表40分																			
教本：																										
参考文献： 『改訂版』さあ、中国語を学ぼう－会話・講読一』竹島毅・趙昕著（白水社出版）なし。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス：																										
外国语の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)					科目分類	基礎科目															
担当教員	但 継紅			履修条件	前提科目	なし	その他	なし														
授業概要:	中国語の基礎を習得するためのクラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。																					
	授業目標: 中国語発音の基礎(ピンイン)、初級文法、簡単な日常会話(挨拶、自己紹介など)を身に付けることを目標とする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態															
1	ガイダンス 発音①: 声調				事前: シラバスを確認 事後: CDを聞き、発音練習		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分															
2	発音②: 单母音 複母音				事前: CDを聞き、発音練習 事後: CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分															
3	発音③: 無氣音と有氣音 そり舌音				事前: CDを聞き、発音練習 事後: CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分															
4	発音④: 鼻音を伴う母音など声調変化 あいさつの言葉				事前: CDを聞き、発音練習 事後: あいさつの言葉を覚える		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分															
5	名前の言い方 決まり文句				事前: 自分の名前を調べる 事後: 復習、単語文を覚える。		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
6	人称代詞 “是”、“吗” 疑問文 人称代名詞+“呢”など				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
7	復習・発音と会話の練習				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分															
8	中間テスト				事前: 復習 事後: 復習、単語文を覚える		復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分															
9	動詞述語文 指示代詞				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
10	“的”の省略 形容詞述語文				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
11	所有を表す“有/没有” 数詞 量詞 家族呼称				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
12	会話・練習・復習				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分															
13	文末の“了” 名詞述語文 比較文“比” 年月日の言い方				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
14	曜日の言い方 時間詞 推量の“吧”				事前: CDを聞き本文を音読。 事後: 復習、単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分															
15	総復習				事前: 復習、単語文を覚える 事後: 復習、単語文を覚える		講義(復習・説明) 30分、発音・練習 30分、質問応答 30分															
教本:		参考文献: 『ぼくのせんせい』相原茂 郭雲輝著 朝日出版社 授業中に適宜紹介します。																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス: 外国语を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。																						
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)					科目分類	基礎科目															
担当教員	仲伯維																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。																						
授業目標：																						
語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法				事前：なし 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「是」の文				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「的」の用法、疑問詞、疑問文				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「所有」を表す「有」				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 指示代名詞				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 数字、日付の数え方				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 完了の表現				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 反複疑問文				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 時間量の表示方法				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 過去の経験を表す表現				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「是・・・的」文の表現				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） しにくる、しに行くの表現				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
15	全体のまとめ				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
教本：		参考文献： 竹島金吾等（著）『中国語はじめの一歩』白水社最新版 山下輝彦『中国語入門』白水社																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	中国語II (Chinese II)					科目分類	基礎科目														
担当教員	沈瑛																				
履修条件	前提科目	中国語Iを履修していること。																			
	その他	なし																			
授業概要：																					
中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーションIで学んだ発音を確認した後、Iで学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。																					
授業目標：																					
1. 基礎的な文法を学習する。 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション：講義の概要				事前：特になし 事後：テキストの精読		講義														
2	発音				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
3	教科書第7課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
4	教科書第8課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
5	教科書第8課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
6	教科書第9課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
7	教科書第9課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
8	復習（ミニテスト①）				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説														
9	教科書第10課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
10	教科書第11課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
11	教科書第11課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
12	教科書第12課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
13	教科書第12課				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分														
14	復習（ミニテスト②）				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説														
15	全体のまとめ				事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分														
教本：					参考文献：																
『改訂版』さあ、中国語を学ぼう－会話・講読一』竹島毅・趙昕著（白水社出版）					なし。																
税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																					
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。																					
学生へのアドバイス：																					
単語覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 II (Chinese II)					科目分類	基礎科目		
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	中国語 I 履修済みを前提とする。							
	その他	なし							
授業概要: 中国語 I の基礎を習得した受講者のための初級クラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。									
授業目標: 中国語発音の基礎(ピンイン)、初級文法、簡単な日常会話(挨拶、自己紹介など)を身に付けることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						○			
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態		
1	ガイダンス 基礎内容の復習			事前:シラバスを確認 事後:CDを聞き、発音練習			ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質問応答 30分		
2	時刻の言い方 指示詞 特定のモノ(ヒト)+在+場所など			事前:CDを聞き、発音練習 事後:CDを聞き、発音練習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
3	動詞+“了” 程度副詞:“挺”、“很”、“非常”			事前:CDを聞き、発音練習 事後:CDを聞き、発音練習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
4	会話・練習・復習			事前:CDを聞き、発音練習 事後:あいさつの言葉を覚える			講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分		
5	“喜欢” + V P 動詞+“过”など			事前:自分の名前を調べる 事後:復習、単語を覚える。			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
6	助動詞“会”、“能” 動詞の重ね型 様態補語など			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
7	復習・発音と会話の練習			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分		
8	中間テスト			事前:復習 事後:復習、単語文を覚える			復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分		
9	助動詞 想、打算 連動文 方向補語など			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
10	反復疑問文 選択疑問文 主述述語文 身長の言い方			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
11	“跟”、“和”、“给” 結果補語など			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
12	会話・練習・復習			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分		
13	可能補語 値段の聞き方 “是～的”など			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
14	“把”構文 動詞+“着”など			事前:CDを聞き本文を音読。 事後:復習、単語文を覚える			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分		
15	総復習			事前:復習、単語文を覚える 事後:復習、単語文を覚える			講義(復習・説明) 30分、発音・練習 30分、質問応答 30分		
教本: 『ぼくのせんせい』相原茂 郭雲輝著 朝日出版社					参考文献: 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス: 外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	中国語 II (Chinese II)					科目分類	基礎科目															
担当教員	仲 伯維																					
履修条件	前提科目	中国語 I 履修済みを前提とする。																				
授業概要：																						
中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。																						
授業目標：																						
語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法				事前：なし 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 回数補語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 比較表現				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「会」、「能」				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「想」、「要」				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 方向補語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 結果補語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 受身				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 使役				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 二重主語				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「就」、「才」の区別				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「有・沒有」の使用				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
15	全体のまとめ				事前：予習 事後：ノート整理して復習			講義 50分／演習 40分														
教本：		参考文献： 『しつかり 初級 中国語』白水社 山下輝彦『中国語入門』白水社 最新版																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)						科目分類	専門科目												
担当教員	但 綾紅																			
履修条件	前提科目	中国語 I、II 履修済みが望ましい						その他												
授業概要:																				
基本的な文法・文型を整理しながら、平易な中国語が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。																				
授業目標:																				
中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
			○			○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	ガイダンス、基礎内容の確認			事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、本文朗読			ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質問応答 30分													
2	教科書の第一課①			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
3	教科書の第一課②			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分													
4	教科書の第二課①			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
5	教科書の第二課②			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分													
6	復習・練習・応用会話			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分													
7	教科書の第三課①			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分													
8	教科書の第三課②			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
9	教科書の第四課①			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、ディスカッション 15分													
10	教科書の第四課②			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
11	復習・練習・応用会話			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分													
12	教科書の第五課①			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
13	教科書の第五課②			事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習			講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分													
14	総復習：文法・練習			事前：わからない内容確認 事後：総復習			講義（復習・説明）30分、練習 40分、質問応答 20分													
15	総復習：リスニング・会話			事前：復習：単語を覚える 事後：総復習			講義（復習・説明）30分、発音・練習 40分、質問応答 20分													
教本：																				
参考文献：																				
『楽しく学ぼう やさしい中国語』（講読編）中国語で巡る中国文化																				
王 武雲ほか著 郁文堂																				
授業中に適宜紹介します。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
この授業は中国語の初級内容を復習しながら、中級へ進む。「中国語 I」「中国語 II」を履修したら、更に高い中国語力が身に付けられる授業である。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	中国文化研究 A (Chinese Studies A)						科目分類	専門科目										
担当教員	但 継紅																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を知る。授業は、講義、映像資料の視聴、討論、質疑応答、発表などを組み合わせて行う。																		
授業目標:																		
中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	ガイダンス、概要			事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む			ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分											
2	中国の歴史、社会			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
3	日中関係史			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
4	日本に伝わった中国文化			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
5	さまざまな民族の生活			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
6	中国の食文化			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
7	中華人民共和国			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
8	映画を通して中国を知る①			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 20分、映画鑑賞 70分											
9	映画を通して中国を知る②			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			映画鑑賞 90分											
10	中国の思想			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
11	中国の宗教			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
12	現代の中国人の価値観			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分											
13	映画を通して中国を知る①			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			講義 40分、映画鑑賞 50分											
14	映画を通して中国を知る②			事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む			映画鑑賞 90分											
15	討論、まとめ、レポート指導			事前：レポート題名を決める 事後：レポート作成			まとめ 20分、ディスカッション 30分、レポート指導 40分											
教本：																		
特に設定せず、各時間にプリントを配布。																		
参考文献：																		
授業中に適宜紹介します。																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																		
授業への参加状況等 (50%)、レポート (50%) で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																
授業科目(英文)	中国文化研究B (Chinese Studies B)						科目分類	専門科目																	
担当教員	但 継紅																								
履修条件	前提科目	「中国文化研究A」の継続授業であるため、前期の受講が望ましい						その他																	
授業概要：																									
中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を前期の講義で学ぶ。後期は、受講者に自分の興味や関心のあるテーマや問題を決めてもらい、個別に調べてまとめ、発表してもらう。																									
授業目標：																									
中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																			
			○			○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス 受講者各自の発表テーマの相談・確認			事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む			ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分																		
2	受講者各自の発表テーマの相談・提出			事前：各自発表テーマを調べ 事後：各自発表テーマを調べ			説明 20分、個別指導 70分																		
3	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
4	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
5	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
6	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
7	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
8	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
9	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
10	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
11	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
12	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など			事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する			発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分																		
13	レポート指導とレポートの提出			事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成			レポート個別指導 90分																		
14	レポート指導とレポートの提出			事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成			レポート個別指導 90分																		
15	まとめ、レポート指導と提出			事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成			レポート個別指導 90分																		
教本：		参考文献： 特に設定せず、各時間にプリントを配布。																							
授業中に適宜紹介します。																									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（50%）、レポート（50%）で総合評価する。																									
学生へのアドバイス： 出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。																									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	調査研究（フィールドワーク）(Fieldwork)					科目分類	専門科目													
担当教員	川添 裕子																			
履修条件	前提科目	文化人類学関連科目																		
	その他	文献読解力、アカデミックライティング技術が必要となる。授業以外に相当な時間と労力を要する。 Google Classroom 利用。ノートパソコン持参。																		
授業概要：	「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法（調査法の種類と特徴、問い合わせの設定、調査対象設定、調査計画、文献検討、先行研究分析、倫理審査、参与観察、インタビュー、フィールドノート、データ分析、報告書作成）のプロセスを習得します。																			
授業目標：	1. 多様な調査法と、エスノグラフィック・フィールドワーク調査法の特徴を習得する。 2. エスノグラファーを読み、読み解し、自分の調査計画にいかすことができる。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○	○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1・2	量的調査、質的調査およびフィールドワーク調査の特徴、プロセスを学ぶ。				事前：高校地理を振り返る 事後：復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分													
3	エスノグラファーを読む（学術論文、市場調査）				事前：高校地理を振り返る 事後：復習する		講義 60分、 グループワーク 30分													
4～6	問い合わせてみる。対象に応じて調査企画案を作成する。倫理審査申請書と調査協力依頼書等、必要書類作成を学ぶ。必要書類を提出する。各自、対象に関する文献資料を収集し、発表する。調査企画とフィールドデザインする。				事前：文献資料を収集する 事後：教科書2回・3回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分													
7・8	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成およびインターネットエスノグラファーについて学び、履修者間でエクササイズをする。				事前：ノートを購入する 事後：教科書4回～6回を復習する		実習													
9	調査企画をたてる				事前：関心テーマを絞る 事後：教科書7回・8回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分													
10・11	事例カード、関係図作り、概念、「KJ法」について学ぶ				事前：事例を読み込む 事後：教科書9回を復習する		実習													
12	概念関係図から、事例を再構成し、理論的テーマを確定する。設問、鍵概念、結論、章立て				事前：事例を読み込む 事後：教科書10回・11回を復習する		講義 60分、 ディスカッション 30分													
13・14	エスノグラファー（報告書）執筆				事前：報告書執筆 事後：コメントを反映する		講義 60分、 プレゼンテーション 30分													
15	発表、フィードバック				事前：プレゼン準備 事後：報告書修正		プレゼンテーション 60分、 ディスカッション 30分													
教本：	参考文献： 村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司 他編 『フィールドワークの学び方』ナカニシヤ出版 ¥2,200+税 中薦洋『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、¥1,800+税																			
成績評価の方法、評価基準：	授業参加状況等（20%）、調査の各段階の達成・課題提出等（30%）、報告書（50%）等で総合評価します。本授業は、大学外の方々のご協力で進めていますので、全回、出席することが前提です。また信頼を損なう行為があった場合は単位判定の対象としません。																			
学生へのアドバイス：	社会文化的視点からの分析、文献読解力、レポート作成力を高めたい人に勧めます。																			
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。																			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	地理学 (Geography)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	南 春英																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。																										
授業目標 :																										
空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			◎																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義																		
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
3	地理情報と表現方法					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
4	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
5	地球の姿と成り立ち					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
7	世界の地形② 河川の小地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
9	ハザードマップ概要					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
10	わがまちのハザードマップ調査					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
12	資源と産業－工業の立地変化					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
13	世界の人口－世界の人口問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
14	生活文化・民俗地理－世界の食肉文化・生活と環境					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義																		
15	まとめ					事前：前回のノート整理 事後：地域理解ができたか		講義																		
教本 :					参考文献 : なし。必要に応じてプリントを配布します。 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス : 欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。																										
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	地理情報システム (Geographical Information Systems)						科目分類	専門科目										
担当教員	山本 美紀																	
履修条件	前提科目	なし			その他	実習では、ノートパソコンを用意すること。												
<b>授業概要 :</b> この授業では、地理情報システム (GIS) の基礎知識を学び、身の回りの事例やオープンデータを用いて、実際に GIS を活用する方法を習得することを目的とします。具体的には、地図と GIS の関係を理解し、地図データと地図上の事物、現象の属性データを統合してデータベース化し、それを検索、分析、可視化することを目指します。そのために、GIS の基本操作、空間分析の方法を身に付けます。																		
<b>授業目標 :</b> ① GIS とは何か、活用事例に関連付けて説明できる。 ② GIS のデータモデル、座標系について説明できる。 ③ GIS のオープンデータを活用することができる。 ④ GIS の基本操作ができる。 ⑤ GIS を使用して、空間分析ができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要なに○ 1 つ)																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態											
1	インストラクション「地理情報システム (GIS)」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。GIS とは何か、GIS の活用事例を紹介する。			事前: なし 事後: ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)											
2	GIS のデータモデル ベクター形式のデータモデルとラスター形式のデータモデルについて学ぶ。			事前: GIS のデータモデルについて調べてまとめる。 事後: ミニッツペーパー			講義 (90分)											
3	GIS と座標系 座標系とは何か、地図と GIS の座標系について学ぶ。			事前: 地図と GIS の座標系について調べてまとめる。 事後: ミニッツペーパー			講義 (90分)											
4	GIS のオープンデータ (1) 基盤地図情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前: 国土地理院の Web サイトで基盤地図情報について下調べをする。 事後: 指定する地域の基盤地図情報を地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
5	GIS のオープンデータ (2) 国勢調査データのダウンロードと地図化について学ぶ。			事前: 総務省の Web サイトで国勢調査データについて下調べをする。 事後: 指定する地域の国勢調査データを地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
6	GIS のオープンデータ (3) 国土数値情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前: 国土交通省の Web サイトで国土数値情報について下調べをする。 事後: 指定する地域の国土数値情報を地図化する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
7	GIS の基本操作 (1) プロジェクトの作成とデータの入出力について学ぶ。			事前: 指定する GIS について Web サイトで下調べする。 事後: 今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
8	GIS の基本操作 (2) レイヤの編集について学ぶ。			事前: レイヤについて読んでまとめる。 事後: 今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
9	GIS の基本操作 (3) 地図と属性データの結合、属性検索について学ぶ。			事前: 地図と属性データの結合について読んでまとめる。 事後: 今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
10	GIS の基本操作 (4) 属性テーブル編集とフィールド演算について学ぶ。			事前: 属性テーブルとフィールド演算について読んでまとめる。 事後: 今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
11	GIS の基本操作 (5) バッファの作成とオーバーレイについて学ぶ。			事前: バッファとオーバーレイについて読んでまとめる。 事後: 今回学んだ基本操作を復習する。			講義 (40分) 実習 (50分)											
12	GIS の課題研究: 課題データのダウンロードと編集を行う。			事前: 課題データのテーマを決める。 事後: 課題研究を進める。			講義 (20分) 実習 (70分)											
13	GIS の課題研究: 空間分析を行う。			事前: なし 事後: 課題研究を進める。			講義 (20分) 実習 (70分)											
14	GIS の課題研究: 空間分析のまとめ、レポートの作成を行う。			事前: なし 事後: レポートを完成させ、期限までに提出する。			講義 (20分) 実習 (70分)											
15	課題研究発表と学びの振り返りを行う。 GIS が支える近未来の社会について考える。			事前: 学習ポートフォリオを整理する 事後: 学びの振り返り。			講義 (30分) 発表 (60分)											
<b>教本 :</b> 授業内で指示する。 羽田 康祐 (2021) 『地図リテラシー入門—地図の正しい読み方・描き方がわかる』 ベレ出版 ISBN : 978-4860646660 橋本 雄一 (2019) 『五訂版 GIS と地理空間情報 : ArcGIS 10.7 と ArcGIS Pro 2.3 の活用』 古今書院 ISBN : 978-4772242134 その他、必要に応じて授業内で紹介する。																		
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、事前事後課題、振り返り等) : 60%、課題研究 : 40% ※学習ポートフォリオは、ループリック (評価基準) による自己評価を含む。																		
<b>学生へのアドバイス :</b> スマートフォンやインターネット上に、地図が溢れている時代、それを支える GIS の仕組みを理解して、地図と情報を適切に活用することができる力は、今を生きるために求められる力といえます。この授業では、実際に GIS を使用した実習が主となります。																		
オフィスアワー : 初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	ディスカッション(Discussion)						科目分類	専門科目													
担当教員	澤田 帆奈美																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要:																					
ディスカッションのトレーニングを行なう。グループディスカッションの手順を知る。意見の述べ方、反論のしかた、意見のまとめ(総括)のしかたを知り、トレーニングする。ディベートの実践、分析も同様に行なう。コミュニケーションにおける自己の特徴を理解し、弱点改善のためのトレーニングを行なう。																					
授業目標:																					
1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べることができる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態														
1	オリエンテーション(授業の進め方) 自己評価 グループディスカッションについて(概説)				事前:シラバスを読んでくる 事後:資料の整理と記入		講義(30分)・ 各自作業(60分)														
2	自己理解を深める アイスブレイク、スマートトーク グループディスカッション 事前準備1				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
3	傾聴(うなずき・あいづち・復唱)、議論でのルール 司会者(ファシリテーター)の役割 グループディスカッション 事前準備2				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
4	プレーンストーミング・ブレイン・ライティング(概説) グループディスカッション1(ブレイン・ライティング)				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(40分)・ グループ活動(50分)														
5	意見の述べ方(意見と根拠 論理性) グループディスカッション2(ブレイン・ライティング)				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
6	アイディアの広げ方 別の立場・視点から考える グループディスカッション3(プレーンストーミング)				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
7	議論の整理のしかた グループディスカッション4(プレーンストーミング)				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
8	論題(テーマ)の種類 テーマ分析と論点の確認 グループディスカッション5				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
9	意見への質問のしかた 議論の深め方(反対意見を想定してみる) グループディスカッション6				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
10	反論のしかた(引用、讓歩、反駁) グループディスカッション7				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
11	意見のまとめ(総括)のしかた グループディスカッション8				事前:事前資料の読み 事後:活動メモの整理記入		講義(20分)・ グループ活動(70分)														
12	ディベートについて(概説) 動画視聴				事前:配付資料の熟読 事後:ノート・資料の整理		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
13	ディベート1				事前:なし 事後:活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
14	ディベート2				事前:なし 事後:活動メモの整理記入		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
15	全体のまとめ 事後自己評価				事前:質問・確認の洗い出し 事後:なし		講義(30分)・ グループ活動(60分)														
教本:																					
宮内泰介著『グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング』 三省堂 ・資料とタスクシートを配付する。					参考文献: 下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術』東海大学出版会 中野美香著『大学生からのグループディスカッション入門』ナカニシヤ出版																
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 議論への参加等の発言(65%)、振り返りレポート・提出物等(30%)、自己評価票(5%)等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス: 議論することのおもしろさを経験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構えを持って受講してください。																					
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習							
授業科目(英文)	ディスカッション(Discussion)					科目分類	専門科目									
担当教員	横手 拓治			履修条件	前提科目	なし	その他	なし								
授業概要:	本講は、同じテーマについて意見の違い・主張の違い・考え方の力点の相違があることを理解し、それらの分析と自身の見解を述べることを実施し、併せてよりよい論議の方法について学修するものである。															
授業目標:	*新聞の論調を材料に、現代のさまざまな問題に対して、意見の違いを見出しどう主張していくかを理解しながら、ディスカッションのスキルを身につける。*メディア・リテラシーを涵養することにも繋がる授業である。															
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得															
	○		○		思考力・判断力・表現力の育成											
学びに向かう力・人間性の涵養																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態									
1	授業の進め方を含めた、全体のオリエンテーション					事前:シラバスを読んでおく 事後:webから情報を得る	講義30分、演習60分									
2	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。①社会 *新聞を購読していないくでも実践できる内容としている。					事前:webから情報を得る 事後:社会の知識を増やす	講義30分、演習60分									
3	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。②政治 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:政治の知識を増やす	講義30分、演習60分									
4	題材としての新聞論調の解説、および実例に触れる。③暮らしの経済 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:経済の知識を増やす	講義30分、演習60分									
5	新聞コラムの読み比べ① ガイダンス *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、演習60分									
6	新聞コラムの読み比べ② 学生発表と討議第1回 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分									
7	新聞コラムの読み比べ③ 学生発表と討議第2回 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分									
8	グループディスカッション① *事前のテーマ設定あり					事前:webから情報を得る 事後:意見交換の復習	講義30分、演習60分									
9	意見や疑問をもとにした主張のための情報収集 動画視聴①					事前:webから情報を得る 事後:情報収集の復習	講義30分、視聴60分									
10	新聞社説・論説の読み比べ① ガイダンス *は同じ					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、演習60分									
11	新聞社説・論説の読み比べ② 学生発表と討議第1回 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分									
12	新聞社説・論説の読み比べ③ 学生発表と討議第2回 *は同じ。					事前:webから情報を得る 事後:読み比べの実施	講義30分、発表60分									
13	意見や疑問をもとにした主張のための情報収集 動画視聴②					事前:webから情報を得る 事後:情報収集の復習	講義30分、視聴60分									
14	グループディスカッション② *事前のテーマ設定あり					事前:webから情報を得る 事後:意見交換の復習	講義30分、演習60分									
15	まとめの講義と、授業内最終課題の実施。					事前:読み比べの復習 事後:全体の復習	講義45分、課題45分									
教本:	参考文献: なし。必要な素材についてはその都度コピーを配布。 授業において適宜、紹介する。															
成績評価の方法、評価基準:	授業参加・発表状況(40%)、レビューシート(40%)、最終試験(20%)等で総合評価する。															
学生へのアドバイス:	授業内容でも触れたように、この授業は新聞論調を題材にするが、新聞を購読していない学生、日ごろ新聞を読まない学生も対象にしており、充分対応できるようになっている。webを通じて収集するのを基本としているためである。*就活やインターンにも役立つので、面接対策にも利用できる。															
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。															

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	データサイエンス (Data Science)						科目分類	専門科目														
担当教員	井上 明也																					
履修条件	前提科目	なし			その他	EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること																
<b>授業概要 :</b> 近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。																						
<b>授業目標 :</b> どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。複数の要因を考慮した分析が必要な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。																						
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b>																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																						
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態														
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンスの概要と関連動向				事前: シラバスを読む 事後: 資料を復習する			講義60分 演習30分														
2	データ分析の基礎 可視化によるデータ分析と回帰分析の基礎				事前: 前回の資料を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
3	重回帰分析 - 1 複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
4	重回帰分析 - 2 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
5	重回帰分析 - 3 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
6	判別分析 - 1 機械学習に活用される判別分析手法とその活用法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
7	判別分析 - 2 複数のサンプルデータを用いた判別分析の適用方法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
8	数量化理論 I 類 - 1 定性的なデータを説明変数(要因)とする回帰分析手法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
9	数量化理論 I 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
10	数量化理論 II 類 - 1 定性的なデータを説明変数(要因)とする判別分析手法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
11	数量化理論 II 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 II 類の適用方法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
12	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰 & 数量化理論 I 類混合モデルとその活用法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
13	ロジスティック回帰分析 機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
14	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
15	最終課題 これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施				事前: 前回の資料と課題を復習する 事後: 資料と課題を復習する			講義30分 演習60分														
教本: 指定しない		参考文献: 講義内で指示する																				
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。																						
<b>学生へのアドバイス :</b> 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																						
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	データサイエンスの統計学 (Statistics for Data Science)						科目分類	専門科目													
担当教員	井上 明也																				
履修条件	前提科目	なし			その他	EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること															
授業概要:																					
近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。																					
授業目標:																					
統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義													
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
6	確率変数と期待値-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
7	確率変数と期待値-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
10	区間推定-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
11	区間推定-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
14	有意差検定-1-等平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
15	有意差検定-2-母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分													
教本：					参考文献： 講義初回のガイダンスで指示する。																
成績評価の方法、評価基準：					講義内で指示する																
成績評価の方法、評価基準：																					
演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	データサイエンス I (Data Science I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること																								
授業概要:																										
近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。																										
授業目標:																										
どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。複数の要因を考慮した分析が必要な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンスの概要と関連動向					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義60分 演習30分																		
2	データ分析の基礎 可視化によるデータ分析と回帰分析の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
3	重回帰分析 - 1 複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
4	重回帰分析 - 2 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
5	重回帰分析 - 3 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
6	判別分析 - 1 機械学習に活用される判別分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
7	判別分析 - 2 複数のサンプルデータを用いた判別分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
8	数量化理論 I 類 - 1 定性的なデータを説明変数（要因）とする回帰分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
9	数量化理論 I 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
10	数量化理論 II 類 - 1 定性的なデータを説明変数（要因）とする判別分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
11	数量化理論 II 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 II 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
12	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰＆数量化理論 I 類混合モデルとその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
13	ロジスティック回帰分析 機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
14	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
15	最終課題 これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
教本:		参考文献: 指定しない 講義内で指示する																								
成績評価の方法、評価基準:																										
演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	データサイエンス II (Data Science II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること																								
授業概要:																										
データサイエンスの本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかに有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、ビジネス課題への活用法と留意点について学ぶとともに、ビジネスへの適用事例である演習課題を通して、データ分析技術とその活用法を学ぶ。また、課題解決のために必要となるデータの選定、調査法も演習を通して学ぶ。																										
授業目標:																										
現実の課題に対して、分析に必要となるデータの選定と入手方法の検討から、分析の実行、分析結果の評価、という一連の流れを理解する。具体的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、ビジネスにおけるデータ分析フロー ビジネスにおけるデータ分析処理の流れとその概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義60分 演習30分																		
2	ビジネスにおけるデータサイエンスの基本コンセプト ビジネスにおけるデータサイエンスの処理プロセスと留意点					事前：前回の資料を復習する 事後：資料を復習する		講義30分 演習60分																		
3	コンジョイント分析 商品開発に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
4	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-1					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
5	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-2					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
6	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-3					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
7	コンジョイント分析によるビジネス活用事例-4					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
8	データサイエンスによる課題解決-1 課題の分析と問題設定のための手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
9	データサイエンスによる課題解決-2 分析に必要なデータの抽出と定義					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
10	データサイエンスによる課題解決-3 データ収集のための調査手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
11	データサイエンスによる課題解決演習-1 課題の選定と問題設定					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
12	データサイエンスによる課題解決演習-2 調査票の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
13	データサイエンスによる課題解決演習-3 調査の実施とデータの整理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
14	データサイエンスによる課題解決演習-4 分析の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
15	データサイエンスによる課題解決演習-5 分析結果のプレゼンの実施					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義15分 演習75分																		
教本：		参考文献： 指定しない 講義内で指示する																								
成績評価の方法、評価基準：																										
演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	データ処理 (Data Processing)						科目分類	基礎科目（メディア以外） 専門科目（メディア）											
担当教員	井上 明也・金 宰郁・山本 美紀																		
履修条件	前提科目	情報基礎／情報処理概論			その他	※「学生へのアドバイス」参照													
授業概要： 主に表計算ソフトを利用して、コンピュータにおけるデータ処理・分析について学習する。																			
授業目標： 表計算ソフトの操作に習熟し、表やグラフのデータ表現や関数等を利用したデータ処理・分析の手法を身につけることが本講義の目標となる。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	シラバスの確認、データの種類とデータ処理・分析の概説			事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習			講義 60分、演習 30分												
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎			事前：ファイル形式について調べる 事後：作表課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
3	数式と基本関数の利用			事前：基本関数について調べる 事後：関数利用課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
4	数式と絶対／相対参照			事前：参照について調べる 事後：複合参照課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
5	グラフの作成			事前：グラフの種類について調べる 事後：グラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
6	表示形式の設定			事前：表示形式について調べる 事後：ユーザ定義表示形式課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
7	複数シートの操作			事前：シートの操作について調べる 事後：複数シート課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
8	高度な関数の利用			事前：様々な関数について調べる 事後：関数課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
9	条件付き書式			事前：条件付き書式について調べる 事後：条件付き書式課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
10	データベースの利用			事前：データベースについて調べる 事後：データベース課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
11	ピボットテーブル			事前：ピボットテーブルについて調べる 事後：ピボットテーブル課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
12	高度なグラフの作成			事前：複合グラフについて調べる 事後：高度なグラフ課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
13	マクロの利用			事前：マクロについて調べる 事後：マクロ課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
14	外部データの利用			事前：データの取り込みについて調べる 事後：外部データ課題を完成する			講義 45分、演習 45分												
15	まとめ、総合練習問題			事前：総合練習問題を練習する 事後：総合練習課題を完成する			講義 60分、演習 30分												
教本： 講義内で指示する			参考文献： 講義内で指示する																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内の演習及び小テスト（50%）、提出課題（50%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、適時バックアップを取るようにしてください。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	データマイニング (Data Mining)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること																										
授業概要：																										
「データマイニング」とは多量のデータから新たな知見・知識を得ることを意味する。「マイニング」とは「採鉱」であり、語源の通り鉱山から金鉱を掘り当てるという行為に似た作業である。本講義では「データマイニング」とはなにか、その実現技術とはどのようなものかを学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。																										
授業目標：																										
どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。原因（要因）と結果の関係を明らかにする基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、データマイニングとは データマイニングの登場、発展の背景と現状について理解する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義																		
2	処理プロセスとデータ分析手法の基礎 データ分析の処理プロセスと分析手法の概要を理解する					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
3	データ分析の基礎1 分析目的に適したデータのグラフ化、可視化手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
4	データ分析の基礎2 基本統計量とヒストグラムによる分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
5	データ分析の基礎3 バレート図によるデータ分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
6	データ分析の基礎4 クロス集計データの分析方法、相関係数の意味理解と算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
7	データ分析の基礎5 単回帰分析の意味理解と単回帰式の算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
8	データ分析演習1 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
9	データ分析演習2 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
10	データ分析演習3 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
11	データ分析演習4 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
12	データ分析演習5 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
13	データ分析演習6 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
14	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分																		
15	最終課題 これまでに学んだ手法を活用した最終課題の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
教本：		参考文献： 指定しない 講義内で指示する																								
成績評価の方法、評価基準：																										
演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	データモデリング (Data Modeling)						科目分類	専門科目														
担当教員	山本 美紀																					
履修条件	前提科目	なし			その他			Microsoft Access がインストールされたノートパソコンを用意すること。														
授業概要:																						
この授業では、データモデリングの枠組みについて学び、社会にあふれている膨大なデータを一定のルールに基づいて整理し、価値ある情報にするためのデータモデリングの手法を身に付けます。また、データベースを操作するためのSQLの基礎を学び、実際に、データモデリングによってデータベースを構築することを目指します。																						
授業目標:																						
①データベースモデリングとは何か、システム開発のプロセスに対応づけて説明できる。 ②概念データモデリング、論理データモデリング、物理データモデリングで用いる手法について説明できる。 ③SQLを用いてデータベースの基本操作ができる。 ④社会のある事象に注目して、実際にデータモデリングを行い、自分の知りたい情報を得ることができる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○◎、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態															
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 データベースモデリングとは何か、について学ぶ。			事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）															
2	データベースとリレーションナルデータベースについて学ぶ。			事前：DBの種類を調べる 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
3	概念データモデリング (1) エンティティと属性について学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
4	概念データモデリング (2) ERモデルについて学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
5	論理データモデリング (1) 正規化について学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
6	論理データモデリング (2) テーブルとビューについて学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
7	物理データモデリング (1) 非正規化について学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義・演習（60分） 小テスト（30分）															
8	物理データモデリング (2) インデックスと領域について学ぶ。			事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）															
9	SQLによる演習 (1)① データベースの作成と削除、② テーブルの作成と削除、更新について学ぶ。			事前：SQLについて下調べ 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）															
10	SQLによる演習 (2)① 主キーと外部キーの制約、② レコードの追加と削除、更新について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）															
11	SQLによる演習 (3) SELECT文の基本構文について学ぶ。			事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）															
12	期末課題：概念データモデリングを行う。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）															
13	期末課題：論理データモデリングを行う。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）															
14	期末課題：物理データモデリングを行う。			事前：配布資料を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）															
15	まとめと学びの振り返りを行う。 データベースとプログラムを連携した事例について紹介する。			事前：学習ポートフォリオ整理 事後：学びの振り返り			講義（60分） グループワーク（30分）															
教本：					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。																	
指定しない。																						
必要に応じて授業内で資料等を配布する。																						
成績評価の方法、評価基準：																						
学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ループリック（評価基準）による自己評価を含む。																						
学生へのアドバイス：																						
この授業では、データモデリングの基礎的な知識を学ぶだけでなく、積極的に演習を行って、データモデリングのセンスを身に付けてください。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	デジタル技術と産業 I (Digital Technology and Industry I)						科目分類	専門科目						
担当教員	飯島 祥二													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	本講義の目的は、観光学領域の基礎的な知識を修得し、観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的能力と態度を育てることにある。そのために、「学術的な観光学の枠組」・「旅行者行動の分析手法」「新たな観光産業の形態」について講義をする。特に、観光現象の「複雑性」・「学際性」を論ずることにより、「観光現象（観光産業を含む）のシステム的理解」を促す基礎的知識を提示する。													
授業目標:	(1) 観光学の枠組みを理解する。 (2) 観光産業の特性を理解する。 (3) 社会のデジタル化に対する観光産業への応用の基礎（システム化への基礎的知識）を理解する。													
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）													
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分							
2	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類（観光学における関連性に関して）(Leiper(1990))				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
3	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけとその他の領域（観光学領域以外）との関連性 (Morley(1990)を中心)に				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
4	Origin (潜在的ツーリスト) と Destination (目的地) の学術的関係性 (Mill and Morison(1985))				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
5	「観光行動の特性」と「観光商品の特徴」：纏めと情報化への道筋				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
6	「潜在的観光者の動機づけ」の枠組と体系性				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
7	「観光者の動機づけ」：Push factor (発動要因) と Pull factor (誘因要因) の概説				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
8	Push factor (発動要因) と Pull factor (誘因要因) の具体的な内容とその関係性：観光現象の情報学的説明への応用				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
9	旅行者行動の時系列的分析の基礎				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
10	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の概説				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
11	観光商品の購入に関する「意思決定モデル」の研究成果と今後の課題				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
12	観光商品計画の時系列的理（供給と需要の相互関係性）：仮説的枠組みの紹介				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
13	観光商品計画の時系列的理（消費者行動論的意味とその応用、特に「観光商品への期待」に関して）				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
14	観光産業のデジタル化への道筋：「観光学」の貢献しうる領域とその限界性				事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、小レポート 10 分							
15	纏め				事前：今までの講義の復習 事後：講義全休の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分							
教本:	参考文献: 必要に応じプリントを配布する。 適時指定する。													
成績評価の方法、評価基準:	平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	デジタル技術と産業II (Digital Technology and Industry II)						科目分類	専門科目													
担当教員	井上 明也																				
履修条件	前提科目	なし			その他	ノートパソコンを用意すること															
授業概要:																					
近年、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどのデジタル技術の進化により、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。																					
授業目標:																					
AIを中心としたデジタル技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	ビジネスモデル理解の基礎I シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ				事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する			講義													
2	ビジネスモデル理解の基礎II ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ				事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分													
3	ビジネスモデル理解の基礎III 戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分													
4	ビジネスに影響を与える技術動向 DX、AIの概要とビジネスへの影響について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分													
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ				事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する			講義60分 演習30分													
6	ビジネスモデルの紹介1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
7	ビジネスモデルの紹介2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
8	ビジネスモデルの紹介3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
9	ビジネスモデルの紹介4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
10	ビジネスモデルの紹介5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
11	ビジネスモデルの紹介6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
12	ビジネスモデルの紹介7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
13	ビジネスモデルの紹介8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン				事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する			講義20分 プレゼン70分													
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ				事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する			講義60分 演習30分													
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ				事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する			講義10分 プレゼン80分													
教本：																					
参考文献： 『この一冊で全部わかる ビジネスマネジメント 基本・成功パターン・作り方が一目でわかる』、¥1,760																					
成績評価の方法、評価基準：																					
レポート課題・プレゼンテーション等（100%）で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	デジタル社会とコミュニケーション (Digital Society and Communication)			科目分類			専門科目															
担当教員	鈴木 秀顕																					
履修条件	前提科目	なし																				
	その他	PCを持参の上、参加してください。																				
授業概要：																						
本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれにまつわる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。																						
授業目標：																						
現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス（産業社会とメディアの変容）				事前：なし 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミュニケーションをとります。				事前：精読① (115-124) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (115-124) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (125-137) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (138-147) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (148-158) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (159-168) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (169-180) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読① (181-190) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読② (1-28) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読② (29-46) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読 (47-66) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読 (67-96) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読 (97-120) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。				事前：精読 (121-152) 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカッション 45分														
教本：		参考文献：																				
①『情報社会とコミュニケーション技術』(明石書店)		なし																				
②『コミュニケーション学講義』(書籍工房早山)																						
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	デジタル社会と人間 (Digital Society and Human Beings)						科目分類	専門科目										
担当教員	金澤 秀嗣																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
講義においてはデジタル社会を必ずしも自明なものと看做さず、アナログ社会をも含めた視座から、人間と社会に関する理論を俯瞰する。そのうえで、履修者が各々考察を加え、意見を提起してもらいたい。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。																		
授業目標:																		
デジタル・アナログを問わず、社会における人間の在り方とそれに附随する諸問題をトータルに把握することを目指す。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	講義の導入：「デジタル社会と人間」概説			事前：講義に臨む準備をする。 事後：講義内容を纏める。			講義 90分											
2	〈欠陥動物〉としての人間と制度・文化 Arnold Gehlen と哲学的人間学			事前：Gehlenについて調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
3	〈システム〉による「複雑性の縮減」効果 Niklas Luhmann とシステム論			事前：Luhmannについて調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
4	デジタル社会において伝統的教養が不要となるか Pierre Bourdieu と文化社会学 ①			事前：Bourdieuについて調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
5	デジタル社会は階層格差を解消するか Pierre Bourdieu と文化社会学 ②			事前：「文化資本」について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
6	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ①			事前：Rawlsについて調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
7	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ②			事前：AAについて調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
8	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ①			事前：Libertarianism概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
9	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ②			事前：Libertarianismの諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
10	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ①			事前：Communitarianism概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
11	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ②			事前：Communitarianismの諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
12	デジタル社会と自己決定権 法学上の Paternalism とその正当化事由			事前：Paternalismについて調べておく。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
13	デジタル社会と自己決定権 臓器提供意思表示方式の事例から			事前：臓器移植について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
14	デジタル社会と自己決定権 行動経済学・「nudge 理論」に対する批判的考察			事前：「nudge 理論」について調べる。 事後：講義内容を纏める。			講義 60分 演習 30分											
15	講義の総括と展望			事前：これまでの講義内容を纏める。 事後：試験の模範解答を作成する。			講義 90分											
教本：																		
特に定めない。講義に際してはレジュメを配布する。																		
参考文献：																		
必要に応じて教場にて紹介する。																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																		
定期試験（100%）の成績による。																		
学生へのアドバイス：																		
定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお、履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	デジタル社会論 (Digital Society)					科目分類	専門科目								
担当教員	高橋 敏哉			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要：	デジタル社会という言葉が広く使われています。しかし、その実際の姿はどのようなものなのでしょうか？この講義では、最近のデジタル社会の議論に触れながら、その社会について様々な角度から考察を試みます。後半は社会学の視点から、デジタル社会とそれ以前の社会を比較分析する視点を養い、幅広くデジタル社会に関わるための見識を身に付けます。														
授業目標：	①デジタル社会の様相について多角的に分析できる。 ②社会学の視点からデジタル社会とそれ以前の社会を比較できる。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	知識・技能の習得														
	○		○		学びに向かう力・人間性の涵養										
授業計画・事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	オリエンテーション：なぜ「デジタル社会」を学ぶか？					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
2	日本における「デジタル社会論」：最近の議論とその限界					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
3	デジタル技術・デジタル化の特徴 ①					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分							
4	デジタル技術・デジタル化の特徴 ②					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分							
5	デジタル技術の社会への当てはめで何が起こるか ①					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分							
6	デジタル技術の社会への当てはめで何が起こるか ②					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分							
7	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分							
8	従来の社会的相互作用の姿（伝統的社会、工業化社会等）					事前：教科書指定個所学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
9	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
10	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
11	情報とデジタル社会：フェイクニュース等					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
12	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分							
13	AIとデジタル社会 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
14	AIとデジタル社会 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
15	まとめ					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分							
教本：	参考文献： 『「デジタル社会」とは何か』（学習の友社） ¥1,760 『超デジタル世界』（岩波新書） ¥840														
成績評価の方法、評価基準：	授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。														
学生へのアドバイス：	教科書は前半の講義に使います。購入しない場合、受講は控えてください（参考文献も、できれば参照しておくと知識が増えます。やや雑学的はありますが重要な知見もあります）。後半は、講義での配布物、視聴覚教材等で進行します。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝えます。														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	デジタルとエンターテイメント産業 (Digital Game Industry)						科目分類	専門科目									
担当教員	真保 安一郎																
履修条件	前提科目	なし															
	その他	なし															
授業概要:	<p>日本のゲーム産業の誕生から現在までの経緯を通じて、ゲームの歴史とその変遷を理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>11回からはゲームの成長とコミック・アニメ等の他のメディアとの提携を通じてデジタル産業の拡大について学びます。</li> <li>15回はゲームのプロジェクトの立ち上げ方についての序章となっています。</li> </ul>																
授業目標:	<p>ゲーム産業の成り立ちを理解し、日本におけるゲーム産業の立ち位置を他のメディアとの関わりの中で認識する。</p>																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
○		○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態									
1	ゲーム産業の歴史01:概観を講師のキャリアとともに振り返る。自分のゲーム経験をもとに、クラスのゲームに対する共通体験を認識する。				事前:自分のゲーム体験を振り返っておきましょう 事後:ゲーム産業の歴史における自分の立ち位置を200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
2	ゲーム産業の歴史02:米国のアタリショックと日本のアーケード スーパーマリオ誕生までの産業史的な流れを学び、当時の技術のレベルを認識する。				事前:80年代前半の北米のゲーム産業を調べておく 事後:スーパー・マリオ誕生の世界史的な流れを200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
3	ゲーム産業の歴史03:ファミコンが爆発的に売れた時、業界内では何があったのか。スーパー・ファミコンの登場が社会になにをもたらしたのかを学ぶ。				事前:ファミコンの代表的なタイトルを調べておく 事後:スーパー・ファミコンにおける任天堂の戦略を200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
4	ゲーム産業の歴史04:95年とは何だったのか? PCノベルゲームの終焉。95年の世界史的な位置付けを学ぶ。				事前:95年のIT情勢を調べておく 事後:インターネット登場の影響を200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
5	ゲーム産業の歴史05:セガとソニー その他のハードの乱立。群雄割拠となった各社のハード戦略を学ぶ。				事前:セガのハード、ソニーのプレステについて調べる 事後:各社のハード戦略について200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
6	ゲーム産業の歴史06:任天堂 VS SONY 2強時代へ。今まで統くハードメーカーの戦略について学ぶ。				事前:任天堂のハードについて調べる 事後:任天堂のハードの歴史について200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
7	ゲーム産業の歴史07:モバイルゲームの台頭 モバゲー対GREE ガチャ規制など、ゲーム業界の大きな変革期の背景と影響について学ぶ。				事前:2010年前後のモバイルゲームについて調べる 事後:携帯ゲームの当時の社会への影響を200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
8	ゲーム産業の歴史08:スマホネイティップアプリの闇 バズドラとモンハン 日本の敗北。スマホネイティップ・アプリとは何か。それまでとどう違ったのかを学ぶ。				事前:スマホ・アプリに関する自分の体験を振り返っておく 事後:現在の世界的な情勢・今後の展開を200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
9	ゲーム産業の歴史09:e-sportsとSteam 配信コンテンツの時代。現代世界を席巻しているSteamと日本では遅れ気味のe-sportsに関して知見を深める。				事前:現在のSteamの世界情勢を調べておく 事後:将来の展開を200字で予想する			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
10	ゲーム産業の歴史10:女性向けゲーム 恋愛ゲーム概論。一つのジャンルとして成立した女性向けゲームの特殊性と、ジャンル分けについて学ぶ。				事前:女性向けゲームについてどんなものがあるか調べておく 事後:何が特殊でどう違うのかを200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									
11	ゲームにおけるメディア連携01:どうして連携は必要だったのか?日本のエンターテインメント全体を俯瞰して、ゲームの位置付けと連携について学ぶ。				事前:ゲームにおける他メディアとの連携例を調べておく 事後:なぜ必要だったのかを200字でまとめる			講義40分／ディスカッション30分／発表20分									

12	ゲームにおけるメディア連携02：IPとキャラクター・グッズ、CD、主題歌他。エンターテインメントのあらゆる方向に拡張していくゲームIPの姿を把握する。	事前：自分でもっているグッズ等を振り返っておく 事後：IPがどのように訴求していくのか200字にまとめる	講義40分／ディスカッション30分／発表20分		
13	ゲームにおけるメディア連携03：アニメ化、映画化、イベント事業。もつとも大きなメディアミックスといわれるアニメ、映画の映像化に関してその是非をディスカッションする。	事前：自分で見たことのあるゲーム関連アニメを調べておく 事後：成功例となった要因を200字でまとめる	講義40分／ディスカッション30分／発表20分		
14	ゲームにおけるメディア連携04：プレイ動画、Vtuber、Youtuberの時代へ。現在隆盛を極める、Tuber系のメディアにおけるゲームの位置付けと役割をディスカッションする。	事前：何本かゲームのプレイ動画を視聴しておく 事後：今後の発展可能性を200字でまとめる	講義40分／ディスカッション30分／発表20分		
15	ゲームの作り方 序章：ゲームを起ち上げる。ゲームを作り始めるには、まず何をどうすればいいか、講師の経験をもとにディスカッションを行い、半期のゲームの授業を振り返る。	事前：自分で作るならどのようなゲームがいいか考えておく 事後：半期の授業の感想を250字でまとめる	講義40分／ディスカッション30分／発表20分		
教本： なし		参考文献： なし			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 日本が誇るゲーム産業の歴史を、ゲーム業界で35年間、実際に開発をしてきた講師の体験と知識に基づき学んでいきます。11回からは各種メディアとゲームの連携。最後はゲームの作り方にふれる予定です。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	デジタル認証技術基礎 (Basic Digital Authentication Technology)					科目分類	専門科目													
担当教員	金 宰郁																			
履修条件	前提科目	情報処理概論					その他	なし												
<b>授業概要：</b> 現代社会においてデジタル認証技術は、情報システムや情報資産を維持・管理するために、さまざまな危険・脅威から保護するか定め運用・管理する一連のプロセスのことを言う。この授業では情報セキュリティ対策を実施するうえで、どのような情報をどのように保護していくかを定めた基本方針のことを学習しながらデジタル認証技術基礎を習得する。																				
<b>授業目標：</b> 1. インターネットに代表されるデジタル認証技術、情報通信技術の現状を理解し、情報化社会における情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護等について幅広く学ぶ。2. デジタル認証処理の基礎技術を学び、その応用力を身につける。																				
<b>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</b>																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス、授業科目名であるデジタル認証について説明し、確認をする。				事前：教科書の準備をする。 事後：認証関連書を調べる。			講義 80分、ディスカション 10分												
2	デジタル認証技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。				事前：n進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
3	デジタル認証技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカションを行い、発表を行う。				事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
5	デジタル認証技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
6	デジタル認証技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカションを行い、発表を行う。				事前：RGB, CMYK を調べる。 事後：RGB, CMYK を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
8	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。				事前：認証技術について調べる。 事後：デジタル認証技術の概要、動向を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
9	デジタル認証技術であるメッセージ認証子（MAC）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：MACについて調べる。 事後：MACを纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
10	デジタル認証技術であるハッシュ（Hash）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：ハッシュ値を調べる。 事後：ハッシュ値を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
11	デジタル認証技術であるデジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
12	デジタル認証技術である多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
13	デジタル認証技術である生体認証について説明し、映像を見ながらディスカッションを行い、その課題を行う。				事前：生体認証を調べる。 事後：生体認証を纏める。			講義 40分、ディスカション 30分、課題 20分												
14	インターネット社会の情報セキュリティインターネット事件の最近の事例を説明し、それについてディスカションを行う。				事前：情報セキュリティ事件の事例を調べる。 事後：事例を纏める。			講義 60分、ディスカション 30分												
15	デジタル認証技術について纏める。デジタル認証技術の授業科目について感想を発表する。				事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。			講義 50分、発表 40分												
教本： なし					参考文献： なし															
<b>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</b> 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。																				
<b>学生へのアドバイス：</b> 初回の授業に必ず出席すること。認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べること。																				
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	デジタルビジネスモデル論 (Digital Business Model)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
現代社会における職業は、情報によるDXやAI経営が進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。																										
授業目標:																										
デジタルビジネスモデルを理解し、デジタルトランスフォーメーションDXやAI経営に対する考え方を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	次世代企業の構築（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）				事前：精読①（14-38） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
2	デジタル化がもたらす脅威と事業機会（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）				事前：精読①（40-60） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
3	企業の未来のデジタルビジネスモデル（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）				事前：精読①（62-97） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
4	デジタル競争優位を生み出すもの（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）				事前：精読①（100-144） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
5	モバイルやIoTを使ってどのようにつながるか（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）				事前：精読①（146-194） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
6	AI経営とは何か（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（26-61） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
7	AI経営の5つのレベル（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（64-81） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
8	そもそもAIとは何か（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（86-97） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
9	AI経営に必要なBXT思考（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（99-126） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
10	AI経営を実践する6つのステップ（グループディスカッション、発表）				事前：精読②（128-201） 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
11	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション				事前：事前調査 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
12	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション				事前：事前調査 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
13	ビジネスモデルナビゲーターから選び事例調査、発表、ディスカッション				事前：事前調査 事後：議論レポートの作成			講義 45分 ディスカション 45分																		
14	企業選定、ビジネスモデル調査				事前：事前調査 事後：発表準備			選定 45分 調査 45分																		
15	ビジネスモデル発表				事前：発表準備 事後：振り返り			発表 90分																		
教本:																										
(1)『デジタル・ビジネスモデル』(日本経済新聞出版社) (2)『「AI経営」の教科書』(東洋経済新報社)					参考文献: 『ビジネスモデルナビゲーター』(翔泳社)																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりしてから臨んでください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	哲学 (Philosophy)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	金澤 秀嗣																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要： 哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。																										
授業目標： 講義「哲学」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
2	【古代哲学】存在・「ある」とはどういうことか：ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
3	生成「ある」と「なる」：エレア学派とヘラクレイtosの相違を明らかにする。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか：中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分																		
教本： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。					参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。																										
学生へのアドバイス： 私が提供するのは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。																										
オフィスアワー： 木曜日昼休み。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習											
授業科目(英文)	伝統文化 (Introduction to Japanese Tradition and Culture)						科目分類	専門科目												
担当教員	石井 みどり																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
日本人は、海に囲まれた島国で、四季折々の豊かな自然とともに暮らしてきました。有形、無形を問わず、世代を超えて受け継がれてきた文化がたくさんあります。本講義では、日本人の日常生活の中にある伝統文化を学んでいきます。																				
授業目標:																				
伝統文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。伝統文化には、日本人のどんな気持が込められているのでしょうか。みなさんは、日本の伝統文化の扱い手として、これから何を表現していきますか？																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：伝統文化を学ぶ必要性			講義 90分												
2	「和」の伝統文化とは何か				事前：伝統文化とは何か 事後：「和」の十七条憲法			講義 90分												
3	食の文化 ① 和菓子				事前：和菓子の種類 事後：和菓子の歴史と文化			講義 60分 グループワーク 30分												
4	食の文化 ② カレーライス				事前：洋食の種類 事後：洋食の歴史と文化			講義 60分 ディスカッション 30分												
5	食の文化 ③ 鮸				事前：鯛の料理 事後：鯛の文化			講義 60分 ディスカッション 30分												
6	折紙の文化				事前：折紙を折る 事後：折紙の歴史と文化			講義 50分 グループワーク 40分												
7	うつろ舟の伝説				事前：身近にある伝説 事後：伝説とは何か			講義 60分 ディスカッション 30分												
8	言葉とは何か				事前：大学生の言葉 事後：言葉とは何か			講義 90分												
9	子どもの遊び 「どちらにしようかな」				事前：子どもの頃の遊び 事後：手遊びの楽しさ			講義 50分 グループワーク 40分												
10	江戸時代の旅と伊勢参り				事前：江戸時代について 事後：旅は「見る」こと			講義 60分 ディスカッション 30分												
11	明治時代の改暦と鉄道の発展				事前：幕末から明治の幕開け 事後：時刻と鉄道の発展			講義 60分 ディスカッション 30分												
12	元三大師とおみくじ				事前：おみくじについて 事後：元三大師とおみくじ			講義 50分 グループワーク 40分												
13	製糸女工から見る労働者の文化				事前：大学生のアルバイト 事後：労働者の文化			講義 60分 ディスカッション 30分												
14	神と神社の成り立ち				事前：神社について 事後：神と神社の成り立ち			講義 60分 ディスカッション 30分												
15	まとめ				事前：伝統文化とは何か 事後：伝統文化を学ぶ必要性			講義 90分												
教本:					参考文献: 資料を配布するので、教科書は指定しません。 適宜、指示します。															
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等 (40%)、授業中の課題、定期試験 (60%) 等で総合評価します。																				
学生へのアドバイス:																				
文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。																				
オフィスアワー:																				
初回の授業で教えます。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義・演習														
授業科目(英文)	ドイツ語 I (German I)						科目分類	基礎科目															
担当教員	金澤 秀嗣																						
履修条件	前提科目	なし			その他	「ドイツ語 II」を次学期に必ず履修すること (単位を修得できなかった場合はこの限りではない)。																	
授業概要:																							
本講は初学者を対象とし、ドイツ語の総合的な能力を習得する。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。 語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。																							
授業目標:																							
初級文法の基礎を習得し、ドイツ語技能検定試験・5級に合格するレベルへ到達する。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態															
1	Das Alphabet				事前：教科書該当部分の精読 事後：文字の復習			講義 30分 演習 60分															
2	Aussprache(発音) ①				事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習			講義 30分 演習 60分															
3	Aussprache(発音) ②				事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習			講義 30分 演習 60分															
4	人称代名詞と不定詞・定動詞の現在人称変化/ 定動詞の位置・語順				事前：教科書該当部分の精読 事後：代名詞・動詞の用法確認			講義 60分 演習 30分															
5	sein の現在人称変化／Übungen				事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検			講義 30分 演習 60分															
6	名詞の性/名詞の格／冠詞の変化				事前：教科書該当部分の精読 事後：性と格変化の暗記			講義 60分 演習 30分															
7	haben の現在人称変化／Übungen				事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検			講義 30分 演習 60分															
8	名詞の複数形／男性弱変化名詞と例外的な名詞				事前：教科書該当部分の精読 事後：弱変化の暗記			講義 60分 演習 30分															
9	人称代名詞の3・4格／Übungen				事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検			講義 30分 演習 60分															
10	不規則動詞の現在人称変化／命令形 ①				事前：教科書該当部分の精読 事後：人称変化の暗記			講義 60分 演習 30分															
11	不規則動詞の現在人称変化／命令形 ②／Übungen				事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検			講義 30分 演習 60分															
12	不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞）				事前：教科書該当部分の精読 事後：不定冠詞の用法確認			講義 60分 演習 30分															
13	定冠詞類／Übungen				事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検			講義 30分 演習 60分															
14	前期確認問題				事前：教科書該当部分の精読 事後：確認問題の再点検			講義 30分 演習 60分															
15	前期確認問題の解答と解説／定期試験対策				事前：確認問題の再点検 事後：定期試験対策準備学習			講義 30分 演習 60分															
教本：各自、最寄りの書店で注文または出版社サイト（右欄参照）を通じて、 予め以下の2冊を必ず購入しておくこと（不所持者は出席不可）。					参考文献：教本・辞典のほかは特に用いない。 なお、左記教本入手先のひとつである出版社サイトのアドレスは以下の通り：																		
1. 『Deutsch mit Liebe』（朝日出版社）￥2,860 ISBN: 978-4-255-25421-0 2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』（朝日出版社）￥3,080 ISBN: 978-4-255-01343-5					1. <a href="https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1621">https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1621</a> 2. <a href="https://www.asahipress.com/bookdetail_lang/9784255013435/">https://www.asahipress.com/bookdetail_lang/9784255013435/</a>																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(100%)の成績による。																							
学生へのアドバイス： ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語群に属する言語である。ゆえに英語を苦手とする者がドイツ語を履修するにあたっては、相当の覚悟が求められる。 単に曜日・時限の都合のみで履修を選択した場合、単位の修得は極めて困難となろう。																							
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	ドイツ語II (German II)					科目分類	基礎科目														
担当教員	金澤 秀嗣																				
履修条件	前提科目	前期「ドイツ語I」の単位を修得済みであること (単位未修得者は履修できない)。																			
その他																					
授業概要 :																					
本講は、前期「ドイツ語I」の単位を修得した者を対象とする。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。																					
授業目標 :																					
初級文法を十分に理解し、ドイツ語技能検定試験・4級に合格するレベルへ到達する。																					
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態													
1	Wiederholung					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 学習した単元の復習		講義 30分 演習 60分													
2	前置詞の格支配／前置詞と定冠詞の融合形					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 前置詞の用法確認		講義 60分 演習 30分													
3	前置詞の Übungen					事前: 教科書該当部分の精読 事後: Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分													
4	分離動詞／非分離動詞					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 分離・非分離の用法確認		講義 60分 演習 30分													
5	分離動詞／非分離動詞の Übungen					事前: 教科書該当部分の精読 事後: Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分													
6	話法の助動詞					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 話法の助動詞の用法確認		講義 60分 演習 30分													
7	従属の接続詞 ①					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 従属の接続詞の用法確認		講義 60分 演習 30分													
8	話法の助動詞／従属の接続詞 ①の Übungen					事前: 教科書該当部分の精読 事後: Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分													
9	zu 不定詞句					事前: 教科書該当部分の精読 事後: zu 不定詞句の用法確認		講義 60分 演習 30分													
10	再帰代名詞と再帰動詞					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 再帰の用法確認		講義 60分 演習 30分													
11	zu 不定詞句／再帰代名詞と再帰動詞の Übungen					事前: 教科書該当部分の精読 事後: Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分													
12	動詞の3基本形／過去形／現在完了形					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 動詞の3基本形の確認		講義 60分 演習 30分													
13	動詞の3基本形／過去形／現在完了形の Übungen					事前: 教科書該当部分の精読 事後: Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分													
14	後期確認問題					事前: 教科書該当部分の精読 事後: 確認問題の再点検		講義 30分 演習 60分													
15	後期確認問題の解答と解説／定期試験対策					事前: 確認問題の再点検 事後: 定期試験対策準備学習		講義 30分 演習 60分													
教本: 「ドイツ語I」と同一であり、改めて購入する必要はない。																					
参考文献 :																					
教本・辞典のほかは特に用いない。																					
1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860																					
2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080																					
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。																					
定期試験 (100%) の成績による。																					
学生へのアドバイス :																					
前期「ドイツ語I」で獲得した知識を繰り返しブラッシュアップして、今後の学習へ有機的に結び付けてもらいたい。																					
オフィスアワー :																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	ドイツ語コミュニケーション (German Communication)					科目分類	専門科目																			
担当教員	金澤 秀嗣																									
履修条件	前提科目	ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱの両科目を既修し、両科目の単位を修得済みであることが望ましい。																								
	その他	初級レベルのドイツ語文法に習熟し、基本的な語彙(概ね700語)を有していることが求められる。																								
授業概要:																										
初級レベルの文法・語彙をもとに、ドイツ語コミュニケーション能力を涵養する。語学学習では出席が肝要である。 定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪い、「不可」の評価が下される。 なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。																										
授業目標:																										
初級レベルのドイツ語に熟達し、ドイツ語技能検定試験・3級を受験できるレベルへ到達することを目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	Lektion 0: Guten Morgen!					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
2	Lektion 1: Ich trinke gern Kaffee.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
3	Lektion 2: Das ist ein Bierkrug.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
4	Lektion 3: Ich kaufe einen Kopfhörer.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
5	Lektion 4: Das ist mein iPhone.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
6	Lektion 5: Ich kaufe drei Äpfel.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
7	Lektion 6: Ich schenke meinem Freund einen Schal.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
8	Lektion 7: Ich gehe in die Mensa.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
9	Lektion 8: Ich stehe um halb acht auf.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
10	Lektion 9: Ich will eine Reise machen.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
11	Lektion 10: Hast du schon dein Referat geschrieben?					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
12	Lektion 11: Ich habe ein sehr gutes Wörterbuch.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
13	Lektion 12: Wer ist fleißiger, Frank oder Werner?					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
14	Lektion 13: Das Geschäft wird um 7 Uhr geöffnet.					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
15	Lektion 14: Wenn ich mehr Geld hätte, ...					事前:当該単元の予習 事後:当該単元の復習		講義:45分 演習:45分																		
教本:																										
『新装版・話すぞドイツ語！ Kommunikation NEU』(朝日出版社) ¥2,845 ISBN : 978-4-255-254645 各自、最寄りの書店で注文または出版社サイト(下記参照)を通じて予めテキストを購入しておくこと(不所持の者には出席を認めない): <a href="https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1923">https://text.asahipress.com/german/detail.php?id=1923</a>																										
参考文献:																										
『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080 ISBN : 978-4-255-013435 同書以外でも構わないが、辞書を常時携帯すること。																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(50%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
初回講義には必ず出席すること。欠席者には履修を認めない(履修登録の懈怠は欠席の理由とならない)。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	統計学 (Statistics)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 EXCELが使用可能なノートパソコンを用意すること																										
授業概要 :																										
近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとって必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。																										
授業目標 :																										
統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義																		
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
6	確率変数と期待値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
7	確率変数と期待値2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
10	区間推定－1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
11	区間推定－2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
14	有意差検定－1－等平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
15	有意差検定－2－母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分																		
教本：					参考文献： 講義初回のガイダンスで指示する。																					
成績評価の方法、評価基準：					講義内で指示する。																					
学生へのアドバイス：																										
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	動画作成・メディア配信技術 (Video Production and Media Broadcasting Techniques)						科目分類	専門科目														
担当教員	秋廣 誠																					
履修条件	前提科目	なし			その他	教室によってはノートパソコンが必要である																
授業概要：																						
動画制作とメディア配信の基本的な技術と理論、すなわち、映像の撮影、編集、オーディオ制作、特殊効果、脚本作成、ライブストリーミング、デジタル配信、著作権にかかる技術と理論について、講義、演習を通して学ぶ。																						
授業目標：																						
1) 動画制作と配信に関わる基本的技術を習得している。 2) 映像制作に関する理論と、著作権、ライセンス等の問題を説明できる。 3) これらを統合し、映像作品を制作し、デジタル配信できる。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	導入：動画制作とメディア配信の基本概念				事前：シラバスを読む 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
2	映像の構成要素： フレーミング、コンポジション、ライティング				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
3	オーディオ録音と編集の基礎				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
4	編集ソフトウェアの概要 カット、場面転換、エフェクト				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
5	ストーリーテリングと脚本：映像における物語構築				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
6	アニメーションとモーショングラフィックス				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
7	ライブ配信の基本：ストリーミングソフトウェアと設定				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
8	色補正とグレーディング：映像のムードとスタイルを形成する				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
9	YouTube 風のカット編集1 無音部分やフライヤーの自動削除				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
10	YouTube 風のカット編集2 カットの間合いとテンポ				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
11	YouTube 風のカット編集3 タイトルに凝る				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
12	YouTube 風のカット編集4 音声とBGM				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
13	SNS を活用したプロモーション				事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成			講義：60分 質疑応答：30分														
14	配信プロジェクトの立案／著作権とライセンス／映像制作の倫理				事前：資料を下読みする 事後：プロジェクトの立案			講義：60分 質疑応答：30分														
15	配信プロジェクト案の発表				事前：資料を下読みする 事後：フィードバック			講義：60分 質疑応答：30分														
教本：		参考文献： 適宜、参考資料を配布。																				
		授業中に適宜指示する。																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (60%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
3304以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	読書と豊かな人間性 (Reading and Rich Humanity)					科目分類	専門科目																			
担当教員	横手 拓治																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:																										
数多くの本が出ているいま、どの本を選ぶかは難しい。基準はさまざまだが、この授業ではロングセラー、ベストセラーに注目する。教員の著書『ベストセラー全史・現代篇』をテキストにするが、基本はテーマごとに扱い、テキストの対象ページはその都度示す。なお対象作品の内容を知るために、本の一部を読む機会を作り、また映像化素材も必要に応じて使っていく。双方向性を適宜導入。																										
授業目標:																										
世代や立場を超えた話題作は、時代や社会を映す役割もある。なぜ多くの人に読まれたのかを考えながら、ベストセラー書に触れる体験を通じて、人びとの関心を集めるものへの理解を増やすこともまた、この授業の目標になる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス				事前：書店に行く 事後：テキストに目を通す			講義45分、応答45分																		
2	ノンフィクションの名作① 日記・手紙				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
3	ノンフィクションの名作② 自伝（20世紀）				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
4	純愛ものの名作				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
5	実用書の話題作				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
6	アクティブ・ラーニング①～書店で話題書を探す				事前：発表の準備をする 事後：レビューの整理を行う			発表60分、応答30分																		
7	現代小説の有力作、話題書①～翻訳書				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
8	現代小説の有力作、話題書②～日本の作家				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
9	本屋大賞の本				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
10	教養書（新書）の名作				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
11	ノンフィクションの名作③ 自伝（21世紀）				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
12	自己啓発の有力作、話題書				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義45分、作品鑑賞と読解45分																		
13	アクティブ・ラーニング②～SNSで話題書を探す				事前：発表の準備をする 事後：レビューの整理を行う			発表60分、応答30分																		
14	同時代に広く読まれているもの				事前：テキスト対象頁を読む 事後：復習、関連作品を読む			講義60分、応答30分																		
15	まとめと授業内課題				事前：テキストを改めて読む 事後：全体の再復習			講義45分、課題45分																		
教本：		参考文献： 『ベストセラー全史 現代篇』（澤村修治著、筑摩書店） 授業において適宜示し、またコピーを配布する。 本書は教員の筆名著書である。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
取りあげる作家・作品については、図書館やweb情報、web動画で知識を増やし、作品に触れておくこと。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	特別の支援を必要とする幼児理解(障がい児保育) (Childcare of disabled children)		科目分類		専門科目													
担当教員	荒木 光																	
履修条件	前提科目	なし		その他	なし													
授業概要：																		
障がいのある子どもの発達や特性を理解し、適切な支援方法を学ぶ。保育現場での対応力を身につけ、家族や周囲と協力しながらインクルーシブな保育を実践できる力を養う。																		
授業目標：																		
1. 障がい児保育の理念と歴史を学び、基礎的な理解を深める。 2. 子どもの特性や発達に応じた援助・配慮を学ぶ。 3. 保育計画の立案や具体的な援助方法を理解する。 4. 家庭支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。 5. 障がい児保育の現状と課題を理解する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○						○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	保育現場にいる障がいのある子ども				事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）			講義60分 討議30分										
2	乳幼児期の発達課題と障がい特性①（愛着形成・運動発達）				事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）			講義60分 討議30分										
3	乳幼児期の発達課題と障がい特性②（基本的生活習慣と言語の発達）				事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）			講義60分 討議30分										
4	障がい児保育の仕組み①（歴史・制度）				事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）			講義60分 討議30分										
5	障がい児保育の仕組み②（ライフコース）				事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）			講義60分 討議30分										
6	知的障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）			講義60分 討議30分										
7	自閉症スペクトラム障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）			講義60分 討議30分										
8	注意欠如・多動性障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）			講義60分 討議30分										
9	学習障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）			講義60分 討議30分										
10	視覚障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）			講義60分 討議30分										
11	聴覚障がいのある幼児の特徴と支援				事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）			講義60分 討議30分										
12	肢体不自由のある幼児の特徴と支援				事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）			講義60分 討議30分										
13	インクルーシブ教育				事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）			講義60分 討議30分										
14	保育所・幼稚園での支援体制				事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）			講義60分 討議30分										
15	家族への支援				事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）			講義60分 討議30分										
教本：																		
「よくわかる障害児保育〔第2版〕」 ミネルヴァ書房 ¥2,500 参考文献：																		
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																		
成績評価の方法、評価基準：																		
学生へのアドバイス：																		
障がい児保育は、子どもの個性や発達を理解し支える大切な学びです。最初は難しく感じるかもしれません、基本を押さえながら理解を深めてください。一人ひとりの笑顔を引き出せる保育士を目指し、前向きな姿勢で授業に参加することを期待しています。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本近世文化 (Japanese Early Modern Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七鞘																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：(近世文化)																										
1. 江戸学とは何かを理解する。 2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。 3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標：																										
江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目指とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本：			参考文献：																							
なし。プリント配布。			1. 石上七鞘『日本の原点』マイナビ新書 2. 『江戸学事典』弘文堂																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
発表とレポート (50%)・期末試験 (50%)。仔細は授業時に明示する。																										
学生へのアドバイス：																										
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー：																										
木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	日本近世文化 (Japanese Early Modern Culture)						科目分類	専門科目														
担当教員	伊藤 高雄																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：(近世文化)																						
1. 江戸学とは何かを理解する。 2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。 3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。																						
授業目標：																						
江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』などの資料を読み、「江戸学」の出発点となる知識の整理をするとともに、史料の収集方法や活用方法を学び、江戸文化について語れるようにする。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説する。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義														
2	江戸と上方の文化について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
3	江戸時代の衣と住まいについて学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
4	江戸時代の食について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
5	江戸時代の饅頭について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
6	江戸時代の災害について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
7	江戸時代の交通について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
8	江戸時代の生業について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
9	江戸時代の年中行事について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
10	江戸時代の信仰、宗教について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
11	江戸時代の建築、暮らしについて学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
12	江戸時代の学問について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
13	江戸時代の芸能について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
14	江戸時代の廓（悪場所）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
15	まとめ				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義														
教本：		参考文献： なし。プリント配布。 『江戸学事典』弘文堂																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とコメント・カード（50%）、レポート（50%）等で総合評価する。具体的には授業時に明示する。																						
学生へのアドバイス：																						
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	日本芸能史 (Traditional Japanese Performing Art)					科目分類	専門科目					
担当教員	伊藤 高雄											
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:	日本の芸能の歴史を古代から現代まで俯瞰して、個別の芸能についてその文化的意味を考える。											
授業目標:	日本の伝統芸能や民俗芸能の世界にふれて、人間文化としての芸能の役割を体感する。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○					
◎												
授業計画・事前学習・事後学習・形式												
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	ガイダンス。日本の芸能のあらましを学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
2	祭りと歌垣からの芸能を考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
3	雅楽と雜楽と宮廷の芸能のあり方を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
4	外来楽としての伎楽の伝来と展開を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
5	田楽芸の実際とその展開を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
6	猿楽と幸若舞の関係を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
7	人形戯の発生と文楽の世界を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
8	盆踊り・念仏踊り・かけ踊りを学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
9	能楽・謡曲を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
10	狂言の笑いを学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
11	お国歌舞妓の発生を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
12	歌舞伎の世界を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
13	説経・浪花節と淨瑠璃を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
14	講談と落語を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義と演習					
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習	講義					
教本:	参考文献: なし。プリント配布。 折口信夫『日本芸能史六講』その他。授業中に指示する。											
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、コメント・カードの提出(30%)、レポート(50%)等で総合評価する。											
学生へのアドバイス:	予習・復習をして休まずに出席すること。											
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。											

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本芸能論 (Traditional Japanese Performing Art)					科目分類	専門科目		
担当教員	伊藤 高雄								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:	日本の芸能の世界を具体的に学び、その文化的意味について考える。								
授業目標:	芸能とは何か、具体的にかつ総体的に知識と経験を踏まえ、語れるようにする。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	ガイダンス。日本の芸能とは何か、考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
2	芸能の発生の場はいかなるものか、考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
3	神楽という芸能とそのモチーフを考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
4	神を迎え、もてなす演劇について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
5	芸能の基本構成について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
6	演出の発生と展開について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
7	ことほぎの芸能1 ほめる芸能について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
8	ことほぎの芸能2 祝福芸とその諸相について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
9	ことほぎの芸能3 まねる・もどく芸能について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
10	ことほぎの芸能4 魅せる・風流について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
11	ことほぎの芸能5 語る・騙る・カタルについて考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
12	ことほぎの芸能6 歌う・訴える・鎮めるについて考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
13	ことほぎの芸能7 演じる・なりきる芸能について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
14	ことほぎの芸能8 施す・与える芸能について考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義・演習
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
教本:	参考文献: なし。プリント配布。 授業時に指示する。								
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等 (20%)、コメント・カードの提出 (30%)、レポート (50%) 等で総合評価する。								
学生へのアドバイス:	具体的に芸能の現場に出かけてみて、自分の肌で感じる姿勢が特別の経験として人生に生きてきます。								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。								

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	日本交流史 (History of Relations between Japan and Other Countries)					科目分類	専門科目																	
担当教員	安倍 宰																							
履修条件	前提科目	日本文化研究					その他	なし																
授業概要：																								
沖縄文化研究を受けて、後期ではその範囲を宮古地域に限定して考察します。防衛問題の議論によくみられる「本土－沖縄」という二分法では見えにくい沖縄の姿を、宮古地域を中心にすることで違う見方ができるのではないかという視点から授業を進めていきます。																								
授業目標：																								
沖縄文化へのより深い理解																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	宮古文化と沖縄文化					事前：沖縄の島々を確認 事後：授業資料		講義 90分																
2	伊良部島の文化バリエーション					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
3	村落祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
4	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
5	世界観と歴史					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
6	民俗的小宇宙					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
7	本土文化と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
8	法と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
9	法と民俗文化2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
10	社会組織の変化：祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
11	社会組織の変化：家族					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
12	フィールド調査					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
13	フィールド調査2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
14	フィールド調査3					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分																
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート																
教本：		参考文献： 使用しません 授業内で紹介する。たくさん読んでください。																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。																								
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本古代史 (History of Ancient Japan)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
万葉の時代といえば、日本史の時代区分でいえば古代といえる。万葉集には、時代が判明している仁徳天皇から奈良時代末期までである。その時代の状況や文化を万葉集の歌を通して理解しながら、学生のプレゼンテーションを交えながら進める。																										
授業目標：																										
万葉の時代と文化を理解する。時代背景としての宗教、政治、生活、民俗を理解する。また、万葉集の作家と作品について学ぶ。また作者未詳歌についても学び、それらの作品の背景を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	日本の古代史とは何かについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義																		
2	万葉集とは何かについて学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義																		
3	三大部立（雜歌、相聞、挽歌）について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義																		
4	巻頭歌と最後の歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義																		
5	額田王について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
6	柿本人麻呂について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
7	山部赤人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
8	高市黒人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
9	山上憶良について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
10	大伴旅人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
11	大伴家持と万葉集の成立について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
12	東歌・防人歌・伝説歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習																		
13	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習																		
14	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習																		
15	纏めをする。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義																		
教本： プリント配布					参考文献： 授業時に紹介																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 必ず出席すること。																										
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	日本語 I (Japanese Language I)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	白石 佳和																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。																										
授業目標:																										
1 大学の講義が理解できる。 2 大学生活において友人、教職員、地域の人々と日常的なやりとりができる。 3 書くことに慣れる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーションと自己紹介				事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義30分、 グループワーク60分																			
2	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
3	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
4	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
5	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
6	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
7	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
8	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く④				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
9	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う④				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
10	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く⑤				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
11	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う⑤				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
12	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く⑥				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
13	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う⑥				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		読解活動40分、グループ ワーク30分、発表20分																			
14	講義を聞き取りノートにまとめ、内容の要約を書く⑦				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ		聴解活動60分、まとめ30分																			
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前：成果物を整理する 事後：レポートの作成		講義20分、タスク50分、 発表20分																			
教本:					参考文献: 授業で紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等（20%）、提出物（40%）、レポート（40%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
授業で履修する日本語科目は週1時限しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	日本語II (Japanese Language II)					科目分類	基礎科目														
担当教員	白石 佳和																				
履修条件	前提科目	日本語I			その他	留学生															
授業概要:																					
大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。																					
授業目標:																					
1 大学の講義を理解し議論できる。 2 身の回りの人とアカデミックなやりとりができる。 3 書くことに慣れる。																					
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○○1つ)																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)		授業形態														
1	オリエンテーション				事前: 学びたいことを考える 事後: 学習環境の整備		講義30分、 グループワーク60分														
2	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する①				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
3	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う①				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
4	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する②				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
5	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う②				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
6	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する③				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
7	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う③				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
8	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する④				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
9	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う④				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
10	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑤				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
11	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う⑤				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
12	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑥				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
13	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う⑥				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		読解活動40分、グループワーク30分、発表20分														
14	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑦				事前: 語句の意味を調べる 事後: 振り返りとまとめ		聴解活動60分、議論30分														
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前: 成果物を整理する 事後: レポートの作成		講義20分、タスク50分、 発表20分														
教本:					参考文献: 授業で紹介する。																
成績評価の方法、評価基準:																					
授業参加状況等 (20%)、提出物 (40%)、レポート (40%) 等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
授業で履修する日本語科目は週1時限しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	日本語III (Japanese Language III)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	白石 佳和																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。																										
授業目標:																										
1 自分が専門とする内容を理解し、学生・教員と議論ができる。 2 プレゼンを行ったりレポートを作成したりすることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備			講義30分、グループワーク60分																		
2	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
3	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分																		
4	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
5	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分																		
6	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
7	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分																		
8	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する④				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
9	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する①				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分																		
10	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑤				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
11	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する②				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分																		
12	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑥				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
13	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する③				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分																		
14	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑦				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分																		
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前：成果物を整理する 事後：レポートの作成			講義20分、タスク50分、発表20分																		
教本:					参考文献: 授業で紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(20%)、提出物(40%)、レポート(40%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
授業で履修する日本語科目は週1時限しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習											
授業科目(英文)	日本語IV (Japanese Language IV)					科目分類	基礎科目													
担当教員	白石 佳和																			
履修条件	前提科目	日本語III			その他															
授業概要:																				
大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の活動を行う。 受講学生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。																				
授業目標:																				
1 幅広い分野の内容を理解し、学生・教員と議論ができる。 2 プレゼンを行ったりレポートを作成したりすることができる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション				事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備			講義30分、グループワーク60分												
2	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
3	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う①				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分												
4	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
5	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う②				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分												
6	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
7	エッセイを読み、そのテーマについて話し合う③				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、グループワーク30分、発表20分												
8	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する④				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
9	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する①				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分												
10	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑤				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
11	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する②				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分												
12	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑥				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
13	エッセイを読み、そのテーマについて意見をまとめ発表する③				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			読解活動40分、タスク30分、発表20分												
14	講義を聞き取りノートにまとめ、内容について議論する⑦				事前：語句の意味を調べる 事後：振り返りとまとめ			聴解活動50分、タスク20分、議論20分												
15	半期全体を振り返り、ポートフォリオを作成する				事前：成果物を整理する 事後：レポートの作成			講義20分、タスク50分、発表20分												
教本:					参考文献: 授業で紹介する。															
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等(20%)、提出物(40%)、レポート(40%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
授業で履修する日本語科目は週1時限しかありません。授業で学んだことを積極的に授業外で使い身につけましょう。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本語概論 (Introduction to Japanese Linguistics)					科目分類	専門科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
日本語の使用例をもとに、日本語の音声・音韻、語彙、文法、文字・表記などについて考察する。また、日常・個別の言語事象を全体の体系と関係づけて考え、日本語に対する関心を深める。																										
授業目標 :																										
1. 日本語がもつ規則性・体系性に気づく。 2. 日本語を構造的に理解・把握する。 3. 言語としての日本語に対する関心を深める。 4. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション 世界の中の日本語について考える				事前：世界の言語を調べる 事後：言語の系統を確認			講義 60分 演習 30分																		
2	音声・音韻1（調音、子音の分類、母音の分類）について学ぶ				事前：言語音について調べる 事後：子音・母音の整理			講義 60分 演習 30分																		
3	音声・音韻2（音声学と音韻論、日本語の音素、拍の体系）について学ぶ				事前：音韻論について調べる 事後：音韻の整理			講義 60分 演習 30分																		
4	音声・音韻3（超音節素ーアクセント、イントネーション、プロミネンス）について学ぶ				事前：超音節素について予習 事後：超音節素の特徴を復習			講義 60分 演習 30分																		
5	語彙1（意味の体系、語種）について学ぶ				事前：語種について調べる 事後：プリント問題			講義 60分 演習 30分																		
6	語彙2（語構成）について学ぶ				事前：語構成について調べる 事後：プリント問題			講義 60分 演習 30分																		
7	文法1（単語と文、文の組み立て）について学ぶ				事前：プリントを読んでくる 事後：プリント問題			講義 60分 演習 30分																		
8	文法2（単語の形（形態論））について学ぶ				事前：プリント活用表の完成 事後：語形変化の確認			講義 60分 演習 30分																		
9	文法3（文の構造（統語論））について学ぶ				事前：プリントを読んでくる 事後：モダリティの確認			講義 60分 演習 30分																		
10	文字・表記1（文字の役割、漢字・かな・ローマ字）について学ぶ				事前：文字について調べる 事後：文字のなりたちの復習			講義 60分 演習 30分																		
11	文字・表記2（かなづかい、送りがな、記号類）について学ぶ				事前：プリントを読んでくる 事後：かなづかいの確認			講義 60分 演習 30分																		
12	社会言語学1（位相論、職業差・世代差・性差・場面差と言葉）について学ぶ				事前：言葉遣いを振り返る 事後：位相語を確認する			講義 60分 演習 30分																		
13	社会言語学2（方言）について学ぶ				事前：日本語の方言を調べる 事後：プリントでの復習			講義 60分 演習 30分																		
14	待遇表現（待遇表現の種類・敬語）について学ぶ				事前：待遇表現を調べる 事後：待遇表現の整理			講義 60分 演習 30分																		
15	まとめ 日本語を構造的にみる				事前：言語の構造を考える 事後：試験に備える			講義 60分 演習 30分																		
教本 :																										
沖森卓也他『図解日本語』三省堂 ¥2,160																										
その他、資料と書き込み用プリントを配付する。																										
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (35%)、定期試験 (45%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス :																										
自分自身が使っている日本語を考察の対象とする授業です。多くの新しい発見があるでしょう。日本語に対する知的興味・おもしろさを感じることができます。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	日本語学(音声・音韻) (Japanese Linguistics (Phonetics and Phonology))		科目分類		専門科目																	
担当教員	松浦 恵津子																					
履修条件	前提科目	日本語概論		その他	なし																	
授業概要:																						
私たちは、日本語の音、たとえば「ア」「カ」「サ」「タ」……など、それをどのように作って発音しているのだろうか。この授業では、それぞれの音の発音のしくみを学ぶ。また、日本語・英語・中国語など、言語によって区別する音が異なるが、日本語はどの音を区別し、どの音を区別しないのかについても考える。																						
授業目標:																						
1. 現代日本語の音声がもつ特徴を理解し、それを体系的に整理できるようになる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態															
1	オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解				事前: シラバスを読んでくる 事後: プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 問題 30分															
2	話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。				事前: 話し言葉と書き言葉の違い 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
3	アクセント1 日本語のアクセントの特徴を考える。				事前: アクセントについて調べる 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
4	アクセント2 アクセントの式と型を理解する。				事前: アクセントの式と型とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
5	イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。				事前: イントネーションとは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
6	日本語の子音1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。				事前: 子音とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
7	日本語の子音2 破擦音・鼻音・弾音、拗音について理解する。				事前: 子音の分類の確認 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
8	日本語の子音3 五十音図の各行の子音について考える。				事前: 五十音図の各行の音声表記 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
9	日本語の子音4 子音のまとめと確認問題				事前: 日本語の子音全体の確認 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
10	日本語の母音について理解する。				事前: 母音とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
11	音韻論1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音				事前: 音声学・音韻論とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
12	音韻論2 日本語の音素について考える。				事前: 日本語の音素について 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
13	音節構造について考える。				事前: 日本語の音節とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分															
14	期末試験に備えて練習問題を解く。				事前: プリント・ノートの確認 事後: プリントの確認		練習問題・考察 90分															
15	まとめ				事前: 質問・確認事項の洗い出し 事後: 試験準備		質疑応答															
教本: プリントを配付する。		参考文献: 松崎寛ほか (2018)『日本語教育 よくわかる音声』アルク ¥2,200																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業参加状況等(15%)、提出物等(40%)、定期試験(45%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス: 私たちが毎日聞いたり発したりしている言語の音について考えます。精巧な発音のしくみを知って驚くこともあるでしょう。																						
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																																
授業科目(英文)	日本語学(語彙)(Japanese Linguistics (Lexicology))					科目分類	専門科目																																																																		
担当教員	松浦 恵津子																																																																								
履修条件	前提科目 その他	日本語概論 なし																																																																							
<p>授業概要:</p> <p>語彙について、体系性・量・語形・語種・意味などの点から考え、分析する方法を学ぶ。</p>																																																																									
<p>授業目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本語の語彙の特質を理解し、客観的に分析する方法を身につける。</li> <li>中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。</li> </ol>																																																																									
<p>カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○																																																											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
○	○																																																																								
<p>授業計画・事前学習・事後学習・形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画(詳細に記入)</th> <th>事前・事後学習(学習課題)</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 語彙の体系1:語彙の体系の具体例を見る。</td> <td>事前:シラバスを読んでくる 事後:語彙の体系の具体例の復習</td> <td>オリ30分、講義40分、考察20分</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>語彙の体系2:語彙の体系性について考える。</td> <td>事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習</td> <td>講義30分、考察と練習問題60分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>語彙と語彙量:量的調査の方法と目的を知る。</td> <td>事前:異なり語数と延べ語数 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>語と語形1:どの単語を1単語とするかを考える。1単語の長さや、語種による語形的な特徴を知る。</td> <td>事前:和語の語形について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>語と語形2:同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。</td> <td>事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>語種1:日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。</td> <td>事前:借用語について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>語種2:和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。</td> <td>事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>語構成1:単純語・合成語(複合語・派生語・疊語)の構成について知り、例をあげて説明することができる。</td> <td>事前:日本語の語構成について 事後:ノート・資料の整理と復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>語構成2:それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。</td> <td>事前:配付プリントの練習問題 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>語の意味1:単義語と多義語、明示的意味と副次的意味について考える。</td> <td>事前:明示的意味と副次的意味 事後:ノート・資料の整理と復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>語の意味2:類義と対義語、成文分析について考える。</td> <td>事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>語彙調査練習:ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる</td> <td>事前:なし 事後:語彙調査練習を完成させる</td> <td>語彙調査練習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>擬声語・擬態語1:擬声語・擬態語とは他の語彙との違い 各音のもつ印象 擬声語・擬態語の語形</td> <td>事前:擬声語・擬態語とは 事後:ノート・資料の整理と復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>擬声語・擬態語2:人の気持ちやようす・性格を表すもの、ものようすや痛みを表すもの、その他 文学作品の中の擬声語・擬態語</td> <td>事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習</td> <td>講義50分、考察と練習問題40分</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>事前:質問・確認事項の洗い出し 事後:レポート作成</td> <td>講義30分、質疑応答60分</td> </tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態	1	オリエンテーション 語彙の体系1:語彙の体系の具体例を見る。	事前:シラバスを読んでくる 事後:語彙の体系の具体例の復習	オリ30分、講義40分、考察20分	2	語彙の体系2:語彙の体系性について考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義30分、考察と練習問題60分	3	語彙と語彙量:量的調査の方法と目的を知る。	事前:異なり語数と延べ語数 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	4	語と語形1:どの単語を1単語とするかを考える。1単語の長さや、語種による語形的な特徴を知る。	事前:和語の語形について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分	5	語と語形2:同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	6	語種1:日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。	事前:借用語について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分	7	語種2:和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	8	語構成1:単純語・合成語(複合語・派生語・疊語)の構成について知り、例をあげて説明することができる。	事前:日本語の語構成について 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分	9	語構成2:それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。	事前:配付プリントの練習問題 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	10	語の意味1:単義語と多義語、明示的意味と副次的意味について考える。	事前:明示的意味と副次的意味 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分	11	語の意味2:類義と対義語、成文分析について考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	12	語彙調査練習:ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる	事前:なし 事後:語彙調査練習を完成させる	語彙調査練習	13	擬声語・擬態語1:擬声語・擬態語とは他の語彙との違い 各音のもつ印象 擬声語・擬態語の語形	事前:擬声語・擬態語とは 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分	14	擬声語・擬態語2:人の気持ちやようす・性格を表すもの、ものようすや痛みを表すもの、その他 文学作品の中の擬声語・擬態語	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分	15	まとめ	事前:質問・確認事項の洗い出し 事後:レポート作成	講義30分、質疑応答60分
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態																																																																						
1	オリエンテーション 語彙の体系1:語彙の体系の具体例を見る。	事前:シラバスを読んでくる 事後:語彙の体系の具体例の復習	オリ30分、講義40分、考察20分																																																																						
2	語彙の体系2:語彙の体系性について考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義30分、考察と練習問題60分																																																																						
3	語彙と語彙量:量的調査の方法と目的を知る。	事前:異なり語数と延べ語数 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
4	語と語形1:どの単語を1単語とするかを考える。1単語の長さや、語種による語形的な特徴を知る。	事前:和語の語形について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
5	語と語形2:同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
6	語種1:日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。	事前:借用語について調べる 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
7	語種2:和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
8	語構成1:単純語・合成語(複合語・派生語・疊語)の構成について知り、例をあげて説明することができる。	事前:日本語の語構成について 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
9	語構成2:それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。	事前:配付プリントの練習問題 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
10	語の意味1:単義語と多義語、明示的意味と副次的意味について考える。	事前:明示的意味と副次的意味 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
11	語の意味2:類義と対義語、成文分析について考える。	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
12	語彙調査練習:ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる	事前:なし 事後:語彙調査練習を完成させる	語彙調査練習																																																																						
13	擬声語・擬態語1:擬声語・擬態語とは他の語彙との違い 各音のもつ印象 擬声語・擬態語の語形	事前:擬声語・擬態語とは 事後:ノート・資料の整理と復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
14	擬声語・擬態語2:人の気持ちやようす・性格を表すもの、ものようすや痛みを表すもの、その他 文学作品の中の擬声語・擬態語	事前:配付プリントの熟読 事後:練習問題の復習	講義50分、考察と練習問題40分																																																																						
15	まとめ	事前:質問・確認事項の洗い出し 事後:レポート作成	講義30分、質疑応答60分																																																																						
教本: プリントを配付する。		参考文献: 秋元美晴(2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための語彙12』アルク ¥2,160																																																																							
<p>成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等(20%)、小テスト・提出物等(35%)、レポート(45%)等で総合評価する。</p>																																																																									
<p>学生へのアドバイス:</p> <p>私たちが日常使っている身近な日本語の語彙について学びます。語の形・構成・出自・意味などについて考えます。</p>																																																																									
<p>オフィスアワー:</p> <p>初回講義日に伝える。</p>																																																																									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習															
授業科目(英文)	日本語学(待遇表現) (Japanese Linguistics (Attitudinal Expressions))					科目分類	専門科目																	
担当教員	松浦 恵津子																							
履修条件	前提科目	日本語概論 日本語学(文法)					その他	なし																
授業概要:																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>待遇表現に関する資料を読み、敬語・軽卑語・尊大語、ポライトネス、配慮表現、婉曲・間接表現について考える。</li> <li>待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する。</li> <li>待遇表現を使う練習も行う。</li> </ul>																								
授業目標:																								
<ol style="list-style-type: none"> <li>待遇表現の意味・種類・仕組みや、待遇表現の使い分けにかかる要因を理解する。</li> <li>場面に合わせて適切な待遇表現を使うことができるようになる。</li> <li>中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。</li> </ol>																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																	
1	オリエンテーション 待遇表現とは何か、待遇的意味について考える。				事前: シラバスを読んでくる 事後: プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 考察 30分																	
2	「現代社会における敬意表現」について考える。				事前: 敬意表現とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
3	敬語① 敬語についての基本的な考え方を理解する。				事前: 敬語の種類を調べる 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
4	敬語② 敬語の語形や語彙を確認する。				事前: 練習問題 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
5	敬語③ 「敬語の指針」を読んで、敬語に対する考え方を理解する。				事前: 「敬語の指針」に目を通す 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
6	敬語④ 敬語のまとめ 敬語を使った会話練習				事前: 敬語の復習 事後: プリントの確認		講義 20~30分 練習・考察 70~60分																	
7	ポライトネス① ポジティブポライトネスとネガティブポライトネスについて理解し、例をあげて説明できるようにする。				事前: ポライトネスについて調べる 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
8	ポライトネス② ポライトネスのストラテジー: どのような表現を用いてそれぞれのポライトネスが表されるかを学ぶ。				事前: 配布プリントの用例を見る 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
9	配慮表現について学び、適切な場面で使えるようにする。				事前: 配慮表現とは 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
10	人称代名詞・呼称と待遇表現 呼称にどのような待遇意図がかかわっているかを学ぶ。				事前: 日本語の人称代名詞について 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
11	終助詞と待遇表現／ポライトネス 終助詞に現れる待遇性について考える。				事前: 終助詞について調べる 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
12	待遇表現の使い分けにかかる要因(社会的要因、心理的要因)について考える。				事前: 要因として何が考えられるか 事後: プリントの確認		講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分																	
13	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する—発表①				事前: 発表準備 事後: 発表結果の整理		発表と質疑応答																	
14	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する—発表②				事前: 発表準備 事後: 発表結果の整理		発表と質疑応答																	
15	まとめ 自らの待遇表現の使用を振り返る。				事前: 自分の待遇表現使用を考える 事後: レポートをまとめる		質疑応答																	
教本:		参考文献: 資料と課題プリントを配付する。 文化審議会答申(2007)「敬語の指針」																						
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																								
授業参加状況等(30%)、発表・提出物等(30%)、レポート(40%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス:																								
待遇表現、配慮表現は、さまざまなコミュニケーションの中で必ず見られるものです。特に社会人になったときに、適切な使用が求められます。そのことに気づくだけでも、自分自身のコミュニケーションのしかたが変わってきます。																								
オフィスアワー:																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	日本語学(文字) (Japanese Linguistics (Literature))					科目分類	専門科目															
担当教員	澤田 帆奈美																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
文字に関する知識、漢字に関する知識を深める。日本語において、漢字という文字は、どのような存在なのかを、履修者自らに考えてもらう。漢字力・語彙力を高めることも行なうが、ただ難しい漢字・語彙を覚えるのではなく、今後、日本語のなかで、どのように漢字を使っていくべきなのかを各自考える。																						
授業目標:																						
1. 専門的研究や、就労時に必要な語彙を理解し、表記する漢字の書写能力を向上させる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																						
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	オリエンテーション(授業の進め方) 文字のはなし 文字の発展1				事前:シラバスを読んでくる 事後:復習・ノート整理			講義 40分 演習 50分														
2	文字のはなし 文字の発展2				事前:テキストの読み・読みタスク 事後:復習・ノート整理			講義 40分 演習 50分														
3	漢字のよみ 音と訓 重箱読み・湯桶読み 古代日本の文字				事前:テキストの読み・読みタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
4	漢字のなりたち1 かたどり文字 象形文字 指事文字 漢字のおこり				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
5	漢字のなりたち2 あわせ文字 会意文字 形声文字 漢字の発展				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週の小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
6	漢字のくみたて 現代の漢字のくみたて 国字のはなし				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
7	漢字の音1 同音異字				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
8	漢字の音2 漢音と呉音 日本語の漢字音				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
9	漢字の訓 同訓異字 地名・人名のよみ方				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・次週小テスト準備			講義 40分 演習 50分														
10	漢字の意味 現代の漢字の意味				事前:テキスト・資料の読み 事後:復習・ノートまとめ			講義(30分) 討論・演習(60分)														
11	漢字のつかい方(かな書きか漢字か) おくりがな 日本の文章の変遷				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・プリント問題			講義 40分 演習 50分														
12	現代の漢字 当用漢字 日本の表記法の改革 現代かなづかい				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・プリント問題			講義 40分 演習 50分														
13	部首 画数と筆順 漢和辞典のくみたて				事前:テキストの読み・読みのタスク 事後:復習・ノートまとめ			講義 40分 演習 50分														
14	漢字のかながき				事前:テキスト・資料の読み 事後:復習・ノートまとめ			講義(30分) 討論・演習(60分)														
15	まとめ				事前:質問・確認事項の洗い出し 事後:全体の振り返り			講義 40分 演習 50分														
教本: 『にっぽんご7 漢字』むぎ書房		参考文献: 宮島達夫著『語彙論研究』むぎ書房																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																						
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、学期末レポートもしくは学期末試験(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
漢字・語彙を単に覚えるだけでなく、実際の使い方を理解してどんどん使ってみましょう。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	日本語学(文法) (Japanese Linguistics (Grammar))					科目分類	専門科目															
担当教員	松浦 恵津子																					
履修条件	前提科目 その他	日本語概論 なし																				
<b>授業概要:</b> 小学校、中学校で教えられている国語・口語文法を、教える立場から学ぶ。 日本語教育で使われる文法を学ぶ。 私たちがふだん使っている日本語を考察の対象として客体化し、分析する。																						
<b>授業目標:</b> 1. 国文法での品詞の考え方を理解し、国文法の体系をとらえる。同時に日本語文法での品詞や活用を理解し、国文法との違いをとらえる。 2. 日本語の用例を文法的に分析する力を養う。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																						
<b>カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																				
○	○																					
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	オリエンテーション 「国語学」と「日本語学」の違いや特徴を理解する。文法とは何か、言葉の単位について考える。				事前: シラバスを読んでくる 事後: プリントの確認			オリ 30分 講義 40分 考察 20分														
2	文の組み立てについて考える。				事前: 文の成分について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
3	単語の分類としての品詞について考える。品詞①: 動詞 1 動詞の機能・意味について考える。				事前: 品詞とは 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
4	品詞①: 動詞 2 活用の種類と活用形について、例をあげて説明できるようになる。				事前: 動詞の活用を調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
5	品詞①: 動詞 3 意味による動詞の分類、自動詞・他動詞、その他動詞の性質について考える。				事前: 形容詞・形容動詞を調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
6	品詞②: 形容詞・形容動詞の機能・意味・活用について、例をあげて説明できるようになる。				事前: 形容詞・形容動詞を調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
7	品詞③: 名詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようにする。				事前: 名詞について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
8	品詞④: 副詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようにする。				事前: 副詞について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
9	品詞⑤: 連体詞・接続詞・感動詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようになる。				事前: 各品詞について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
10	品詞⑥: 助詞 1 助詞の種類・機能・意味について考え、例をあげて説明できるようになる。「格」について考える。				事前: 格助詞について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
11	品詞⑥: 助詞 2 とりたて助詞・終助詞について考える。				事前: その他の助詞について 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
12	品詞⑥: 助詞 3 接続助詞について考える。				事前: その他の助詞について 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
13	品詞⑦: 助動詞の機能・意味・接続や活用について考え、例をあげて説明できるようになる。				事前: 助動詞について調べる 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
14	モダリティと助詞・助動詞について考える。				事前: モダリティとは 事後: プリントの確認			講義 50~60分 練習問題・考察 40~30分														
15	まとめ				事前: 質問事項の洗い出し 事後: 期末試験準備			質疑応答														
<b>教本:</b> プリントを配布する。		<b>参考文献:</b> 高橋太郎他 (2005)『日本語の文法』ひつじ書房 ¥2,640 山田敏弘 (2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 ¥1,760																				
<b>成績評価の方法、評価基準:</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(20%)、小テスト・提出物等(35%)、定期試験(45%)等で総合評価する。																						
<b>学生へのアドバイス:</b> 文法とは、文を作るときに見られる規則のことです。私たちは、ふだんあまり意識せずに日本語の文をくみたて、コミュニケーションをしています。つまり、私たちは、文法を正しく適用して日本語の文を作っているのです。そんな日本語の文法について考えましょう。																						
<b>オフィスアワー:</b> 初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	日本語教育実習 (Practice Teaching of Japanese)					科目分類	日本語教員科目															
担当教員	松浦 恵津子																					
履修条件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ、日本語教育実習指導																				
その他																						
授業概要：																						
これまで学んだ日本語教育に関する知識・技能を実践の場で生かしていくために、教育実習に参加する。実習先を選び、実習のための周到な準備を行い、教壇実習を行う。事後学習として、実習で学んだことを、これから教授活動に生かしていくための方法を考える。実習先の実習プログラムにより、実習内容に変更が生じる場合がある。																						
授業目標：日本語学習者を対象とした授業において、実際に教壇に立ち教えることを通して、以下のようなことを学ぶ。																						
1. これまでに学んできた知識や技術が、どう実践に生かしていくか、ということに気づき考える。 2. 「自ら成長していく教師」にとって、必要な資質について考える。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態															
1	〈実習前1〉実習の目的、実習先候補の教育プログラムなどについて考える。実習先の教材入手する。				事前：実習先について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		話し合い90分															
2	〈実習前2〉実習で用いる教材に慣れるために、教案を書いて模擬授業を行う。				事前：教案を書く 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業と話し合い															
3	〈1日目〉オリエンテーション：実習の目的と諸注意の確認。実習先について知る。科目別指導法、授業見学（初級）など。				事前：実習に関する資料を読む 事後：振り返り、資料の整理		実習先での活動															
4	〈2日目〉授業見学（読解）。授業後処理見学。教壇実習①の打ち合わせ。TAとして参加するための準備。				事前：見学する授業について知る 事後：打ち合わせの整理、振り返り		見学 話し合い															
5	〈3日目〉TAとして授業参加。教壇実習①のための教材分析、教案作成、ICTをはじめ、教具・教材の検討、著作権の確認。				事前：担当箇所の教材の確認 事後：模擬授業準備		TA 各自作業															
6	〈4日目〉模擬授業①と振り返り。教壇実習リハーサル。				事前：模擬授業リハーサル 事後：教案の見直し、振り返り		模擬授業45分 話し合い															
7	〈5日目〉教壇実習①と振り返り。				事前：教壇実習のリハーサル 事後：振り返り、資料の整理		教壇実習45分 話し合い															
8	〈6日目〉授業見学（聴解）。授業後処理見学。教壇実習②の打ち合わせ。TAとして参加するための準備。				事前：見学する授業について知る 事後：振り返り、資料の整理		見学 授業参加															
9	〈7日目〉TAとして授業参加。教壇実習②のための教材分析、教案作成、ICTをはじめ、教具・教材の検討、著作権の確認。				事前：担当箇所の教材の確認 事後：模擬授業準備		TA 各自作業															
10	〈8日目〉模擬授業②と振り返り。教壇実習リハーサル。				事前：模擬授業リハーサル 事後：教案の見直し、振り返り		模擬授業45分 話し合い															
11	〈9日目〉教壇実習②と振り返り。				事前：教壇実習のリハーサル 事後：振り返り、資料の整理		教壇実習45分 話し合い															
12	〈10日目〉授業見学（文字）。授業後処理見学。教育実習全体の振り返り。				事前：見学する授業について知る 事後：振り返り、資料の整理		見学・話し合い 各自作業															
13	〈実習後1〉実習ノート提出のための準備。成果報告会への参加				事前：成果報告会の準備 事後：実習ノートの完成・提出		話し合い90分															
14	〈実習後2〉自己成長していく教師：他から教えてもらえないこと・内省的実践について考える。計画一実行一評価一改善				事前：資料を読む 事後：授業内容の整理		話し合い90分															
15	〈実習後3〉教師研修について学ぶ。日本語教師の資質と役割を考える。				事前：教師研修について調べる 事後：成果報告会の準備		話し合い90分															
教本：		参考文献： 1. 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」（平成31年）文化審議会国語分科会 2. 春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』（2006）凡人社 ¥2,592 3. 川口義一『成長する教師のための日本語教育ガイドブック〈上〉〈下〉』（2005）ひつじ書房 各¥3,024																				
成績評価の方法、評価基準：																						
到達目標が達成できたかを評価する。実習先からの評価表を参考に総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
日本語教員養成課程の最後の段階です。熱心に取り組めば取り組むほど、将来大いに役立つ経験になります。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	日本語教育実習指導 (Seminar on Practice Teaching of Japanese)					科目分類	日本語教員科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目 その他	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ なし																								
<b>授業概要：</b> 「日本語教育方法論Ⅱ」の次の段階という位置づけで、「日本語教育の参照枠」について学び、「行動中心アプローチ」と「Can-do」について理解する。さらに「Can-do」を生かした「コースデザイン」について考え、「Can-do」を軸にした授業を模擬的に行う。																										
<b>授業目標：</b> 1. 「日本語教育の参照枠」、行動中心アプローチ、Can-doについて理解する。 2. 「Can-do」を生かした「コースデザイン」や授業の方法を学び、教案を書いて模擬授業を行うことができる。 3. 問題を予見し、あるいは問題に直面したときに、自ら解決することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養																				
○		○																								
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション（この授業で学ぶことを説明する） 「日本語教育の参照枠」の概要、目指すもの、言語教育観について学ぶ					事前：方法論Ⅰ・Ⅱの復習 事後：資料の整理と復習		講義60分 演習30分																		
2	「日本語教育の参照枠」における日本語能力観と6つのレベルについて学ぶ 「日本語教育の参照枠」の評価の考え方について学ぶ					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義60分 演習30分																		
3	日本語教育の参照枠を踏まえて「Can-do」を生かした「コースデザイン」1) 対象・目標別can-doを考える ①留学生向け ②生活者向け（「生活Can do」参照）					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義60分 演習30分																		
4	日本語教育の参照枠を踏まえて「Can-do」を生かした「コースデザイン」2) 対象・目標別can-doを考える ③就労者向け					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義60分 演習30分																		
5	目標Can-doに基づくバックワードデザインによる授業の組み立てを学ぶ					事前：資料の読み 事後：資料の整理と復習		講義60分 演習30分																		
6	教案作成①（対象・目標は、授業で決める） 日本語教育の参照枠A2レベルを踏まえ、授業の教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義60分 演習30分																		
7	作成した教案①を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案の修正		講義30分 演習60分																		
8	作成した教案①で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業60分 演習30分																		
9	教案作成②（対象・目標は、授業で決める） 日本語教育の参照枠Bレベルを踏まえ、授業の教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義60分 演習30分																		
10	作成した教案②を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案修正		講義30分 演習60分																		
11	作成した教案②で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業60分 演習30分																		
12	教案作成③（対象・目標は、授業で決める） 日本語教育の参照枠を踏まえ、言語活動別のはなすこと(やりとり)の授業教案を作成する					事前：模擬授業資料の分析 事後：教案の作成		講義60分 演習30分																		
13	作成した教案③を、検討する					事前：教案の作成 事後：教案の修正		講義30分 演習60分																		
14	作成した教案③で、模擬授業を行う					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の振り返り		模擬授業60分 演習30分																		
15	全体のまとめを行う					事前：全体の振り返り 事後：教育実習の準備		講義60分 演習30分																		
教本： なし。必要な資料は、印刷して配布。					参考文献： 「日本語教育の参照枠」報告文化審議会国語文科会 文化庁制作「日本語教師養成のための動画教材」 Webサイト「日本語教育コンテンツ（共有システム）」																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（25%）、模擬授業と自己評価表の提出（25%）、討論参加度とコメント表の提出等（25%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： できるだけ多く教壇に立つ練習をして、少しづつ教えることに慣れましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	日本語教育方法論 I (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language I)						科目分類	日本語教員科目										
担当教員	澤田 帆奈美																	
履修条件	前提科目	日本語教授法																
	その他	なし																
授業概要：																		
日本語教員養成課程に登録した学生向けの授業であり、「日本語教授法」を履修済みであることを前提とする。初級の教え方を中心に、学習項目や活動のさせ方、教具・教材について検討していく。そして、日本語教育に必要とされる知識・技能を身につける。																		
授業目標：																		
日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、																		
1. 参照枠にもとづいた初級前期の学習項目の分析ができる。																		
2. 参照枠にもとづいた実際に使える教案を書くことができる。																		
3. 模擬的に教授活動を行うことができるようになる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態										
1	オリエンテーション（この授業で学ぶことを説明する） ・学習項目の一覧の見方を説明する　・日本語教師の資質、能力について復習する					事前：教科書の購入 事後：授業の復習		講義 90分										
2	初級の学習項目 1 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 1～3課（名詞述語文①） ・構造シラバスのプログラムを確認する　・学習項目を分析する					事前：1～3課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
3	初級の学習項目 2 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 1～3課（名詞述語文②） ・導入のしかた、文型練習とアクティビティのさせ方、会話教材の使い方を学ぶ					事前：1～3課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
4	初級の学習項目 3 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 4課（動詞述語文①） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える　・教材の著作権について学ぶ					事前：4課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
5	教案の書き方について学び、担当を決め教案を書く　・1つの課の学習項目と授業計画、授業の流れ、学習者の中間言語（教室で使う日本語）、環境の設定を考える					事前：学習項目の一覧表 事後：教案の作成		講義 30分 演習 60分										
6	初級の学習項目 4 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 5課（動詞述語文②） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：5課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
7	初級の学習項目 5 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 6課（動詞述語文③） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：6課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
8	初級の学習項目 6 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 7課（動詞述語文④） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：7課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
9	初級の学習項目 7 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 8・9課（形容詞述語文①） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：8・9課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
10	作成した教案を検討する　・目的、導入、説明のしかたと板書、ICTの利用、練習のさせ方、教具教材、発話量、時間配分、教師の日本語、などの検討					事前：教案発表の準備 事後：模擬授業準備		演習 90分										
11	初級の学習項目 8 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 10・11課（存在文） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：10・11課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
12	初級の学習項目 9 『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 12・13課（名詞/形容詞述語文の過去、感情形容詞） ・学習項目を分析する　・効果的な教材を考える					事前：12・13課の熟読 事後：資料の整理と復習		講義 30分 演習 60分										
13	模擬授業を行う ① ・自他の授業への具体的評価を行う　・フィードバックのしかたを確認する					事前：授業のリハーサル 事後：振り返りレポート		模擬授業 60分 演習 30分										
14	模擬授業を行う ② ・自他の授業への具体的評価を行う　・ICTを利用した教材のメリットを考える					事前：授業のリハーサル 事後：振り返りレポート		模擬授業 60分 演習 30分										
15	教具・教材の検討、研究をする（初級1）—初級メイン教材・副教材・活動集— 全体のまとめを行う					事前：13課までの項目確認 事後：初級の教え方の確認		講義 30分 演習 60分										
教本：																		
『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』 (2012) スリーエーネットワーク ¥2,750					参考文献： 『みんなの日本語初級 I 教え方の手引き』 (2000) スリーエーネットワーク ¥3,080 寺田和子他『改訂版 日本語の教え方 ABC』 (2022) アルク ¥2,420													
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																		
授業参加状況等 (25%)、学習項目の一覧・教案の提出と発表 (25%)、模擬授業と自己評価表の提出 (25%)、話し合い参加度とコメント表の提出等 (25%) で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
日本語を使って日本語を教える基本的な技術を学びます。学生のみなさんの参加により、活気ある授業にしたいと思います。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																
授業科目(英文)	日本語教育方法論 II (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language II)						科目分類		日本語教員科目																
担当教員	松浦 恵津子																								
履修条件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論 I が履修済であることを条件とする。																							
授業概要：																									
日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。「日本語教育方法論 I」の次の段階という位置づけで、より多くの教室活動を知り、模擬授業を行って教えることに慣れる。また、次の「日本語教育実習指導」で学ぶ「日本語教育の参照枠」への導入として、その言語教育観と、地域における多文化共生・日本語教育の取り組みについて学ぶ。																									
授業目標：日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、																									
1. 初級中期の学習項目の分析ができる。効果的な活動を取り入れた教案を書くことができる。																									
2. 模擬的な教授活動をスムーズに行うことができる。																									
3. 「日本語教育の参照枠」の言語教育観と、地域における多文化共生・日本語教育の取り組みについて理解する。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション 『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』 1～13 課の復習 日本語教師の資質・能力について考える。(50 の教育内容 H31 報告 p.24)				事前：方法論 I の復習 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
2	『みんなの日本語初級 I』14 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞の分類について学ぶ。動詞テ形の作り方とテ形を使う文型（依頼・指示・勧め）について学ぶ。				事前：14 課の学習項目表 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
3	教案検討会 1 目的、導入、説明のしかたと板書、机の配置、ICT の利用、練習のさせ方、教具教材、発話量、時間配分、教室で使う日本語と他言語等について検討する。				事前：教案作成 事後：教案の修正		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
4	模擬授業と反省会 1 ・ 模擬授業を行い、第 3 回における観点や改善点などについて話し合う。・ フィードバックのしかた ・ 自他の授業への具体的評価を行う。				事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート		模擬授業と話し合い 90 分																		
5	『みんなの日本語初級 I』15 課・17 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞テ形を使う文型（許可・禁止）、ナイ形の作り方とナイ形を使う文型について学ぶ。				事前：15・17 課の学習項目 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
6	『みんなの日本語初級 I』18 課・19 課 学習項目一覧の作成と分析。動詞辞書形・タ形の作り方と、辞書形・タ形を使う文型について学ぶ。				事前：18・19 課の学習項目 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
7	『みんなの日本語初級 I』20 課以降の学習項目 1 「ふつう形」について学び、教え方・練習法を検討する。				事前：ふつう形とは 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
8	『みんなの日本語初級 I』20 課以降の学習項目 2 「ふつう形を使う複文」について学び、教え方・練習法を検討する。				事前：目標文型の分析 事後：資料の整理と復習		講義 30 分 話し合い 60 分																		
9	教案検討会 2 ・ 特にアクティビティと会話練習について 第 3 回と同様に検討 その他、教材の著作権やコミュニケーションストラテジーについて学ぶ。				事前：教案作成 事後：教案の修正		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
10	模擬授業と反省会 2 ・ 模擬授業を行い、第 9 回における観点や改善点などについて話し合う。・ フィードバックのしかた ・ 自他の授業への具体的評価を行う。				事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート		模擬授業と話し合い 90 分																		
11	日本語の指導法一レベル別（中上級）について学ぶ ・ インプット活動：ボトムアップ / トップダウン/相互交流、談話理解など ・ アウトプット活動：ロールプレイなど				事前：キーワードを調べる 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
12	日本語の指導法一技能別教材について学ぶ レベル別 4 技能別、複合的教材について学ぶ。				事前：どんな教材があるか 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
13	「日本語教育の参照枠」序論：行動中心アプローチと Can do, CEFR 「日本語教育の参照枠」における言語教育観				事前：参照枠を読む 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
14	多文化共生〈地域における共生〉1 日本語教育推進法と関連する国の施策 地方公共団体の施策例（神奈川県愛川町）				事前：推進法を読む 事後：資料の整理と復習		発表・質疑応答・ 話し合い 90 分																		
15	多文化共生〈地域における共生〉2 自分が住んでいる地域の多文化共生の取り組みを調べて報告する。				事前：取り組みの調査 事後：初級の教え方の確認		講義 30 分 話し合い 60 分																		
教本：					参考文献：																				
『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』(2012) スリーエーネットワーク ¥2,750 「日本語教育の参照枠」報告 (2021) 文化審議会国語分科会 その他、授業で伝える。																									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																									
授業参加状況等 (25%)、学習項目の一覧・教案の提出と発表 (25%)、模擬授業と自己評価表の提出 (25%)、話し合い参加度とコメント表の提出等 (25%) で総合評価する。																									
学生へのアドバイス：																									
事前・事後の課題（授業外での課題）が多くなります。模擬授業担当者は、周到な準備とリハーサルを行ってから参加してください。																									
オフィスアワー：																									
初回講義日に伝える。																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本語教授法 (Japanese-Language Pedagogy)					科目分類	専門科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
グローバル化の進展により人やモノの移動が盛んになる中で、どのような人たちがどのような日本語を必要としているのか。また、日本語でのコミュニケーション実現のために、外国語としての日本語をどのように伝えているのか。このようなことを学ぶ。																										
授業目標:																										
1. 日本語を外国语として教える「日本語教育」に関して、基本的な知識を身につける。 2. 日本語教育についていくつかの側面から考えることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	イントロダクション 日本語教育の現状 (1) 海外編について学ぶ ・概況的な統計 ・各国の日本語教育					事前：シラバスを読んでくる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
2	日本語教育の現状 (2) 国内編について学ぶ ・概況的な統計 ・受け入れ政策 ・年少者、生活者、難民への日本語教育 ・在留外国人施策					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
3	日本語教育の歴史について学ぶ (1) ・時代区分 ・「日本語学習」期(19C末まで) ・「国語(日本語)教育」期(20C初~1945年)					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
4	日本語教育の歴史について学ぶ (2) ・「日本語教育」期(1945~現在) ・各時期の言語政策					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
5	外国语教授法 (1) 文法に重点をおいた教授法について学ぶ ・文法翻訳法 ・構造言語学の理論に基づいた教授法 ・直接法					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
6	外国语教授法 (2) コミュニケーションに重点をおいた教授法について学ぶ ・コミュニケーション・アプローチ ・アクティビティのいろいろ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
7	外国语教授法 (3) 心理学や認知学習理論に基づいた教授法について学ぶ ・学習者の情意的側面 ・学習者が考え、学んでいく日本語教育					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
8	コースデザインとシラバスについて学ぶ ・コースデザインで行うこと ・シラバスの種類と組み合わせ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
9	日本語教育における評価法について学ぶ (1) ・評価の目的、対象、種類 ・結果の分析					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
10	日本語教育における評価法について学ぶ (2) ・テストの作成と結果の分析 ・パフォーマンステストを評価する ・コンピューターを使ったテスト					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
11	第二言語習得論について学ぶ (1) ・第二言語習得研究とは ①行動主義的見解 ②生得的見解 ③第二言語習得 ④誤用分析					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
12	第二言語習得論について学ぶ (2) 第二言語習得に対するさまざまな見解 ⑤中間言語の発達 ⑥第一言語の影響 ⑦モニター理論					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
13	第二言語習得論について学ぶ (3) 第二言語習得に対するさまざまな見解 ⑧インテラクション(相互交流)的な見解 ⑨認知主義的な見解					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
14	第二言語習得論について学ぶ (4) ・教室での指導－インプット重視の指導、言語形式に焦点を当てる指導 ・学習差の個人差要因					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義70分 演習20分																		
15	学習ストラテジーについて学ぶ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポートの作成		講義70分 演習20分																		
教本:		参考文献: プリントを配付する。 「海外日本語教育機関調査」国際交流基金 「日本語教育実態調査」文化庁 『新・日本語教育を学ぶーなぜ、なにを、どう教えるかー』遠藤織枝ほか (2020) 三修社																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (30%)、学期末レポート (60%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
自分が今までに受けた外国語の授業、あるいは自分の外国语学習と照らし合わせながら、日本語を外国语として教えるということを考えてみると、興味がもてるでしょう。なお、事前学習については、その都度指示・確認します。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	日本語講読 (Japanese Reading)					科目分類	専門科目																			
担当教員	松浦 恵津子																									
履修条件	前提科目	日本語概論、日本語学(文法)、日本語学(音声・音韻)																								
その他 (上記科目を履修していないても履修できます)																										
授業概要： さまざまな日本語を材料にして、日本語の仕組みを考える。これまで日本語について学んできたことを生かしながら、自ら考え、他の人の意見を聞いて、考えを発展させ、解決案を見いだしていく。																										
授業目標： 1. 日本語の用例を、言語学的に分析することができる。 2. 自分の考えを述べ、他の人の意見を聞き、考えをまとめることができる。 3. 意見・考えを、明快・簡潔にわかりやすく述べることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	オリエンテーション これまで日本語学の各分野で学んだことを振り返る					事前：シラバスを読む 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
2	1. 「しりとり」にひそむ問題① 拗音や長音で終わることばの場合や、1つのことばとして認められるかについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
3	1. 「しりとり」にひそむ問題② しりとりの作戦や、固有名詞や略語などは認められるかについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
4	2. 「ことばの意味」の諸相① 類義語や多義語について考える。					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
5	2. 「ことばの意味」の諸相② 複合語の意味や語用論的意味について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
6	3. 「若者ことば」の特徴① 略語や程度を表すことばについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
7	3. 「若者ことば」の特徴② あいまい表現や語形について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
8	4. 「和語・漢語・外来語」一語種(単語の出身地)① 語種の区別や使い分けについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
9	4. 「和語・漢語・外来語」一語種(単語の出身地)② 外来語について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
10	5. 「会話の意図が伝わらない」のはなぜか① 意図しないことが伝わる場合や、客の心をつかむには、について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
11	5. 「会話の意図が伝わらない」のはなぜか② 印象のよしあしや、会話がうまくいく方法について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
12	6. 「音声と文字の対応」言われてみれば……① 音声と文字の非対応について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
13	6. 「音声と文字の対応」言われてみれば……② 外来語や助数詞の音と表記について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
14	7. 「ことば遊び」は何がおもしろいのか① シャレや早口ことばについて考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表																		
15	7. 「ことば遊び」は何がおもしろいのか② ことばのなぞなぞや、回文について考える					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の振り返り		話し合いと発表																		
教本：		参考文献：																								
野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ¥1,650																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(50%)、提出物(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 身近な日本語について考え、意見交換をしましょう。異なる意見が出たときの対処のしかたも考えましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	日本語史 (History of Japanese Language)						科目分類	専門科目														
担当教員	松浦 恵津子																					
履修条件	前提科目	日本語概論			その他	なし																
<b>授業概要 :</b> 文章・文体、文字表記、音韻、語彙、文法の各領域について、現代の日本語が、古代からどのような変遷を経て成立したのかを概観する。各時代の資料から、当時の日本語の姿をよみとる。																						
<b>授業目標 :</b> 1. 現代日本語がどのような過程を経て成立したのかを理解する。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者、日本語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																						
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																				
○	○																					
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																						
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態														
1	オリエンテーション 日本語史の時代区分を知る。				事前: シラバスを読んでくる 事後: 時代区分の確認			オリ 30分、講義 40分、 プリント記入 20分														
2	文章・文体史① (上代・中古) 上代・中古の日本語資料の文章・文体について知る。				事前: なし 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
3	文章・文体史② (中世・近世) : 中世の日本語資料の文章・文体について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
4	文章・文体史③ (近代) : 近世・近代の日本語資料の文章・文体について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
5	文字史① (上代) : 万葉仮名のしくみについて知る。				事前: 日本語の文字について 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
6	文字史② (中古以降) : ひらがな・カタカナの成立、仮名遣いの変遷、文字に関する政策について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
7	語彙史① (上代・中古) : 上代・中古の日本語資料の語彙について知る。				事前: 語彙史とは 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
8	語彙史② (中世・近世・近代) : 中世・近世・近代の日本語資料の語彙について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
9	文法史① (体言、用言-動詞) : 代名詞、動詞の活用の種類・各活用形の用法の変遷について知る。				事前: 古代の動詞の活用について 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
10	文法史② (用言-形容詞・形容動詞) : 形容詞・形容動詞の活用の種類や、各活用形の用法の変遷について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
11	文法史③ (助動詞・助詞) : 助動詞・助詞の変遷について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
12	音韻史① (上代・中古) : 上代・中古の日本語の音韻について知る。				事前: なし 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
13	音韻史② (中世・近世・近代) : 中世・近世・近代の日本語の音韻について知る。				事前: 配付資料に目を通す 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
14	辞書の歴史を知り、現代の辞書と比較する。				事前: 昔の日本語の辞書について 事後: 配付資料の整理と復習			講義 50~60分、 プリント記入 30~40分														
15	言語政策の歴史、言語政策ことばまとめ				事前: 質問・確認事項の洗い出し 事後: レポート作成			質疑応答														
教本 :		参考文献 : 岡崎友子ほか (2016) 『ワークブック 日本語の歴史』くろしお出版 ¥1,650 プリントを配布する。																				
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 <b>授業参加状況等</b> (20%)、 <b>提出物等</b> (20%)、 <b>定期試験</b> (60%) 等で総合評価する。																						
<b>学生へのアドバイス :</b> 昔の人たちは、どんな日本語を使っていたのでしょうか。古代から現代までの日本語の変遷を扱います。																						
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	日本語プレゼンテーション(Presentation in Japanese)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石井 みどり																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
社会のさまざまな場面でプレゼンテーションの機会があり、コミュニケーションの大切な手段の一つとなっています。授業では、プレゼンテーションを効果的に実践できるよう、基礎を指導し、さまざまな課題に取り組みます。																										
授業目標:																										
日本語表現とコミュニケーション能力の向上を目指します。自分の考え方を的確に相手に伝える表現を学び、プレゼンテーションの基礎を身につけることを目的とします。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前:なし 事後:「見る」とは何か			講義 90分																		
2	「見る」とは何か①				事前:「見る」とは何か 事後:「見る」を理解する			講義 60分 グループワーク 30分																		
3	「見る」とは何か②				事前:「見る」を理解する 事後:「見る」を理解する			講義 30分 グループワーク 60分																		
4	言葉とは何か				事前:「言葉」とは何か 事後:「言葉」を理解する			講義 60分 グループワーク 30分																		
5	自分の気持ちを相手に伝える①				事前:「伝える」とは何か 事後:「伝える」を表現する			講義 60分 グループワーク 30分																		
6	自分の気持ちを相手に伝える②				事前:「伝える」を表現する 事後:「伝える」を表現する			講義 30分 グループワーク 60分																		
7	テーマとストーリー①				事前:テーマを考える 事後:ストーリーを考える			講義 30分 グループワーク 60分																		
8	テーマとストーリー②				事前:ストーリーを作る 事後:ストーリーを作る			講義 30分 グループワーク 60分																		
9	テーマとストーリー③				事前:ストーリーを作る 事後:ストーリーを作る			講義 30分 グループワーク 60分																		
10	ストーリーと構成				事前:構成とは何か 事後:構成を考える			講義 50分 グループワーク 40分																		
11	資料の作成				事前:資料とは何か 事後:資料の作成をする			講義 50分 グループワーク 40分																		
12	プレゼンテーション実践①				事前:プレゼンテーション 事後:ストーリーと資料作成			プレゼンテーション 90分																		
13	プレゼンテーション実践②				事前:プレゼンテーション 事後:ストーリーと資料作成			プレゼンテーション 90分																		
14	プレゼンテーション実践③				事前:プレゼンテーション 事後:ストーリーと資料作成			プレゼンテーション 90分																		
15	まとめ				事前:実践の総括 事後:実践の総括			講義 90分																		
教本:					参考文献: 資料を配布するので、教科書は指定しません。 適宜、指示します。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(40%)、授業中の課題、定期試験(60%)等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
自分も相手も大切にする表現方法を学んでください。																										
オフィスアワー:																										
初回の授業で教えます。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	石井 みどり																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっています。本講義では、当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような考え方をもっていたのか理解を深めています。																										
授業目標:																										
原始から近現代にかけて、日本史の基礎知識を習得し、理解する力を養うことを目的としています。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：縄文時代		講義 90 分																		
2	文字のない時代					事前：縄文時代 事後：縄文時代		講義 90 分																		
3	卑弥呼と邪馬台国					事前：縄文・弥生・古墳時代 事後：弥生・古墳時代		講義 90 分																		
4	聖徳太子と十七条憲法					事前：飛鳥時代 事後：飛鳥時代		講義 90 分																		
5	貴族の生活と国風文化					事前：奈良時代 事後：平安時代		講義 90 分																		
6	平清盛と日宋貿易					事前：平安時代 事後：平安時代後期		講義 90 分																		
7	源頼朝と義経					事前：平安時代後期 事後：鎌倉時代		講義 90 分																		
8	織田信長と下剋上の時代					事前：南北朝・室町時代 事後：室町・安土桃山時代		講義 90 分																		
9	豊臣秀吉と朝鮮出兵					事前：安土桃山時代 事後：安土桃山時代		講義 90 分																		
10	江戸幕府の成立と島原の乱					事前：江戸時代前期 事後：江戸時代前期		講義 90 分																		
11	開国と幕末の動乱					事前：江戸時代中期 事後：江戸時代後期		講義 90 分																		
12	明治維新と文明開化					事前：江戸時代後期 事後：明治時代		講義 90 分																		
13	戦争の近代 ① 第一次世界大戦とドイツ人捕虜					事前：明治時代 事後：明治・大正時代		講義 90 分																		
14	戦争の近代 ② 第二次世界大戦の背景にあるもの					事前：明治・大正・昭和時代 事後：昭和時代		講義 90 分																		
15	まとめ					事前：通史の総括 事後：通史の総括		講義 90 分																		
教本：					参考文献： 「詳説 日本史研究」山川出版社																					
初回の授業で教えます。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等(40%)、授業中の課題、定期試験(60%)等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス：																										
文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。																										
オフィスアワー：																										
初回の授業で教えます。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習											
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)					科目分類	基礎科目													
担当教員	小林 克																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
最初に、高校まで学んできた日本の歴史はどのような史料の調査、研究により明らかにされてきたのかを明らかにする。その上で、日本の歴史の様々な変革期について、その原因と過程、結果について史・資料を示し分かりやすく説明。そして現代に近づくにつれ、今の我々の国や社会の仕組、暮らし、文化のあり方が、どのような形で変容してきたのかを示し、自分たちの問題として考える。																				
授業目標：																				
日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料等の存在があることを学ぶ。日本史が世界史と連動していることを学び、歴史を知ることが、今後の人生や様々な活動での判断の基になることを理解する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○		○																		
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。歴史学研究の方法と日本の歴史はどういうに判明してきたのか。そのエビデンスとしての考古資料、古文書等について				事前：高校日本史教科書を読んでおく。 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
2	旧石器時代～縄文時代のはじまり 日本列島に人間がやってきた頃とその後について、遺跡、遺物から				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
3	縄文時代 遺跡、遺物から見る世界的にも希な自然との共生を果たした縄文時代の暮らしについて				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
4	弥生時代 稲作の拡大、金属器の使用についての意味と国家の成立。卑弥呼の生きた時代とは				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
5	古墳時代 様々な古墳津築造の意味。大陸からの文化の流入				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
6	飛鳥時代 仏教の受容と朝鮮半島、中国王朝との交流について				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
7	奈良時代・平安時代 遣唐使と中国文化の導入。貴族の生活と荘園 一般の人々の暮らし				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
8	武家政権の誕生と展開 平氏政権から源頼朝の鎌倉幕府成立 朝廷と鎌倉幕府の関係 元寇の持つ意味				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
9	室町時代 南北朝の動乱と室町幕府の成立。関東から始まった戦国時代 倭寇の展開と日明貿易				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
10	安土・桃山時代 戦国大名の争いと、織田信長そして豊臣秀吉の霸権。鉄砲とキリスト教の伝来				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
11	江戸幕府の成立と都市 江戸のインフラ整備と発展				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
12	江戸時代の社会、生活と文化 技術革新と海外からの文化、技術の相互交流について。レポートの指示				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
13	江戸時代の海外交流 陶磁器や漆器、和服などの輸出と、生活文化への相互影響について				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
14	幕末の動乱から明治政府誕生 ベリー来航から幕末動乱、そして江戸開城、戊辰戦争。西南の役				事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			講義(90分)												
15	まとめ 全体を纏める講義。レポートの概要について発表				事前：レポートの準備と発表準備 事後：レポートの準備			講義(40分)・ 演習(50分)												
教本：					参考文献： 特になし。ほぼ毎回資料プリントを配布する。															
講義ごとに示す。																				
成績評価の方法、評価基準：																				
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(40%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかるわらず課題を課す。																				
学生へのアドバイス：																				
毎回配布する資料プリントで復習すること。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本風俗史 (Japanese History of Manners and Customs)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
1. 風俗学とはなにかを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗史について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標:																										
日本の風俗の成り立ちやその基本的な衣食住を理解し、また、日本の風俗文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	(古代) 古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	近現代における日本の風俗（衣食住の展開）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本：		参考文献： 授業時に指示する。																								
なし。プリント配布。		1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』(角川選書) 角川学芸出版 2010年 竹内誠編著																								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
発表とレポート (50%)・期末試験 (50%)。																										
学生へのアドバイス：																										
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー：																										
木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本風俗史 (Japanese History of Manners and Customs)					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
1. 風俗学とは何かを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標:																										
日本の風俗の成り立ちやその基本的にある衣食住を理解し、日本の風俗文化が時代の政治といかなる関係あったかについて、理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 風俗とは。日本の風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	(古代) 古代人の生業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	(中古) 平安時代の信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	(中世) 鎌倉時代・室町時代の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	(近世) 江戸時代の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	(近現代) 明治・大正・昭和の風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	(民俗) 都と田舎の文化の交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	(民俗) 山・里・海の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 『日本風俗史事典』弘文堂 『日本民俗学大辞典』吉川弘文館																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とコメント・カード (50%)・レポート (50%)																										
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	日本文化概論 (Introduction to Japanese Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石井 みどり																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
おもに近現代の歴史をふりかえり、身近な話題をとりあげながら、日本人の心の一端を模索していきます。授業ではグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて、理解を深められるようにしています。																										
授業目標:																										
日本人の心はどのように形成されてきたのでしょうか。日本人の心を探求する上で、日本文化を理解することは欠かせません。日本文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：日本文化とは何か			講義 90分																		
2	日本人の名前と名前の由来				事前：名前の由来について 事後：名前の文化			講義 50分 発表40分																		
3	おいしさを感じるオノマトペ				事前：オノマトペについて 事後：オノマトペの文化			講義 40分 グループワーク 50分																		
4	「母の日」と「父の日」①「母の日」のマーケティング				事前：「母の日」について 事後：「母の日」の歴史と文化			講義 40分 グループワーク 50分																		
5	「母の日」と「父の日」②「父の日」のマーケティング				事前：「父の日」について 事後：「父の日」の歴史と文化			講義 40分 グループワーク 50分																		
6	音楽とは何か				事前：音楽を聞く 事後：音と音楽の文化			講義 50分 ディスカッション 40分																		
7	家族と家庭料理				事前：大学生の家庭料理 事後：家庭料理の歴史と文化			講義60分 ディスカッション 30分																		
8	水の文化				事前：水について 事後：水の文化			講義 60分 グループワーク 30分																		
9	時の記念日				事前：時間の使い方について 事後：時と時間の違い			講義 60分 ディスカッション 30分																		
10	クールジャパン①アニメ 漫画 ゲーム				事前：アニメ、漫画、ゲーム 事後：アニメ、漫画、ゲーム			講義 30分 グループワーク 60分																		
11	クールジャパン②アニメ 漫画 ゲーム				事前：アニメ、漫画、ゲーム 事後：クールジャパンの文化			講義 30分 グループワーク 60分																		
12	大学生の「日本文化」を理解する①				事前：若者世代論 事後：若者世代論			講義 30分 発表 60分																		
13	大学生の「日本文化」を理解する②				事前：若者世代論 事後：若者世代論			講義 30分 発表 60分																		
14	大学生の「日本文化」を理解する③				事前：若者世代論 事後：若者世代論			講義 30分 発表60分																		
15	まとめ				事前：日本文化とは何か 事後：大学生の「日本文化」			講義 90分																		
教本:					参考文献: 資料を配布するので、教科書は指定しません。 適宜、指示します。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(40%) 授業中の課題、定期試験(60%) 等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス:																										
文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。																										
オフィスアワー:																										
初回の授業で教えます。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究 (Japanese Culture Studies)					科目分類	専門科目		
担当教員	安倍 宰								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:									
この授業の目的は、ともすれば観光やエキゾチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのはとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多方面から考えてみましょう。									
授業目標:									
ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						○			
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖靈觀と他界觀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本: 使用しません					参考文献: 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(10%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス: 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本文化研究A (Japanese Culture Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
1. 風俗学とはなにかを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗史について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標:																										
日本の風俗の成り立ちやその基本的な衣食住を理解し、また、日本の風俗文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	(古代) 古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	近現代における日本の風俗（衣食住の展開）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本:		参考文献: 授業時に指示する。																								
なし。プリント配布。		1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』(角川選書) 角川学芸出版 2010年 竹内誠編著																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																										
発表とレポート (50%)・期末試験 (50%)。																										
学生へのアドバイス:																										
予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー:																										
木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本文化研究A (Japanese Culture Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
1. 風俗学とは何かを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標:																										
日本の風俗の成り立ちやその基本的にある衣食住を理解し、日本の風俗文化が時代の政治といかなる関係あったかについて、理解を深めることを目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
○		○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 風俗とは。日本の風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	(通史) 風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	(古代) 古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	(古代) 古代人の生業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	(中古) 平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	(中古) 平安時代の信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	(中世) 鎌倉時代・室町時代の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	(近世) 江戸時代の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	(近現代) 明治・大正・昭和の風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	(民俗) 都と田舎の文化の交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	(民俗) 山・里・海の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 『日本風俗史事典』弘文堂 『日本民俗学大辞典』吉川弘文館																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とコメント・カード (50%)・レポート (50%)																										
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本文化研究B (Japanese Culture Studies B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：(近世文化)																										
1. 江戸学とは何かを理解する。 2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。 3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標：																										
江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を講読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目指とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	江戸の飢餓を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本：			参考文献：																							
なし。プリント配布。			1. 石上七輔『日本の原点』マイナビ新書 2. 『江戸学事典』弘文堂																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
発表とレポート (50%)・期末試験 (50%)。仔細は授業時に明示する。																										
学生へのアドバイス：																										
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー：																										
木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本文化研究B (Japanese Culture Studies B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要：(近世文化) 1. 江戸学とは何かを理解する。 2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。 3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。																										
授業目標： 江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』などの資料を読み、「江戸学」の出発点となる知識の整理をするとともに、史料の収集方法や活用方法を学び、江戸文化について語れるようにする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
2	江戸と上方の文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
3	江戸時代の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
4	江戸時代の食について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
5	江戸時代の饅頭について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
6	江戸時代の灾害について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
8	江戸時代の生業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
9	江戸時代の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
10	江戸時代の信仰、宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
11	江戸時代の建築、暮らしについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
12	江戸時代の学問について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
13	江戸時代の芸能について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
14	江戸時代の廓（悪場所）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習																		
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義																		
教本：		参考文献： なし。プリント配布。 『江戸学事典』弘文堂																								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とコメント・カード（50%）、レポート（50%）等で総合評価する。具体的には授業時に明示する。																										
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習											
授業科目(英文)	日本文化史 (Japanese Culture)						科目分類	専門科目												
担当教員	石上 七輔																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
『古事記』に記された神話を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味、伝承者の心を捉える。																				
授業目標：																				
・上代の文献を正確に読み、説明することができる。 ・注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・『古事記』の特質、研究について考察することができる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	日本文学の発生、口承から書承へ				事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習			講義 90 分												
2	神とは				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 90 分												
3	古事記の概説				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 90 分												
4	高天の原はどこに				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
5	おのころ島				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
6	天皇の生まれ変わり				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
7	アエノコト				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
8	アマテラスの岩戸隠れ（中臣と忌部）				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
9	歴代天皇と雄略天皇				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
10	海幸・山幸				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			講義 45 分、演習 45 分												
11	学生によるプレゼンテーション				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			演習 90 分												
12	学生によるプレゼンテーション				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			演習 90 分												
13	学生によるプレゼンテーション				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			演習 90 分												
14	学生によるプレゼンテーション				事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習			演習 90 分												
15	纏め				事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り			講義 90 分												
教本： なし、プリントを配布					参考文献： 石上七輔著『日本の原点』マイナビ新書 石上七輔著『古代伝承文芸序説』桜楓社															
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。																				
授業参加状況等（30%）、テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。																				
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	日本文化史 (Japanese Culture)					科目分類	専門科目																			
担当教員	伊藤 高雄																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
『古事記』や『万葉集』など、日本古代の神話や説話、歌などを対象として授業を行う。本文を的確に読み、解釈し、日本人が古くから培ってきた信仰や習俗、倫理（モラルセンス）を踏まえながら、日本文化を歴史的に位置づけたい。																										
授業目標:																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>上代の文献を正確に読み、説明することができる。</li> <li>注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。</li> <li>『古事記』や『万葉集』の特質、研究について考察することができる。</li> </ul>																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	日本文化を考える ことばと文字と					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分																		
2	「見る」ことの古代的意味を考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分																		
3	「聞く」ことの古代的意味を考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分																		
4	香りと味と触覚について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分																		
5	語りの発生と機能について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
6	歌の発生と機能について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
7	宮廷儀礼の文学と文化について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
8	年中行事と人生儀礼について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
9	歌垣と恋歌について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
10	在来文化と渡来文化について考える					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分																		
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分																		
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分																		
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分																		
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分																		
15	まとめ					事前：授業内容の事前まとめ 事後：まとめの振り返り		演習 90 分																		
教本：					参考文献： なし、プリントを配布。 授業時に指示する。																					
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等 (30%)、コメントカードの提出 (20%)、レポート (50%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
いろんな文化的な事柄に積極的に興味を持ち、休まずに出席すること。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習									
授業科目(英文)	日本文学 (Japanese Literature)						科目分類	専門科目										
担当教員	白石 佳和																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要 :																		
この授業では、俳句の句会活動を行う。日本の伝統的な短詩型文学（和歌、俳句など）は、歌会、句会などに参加する形式に特徴があり、座の文学と呼ばれる。俳句の句会活動を通じて座の文学を体験し、歳時記などに表象される日本文化を楽しみながら身につける。																		
授業目標 :																		
他の参加者と相互にコメントしあう発想や表現技法を取り入れてともに成長できる。 自註活動や歳時記作成を通じて日本文化や自分のルーツの文化を自覚し表現できる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	オリエンテーション 俳句の歴史と句会のやり方について学ぶ。			事前：俳句について調べる 事後：振り返りとまとめ			講義60分、グループワーク20分、発表10分											
2	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
3	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
4	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
5	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
6	世界の俳句や歳時記を紹介し、歳時記や季語の役割について学ぶ。			事前：資料を読んでくる 事後：振り返りとまとめ			講義40分、グループワーク30分、発表20分											
7	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
8	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
9	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
10	吟行を行う。			事前：なし 事後：自句に注をつける			吟行50分、 投句・清記・選句40分											
11	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
12	句会（投句、清記、選句、披講、講評）を行う。			事前：兼題の句を作ってくる 事後：自句に注をつける			投句・清記30分、選句・披講30分、講評30分											
13	わたしの季語・わたしの歳時記作り1			句会（投句、清記、選句、披講、講評） を行う			作業説明20分、 歳時記作り60分、まとめ10分											
14	わたしの季語・わたしの歳時記作り2			事前：句稿と季語の整理 事後：原稿作成			作業説明20分、 歳時記作り60分、まとめ10分											
15	半期全体を振り返りまとめる。			事前：レポートのリライト 事後：レポート完成			レポート読み合い60分、 まとめ30分											
教本 :																		
参考文献 :																		
授業で紹介した歳時記を購入する。																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
授業参加状況等（10%）、俳句創作（60%）、レポート「わたしの歳時記」（30%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス :																		
俳句を楽しみ、日本文化を身につける授業です。一緒に楽しく学びましょう。																		
オフィスアワー :																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	日本文学概論 (Introduction to Japanese Literature)						科目分類	専門科目												
担当教員	石上 七輔																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
<b>授業概要 :</b> 日本文学の生成過程とその変容の原動力について見極める。古典文学はどのように発生し、伝播し、波及したか作品に即して理解する。また古典文学が実際にどのように読まれてきたのかについて、「竹取物語」「伊勢物語」「源氏物語」「枕草子」「徒然草」「百人一首」といった古典を通して文学を考える。日本文学の理念と変遷を考え、日本の代表的な文学作品に触ながら、作品の構想と表現、作者と時代背景などを含めて、文学研究の方法と態度を養う。作品の背景に横たわる問題点を指摘しながら思索を深める訓練をする。作品を理解し、日本文化における文学の影響力と、文学の果たした役割を理解する。																				
<b>授業目標 :</b> 日本文学（物語・隨筆・和歌など）の概要を理解する。 1. 日本文学の形態や表現の特徴を概観し、深く読み進めるために必要な方法や基礎知識を習得する。 2. 日本文学の生成と展開を把握し、日本文学の全体像を理解する。 3. 各時代における日本文学の新展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのようにして伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して深く理解する。 4. 日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。																				
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																		
◎	○																			
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション、日本文学の領域について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義												
2	日本文学の発生と場（文学以前から文学へ、神と人）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
3	日本文学の形態と様式について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
4	文学的発想とその流れについて学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
5	伝承・創作とその享受について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
6	構想と表現（言葉と心、主題と描写、作品とモデル、事実と虚構）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
7	日本文学の環境1、（歴史と社会）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
8	日本文学の環境2、（自然と風土）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
9	日本文学の理念と変遷1、上代文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
10	日本文学の理念と変遷2、中古文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
11	日本文学の理念と変遷3、中世文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
12	日本文学の理念と変遷4、近世文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
13	日本文学の素材（自然・旅・離別）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
14	日本文学と諸文化（国語史・宗教・風俗・民俗）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習												
15	日本文学研究法のまとめ				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義												
<b>教本 :</b> なし。プリント配布。					<b>参考文献 :</b> 1. 『日本の原点』石上七輔著、マイナビ新書、￥830（税抜き） 2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、￥2,520 3. 『日本古典文学大系』（岩波書店）『日本古典文学全集』（小学館）															
<b>成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。</b> 平常点（15%）、小テスト（15%）、授業内容への参加度（10%）、試験（60%）などで評価する。																				
<b>学生へのアドバイス :</b> 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																				
<b>オフィスアワー :</b> 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	日本文学概論 (Introduction to Japanese Literature)						科目分類	専門科目														
担当教員	伊藤 高雄																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
日本文学の生成過程とその変容の原動力について見極める。古典文学はどのように発生し、伝播し、波及したか作品に即して理解する。また古典文学が実際にどのように読まれてきたかについて、『古事記』『万葉集』『源氏物語』『枕草子』『平家物語』『近松淨瑠璃』『奥の細道』といった古典を通して文学を考える。日本文学の理念と変遷を考え、日本の代表的な文学作品に触れながら、作品の構想と表現、作者と時代背景などを含めて、文学研究の方法と態度を養う。作品の背景に横たわる問題点を指摘しながら思索を深める訓練をする。作品を理解し、日本文化における文学の影響力と、文学の果たした役割を理解する。																						
授業目標：日本文学の概要を理解する。																						
1. 日本文学の形態や表現の特徴を概観し、深く読み進めるために必要な方法や基礎知識を習得する。 2. 日本文学の生成と展開を把握し、日本文学の全体像を理解する。 3. 各時代における日本文学の新展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのようにして伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して深く理解する。 4. 日本文学が、日本文化全体の中において果たして来た役割を理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	オリエンテーション、日本文学の領域について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義														
2	日本文学の発生と場（文学以前から文学へ）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
3	日本文学の形態と様式について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
4	文学的発想とその流れについて学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
5	伝承・創作とその享受について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
6	構想と表現（言葉と心、主題と描写、作品とモデル、事実と虚構）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
7	日本文学の環境1、（歴史と社会）について学ぶ				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
8	日本文学の環境2、（自然と風土）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
9	日本文学の理念と変遷1、上代文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
10	日本文学の理念と変遷2、中古文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
11	日本文学の理念と変遷3、中世文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
12	日本文学の理念と変遷4、近世文学の理念について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
13	日本文学の素材（自然・旅・離別）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
14	日本文化と諸文化（国語史・宗教・風俗・民俗）について学ぶ。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
15	まとめ				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義														
教本： なし。プリント配布。		参考文献： 岩波書店『日本古典文学大系』、小学館『日本古典文学全集』																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等（20%）、コメント・カード、授業内容への参加度（30%）、レポート（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																						
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																				
授業科目(英文)	日本文学講読 (Reading of Japanese Literature)					科目分類	専門科目																						
担当教員	白石 佳和			履修条件	前提科目	なし	その他	なし																					
授業概要:「歌と散文」	日本の古典文学には、散文（物語、隨筆など）と韻文（和歌など）が明確に分かれず入り混じっている作品が少なくない。この授業では日本の代表的古典作品である源氏物語と奥の細道を取り上げ、なぜ散文に歌が混ざっているのか、作品を読みながら検討する。																												
授業目標:	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典作品の講読の方法・技術を身につける。</li> <li>本授業のテーマ（歌と散文の関係）について考察し、自分の問いと答えを導く。</li> </ul>																												
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="7">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td colspan="2">○</td><td colspan="6" rowspan="2"></td><td></td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養							○	○								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																										
○	○																												
授業計画・事前学習・事後学習、形式																													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																						
1	オリエンテーション 本授業のテーマを共有し、『源氏物語』について学ぶ。				事前：なし 事後：振り返りとまとめ		講義50分、グループワーク30分、発表10分																						
2	『源氏物語』桐壺巻の和歌贈答場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
3	『源氏物語』若紫巻の和歌贈答場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
4	『源氏物語』末摘花巻の和歌贈答場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
5	『源氏物語』薄雲巻の光源氏の独詠歌場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
6	『源氏物語』薰君の独詠歌場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
7	『奥の細道』について基礎知識を学ぶ。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義50分、グループワーク30分、発表10分																						
8	『奥の細道』旅立ちの場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
9	『奥の細道』平泉の場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
10	『奥の細道』最上川の場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
11	『奥の細道』富山の場面の解釈・問題点について検討を行う。				事前：今回の場面の下読み 事後：振り返りとまとめ		講義30分、発表30分、議論30分																						
12	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。1				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																						
13	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。2				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																						
14	本授業のテーマに沿って学生がプレゼンテーションを行う。3				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																						
15	半期全体を振り返りまとめる。				事前：レポートの下書き 事後：レポートの完成		レポート読み合い60分、まとめ30分																						
教本:	参考文献: プリントを配布する。																												
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、発表(40%)、レポート・論文(40%)等で総合評価する。																												
学生へのアドバイス:	日本を代表する古典に触れ、味わいましょう。																												
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																												

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	日本文学史 (Japanese Literary History)						科目分類	専門科目														
担当教員	石上 七輔																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
物語の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を探る。																						
授業目標:																						
日本文学史に関する基礎的知識を時代別と系統別の両方から理念をふまえて理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	日本文学の発生、祭式と祝詞。「神觀念」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義														
2	古代文学、神話と歴史。「言靈」「他界觀」「語り部」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。「まこと」（直、清、明）「ますらをぶり」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
4	中古文学、「たをやめぶり」「雅」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
5	中古文学「あはれ」「をかし」「王朝女流文学」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
6	中古文学 「たけ高し」「とほ白し」「余情」「艶」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
7	中世文学「幽玄」「有心」「無心」「わび」「枯淡」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
8	近世文学「さび」「軽み」「いき」「粹」「通」「野暮」「をかしみ」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
9	系統別文学史「史書」「物語」「草子」「読本」「勸善懲惡」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
10	系統別文学史「説話」「小説」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
11	系統別文学史「和歌」「連歌」「俳諧」を考える。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
12	系統別文学史「日記」「紀行」と学生のプレゼンを行う。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
13	系統別文学史「隨筆」「評論」と学生のプレゼンを行う。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
14	系統別文学史「芸能」と学生のプレゼンを行う。				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
15	学生のプレゼンを行う。 まとめ				事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習														
教本: なし、プリント配布		参考文献: 『日本の原点』石上七輔著 マイナビ新書 ¥873																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト(15%) 授業への参加度(25%) 試験(60%)。																						
学生へのアドバイス: 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																						
オフィスアワー: 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）																						

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	日本文学史 (Japanese Literary History)						科目分類	専門科目																
担当教員	伊藤 高雄																							
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																		
授業概要 :																								
日本文学の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を探る。																								
授業目標 :																								
日本文学史に関する基礎的知識の習得と、発生論的なものの見方を養う。																								
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
◎			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態																
1	日本文学の発生、祭式と祝詞、寿詞。神観念について考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義																
2	古代文学、神話と歴史。言靈、他界觀、語部について考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。まこと（直・清・明）ますらをぶりを考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
4	中古文学、たをやめぶり、雅びについて考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
5	中古文学、あはれ、をかし、王朝の女房文化について考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
6	中古文学、たけたかし、とほしろし、余情などを考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
7	中世文学、幽玄、わび・さび、無常觀について考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
8	近世文学、粹、通、野暮、軽みについて考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
9	系統別文学史、歴史書、物語、草子、読本などについて考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
10	系統別文学史、説話、小説を考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
11	系統別文学史、和歌、連歌、俳諧連歌（連句）について考える。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
12	系統別文学史、日記、紀行。学生のプレゼンテーションを行う。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
13	系統別文学史、隨筆、評論。学生のプレゼンテーションを行う。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
14	系統別文学史、能、狂言、歌舞伎その他。学生のプレゼンテーションを行う。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
15	学生のプレゼンテーションを行う。まとめ。					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習																
教本 :		参考文献 : なし。プリント配布。 各社の国語便覧。																						
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。																								
授業参加状況等 (20%)、コメント・カードの提出 (30%)、レポート (50%) 等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス :																								
予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。																								
オフィスアワー :																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	乳児保育 I (Childcare of Infants I)						科目分類	専門科目													
担当教員	石橋 優子																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
乳児保育の意義・目的と歴史的返遷および役割について理解する。乳児の発達と保育について学び、必要な保育や保護者・保育者間、他機関等、関係機関との協働・連携について学ぶ。そして、乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割を理解する。																					
授業目標：																					
1. 乳児保育の意義・目的と歴史的返遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。																					
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においていた保育を示す。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	シラバスの説明と確認 1. 乳児保育の意義・目的と役割 (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的返遷を学ぶ				事前：シラバスの下読みをする 事後：乳児保育の役割の復習		講義 50 分、乳児保育の自分の目標発表 40 分														
2	1. 乳児保育の意義・目的と役割 (2) 乳児保育の役割と機能を学ぶ				事前：乳児保育の意義を下読み 事後：乳児保育の意義の復習		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分														
3	1. 乳児保育の意義・目的と役割 (3) 乳児保育における養護及び教育を学ぶ				事前：乳児保育の目的を調べる 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分														
4	2. 乳児保育の現状と課題 (1) 保育所における乳児保育について理解する				事前：保育所等を調べておく 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見発表 40 分														
5	2. 乳児保育の現状と課題 (2) 保育園における乳児保育：DVD鑑賞後、レポートを提出				事前：保育所等を調べておく 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分														
6	2. 乳児保育の現状と課題 (3) 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分														
7	2. 乳児保育の現状と課題 (4) 家庭の保育等における乳児保育を学ぶ				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分														
8	2. 乳児保育の現状と課題 (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：各グループのまとめ		講議 40 分、グループ討議 30 分、発表 20 分														
9	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (1) 3歳未満児の生活と環境を学ぶ				事前：資料で予習 事後：講義内容の再確認		講議 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分														
10	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (2) 3歳未満児の遊びと環境を学ぶ				事前：資料等で確認しておく 事後：講義内容の再確認		講議 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分														
11	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (3) 3歳未満児の保育に移行する時期の保育を学ぶ				事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講議 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分														
12	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助の関わりを学ぶ				事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講議 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分														
13	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮				事前：資料で予習 事後：グループ討議の反省		講義 30 分、演習 60 分														
14	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義を学ぶ				事前：資料で予習 事後：発育発達の復習		講義 60 分、グループで検討 30 分														
15	乳児保育における職員間、保護者、自治体や地域の関係機関との連携・協働について理解する				事前：資料で予習 事後：連携・協働のまとめ		講義 60 分、個人の反省 30 分														
教本：					参考文献：																
乳児の生活と保育 松本園子編 ななみ書房					保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																					
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート・発表等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。グループワークや個別で課題に取り組み、授業内容の理解。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	乳児保育Ⅱ (Childcare of Infants II)						科目分類	専門科目													
担当教員	石橋 優子																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
乳児保育の歴史、今後の課題について学び、保育の普遍的理論と現代における乳児保育のニーズをとらえ、現代に即した保育のありようを考察し理解する。また、3歳未満児の発育・発達の過程や特性及び、養護及び教育の一体性を踏まえた援助や配慮、関わりの基本的な考え方について理解する。そして、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境を踏まえた乳児保育における計画の作成について理解する。																					
授業目標：																					
1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。																					
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においていた保育を示す。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	シラバスの説明と確認 1. 乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性について学ぶ				事前：シラバスの下読みをする 事後：講義内容の再確認		講義 50 分、乳児保育の自分の目標発表 40 分														
2	1. 乳児保育の基本 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的なかかわり				事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容の再確認		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分														
3	1. 乳児保育の基本 (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ちを学ぶ				事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分														
4	1. 乳児保育の基本 (4) 子どもの体験と学びの芽生えを学ぶ				事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分														
5	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境				事前：乳児保育を調べておく 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話合 30 分、レポート 30 分														
6	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成を学ぶ				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話合 30 分、レポート 30 分														
7	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞 30 分、話合 30 分、レポート 30 分														
8	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際				事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：各グループのまとめ		講義 30 分、グループ討議 30 分、発表 30 分														
9	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (5) 子ども同士の関わりとその援助の実際				事前：資料で予習 事後：各グループのまとめ		講義 30 分、グループ討議 30 分、発表 30 分														
10	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (6) 保育園に実際に見学に行く				事前：資料等で確認しておく 事後：見学のまとめをする		見学														
11	3. 乳児保育における配慮の実際 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るために配慮				事前：子どもへの配慮の確認 事後：見学からの反省		見学後の発表														
12	3. 乳児保育における配慮の実際 (2) 集団での生活における配慮				事前：資料等で確認する 事後：具体的に確認しておく		おむつや沐浴等の配慮について演習する														
13	3. 乳児保育における配慮の実際 (3) 環境の変化や移行に対する配慮				事前：配慮の実際を予習する 事後：実際の扱い等の復習		演習 90 分														
14	4. 乳児保育における計画の実際 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画				事前：資料で事前調べ 事後：指導計画のまとめ		講義 60 分、グループで検討 30 分														
15	4. 乳児保育における計画の実際 (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画				事前：事前調べ 事後：指導計画のまとめ		グループ発表 30 分、演習 60 分														
教本：					参考文献：																
乳児の生活と保育 松本園子編 ななみ書房					保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																					
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート・発表等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。実践力を付けるために演習や発表を取り入れた授業内容になっています。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	人間関係(子どもと生活)(Personal Relationships (Children and Their Life))			科目分類			専門科目												
担当教員	渡邊 真理																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要：																			
子ども同士、子どもと保育者関わり等社会性を発達させる上で欠かせない人間関係の在り方を理解することを目的とする。人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ぶ。また、子どもの自主性の尊重とその促し方、集団生活との関わりも取り上げる。授業形態は、レポート発表やグループ討論など主体的に取り組むような工夫をする。																			
授業目標：																			
1. 幼児期に人との関わりを育むために必要な知識や技能について理解する 2. 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、領域としての「人間関係」の目的、内容、内容の取扱いを理解する 3. 子どもの遊びと生活を人間関係でとらえ、社会性を育む視野を広げる																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要な○○）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	科目的概要・目標を理解し、見通しを持つ 保育の基本についての講義から理解を深める			事前：シラバスを読む 事後：授業内容の復習			講義70分 振り返り20分												
2	幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領を読んで「人間関係」のねらいと内容を理解する			事前：保育所保育指針等を読む 事後：授業内容の復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
3	人間関係の発達の道筋を理解する① 新生児の能力や人への関心、母親との関わりについて理解する			事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
4	人間関係の発達の道筋を理解する② 0歳児から2歳児の「人間関係」は保育士や友達を中心に育まれることを理解する			事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
5	人間関係の発達の道筋を理解する③ 3歳児から5歳児の「人間関係」は集団としての関わりを中心に育まれることを理解する			事前：テキスト第3章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
6	人間関係の基盤となる愛着形成の理論を理解し、親の役割・行為を学ぶ			事前：テキスト第2章の指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義50分 グループワーク40分												
7	人間関係で重要な自己主張と自己抑制の育ちを支えるために、子どもを観察する、援助するための方法を理解する			事前：テキスト第7章第3節を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
8	子ども同士の関わりの場面で思いやりのある行動や遊びの中などで育つ社会性の発達を促す方法等を理解する			事前：集団遊びを考える 事後：授業の内容の整理、復習			講義30分 ワーク・振り返り60分												
9	集団の中によりよい人間関係のために必要となる道徳性や規範意識の芽生えをどのようにとらえ、援助していくかを理解する			事前：テキスト第7章第4節を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
10	領域「人間関係」の保育実践のための教材研究と指導案作成の方法を学び、指導案を作成する			事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習			演習90分												
11	作成した指導案をもとに模擬授業を実践し、教材の価値や保育士の援助等についての討議から視野を広げる			事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習			講義30分 グループワーク60分												
12	友達との関わりが難しい子どもの特徴を理解し、個や状況に応じた支援の方法をまとめ、事例を検討する			事前：資料を読む 事後：授業内容の整理、復習			講義30分 グループワーク60分												
13	園での異年齢児との活動や、地域の人々と関わること、自然環境との関わることで育つ社会性について具体的に考える			事前：指定した場所を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義30分 グループワーク60分												
14	領域「人間関係」と他の領域との関係について理解する			事前：テキスト第1章第7節を読む 事後：授業の内容の整理、復習			講義60分 ワーク・振り返り30分												
15	人間関係育成の観点から、幼小連携の課題をレポートにする			事前：テキスト第1章第5節を読む 事後：レポートにまとめる			講義30分 ワーク・振り返り60分												
教本：																			
事例で学ぶ保育内容 領域人間関係 萌文書林 無藤隆・岩立京子 ¥2,000円 2021年						参考文献： 適宜紹介、資料配布する													
幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領																			
成績評価の方法、評価基準：到達目標の達成度、レポート、定期試験を総合的に評価する 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 幼児期の人間関係は人の生き方の基礎になるので、専門知識を深めていきましょう。シラバスの内容は履修学生の理解度などにより変更もあります。																			
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	認知情報演習 (Seminar on Cognitive Information)					科目分類	専門科目															
担当教員	牧 裕夫																					
履修条件	前提科目	認知心理学			その他																	
授業概要：																						
認知情報演習での学びを演習形式で展開、講義の部分は1/3ぐらい、みなさんの個性ある発表から演習形式で進める。高度なパフォーマンスへの貢献を目指す認知情報演習であるが、特にM.ポランニーの暗黙知から「創発」の発想をメンバー間で共有したい。																						
授業目標：																						
1. 認知情報演習での知により、参加者各位の日常生活や未来との関連として理解や関心が深めたい。 2. 参加学生自身のアピールポイントを「創発」との関連から発表し、メンバーとのディスカッションを通して拡大を図ること。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス (認知情報演習として特に状況論心理学の発想を振り返る)				事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認			講義90分														
2	認知情報演習等での振り返り (アフーダンス、正統的周辺参加、ヴィゴツキー最近接領域等)				事前：認知情報演習との接点 事後：高度技能への心理学			講義90分														
3	本演習展開での枠組み①：アフーダンスからクラウド活用の視座				事前：クラウド体験の所在を確認 事後：ネット環境とクラウド			講義90分														
4	本演習展開での枠組み②：個人orコミュニティでのクラウド活用				事前：特に地域でのクラウド活用 事後：身近なコミュニティ活動			講義60分 ディスカッション30分														
5	本演習展開での枠組み③：高度な技能・学習 (認知情報演習での知見を「創発」として各位の発表内容を方向づける)				事前：アフーダンスまとめ 事後：発表に備えた情報収集			講義60分 ディスカッション30分														
6	参加メンバーグループによる「創発」体験について心理臨床として共有する。				事前：資料の予習 事後：情報収集と発表資料の準備			講義60分 ディスカッション30分														
7	参加メンバーグループによる「創発」体験について企業マーケティングとして共有する。				事前：資料の予習 事後：振り返りとレポート準備			講義30分 参加者の発表60分														
8	「創発」の関連としてポストモダン、レヴィーストロース（野生の思考）ブリックラージュを体験する。				事前：資料の予習 事後：振り返りとレポート準備			講義30分 コラージュ制作体験60分														
9	当該回から、参加者からの発表を中心にセッションを進める（発表へのオリエンテーション）。				事前：コラージュ作品の振り返り 事後：振り返りとレポート作成			講義30分 参加者の発表60分														
10~14	参加者からの発表を中心にセッションを進める（第1回～第5回）				事前：資料の予習 事後：振り返りとレポート作成			講義30分 参加者の発表60分														
15	演習全体から何を得たのか総合的にディスカッションを行う。				事前：資料の予習 事後：振り返りとレポート作成			講義30分 振り返り(60分)														
教本：		参考文献： 『創造するマーケティング』2008 井関・山川他 日経BP企画 『ギブソン心理学の核心』2002 境・曾我・小松 効果書房																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 参加学生個々の将来の進路との関連から、自身のアピールポイントを明確にしてゆきたい。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	認知情報論 (Cognitive Informatics)					科目分類	専門科目							
担当教員	牧 裕夫			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	20世紀での心理学の反省点としてそのレベルが乳幼児の学習・技能とされた。ドジャーズ大谷や欧米で活躍するサッカー、バスケットのアスリート達のパフォーマンス、企業にて高度な業績がどのような過程で成り立っているのか、状況論心理学の可能性を共有する。													
授業目標:	1. 認知情報論から学びと日常体験との接点を探る。 2. 高度な技能に関する一連の理論と私達の日常との関連を知る。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○				○										
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	オリエンテーション(認知情報論の学びと日常体験との接点を探る)				事前: シラバスの精査 事後: シラバスの確認			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
2	還元主義の学習心理学、その批判としてのゲシュタルト心理学、そして認知情報論が登場している。				事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
3	フレーム問題の指摘から(人工知能研究からやがて私達のようなロボットが登場するのだろうか。)				事前: 鉄腕アトムから人工知能 事後: その挫折の理由			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
4	フレーム問題の挫折からの展開(身体性と試行錯誤するロボット、人工知能の新たな取り組み等)				事前: マクド商品がなかったら 事後: 学習への新たな試み			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
5	現状でもアンドロイドでもロボット動作のものまね芸人コロッケらしさから抜け出せないマイクロスリップの柔軟性。				事前: コロッケ動作のロボット 事後: 共感とマイクロスリップ			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
6	米ソ冷戦時代での心理学として高次学習への論争が行われていた。ブルーナー仮説等教育心理学での取り組み。				事前: 高度技能への黎明期 事後: 教育分野での取り組み			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
7	今日で注目されているL. ヴィゴツキー vs J. ピアジェ論争 ピアジェの認知情報論への批評からの高度な知性への展開				事前: 早逝したヴィゴツキー 事後: 関係性から高度実践			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
8	ピアジェ vs ヴィゴツキー論争としての「独り言」論争 ヴィゴツキー理論→「精神間から精神内へ」等				事前: 今日見直さる試み 事後: アフォーダンスへ			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
9	心理学3つの柱から4つの柱「状況論心理学」 計画と実践「アルゴリズムvsヒューリスティックス」から				事前: 日常でのアリアリティ 事後: ヒューリスティックス			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
10	G. G. ギブソンのアフォーダンスへの核心 「情報は環境側に無限に潜在、環境側から情報が提供される」				事前: 心理学の第4の柱 事後: 状況論心理学の登場			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
11	状況論心理学としてアフォーダンス(G. G. ギブソン) 戰闘機の訓練システム開発から正統的周辺参加(J. レイブ)等へ				事前: 状況論の拡大 事後: ポストモダン野生の思考			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
12	J. レイブの正統的周辺参加、環境のインターフェイス化(大谷にとってバットは身体の一部)				事前: 職人芸の技能習得 事後: 正統的周辺参加			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
13	G. ベイトソンのイルカの学習 ダブルバインドからの創造へ・創造性の所在				事前: イルカの学習Ⅲ 事後: 病理と創造性の狭間			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
14	受講者にある正統的周辺参加、アフォーダンスな体験を振り返り、本学習による知識の定着を図る。				事前: 既に各位は体験している 事後: どう活かすか、この知見			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
15	まとめ				事前: 確認事項を持ち寄る 事後: 受講者の知として共有			講義60分、小レポート・ディスカッション30分						
教本:	参考文献: 講義者からその都度、資料を配布する。 「ギブソン心理学の核心」境・小松・曾我 効果書房 「鉄腕アトムと晋平君一ロボット研究の深化と自閉症児の発達」渡部 ミネルヴァ書房													
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(30%)、小レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	私達自身が日々当たり前に様々なパフォーマンスをしているが、それらのメカニズムに気づくこと、そこに創造性の所在があり「生きている」という感触がある。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	認知心理学 (Cognitive Psychology)					科目分類	専門科目															
担当教員	牧 裕夫																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
認知心理学は人間の記憶やイメージに対する研究分野であり、心理学の中でも広範な領域と接点を持つホットな分野である。同じ物理的な世界に住んでいる私たちは、本当に同じ世界に住んでいるのだろうか。「不思議の国」への入り口はどこにでもあるのかも。																						
授業目標:																						
1. 心理学史での認知心理学の役割、今日の展開を知る。 2. 社会心理学、臨床心理学をはじめ他領域にて認知心理学での知見活用の実態に関心を持つ。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	心理学の中の認知心理学（学習心理学と認知心理学）				事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認			講義60分、 ディスカッション30分														
2	認知心理学の歴史的背景（1956年の認知革命）				事前：鉄腕アトム出現する? 事後：1956年での出来事			講義60分、 ディスカッション30分														
3	基本的な記憶研究①（記憶貯蔵庫の所在）				事前：忘れて得していることはなに? 事後：忘却があり人類は存続した			講義60分、 ディスカッション30分														
4	基本的な記憶研究②（短期記憶からワーキングメモリーへ）				事前：沢山のことを覚える工夫 事後：今日の知能検査の方向性			講義60分、 ディスカッション30分														
5	記憶貯蔵庫の存在と機能（情報の転送：リハーサル）				事前：乳児は逆行きを知覚できるか 事後：逆行き近くも日々の経験から			講義60分、 ディスカッション30分														
6	記憶貯蔵庫の存在と機能（記憶の体制化、記憶術等）				事前：どれだけ覚えていられる 事後：単純記憶容量の実験			講義60分、 ディスカッション30分														
7	視覚イメージの所在（絵的なイメージの存在：二重コード説）				事前：絵的なイメージで役立つこと 事後：絵的な存在への実験方法			講義60分、 ディスカッション30分														
8	視覚イメージの所在（知覚とイメージの同型性）				事前：実際のリンゴとイメージは同じ 事後：実験でどう取り組んでいるのか			講義60分、 ディスカッション30分														
9	パターン認知（特徴分析型：伏魔殿モデル等）				事前：なぜ文字を認識できるのか 事後：伏魔殿の中での無意識な働き			講義60分、 ディスカッション30分														
10	パターン認知（視覚的探索課題、選択的注意等）				事前：雑踏の中で知人を発見 事後：聖徳太子になれない私達			講義60分、 ディスカッション30分														
11	パターン認知（視覚的断崖課題からアフォーダンス理論へ）				事前：大谷のバットは身体の一部 事後：高度な学習、アフォーダンス			講義60分、 ディスカッション30分														
12	アフォーダンスからの今日的展開				事前：環境の身体化例を探索 事後：環境の中に無限大の情報あり			講義60分、 ディスカッション30分														
13	心理臨床でのイメージ活用① マインドフルネス				事前：癒しでのイメージの活用 事後：流行のマインドフルネス実践			講義60分、 ディスカッション30分														
14	心理臨床でのイメージ活用② 絵的なイメージの活用				事前：イメージで想起した成功体験例 事後：ゾーンに入ったとは…			講義60分、 ディスカッション30分														
15	認知心理学で紹介した内容の確認と振り返り				事前：印象に残ったことを報告 事後：「君たちはどういきるのか」			講義60分、 ディスカッション30分														
教本：		参考文献： 認知心理学への招待（サイエンス社） 情報処理心理学 I・II・III（サイエンス社） 授業で随時配布する。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（20%）、学期末でのテスト（40%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 行動分析学と同じように基礎心理学的に他領域のエビデンス研究を拡張、また人工知能関連との関連としても注目されている。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	ネットワーク技術 (Network Technology)						科目分類	専門科目												
担当教員	秋廣 誠																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
インターネットのしくみを支える通信技術と、データベース(DB)について講義する。WiFiルーターの設定や、ネットワーク越しのDB操作など、実際の体験を通して理解を深める。さらに、SNS(X:旧Twitter)の背後にあるDBの構成を想定し、そのトイモデルを検討し実際に操作する。このことで、我々を取り囲む様々なネットワークサービスにおける、ユーザー側からみたときの情報モデルと、それを実現しているマシン側の諸概念の両面を深く理解する。																				
授業目標：																				
インターネットのしくみを支える通信技術について説明できる。 SNSの仕組みについて、DBの役割も踏まえ説明できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス				事前：なし 事後：アクションペーパーを記入する			講義												
2	httpについて理解する。Webブラウザが、ZOZOタウンのWebページを構成していく様子を観察する。				事前：PCに適宜ソフトウェアをインストールする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
3	http、マークアップ言語、マシンリーダブル、ヒューマンリーダブル、Webデザイン、について理解する。				事前：TCPについて予習する 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
4	TCPについて概説する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
5	TCPの働きについて、processingによるデモを通して体験し、理解を深める。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
6	IPについて、WiFiルーターの設定を通して、理解する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
7	ドメインとDNSについて概説する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
8	Get／Post／Cookieについて概説する。動的に生成されるHTMLを観察し、理解を深める。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
9	Webに関する、広告、アフィリエイト、ドメイン、サーバーに関する知識を深める。				事前：RDBMSについて予習する 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
10	リレーションナル・データベース(RDBMS)による情報管理について概説する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
11	InstagramやX(旧Twitter)といったSNSの背後にあるDB関連の仕組みを想定する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
12	XのトイモデルをRDBMSで構築する。アカウント、ツイート、フォローはどのように「表」で表せるか。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
13	ネットワークを通して各自でアカウントを作成し、ツイートする。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
14	ネットワークを通して各自でフォロー等の操作をする。Python webフレームワーク(streamlit)を説明する。				事前：Pythonフレームワークについて予習する 事後：アクションペーパーを記入する			講義60分 演習30分												
15	Python webフレームワークによる<Xトイアプリ>を解説する。各自でアプリを体験する。				事前：資料を下読みする 事後：アクションペーパーを記入する			講義												
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する															
成績評価の方法、評価基準：																				
アクションペーパーと授業態度(40%)、小テスト(60%)で評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
ノートパソコンが必要である。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	ネットワーク構築論 (Network Construction Theory)						科目分類	専門科目														
担当教員	井上 明也																					
履修条件	前提科目	なし			その他	ノートパソコンを用意すること																
授業概要:																						
ネットワーク技術は、すべてのITシステムの実現において必須の要素技術となっている。本講義では、インターネットに関する基礎技術を中心に、コンピュータネットワーク全般に関する技術概要を網羅的に学ぶ。また、最新技術動向と共に、ネットワーク構築の基礎理論の概要についても学ぶ。																						
授業目標:																						
ネットワークに関連する基礎的な用語と最新の技術動向を把握するとともに、ネットワーク構築に用いる基礎理論を理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	シラバスの説明、ネットワーク関連技術の変遷 ネットワーク技術の歴史、情報通信サービスの概要				事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する			講義														
2	ネットワーク技術の概要 ネットワークの分類、各ネットワークの概念と用語				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
3	プロトコルの基礎 OSI参照モデル、プロトコル構造、国際標準化動向				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
4	インターネットの基礎技術1 TCP/IPの基礎、アドレス情報の基礎				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
5	インターネットの基礎技術2 IPアドレスの変換方式、DHCP、名前解決DNS				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
6	インターネットの基礎技術3 アドレス情報の設定法、ネットワーク・コマンドの利用方法				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
7	インターネットの基礎技術4 WWW、電子メール関連技術				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
8	IPネットワーク技術の基礎1 ルーティング技術、ネットワーク機器とその変遷				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
9	IPネットワーク技術の基礎2 インターネットアクセス技術、ITサービスのビジネス形態				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
10	IPネットワーク技術の基礎3 サービス品質、SLA、VPN関連サービスとその技術				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
11	モバイルコミュニケーション技術の基礎 モバイル通信NW、ワイヤレスアクセス方式と無線LAN規格				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
12	ネットワーク構築の基礎理論1 ネットワーク評価のためのネットワーク理論				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
13	ネットワーク構築の基礎理論2 即時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
14	ネットワーク構築の基礎理論3 待時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
15	最新技術動向の概説と期末試験				事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する			講義60分 演習30分														
教本:		参考文献: 指定しない 講義内で指示する																				
成績評価の方法、評価基準:																						
小テスト・レポート等（100%）で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	発達心理学概論 (Introductin to Developmental Psychology)						科目分類	専門科目												
担当教員	田村 修一																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
人間の発達を生まれてから大人になるまでとらえるのではなく、受胎から死に至るまでの生涯としてとらえ、各発達段階における心理的特徴や臨床的課題について学ぶ。加えて近年、注目されている発達障害とその支援についても概説する。																				
授業目標：																				
1. 胎児期から老年期までの心理発達の特徴を理解し、自己理解や他者の発達支援について考えることができる。 2. 発達障害とその支援の基本的方法について理解できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価の方法） 演習：私のライフライン（これまでの人生を振り返る）				事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入			講義45分・演習45分												
2	発達段階と発達課題 エリクソンの生涯発達理論				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
3	胎児期の発達① 胎児の身体・感覚機能の発達				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
4	胎児期の発達② 胎児に影響を与える妊娠婦の心理とそのケア				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
5	乳幼児期の発達① 知性の発達（ビアジェの認知発達理論）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
6	乳幼児期の発達② 社会性の発達（ボウルヴィの愛着理論）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
7	児童期の発達① 演習：社会性を育むための心理教育プログラム（SGE、GWT）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			演習90分												
8	児童期の発達② 演習：道徳性を育むための心理教育プログラム（ジレンマ課題）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			演習90分												
9	青年期の発達 アイデンティティの拡散と確立				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
10	成人期の発達 進路選択・就職、恋愛・結婚、子育て				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
11	老年期の発達 人生の最終章の発達課題について考える				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
12	発達障害（LD、ADHD、ASD）の人の理解				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
13	発達障害（LD、ADHD、ASD）の人への援助				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分												
14	個別課題：発達臨床（発達課題とその支援）の教科書作り				事前：資料の収集 事後：原稿づくり			演習90分												
15	発表会とディスカッション				事前：発表のリハーサル 事後：学びの振り返り			講義15分・演習75分												
教本：					参考文献： 「スタンダード発達心理学」櫻井茂男・佐藤有耕 サイエンス社 2013年 (授業中に紹介する)															
成績評価の方法、評価基準：																				
平常点（授業への参加態度、リアクションペーパー、個別課題作品）50%と定期試験50%の総合評価。																				
学生へのアドバイス：																				
発達心理学を学ぶことで、現在の自身の自己理解や友人などの他者理解を深めてほしいと思います。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	発達と学習の心理 (Psychology of Development and Learning)						科目分類	専門科目							
担当教員	水本 深喜														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	本授業では、乳幼児期の発達、動機付け理論、学習理論、行動分析学などの心理学の基礎から、子どもを理解する切り口を提供する。														
授業目標:	本講義の目標は、子どもの発達のプロセスや学習のメカニズムを理解し、子どもの発達段階や個々の特性にあった支援方法を考えることができるようになることである。														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)															
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
○	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1	オリエンテーション			事前: シラバスを読んでおく 事後: 授業の見通しをつける			講義・演習								
2	発達するとはどういうことなのか:生涯発達の中に乳幼児期を位置付けて考える			事前: 自分の幼少期について親などに聞いてみる 事後: 「発達」について自分の考えをまとめる			講義								
3	生命の芽生えから誕生まで			事前: 出産を経験した人に、妊娠から出産までの話を聞いてみる 事後: 胎児の発達について学んだことをまとめる			講義								
4	乳幼児の発達:認知的発達			事前: 乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後: 乳幼児の発達について学んだことをまとめる			講義								
5	乳幼児の発達:関係性の発達			事前: 乳幼児を見かけたら、その様子や親子間の関わりを観察してみる 事後: 乳幼児の発達について学んだことをまとめる			講義								
6	愛着:アタッチメントとボンディング、愛着障害			事前: 「愛着」について調べる 事後: アタッチメントの個人差について、その要因と関連付けてまとめる			講義								
7	動機付け理論:内発的動機付け、外発的動機付け、学習性無力感			事前: 何が自分のやる気につながっているのか考える 事後: 様々な場面での「動機付け」について考える			講義								
8	発達障害:自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害			事前: 発達障害に関して調べてみる 事後: 発達障害児の支援について考えてみる			講義								
9	学習のメカニズム:古典的条件付け、オペラント条件付け			事前: パブロフの犬の実験について調べておく 事後: 様々な場面での行動形成について考えてみる			講義								
10	行動分析学による子どもの行動理解			事前: 子どもの適切・不適切な行動にはどのようなものがあるか考える 事後: 子どもの行動形成のメカニズムについて考える			講義・演習								
11	行動分析学による子どもの行動形成			事前: 形成・消去したい子どもの行動を考える 事後: 上記子どもの行動をどのように形成・消去するのか考える			講義・演習								
12	こんなときどうする?:集団場面での関わり			事前: 幼稚園・保育園で気になる子どもの行動とは何か考える 事後: より適切な行動を形成するにはどうすればいいのか考える			講義・演習								
13	こんなときどうする?:育児支援			事前: 乳幼児育児期の母親は子どものどのような行動に困っているのか考える 事後: 上記問題にどのようにアドバイスすれば良いのか考える			講義・演習								
14	グループでの事例検討・発表			事前: これまでの授業内容に基づき、検討したい事例を考えておく 事後: 発表資料の作成			講義・演習								
15	発表会			事前: 発表資料の作成 事後: 子どもの発達と学習について自分の考えをまとめる			演習								
教本:	参考文献:														
なし。授業中に資料を配布する。															
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(50%)、テスト(50%)で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。														
オフィスアワー:	初回授業日に伝える。														

は

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	比較文化論 I (Comparative Culture I)					科目分類	専門科目							
担当教員	福島 崇宏			履修条件	前提科目	なし	その他	なし						
授業概要:	グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。													
授業目標:	1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養							
	○		○											
授業計画・事前学習・事後学習・形式														
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Iの全体像を概観する。				事前: 教本pp.1~3精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。				事前: 教本pp.3~9精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を知る。				事前: 教本pp.236~242精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
4	文化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突を理解する。				事前: 教本pp.11~16精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
5	文化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。				事前: 教本pp.16~19精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。				事前: 教本pp.19~24精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
7	コミュニケーション ② 想像／創造する力の可能性をともに考える。				事前: 教本pp.24~31精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
8	言語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか。				事前: 教本pp.108~117精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
9	言語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。				事前: 教本pp.117~134精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。				事前: 教本pp.135~144精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心との関係を考える。				事前: 教本pp.144~152精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
12	時間・空間—記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。				事前: 教本pp.152~157精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。				事前: 事前配布物の精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。				事前: 事前配布物の精読 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
15	まとめ ・比較文化論Iの内容を総括し、議論を深める。				事前: これまでのノート復習 事後: まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分						
教本:	参考文献: 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。													
成績評価の方法、評価基準:	授業中に課す小レポート(40%)及び期末試験(60%)で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	比較文化論Ⅱ (Comparative Culture Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	福島 崇宏																									
履修条件	前提科目	比較文化論Ⅰ																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れるこの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。																										
授業目標：																										
1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Ⅱの全体像を概観する。				事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。				事前：教本 pp.83~95精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。				事前：教本 pp.95~108精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。				事前：教本 pp.37~50精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。				事前：教本 pp.50~59精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例検討する。				事前：教本 pp.61~90精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。				事前：教本 pp.90~108精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
8	文化のポリティクス 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。				事前：教本 pp.159~169精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。				事前：教本 pp.181~188精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。				事前：教本 pp.189~192精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。				事前：教本 pp.192~205精読 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
12	研究発表1 ・これまでの学びの成果を発表する。				事前：報告準備 事後：発表評価表の作成			報告 60分、討論 30分																		
13	研究発表2 ・これまでの学びの成果を発表する。				事前：報告準備 事後：発表評価表の作成			報告 60分、討論 30分																		
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。				事前：報告準備 事後：発表評価表の作成			報告 60分、討論 30分																		
15	まとめ ・比較文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。				事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成			講義 60分、討論 30分																		
教本：																										
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション －多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。																										
参考文献：																										
授業中に適宜紹介する。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業中の小レポート(40%)及び期末試験(60%)で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	東アジアの文化史 (Cultural History of East Asia)						科目分類	専門科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
<p>授業概要：東アジアの文化史の授業では、わかりやすい講義と口頭Q&amp;Aと討論会とレポートなどのアクティビティ・ラーニング（主体的・対話的学び）によって、自己肯定感を高め、人格形成（モラルの向上）をさせ、人間力（力強く生きていくための力）を磨く。東アジアの文化つまり台湾の儒教思想を論じ、道徳心を高め、人徳者となる道を指示示す。生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心、知・徳・体）を育む。私伊藤幹彦の台湾居住16年（うち3年半で国立台湾大学で博士号を取得、うち11年台湾の大学で准教授）の経験から学んだ台湾人の心の中にある儒教思想も説明する。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているので、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。</p>																		
<p>授業目標：孔子の誕生以来、『論語』や『孟子』などを通して、約2500年間にわたって、中国の儒教思想は、家庭教育と学校教育と社会教育などを通じて、現在の台湾人や中国人の心に受け継がれているので、これらの東アジアの文化史（台湾の文化、台湾の儒教思想）の概念の習得を目標とする。</p>																		
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																
	○	○																
<p>授業計画・事前学習・事後学習、形式</p>																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	東アジアの文化史（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：東アジアの文化史の下読みをする。 事後：東アジアの文化史のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 アンケート10分。自己紹介30分。											
2	台湾の思想（1）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A 60分。 アンケート10分。課題10分。											
3	台湾の思想（2）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A 60分。 アンケート10分。課題10分。											
4	台湾の思想（3）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A 60分。 アンケート10分。課題10分。											
5	台湾の思想（4）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明60分。口頭Q&A 10分。 アンケート10分。課題10分。											
6	台湾の思想（5）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
7	台湾の思想（6）（台湾の輪廻思想、縁起思想、臨死体験、前世療法、前世の記憶、死生学）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
8	孔子の生涯の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：孔子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
9	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。課題をする。			事前：五倫五常の下読みをする。 事後：五倫五常のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
10	台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想、死生学研究の説明をする。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。			講義説明70分。 ディスカッション20分。											
11	『論語』（1）（『学ぶ』とは何か）（幸福になるために）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：『論語』（1）の下読みをする。 事後：『論語』（1）のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
12	『論語』（2）（人徳者と知識人）（人間を磨く）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：『論語』（2）の下読みをする。 事後：『論語』（2）のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
13	『論語』（3）（若者との対話）（人生論）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：『論語』（3）の下読みをする。 事後：『論語』（3）のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
14	『論語』（4）（孔子の生き方）（愛と死と孝）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：『論語』（4）の下読みをする。 事後：『論語』（4）のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。 課題40分。											
15	東アジアの文化史のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：東アジアの文化史のまとめの下読みをする。 事後：東アジアの文化史のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A 10分。 アンケート10分。											
<p>教本：プリントを配布する。</p>																		
<p>参考文献：中国文化事典編集委員会（編）、竹田晃（編）、『中国文化事典』、丸善出版、2017年、¥22,000。 加地伸行、『増補版 論語』、講談社、2009年、¥1,793。 貝塚茂樹、『孟子』、講談社、2004年、¥1,155。</p>																		
<p>成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）。</p>																		
<p>学生へのアドバイス：儒教思想の授業を通じて、君の徳性つまり人間性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてほしい。授業を通して学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、必ずできるようになる」と自己肯定感で学生の皆さんのがやる気を引き出し、成績を高める。頭脳の知性（東アジアの文化史の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。1. 東アジアの文化史の知識向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができます。</p>																		
<p>オフィスアワー：初回講義日に伝える。</p>																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	ビジネスとデータ (Data Analysis for Business)					科目分類	専門科目																			
担当教員	井上 明也																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 EXCELが使用できるノートパソコンを用意すること																										
授業概要:																										
ビッグデータや人工知能(AI)技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスやAIに関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンスやAIに関する知識、技術を体系的に学ぶために必要となる最も基本的なデータ分析の知識の習得を目指す。具体的には、データサイエンスやAIによって社会やビジネスで起きている変化について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、社会やビジネスで活用されているデータの種類やその意味を理解し、データ分析に取り組むための基礎知識を学ぶ。																										
授業目標:																										
データサイエンスやAIによる社会やビジネスの変化を理解するとともに、活用領域の広がりを理解する。データの種類やその意味を理解するとともに、データの発生現場(社会やビジネス)を理解した上で、データの基本的な特徴を説明できる能力の習得を目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	シラバスの説明、関連授業の紹介 本授業とデータサイエンスやAI関連科目について説明					事前:シラバスを読む 事後:資料を復習する		講義																		
2	データの種類と意味、及び情報メディアの種類と意味 データの分類と定義、情報メディアの分類と特徴について理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
3	データの比較 データの比較により、データの意味を理解する					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
4	データの比率 比率の算出により、データの特徴を理解する					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
5	データの可視化I 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
6	データの可視化II 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
7	データの可視化III 分析目的に適した可視化手法によりデータの特徴、意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
8	社会やビジネスで起きている変化I データ流通社会の現状と今後の課題を理解する					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
9	社会やビジネスで起きている変化II ICT、IoT、DXによる変化とビジネスに与える影響					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
10	ビジネスデータの入手と理解I 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
11	ビジネスデータの入手と理解II 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
12	ビジネスデータの入手と理解III 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
13	ビジネスデータの入手と理解IV 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
14	ビジネスデータの入手と理解V 指定した業界のビジネスデータを入手しデータの意味を理解					事前:前回の資料と課題を復習する 事後:資料を復習し、課題を実施する		講義30分 演習60分																		
15	ビジネスデータの入手と理解VI 業界のビジネスデータを入手し分析結果をプレゼンする					事前:プレゼン資料を作成する 事後:これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分																		
教本: 指定しない					参考文献: 講義内で指示する																					
成績評価の方法、評価基準: 演習課題・レポート等(100%)で総合評価する。																										
学生へのアドバイス: 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	ビジネストラベル論 (Business Travel)					科目分類	専門科目													
担当教員	安本 達式																			
履修条件	前提科目	なし																		
	その他	なし																		
授業概要:	出張や会議出席など業務を目的とする旅行であるビジネストラベルについて考察する。MICE（会議Meeting、企業報酬・研修旅行Incentive、国際会議Convention、国際見本市・展示会Event/Exhibition）、Bleisure（ビジネス+レジャー）、Workaition（ワーク+バケーション）の意義について考察する。																			
授業目標:	1. ビジネストラベルの現状と今後の可能性を理解する。 2. ビジネストラベル誘致による地域活性化効果を理解する。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得																			
	○	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態													
1	ガイダンス・ビジネストラベル論で学ぶことを説明する。					事前：なし 事後：ビジネストラベル概観	講義60分、質疑20分、感想コメント記入10分													
2	【ビジネストラベルの変遷と規模】ビジネストラベルの起こりと変遷、規模について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：関連用語の下調べ 事後：歴史・市場の考察	講義80分、小テスト10分													
3	【MICE】MICEとは何か、その歴史、関連産業等のMICEの全体像について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICEの下調べ 事後：MICEの全体像考察	講義80分、小テスト10分													
4	【MICE】日本におけるMICE市場について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE市場の下調べ 事後：MICE市場考察	講義80分、小テスト10分													
5	【MICE】日本のMICEに関連する産業について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE産業の下調べ 事後：MICE関連産業考察	講義80分、小テスト10分													
6	【MICE】MICE政策および事業について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE政策の下調べ 事後：MICE政策考察	講義80分、小テスト10分													
7	【MICE】MICE事業とその開催効果について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE事業の下調べ 事後：MICE開催効果考察	講義80分、小テスト10分													
8	【MICE】MICEと観光の関係について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE事例の下調べ 事後：MICE観光効果考察	講義80分、小テスト10分													
9	【MICE】世界のMICEの動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：MICE動向の下調べ 事後：MICEの世界動向考察	講義80分、小テスト10分													
10	【MICE】今後のMICEについて、グループワーク等により考察する。					事前：MICE動向の下調べ 事後：MICEの今後考察	講義60分、グループワーク30分													
11	【Bleisure】Bleisureの意義、今後の可能性について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Bleisureの動向下調べ 事後：Bleisureの今後考察	講義80分、小テスト10分													
12	【Workaition】Workaitionとは何か、生まれた背景と現状について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workationの下調べ 事後：仕事+休暇の考察	講義80分、小テスト10分													
13	【Workaition】日本におけるWorkationの取組、導入事例について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workation施策下調べ 事後：Workation施策考察	講義80分、小テスト10分													
14	【Workaition】日本におけるWorkationの意義、今後の可能性について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：Workation動向下調べ 事後：Workationの今後考察	講義80分、小テスト10分													
15	【ビジネストラベルの今後】これまでの学習・小テスト内容をもとに、ビジネストラベルの展望や可能性など今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察	講義70分、小レポート20分													
教本:	参考文献: 各回プリント配布 適宜紹介																			
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス:	業務を目的とした旅行を通して、観光への期待や観光が果たすべき役割について考えてください。																			
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	ビジネス法 I (Business Law I)						科目分類	専門科目									
担当教員	新城 将孝																
履修条件	前提科目	私法学 I 私法学 II (同時履修も含め、好ましい。)															
	その他	なし															
授業概要:	商法は、民法の特別法といわれます。講義の中心となるのは主に商法総則・会社法総則となります。ビジネス法を強く意識した展開とします。																
授業目標:	商人、企業形態、商人の施設、そして、民法ないし民事法を強く意識した講義とし、法的ものの見方、ビジネス実務との関連を身につけるようにすることを目標とします。																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○	○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式																
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。ビジネスの特色(概要)を示し、ビジネス法 I を学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前: 次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。 事後: 次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
2	商法を中心とするところ、商法・会社法とは何か、商法の意義および会社法の意義について考察する。加えて、商法の法源を概説する。			事前: ビジネス法とは何かについて考え、加えて、商法の意義および会社法の意義等について確認する。 事後: 商法の意義および会社法の意義等について確認し、ビジネス法とは何かを考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
3	民法と商法・会社法の関係を概観し、企業組織法としての商法、企業取引法としての商法について概説する。			事前: 民法と商法・会社法の関係を確認し、企業関係法ないしビジネス法について考察する。 事後: 民法と商法・会社法の関係を確認し、加えて、企業関係法ないしビジネス法について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
4	商人および商行為について概観し、企業形態および商人資格の得喪等について概説する。			事前: 商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認する。 事後: 商人、商行為、そして、企業形態および商人資格の得喪について確認をし、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
5	商号について、考察する。商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について概説する。			事前: 商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について、考察する。 事後: 商号とは、何か。商号と商標の違い、商号の選定、商号の登記、商号権等について確認し、商号について考察し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
6	名板貸および名板貸責任について概観する。名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について概説する。			事前: 名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認する。 事後: 名板貸の概念、民法の表見理論、そして、名板貸責任について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
7	営業および営業譲渡について概観する。営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について概説する。			事前: 営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果について確認する。 事後: 営業および営業所の概念、営業譲渡の意義、営業譲渡の法的性質、営業譲渡の効果等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
8	商業使用人について概観する。商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について概説する。			事前: 商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認する。 事後: 商業使用人の意義、支配人、特定の事項等の委任を受けた使用人、店舗使用人等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										
9	代理商について概観する。代理商の意義、代理商に関する特則等について概説する。			事前: 代理商の意義、代理商に関する特則等について確認する。 事後: 代理商の意義、代理商に関する特則等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。										

10	商業帳簿について概観する。商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について概説する。	事前：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の保存および提出について確認する。 事後：商業帳簿の意義と種類、商業帳簿の備置および提出について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
11	商業登記制度について概観する。商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について概説する。	事前：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認する。 事後：商業登記の意義、登記事項、登記手続、登記の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
12	民法上の組合と営利企業形態について概観する。無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について概説する。	事前：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認する。 事後：無限責任・有限責任と企業の機関構成につき、組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
13	企業の代表者（役員等）と企業との法的地位について概観する。企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務および責任等について概説する。	事前：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認する。 事後：企業の代表者（役員等）と企業との法的地位、その義務・責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
14	債権・債務等の移転と組織再編について概観する。特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について概説する。	事前：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認する。 事後：債権・債務等の移転と組織再編、特定承継と包括承継につき、民法における特定承継・包括承継、商法・会社法における特定承継（事業譲渡）、会社法における包括承継（合併等）について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。
15	企業倒産と破産手続、債権者平等の原則について概観する。企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について概説する。	事前：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認する。 事後：企業における各種倒産制度、破産手続、破産財団、債権者平等の原則について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。

教本：

「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。

参考文献：

初回講義日に伝えます。

成績評価の方法、評価基準：

授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。

学生へのアドバイス：

授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	ビジネス法Ⅱ (Business Law II)						科目分類	専門科目													
担当教員	新城 将孝																				
履修条件	前提科目	私法学Ⅰ 私法学Ⅱ ビジネス法Ⅰ (同時履修も含め、好ましい。)			その他	なし															
授業概要:																					
商法は、民法の特別法といわれます。講義の中心となるのは主に商取引法となります。ビジネス法を強く意識した展開とします。																					
授業目標:																					
商取引法を中心としますが、民法ないし民事法を強く意識した講義とし、法的ものの見方、ビジネス実務との関連を身につけるようにすることを目標とします。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。ビジネスの特色（概要）を示し、ビジネス法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。ビジネス法とは何かについて考える。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
2	民法の四原則、物権と債権の峻別等について概観する。権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について概説する。			事前：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認する。 事後：権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任原則について復習をし、物権と債権の峻別について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
3	意思表示と契約の成立・効果等について概観する。意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立・民事契約と商事契約の関係等について概説する。			事前：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認する。 事後：意思表示の効力、契約の成立・要件・効果、商事契約の成立、民事契約と商事契約の関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
4	代理と代表について概観する。民事代理と商事代理、商事代理の特色等について概説する。			事前：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認する。 事後：民事代理と商事代理、商事代理の特色等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
5	売買契約について概観する。売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について概説する。			事前：売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約と特別法（商事売買契約）、瑕疵物の取扱い、瑕疵担保責任等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
6	交互計算について概観する。交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について概説する。			事前：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認する。 事後：交互計算の構造、機能、交互計算契約、その積極的効力と消極的効力等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
7	匿名組合について概観する。匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について概説する。			事前：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認する。 事後：匿名組合契約の特色、合資会社との相違、消費貸借との相違、匿名組合の内部関係と外部関係等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
8	仲立営業について概観する。仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について概説する。			事前：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認する。 事後：仲立契約、仲立人の権利・義務、仲立と代理等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														
9	取次営業（問屋・運送取次）について概観する。取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について概説する。			事前：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認する。 事後：取次契約、取次の意義・機能、そして、問屋等の権利義務等について確認し、ノートにまとめる。			講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。														

10	運送営業について概観する。物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について概説する。	事前：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認する。 事後：物品運送、旅客運送、その運送形態、運送人の責任、契約責任と不法行為責任等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
11	倉庫営業について概観する。倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について概説する。	事前：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認する。 事後：倉庫寄託契約、倉庫証券、倉庫証券の物権的効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
12	運送保険について概観する。保険とは何か、保険契約と射幸契約、運送保険の特色等について概説する。	事前：保険契約と射幸契約、運送保険の特色等について確認する。 事後：保険契約と射幸契約、運送保険の特色等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
13	約款契約、企業間取引・対消費者取引等について概観する。約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について概説する。	事前：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認する。 事後：約款取引の意義と機能、情報の偏在とその是正等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
14	破産と担保物権について概観する。担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について概説する。	事前：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認する。 事後：担保物権と債権者平等の原則、破産で意味を持つ担保物権と持たない担保物権等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
15	破産と非典型担保について概観する。譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について概説する。	事前：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認する。 事後：譲渡担保と所有権留保、その担保的構成、譲渡担保設定者の破産、所有権留保の取扱い等について確認し、ノートにまとめる。	講義75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入15分。		
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。		参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	ビジュアル情報論 (Visual Digitalization)					科目分類	専門科目															
担当教員	秋廣 誠																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:																						
情報を視覚的に伝達するためには、情報を受け取る立場に立ち、必要な内容を選択し、整理や分類した上で、わかりやすく再構築する必要がある。そのために本授業では、まず、効果的な情報整理の重要性を確認する。そのうえで、主にパワーポイントによるビジュアル・レイアウトの演習を通して、ビジュアル・コミュニケーションの基本的なルールを学習する。																						
授業目標:																						
PowerPointの基本的な機能と操作を説明できる／視覚伝達表現を構成する諸要素の効果を説明できる／情報の性質に応じて、適切なダイアグラム、チャートで表現できる／未整理の情報を編集し、目的に応じて論理的に構造化し、視覚情報として可視化することができる																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス				事前：なし 事後：配布資料を確認する			講義														
2	総務省はなぜ「統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法」なるルールを作成したか				事前：資料を下読みする 事後：講義内容を復習する			講義60分 演習30分														
3	ネ申エクセル問題（神Excel問題）について考察する				事前：Excelの操作をおさらいする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
4	PowerPoint基礎を学習する（1） プレースホルダー、smart図形				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
5	PowerPoint基礎を学習する（2） フォント、整列				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
6	PowerPoint基礎を学習する（3） レイアウト、視覚効果、余白、テーマ				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
7	PowerPointで テキスト配置と「囲み」の法則を学習する				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
8	PowerPointで視覚デザインの基礎を学習する（1） 字体、ジャンプ率、色彩				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
9	PowerPointで視覚デザインの基礎を学習する（2） 余白、整列、グループ化				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
10	路線図に見るゲシュタルト／良い連続／位相図化の法則				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
11	課題：総務省のパワポ書類の改善を試みる				事前：課題の資料を確認しておく 事後：課題を完成させ、提出する			講義60分 演習30分														
12	様々なデザイン指標：①Apple Human Interface Guidelines、②Material Design				事前：資料を下読みする 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
13	グループワーク：プロトタイピングツールによるUIデザインを体験する (1) 情報の整理				事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
14	グループワーク：プロトタイピングツールによるUIデザインを体験する (2) 視覚効果				事前：ソフトウェアを確認する 事後：確認課題を提出する			講義60分 演習30分														
15	総括				事前：授業で使用した資料をまとめておく 事後：課題のフィードバックを確認する			講義														
教本： 講義内で指示する		参考文献： 講義内で指示する																				
成績評価の方法、評価基準：																						
授業での確認課題（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	美術史 (Art History)						科目分類	専門科目												
担当教員	秋廣 誠																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要 :																				
西洋美術史については、一般に聞きなれたキーワードを切り口として、古代から現代まで、作品が生まれた歴史的背景とその受容について、スライド等で鑑賞しながら適宜解説する。日本美術史と現代美術については、重要項目を取り扱う。																				
授業目標 :																				
美術作品が制作された文化的背景を説明できる。美術における歴史的な推移と代表的な作品を説明できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス／資料についての説明を行う				事前：シラバスを読む 事後：資料の復習をする			講義												
2	西洋美術史(1) ギリシャ・ローマ				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(1)について復習する			講義												
3	西洋美術史(2) 中世：ヨーロッパの美術の土台				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(2)について復習する			講義												
4	西洋美術史(3) イタリアルネサンスⅠ：15世紀フィレンツェの美術				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(3)について復習する			講義												
5	西洋美術史(4) イタリアルネサンスⅡ				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(4)について復習する			講義												
6	西洋美術史(5) 印象主義について解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(5)について復習する			講義												
7	西洋美術史(6) 世纪末美術について解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(6)について復習する			講義												
8	西洋美術史(7) 近代の建築、工芸、彫刻、美術				事前：資料を下読みしておく 事後：西洋美術史(7)について復習する			講義												
9	現代美術(1) おもに絵画について扱う				事前：資料を下読みしておく 事後：これまでの講義内容を纏めておく			講義												
10	現代美術(2) 絵画以外を扱う				事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術(1)について復習する			講義												
11	日本美術史(1) 基本的な用語、各時代の位置づけと特徴を解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：現代美術(2)について纏めておく			講義												
12	日本美術史(2) 国宝・重文の絵画について解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(1)について復習する			講義												
13	日本美術史(3) 国宝・重文の仏像・彫刻について解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(2)について復習する			講義												
14	日本美術史(4) 版画について解説する				事前：資料を下読みしておく 事後：日本美術史(3)について纏めておく			講義												
15	総括を行う				事前：講義で扱った資料を概観しておく 事後：総括を踏まえて講義内容をまとめる			講義												
教本 :					参考文献 :															
講義内で指示する					講義内で指示する															
成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業での演習(30%)、小テスト等(30%)、レポート(40%)で評価する。																				
学生へのアドバイス :																				
小テスト提出方法、レポート提出方法など、少しでも不明な点があれば、早めに質問しておくこと。																				
オフィスアワー :																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	ファイナンス法 (Finance Law)					科目分類	専門科目																	
担当教員	新城 将孝																							
履修条件	前提科目	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ 企業組織法Ⅰ・Ⅱ			その他																			
授業概要:																								
本講義は、商法・会社法における計算（商業帳簿、会社の計算）等、その法規制及び資金調達に関する法規制について概観します。																								
授業目標:																								
会社法、中でも株式会社の計算（計算書類）等に関する法規制についての理解を深めていきたい。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
			○			○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	商法・会社法等における計算等に関する法規制（1） 法主体としての商人（会社を含む）における計算の根拠法規について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
2	商法・会社法等における計算等に関する法規制（2） 計算書類等（決算書）作成の基礎となる会計帳簿及びその作成の基礎について概観する。					事前：会計帳簿に関する予習 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
3	商法・会社法等における計算等に関する法規制（3） 会計帳簿から計算書類（決算書）の作成等について概観する。					事前：誘導法の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
4	商法・会社法等における計算等に関する法規制（4） 商法会計（商業帳簿）について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
5	商法・会社法等における計算等に関する法規制（5） 会社法会計：持分会社会計（計算書類等）について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
6	商法・会社法等における計算等に関する法規制（6） 会社法会計：株式会社会計（計算書類等）について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
7	株式会社会計に関する法規制（1） 法規制の意義、利害関係者の利益保護、法規制の変遷について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
8	株式会社会計（計算書類等）に関する法規制（2） 計算書類等の作成、監査、承認、広告・閲覧（開示）等、決算の手続等について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
9	株式会社会計（計算書類等）に関する法規制（3） 資産・負債・純資産の関係、収益・費用・資産・負債等について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
10	資本金と準備金に関する法規制 資本金の額、準備金の額について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
11	資本金・準備金の額の減少に関する法規制 資本金の額、準備金の額の減少、債権者異議手続きについて概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
12	剰余金の処分（剰余金の配当）に関する法規制 剰余金の処分と手続き（剰余金の配当と配当手続き）について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
13	資金調達に関する法規制（1） 資金の調達としての株式、社債の発行について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
14	資金調達に関する法規制（2） 株式の発行、自己株式の処分等について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
15	資金調達に関する法規制（3） 社債の発行、社債の償還、社債権者集会等について概観する。					事前：法規の確認 事後：復習		講義60分 質疑応答30分																
教本：		参考文献： 「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず持参してください。 初回講義日に伝えます。																						
成績評価の方法、評価基準：																								
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス：																								
授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いいたします。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝えます。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	フィールドワーク (Fieldwork)					科目分類	専門科目																			
担当教員	田村 修一																									
履修条件	前提科目	「行動観察法」「行動観察法演習」「質的調査法」などの授業を履修していることが望ましい。																								
授業概要 :																										
心理学研究における「フィールドワーク」とは、研究対象となる現場（フィールド）を訪れ、人の行動を観察したり、関係者から話を聞く調査手法である。そのため、現場観察で得られる情報（データ）を収集し、関係者から説明、解釈、意味づけ、実態などについて聞き取る能力が不可欠となる。本授業では、「フィールドワーク」の基礎的理論とその技法を演習を交えて体験的に学ぶ。																										
授業目標 :																										
1. 心理学の研究法の一つである「フィールドワーク」の意義、目的、方法、独自性について理解できる。 2. フィールドに出向き、研究テーマに沿った人間行動の観察と記録、インタビュー調査による研究データの収集ができる。 3. 観察記録データとインタビュー調査データを基に、研究テーマに沿った研究成果（例：エスノグラフィー）をまとめることができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション 概説：「フィールドワーク」とは何か。				事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
2	フィールドワークの技法① 研究テーマの設定、対象・観察の焦点化、フィールドノート				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
3	フィールドワークの技法② データ収集と質的分析（カテゴリーの析出・仮説の生成）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
4	フィールドワークの技法③ エスノグラフィーの作成（モデルになる「研究成果」を読む）				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
5	基礎的スキル「見る」の練習① 演習：観察と記録 人の行動をていねいに観察し、詳細な記録データをとる。				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義15分・演習75分																		
6	基礎的スキル「見る」の練習② 演習：観察記録の推測・考察 発表者の観察記録から、聞き手はそれが何かを推測、考察する。				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義15分・演習75分																		
7	基礎的スキル「聞く」の練習① 個別課題：二十歳のころの私 職業人へのインタビュー調査：対象の選定、質問項目の準備				事前：なし 事後：インタビュー調査実施			講義30分・演習60分																		
8	基礎的スキル「聞く」の練習② 個別課題：二十歳のころの私 インタビュー・データの整理・分析・考察、レポートの作成				事前：調査記録の整理 事後：発表レポート作成			演習90分																		
9	基礎的スキル「聞く」の練習③ 個別課題：二十歳のころの私 発表とディスカッション				事前：発表レポート作成 事後：学びの振り返りの記入			演習90分																		
10	フィールドワーク入門（グループ）① グループ編成、研究テーマ設定、研究計画、役割分担など				事前：なし 事後：研究計画の整理			講義30分・演習60分																		
11	フィールドワーク入門（グループ）② フィールド調査1、文献調査1				事前：調査のための準備 事後：調査記録の整理			演習90分																		
12	フィールドワーク入門（グループ）③ フィールド調査2、文献調査2				事前：調査のための準備 事後：調査記録の整理			演習90分																		
13	フィールドワーク入門（グループ）④ データ分析（KJ法）、研究成果のまとめ、発表のリハーサル				事前：なし 事後：成果発表の準備			演習90分																		
14	フィールドワーク入門（グループ）⑤ 発表とディスカッション				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			演習90分																		
15	学びの振り返りとディスカッション				事前：ポートフォリオの準備 事後：学びの振り返り			講義30分・演習60分																		
教本 :																										
「フィールドワークの技法と実際」箕浦康子 ミネルヴァ書房 1999年					参考文献 :																					
					「子どものエスノグラフィー入門」柴山真琴 新曜社 2006年																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
平常点（授業への参加状況、演習への取り組み）50%とグループ研究「成果発表の作品」50%の総合評価。																										
学生へのアドバイス :																										
様々な体験を交えて「フィールドワーク」の理論と手法を学びます。ここで培った力をあなたの将来の仕事にいかしてほしいと思います。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	物権法 (Property Law)					科目分類	専門科目																
担当教員	上地 一郎																						
履修条件	前提科目	法学／私法学Ⅰ／私法学Ⅱ			その他	なし																	
授業概要：																							
本講義では、民法第二編物権の中の所有権、物権変動を中心的に講義を行ないます。物権法の全体像を概観した後、所有権と物権変動に重点を置き、用益物権をテーマとして取り上げます。これらを学習することを通して、法的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																							
授業目標：																							
物権法の基本的な知識を習得し、所有権、物権変動といった物権法の主要領域の法的諸問題を把握し、説明できるようになること。																							
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
			○			○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する			事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分																
2	民法財産法－物権法の概要 物権法の全体像を解説し、物権法とは何かを理解する			事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
3	民法における「物」を解説し、物権法の基本原則である物権法定主義について解説する			事前：物権法定主義について調べる。 事後：物権法定主義とその根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
4	所有権の内容 所有権とは何か、どのような権利なのかを解説する			事前：所有権の内容に関する民法の規定を調べる。 事後：資料の整理			講義60分 ディスカッション30分																
5	所有権の効力(1) 所有権の効力として物権的請求権の種類と内容を解説する			事前：物権的請求権について調べる。 事後：物権的請求権の種類をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
6	所有権の効力(2) 物権的請求権の問題として請求権競合を取り上げ、返還請求権における利害調整の問題を考える			事前：請求権競合とは何かを調べる。 事後：返還請求権における利害調整をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
7	所有権の原因(1) 契約以外の所有権の取得原因を解説し、取得時効の存在理由につき考える			事前：契約以外の所有権の取得原因について調べる。 事後：取得時効の存在理由についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
8	所有権の原因(2) 所有権の原始取得とは何か、添付と付合の法的問題を取り上げる			事前：所有権の原始原因について調べる。 事後：日本の付合法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
9	物権変動(1) 物権変動とは何かを解説し、契約による不動産の物権変動の法的諸問題を考える			事前：物権変動のメカニズムについて調べる。 事後：不動産の対第三者対抗要件についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
10	物権変動(2) 契約による動産物権変動の対抗要件を解説し、公示の原則と公信の原則を理解する			事前：動産物権変動の対抗要件について調べる。 事後：動産の公示、引渡しについてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
11	物権変動(3) 公信の原則－動産物権変動における取引安全保護を解説する			事前：公信の原則について調べる。 事後：動産の即時取得についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
12	共同所有関係(1) 共有とは何か、その法律関係について解説し、理解を深める			事前：共有の法律関係について調べる。 事後：共有の法律関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
13	共同所有関係(2) 建物の区分所有（マンションの法律）を解説する			事前：区分所有法について調べる。 事後：建物区分所有法の特色についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
14	用益物権(1) 地上権を中心に取り上げ、地上権と賃借権の違いについて解説する			事前：地上権について調べる。 事後：地上権と賃借権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
15	用益物権(2) その他の用益物権について解説する			事前：地上権以外の用益物権について調べる。 事後：用益物権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																
教本：		参考文献： とくになし（資料を配布します）。																					
授業中に適宜指示します。																							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス：																							
法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																							
オフィスアワー：																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	物的担保法 (Real Security Law)						科目分類	専門科目														
担当教員	上地 一郎																					
履修条件	前提科目	私法学 I / 私法学 II / 物権法 / 人的担保法						その他														
授業概要：																						
本講義では、民法第二編物権の中の担保物権を中心に講義を行ないます。まず物権法の全体像と所有権、用益物権、物権変動を概観し、担保物権のうち、最も重要な抵当権を重点に、質権や法定担保物権、非典型担保物権を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																						
授業目標：																						
担保物権の基本的な知識を習得し、抵当権とは何か、その法的な論点はどのようなものかについて説明できるようになること。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
			○			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態															
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する			事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分															
2	物権法の概要 物権法の全体像を解説し、物権法とは何かを理解する			事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
3	抵当権(1) 物的担保法序説／抵当権の全体像を解説し、物的担保法の理解の導入とする			事前：物的担保について調べる。 事後：抵当権の概要についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
4	抵当権(2) 被担保債権／目的物(1) 抵当権のカバーする被担保債権を説明し、抵当権の及ぶ範囲を解説する			事前：抵当権の被担保債権について調べる。 事後：抵当権の及ぶ範囲についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
5	抵当権(3) 目的物(2) 物上代位とは何か、その法的諸論点を解説する			事前：物上代位とは何かを調べる。 事後：物上代位についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
6	抵当権(4) 目的物(3) 土地と建物が別個の不動産とされることから生ずる問題を解説する			事前：法定地上権とは何かを調べる。 事後：法定地上権にまつわる問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
7	抵当権(5) 実行前の抵当権の効力(1) 設定者の使用収益権と第三者への利用権の設定について解説する			事前：抵当権実行前の効力について調べる。 事後：第三者への利用権の設定をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
8	抵当権(6) 実行前の抵当権の効力(2) 抵当権に対する侵害行為、抵当不動産の第三取得者との関係から抵当権の実行前の効力を考える			事前：侵害に対する効力について調べる。 事後：第三取得者との関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
9	抵当権(7) 抵当権の実行段階の法的諸問題について解説する			事前：担保不動産の競売・収益執行について調べる。 事後：担保不動産の競売・収益執行についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
10	抵当権(8) 抵当権の消滅原因を解説し、その理解を深める			事前：一般的な消滅原因について調べる。 事後：抵当権の消滅時効についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
11	抵当権(9) 根抵当権とは何か、その特質を解説する			事前：根抵当権について調べる。 事後：根抵当権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
12	質権とは何か、その効力について解説する			事前：質権について調べる。 事後：質権の効力についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
13	非典型担保(1) 讓渡担保、売渡担保を取り上げ、その問題を論じる			事前：譲渡担保／売渡担保について調べる。 事後：譲渡担保／売渡担保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
14	非典型担保(2) 仮登記担保、所有権留保を解説し、その他の担保についても説明する			事前：仮登記担保／所有権留保について調べる。 事後：仮登記担保／所有権留保についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
15	まとめ 物的担保の法的諸問題についての理解を深める			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分															
教本：					参考文献： 授業中に適宜指示します。																	
とくになし (資料を配布します)。																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習													
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)					科目分類	基礎科目															
担当教員	平野 由里子																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要:	語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。																					
授業目標:	フランス語に初めて接する学生を対象とし、abcから丁寧に学んでゆきます。発音の決まりと初步的な文法の修得をめざします。																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○	○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態														
1	Leçon 1 文字と音 (1) アルファベとその発音					事前:なし 事後:アルファベを覚えること		講義と演習														
2	Leçon 1 文字と音 (2) 自己紹介と数字0~10					事前:前回の復習 事後:数字10まで言えるように		講義と演習														
3	Leçon 1 文字と音 (3) 復習とヨーロッパ地図クイズ					事前:前回の復習 事後:復習ページ提出		講義と演習														
4	Leçon 2 綴り字と発音 (1) フランス語の発音の規則					事前:前回の復習 事後:発音ルールを覚えること		講義と演習														
5	Leçon 2 綴り字と発音 (2) 町の名前を発音してみよう					事前:前回の復習 事後:町の名前読めるように		講義と演習														
6	Leçon 2 綴り字と発音 (3) 動物や植物の名前を発音してみよう					事前:前回の復習 事後:動植物の名前読めるように		講義と演習														
7	Leçon 2 綴り字と発音 (4) 発音の復習と数字11~20					事前:前回の復習 事後:復習ページ提出		講義と演習														
8	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (1) 家族・友人の言い方と不定冠詞					事前:P.24 単語調べ 事後:家族の言い方を覚える		講義と演習														
9	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (2) 身近なものの言い方と「～を持っています」という動詞					事前:前回の復習 事後:avoir活用覚える		講義と演習														
10	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (3) 年齢の言い方					事前:前回の復習 事後:年齢の言い方覚える		講義と演習														
11	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (4) Leçon 3 の復習					事前:前回の復習 事後:復習ページ提出		講義と演習														
12	Leçon 4 紹介する (1) 国籍・職業の言い方					事前:P.32 単語調べ 事後:être活用覚える		講義と演習														
13	Leçon 4 紹介する (2) 人について尋ねる言い方					事前:前回の復習 事後:国籍・職業言えるように		講義と演習														
14	Leçon 4 紹介する (3) 人の特徴の言い方と数字21~69					事前:前回の復習 事後:69までの数字の表を作成		講義と演習														
15	Leçon 4 紹介する (4) Leçon 4 の復習					事前:前回の復習 事後:復習ページ提出		講義と演習														
教本:	参考文献:																					
Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300																						
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(10%)、平常点(40%)、定期試験(50%)で総合評価する。																						
学生へのアドバイス: ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。																						
オフィスアワー: 授業後15分程度、講師控室にいます。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習															
授業科目(英文)	フランス語 II (French II)					科目分類	基礎科目																	
担当教員	平野 由里子																							
履修条件	前提科目	フランス語 I			その他																			
授業概要:																								
語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。																								
授業目標:																								
フランス語 I を習得した学生を対象とし、フランス語の初級文法を修得することをめざします。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	フランス語 I の復習					事前: Leçon 4 まで見直す 事後: 前期の範囲を確認しておく		講義と演習																
2	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (1) 「～に住んでいます」					事前: P.40 単語調べ 事後: habiter 活用覚える		講義と演習																
3	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (2) 「～が好きです」					事前: 前回の復習 事後: aimer 活用覚える		講義と演習																
4	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (3) いろいろな動詞					事前: 前回の復習 事後: er 型の活用覚える		講義と演習																
5	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (4) Leçon 5 の復習					事前: 前回の復習 事後: 復習ページ提出		講義と演習																
6	Leçon 6 否定文・疑問文 (1) 「～ではありません」「～を持っていません」					事前: P.48 単語調べ 事後: 否定形を理解する		講義と演習																
7	Leçon 6 否定文・疑問文 (2) 「～が好きではありません」「～しません」					事前: 前回の復習 事後: er 型の否定理解する		講義と演習																
8	Leçon 6 否定文・疑問文 (3) 「～ですか?」「何をしますか?」					事前: 前回の復習 事後: 復習ページ提出		講義と演習																
9	Leçon 7 時刻・天候を言う (1) 足し算・引き算・年齢					事前: P.56 単語調べ 事後: 新形容詞を理解する		講義と演習																
10	Leçon 7 時刻・天候を言う (2) 時刻の言い方					事前: 前回の復習 事後: 時刻言えるように		講義と演習																
11	Leçon 7 時刻・天候を言う (3) 天候の言い方					事前: 前回の復習 事後: 復習ページ提出		講義と演習																
12	Leçon 8 行き先を言う (1) 「～へ行きます」					事前: P.64 単語調べ 事後: aller 活用覚える		講義と演習																
13	Leçon 8 行き先を言う (2) 「～から来る」					事前: 前回の復習 事後: venir 活用覚える		講義と演習																
14	Leçon 8 行き先を言う (3) カフェで注文する					事前: 前回の復習 事後: 復習ページ提出		講義と演習																
15	これまでの復習					事前: これまでの見直し 事後: テスト勉強		講義と演習																
教本:		参考文献:																						
Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (10%)、平常点 (40%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス: ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。																								
オフィスアワー: 授業終了後、15 分程度講師控室にいます。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	フランス語コミュニケーション (French Communication)						科目分類	専門科目													
担当教員	平野 由里子																				
履修条件	前提科目	フランス語Ⅰ及びⅡを履修していること			その他	なし															
授業概要：																					
フランスの世界遺産や食文化を通してフランス文化に親しむように考えられた教科書を使って、フランス語のコミュニケーションを学びます。動画や音声資料を活用して目や耳でフランス語に接し、フランス語を話すことを体験してもらいます。																					
授業目標：																					
フランス語の基礎を理解して、簡単なコミュニケーション力を身につける。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	イントロダクション～Leçon 1 自己紹介する					事前：フランス語Ⅰ・Ⅱの復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
2	Leçon 2 物を指示する					事前：1課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
3	Leçon 3 尋ねる					事前：2課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
4	Leçon 4 買い物をする					事前：3課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
5	Leçon 5 物や人について尋ねる					事前：4課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
6	Leçon 6 場所を尋ねる					事前：5課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
7	Leçon 7 ～したいと言う					事前：6課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
8	Leçon 8 興味を述べる					事前：7課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
9	Leçon 9 誘う					事前：8課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
10	Leçon 10 天候と時刻を言う					事前：9課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
11	Leçon 11 数量を示す					事前：10課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
12	Leçon 12 比較する					事前：11課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
13	Leçon 13 過去のことを話す					事前：12課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
14	Leçon 14 仮定する					事前：13課の復習 事後：Exercises提出		講義と演習													
15	復習					事前：14課の復習 事後：テスト勉強		講義と演習													
教本：			参考文献：																		
パリーボルドー																					
フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1																					
成績評価の方法、評価基準：授業目標が達成できたかを評価する。																					
授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
間違えを恐れずに、大きな声を出して練習しましょう。																					
オフィスアワー：																					
講義の前後10分は講師控え室にあります。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	プログラミング基礎 (Programming)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目 その他	情報処理概論 (PCの基本的な操作については既知とする) ノートパソコンを用意すること																								
<p>授業概要：</p> <p>コンピュータは、機械の言語であるプログラムから命令されることによって動いています。このプログラムは決められたルールに基づいて動きます。そのプログラムの基本について、主にゲームを作るという目的のもと、理解する。</p>																										
<p>授業目標：</p> <p>プログラミングの基本的なルールを理解し、プログラミング思考を身につける。</p>																										
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	シラバスの説明、プログラムができるまで					事前：シラバスを読む 事後：PC環境の整備	講義60分 演習30分																			
2	プログラミングとは					事前：資料精読 事後：小テスト提出	講義30分 演習60分																			
3	コンピュータが動く仕組み					事前：資料精読 事後：小テスト提出	講義30分 演習60分																			
4	コンピュータの仕事の流儀					事前：資料精読 事後：小テスト提出	講義30分 演習60分																			
5	Processingでプログラムを始めよう					事前：ソフトのインストール 事後：ソフト準備	講義30分 演習60分																			
6	Processingで図形を描こう					事前：精読① (13-50) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
7	関数・変数					事前：精読① (51-62) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
8	画像表示					事前：精読① (62-70) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
9	乱数					事前：精読① (71-74) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
10	ランダム表示					事前：精読① (75-89) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
11	条件分岐					事前：精読① (91-105) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
12	繰り返し					事前：精読① (106-120) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
13	アニメーションのプログラム					事前：精読① (121-142) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
14	配列、ゲーム構想					事前：精読① (143-162) 事後：課題提出	講義30分 演習60分																			
15	間違い探しゲームを作ろう					事前：発表準備 事後：小テスト	発表90分																			
<p>教本：</p> <p>『はじめてのプログラミング』(技術評論社)</p>																										
<p>参考文献：</p> <p>『プログラミング基礎の基礎』(技術評論社)</p>																										
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>課題提出 (60%)、授業内での演習 (30%)、定期試験 (10%) 等で総合評価する。</p>																										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>コンピュータのプログラミングはどのように動くのかの興味を持って臨んでください。毎回の課題は必ず提出してください。</p>																										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義														
授業科目(英文)	プロジェクトマネジメント(起業論)(Project Management and Entrepreneurship)				科目分類		専門科目																
担当教員	鈴木 秀顕																						
履修条件	前提科目	なし		その他	情報職業論、デジタルビジネスモデル論を受講していることを推奨																		
授業概要:																							
本講義では、起業に必要なプロジェクトマネジメントスキルを学びます。学生同士のディスカッションを通じて、実際の課題やケーススタディに取り組み、理論と実践の両方から学びを深めます。																							
授業目標:																							
プロジェクトマネジメントの基本概念を理解し、実践で活用するスキルを養う。																							
・地域の資源や特性を活かした起業計画を立案する能力を身につける。																							
・学生同士の協力を通じてチームでの問題解決力を高める。																							
・起業の成功要因を理解し、持続可能な事業のアイデアを創出する。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																			
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	講義全体の概要説明、起業とプロジェクトマネジメントの基本概念、学生自己紹介とグループ分け				事前:シラバスを読む 事後:振り返りの作成		講義45分 ディスカッション45分																
2	プロジェクトライフサイクルの理解、ケーススタディ:具体的なプロジェクト例を検討				事前:精読①(3-249) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
3	目標設定とスコープ管理、ワークショップ:仮想プロジェクトの目標設定				事前:精読①(3-249) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
4	リソース計画とリスク管理、演習:リスク評価シートを作成				事前:精読①(3-249) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
5	チームビルディング、ロールプレイング:仮想チーム内の課題解決				事前:精読①(3-249) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
6	プロジェクトモニタリングとコントロール、『PMプロジェクトマネジメント』を基にしたチェックリスト作成				事前:精読①(3-249) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
7	アントレプレナーシップ:夢を描く、行動する(グループディスカッション、発表)				事前:精読②(20-98) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
8	アントレプレナーシップ:失敗する、囚われない(グループディスカッション、発表)				事前:精読②(100-174) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
9	アントレプレナーシップ:自らを律する、幸せを掴み取る(グループディスカッション、発表)				事前:精読②(178-158) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
10	アイディアを見つける、アイディア創出のプロセスと視点 ディスカッション:「市場の課題を解決するアイディアとは?」				事前:精読③(21-112) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
11	仲間を集め、チームメンバーの役割とリクルート戦略 ディスカッションテーマ:「最初の仲間を選ぶ基準とは?」				事前:精読③(113-216) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
12	プロダクトを作り、ユーザー検証する、最小限の実用製品の概念と作成プロセス、仮想プロダクトの作成とプレゼン				事前:精読③(217-293) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
13	ユーザーを獲得する、初期ユーザー獲得の方法と戦略 ディスカッション:「ユーザーに選ばれるプロダクトとは?」				事前:精読③(297-387) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
14	資金を調達する、資金調達の基本と交渉術 ディスカッションテーマ:「最適な資金調達方法とは?」				事前:精読③(391-473) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
15	起業するということ、ケーススタディ:起業家の成功と失敗例 ディスカッション:「起業家に求められる最も重要な特性」				事前:精読③(477-485) 事後:議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分																
教本:					参考文献: ①『PMプロジェクトマネジメント』(日本能率協会マネジメントセンター) ②『パソコン大学で教えている世界一のアントレプレナーシップ』(講談社) ③『STARTUP』(NewsPicks パブリッシング)																		
成績評価の方法、評価基準:																							
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス:																							
ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりしてから臨んでください。																							
オフィスアワー:																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	文化遺産と観光 (Cultural Heritage and Tourism)					科目分類	専門科目																			
担当教員	古賀 学																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
国内外の世界遺産を中心として文化遺産の保護と活用における観光のあり方について学修する。世界遺産検定取得のための講義でもある。																										
授業目標 :																										
①文化遺産と観光のあり方の理解 ②世界遺産検定3級・2級の取得レベルの世界遺産の知識																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	(1)文化遺産と観光の構成及び世界遺産検定の内容 ①文化遺産と観光の構成 ②世界遺産検定の内容				事前：文化遺産に関する予備知識の取得 事後：文化遺産と観光についてまとめ。			ガイダンス 20分 講義 70分																		
2・3	(2)世界遺産の体系 ①世界遺産とは ②世界遺産登録関連組織 ③世界遺産申請と登録の流れ				事前：ユネスコに関する調査を行う。 事後：世界遺産関連組織と世界遺産申請を復習する。			講義 70分 小テスト 20分(適宜)																		
4~15	(3)日本の世界遺産（自然遺産を含む） 法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地、古都京都の文化財、白川郷・五箇山の合掌造り集落、原爆ドーム、厳島神社、古都奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク及び関連遺産群、紀伊山地の霊場と参詣道、知床、石見銀山遺跡とその文化的景観、小笠原諸島、平泉・仏国土（淨土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群、富士山・信仰の対象と芸術の源泉、富岡製糸場と絹産業遺産群、明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業、ル・コルビュジエの建築作品・近代建築運動への顕著な貢献、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、百舌鳥・古市古墳群・古代日本の墳墓群、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島、北海道・北東北の縄文遺跡群、佐渡島の金山 (4)海外の世界遺産（日本の世界遺産と関連付けて学修） アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アフリカの世界文化・自然・総合遺産 (5)テーマ別世界遺産（日本の世界遺産と関連付けて学修） ①文化的景観 ②戦争・紛争 ③地震 ④危機遺産 ⑤負の遺産				事前：日本の世界文化遺産・自然遺産について調査する。 事後：世界遺産の認定理由、資産の内容等についてまとめる。			講義 70分 小テスト 20分(適宜) 模擬試験(適宜)																		
教本： 世界遺産100（3級もしくは2級公式テキスト）授業内で一括購入					参考文献： 世界遺産検定公式過去問題集																					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。世界遺産検定者は定期試験免除とし受験結果を評価とする。																										
学生へのアドバイス： 世界遺産検定3級及び2級の実力をつけることをめざす。授業の基本は3級とする。希望により2級のための講義を設ける。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	文化交流史A (History of Cultural Exchange A)					科目分類	専門科目																	
担当教員	安倍 宰																							
履修条件	前提科目	文化人類学等の文化学																						
	その他	なし																						
授業概要:																								
本講義では、文化人類学をベースとして、文化が接触・交流する際に、どのような現象が生じるのかを基礎的な事項から考察する。文化とは何か、それが接触・交流するとはどのようなことかという視点をまずは身につけることから始めてゆく。																								
授業目標:																								
教科書的な「文化」認識から自由になること。自分が体験した異文化交流を学問的視点から捉えなおす。																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○						○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	文化の新たな考え方					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
2	「自分」の中の異文化					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
3	赤坂憲雄『異人論』					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
4	文化の多重性					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
5	岡正雄『異人その他』					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
6	魔性の文化					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
7	異人歓待儀礼とは					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
8	都市社会の文化					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
9	エスニシティとは何か					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
10	エスニシティとは何か(2)					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
11	メイサーティーンと多言語社会					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
12	創造される「民族」					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
13	文化交流と観光					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
14	人口移動と文化					事前:なし 事後:復習をする		講義90分																
15	試験あるいはレポート					事前:ノートの見直し 事後:		試験あるいは レポート																
教本: なし		参考文献: 授業中にたくさん紹介します。																						
成績評価の方法、評価基準:																								
授業内容への参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス:																								
文化を理解することは、思っている以上に苦労が多いことです。高校までののっぺりした文化の考え方を早く抜け出すことを心掛けてください。																								
オフィスアワー:																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化交流史B (History of Cultural Exchange B)					科目分類	専門科目		
担当教員	安倍 宰								
履修条件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	その他	なし							
授業概要: 同じ授業のAをベースに、さらなる交流のあり方を考察する。同じ現象でも、視点が変化することで全く異なる像が浮かび上がることも体験していただきたい。									
授業目標: 異文化をどのように理解するかに関して、自分の視点を確立する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○		○							
授業計画・事前学習・事後学習・形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	文化交流史Aの復習					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
2	文化変容の理論					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
3	地球規模の文化人類学					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
4	分裂生成					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
5	分裂生成Ⅱ					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
6	分裂生成Ⅲ					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
7	画像に表れた表象					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
8	制度化された異文化交流					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
9	「怠け者民族」の神話					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
10	「怠け者民族」の神話 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
11	文化分配論					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
12	文化分配論 2					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
13	文化分配論 3					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
14	「生活形態」とは何か					事前：なし 事後：復習をする			講義 90分
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：			試験あるいは レポート
教本:	参考文献: なし								
授業中にたくさん紹介します。									
成績評価の方法、評価基準: 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス: 授業で教わることから自分なりの視点を見つけるようにしてください。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	文化心理学 (Cultural Psychology)					科目分類	専門科目														
担当教員	菅沼 憲治			履修条件	前提科目	なし	その他	なし													
授業概要:	自己表現のスタイルに「アサーティブ」というものがある。言語が多様であるように文化により自己表現も一律ではない。本講義は、心理学の視点からアサーティブな自己表現を学ぶ。																				
授業目標:	① 相手を立てつつ自己表現することの意義を学ぶ。 ② 文化が人間の心に及ぼす要因を実証的研究から分析し理解する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
授業計画・事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態														
1	アサーティブネスとは					事前:シラバスの精読 事後:復習する	講義														
2	アサーティブネスの査定について					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
3	自己成長を記録する					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
4	自己表現の権利とは何か					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
5	アサーティブな生き方とは					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
6	アサーティブネスの事例					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
7	アサーション・トレーニングの目標設定					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
8	アサーション・トレーニングのスキル					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
9	21世紀のアサーティブ・メッセージ					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
10	アサーティブに考えるとは					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
11	恐怖感情への対処法					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
12	トレーニング・プログラムについて					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
13	プログラムの進め方					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
14	アサーティブネスが平等な人間関係を築く意味					事前:資料を読む 事後:復習する	講義と演習														
15	まとめ					事前:なし 事後:なし	講義														
教本:	参考文献:																				
『増補改訂 セルフ・アサーション・トレーニング』、 菅沼憲治著、東京図書																					
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス: 自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。																					
オフィスアワー: 初回講義日に伝えます。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	文化人類学A (Cultural Anthropology A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川添 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、人種概念、言語、性、親族、ジェンダー、通過儀礼、宗教、医療、移動と共生、フィールドワークについて学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換や共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。																										
授業目標:																										
1. 文化的普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																			
1・2	I章「文化人類学とは」:人類の起源と進化、直立二足歩行、文化の普遍性と特殊性、文化の相対性について学ぶ。				事前:高校世界史振り返り 事後:1章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
3	Ⅲ章「人種とは何か」:ヒトの多様性、「人種」概念の社会構築性、現代の人種差別について学ぶ。				事前:人種差別記事読解 事後:8章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
4	Ⅱ章「言語と文化／社会」:人間の言語の特性、言語相対論、言語と文化の再生と保持について学ぶ。				事前:外国語習得振り返り 事後:2章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
5・6	V章「性と婚姻」、VI章「家族と親族」、VII章「ジェンダーとセクシュアリティ」:生殖と性、社会的コントロール、人工生殖、同性婚、家族の多様性、親族名称体系、性差の認識、第三の性について学ぶ。				事前:LGBTs記事読解 事後:5～7章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
7	映像授業:映像製作の社会文化的背景、製作者の意図、社会の評価について学ぶ。				事前:関連項目検索 事後:映像資料復習		視聴60分、グループワーク20分、記述10分																			
8	XIII章「時間と儀礼、人間の一生」:文化が作る分類と認識、生物学的時間と社会的時間、通過儀礼、境界、タブー、リミナリティについて学ぶ。				事前:成人式考察 事後:13章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
9	XII章「宗教と世界観」:祖先祭祀、アニミズム、祭り、妖術信仰、シャーマニズム、宗教の展開について学ぶ。				事前:結婚式イメージ 事後:12章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
10	XIV章「医療と文化」:癒し、環境と人間の関係、医療の近代化、人相学・骨相学、優生学、社会的苦悩について学ぶ。				事前:コロナ下生活振り返り 事後:14章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
11	文化の普遍性と特殊性、文化相対主義と自文化中心主義、文化相対主義の限界について学ぶ。				事前:ノート整理 事後:1～19章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
12	XV章「人類の移動」:人の移動の歴史、移住のタイプ、移動者のタイプ、国民国家とモノ、国籍・市民権・アイデンティティ・パスポート、グローバル化について学ぶ。				事前:外国に暮らすこと 事後:15章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
13	XVI章「フィールドワーク」:フィールドワークの特徴とその過程について学ぶ。				事前:市場調査イメージ 事後:19章の復習		講義60分、グループワーク20分、記述10分																			
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。				事前:テスト準備 事後:振り返り		講義30分、テスト60分																			
教本:					参考文献: 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』第3版、ミネルヴァ書房、¥2,600+税 その都度紹介します。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、最終テスト(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	文化人類学B (Cultural Anthropology B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川添 裕子																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom利用。																										
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、生業、経済、観光、民族、法律、政治、民族誌について学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見や考えを交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。																										
授業目標： 1. 文化的普遍性と多様性を理解する。 2. 文化相対主義、自文化中心主義を理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																			
1・2	I章「文化人類学とは」：人類の起源と進化、直立二足歩行、文化の普遍性と特殊性、文化の相対性について学ぶ。				事前：高校世界史振り返り 事後：1章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
3	III章「生業」：生業とは、生業の展開、狩猟採集、現代の狩猟活動、狩猟採集の意義について学ぶ。				事前：狩猟採集のイメージ 事後：3章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
4	III章「生業」：牧畜と畜産、牧畜の技術、牧畜の拡大、農耕、農耕による社会変化、農耕の未来について学ぶ。				事前：牧畜と農業イメージ 事後：3章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
5・6	IV章「経済と文化」：贈り物と経済、クラ交換、贈与論、経済の形式的意味と実質的意味、貨幣、ボリティカルエコノミーと世界システムについて学ぶ。				事前：贈り物経験振り返り 事後：4章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
7	XVII章「観光と文化」：旅から観光へ、観光のまなざし、観光客の本物志向、文化観光、文化遺産とノスタルジア、都市化とグリーンツーリズムについて学ぶ。				事前：旅行経験振り返り 事後：16章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
8	映像授業				事前：関連項目検索 事後：映像資料復習		視聴60分、グループワーク20分、記述10分																			
9	IX章「民族とエスニシティ」：「民族」「部族」概念の批判的検討、国民国家、先住民族について学ぶ。				事前：クリスマスイメージ 事後：9章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
10	X章「法律・秩序・社会統制」：身体作法、ルール（慣習・規範・法）、社会化、紛争処理、先住民と法、宗教と法について学ぶ。				事前：ジェスチャー意識化 事後：10章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
11	XI章「政治と権力」：帝国主義、植民地主義、20～21世紀の戦争、現代の紛争、人権について学ぶ。				事前：紛争ニュース振り返り 事後：11章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
12	XIII章「民族誌と文化の表象／展示」：民族誌／エスノグラフィー、オリエンタリズム批判、ネイティヴの人類学について学ぶ。				事前：クラ交換振り返り 事後：13章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
13	文化の普遍性と特殊性、文化相対主義と自文化中心主義、文化相対主義の限界について学ぶ。				事前：ノート整理 事後：1・19章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分																			
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。				事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分																			
教本：					参考文献：																					
綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』第3版、ミネルヴァ書房、￥2,600+税					その都度紹介します。																					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	文章作法 (Writing Manners)					科目分類	専門科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
現代では不可欠なコミュニケーション手段となっている電子メールと、依然としてコミュニケーション上、重要な役割を担っている伝統的な手紙を分析・比較する。さらに、ビジネス文書の書き方を学ぶ。それぞれの文章について、「慣習的に定められた書式」、「相手にふさわしい表現(敬語の使い方)」「簡明さ」という3点に留意し、状況や目的に合った書き方を検討・実践する。																										
授業目標:																										
1. 実用文としての機能をもつ手紙、電子メール、ビジネス文書について、それぞれの文章構造、機能、語彙・表現について学び、その文書を読む対象へ配慮し、対象に応じて、適切に書くことができるようになる。 2. 秘書検定、日本語検定(敬語)に関して、日本語に関する問題を正しく答えられるような知識を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション 手紙の書き方1 手紙文の形式・マナー 頭語と結語				事前: シラバスを読んでくる 事後: 資料の復習			講義(40分) 演習(50分)																		
2	手紙の書き方2 時候のあいさつ 手紙のことば(日本語検定から)				事前: 事前配付資料の読み 事後: 資料の復習			講義(40分) 演習(50分)																		
3	手紙の書き方3 手紙に使える季節のことば 近況報告の手紙を書く				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 演習(50分)																		
4	手紙の書き方4 手紙のことば(日本語検定から) 手紙のレイアウト				事前: 事前配付資料の読み 事後: 資料の復習			講義(40分) 演習(50分)																		
5	手紙の書き方5 尊称・謙称 忌み言葉 お礼の手紙を書く				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 演習(50分)																		
6	メールの書き方1 手紙・メールの比較 メールの形式・マナー				事前: 事前配付資料の読み 事後: 比較分析結果の整理			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
7	メールの書き方2 間違いだらけのメール 分析 正しく書き直す				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
8	メールの書き方3 さまざまなシチュエーションでのメール文				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
9	メールの書き方4 誘いのメール 分析 正しく書きなおす				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
10	メールの書き方5 お願ひのメール 分析 正しく書きなおす				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
11	秘書検定について 概要の説明 問われる問題について解説 ビジネス文書(概説) ビジネス文書とは				事前: 事前配付資料の読み 事後: 分析結果の整理			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
12	ビジネス文書(概説・実践) 間違いだらけのビジネス文書 分析 ビジネス文書(実践篇①) ビジネス文書を作成する				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 意見出し・演習(50分)																		
13	ビジネス文書(実践篇②) ビジネス文書を作成するNo.1				事前: 事前配付資料の読み 事後: 添削結果の確認			講義(40分) 演習(50分)																		
14	ビジネス文書(実践篇②) ビジネス文書を作成するNo.2				事前: 事前配付資料の読み 事後: 資料の復習			講義(40分) 演習(50分)																		
15	全体のまとめ(手紙・メールのマナー・ビジネス文書について)				事前: 質問・確認事項洗い出し 事後: 全体のまとめ			講義(40分) 演習(50分)																		
教本:					参考文献:																					
プリントを配布する。					松浦照子著『実践日本語表現』ナカニシヤ出版																					
『ステップアップ日本語講座』敬語のページ 東京書籍					長尾佳代子他著『大学生のための日本語技法』ナカニシヤ出版																					
『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社					野田尚史他著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房																					
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。					『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版社																					
授業参加状況、分析結果の発表等(50%)、実作の手紙・メール(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:					手紙、ビジネスメール、ビジネス文書の書き方を学びます。秘書検定について説明します。																					
オフィスアワー:					初回講義日に伝える。																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	保育課程論 (Early Childhood Education Courses) (保育)						科目分類	専門科目											
担当教員	野末 晃秀																		
履修条件	前提科目	なし																	
	その他	なし																	
授業概要:	保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。																		
授業目標:	教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養														
○	○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態											
1	オリエンテーション(授業の進め方と評価について) カリキュラムの意味と保育計画					事前:特になし 事後:本授業の復習		講義 90分											
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解:カリキュラム・マネジメントとは					事前:指針・要領の講読 事後:本授業の復習		講義 90分											
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム(明治期・大正期・昭和期・平成期)					事前:歴史・思想の確認 事後:本授業の復習		講義 90分											
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム(創設の背景とその役割)					事前:歴史・思想の確認 事後:本授業の復習		講義 90分											
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分											
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前:指針・要領の講読 事後:本授業の復習		講義 90分											
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前:子どもの発達の理解 事後:本授業の復習		講義 90分											
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前:指導計画の理解 事後:本授業の復習		講義 90分											
9	指導計画作成の実際					事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分											
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分											
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前:テキストを読む 事後:本授業の復習		講義 90分											
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前:地域について知る 事後:本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分											
13	命を大切にする心を培う保育実践と教育課程・保育課程					事前:道徳について知る 事後:本授業の復習		講義 90分											
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前:環境について調べる 事後:本授業の復習		講義 90分											
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前:考えをまとめる 事後:特になし		講義 60分、 グループ討議 30分											
教本:	参考文献: 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) フレーベル館(2013年) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)																		
成績評価の方法、評価基準:	到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(10%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(70%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:	「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいてください。																		
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																		

ほ

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																
授業科目(英文)	保育・教職実践演習(幼稚園) (Internship for Preschool Guidance (Kindergarten))		科目分類		専門科目																				
担当教員	大沢 裕・古金 悅子・小野 和・渡邊 真理																								
履修条件	前提科目	教育実習、保育実習の科目が終了しているもの																							
授業概要:																									
保育・教育者としての使命感を持てるよう、保育・教育に関わる課題を順次取り上げ、それに対する分析・考察・検討を行い、保育・教育者としての総合的なものの見方・考え方を身につけさせる。またそれとともに、子どもや保護者を援助する方法を学習させる。必修科目と選択必修科目の履修状況や、実習等を通しての学びを踏まえ、保育・教育者として必要な知識・技能を修得したかを振り返り、確認させる。授業形式としては、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、現地調査を含む演習を基本とする。必要に応じて、ティーチングアシスタントを配置する。																									
授業目標:																									
組織の一員として、保育・教育に対する使命感や情熱を持ち、保育・教育者としての職責や義務を自覚し、保護者に対しても良好な関係を築き、子どもと豊かな人間的交流を行える資質能力を養う。この科目は、確固たる使命感と熱意を持って教育や保育を行うことのできる人材を育成する科目である。																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○)																									
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																					
○				○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																									
授業回数	保育の内容授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)		授業形態																			
1	講義概要について一履修カルテを元に説明—保育や教育現場に出る前に身に付けなければならないことを学ぶ			事前:シラバスを下読みする 事後:自分の目標を定める		講義 40分、グループ討議 20分、個人目標 30分																			
2	保育・教育者の使命感・責任感・愛などをグループ討議し、それぞれのグループで発表し合い、学びを深める			事前:配布資料の下読み 事後:グループ討議のまとめ		講義 20分、グループ討議 20分、発表 50分																			
3	保育・教育者に求められるものー対人関係能力ー厚木市子ども育成課委員との意見交換…厚木市の子育て政策について			事前:市の子育て政策の下調べ 事後:自分の意見をまとめる		講義 40分、意見交換 50分、レポート提出																			
4	乳幼児に対する共感的理解…子どもの発達課程を踏まえ、乳幼児に対する共感的理解を総合的に展開されることが重要			事前:指針等で発達課程の確認 事後:自他の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分																			
5	生きる力を育む教育…保育所保育指針、幼稚園教育要領をもとに学ぶ			事前:指針で事前に調べる 事後:自分なりの意見を集約		講義 60分、グループ討議 30分																			
6	クラス運営の手法…一人一人の活動の場面に応じて、その活動が豊かになるようにクラス運営を考える			事前:資料を事前に確認する 事後:自分の意見をまとめる		園長との意見交換 90分																			
7	協同する経験…友達と関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通的目的の実現に向け、考えや工夫により充実感を得る			事前:指針を事前に下読みする 事後:指針で再確認する		講義 60分、グループ討議 30分																			
8	特別支援教育…特別な配慮を必要とする乳幼児に対しての理解促進や、地域との連携を学ぶ			事前:指針や要領で確認する 事後:自分の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分																			
9	指導計画ー指導案作成ー指導計画を作成し、実際に演じたり、発表したりして、互いに学びを深める			事前:自分なりの資料を探す 事後:他の人の意見もまとめる		模擬授業の作成 90分																			
10	指導の具体化ー模擬保育…具体的に模擬保育を行い、保育・教育者としての資質を深める			事前:模擬授業の事前準備 事後:模擬授業の反省をする		模擬授業の発表と反省 90分																			
11	園の安全管理…施設・設備等の安全管理や災害発生時の対応体制や避難への備えなど具体的に学ぶ			事前:配布資料を基に予習 事後:自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分																			
12	保育現場の実際ー認定こども園見学・演習ー見学やDVDの観賞などから現場の実際を学ぶ			事前:配布資料で予習する 事後:自分なりのまとめをする		DVD 観賞 40分、レポート 30分、意見交換 20分																			
13	家庭との連携・保護者支援…保護者と連携して子どもの育ちを支える視点を学ぶ			事前:指針や要領で事前準備 事後:自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分																			
14	保育現場に出る前にーこども・子育て新制度を踏まえてー子ども・子育て新制度について具体的に学ぶ			事前:子育て新制度の事前確認 事後:自分なりの制度の確認		講義 50分、意見交換 40分																			
15	これまでの学びの振り返り…保育・教育者として必要な知識・技能を習得したかの振り返り、確認する			事前:振り返りの事前準備 事後:皆の意見を聞きまとめる		グループ討議と発表																			
教本:					参考文献:																				
テキスト「幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針」					授業時、適宜指示する。必要に応じてプリントを配布する。																				
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(50%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス: 自己課題を持って予習・復習を行ってください。 配布資料および講義内容の整理を行ってください。																									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	保育原理 (Principles of Early Childhood Education)						科目分類	専門科目										
担当教員	大沢 裕																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
保育・幼児教育の基礎をその知見に則り、広範囲に学ばせる。保育の理念、保育の意義と保育の必要性について把握させる。さらに、保育の場、歴史と現状、保育の目的・内容・方法の関連、保育の計画と評価の仕方、健康・安全・多様な保育ニーズへの対応の仕方、家庭・地域との連携、近年の保育動向・課題など、保育者として必須の基本的知識を習得させる。特に、現在の保育がどのような歴史的、社会的背景によって成立しているのかを考えさせ、保育の社会的役割について理解させる。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。																		
授業目標：																		
保育の意義・理念について理解し、幼保連携認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育・保育の基本を把握する。保育の内容と方法の基礎を理解する。保育の思想と歴史的変遷について理解する。保育の現状と課題について認識する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	保育の概念と理念				事前： 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
2	教育と福祉の関連				事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
3	保育の意義・社会的役割				事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す			グループ討論 60 分、 発表 30 分										
4	諸外国の保育の思想と歴史				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
5	我が国の保育の思想と歴史				事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
6	幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの				事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 60 分、 グループ討論 30 分										
7	遺伝と環境				事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
8	乳幼児と家庭				事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
9	幼稚園・保育所・認定こども園の概要				事前：施設の種類を調べる 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
10	子どもの発達段階と子ども理解				事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
11	保育制度と保育行政				事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す			講義 90 分										
12	保育の内容				事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す			講義 60 分、 グループ討論 30 分										
13	保育の方法—遊びと生活の原理				事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す			講義 60 分、 グループ討論 30 分										
14	保育者の使命と資質—保育者の専門性				事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す			講義 60 分、 グループ討論 30 分										
15	様々な保育実践と現代の保育課題				事前：時事問題の記事を読む 事後：			講義 90 分										
教本：																		
参考文献： 『幼保連携認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』（最新版） 石橋哲成編著『コンパクト版 保育原理』一藝社 適宜、授業時に指示する。																		
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 保育者として必須の保育・福祉に関わる基礎的事項が理解でき、保育的なものの見方・考え方ができているかどうかを、複数回のレポート提出、筆記試験によって総合的に評価する。																		
学生へのアドバイス： 保育の時事問題にいつも関心を持つこと。																		
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習										
授業科目(英文)	保育実習 I (施設) (Internship at a Facility I)					科目分類	専門科目												
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																		
履修条件	前提科目	保育実習指導 I (保育所・施設)			その他	保育実習履修資格を満たしていること													
<p>授業概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設等での体験を通して、施設の役割や機能、保育の職務（子どもたちや利用者との関わり、他の職員との連携）等を理解する。</li> <li>施設等で生活している子どもや利用者の活動を観察し、一人ひとりの子どもや利用者に合わせた保育士の支援方法について学ぶ。</li> <li>気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。</li> <li>実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。</li> <li>施設等での生活実態に触れ、子どもや利用者での家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、支援するために必要とされる能力を養う。</li> </ol>																			
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>児童福祉施設や社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。</li> <li>既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育・利用者の生活等及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。</li> <li>保育や生活の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。</li> </ol>																			
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎		○				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																	
◎		○																	
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～15</td> <td> <p>（児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり</li> <li>施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>子どもや利用者の理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもや利用者の観察とその記録</li> <li>個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>施設における子どもや利用者の生活と環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>計画に基づく活動や援助</li> <li>子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>子どもや利用者の活動と環境</li> <li>健康管理、安全対策と理解</li> </ol> </li> <li>計画と記録           <ol style="list-style-type: none"> <li>支援計画の理解と活用</li> <li>記録に基づく反省・自己評価</li> </ol> </li> <li>専門職としての保育士の役割と倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>保育士の業務内容</li> <li>職員間の役割分担や連携</li> <li>保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol> <p>まとめ</p> </td> <td> <p>事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入</p> </td> <td>児童福祉施設等（保育所）以外での実習（90時間以上）</td> </tr> </tbody> </table>									授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1～15	<p>（児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり</li> <li>施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>子どもや利用者の理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもや利用者の観察とその記録</li> <li>個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>施設における子どもや利用者の生活と環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>計画に基づく活動や援助</li> <li>子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>子どもや利用者の活動と環境</li> <li>健康管理、安全対策と理解</li> </ol> </li> <li>計画と記録           <ol style="list-style-type: none"> <li>支援計画の理解と活用</li> <li>記録に基づく反省・自己評価</li> </ol> </li> <li>専門職としての保育士の役割と倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>保育士の業務内容</li> <li>職員間の役割分担や連携</li> <li>保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol> <p>まとめ</p>	<p>事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入</p>	児童福祉施設等（保育所）以外での実習（90時間以上）			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																
1～15	<p>（児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり</li> <li>施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>子どもや利用者の理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもや利用者の観察とその記録</li> <li>個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>施設における子どもや利用者の生活と環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>計画に基づく活動や援助</li> <li>子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>子どもや利用者の活動と環境</li> <li>健康管理、安全対策と理解</li> </ol> </li> <li>計画と記録           <ol style="list-style-type: none"> <li>支援計画の理解と活用</li> <li>記録に基づく反省・自己評価</li> </ol> </li> <li>専門職としての保育士の役割と倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>保育士の業務内容</li> <li>職員間の役割分担や連携</li> <li>保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol> <p>まとめ</p>	<p>事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入</p>	児童福祉施設等（保育所）以外での実習（90時間以上）																
教本：		<p>参考文献：</p> <p>保育実習（保育所・施設）記録：書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社</p>																	
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。</p>																			
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>各実習施設に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。</p>																			
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習											
授業科目(英文)	保育実習 I (保育所) (Internship at a Preschool I)						科目分類	専門科目												
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																			
履修条件	前提科目	なし			その他	保育実習履修資格を満たしていること														
授業概要:																				
1. 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 家族と保育所の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。																				
授業目標:																				
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
◎						○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態												
1～15	保育所の生活と一日の流れ 保育所保育指針の理解と保育の展開 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解 子どもへの援助やかかわり  保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全  保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく反省、自己評価  専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理  まとめ					事前：実習準備 事後：記録・反省		実習 (90時間以上)												
教本： 講義内で指定資料配布する。			参考文献： 保育実習（保育所・施設）記録：書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社																	
成績評価の方法、評価基準：																				
実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。																				
オフィスマナー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習																		
授業科目(英文)	保育実習Ⅱ(保育所・施設)(Internship at a Preschool or Facility Ⅱ)					科目分類	専門科目																				
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																										
履修条件	前提科目	保育実習Ⅰ・保育実習指導Ⅱ																									
	その他	保育実習Ⅰを履修済みであること。																									
授業概要:	<p>1. 保育実習Ⅰで学んだ基本的内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援、利用者への理解及び生活について総合的に学び、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。</p> <p>2. 保育所実習においては、部分実習や責任実習を通して、子どものかかわり方や保育技術及び実践力を身に付ける。施設実習においては、利用者の年齢や発達段階、症状や特性に応じた関わり方や養護技術、介助技術の実践力を身に付ける。</p> <p>3. 保育士と共に保育所または施設における業務などを経験しながら、臨機応変な対応や判断力を身に付ける。</p>																										
授業目標:	<p>1. 保育所や施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>2. 子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることを通して、理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、利用者への理解及び生活について総合的に理解する。</p> <p>4. 保育所や施設での生活の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。</p> <p>5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>6. 実習における自己の課題を明確化する。</p>																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td colspan="2"></td><td colspan="6" rowspan="2">○</td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養						○			○					
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																								
○			○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																				
1~15	<p>《保育所実習》</p> <p>保育実習Ⅰの体験を基に、乳児、幼児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。</p> <p>学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○参加実習・責任実習を行なう。</li> <li>(1)保育所での保育を実際に体験し、保育士としての指導力、技術を身に付ける。</li> <li>(2)保育士の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。</li> <li>(3)乳児、幼児の安全、衛生面に対する配慮と措置について修得する。</li> <li>(4)一人一人の乳幼児についての理解を深め、適切な指導と対応を体験する。</li> <li>(5)保育士としての責任感、使命感を学び、子ども達のための環境作りを考える。</li> <li>○保育所の役割や機能について理解を深める。</li> <li>○観察に基づく保育を理解する。</li> <li>○子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などの連携を理解する。</li> <li>○保育計画の作成・実践・観察・記録・評価を体験し、理解する。</li> <li>○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。</li> <li>○自己課題を明確化する。</li> </ul> <p>《施設実習》</p> <p>保育実習Ⅰの体験を基に、利用者の実践活動の状況を見学、観察、参加することにより、それぞれの施設の意義、保育士の職務内容や人的、物的環境が実際の生活の中でどのように活かされているかを理解し学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の課題の明確化。</li> <li>○実習施設の目的や機能について理解する。</li> <li>○実習施設の一日の流れについて理解し、参加する。</li> <li>○利用者の観察や、関わりを通して理解を深める。</li> <li>○支援計画について学ぶ。</li> <li>○利用者と生活を共にすることにより、養護技術、介助技術を習得する。</li> <li>○職員間の役割分担と、チームワークの在り方について学ぶ。</li> <li>○施設の行事や地域における活動、交流などを通して、施設と家庭・地域社会との関係について理解する。</li> <li>○指導計画の作成、実践、自己評価、反省をする。</li> <li>○利用者の最善の利益、権利擁護についての配慮を学ぶ。</li> <li>○保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。</li> <li>○安全及び疾病予防への配慮について理解する。</li> </ul>					<p>事前: 実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備</p> <p>事後: 保育記録の整理と実習日誌の記入</p>		<p>保育所または 施設での実習 (90時間以上)</p>																			
教本:	<p>参考文献:</p> <p>保育実習(保育所・施設) 記録:書き方をマスターするために 保育者養成研究会編 保育出版社</p>																										
成績評価の方法、評価基準:	<p>実習先の評価(50%)、日誌・記録等(30%)、その他(20%)等で総合評価する。</p>																										
学生へのアドバイス:	<p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができないこともあるので十分に留意すること。</p>																										
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習														
授業科目(英文)	保育実習指導Ⅰ(保育所)(Guidance on Internship at Preschool I)			科目分類			専門科目																
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																						
履修条件	前提科目	なし			その他			保育実習履修資格を満たしていること															
授業概要:																							
保育所実習の準備を行う。保育所実習と並行して行われる授業で、実習の目的、保育所の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として保育所生活に参加することをイメージする。子どもを理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。																							
授業目標:																							
①保育所実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようとする。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	保育の内容授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態															
1	保育所実習の意義、目的、心得を知る。施設実習についての説明をする				事前:シラバスを読んでおく 事後:指定資料を確認し、記入する			講義 70分 グループワーク 20分															
2	保育所実習の目的を理解する。施設実習の実習先を探し、申し込みをする				事前:指定資料の予習をする 事後:指定資料を作成する			講義 60分 個別 30分															
3	実習のてびきにそって実習前に準備すること。提出書類について等説明する				事前:作成資料の確認をする 事後:実習のてびきを読む			講義															
4	保育実習報告会に参加し、先輩の話から学ぶ				事前:指定資料の予習をする 事後:課題レポートを作成する			発表会															
5	実習先提出書類作成指導を行う。実習課題を明確にする				事前:指定資料の予習をする 事後:実習課題をまとめる			講義 30分 資料作成 60分															
6	持ち物、身だしなみについて、実習のてびきをもとに話し合う				事前:実習のてびきを読む 事後:レポート作成			講義 30分 グループワーク 60分															
7	オリエンテーションについて説明する				事前:実習日誌を見ておく 事後:実習園について調べる			講義 60分 グループワーク 30分															
8	保育所の一日と流れ、実習日誌の書き方について学ぶ				事前:指定資料の予習をする 事後:指定資料の復習をする			講義 60分 グループワーク 30分															
9	指導計画の作成について学ぶ。「手遊び」の指導案を作成する				事前:教材を探す 事後:指導案を清書する			講義 30分 個別 60分															
10	模擬保育を実施する				事前:模擬保育の準備 事後:記録をまとめる			模擬保育															
11	指導計画の作成について、全員の模擬保育を振り返り、修正指導案を作成する				事前:記録を読み返す 事後:指導案を清書する			講義 20分 グループワーク 50分 発表 20分															
12	絵本読み聞かせ指導計画の作成をする。導入・展開・まとめまでの形で計画していく				事前:教材研究する 事後:指導案を清書する			講義 20分 個別 70分															
13	模擬保育の実施①(1人10分として、実施し、評価・反省を行う)				事前:模擬保育の準備 事後:記録をまとめる			模擬保育															
14	模擬保育の実施②(1人10分として、実施し、評価・反省を行う)				事前:模擬保育の準備 事後:記録をまとめる			模擬保育															
15	模擬保育の評価と反省をする。修正指導案を作成し、提出する				事前:指導案を見直す 事後:巡回指導教員へ挨拶に行く			講義 30分 グループワーク 60分															
教本:					参考文献: 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 (株)みらい																		
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(50%)、その他(20%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス: 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として遅刻欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。																							
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																							

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習								
授業科目(英文)	保育実習指導I (施設) (Guidance on Internship at Preschool I)					科目分類	専門科目										
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																
履修条件	前提科目	保育所実習指導I (保育所) が終了していること															
	その他	なし															
授業概要:	施設実習の準備を行う。施設実習と並行して行われる授業で、実習の目的、施設養護における保育士の在り方や施設の機能、保育士の職務内容や実習手続きの書類の作成について学習する。また、保育所保育指針の内容を理解し、実習生として施設生活に参加することをイメージする。子どもや利用者を理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。																
授業目標:	①施設実習の事前準備としての心構えをしっかりと理解し、態度や意欲を持つようになる。②積極的に授業に参加をし、実習の課題を明確にできる。③保育者としての能力、資質を身に付けることがどういうことか理解し、実習で生かせるようになる。																
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
○					○												
授業計画・事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	保育の内容授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)		授業形態										
1	保育所実習の振り返りと自己課題の明確化 保育所実習における反省をし、自己課題ををしっかり確認する				事前: 保育所実習の振り返り 事後: 自己課題を確認する		実習評価の反省 60分、 自己課題の確認 30分										
2	施設実習の目的理解 実習先による目的と内容の理解 (各実習施設を理解をする)				事前: 施設実習の目的理解 事後: 実習のまとめをする		講義 90分										
3	実習施設の理解と実習内容・個人票について説明する				事前: 実習施設の確認をする 事後: 書類の整理をする		講義 60分、意見交換 30分										
4	施設種別ごとの理解をし、実習内容を各自調査する				事前: 自分の実習先の確認 事後: 調査後の整理をする		講義 30分、調査 60分										
5	DVDを鑑賞する。(乳児園や児童養護施設について理解する) 鑑賞後、レポート提出をする				事前: 施設の種別の確認する 事後: レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分										
6	DVDを鑑賞する。(施設実習の実際にについて理解する) 鑑賞後、レポート提出をする				事前: 施設の種別の確認する 事後: レポートを作成する		DVD 30分、意見交換 30分、 レポート作成 30分										
7	実習先提出書類作成指導①自分の実習先に対応するための準備をする (各自の目標や課題、実習にあたっての課題を考える)				事前: 実習の具体的な内容把握 事後: 課題を考える		講義 30分、 調査・課題検討 60分										
8	実習先提出書類作成指導②自分の実習先に対応するため各自の目標や課題、 実習にあたっての課題を書く				事前: 実習の具体的な内容把握 事後: 課題を再確認する		講義 30分、書類作成 60分										
9	実際の作業所に見学に行き、障害者の社会参加について学ぶ				事前: 見学の質問を考える 事後: 見学のまとめをする		作業所 90分										
10	作業所見学後の意見交換と自己課題の確認をする。レポート提出				事前: 意見交換の準備をする 事後: レポート提出		意見交換 30分、自己課題 30分、 レポート 30分										
11	実習日誌の作成指導①…一日の流れを把握する				事前: 施設の全体把握をする 事後: 一日の流れを再確認		講義 60分、意見交換 30分										
12	実習日誌の作成指導②…一日の課題に対する反省について、書き方を理解する				事前: 課題について検討 事後: 書き方の見直しをする		講義 60分、意見交換 30分										
13	オリエンテーションについて説明する (具体的に電話の掛け方等実習の手引きを参考に学ぶ)				事前: 実習手引きを準備する 事後: 電話応答を確認する		講義 60分、意見交換 30分										
14	参加、観察実習の留意点を説明する				事前: 実習手引きを準備する 事後: 実習の再確認をする		講義 60分、意見交換 30分										
15	実習評価と反省				事前: 評価と反省をまとめる 事後: 自己評価の確認をする		講義 60分、意見交換 30分										
教本:	参考文献: 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 (株)みらい																
講義内で指定資料配布する。																	
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (50%)、その他 (20%) 等で総合評価する。																	
学生へのアドバイス: 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また実習先への提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。																	
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																	

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習														
授業科目(英文)	保育実習指導II(保育所・施設)(Guidance on Internship at Preschool II)			科目分類			専門科目																
担当教員	小野 和・古金 悅子・渡邊 真理																						
履修条件	前提科目	保育実習I						その他															
授業概要:																							
①保育実習Iで学んだ基本的内容を踏まえ、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。②部分実習や責任実習を通して、保育技術及び実践力を身に付ける。施設実習においては、利用者の年齢や発達段階、症状や特性に応じた関わり方や養護技術、介助技術の実践力を身に付ける。③保育士として臨機応変な対応や判断力を身に付ける。																							
授業目標:																							
①保育所や施設の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。②子どもや利用者の観察やかかわりの視点を明確にすることで理解を深める。③既習の教科目や保育実習Iの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、利用者への理解及び生活について総合的に理解する。④保育所や施設での生活の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。⑥実習における自己の課題を明確化する。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○						○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																							
授業回数	保育の内容授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	実習Iの学びを振り返り、実習IIの意義、目的、心得等について理解する。				事前:シラバスを読む 事後:指定資料の確認をする		講義30分、 グループワーク30分、発表30分																
2	実習IIの目的を理解し、後輩に向けて実習報告会を行なう。その際の発表原稿を準備していく。				事前:実習日誌を見直す 事後:報告会発表原稿作成		講義20分、グループワーク60分 発表10分																
3	実習報告会に参加し、自身の経験を発表するとともに他者の発表から学ぶ。				事前:発表に向けて練習する 事後:感想文を作成する		発表会																
4	実習の目的と留意点を踏まえオリエンテーションについて確認し、実習先提出書類の作成を行なう。				事前:実習の手引きを読む 事後:書類を完成させる		講義を中心に 各自で書類を作成する。																
5	保育実習Iの反省から各自の実習課題を明確にし、書類を作成する。				事前:実習日誌を見直す 事後:実習課題を書く		講義30分、 資料作成での個別指導60分																
6	部分実習に向けて、指導計画を作成する。その際の教材や環境構成について検討していく。				事前:教材研究をしておく 事後:指導案を作成する		講義30分、グループワーク20分、 個別40分																
7	指導計画を作成していく中で、保育者の援助や子どもの活動について見直し、ねらいに沿った計画が立てられるようにする。				事前:指導案の見直しをする 事後:模擬保育の準備をする		講義30分、グループワーク20分、 個別40分																
8	模擬保育の実施(前半。一人あたり15分とするため2回に分けて行なう)				事前:指導案を読んでおく 事後:反省と評価を記入する		模擬保育・講評																
9	模擬保育の実施(後半)模擬保育実施後振り返りと評価、反省をする。				事前:指導案を読んでおく 事後:反省と評価を記入する		模擬保育・講評																
10	責任実習に向けて、指導計画を作成する。その際の教材や環境構成について検討していく。				事前:教材研究をする 事後:指導案を書いてみる		講義30分、グループワーク20分、 個別40分																
11	責任実習の中で、保育者の援助や子どもの活動について指導計画を見直し、ねらいに沿った計画が立てられるようにする。				事前:指導案の見直しをする 事後:指導案の修正をする		講義30分、グループワーク20分、 個別40分																
12	責任実習場面での模擬保育を実施し、振り返り、反省・評価を行なう。(前半。一人15分とするため2回に分けて実施)				事前:指導案を読んでおく 事後:反省と評価を記入する		模擬保育・講評																
13	責任実習場面での模擬保育を実施し、振り返り、反省・評価を行なう。(後半)				事前:指導案を読んでおく 事後:反省と評価を記入する		模擬保育・講評																
14	子ども及び利用者の最善の利益、権利擁護についての配慮を学び、保育士の業務と職業倫理についての理解を深める。				事前:指定資料の予習をする 事後:配付資料をまとめる		講義50分、グループワーク20分、 発表20分																
15	実習評価と反省として事後に行なう。				事前:実習日誌を見直す 事後:お礼状を作成する		講義、各自の報告、意見交換																
教本:					参考文献: 幼稚園・保育所実習ハンドブック 田中まさ子 編 (株)みらい																		
講義内で指定資料配布する。																							
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(50%)、課題レポート等(50%)で総合評価する。																							
学生へのアドバイス: 学外施設での実習に関わる授業があるので、原則として遅刻・欠席は認めない。また提出書類の遅延、授業態度の怠惰等で実習の派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。																							
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																							

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習														
授業科目(英文)	保育実践演習 (Internship for Preschool Guidance)						科目分類	専門科目															
担当教員	大沢 裕・古金 悅子・小野 和・渡邊 真理																						
履修条件	前提科目	保育実習科目が終了しているもの																					
授業概要:																							
保育者としての使命感を持てるよう、保育に関わる課題を順次取り上げ、それに対する分析・考察・検討を行い、保育者としての総合的なものの見方・考え方を身につけさせる。またそれとともに、子どもや保護者を援助する方法を学習させる。必修科目と選択必修科目の履修状況や、実習等を通しての学びを踏まえ、保育者として必要な知識・技能を修得したかを振り返り、確認させる。授業形式としては、グループ討議、ロールプレーリング、事例研究、現地調査を含む演習を基本とする。必要に応じて、ティーチングアシスタンントを配置する。																							
授業目標:																							
組織の一員として、保育に対する使命感や情熱を持ち、保育者としての職責や義務を自覚し、保護者に対しても良好な関係を築き、子どもと豊かな人間的交流を行える資質能力を養う。この科目は、確固たる使命感と熱意を持って保育を行うことのできる人材を育成する科目である。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○						○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	講義概要について一履修カルテを元に説明ー 保育に出る前に身に付けなければならないことを学ぶ				事前: シラバスを下読みする 事後: 自分の目標を定める		講義 40分、グループ討議 20分、個人目標 30分																
2	保育・教育者の使命感・責任感・愛などをグループ討議し、それぞれのグループで発表し合い、学びを深める				事前: 配布資料の下読み 事後: グループ討議のまとめ		講義 20分、グループ討議 20分、発表 50分																
3	保育者に求められるものー対人関係能力ー 厚木市子ども育成課委員との意見交換…厚木市の子育て政策について				事前: 市の子育て政策の下調べ 事後: 自分の意見をまとめる		講義 40分、意見交換 50分、レポート提出																
4	乳幼児に対する共感的理解…子どもの発達課程を踏まえ、乳幼児に対する共感的理解を総合的に展開されることが重要				事前: 指針等で発達課程の確認 事後: 自他の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分																
5	生きる力を育む教育…保育所保育指針をもとに学ぶ				事前: 指針で事前に調べる 事後: 自分なりの意見を集約		講義 60分、グループ討議 30分																
6	クラス運営の手法…一人一人の活動の場面に応じて、その活動が豊かになるようにクラス運営を考える				事前: 資料を事前に確認する 事後: 自分の意見をまとめる		園長との意見交換 90分																
7	協同する経験…友達と関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通的目的の実現に向け、考えや工夫により充実感を得る				事前: 指針を事前に下読みする 事後: 指針で再確認する		講義 60分、グループ討議 30分																
8	特別支援教育…特別な配慮を必要とする乳幼児に対しての理解促進や、地域との連携を学ぶ				事前: 指針や要領で確認する 事後: 自分の意見をまとめる		講義 60分、グループ討議 30分																
9	指導計画ー指導案作成ー指導計画を作成し、実際に演じたり、発表したりして、互いに学びを深める				事前: 自分なりの資料を探す 事後: 他の人の意見もまとめる		模擬授業の作成 90分																
10	指導の具体化ー模擬保育…具体的に模擬保育を行い、保育・教育者としての資質を深める				事前: 模擬授業の事前準備 事後: 模擬授業の反省をする		模擬授業の発表と反省 90分																
11	園の安全管理…施設・設備等の安全管理や災害発生時の対応体制や避難への備えなど具体的に学ぶ				事前: 配布資料を基に予習 事後: 自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分																
12	保育現場の実際ー認定こども園見学・演習ー 見学やDVDの観賞などから現場の実際を学ぶ				事前: 配布資料で予習する 事後: 自分なりのまとめをする		DVD 観賞 40分、レポート 30分、意見交換 20分																
13	家庭との連携・保護者支援…保護者と連携して子どもの育ちを支える視点を学ぶ				事前: 指針や要領で事前準備 事後: 自分なりのまとめをする		講義 50分、意見交換 40分																
14	保育現場に出る前にーこども・子育て新制度を踏まえてー 子ども・子育て新制度について具体的に学ぶ				事前: 子育て新制度の事前確認 事後: 自分なりの制度の確認		講義 50分、意見交換 40分																
15	これまでの学びの振り返り…保育者として必要な知識・技能を習得したかの振り返り、確認する				事前: 振り返りの事前準備 事後: 皆の意見を聞きまとめる		グループ討議と発表																
教本: テキスト 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』					参考文献: 授業時、適宜指示する。必要に応じてプリントを配布する。																		
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(50%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス: 自己課題を持って予習・復習を行ってください。配布資料及び講義内容の整理を行ってください。																							
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																							

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	保育内容(環境) (Early Childhood Education (Environment))						科目分類	専門科目													
担当教員	野末 晃秀																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要:																					
身近な環境や事物に好奇心と探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れることで豊かな発達を遂げていく子どもの能力とそのための環境構成について学ぶ。子どもが能力を発揮する環境や事象、例えば、生物や自然現象、遊具・数量・図形に実際に触れ、各々の特性について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。また、視聴覚教材の活用や模擬授業をビデオで記録するなど視聴覚機器等を使い学習効果を高める。																					
授業目標:																					
領域「環境」のねらい、内容について理解を深めるとともに、幼児の発達段階に応じた環境の意義について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定した指導計画を作成することにより実践力を身に付ける。																					
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態													
1	保育内容「環境」の意義について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園保育・教育要領の5領域ねらいと内容について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
3	好奇心や思考力の芽生え、探究心を育てる指導(視聴覚教材)について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
4	人的環境としての友だち・保育者と物的環境としての園具・遊具・素材について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
5	自然環境としての動植物、日常生活の中での興味や関心、文字や数量の体験について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
6	幼稚園教育における評価と反省について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(60分)・ グループ(30分)													
8	保育の構想(長期の計画と短期の計画)について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
9	ねらい及び内容と環境構成について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
10	幼児の活動を豊かにするための教材研究(幼児と教材の関わり)				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
11	季節にあった遊び、地域の自然を利用した遊びの構想(幼児理解に基づく指導計画の作成)について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
12	模擬授業の構想(準備、役割、教材の準備)について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
13	模擬授業の実施				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
14	模擬授業の反省と評価、改善(環境構成、保育者の援助、教材等は適切であったか)・第13回の模擬授業の相互評価を行う。(模擬保育記録ビデオの活用)				事前:資料・テキストでの確認 事後:資料・テキストでの復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
15	保育内容「環境」から見た実践的課題について考える。				事前:資料・テキストでの確認 事後:ノート整理・復習			講義(20分)・ 演習(70分)													
教本:																					
参考文献: 谷田貝公昭 監修、大沢裕・野末晃秀 編著、コンパクト版 保育内容シリーズ③『環境』 一藝社 (ISBN: 9784863591523) 『保育所保育指針解説書』(最新版) 厚生労働省、『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(最新版) 内閣府文部科学省・厚生労働省																					
成績評価の方法、評価基準:																					
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス:																					
幼稚園教育要領に記された5領域のひとつ「環境」について、楽しく、わかりやすく授業をすすめたく思います。難しい理論ではなく、保育現場で役に立つ内容を、と考えていますのでよろしくお願ひいたします。																					
オフィスアワー:																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習															
授業科目(英文)	保育内容(健康) (Early Childhood Education (Health))			科目分類			専門科目																	
担当教員	水原 佐和子																							
履修条件	前提科目	なし			その他	運動をするにあたり、教員に知らせておきたい持病や怪我等がある場合は、事前に申告してください																		
授業概要:																								
乳幼児の基本的な生活習慣の形成、身体機能や運動能力、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、乳幼児が健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。																								
授業目標:																								
・乳幼児の身体機能や運動能力の発達について理解する。 ・望ましい生活リズムや基本的な生活習慣を形成するための保育者の役割について理解する。 ・進んで体を動かす子どもを育てるための保育者の役割について理解する。																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	ガイダンス(・授業の進め方や目的を確認する ・評価方法の説明 ・「健康」とは何か ・個別の目標を設定する)					事前:シラバスを読んでおく 事後:授業／個別目標の復習		講義70分 演習20分																
2	領域「健康」について(・ねらいと内容を精読する ・保育内容「健康」の対象となる事柄についてディスカッションする)					事前:領域「健康」を読む 事後:領域「健康」の再読		講義60分 演習30分																
3	子どもの心と体の健康(・幼児期の健康な生活とは ・保育者に求められる「健康」に関する基礎知識について検討、発表)					事前:心身の健康とは? 事後:演習の気づきを記録する		講義30分 演習60分																
4	子どもの身体の発達と運動能力(・運動発達の基礎:新生児～定頸、おすわりまで ・左記の運動発達内容を実際に行う)					事前:原始反射の復習 事後:本時の運動発達の復習		講義70分 演習20分																
5	子どもの身体の発達と運動能力(・運動発達の基礎:初めての移動運動～つかまり立ち、歩き始めるまで ・実際に動いてみる)					事前:粗大運動とは何か調べる 事後:本時の運動発達の復習		講義70分 演習20分																
6	子どもの身体の発達と運動能力(・運動発達の基礎:上手に歩くこと～幼児期へ、 幼児期の各段階 ・実際に動いてみる)					事前:二足歩行の特徴を調べる 事後:本時の運動発達の復習		講義70分 演習20分																
7	生活習慣の獲得(・0～2歳児:身に付けたい生活習慣について調べ、発表する)					事前:関連する資料を用意する 事後:気づきを記録する		講義20分 演習70分																
8	生活習慣の獲得(・3～5歳児:身に付けたい生活習慣について調べ、発表する)					事前:関連する資料を用意する 事後:気づきを記録する		講義20分 演習70分																
9	保育の場における食育指導(・食育基本法 ・ディスカッション:子ども時代の食事の思い出とより良い食育とは ・発表)					事前:食育基本法の基礎を確認 事後:楽しめる食事をする		講義20分 演習70分																
10	遊びの意義と変遷(・遊びとは何か:ホイジング、カイヨワの理論を手掛かりに)					事前:両者の人物像を確認する 事後:気づきを記録する		講義70分 演習20分																
11	領域「健康」と運動遊び(・運動発達の理論や遊びの理論を踏まえた運動遊びの意義 ・安全教育とその指導)					事前:運動発達の復習 事後:気づきを記録する		講義70分 演習20分																
12	「健康」をテーマとした教材研究(・指導案作成の確認 ・各自準備した教材を研究し、指導案の草案を作る)					事前:教材や資料の準備・持参 事後:教材づくり		講義10分 演習80分																
13	「健康」をテーマとした指導案の作成と完成(・指導案の作成を行い、内容を完成させる)					事前:必要な教材づくり 事後:模擬保育への準備		講義10分 演習80分																
14	「健康」をテーマとした教材発表(模擬保育)(・学生による模擬発表と他学生の発表への参加 ・気づきや感想を伝え合う)					事前:展開について細案を作成 事後:振り返りを記録する		演習60分 討議30分																
15	保育者の役割と援助(乳幼児の育ちの理解:領域「表現」の視点からのまとめ)					事前:領域「表現」の再読 事後:記録の整理と振り返り		講義60分 討議30分																
教本:		参考文献: なし(適宜資料を配布) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いづれも最新版)																						
成績評価の方法、評価基準:																								
課題への取り組み(50%)、定期試験(40%)、レポート(10%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス:																								
講義と演習による授業であり、主体的かつ積極的に参加する意欲を重視する。体を動かす内容を含むため、適した服装での参加を推奨。																								
オフィスアワー:																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習														
授業科目(英文)	保育内容(言葉) (Early Childhood Education (Language))			科目分類			専門科目																
担当教員	古金 悅子																						
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																	
授業概要:																							
子どもの発達と特徴、言葉の本質と機能、言葉の障害について理解し、保育者についての話し方・聞き方、絵本などの児童文化財を教材として用いる方法を実践的に学修する。子ども達の言葉の発達に応じて、言葉の持つ意味やイメージ、感情をくみ取る力を支援することは保育者にとって必要な専門性である。言葉でやりとりすることの楽しさや大切さを子どもに伝えるための指導力・実践力を修得できるようにする。																							
授業目標:																							
子どもが言葉を獲得する過程を知り、保育者として言葉に対する感性を豊かにすると共に、保育者の役割を理解し、子どもの言葉を育てるための指導力と実践力を身に付ける。																							
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																							
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○		○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																							
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態																
1	ガイダンス 言葉とは何か、言葉の獲得の意味について考える。			事前:シラバスの確認 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
2	保育内容に示されている領域「言葉」について理解する。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
3	乳幼児の言葉の発達 子どもの言葉獲得の過程を理解する。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
4	言葉を育てる環境 生活や遊びの中で言葉を豊かにしていくために必要な環境や保育者の援助について考える。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
5	言葉の機能について考える 言葉には様々な機能や役割があることを学ぶ。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、ペアワーク 30分																
6	話し言葉と書き言葉 遊びや生活の中にある文字の有用性や必要性を考え、その援助について理解する。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
7	小学校との連携 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領のつながりを理解する。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
8	児童文化財の活用 様々な児童文化財に触れ、その活用について実践的に学ぶ。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
9	発達と絵本 絵本の読み聞かせについてこれまでの経験を踏まえて学んでいく。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
10	教材研究①紙芝居について			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
11	教材研究②ペーパーサポートの作成			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分																
12	模擬保育 自作の教材を用いて模擬保育を行い検討する。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 10分、グループワーク 80分																
13	指導案の作成 前時の模擬保育を振り返り指導案を作成する、PDCAを考えながら指導上の留意点に気づけるようにする。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
14	言葉を育てる言葉遊び 実際の体験を通して理論と実践の一體的に学ぶ。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 20分、グループワーク 70分																
15	特別に支援を必要とする子どもの援助 保育者の役割と援助について学んだことをまとめていく。			事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義 60分、グループワーク 30分																
教本:		参考文献: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領																					
成績評価の方法、評価基準:																							
授業内発表等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																							
学生へのアドバイス:																							
演習に積極的に参加することで、実践力を身につけてほしい。																							
オフィスアワー:																							
初回講義日に伝える。																							

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習								
授業科目(英文)	保育内容(人間関係) (Early Childhood Education (Human Relations))						科目分類	専門科目									
担当教員	大沢 裕																
履修条件	前提科目	なし															
	その他	なし															
授業概要:	<p>子ども同士の関わり、保育者とのかかわり等、社会性を発達させる上で欠かせない人間関係のあり方全体を理解することを目的とする。子どもたちの人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ばせる。子どもの自主性・自立性の尊重とその促し方、および集団生活との関わり、ごっこ遊びと社会性との関連、社会性涵養の立場から各種行事や園外保育の意義を理解させる。また家庭・社会における人間関係、その中で培われる社会性についても取り上げる。</p> <p>講義の他に、実践例を踏まえた課題研究発表、グループ討論、ロールプレイングを交えて授業を展開する。</p>																
授業目標:	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、領域としての「人間関係」の目的、ねらい、内容、内容の取り扱いを理解し、子どもの社会性を育てるための視野を広げる。子どもの遊びと生活を、人間関係の観点で捉える眼を養う。人との関わりを育むために必要とされる知識や技能について理解する。</p>																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
	○	○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態									
1	教育・保育の基本と領域「人間関係」				事前:ノートを読み返す 事後:ノートを読み返す			講義 90分									
2	領域「人間関係」のねらい及び内容				事前:福祉の考えをまとめ 事後:ノートを読み返す			講義 90分									
3	人間関係の発展の道筋				事前:保育の意味を考え 事後:ノートを読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分									
4	0歳児から2歳児の人間関係ーその指導法と評価				事前:発展について復習する 事後:ノートを読み返す			演習 90分									
5	3歳児から5歳児の人間関係ーその指導法と評価				事前:2歳児までの間人間関係を復習する 事後:ノートを読み返す			演習 90分									
6	愛着形成の理論と実際				事前:テキストを読んでおく 事後:ノートを読み返す			講義 60分、 グループ討論 30分									
7	自己主張と自己抑制ー道徳性の芽生えを育むために				事前:素質について考えておく 事後:ノートを読み返す			演習 90分									
8	コミュニケーション能力の育成				事前:家庭の育ちを考え 事後:ノートを読み返す			演習 90分									
9	領域「人間関係」の教材作成と情報機器の活用				事前:PCの操作に慣れておく 事後:教材を作つてみる			演習 90分									
10	領域「人間関係」の指導案作成				事前:指導案作成の手順を確認する 事後:作成した指導案を見直す			演習 90分									
11	領域「人間関係」の模擬授業(ロールプレイング)				事前:指導案を読み込む 事後:模擬保育の反省をする			演習 90分									
12	人とのかかわりが難しい子どもへの支援				事前:望ましい経験を考え 事後:ノートを読み返す			演習 90分									
13	異年齢児、地域社会との関わり、自然環境の中で育つ人間関係の支援				事前:遊びの特徴を考え 事後:ノートを読み返す			演習 60分、 グループ討論 30分									
14	領域「人間関係」と他の領域との関連				事前:保育者の役割を考え 事後:ノートを読み返す			演習 60分、 グループ討論 30分									
15	幼小連携の課題ー人間関係育成の視点から				事前:時事問題の記事を読む 事後:			講義 90分									
教本:	参考文献: 『コンパクト版保育内容シリーズ・人間関係』高橋弥生・福田真奈編著 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)」(チャイルド社)																
成績評価の方法、評価基準:	領域としての「人間関係」のねらい、内容また社会性を育てるための知識・技能について理解ができているか、また子どもの遊びと生活を人間関係の視点から捉えることができるかを複数回のレポート提出及び筆記試験によって総合的に評価する。																
学生へのアドバイス:	社会性の育ちに対して、新聞記事を読んだり、インターネットで調べる習慣を身につけること。																
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習					
授業科目(英文)	保育内容(表現) (Early Childhood Education (Expression))					科目分類	専門科目							
担当教員	古金 悅子			○	○	○	○	○	○					
履修条件	前提科目	なし	○	○	○	○	○	○	○					
	その他	なし	○	○	○	○	○	○	○					
授業概要:	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている領域「表現」の内容について、乳幼児の発達、保育者の役割や援助、環境などの観点から具体的に理解する。造形、音楽、言葉、身体などでの様々な表現のあり方を学び、保育者としての感性を磨きながら実践力を身につけていく。ピアノと歌唱の技術向上させるため練習と発表の機会を設ける。													
授業目標:	表現の視点から乳幼児の発達の過程を理解し、保育者としての指導力と実践力を身に付ける。感性を豊かにし、表現に関する教材活用のための理論と実践を一体的に行える力を身につける。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など				事前:シラバスの確認 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
2	表現の楽しさを経験する(言語表現・音楽表現・造形表現・身体表現)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義30分、 実技演習60分						
3	乳幼児の発達と表現について				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらい・内容について				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
5	総合的表現活動としての劇遊びについて				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義・DVD視聴60分、 グループワーク30分						
6	音楽表現の創作①(楽器の扱い方、合奏の楽しみ)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
7	音楽表現の創作②(合奏譜を作り、練習する)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義10分、 グループワーク80分						
8	音楽表現の創作③(グループごとに発表する)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義20分、 作品発表70分						
9	乳幼児の表現力を育むための環境と援助について				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
10	領域表現と行事について				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
11	身体表現の創作①(グループで身体表現を創作する)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義20分、 グループワーク70分						
12	身体表現の創作②(幼児への指導法を工夫する)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義10分、 グループワーク80分						
13	身体表現の創作③(発表と振り返り)				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義20分、 作品発表70分						
14	指導案の作成について				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義40分、 グループワーク50分						
15	学修のまとめ				事前:前時の復習 事後:授業内容の確認と復習			講義60分、 グループワーク30分						
教本:	参考文献: 必要に応じて資料を配付します。 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領													
成績評価の方法、評価基準:	授業内発表等(40%)、レポート(30%)、小テスト(30%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	毎回の授業の中で演習を通して知識と技能を身につけて欲しいと考えています。欠席しないようにして下さい。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	保育内容総論 (Overview of Early Childhood Education)			科目分類			専門科目															
担当教員	野末 晃秀																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要 :																						
「幼稚園教育要領」などをふまえた幼稚園や保育所における指導の基本及び教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、評価に至る指導計画の作成について理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた総合的な実践力を身に付ける。																						
授業目標 :																						
環境を通して学ぶ教育の意義、各領域のねらい、小学校教育との接続について、事例を基に話し合い理解を深める。また、児童の発達や学びの過程を理解するために、指導計画等の資料収集を行いそれらの比較検討することにより環境構成や教師の支援、評価手法について学ぶ。また、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○														
○								○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	教育環境を通して行う教育の意義について学ぶ。				事前：シラバスの確認 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携認定こども園教育・保育要領」の理念、ねらいと内容について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
3	保育所・幼稚園・こども園における5領域のねらい、内容について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
4	一人一人の特性に応じた指導の在り方について実践事例を通して学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
5	特別な支援を必要とする子どもへの理解と援助方法及びクラス運営について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
6	質の高い教育・保育の実現するカリキュラム・マネジメント（P・D・C・A）について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
7	児童の学びの連続性や「児童期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、小学校との接続について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
8	教育課程と全体的な計画、保健計画、食育計画の関連性について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
9	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境構成の在り方について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
10	視聴覚機器及び情報機器等の活用した教育実践の在り方について学ぶ。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
11	模擬保育をグループでデザインする。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
12	模擬保育の計画（児童理解・ねらい・内容・環境構成・保育者の支援・評価）をグループで話し合い作成する。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
13	模擬保育の実施と反省評価				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			模擬保育の実施 (90分)														
14	実際の保育の場における実践例と、その解説				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
15	これからの教育・保育の在り方について考える。				事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習			講義(60分)・ グループ(30分)														
教本 :		参考文献 :																				
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 谷田貝公昭監修 大沢裕・高橋弥生編著、『幼児教育方法論』一藝社 (ISBN未定)		文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャ イルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生 労働省、『幼保連携認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚 生労働省																				
成績評価の方法、評価基準 :																						
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス :																						
自分の将来の姿を考え、保育に夢と希望を持ちながら、授業にのぞむこと。																						
オフィスアワー :																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	保育の心理学 I (Psychology of Childcare I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
子どもの発達や学びについて、心理学の視点から理解を深める。子どもの成長がどのように進むのか、環境や人との関わりがどのように影響するのかを学ぶ。また、発達に関する理論を基礎とし、発達がゆっくりな子どもへの支援についても考える。保育の実践に必要な知識を身につけ、子ども一人ひとりに合った関わり方を学ぶ。																										
授業目標：																										
1. 子どもの成長や発達について、心理学の理論をもとに考えられるようになる。 2. 子どもの発達をよく理解し、成長に合わせた適切な関わり方がわかる。 3. 乳幼児がどのように学ぶのかを知り、保育の中で大人や環境がどんな役割を持つのかを考えられる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	発達をとらえる視点 (1) 子どもの発達を理解することの意義					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分																		
2	発達をとらえる視点 (2) 子どもの発達と環境					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分																		
3	発達をとらえる視点 (3) 発達に関する理論					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分																		
4	発達をとらえる視点 (4) 子ども観と保育観					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分																		
5	子どもの発達過程 (1) 社会情動的発達					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分																		
6	子どもの発達過程 (2) 身体的機能と運動機能の発達					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分																		
7	子どもの発達過程 (3) 認知の発達 1					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分																		
8	子どもの発達過程 (4) 認知の発達 2					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分																		
9	子どもの発達過程 (5) 言語の発達とコミュニケーション 1					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分																		
10	子どもの発達過程 (6) 言語の発達とコミュニケーション 2					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分																		
11	子どもの発達過程 (7) 発達に偏りのある子どもの理解と支援					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分																		
12	子どもの学びと保育 (1) 乳幼児期の学びに関わる理論 1					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分																		
13	子どもの学びと保育 (2) 乳幼児期の学びに関わる理論 2					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分																		
14	子どもの学びと保育 (3) 乳幼児期の学びの過程と特性					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分																		
15	子どもの学びと保育 (4) 乳幼児期の学びを支える保育					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分																		
教本：																										
「保育の心理学 演習ブック [第2版]」 ミネルヴァ書房 ¥2,200 参考文献： 「セラピストのための子どもの発達ガイドブック」 誠信書房 ¥3,200																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
専門用語に苦手意識を持たず、基本を押さえながら理解を深めてください。将来、子どもや家庭を支える立場で活かせる知識として、自分の学びにつなげていくことを意識するよう心がけてください。ディスカッションや質問を活用し、積極的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習										
授業科目(英文)	保育の心理学II (Psychology of Childcare II)					科目分類	専門科目												
担当教員	荒木 光																		
履修条件	前提科目	保育の心理学I			その他	なし													
<b>授業概要：</b> 子どもの成長や発達について学び、家庭が子どもに与える影響を心理学の視点から考える。また、子育てを取り巻く社会の現状や課題について理解し、子どもの心の健康を守るために必要な知識を身につける。																			
<b>授業目標：</b> 1. 人はどのように成長していくのか、その基本的な仕組みを理解する。 2. 親子関係や家族のつながりが子どもの成長にどう関わるのかを学び、子どもと家庭と一緒に見る視点を養う。 3. 現代の子育て家庭がどのような問題や困難を抱えているのかを学び、子どもと家庭を支える方法を考える。 4. 不安やストレスを抱える子どもの気持ちを理解し、どのような支援が必要なのかを考える。																			
<b>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</b>																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
			○			○													
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	生涯発達(1) 乳幼児期の発達					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分											
2	生涯発達(2) 学童期の発達					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分											
3	生涯発達(3) 青年期の発達					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分											
4	生涯発達(4) 成人期・老年期の発達					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分											
5	家族・家庭の理解(1) 家族・家庭の意義と機能					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分											
6	家族・家庭の理解(2) 親子関係・家族関係の理解					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分											
7	家族・家庭の理解(3) 子育ての経験と親としての育ち					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分											
8	子育て家庭に関する現状と課題(1) 子育てを取り巻く社会的状況					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分											
9	子育て家庭に関する現状と課題(2) ライフコースと仕事・子育て					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分											
10	子育て家庭に関する現状と課題(3) 多様な家庭とその理解					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分											
11	子育て家庭に関する現状と課題(4) 特別な配慮を要する家庭					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分											
12	子どもの精神保健とその課題(1) 子どもの生活・生育環境とその影響1					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分											
13	子どもの精神保健とその課題(2) 子どもの生活・生育環境とその影響2					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分											
14	子どもの精神保健とその課題(3) 子どもの心の健康に関わる問題1					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分											
15	子どもの精神保健とその課題(4) 子どもの心の健康に関わる問題2					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分											
教本： 「子ども家庭支援の心理学 演習ブック」 ミネルヴァ書房 ¥2,500					参考文献： 「セラピストのための子どもの発達ガイドブック」 誠信書房 ¥3,200														
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																			
<b>学生へのアドバイス：</b> 専門用語に苦手意識を持たず、基本を押さえながら理解を深めてください。将来、子どもや家庭を支える立場で活かせる知識として、自分の学びにつなげていくことを意識するよう心がけてください。ディスカッションや質問を活用し、積極的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。																			
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。																			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	法学 (Law)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	上地 一郎																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要:	本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力などを扱います。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																									
授業目標:	基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																						
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式	授業計画・事前学習・事後学習、形式																									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	オリエンテーション 授業の計画、評価などについて解説する			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分																			
2	法とは何か(1) 法の存在形式について解説する			事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
3	法とは何か(2) 法律と社会規範の関係性を説明する			事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能を検討する			事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能の理解を深める			事前：法の社会的機能とはどのようなものかを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰の関係を考える			事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化は可能かを検討する			事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義の思想を説明する			事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制の問題点を考える			事前：法による道徳の強制は妥当か考える。 事後：バターナリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
10	法と正義(1) 法の目的と正義の関係について説明する			事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
11	法と正義(2) 現代正義論の動向を解説する			事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
12	日本の裁判員制度の概要について説明し、その問題点を考える			事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
13	法の効力(1) 法の形式的効力一段階的構造を解説する			事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力（段階的構造）をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲について解説する			事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
15	効力による法の分類を解説し、全体の総括を行う			事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
教本:	参考文献: とくになし（資料を配布します）。																									
授業中に適宜指示します。																										
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。	小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																									
学生へのアドバイス:	法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																									
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	法学 (Law)					科目分類	基礎科目					
担当教員	三枝 昌幸			履修条件	前提科目	なし	その他	なし				
授業概要 :	本講義では法について多角的な検討を行い、法の意義を考える。最初に法の性質や分類、法的紛争解決の仕組みなどを解説し、それらの知識を踏まえつつ現行法制度の概要を解説する。講義では具体的な事例を取り上げ、法的問題の解決方法についても学習する。											
授業目標 :	1. 法と法学に関する基礎知識を獲得すること。 2. 現行法制度の概要を理解すること。											
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養								
○	○											
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式											
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態					
1	法と他の社会規範（道徳など）の違いについて学習する。各自の見解をまとめる。					事前：シラバスの熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
2	条文の探し方や読み方について学習する。簡単な法律を素材に法律や条文の構造を読み解く練習をする。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
3	法の解釈方法について学習する。身近なルールを素材に条文解釈の練習をする。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
4	裁判の仕組みについて学習する。裁判の課題について各自の見解をまとめる。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
5	憲法の歴史や分類について学習する。憲法の意義について各自の見解をまとめる。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
6	統治の仕組みについて学習する。統治に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
7	人権保障の仕組みについて学習する。人権に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
8	刑法の基本原則について学習する。刑法の意義や機能について各自の見解をまとめる。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
9	犯罪の成立要件について学習する。具体的な事例を素材に犯罪が成立するかを検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
10	民法（財産法）の仕組みについて学習する。民法総則に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
11	物権の基礎事項について学習する。物権に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
12	債権の基礎事項について学習する。債権に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
13	家族法の仕組みについて学習する。家族法に関する事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
14	労働法の歴史や基本原則について学習する。労働法の意義について各自の見解をまとめる。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
15	全体のまとめをして事例問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ	講義70分、演習20分					
教本 :	参考文献 :											
使用しない (レジュメを配布する)。	使用しない。											
成績評価の方法、評価基準 :	授業参加状況等 (50%)、試験 (50%) 等で総合評価する。											
学生へのアドバイス :	日頃からニュースを確認して法に関する情報を収集しておくこと。											
オフィスアワー :	初回講義日に伝える。											

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	簿記論 I (Bookkeeping I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川口 修																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。																										
授業目標:																										
複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目指とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
5	取引と 8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分																		
教本:																										
参考文献:																										
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。																										
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																										
平常点(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。ワークブックを学び、完成させること。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	簿記論 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目												
担当教員	高橋 琢也																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
簿記は、現金預金などの収支明細や、商品の仕入れ・販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録集計し、貸借対照表や損益計算書を作成する知識・技術である。簿記論 I は、会計関連科目的基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、反転授業で行い、小テストで理解度を確認し、事前学習の内容の確認も行う。																				
授業目標：																				
日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	簿記と財務諸表（簿記の基礎知識） 簿記の基礎となる知識について解説する。				事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成			講義・問題演習70分 小テスト20分												
2	勘定科目の分類と仕訳 勘定科目と財務諸表の構成要素について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
3	仕訳 基本的な仕訳について理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
4	仕訳と勘定への転記（総勘定元帳） 総勘定元帳への転記について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
5	決算1（試算表の作成） 試算表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
6	決算2（財務諸表の作成） 財務諸表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
7	現金（現金出納帳・現金過不足） 現金に係る処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
8	当座預金（当座預金出納帳・当座借越） 当座預金に係る処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
9	小口現金とその他の預金（小口現金出納帳） 小口現金出納帳を中心に解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
10	商品売買取引1（分記法と3分法） 分記法と3分法の仕訳について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
11	商品売買取引2（売上原価計算） 商品に係る売上原価計算について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
12	商品売買取引3（補助簿） 商品に係る補助簿について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
13	売上債権と仕入債務1（掛けと手付金） 掛けと手付金の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
14	売上債権と仕入債務2（手形） 手形の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			問題演習90分												
教本：					参考文献： 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。															
成績評価の方法、評価基準：																				
試験（100%）で評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	簿記論II (Bookkeeping II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	川口 修																									
履修条件	前提科目	簿記論Iを必ず履修すること。																								
その他																										
授業概要:																										
勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。																										
授業目標:																										
複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目指とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																		
1	現金・預金の処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
2	商品売買 I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
3	商品売買 II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
5	有価証券の処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
6	手形取引の処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
7	その他の債券・債務の処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
8	固定資産と減価償却					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
9	純資産・税金の処理					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
10	試算表の作成					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
11	決算の手続き I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
12	決算の手続き II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
13	決算の手続き III					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
14	決算の手続き IV					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
15	まとめ					事前:テキストの予習 事後:復習		講義 90分																		
教本:					参考文献:																					
渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。																										
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。																										
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。簿記論Iを履修すること。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	簿記論II (Bookkeeping II)					科目分類	専門科目													
担当教員	高橋 琢也																			
履修条件	前提科目	簿記論I			その他	なし														
授業概要:																				
簿記論IIでは、簿記論Iから継続して簿記の基本的な技術・知識について学習していく。また、簿記論IIは、会計関連科目の基礎・前提となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。また、簿記論Iと連続する科目であるため、簿記論Iを履修している必要がある。本講義では、反転授業で行い、小テストで理解度を確認し、事前学習の内容の確認も行う。																				
授業目標:																				
日商簿記3級レベルの簿記の知識・技術を習得することを目標とする。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	簿記論Iの復習1（簿記の基礎） 簿記論Iの簿記に関する基礎について復習する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			講義・問題演習70分 小テスト20分												
2	簿記論Iの復習2（仕訳の問題演習） 簿記論Iで扱った仕訳を問題演習をとおして復習する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
3	簿記論Iの復習3（試算表の作成） 簿記一巡の手続きの試算表までを復習する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
4	貸倒引当金 貸倒引当金の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
5	掛・手形以外の債権・債務 掛と手形以外の債権・債務について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
6	有形固定資産と減価償却1 有形固定資産と減価償却について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
7	有形固定資産と減価償却2 第6回につづいて、有形固定資産の処理の理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
8	純資産と決算振替仕訳 純資産と決算振替仕訳について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
9	収益・費用と経過勘定項目 経過勘定項目を中心に解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
10	税金（法人税等・消費税） 法人税等や消費税について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
11	伝票と仕訳 伝票の起票を中心に解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
12	決算1（試算表の作成） 決算のうち、試算表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
13	決算2（精算表の作成） 決算のうち、精算表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
14	決算3（財務諸表の作成） 決算のうち、財務諸表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			小テスト20分 講義・問題演習70分												
15	問題演習（決算） 第14回までの内容の理解度をみる。				事前：復習ノートの見返し 事後：問題演習の復習			問題演習90分												
教本:					参考文献: 渡辺裕亘 他『検定簿記講義3級商業簿記』、中央経済社。 渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』、中央経済社。															
成績評価の方法、評価基準: 試験（100%）で評価する。																				
学生へのアドバイス: 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																				
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	簿記論III（中級）(Bookkeeping III (Intermediate))					科目分類	専門科目													
担当教員	高橋 琢也																			
履修条件	前提科目	簿記論I・II			その他	なし														
授業概要：																				
簿記論III（中級）では、簿記論I・IIに続き、簿記の基本的な知識を理解したうえで、日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術について授業を行う。そのため、簿記論I・IIを履修している必要がある。本講義では、反転授業を行い、小テストで理解度を確認し、事前学習の内容の確認も行う。																				
授業目標：																				
日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術を習得することを目標とする。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	簿記一巡の手続きの復習 簿記論I・IIの復習を問題演習をとおして行う。				事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成			講義・問題演習70分 小テスト20分												
2	財務諸表の特徴 財務諸表の種類と特徴について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
3	現金預金 基本的な仕訳を含め、銀行勘定調整表について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
4	手形にかかる処理 手形の裏書・割引、更改、不渡り等について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
5	有価証券にかかる処理1 有価証券の分類、評価等について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
6	有価証券にかかる処理2 第5回につづいて、有価証券の処理について理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
7	債務の保証と保険金の処理 債務の保証と保険金の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
8	商品売買と棚卸減耗損・商品評価損1 棚卸減耗損と商品評価損について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
9	商品売買と棚卸減耗損・商品評価損2 第8回につづいて、商品売買について理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
10	固定資産にかかる処理 固定資産の取得、売却等、減価償却について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
11	引当金にかかる処理 引当金の種類と設定等の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
12	収益・費用にかかる処理 収益と費用の種類と収益認識基準について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
13	純資産にかかる処理 純資産の種類と準備金等の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
14	税金の処理 法人税と消費税の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			問題演習90分												
教本：					参考文献：															
渡辺裕亘 他『検定簿記講義2級商業簿記』、中央経済社。																				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック2級商業簿記』、中央経済社。																				
成績評価の方法、評価基準：																				
試験（100%）で評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	簿記論IV（中級）(Bookkeeping IV (Intermediate))					科目分類	専門科目													
担当教員	高橋 琢也																			
履修条件	前提科目	簿記論I・II 簿記論III（中級）																		
	その他	なし																		
授業概要：	簿記論IV（中級）では、簿記論I・IIに続き、簿記の基本的な知識を理解したうえで、日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術について授業を行う。そのため、簿記論I・IIを履修している必要がある。また、中級簿記Iのつづきの科目であるため、簿記論III（中級）も履修している必要がある。本講義では、反転授業で行い、小テストで理解度を確認し、事前学習の内容の確認も行う。																			
授業目標：	日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術を習得することを目標とする。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○	○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	簿記論III（中級）・IV（中級）の復習 前期に扱った内容の復習をする。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			講義・問題演習70分 小テスト20分												
2	リース会計 リース取引の処理について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
3	外貨建取引 外貨建取引の換算と二取引基準等について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
4	税効果会計 課税所得と税効果会計について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
5	決算1（決算整理後残高試算表の作成） 決算整理後残高試算表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
6	決算2（精算表の作成） 第5回につづいて、精算表の作成について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
7	決算3（財務諸表の作成） 第6回につづいて、財務諸表の作成を解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
8	本支店会計1 決算までの処理を理解したうえで、本支店会計を解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
9	本支店会計2 第8回につづいて、本支店会計の理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
10	本支店会計3 第9回につづいて、本支店会計の理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
11	連結会計1（開始仕訳） 連結財務諸表の作成に必要な開始仕訳について解説する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
12	連結会計2（連結精算表の作成） 開始仕訳を理解したうえで、連結精算表を作成する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
13	連結会計3（連結財務諸表の作成） 第12回につづいて、連結財務諸表を作成する。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
14	連結会計4 第13回につづいて、連結会計について理解を深める。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			小テスト20分 講義・問題演習70分												
15	問題演習 後期授業内容の理解度をみる。				事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成			問題演習90分												
教本：	参考文献：																			
渡辺裕亘 他『検定簿記講義2級商業簿記』、中央経済社。																				
渡辺裕亘 他『検定簿記ワークブック2級商業簿記』、中央経済社。																				
成績評価の方法、評価基準：																				
試験（100%）で評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目							
担当教員	古賀 学														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:	ホスピタリティとは何かを理解することにより、理論的な手法により自身を見直し対人関係をよりよくするための実践的な講義である。														
授業目標:	①ホスピタリティのあり方を理解する ②自身を今一度理解する ③人間関係のあり方を理解する														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	知識・技能の習得														
	思考力・判断力・表現力の育成			○			○								
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1・2	ホスピタリティの体系・ホスピタリティとサービスの語源と意味:ホスピタリティ、サービス、おもてなし等語源及び関連用語の関係性について理解する。			事前:ホスピタリティに関する資料収集 事後:自身でのホスピタリティの体系化			(各講義) 講義70分 ディスカッション20分								
3・4	自分を知る:自分の資質を理解することについて学修する。 ・自己開示・自己発見など自分を理解する方法について学修する。 ・自分の魅力を引き出す方法について学修する。			事前:自身の性格と向き合う 事後:自身の性格の長所・短所について理解する。			(各講義) 講義50分 ワークショップ20分 ディスカッション20分								
5・6	相手を理解する:相手の特性・個性、相手を受け止める自分について学修する。			事前:友人・知人に対する理解度について考えてみる。 事後:改めて他人の良い点について理解する。			(各講義) 講義50分 ワークショップ20分 ディスカッション20分								
7・8	自分と相手の関係を知る:反射の原則、教官の原則、バーバル・ノンバーバルにおける伝達の方法について学修する。			事前:友人・知人との関係について考えてみる。 事後:他人とのより良き関係の構築について考えてみる。			(各講義) 講義50分 ワークショップ20分 ディスカッション20分								
9・10	サービス産業とホスピタリティ:サービス産業におけるホスピタリティ産業のあり方を理解する。			事前:ホスピタリティとはについて復習しておく。 事後:産業におけるホスピタリティとサービスの違いについて体系的にまとめる。			(各講義) 講義70分 ディスカッション20分								
11	顧客満足(CS)と従業員満足(ES):顧客満足度及び従業員満足度との関係を理解する。			事前:満足度とは何かの考察 事後:CSとESとの関係について体系的にまとめる。			(各講義) 講義70分 ディスカッション20分								
12・13	リッツカールトンとクレド:①リッツカールトンにおけるクレドと運営理念及びクレドの内容と意義について理解する。			事前:リッツカールトンについて調査する。 事後:クレドの意義についてまとめる。			(各講義) 講義70分 ディスカッション20分								
14	スターバックスと権限:スターバックスにおけるマニュアルと従業員の権限に基づくホスピタリティのあり方について学修する。			事前:スターバックスについて調査する。 事後:マニュアルのあり方についてまとめる。			(各講義) 講義70分 ディスカッション20分								
15	ホスピタリティ・コーチング:ホスピタリティ教育の指導の仕方を理解する。			事前:授業全体の復習 事後:サービス産業の特徴についての体系的まとめ			講義70分 ディスカッション20分								
教本:	参考文献: なし														
成績評価の方法、評価基準:	参考点50%、定期試験50%等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	本授業は、単に学修するだけでなく、自身を改めて見直しより良き対人関係を生み出すための実践でもある。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)					科目分類	基礎科目					
担当教員	夏目 千恵子											
履修条件	前提科目	なし										
	その他	なし										
授業概要:	「ホスピタリティとは何なのか」「ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたら良いのか」「ホスピタリティと社会」といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察します。											
授業目標:	(1) ホスピタリティを理解する。 (2) ホスピタリティ・マインドを持つ人間として成長する。 以上2点を本科目の目標とします。											
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得											
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養									
	○		○									
授業計画・事前学習・事後学習、形式												
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態					
1	オリエンテーション					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
2	ホスピタリティ関連諸概念の整理					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
3	ホスピタリティの現実					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
4	ホスピタリティの歴史					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
5	ホスピタリティのサービス					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
6	サービス概念					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
7	サービスの特性					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
8	日本社会とホスピタリティ					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
9	企業とホスピタリティ					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
10	コミュニケーションとホスピタリティ					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
11	マネジメントとホスピタリティ					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
12	ホスピタリティ産業の現場(1) 旅行運輸					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
13	ホスピタリティ産業の現場(2) 宿泊飲食					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
14	ホスピタリティ産業の現場(3) 医療介護					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
15	まとめ					事前: テキストの通読 事後: テキストの理解	講義40分 グループワーク50分					
教本:	参考文献: 神田義英・神田孝治・吉田道代『ホスピタリティ入門』新曜社 なし											
成績評価の方法、評価基準:	定期試験(60%)、レポートおよび小テスト(20%)、平常点(20%)。到達目標が達成できたかを評価する。											
学生へのアドバイス:	単に学修するだけではなく、自身をあらためて見直し、より良き対人関係を構築できるよう実践していきましょう。											
オフィスアワー:	月曜日の昼休み											

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	ホテル経営論 I (Hotel Management Theory I)						科目分類	専門科目												
担当教員	小林 信次																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
観光産業の概況（観光産業の動向と宿泊産業）、ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類・ホテルの組織）、ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な慣習・ホスピタリティ・関連知識・ホテル英語の基本）、宿泊部門（宿泊商品の特性・組織と業務役割）、宿泊部門の実務（宿泊約款と利用規則・施設設備・宿泊商品・主な担当者の業務）について学習する。																				
授業目標：																				
1. ホテルについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようとする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○						○														
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。				事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分、質疑応答 30分													
2	世界の観光動向、世界の宿泊産業（欧州・米国・アジア）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P 2～7） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
3	日本の観光動向、日本の宿泊産業について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P 8～15） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
4	ホテル産業の概要（ホテルの定義・ホテル産業の分類）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P16～20） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
5	ホテル産業の概要（ホテルの組織）、ホテル経営の推進力について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P21～22） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
6	ホテル経営者として必要な基本知識（国際的な慣習・ホスピタリティ）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P23～28） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
7	ホテル経営者として必要な基本知識（関連団体・関連法規他）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P28～31） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
8	ホテル英語の基本、ホテルの経営形態について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P32～53） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
9	宿泊商品の特性（制約要件・市場要件・収益性）、組織と業務役割について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P58～61） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
10	宿泊部門の基本知識（宿泊約款と利用規則）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P62～65） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
11	宿泊部門の基本知識（施設設備・宿泊商品）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P66～73） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
12	宿泊部門の主な担当者の業務（ユニフォーム・サービス係）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P73～76） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
13	宿泊部門の主な担当者の業務（フロント・オフィス係）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P76～79） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
14	宿泊部門の主な担当者の業務（ルームリザーバーション係・アシスタントマネージャー係・コンシェルジュ係・テレフォンオペレーター係）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P79～82） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分													
15	宿泊部門の主な担当者の業務（ハウスキーピング係）半期授業の総括。授業のポイントについて説明し理解度を確認する。				事前：授業の予習（教科書P82～84） 事後：ポイントを整理する		講義 60分、質疑応答 30分													
教本：		参考文献：			必要な資料をその都度配信する。															
成績評価の方法、評価基準：																				
平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
理解できない点や講義内容ないことでも、お気軽に聴いてください。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	ホテル経営論II (Hotel Management Theory II)						科目分類	専門科目									
担当教員	小林 信次																
履修条件	前提科目	なし															
授業概要:																	
ホテル経営論Iに引き続き、ホテル経営の観点から料飲部門、宴会部門、調理部門、マーケティング部門、総務・人事部門、施設管理部門、仕入れ・購買部門、経理・会計部門について学習する。																	
授業目標:																	
1. ホテルについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようとする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。(授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施)																	
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																	
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養										
○							○										
授業計画・事前学習・事後学習・形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態										
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。					事前: シラバスを読んでおく 事後: 次回授業の予習	オリエンテーション 60分、質疑応答 30分										
2	料飲部門の概要 料飲商品の特性(制約要件、立地・施設要件、嗜好・経費面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、レストラン課・飲料課・料飲事務の業務)、基本知識(業種・業態、施設・設備・備品・食材・飲料)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P88~105) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
3	基本知識(メニュー・サービス方法・食品衛生・苦情処理と緊急対応)、主な担当者の業務(マネージャー・グリーター・グリートレス・ウェイター・ウェイトレス・飲料担当者)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P105~121) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
4	宴会部門の概要 宴会商品の特性(制約要件、施設・設備・経営面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、宴会予約課・宴会サービス課、その他)、基本知識(宴会の種類、施設・設備・備品・サービス方法)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P126~138) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
5	基本知識(冠婚葬祭・プロトコール・宴会約款)、主な担当者の業務(ブック・コントローラー・ブライダル・サロン、宴会レセプション係、宴会サービス係、宴会スチュワード係、宴会クローケ係、パンケット・ホステス、宴会バーテンダー、介添え係)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P139~151) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
6	調理部門の概要 調理部門の特性(制約要件、メニュー開発・経費面)、組織と業務役割(組織、役職者・担当者呼称、メインキッチン課・宴会調理課・レストラン調理課・製菓・製パン課)、基本知識(調理の種類と特徴、施設・設備・備品・調理の方法)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P156~169) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
7	基本知識(西洋料理・顧客志向・食品衛生)、主な担当者の業務(ブッチャー係・ソース係・ガルドマンジエ係・ペーストリー係・ベーカリー係・ストーブ係・パントリー係)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P169~182) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
8	マーケティング部門の概要 組織と業務役割(組織、営業企画課・セールス課)、売り上げ予算の作成業務(客室売り上げ・宴会売り上げ)、基本知識(マーケティング戦略・商品化計画)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P186~205) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
9	基本知識(顧客管理、各種マネジメント)、主な担当者の業務(宴会セールス係・宿泊セールス係・婚礼セールス係・広報・宣伝係・企画係・顧客管理係)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P206~214) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
10	総務・人事部門の概要 組織と業務役割(組織、総務業務・人事業務)、基本知識(総務課)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P218~224) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
11	基本知識(人事課)、基本知識(総務部門・人事部門)について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P224~235) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
12	施設管理部門の概要 組織と業務役割(組織、使命と責務・業務)、基本知識(主要設備と付帯設備、省エネとエネルギー管理、ISO活動への取り組みと運用、IT設備・廃棄物処理管理、具体的な省エネ)、関係法令(ビル衛生管理法、省エネ法、電気事業法、建築基準法、消防法、大気汚染防止法、その他)、関係資格について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前: 授業の予習 (教科書P240~256) 事後: 次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										

13	仕入れ・購買部門の概要 組織と業務役割（組織、業務）、基本知識（食品衛生、仕入れ）、主な担当者の業務（仕入れ、出庫、在庫管理、情報収集と管理、商品管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書P260～279) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
14	経理・会計部門の概要 組織と業務役割（組織、経理課、収納課、クレジット課）、基本知識（知っておきたい常識、業務の特徴、収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書P284～300) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分
15	主な担当者の業務（宿泊部門、料飲部門、宴会部門、その他部門の会計実務）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 (教科書P88～300) 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分
教本： 「ホテルビジネス」（日本教育センター） ¥5,000		参考文献： 必要な資料をその都度配信する。	
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト（20%）、定期試験のレポート（65%）、等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 指定の教科書で事前・事後学習してください。理解できない点は授業で質問してください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	ホテルサービス実務 (Practice for Hotel Service)						科目分類	専門科目									
担当教員	小林 信次																
履修条件	前提科目	なし															
授業概要：																	
ホテルの基本的性格、ホテル業の分類、ホテルの経営、組織、ホスピタリティとサービス、顧客満足、従業員満足、品質管理、ホテルの評価、ホテルスタッフのサービストレーニングと評価、ホテルスタッフの基本マナー、接客サービス（宿泊部門、料飲部門、食堂部門、宴会部門、調理部門）、ホテルの付帯サービスについて学習する。																	
授業目標：																	
1. ホテルサービス全般を学び、ホテル運営に関心を持つようとする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）																	
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																	
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養										
○							○										
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態										
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。 ホテルの基本的性格。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習	オリエンテーション 60分、質疑応答 30分										
2	ホテル業の分類 立地による分類（都市、郊外、リゾート）、形態による分類（経営形態、資本形態）、ホテルの経営（基本理念、営業方針、サービスマネジメント）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P1～15） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
3	ホテルの組織（日本のホテル、外国経営のホテル、日本と外国経営の違い、ホテルの構造）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P15～31） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
4	ホスピタリティとサービス（ホスピタリティの原点、サービスの特性、サービスの分類、良いサービス）、顧客満足（特性とサービス）、従業員満足（従業員満足とサービス）、自己啓発、品質管理（品質管理と向上のステップ）、ホテルの評価（お客様の声、評価内容）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P33～48） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
5	ホテルスタッフのサービストレーニング サービスマニュアルの活用（必要性、作成、OJTでの活用）、日本のサービストレーニングについて小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P49～63） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
6	外国経営ホテルのトレーニング、コンピューターシステムの活用について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P63～77） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
7	仕事の評価（日本のホテルの評価制度、外国のホテルの評価制度）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P77～94） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
8	ホテルスタッフの基本マナー（身だしなみ、ユニフォームの自己管理、言葉づかい、表情と動作、電話の応対、職場の規律）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P85～94） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
9	接客サービス 宿泊部門（特色、組織と業務の流れ、フロントオフィスの仕事：宿泊予約、レセプション、インフォメーション、キヤッシャー、アシスタントマネージャー・ナイトマネージャー）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P95～111） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
10	フロントサービスの仕事（ドアマン・ドアガール、ベルマン・ベルガール、クローケ、ゲストリレーションズ・コンシェルジュ）、ハウスキーピングの仕事（客室管理事務所、ハウスキーパー、チェックマーク）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P111～128） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
11	料飲部門（特色と組織）、食堂部門（特色、組織と業務の内容）レストラン・バーの種類、レストラン・バーの仕事（サービスの心得、仕事の流れ、サービスの種類、コスト意識）、フレンチレストランのサービス（従業員の役割、テーブルサービスの種類、仕事の手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P128～147） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										
12	レストランの業務知識（メニュー、料理の分類、酒類の分類、テーブルクロスとナプキン、食器と備品の種類、テーブルセッティング）、バーの業務知識（組織、従業員の役割、バーのサービス、備品、仕事の手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書P147～167） 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、講義 40分、質疑応答 30分										

13	宴会部門（特色と業務の流れ）、宴会予約の仕事（心得、仕事の流れ、業務、主な宴会の種類、婚礼の受注、キャンセルの取り扱い）、宴会サービスの仕事（心得、業務知識、サービスの要領、婚礼サービス、その他の宴会サービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書P167～188) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分		
14	調理部門（特色と業務の流れ）、調理の仕事（料飲調理、宴会調理、仕込み調理、製菓調理、調理事務所、スチュワード）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。	事前：授業の予習 (教科書P188～192) 事後：次回授業の予習	小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分		
15	ホテルの付帯サービス 施設サービス（客室フロアー、その他）、人的サービス（客室内、客室以外）半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：授業の予習 (教科書P193～196) 事後：ポイントを整理する	講義 60分、質疑応答 30分		
教本： 「わかりやすいホテルのサービス実務」（柴田書店 ￥5,000）		参考文献： 必要な資料をその都度配信する。			
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)					科目分類	基礎科目								
担当教員	仲伯維			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考え方とともに展開している。また、救急救命講習を受ける学生が増えてきている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、ボランティア活動の内容や知識が身に付くよう授業を行う。単なる座学の学習に終わらせず、厚木市社会福祉協議会で登録している大学の任意団体「松蔭大学地域ボランティア」の準隊員として、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方をともに考えることを目指す。														
授業目標:	松蔭大学建学精神「知行合一」の理解と地域貢献による自分なりの考え方を持ちながら、具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する</li> <li>②ボランティアの基本的な理念を理解する</li> <li>③ボランティアのいくつかの活動分野について知る</li> <li>④ボランティアを受ける側の考え方とニーズを理解する</li> <li>⑤ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する</li> <li>⑥災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う</li> <li>⑦21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える</li> <li>⑧ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する</li> </ul>														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○○1つ）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td><td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td><td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td><td></td><td>○</td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事）ボランティアの理念を講ずる。			事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む			講義90分								
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの「四原則+ワン」について理解する。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、ディスカッション30分								
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、ディスカッション20分								
4	大学におけるサービスラーニングとボランティア教育			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、ディスカッション30分								
5	ボランティア組織作り：P-G-O-Cトレンド			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、ディスカッション30分								
6	無償ボランティアと有償ボランティア			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義20分、実習50分、ディスカッション20分								
7	地域ボランティア活動：子ども・若者的心に寄り添う社会教育			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義90分								
8	ワークショップ・クロスロード【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義20分、実習50分、ディスカッション20分								
9	被災地での活動報告（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、ディスカッション20分								
10	イギリスにおけるギャッパイイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャッパイイヤー			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、ディスカッション20分								
11	厚木市消防本部と連携、「救急救命講習」を学習（ゲスト）			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義90分								
12	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、ディスカッション20分								
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくは氏の詩。最終レポート指示			事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備			講義50分、ディスカッション40分								
14	ボランティアについて考えたこと、体験活動成果発表（感じたことをノートにまとめ、復習シート配布）、最終レポート指示			事前：発表準備 事後：発表準備			講義20分、発表準備70分								
15	ボランティアレポート提出（ボランティア体験活動報告書）			事前：発表準備 事後：最終レポート準備			講義20分、発表70分								

教本： 資料配布	参考文献： ・ケン・アレン、『ボランティアが変える世界』アルク ・金子郁容、『ボランティアーもうひとつの情報社会』岩波新書								
成績評価の方法、評価基準：									
1. 授業には極力すべて出席すること 2. ボランティア体験活動（課外活動）が要求しないが、15時間以上行った場合には評価の上加点する。 3. 以下の4項目を参考にしながら、各自の自己評価を尊重して評価する。 ただし、ボランティア体験活動についての評価ではなく、ボランティアについて学んだ内容に関して評価する。									
<table> <tr> <td>平常点（実施するミニレポートの内容）：</td><td>30%</td></tr> <tr> <td>ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）</td><td>（ボーナスポイント）</td></tr> <tr> <td>最終レポート（1,200字以上の分量と内容）</td><td>50%</td></tr> <tr> <td>提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）</td><td>20%</td></tr> </table>		平常点（実施するミニレポートの内容）：	30%	ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）	最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%	提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%
平常点（実施するミニレポートの内容）：	30%								
ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容）	（ボーナスポイント）								
最終レポート（1,200字以上の分量と内容）	50%								
提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等）	20%								
学生へのアドバイス：									
授業についての質疑、活動の交流・討論など、ボランティア学習にふさわしい受講生の積極的な授業参加を期待する。									
オフィスアワー：									
初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	マーケティング論 I (Marketing Management I)						科目分類	専門科目										
担当教員	夏目 千恵子																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要 :																		
企業の活動のうち、マーケティングは最も重要な活動の一つです。本科目では「マーケティング」とは何かを学んだ後に、マーケティングを構成する基本用語、理論と事例など、マーケティングの全体像を学んでいきます。																		
授業目標 :																		
(1) マーケティング理論の基本的な考え方や発想方法について理解を深めること。 (2) 身の回りの製品やサービス、興味関心を持った企業の活動などについて分析・考察ができるようになること。 以上2点を本科目の目標とします。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	オリエンテーション マーケティングとは				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
2	マーケティング発想の経営				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
3	マーケティング論の成り立ち				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
4	マーケティングの基本概念				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
5	製品のマネジメント				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
6	価格のマネジメント				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
7	広告のマネジメント				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
8	チャネルのマネジメント				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
9	マーケティング活動(1) 環境分析				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
10	マーケティング活動(2) 計画を立てる				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
11	マーケティング・ミックス(1) プロダクト（商品戦略）				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
12	マーケティング・ミックス(2) プライス（価格戦略）				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
13	マーケティング・ミックス(3) プレイス（流通戦略）				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
14	マーケティング・ミックス(4) プロモーション（コミュニケーション戦略）				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
15	まとめ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
教本 :																		
参考文献 :																		
石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング』中央経済社																		
参考文献 : なし																		
成績評価の方法、評価基準 :																		
定期試験 (60%)、レポートなど (20%)、平常点 (20%)。到達目標が達成できたかを評価する。																		
学生へのアドバイス :																		
マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。																		
オフィスアワー :																		
月曜日の昼休み																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	マーケティング論 I (Marketing Management I)						科目分類	専門科目						
担当教員	宮崎 隆													
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	伝統的なマーケティング理論は、消費者行動論や広告に代表されるコミュニケーション戦略でしたが、近年はEC（エレクトリック・コマース）市場の発展が著しく、消費・流通市場は大きく変わりました。この点にも留意して、マーケティングの基本概念とツールを講義します。事例研究も含みます。													
授業目標:	(1) マーケティング的視座で経済をみる。 (2) 事例研究できること。 PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。													
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○	○													
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態						
1	ガイダンス: 講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。				事前: 用語表の作成 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
2	消費市場: (1) 消費者統計 (2) わが国の消費の特徴 (3) 消費市場の歴史				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
3	市場調査: (1) 市場調査の必要性 (2) 市場調査の概要 (3) 市場調査の手順				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
4	消費者行動: (1) 購買の意思決定の要因 (2) 購買とマーケティング (3) 情報収集				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
5	製品のライフサイクル: (1) ライフサイクルとは (2) 製品の普及と顧客				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
6	製品戦略: (1) 流通業者による商品開発 (2) 製品ミックスと製品政策 (3) 製品政策				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
7	価格戦略: (1) 価格戦略の意味 (2) 価格競争 (3) 新製品と価格 (4) プライシングの重要性				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
8	チャネル戦略: (1) 販売経路の意味 (2) 販売経路の形態 (3) 販売経路戦略の実際				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
9	マーケティング・コミュニケーション 1: (1) 広告の意義 (2) 広告計画 (3) 広告の種類 (4) PR活動とパブリシティ戦略				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
10	マーケティング・コミュニケーション 2: (1) 販売促進活動 (2) 販売員活動 (3) DM、イベント他				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
11	サービス・マーケティング: (1) モノとの違い (2) サービスの評価と価値 (3) 事例研究				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
12	ブランド: (1) ブランドの意味 (2) 歴史とランキング (3) ブランド価値と機能				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
13	eマーケティング: (1) 電子商取引の実際 (2) 市場の動向 (3) SNSの影響 (4) 統計				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
14	SDGsマーケティング: (1) 新時代のマーケティング (2) 企業活動とSDGs (3) 今後の方向性				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
15	本講座のまとめ: 新しいマーケティング				事前: 配布資料の精読。 事後: 講義の要約			講義(60分: PBL含む) 小レポート(30分)						
教本:	参考文献: 恩賜直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019 岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版 有斐閣アルマ 2017													
成績評価の方法、評価基準:	小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	マーケティングは最も身近に接することができる商業活動です。マーケティングの基本概念・理論を身につけて下さい。													
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。													

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅱ (Marketing Management Ⅱ)						科目分類	専門科目										
担当教員	夏目 千恵子																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
「マーケティングⅠ」ではマーケティングの基礎を学びました。「マーケティングⅡ」においては、最新の情報を学んでいきます。																		
授業目標：																		
(1) マーケティング理論の基礎知識を習得する。 (2) マーケティング理論が観光ビジネスでどう実践されているのか理解し、把握する。 以上2点を本科目の目標とします。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○						○												
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	オリエンテーション				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
2	サプライチェーンのマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
3	営業のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
4	顧客関係のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
5	ビジネスモデルのマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
6	顧客理解のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
7	ブランド構築のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
8	ブランド組織のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
9	社会責任のマネジメント				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
10	顧客価値、顧客満足とは何か				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
11	価値連鎖（バリューチェーン）分析				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
12	ブランドを理解する グローバルブランドについて				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
13	マーケティングの成功要因				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
14	グローバル市場としての日本				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
15	まとめ				事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解			講義40分 グループワーク50分										
教本：																		
参考文献：																		
石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング』中央経済社																		
なし																		
成績評価の方法、評価基準：																		
定期試験(60%)、レポート等(20%)、平常点(20%)。到達目標が達成できたかを評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日にお伝えします。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	マーケティング論 II (Marketing Management II)						科目分類	専門科目														
担当教員	宮崎 隆																					
履修条件	前提科目	マーケティング論 I を履修していることが望ましい。																				
授業概要 :																						
マーケティング論 I では基本的なマーケティング理論を講義しました。本講座はマーケティングの応用編としてケーススタディを中心に論じます。実際の成功例と失敗例をあげますが、通常取り上げられない分野もピックアップします。また、近年急拡大している e コマースを取り上げます。																						
授業目標 :																						
(1) マーケティングの実際を知る。 (2) 情報入手の方法を知る。																						
PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。																						
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要なに○1つ)																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)	授業形態															
1	ガイダンス : 講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。					事前 : 用語表の作成 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
2	音楽マーケティング 1 J.Pops : (1) ジャンル (2) わが国の音楽市場の変遷と展開 (3) J.ポップスの成長と衰退					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
3	音楽マーケティング 2 Pops : (1) ジャンル (2) 世界の音楽 (3) どのようにしてヒットしたか (4) Pops と J. Pops					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
4	クルマのマーケティング 1 : (1) 耐久消費財のマーケティングとは (2) 製品開発としてのクルマ・マーケティング					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
5	クルマのマーケティング 2 : (1) 100年に1度のマーケティング(EV) (2) 巨額投資製品のマーケティング					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
6	メディアとマーケティング 1 : (1) 活字媒体の変遷 (2) 各種メディアの動向					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
7	メディアとマーケティング 2 : (1) ラジオ (2) テレビ (3) インターネット					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
8	健康マーケティング : 現代人は健康と安全にコストをかけるといわれているが。					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
9	E-コマース 1 : (1) アマゾンと楽天 (2) IoT とは何か (3) 市場の動向と今後					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
10	E-コマース 1 : (1) e-コマースにおける SNS 活用 (2) SNS の実態と広告					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
11	環境マーケティングとSDGs : (1) 地球規模のマーケティング (2) エコマーケティング					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
12	行政とマーケティング : (1) 私たちの税金は有効に使われているのか (2) 行政は公共マーケティングを活用しているか					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
13	政治とマーケティング : マーケティングのツールで政治(家)をとらえてみる。彼らは何を重要視しているのか?					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
14	ヒット商品列伝 : ヒット商品はマーケティングの成功なのか、それとも製品・サービスの成功なのか?					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
15	衰退した商品例—オーディオ : 3大趣味といわれたオーディオはなぜ衰退したか。					事前 : 配布資料の精読。 事後 : 講義の要約	講義(60分 : PBL 含む) 小レポート(30分)															
教本 :		参考文献 :																				
恩賀直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019		岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版 (有斐閣アルマ) 2017																				
成績評価の方法、評価基準 :																						
小テスト・レポート等 (20%)、定期試験またはレポート (80%) 等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス :																						
実際の商品・サービスがどのようなマーケティング手法で市場に出たかを知ることができます。																						
オフィスアワー :																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	マルチメディアA(画像)(Multimedia A)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	秋廣 誠																									
履修条件	前提科目 その他	情報基礎 PCの操作スキルを習得していない場合、必ず上記科目から履修すること																								
<b>授業概要 :</b> デジタル画像は、現代のデジタルコンテンツの重要な基本要素である。デジタル画像に関する知識と編集技術について、PC／スマートフォンを利用した作品制作を通して学修する。																										
<b>授業目標 :</b> 1. デジタル画像に関する用語を理解し、説明ができる。 2. 視覚表現の意図に沿って、計画的にデジタル画像を編集することができる。																										
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○	○																									
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	シラバスの説明／デジタル画像の分類を理解する				事前：シラバスを読む 事後：デジタル画像の分類を調べる			講義																		
2	カメラの仕組みと撮影環境を理解する デジタル画像の仕組みの概要を理解する				事前：撮影機材の準備 事後：授業内で指示する			講義60分 演習30分																		
3	講義内容を踏まえ撮影を実践する				事前：撮影の計画を練る 事後：画像データを整理する			講義60分 演習30分																		
4	画像編集ソフトの基本操作について理解する				事前：画像編集ソフトを準備する 事後：画像編集ソフトについて復習する			講義60分 演習30分																		
5	画像にレタッチを施す／画像ファイルの管理方法を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：レタッチについて復習する			講義60分 演習30分																		
6	画像編集におけるレイヤーの概念、使用方法とその応用を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：レイヤーについて復習する			講義60分 演習30分																		
7	画像編集におけるフィルターの使用方法とその応用を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：フィルターについて復習する			講義60分 演習30分																		
8	これまでの演習を踏まえコラージュを作成する／作例を鑑賞する				事前：コラージュについて調べる 事後：コラージュを作成する			講義60分 演習30分																		
9	デジタル画像の階調と色彩が、どのように保存されるかを理解する／色空間の概念を理解する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：階調と色彩の表現について復習する			講義60分 演習30分																		
10	文字の要素による視覚効果を理解する／事例をもとに誘目性について検討する				事前：教材となる画像データを準備する 事後：文字要素と誘目性について復習する			講義60分 演習30分																		
11	画像編集ソフトによる描画方法を理解する／多様な2次元グラフィックツールについて説明する				事前：グラフィックツールについて調べる 事後：ポスターの構成要素について調べる			講義60分 演習30分																		
12	表現の意図に沿ってポスターを作成する(企画／計画)				事前：課題制作の準備をする 事後：作品を企画する			講義30分 演習60分																		
13	表現の意図に沿ってポスターを作成する(素材準備)				事前：課題制作の準備をする 事後：課題制作の素材を準備する			講義30分 演習60分																		
14	表現の意図に沿ってポスターを作成する(制作)				事前：課題制作の準備をする 事後：作品を完成させる			講義30分 演習60分																		
15	作品相互レビュー／総括				事前：作品を提出する 事後：ポスターについて理解を深める			講義																		
<b>教本 :</b> 講義内で指示する					<b>参考文献 :</b> 講義内で指示する																					
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業での演習(30%)、小テスト等(30%)、作品制作(40%)で評価する。																										
<b>学生へのアドバイス :</b> 3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。履修希望者が定員を超えた場合、初回授業にて抽選を行う。																										
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	マルチメディアB（映像）(Multimedia B)					科目分類	基礎科目																			
担当教員	秋廣 誠																									
履修条件	前提科目	マルチメディアA（画像）																								
この授業では、マルチメディアA（画像）から、さらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディアA（画像）の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディアA（画像）の授業目標に達していることが望ましい。																										
授業概要：																										
インターネットでの流通を念頭においた、マルチメディア対応の映像を作成するのに必要な知識や手順を理解する。この講義では、主に動画・音声データの処理やアニメーションの作成に関する内容に焦点を当てる。PCを利用して、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。各自が動画作品を制作しインターネット上に公開し、それに関する発表をおこなう。																										
授業目標：																										
動画データやアニメーションの作成に必要な構成要素、技術、手順を説明でき、また、実際に計画的に作成することができる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス／マルチメディアについて理解する				事前：シラバスを読む 事後：配布資料を確認する			講義																		
2	動画撮影の方法、必要な機材と操作方法を学習する				事前：ノートPCの準備をする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
3	動画編集に関する技術を概観する／動画編集ソフトを準備する／タイムラインを理解する				事前：ソフトウェアをインストールする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
4	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する <編集技法>カッティングオンアクションを理解する				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：講義内容を復習する			講義60分 演習30分																		
5	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する <編集技法>カットアウェイ／クロスカットを理解する				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：講義内容を復習する			講義60分 演習30分																		
6	これまでの講義を踏まえ、小作品を制作する				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：小作品を完成させる			講義60分 演習30分																		
7	さまざまな編集技法の事例に触れる				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：各自で編集技法について調べる			講義60分 演習30分																		
8	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する <編集技法>Jカット／Jカットを理解する				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
9	講義を踏まえ、小作品を制作する				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：小作品を完成させる			講義60分 演習30分																		
10	ストップモーションを学習する ピクシレーションを学習する				事前：動画素材を準備する 事後：作品を完成させる			講義60分 演習30分																		
11	プロジェクトマッピングを学ぶ				事前：動画素材を準備する 事後：リアクションペーパーを提出する			講義60分 演習30分																		
12	グループワークにて動画作品を制作する（準備）				事前：グループの企画を共有しておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
13	グループワークにて動画作品を制作する（撮影）				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
14	グループワークにて動画作品を制作する（編集）				事前：利用するノートPCの確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する			講義60分 演習30分																		
15	課題発表を行う				事前：なし 事後：なし			講義60分 演習30分																		
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する																					
成績評価の方法、評価基準： 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	民俗学 (Folklore)					科目分類	専門科目		
担当教員	伊藤 高雄								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:	日本の伝統的に受け継がれた民俗文化の諸相を学び、その生成と展開の様を知ることにより、多面的なものの見方や創造力を身につける。								
授業目標:	民俗文化に関する基礎知識の修得と、民俗学的な思考方法の修得。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	ガイダンス 講義の進め方、民俗学の意義を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
2	柳田國男の民俗学・折口信夫の民俗学を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
3	ことばの民俗学① 忌み詞と言霊信仰を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
4	ことばの民俗学② 唱え言と言い慣わしの民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
5	年中行事の民俗① 春から夏への民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
6	年中行事の民俗② 秋から冬への民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
7	人生の民俗① 誕生と成長の民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
8	人生の民俗② 結婚と死の民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
9	口承文芸の世界① 神話と伝説を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
10	口承文芸の世界② 昔話と世間話を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
11	怪異の民俗① 河童の伝承を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
12	怪異の民俗② 座敷童と山姥の伝承を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
13	祭りの民俗学① 西浦田楽から学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
14	祭りの民俗学② 坂部の冬祭りから学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義と演習
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習			講義
教本:	参考文献: なし。プリント配布。								
	柳田國男全集 折口信夫全集								
成績評価の方法、評価基準:	発表とコメント・カード (50%)、レポート (50%)								
学生へのアドバイス:	予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	民俗学(Folklore)						科目分類	専門科目										
担当教員	小林 克																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
はじめに民俗学者の生涯と研究を軸に、民俗学の学史と理論、民俗学とはどのような学問かを学ぶ。身近な事例から初め、民俗学の多彩な概念を理解し、具体的な調査・研究事例について理解する。日常生活上の民俗についてアンケートや発表を行い、その結果について議論や解説を行う。																		
授業目標:																		
日本民俗学の概要を理解する。 年中行事や人生の様々な儀礼、そして日常生活上の色々な事象について、民俗学的視点から見つめなおせるようになる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。日本民俗学とはどのような学問なのか			事前：自分の食べた正月料理について確認 事後：シラバスの内容確認			講義(60分)、 発表(30分)											
2	日本民俗学の歩み① 柳田国男の生涯と学問。柳田の研究概要を示す。1回のアンケートを発表し、議論			事前：アンケートのまとめと確認 事後：配布資料の内容確認			講義(60分)、 発表・演習(30分)											
3	日本民俗学の歩み② 江戸時代・明治期の調査・研究と南方熊楠、今和次郎、ヨーロッパ民俗学の影響			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)											
4	日本民俗学の歩み③ 様々な民俗学研究。折口信夫、宮本常一の研究。渋沢敬三と民具研究の実践			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)											
5	民俗学の調査・研究法① 重出立証法、比較研究法、民俗地図、民具地図等について			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)											
6	身近な民俗学① 兆し、占い、禁忌(きんき)、呪い(まじない)、時刻、干支など			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 演習(20分)											
7	身近な民俗学② 年中行事。大晦日、正月、節分、七夕、盆等			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 演習(20分)											
8	民俗学の調査・研究法③ 民俗学の主要概念である、ハレ、ケ、ケガレ。常民とサンカ。レポート課題提示			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)											
9	身近な民俗学④ 人生儀礼 出産、成育、結婚、葬送など			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 演習(20分)											
10	民俗学の調査・研究法⑤ 関連諸学との関係。歴史学、考古学、人類学、絵画史、建築史等々			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)											
11	伊豆諸島の生活文化。実際の調査・研究事例から、具体的に伊豆諸島の生活文化の歴史と実態			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)											
12	民具研究の方法と実践、成果 発火具、照明具等の民具研究の成果について。レポート課題提示			事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認			講義(60分)、 レポート作成(30分)											
13	学生の発表 ① 学生が課題について調べて、発表する			事前：発表の準備とそのレポート作成 事後：レポートの完成			演習(90分)											
14	学生の発表 ② 学生が課題について調べて、発表する			事前：発表の準備とそのレポート作成 事後：レポートの完成			演習(90分)											
15	まとめ 授業全体の振り返りと、質問受け付け、議論			事前：全ての配布資料確認 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)											
教本:																		
参考文献: 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。																		
参考文献: その都度提示する。																		
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(40%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス: 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。																		
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習																	
授業科目(英文)	メディア・アート論 (Topics in Media Art)					科目分類	専門科目																			
担当教員	秋廣 誠																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 教室によってはノートパソコンが必要である																										
授業概要:																										
メディア・アートの位置づけについては諸説あるが、ソフトウェア技術やロボティクス、センサー等を用いた芸術であると説明できる。メディア・アートをめぐる状況や起源、最新の作品事例を学習した上で、実際にソフトウェアを用いて、簡単なメディア・アート作品の制作を試みる。																										
授業目標:																										
1. メディア・アートの起源や潮流を説明できる。 2. 映像／音響メディアの情報を操作し、芸術表現へ応用する方法を説明できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	導入					事前：シラバスを読む 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
2	作品事例の研究 a 視覚的な体験の解像度。時間の密度。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
3	作品事例の研究 b 光の体験。暗闇の体験。プロジェクションマッピング。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
4	作品事例の研究 c 音を視覚する、あるいはその逆、の試み					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
5	作品事例の研究 d 霧、雲、空気、光 メディアの遍在性					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
6	作品事例の研究 e 日常風景やニュース映像を切り貼りするだけで、文明批判を想起してしまうのはなぜか					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
7	作品事例の研究 f ロボティクス。身体とテクノロジー。テクノロジーを以てテクノロジーを批判する。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
8	ジョナサン・クレーリーによるテクスト：傍観者、観察、注意					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
9	TouchDesigner (TD) の導入					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
10	ジェネレーティブ・プログラミングによる作品事例の紹介					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
11	TDの基本的な概念とインターフェースの紹介。オーディオ情報の操作。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
12	ビジュアルエフェクトの基礎。画像／映像情報の操作。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
13	オーディオ解析情報と画像／映像情報との連携。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
14	TDとPythonによる、メディア情報へのハック（介入）					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分																		
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分																		
教本： 適宜、参考資料を配布。					参考文献： 授業中に適宜指示する。																					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 3304以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義				
授業科目(英文)	メディア産業論 (Media Industries)					科目分類	専門科目						
担当教員	高橋 敏哉			○	○	○	○	○	○				
履修条件	前提科目	なし											
	その他	なし											
授業概要:	メディアとは何でしょうか? メディアの定義や機能を明らかにし、技術と社会の相互関係に着目しながら、社会学的視点から歴史を辿ります。また個別のメディア(新聞、ラジオ、テレビ、インターネット、音楽等)の産業としての位置づけ、また、そのことから生まれる社会での諸問題についても学んでいきます。												
授業目標:	①メディアとは何かを知る。 ②社会学の視点から各メディアの特徴を知る。												
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)												
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
○	○												
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式												
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態					
1	オリエンテーション:「メディア」とは何か?					事前:各自の関心を高める 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
2	「メディア」をなぜ学ぶのか?:3つのメディアの伝えるもの					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
3	メディアの誕生?と印刷					事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習		講義45分 対話式45分					
4	新聞①:新聞の歴史とメディアとしての特質					事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習		講義45分 対話式45分					
5	新聞②:新聞産業					事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習		講義45分 対話式45分					
6	ラジオ①:ラジオの歴史とメディアとしての特質					事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習		講義45分 対話式45分					
7	ラジオ②:ラジオ産業					事前:教科書指定個所学習 事後:指摘箇所確認		講義45分 対話式45分					
8	テレビ①:テレビの歴史とメディアとしての特質					事前:教科書指定個所学習 事後:講義復習		講義45分 対話式45分					
9	テレビ②:テレビ産業					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
10	音楽・広告・映画①:個々のメディアとしての特質					事前:教科書指定個所学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
11	音楽・広告・映画②:個々の産業					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
12	インターネット、SNS①:メディアとしての特質					事前:教科書指定個所学習 事後:指摘箇所確認		講義45分 対話式45分					
13	インターネット、SNS②:ネット産業					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
14	メディアの社会への影響					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
15	まとめ					事前:配布教材学習 事後:配布教材学習		講義45分 対話式45分					
教本:	参考文献:												
講義時に指定します。必ず購入して下さい。													
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)で総合評価する。												
学生へのアドバイス:	教科書は講義で使います。購入しない場合は、受講を控えてください(参考文献は特に購入は要りませんが、やや雑学的ですが知識が増えます)。その他、講義での配布物、視聴覚教材等で進行します。												
オフィスアワー:	初回講義日に伝えます。												

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	メディア情報論 (Media and Social Informatics)					科目分類	専門科目																			
担当教員	鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目	情報処理概論																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
本講義では、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット、ソーシャルメディアなど、様々なメディアを対象に、その歴史、役割、表現方法、影響力、倫理、法規制などについて学びます。具体的な事例を分析しながら、メディアと社会、メディアと人間の関わりについて多角的に考察し、情報社会の未来を展望します。																										
授業目標：																										
1. メディアに関する基礎知識を習得し、現代社会におけるメディアの役割と影響力を理解する。 2. メディアアリテラシーを涵養し、情報を批判的に読み解き、適切に活用する能力を身につける。 3. メディアと社会、メディアと人間の関わりについて多角的に考察し、情報社会の未来を展望する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	ガイダンス（メディアとは何か、生成AIを学ぶ）					事前：なし 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
2	「メディアの変遷」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①2-19） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
3	「ニュースという知」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①20-38） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
4	「ラジオとプロパガンダ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①39-54） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
5	「マスマディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①55-72） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
6	「インターネット」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①73-91） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
7	「オーディエンス」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①92-107） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
8	「メディア・コミュニケーション」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①108-123） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
9	「デジタルメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①124-141） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
10	「メディア調査分析の基礎」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①142-159） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
11	「音楽メディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①160-177） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
12	「メディアにおけるジェンダー」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①178-193） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
13	「労働から見たメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①194-211） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
14	「地域とメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①212-231） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
15	「メディアの最先端技術と倫理」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①232-246） 事後：議論レポートの作成	講義45分 ディスカッション45分																			
教本：		参考文献：																								
『入門メディア社会学』（ミネルヴァ書房）		『情報メディア論』（講談社） 『ソーシャル・メディア論』（青弓社） 『メディア社会論』（有斐閣ストゥディア） 『教養としてのAI講義』（日経BP）																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
各回のディスカッションをテーマに従って行います。必ず事前にテキストを精読の上、各自考えた上で参加するようにしてください。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	モバイルアプリ作成 (Creation of Mobile Applications)						科目分類	専門科目													
担当教員	金 宰郁																				
履修条件	前提科目	情報処理概論			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> 情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウィルス、電子透かし等の脅威やOS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。																					
<b>授業目標 :</b> 情報セキュリティの必要性を理解し、最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 5px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態														
1	ガイダンス、授業科目名であるモバイルアプリ作成について説明する。			事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる			講義 80分、ディスカッション 10分														
2	情報セキュリティの考え方、技術の歴史について説明し、その後、課題を行う。			事前：セキュリティ歴史を調べる 事後：セキュリティ歴史を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
3	情報セキュリティ基礎であるセキュリティの考え方(3要素、時系列、及び管理方法)を学ぶ。その後、課題を行う。			事前：セキュリティ要素を調べる 事後：セキュリティ要素を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
4	情報セキュリティに対するインシデントの具体例、企業の対策状況を学ぶ。			事前：インシデントを調べる 事後：セキュリティのインシデントを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
5	情報セキュリティにおける脅威(不正アクセス、ウィルス感染等)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：セキュリティ脅威を調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
6	情報セキュリティ技術の基礎となる暗号技術について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：暗号技術について調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
7	電子署名、電子認証、及びPKIの方式、運用について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：PKIについて調べる 事後：電子署名、PKIを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
8	情報セキュリティ対策(ファイアウォール機能、種類、構成など)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：ファイアウォールを調べる 事後：ファイアウォールを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
9	情報セキュリティ対策(有効なウィルス対策、SPAMメール対策、及び認証の強化など)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：SPAMメールを調べる 事後：セキュリティ対策を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
10	侵入技術、DOS攻撃、実装攻撃について現状と技術について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：DOS攻撃を調べる 事後：セキュリティ攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
11	安全なネットワーク構成の考え方について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：DMZについて調べる 事後：安全なネットワーク構成を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
12	情報セキュリティポリシー策定(必要性、概念等)について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：セキュリティポリシーを調べる 事後：セキュリティポリシーを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
13	情報セキュリティの国際標準と法規について学ぶ。その後、課題を行う。			事前：情報セキュリティの国際標準を調べる 事後：情報セキュリティの国際標準を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分														
14	クラウドコンピューティングの考え方と情報セキュリティリスクについて学ぶ。その後、課題を行う。			事前：セキュリティリスクを調べる 事後：セキュリティリスクを纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分														
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。			事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分														
<b>教本 :</b> 情報セキュリティ初級公式問題集 全日本情報学習振興協会																					
<b>参考文献 :</b> 情報セキュリティ初級認定試験関連の参考書																					
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 <b>授業参加状況等</b> (40%)、課題 (30%)、発表 (30%) 等で総合評価する。																					
<b>学生へのアドバイス :</b> 初回の授業に必ず出席すること。情報セキュリティの基礎知識(定義)を事前に調べること。																					
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	幼児・児童期の心理 (Psychology of Early Childhood)					科目分類	専門科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
幼児期から児童期の発達を、認知・情動・社会性を中心に学ぶ。事例を通して、子どもの行動や心の動きを多面的に理解し、人の成長を支える視点を養う。																										
授業目標:																										
1. 幼児・児童期の発達段階や特徴を理解し、子どもの行動や心理を多面的に捉え、説明できるようになる。 2. 発達理論を通して、人の成長や個性の多様性について理解を深め、将来の対人関係や子どもと関わる場面で役立てられるようになる。 3. 子どもが直面する課題や社会的な影響について、心理学的な視点から考え、自分の意見を持ち、議論できるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	「幼児・児童期」の意義					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分																		
2	発達段階と発達課題（ピアジェの認知発達理論）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分																		
3	幼児期の情動発達と愛着形成（ボウルビィの愛着理論）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分																		
4	児童期の対人関係と社会性の発達（エリクソンの心理社会的発達理論）					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分																		
5	言語発達と遊びの重要性					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分																		
6	発達を支える家族・養育環境の影響					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分																		
7	発達障害（ASD、ADHD、LD）の理解と援助					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分																		
8	仲間関係の発達					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分																		
9	メディアと子どもの発達					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分																		
10	学習と動機づけの心理学（パンデューラの社会的学習理論）					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分																		
11	子どもの自己概念の発達					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分																		
12	文化・地域性と子どもの発達観					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分																		
13	児童期のストレスとレジリエンス（回復力）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分																		
14	事例検討					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分																		
15	幼児・児童期の心理のまとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分																		
教本:		参考文献: 「セラピストのための子どもの発達ガイドブック」 誠信書房 ¥3,200																								
使用しない。適宜、参考資料を配布。																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
ディスカッションを通して、自分の考えを深め、他の学生の視点にも触れてください。子どもの行動や成長を理解するヒントがたくさんあります。積極的に授業に参加することを期待しています。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	幼児理解 (Understanding Early Childhood Children)			科目分類			専門科目											
担当教員	大沢 裕																	
履修条件	前提科目	なし																
	その他	なし																
授業概要:	幼児を理解するためには、まず子どもとはどのような存在かを把握し、幼児期の特徴、幼児の生活の傾向を知る必要がある。本講義では、幼児期の特徴とはどのようなものかを理解させ、一人ひとりの子どもの心情・意欲・態度、個と集団とのとらえ方のポイントを教授する。保育現場に立つ学生たちが幼児の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、発達の課題に即した指導が可能となるよう支援する。具体的な事例を示しつつ、幼児の発達観を習得させ、共感的理解の基礎を培い、実践力を培うよう指導する。授業形態は、講義とグループ討論が主体となる。																	
授業目標:	幼児理解のための基礎理論を習得し、具体的な事例を通じて、幼児の発達段階のとらえ方、幼児の遊びや生活、幼児の興味・関心、個と集団を捉える見方を育成する。共感的理解の基礎を培う。																	
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得																	
	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○											
○思考力・判断力・表現力の育成																		
○学びに向かう力・人間性の涵養																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態											
1	幼児教育のための基本的な幼児理解の必要性…カリキュラムマネージメントの視点から教科書の構造とのつながりが理解できるよう質問時間をとって発言を促す。				事前:授業用ファイル準備 事後:教科書を必ず購入		講義90分											
2	3歳児の発達と理解1—初めての集団生活・安定から自己発揮まで—3歳児の特徴について発表する。				事前:教科書を読んでおく 事後:プリントに記入		講義90分											
3	3歳児の発達と理解2—依存から自立へ・自分でできる喜びー3歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。				事前:教科書復習 事後:プリント記入		講義90分											
4	具体的な発達の捉え方・3歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持ちの理解を深め、レポートにまとめる。				事前:プリント記入 事後:レポート完成		講義60分・ グループ協議30分											
5	4歳児の発達と理解1—友達への関心の広がりを視点としてー4歳児の特徴について調べてきたことを発表する。				事前:教科書を読んでおく 事後:プリント記入		講義90分											
6	4歳児の発達と理解2—体験の広がりを視点としてー4歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。				事前:教科書復習 事後:プリント記入		講義90分											
7	幼児の活動に対する肯定的な見方の意義・4歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持と教師の援助についてレポートにまとめる。				事前:プリント記入 事後:レポート完成		講義60分・ グループ協議30分											
8	5歳児の発達と理解1—協同性の育ちに向けてー5歳児の特徴について調べてきたことを発表する。				事前:教科書を読んでおく 事後:プリント記入		講義90分											
9	5歳児の発達と理解2—小学校への接続期の理解に向けてー5歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。				事前:教科書復習 事後:プリント記入		講義90分											
10	個と集団の関係の捉え方・5歳児のビデオ視聴後、グループ協議し、幼児の気持ちと教師の援助のあり方についてレポートにまとめる。				事前:プリント記入 事後:レポート完成		講義・グループ協議											
11	幼児の遊び・生活の意味の理解 実際の幼稚園の保育参観を通して気付いたことを発表する。				事前:なし 事後:振り返りをする		保育参観90分											
12	教師の姿勢と子どもに対する共感的理解・実践例のビデオ視聴し、幼児の気持ちの理解と教師の援助のあり方について考察しレポートにまとめる。				事前:なし 事後:レポート完成		保育参観90分											
13	特別に支援を必要とする子どもの理解・実践例から具体的な環境構成と援助について考える。 環境の工夫からできる支援についてグループで協議し発表する。				事前:実践例を読んでおく 事後:振り返り		講義60分・ グループ協議30分											
14	保育の改善の視点ー保育記録・評価方法の実際ー様々な保育の記録があることを知る。				事前:教科書を読んでおく 事後:プリントの振り返り		講義90分											
15	保護者の心情理解と基礎的な対応の方法について考える。 教科書の事例から考えを出し合う。				事前:教科書を読んでおく 事後:振り返りをする		講義90分											
教本:	参考文献: 大沢裕『新版 幼児理解』—藝社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』(最新版)																	
成績評価の方法、評価基準:	保育者として持つべき子ども観を修得し、発達段階に即して子どもを把握することができるか、子どもの生活の特徴、個と集団の関係から子どもを理解する基礎力を習得したかを、グループ討議の成果、複数回のレポート内容等、総合的に評価し、平常点も加味する。																	
学生へのアドバイス:	3、4、5歳児の発達段階の違いを学べるよう実際の園でのボランティアなどもおすすめします。																	
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	ヨーロッパ観光論 (European Tourism Studies)					科目分類	専門科目								
担当教員	安本 達式														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要: ヨーロッパの観光の特性を歴史・文化的背景、観光資源の特性から考察する。															
授業目標: 1. ヨーロッパ観光の特性を理解する。 2. アジアなど他地域との差異を理解する。															
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態								
1	ガイダンス・ヨーロッパ観光論で学ぶことを説明する。			事前:なし 事後:ヨーロッパ観光概観			講義60分、質疑20分、感想コメント記入10分								
2	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパにおける観光の起りと発達について解説する。その内容について小テストを行う。			事前:観光史の下調べ 事後:歴史的背景の考察			講義80分、小テスト10分								
3	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパのツーリズム形態の変遷について解説する。その内容について小テストを行う。			事前:観光文化の下調べ 事後:文化的背景の考察			講義80分、小テスト10分								
4	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】UNWTOの世界観光指標より、ヨーロッパへの国際観光到達数、観光収入などについて解説する。その内容について小テストを行う。			事前:データの下調べ 事後:ヨーロッパ観光の規模の考察			講義80分、小テスト10分								
5	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの観光資源の特性の全体像を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:ヨーロッパの風土下調べ 事後:ヨーロッパの観光資源考察			講義80分、小テスト10分								
6	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの世界遺産にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:世界遺産の下調べ 事後:歴史的資源の特性考察			講義80分、小テスト10分								
7	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの建築様式にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:西洋建築様式の下調べ 事後:文化的資源の特性考察			講義80分、小テスト10分								
8	【ヨーロッパの観光資源の特性】スペイン・パラドールにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:パラドールの下調べ 事後:宿泊施設の特性考察			講義80分、小テスト10分								
9	【ヨーロッパの観光資源の特性】イタリア・アルベルゴ・ディフューザにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:アルベルゴ・ディフューザの下調べ 事後:滞在型観光の特性考察			講義80分、小テスト10分								
10	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパのワインツーリズムにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:ワインツーリズムの下調べ 事後:食と観光の特性考察			講義80分、小テスト10分								
11	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの風土と観光資源の特性について、グループワーク等により考察する。			事前:ヨーロッパ観光資源特性のまとめ 事後:風土と資源の特性考察			講義60分、グループワーク30分								
12	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパ観光の最新の取り組みを事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:ヨーロッパの国の観光施策の下調べ 事後:観光地形成事例の考察			講義80分、小テスト10分								
13	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパの観光都市政策の下調べ			事前:ヨーロッパの観光都市政策の下調べ 事後:観光地形成事例の考察			講義80分、小テスト10分								
14	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパ観光の最新の取り組みを事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。			事前:ヨーロッパ観光トピック下調べ 事後:これからの観光の考察			講義80分、小テスト10分								
15	まとめ・ヨーロッパ観光の最新事情およびこれまでの学習内容をもとに、今後考えていくべきことをまとめる。			事前:配布プリントの再読 事後:今後の探求方向の考察			講義70分、小レポート20分								
教本: 各回プリント配布			参考文献: 適宜紹介												
成績評価の方法、評価基準: 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)等で総合評価する。															
学生へのアドバイス: 観光の背景となる歴史や文化の違いに着目し、ヨーロッパの観光の魅力を考えてください。															
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。															

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究A (European Studies A)					科目分類	専門科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
ヨーロッパの文化について書かれたテクストを読み考えます。また、毎回英国の歴史・文化に焦点を当てたワークシートを配布しますので、その穴埋め作業をしながら、各項目の要約を完成します。																										
授業目標:																										
ヨーロッパへの理解を深めることが目標です。テクストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	Introduction to Europe				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
2	Europe: 1. In the Beginning, 2. A Continent of Differences 3. Light in Europe				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
3	Europe: 4. The Classical Tradition 5. The Christian Tradition				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
4	Italy: 1. A World of Yesterday and Tomorrow 2. Rome				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
5	Italy: 3. The Land of Art				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
6	Italy: 4. Life Italian-Style				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
7	France: 1. The Land of Many Loves 2. A Metting Place for Many People				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
8	France: 3. Empires and Revolution 4. The Land of Love				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
9	France: 5. The French and the Rest of the World				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
10	Spain: 1. A Land of Surprises 2. The Moors Arrive from Africa				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
11	Spain: 3. 1492; Birth of an Empire 4. The "Fire" of Spain 5. Neighbors on the Peninsula				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
12	The British Isles: 1. Tea Time 2. Two Cousins and an Empire 3. England: A Land of Living Tradition				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
13	The British Isles: 4. Wales and Scotland 5. Ireland: The Emerald Isle				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
14	The Benelux Countries: 1. Hans Brinker: Symbol of Holland 2. Holland: A land of Many Surprises				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
15	The Benelux Countries: 3. Holland and her Neighbors 4. The Benelux Countries				事前：テクスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
教本:		参考文献: Understanding Europe Joan McConnell 金星堂 ¥1,900(税別) ISBN978-4-7647-0587-6																								
『ヨーロッパとは何か』増田四郎 岩波文庫 ¥700(税別)																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況(40%)、定期試験(60%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
絵画を見て視覚的に西欧の文化をとらえたり、また音楽を聴いたりすることも、西欧のものの見方を楽しく理解し興味を持つ動機付けになると思います。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究B (European Studies B)					科目分類	専門科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
ヨーロッパの文化について書かれたテキストを読み考えます。また、毎回英国の歴史・文化に焦点を当てたワークシートを配布しますので、その穴埋め作業をしながら、各項目の要約を完成します。																										
授業目標:																										
ヨーロッパへの理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	Introduction to Englishes: 「英語はどこの国のことば？」				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
2	Scandinavia: 1. The Northmen: Fury and Adventure 2. Denmark 3. Norway				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
3	Scandinavia: 4. Sweden 5. Lapland and Finland				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
4	Switzerland and Austria: 1. The Cathedrals of Nature				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
5	Switzerland and Austria: 2. The Land of Mountain Liberty 3. Switzerland and the World				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
6	Switzerland and Austria: 4. Similar Yet Different				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
7	Germany: 1. The Germans against the Romans 2. Quest for an Empire 3. German People				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
8	Germany: 4. The German Gifts to the World 5. 2000 Years Later				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
9	Eastern Europe: 1. The U.S.S.				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
10	Eastern Europe: 2. Seven New Nations in Eastern Europe 3. Poland				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
11	Eastern Europe: 4. Hungary and Czechoslovakia 5. Rumania and Bulgaria 6. Yugoslavia and Albania				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
12	Greece and Turkey: 1. Voices of Glory 2. Greek Culture				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
13	Greece and Turkey: 3. Greece Moves East 4. Turkey Looks West 5. Back to the Beginning				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
14	European Unification: 1. A Cold Wind Turns Warm 2. Memoires of Imperial Glory				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
15	European Unification: 3. Citizens of the World				事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分																			
教本:		参考文献: 『ヨーロッパとは何か』増田四郎 岩波文庫 ¥700(税別)																								
Understanding Europe Joan McConnell 金星堂 ¥1,900(税別) ISBN978-4-7647-0587-6																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況(40%)、定期試験(60%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
ハンドアウトはできるだけ前もって配布するようにしますので、目を通してよくわからないところに印をつけて授業に臨んでもらえれば、と思います。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	吉田松陰論 (The Philosophy of Yoshida Shoin)					科目分類	基礎科目								
担当教員	増田 裕彦			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰は、わずか三〇歳でこの世を去った。しかし、松下村塾において維新の芽を育て、多くの志士を世に送り出し、短くとも多くのことを成した松陰の生涯から、「知行合一」とは何か、「教育」とは何かを思考するとともに、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。														
授業目標:	吉田松陰の教育について理解し、松下村塾から輩出した志士や明治期の指導者を確認し、幕末の歴史を振り返ります。														
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>◎</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		◎
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○		◎													
授業計画・事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態								
1	ガイダンス 松蔭大学の建学精神と理念 「知行合一」 ■松陰が教えてくれること。 ■指導者の輩出					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
2	毛利氏と厚木のかかわり あまり知られていない毛利氏の始祖と厚木のかかわりについて紹介します					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
3	生い立ちと修業時代 山鹿流兵学師範杉家と吉田家 六歳で吉田家を継ぎ山鹿流兵学を習う。 ■松陰の誕生と藩校への出仕について					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
4	脱藩と密航 武士の一諾を貫くことによって脱藩、そして密航に至るまでをふりかえる。 ■遊学と脱藩 西洋兵学、軍学、海外情勢を知る					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
5	獄中教育から生まれた『講孟余話』野山獄によって教育への覚醒。 そして「松下村塾」へ					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
6	「松下村塾」誕生～理念と教育 ① ■松下村塾の人の育て方 ■「知行合一」の教え ■個性を伸ばす					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
7	「松下村塾」誕生～理念と教育 ② ■「師弟同行」の教育 ■志が最も大切 ■学問のめざすものは					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
8	松下村塾の「四天王」久坂玄瑞・高杉晋作・吉田稔麿・入江九一 玄瑞と文 独孤な玄瑞と松陰の妹の婚姻					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
9	安政の大獄 大老井伊直弼による幕府の立て直しと反幕府勢力への打撃について					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
10	老中暗殺計画と「草莽崛起」 無勅許の日米修好条約から諫幕から倒幕へ、そして老中間部詮勝暗殺を計画。					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
11	幕府奉行を震撼させた自白 取り調べ内容と幕府は掌握していなかった計画					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
12	門下生への遺書としての『留魂録』読み解くための松陰の一生をおさらい					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
13	松陰の名言 20					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
14	維新に活躍した門下生たち ①伊藤博文 ②山形有朋 ④横取素彦 友人 桂小五郎(木戸孝允)					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
15	近代日本への変革と松陰の思想とまとめ					事前:なし 事後:なし	講義 90分								
教本:	参考文献: プリント及び『看護師のための松陰流人材育成術』長谷川勤著・日本医療企画 ¥1,650 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著・NHK出版 『留魂録』古川薰著・講談社学術文庫														
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。	授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	リスク心理学 (Psychology of Risk Perception of Human Behavior)			科目分類			専門科目								
担当教員	深澤 伸幸														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
新聞やテレビ等のマスメディアでは、大地震の発生のリスクや金融リスク等が日々報じられ、自然環境や社会・政治場面、あるいは企業組織が内在するリスクから、人間一人一人が行う判断過程や行動面に対しても「リスク」という言葉が用いられている。本授業では、各個人が行う判断過程や行動を起こす際に生じる「リスク」を取り上げ、その構造を考える。授業形式は、講義を主体とするが、随時、討議や実習を含んで「分かる授業」を目指す。															
授業目標:															
①「リスク」に関する定義や考え方が理解できる。②リスクに対する主観的な評価・見積もり(risk perception)の仕組みが理解できる。③リスクに対する認知から、リスク軽減やリスク回避の仕組みが理解できるまでを、到達目標とする。															
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)															
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
○		○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態							
1	オリエンテーション(評価方法と学び方)を行う。				事前:シラバスを読むこと 事後:シラバスの確認			講義 70分、ディスカッション 20分							
2	社会現象として生じるリスクとは何か、リスクの種類を学び理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
3	組織が抱えるリスク、すなわち組織過誤の事例を基に企業組織に潜在するリスクを理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突(対人関係がもたらすリスク)を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性とは何かを学び理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法(自己評価法と他者評価法)を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されているactive safety、passive safetyの定義と方法を理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
9	連続作業の下で生じる「注意一不注意」のあり方を学び、我々が行う注意行動に潜むリスクを理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
10	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
11	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
12	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
13	連続作業の下で生じる生理的な変動要因を、サーダイアソリズムに連動する大脳覚醒水準の低下が事故を引き起こすリスク要因であることを理解する。加えて、履修生各自が体験した失敗事例を記述し、レポートとして提出する(宿題)。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前:予習に取り組む 事後:授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分							
15	まとめ・全体を振り返る				事前:すべてのテーマを整理・確認する 事後:全体を復習する			講義 70分、ディスカッション 20分							

教本：	参考文献：
授業内で指示	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の1／3を超える場合には、受験しても評価しないので注意すること。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

り

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	旅行会社経営論 I (Travel Business Management I)					科目分類	専門科目												
担当教員	大井 功																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要:	映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索する。																		
授業目標:	旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)																			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養														
○	○																		
授業計画・事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態												
1	オリエンテーション					事前:なし 事後:配布プリントを読返す	講義 90分												
2	旅行業の成り立ち(I): 近代旅行業、業界勢力図、業界トレンドなど考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
3	旅行業の成り立ち(II): 旅行業法、企画旅行と手配旅行の違いを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
4	旅行業の成り立ち(III): 旅行企画、ソリューション営業、イベント・コンベンションなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
5	旅行業の成り立ち(IV): 旅行業のやりがい、転職・独立、職種などについて考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
6	旅行業界がわかる(I): 国内・海外旅行市場、個人旅行、団体旅行、訪日外国人旅行、ネット販売などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
7	旅行業界がわかる(II): パッケージ旅行、格安航空券、多角化経営、業界概略などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
8	旅行業界がわかる(III): 専門特化型旅行社、ネット旅行社、楽天トラベル、HISなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
9	旅行業界がわかる(IV): クルーズ、ロングステイ、海外旅行先ランキングなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
10	旅行業界がわかる(V): ロケ地巡り、海外ウエディング、スポーツ観戦、バリアフリーなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
11	旅行業界がわかる(VI): シニアツアー、新コンセプト旅行、チャーター便、インターネット直販などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
12	旅行業界がわかる(VII): バーシャルカウンター、ダイナミックパッケージ、エクスペディア、グローバル観光戦略などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
13	クラブツーリズムの経営(I): 旅の通販、添乗の活用などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
14	クラブツーリズムの経営(II): 同社のデータマーケティング、旅の友、ミッション経営、企業の社会貢献などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
15	星野リゾート研究: ホテル、旅館の経営立て直しのための戦略を研究し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す	講義 50分、 映像 20分、討議 20分												
教本:	参考文献: プリントを配布する。																		
	廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税																		
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(授業参画度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等																			
学生へのアドバイス: 楽しく学ばなければ観光は学べない。																			
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	旅行会社経営論 II (Travel Business Management II)					科目分類	専門科目																			
担当教員	大井 功																									
履修条件	前提科目	旅行業論 I を同時履修か、過去に履修したことがある。																								
その他																										
授業概要:																										
映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索するために討議する。																										
授業目標:																										
旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	旅行企画の方法(I): 海外旅行の未来戦略、観光立国、ツアープランナー、脱価格競争などを考察し、討議する。					事前:なし 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
2	旅行企画の方法(II): 情報収集、現地調査、SIT、政府観光局との共働などを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
3	旅行企画の方法(III): パッケージツアーの割り方、理性と感情に訴える旅行パンフレットの作り方などを考え発表する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
4	旅行企画の方法(IV): 顧客満足、広報活動、ツアコン、ツアーバーゲンなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
5	旅行企画の方法(V): 日本人の英語、観光局との共働、コミュニティ・ツーリズム、サステナブル・ツーリズムなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
6	訪日外国人ビジネス: 日本のインバウンド、観光立国、クールジャパン、ゴールデンルートなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
7	ビジネスモデル(I): メディア販売、航空のグローバルアライアンスなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
8	ビジネスモデル(II): JTBの世界戦略を考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
9	ビジネスモデル(III): 店頭販売における低価格販売、付加価値創造、経験価値マーケティングなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
10	ビジネスモデル(IV): メディカル・ツーリズム、まちづくりなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
11	ビジネスモデル(V): ホテル、テーマパーク、癒しブームなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
12	カジノ運営: インテグレイテッド・リゾート、カジノ解禁のメリット・デメリットを考え、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
13	イベント&コンベンション(I): 国際会議と博覧会、ショーオーガナイザー、博覧会プロデューサーなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
14	イベント&コンベンション(II): MICE市場、PCO、イベント・オーガナイザーなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
15	旅行業の課題: 市場の変化、成熟社会、マスツーリズムなどを考察し、討議する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを読返す		講義50分、 映像20分、討議20分																		
教本: プリントを配布する。		参考文献: 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税																								
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。																										
平常点(授業参画度、小テスト等)(40%)、定期試験(60%)等																										
学生へのアドバイス:																										
楽しく学ばなければ観光は学べない。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	旅行業務基礎 I (Travel Business Basics I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	大井 功																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>解説し、過去の問題を解きながら理解を深める。</li> <li>観光のしくみを学び、自力で調査する能力を身につける。</li> </ul>																										
授業目標:																										
毎年9月に行われる国家試験「国内旅行業務取扱管理者試験」合格基準点の取れるレベルの知識と理解力を持つことを目指す。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：なし		講義 90分																			
2	旅行業法を理解し、グループで問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
3	「日本の祭り」の特徴を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
4	旅行業約款を理解し、グループで問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
5	「日本の伝統工芸品」の特徴を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
6	運送・宿泊約款を理解し、グループで問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
7	「ラムサール条約」を理解し、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
8	鉄道の運賃規則を理解し、問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
9	「日本の世界遺産」を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
10	JR運賃・料金を理解し、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
11	「日本の文学作品」を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
12	宿泊・フェリー・バスの規則を理解し、問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
13	「陶磁器・漆器」を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
14	国内航空の規則を理解し、問題を解く				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
15	「郷土料理・特産品」を知り、理解度をチェックする				事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分																			
教本：					参考文献： 授業時に随時紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(60%)、平常点(40%)で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 復習を行うこと、欠席をしないことを希望します。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	旅行業務基礎II (Travel Business Basics II)					科目分類	専門科目													
担当教員	大井 功																			
履修条件	前提科目	なし			その他															
授業概要:	解説し、過去の問題を解きながら理解を深める。																			
授業目標:	「総合旅行業務取扱管理者試験」の「海外旅行実務」を取り上げ、国家試験の合格を目指す。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養															
○					○															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態													
1	オリエンテーション アメリカ・カナダの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：なし	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
2	国際航空運賃 旅券法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
3	出入国法令と実務1 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
4	出入国法令と実務2 入管法・検疫法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
5	出入国法令と実務3 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
6	海外旅行実務1 通関に関する規則を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
7	海外観光地理1 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
8	海外旅行実務2 出入国手続きを知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
9	海外観光地理2 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
10	海外旅行実務3 時差の計算方法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
11	海外観光地理3 中東アフリカの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
12	海外旅行実務4 国際航空運賃の規則を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
13	海外観光地理4 中南米・豪州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
14	海外旅行実務5 観光英語の基礎をマスターし、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
15	まとめ 世界の食を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読	講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分													
教本:	参考文献: 講義時にプリントを配布する。 授業時に随時紹介する。																			
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験 (60%)、平常点 (40%) で総合評価する。																				
学生へのアドバイス: 復習を行うこと、欠席をしないことを希望します。																				
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																				

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	旅行業論 I (Travel Industry I)						科目分類	専門科目														
担当教員	大井 功																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。																						
授業目標：																						
旅行業経営と商品特性を理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	オリエンテーション				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 90分														
2	旅行業概観： 旅行業の歴史や旅行業の意義や機能などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
3	旅行業とは： 旅行業法上の旅行業や旅行業の現状などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
4	旅行市場： 国内旅行・海外旅行・訪日外国人の市場規模、旅行会社の課題などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
5	旅行業経営： 日本の旅行業の経営特質や問題点などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
6	販売戦略： 旅行業の商品とその販売方法や店舗政策などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
7	商品部門別業務： 国内旅行、海外旅行の部門別業務内容などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
8	販売形態： 店頭販売、団体営業、メディア販売などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
9	主要市場における営業活動(I)： パッケージツアー、教育旅行、業務旅行、観光旅行などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
10	主要市場における営業活動(II)： イベント・コンベンション、海外ウェディング・マーケットなどを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
11	業務別にみた営業内容： ホールセラー、リテラー、ツアーオペレーターなどの営業を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
12	旅行業のマーケティング： 旅行業のマーケティングの特徴を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
13	旅行業関連法令： 旅行業法の変遷、旅行業約款などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
14	ニューツーリズムとは： エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光などを理解し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
15	観光政策と観光： 観光行政、観光立国宣言、観光基本法などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義 50分、 映像 20分、討議 20分														
教本：		参考文献： 1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ¥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税																				
プリントを配布する。																						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）(40%)、定期試験 (60%) 等																						
学生へのアドバイス： 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	旅行業論 II (Travel Industry II)						科目分類	専門科目														
担当教員	大井 功																					
履修条件	前提科目	旅行業論 I を同時履修か、過去に履修したことがある。						その他														
授業概要：																						
映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。																						
授業目標：																						
旅行業経営と商品特性を理解する。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	旅行業界を取り巻く環境(I)： LCCのビジネス・モデル、アウトバウンドとインバウンドの状況などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
2	旅行業界を取り巻く環境(II)： 旅行商品の特性や流通の仕組みなどを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
3	旅行業界を取り巻く環境(III)： 旅の3要素、旅行商品の特性、旅行会社の機能などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
4	旅行業界を取り巻く環境(IV)： 旅行業の現状、旅行会社の経営状況などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
5	旅行業界を取り巻く環境(V)： ホールセラー会社、インターネット販売などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
6	売れる旅行商品(I)： 旅行商品の7つの構成要素とその組み合わせ方法などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
7	売れる旅行商品(II)： シーズンとオフの戦略、顧客価値経営、価格競争、チャーター便などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
8	聖地巡礼： 世界遺産からアニメの舞台まで本物に出会い体験する。旅行形態を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
9	旅行業の将来： 海外旅行マーケティングの変遷、ビジネス・モデルの変化、MICE市場などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
10	国際ホテル利用法： 国際ホテル利用のための、英語表現法を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
11	旅行の法律： 独占禁止法、景品表示法、白夜事件などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
12	プライダル産業： 人気のウェディングや関連産業などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
13	ディズニーランドのCS： 強さの秘密、新しいアトラクションの建設など、感動の経営を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
14	リゾート開発と観光文化： 国際リゾート開発の狙いと課題を考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
15	旅行業の課題と展望： 市場の変化、クラブツーリズムの経営などを考察し、討議する。				事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す			講義50分、 映像20分、討議20分														
教本：		参考文献：																				
プリントを配布する。		1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ¥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																						
平常点（授業参画度、小テスト等）(40%)、定期試験(60%)等																						
学生へのアドバイス：																						
旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	臨床心理学 (Clinical Psychology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	その他	なし																								
授業概要:	本講義では、様々な精神障害、心理療法、心理アセスメントについて、概論を学ぶ。講義内では、適宜事例や社会的事象を紹介する。																									
授業目標:	心の問題について理解し、支援の仕方の基本を習得する。そして事故や他者の心への気づきを深めることを目標とする。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																						
○	○																									
授業計画・事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	オリエンテーション			事前：シラバスの確認 事後：授業の見通しをたてる			講義 40分、 グループワーク 50分																			
2	精神障害①うつ			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
3	精神障害②不安障害			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
4	精神障害③統合失調症			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
5	精神障害④人格障害			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
6	精神障害⑤発達障害			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
7	心理療法①パーソン・センタード心理療法			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
8	心理療法②精神分析的心理療法			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
9	心理療法③認知行動療法			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
10	心理療法④家族療法			事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
11	心理アセスメント①行動観察			事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
12	心理アセスメント②心理検査			事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
13	事例論文を読む			事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
14	事例検討			事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分																			
15	まとめ			事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義																			
教本:	参考文献: 資料を配布する。 授業中に、適宜紹介する。																									
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。																									
学生へのアドバイス:	授業には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。																									
オフィスアワー:	初回授業日に伝える。																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	倫理学 (Ethics)					科目分類	基礎科目								
担当教員	金澤 秀嗣														
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要:	人権の更なる拡充が叫ばれる今日、個人の〈自由〉が、既成のモラルや法と対立する局面が現れている。そもそも我々はなぜ〈規範〉を遵守する義務を負うのか。また〈規範〉には、時代や文化の差異を超えた内実が認められうるのであろうか。														
授業目標:	上述した問題関心のもと、本講では〈自由と規範〉をテーマに掲げ、倫理学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
	○	○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態								
1	自由と規範 概論：自然法論の系譜を辿り、各論で展開される人間・国家観を俯瞰する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
2	神的自然法論① 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
3	神的自然法論② アウグスティヌスとトマス・アクィナスの自然法概念					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
4	契約説的自然法論 アトム的個人の権利と国家権力① ホップズ：〈リヴァイアサン〉はなぜ抵抗権を認めないのか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
5	契約説的自然法論 アトム的個人の権利と国家権力② ロック、ルソー：市民的不服従の論理					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
6	カント理論哲学 認識の枠組： 〈世界〉はいかに在るか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
7	カント実践哲学 德論と法論： 〈自己〉と〈他者〉はいかに在るべきか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
8	ヘーゲル〈人倫〉の学① 「自然法論文」における近代自然法論批判 1					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
9	ヘーゲル〈人倫〉の学② 「自然法論文」における近代自然法論批判 2					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
10	ヘーゲル〈人倫〉の学③ 「自然法論文」における共同体論：〈真無限〉の立場					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
11	ヘーゲル〈人倫〉の学④ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
12	ヘーゲル〈人倫〉の学⑤ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈闘争〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
13	ヘーゲル〈人倫〉の学⑥ 『精神現象学』における相互承認論：〈主人と奴隸の弁証法〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
14	ヘーゲル〈人倫〉の学⑦ 論理学と『法哲学綱要』の視座					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90 分								
15	ヘーゲル〈人倫〉の学⑧ 〈民族精神〉と〈世界精神〉：〈世界法廷〉としての世界史					事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。	講義 90 分								
教本：	参考文献： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）														
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。															
学生へのアドバイス： 曜日や時限の都合（例：「空きコマだった」という理由）だけで履修すると、単位を修得できず、後悔することもあります。履修に際しては、哲学・倫理学・思想史一般について多少なりとも関心を持っていることが求められます。															
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。															

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	歴史考古学 (Historical Archeology)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小林 克																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
考古学の一分野である歴史考古学は、古代以降の歴史研究を、文献史学(古文書学)とともに探求していく学問である。最初に歴史学との関係や、考古学研究としての方法、目的、成果を説明する。その上で、世界各地の歴史考古学研究の状況を講義し、次に日本列島における歴史考古学の現状と成果を、古代・中世・近世・近現代と事例を示して学んでいく。																										
授業目標:																										
考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について				事前:高校の日本史の教科書を読んでおく。 事後:配布資料の内容確認			講義(70分)、ディスカッション(20分)																		
2	考古学研究と歴史考古学研究。文献史研究との関係を説明する				事前:古文書学について調べる。 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
3	歴史考古学と関連諸学。民俗学、美術史、建築史等との関係を説明し物質文化研究を理解する				事前:例示した関連諸学について調べる。 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
4	世界各地の歴史考古学。ヨーロッパの古典考古学と中世以降の都市考古学。アメリカや世界各地の大航海時代以降の歴史考古学の概要				事前:ギリシャ・ローマ時代について確認 米国の歴史の概要を調べる 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
5	日本の古代の歴史考古学。中国大陸、朝鮮半島との関連からの年代決定と国内の文献史料の利用				事前:弥生、古墳、飛鳥時代について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
6	平安時代の歴史考古学。都市、寺院跡、集落の発掘から分かることと文献史料の関係				事前:平安時代について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
7	中世考古学(1) 都市と城の発掘調査と出土資料から分かる生活文化				事前:鎌倉・室町・戦国時代について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
8	中世考古学(2) 歴史考古学的研究により判明した戦国時代のリアリティー				事前:南北朝時代について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
9	近世考古学(1) 近世考古学史と陶磁器・土器研究。関連諸学との連携で分かってきたこと				事前:江戸時代の年代等概要について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
10	近世考古学(2) 上水道、大小便の処理など都市機能の整備と住生活について				事前:江戸時代の人々の暮らしを考える。 事後:配布資料の内容確認			講義(90分)																		
11	近世考古学(3) 江戸の食文化について。出土資料と絵画資料、文献史料を交えて解説				事前:江戸時代の酒や食物について調べる。 事後:配布資料の内容確認			講義(70分)、ディスカッション(20分)																		
12	近世考古学(4) 各地の遺跡の発掘調査からわかった江戸と各地の城下町、農村の関係				事前:江戸時代の富士山噴火や地震を確認。 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
13	歴史考古学からみた16世紀~18世紀の世界、東アジア世界の状況				事前:東アジアの地理について確認。 事後:配布資料の内容確認			講義(70分)、小レポート作成(20分)																		
14	近・現代考古学 近・現代考古学の成果と意義。汐留遺跡、高輪堤壙、戦跡遺跡。産業考古学				事前:明治~昭和の概要について確認 事後:配布資料の内容確認			講義(80分)、小テスト(10分)																		
15	まとめ。授業全体の振り返りと議論				事前:毎回配布資料を全て確認しておく。 事後:配布資料の内容確認			講義(45分)、ディスカッション(45分)																		
教本:					参考文献:																					
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布。					講義ごとに示す。																					
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等(20%)、小テスト、レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。																										
学生へのアドバイス:																										
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	レストラン経営論 I (Restaurant Management Theory I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	小林 信次																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
レストラン業界の現状と今後の方向性を考え、レストラン開業までに必要なマネジメント（基本構想～基本計画～実施計画～着工・竣工）について学習する。																										
授業目標:																										
1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようとする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。				事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分 質疑応答 30分																			
2	レストラン業界の現状（外食産業における位置づけ、動向と業態特性）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P12～17） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
3	レストランの経営形態とその特徴について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P18～22） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
4	レストラン経営の問題・課題について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P23～27） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
5	レストラン経営の、これからの方針と今後求められるレストランマネジメントについて小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P28～37） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
6	レストラン開業までのマネジメント（業態別の商品特性、事業計画策定上の留意点、開業までの業務手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P39～45） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
7	基本構想（事業イメージの設定、立地選定、市場調査）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P46～53） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
8	基本構想（理念・コンセプトの設定、基本商品化戦略の設定、資金計画、設計イメージ）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P54～60） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
9	基本計画（メニュー・プランニング、店舗の基本計画およびデザイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P61～65） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
10	事業収支計画について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P66～70） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
11	運営計画について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P70～73） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
12	実施計画（販売促進計画、購買・仕入計画、店舗の実施設計、許認可申請）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P74～79） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
13	着工・竣工（事業収支計画のチェック、メニューのチェック、運営計画のチェック）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P80～82） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
14	着工・竣工（従業員の採用と教育訓練、オープニング計画、竣工検査、開業シミュレーション、オープン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P82～88） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分																			
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。				事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する		講義 60分 質疑応答 30分																			
教本：																										
「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ￥2,900） 参考文献： 必要な資料をその都度配信する。																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容ないことでも、お気軽に聴いてください。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅱ (Restaurant Management Theory Ⅱ)						科目分類	専門科目							
担当教員	小林 信次														
履修条件	前提科目	なし													
その他	なし														
授業概要:	レストラン業界の現状と今後の方針を考え、レストラン開業後のマネジメント（開業前との違い、商品管理、労務管理、施設管理、仕入れ管理・在庫管理、財務管理、販売促進管理、顧客管理、レストランの防災・防犯管理、食中毒、事故、地震、防火管理、盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について学習する。														
授業目標:	1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得														
	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養						○						
○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。				事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習			オリエンテーション 60分 質疑応答 30分							
2	レストラン開業前・開業後のマネジメント活動の違い、「マネジメントサイクル」について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P89～94） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
3	レストランの商品管理（商品管理の留意点、メニュー）、「ABC分析」について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P95～99） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
4	レストランの商品管理（価格、サービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P99～103） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
5	レストランの労務管理（職務分掌、採用：選考・採用、勤務シフト、教育訓練）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P104～110） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
6	レストランの施設管理（店舗、客席、厨房、その他）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P111～114） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
7	レストランの仕入れ管理・在庫管理（留意点、食材、什器・備品、業務委託）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P115～124） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
8	レストランの財務管理（留意点、損益分岐点分析、財務諸表、原価管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P125～134） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
9	レストランの販売促進管理（留意点、セールス、広報、広告・宣伝、イベント・フェア）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P135～139） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
10	レストランの顧客管理（留意点、方法、事例）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P140～143） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
11	第10回授業までの学習課題について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P89～143） 事後：次回授業の予習			講義 40分、質疑応答 30分 チェックシートで振り返る 20分							
12	レストランの防災・防犯・衛生管理（防災・防犯管理、食中毒）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P147～157） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
13	レストランの防災・防犯・衛生管理（事故、地震、防火管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P158～166） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
14	レストランの防災・防犯・衛生管理（盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習（教科書P167～182） 事後：次回授業の予習			小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分							
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。				事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する			講義 60分 質疑応答 30分							
教本:	参考文献： 「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ¥2,900） 必要な資料をその都度配信する。														
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。	平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。														
学生へのアドバイス：	理解できない点や講義内容ないことでも、お気軽に聴いてください。														
オフィスアワー：	初回講義日に伝える。														

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	レストランサービス実務 (Restaurant Service)						科目分類	専門科目							
担当教員	小林 信次														
履修条件	前提科目	なし						その他	なし						
授業概要：															
レストラン（位置づけ、種類、特性）、組織と業務分担、サービスの基本（テーブルクロス、ナプキン、食器類、トーション、サービストレイ、グラスウェア、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク、皿の持ち方・配り・下げ方、サーバー、料理の盛り付け）、レストランサービス（心構え、マナー、テーブルサービス、メニューの知識、サービスの手順、料飲サービスの実際、衛生管理、苦情処理）、バーサービス（手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）、食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン類、ワゴン類他）、レストランの防災・防犯について学習する。															
授業目標：															
1. レストランサービスについての基礎・専門知識を学び、レストランサービスに関心を持つようとする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
○						○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態								
1	オリエンテーション 「自己紹介」「シラバス」「受講の留意点」「成績評価方法と基準点」「オフィスアワー」「挨拶の練習」について説明する。				事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分 質疑応答 30分								
2	レストラン（料飲部門、レストランの位置づけ、種類、業務の特性、基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P2~16) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
3	レストランの組織と業務分担（組織、マネージャー、キャブテン、ウェイター・ウェイトレス、ソムリエ、その他、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P18~30) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
4	サービスの基本（テーブルクロスのかけ方、ナプキンの折り方、食器類のセッティング、トーションのかけ方、サービストレイの持ち方）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P32~47) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
5	サービスの基本（グラスウェアの扱い方、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク・スプーンの取り扱い方、皿の持ち方・配り方・下げ方、サーバーの使い方、料理の盛り付け方、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P48~66) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
6	レストランサービス（サービスとは、サービス時の心構え、サービス時のマナー、テーブルサービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P68~85) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
7	レストランサービス（メニューの知識、サービス業務の手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P86~115) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
8	レストランサービス（料飲サービスの実際 食前酒～赤ワイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P115~127) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
9	レストランサービス（料飲サービスの実際 肉料理～食後酒）衛生管理、苦情処理について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P127~142) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
10	レストランサービス（ルームサービス、コーヒーショップ）バーの基本知識（料飲部門における位置づけ、バー業務の特性、バースタッフの役割と心得）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P143~158) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
11	バーの基本知識（バーサービスの手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P159~175) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
12	食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P178~191) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
13	食器・リネン・備品の知識（他の食器類、リネン類、ワゴン類、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P192~200) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								
14	レストランの防災・防犯（防災・防犯管理の留意点、防災管理、防犯管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。				事前：授業の予習 (教科書P82~88) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分								

15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する	講義 60分 質疑応答 30分
教本：	参考文献： 「レストラン業務の基礎」（日本ホテル教育センター ￥2,600）	必要な資料をその都度配信する。	
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	レポートライティング (Essay Writing)					科目分類	専門科目																			
担当教員	澤田 帆奈美																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
実際に書かれたレポートや小論文を分析し、問題点とその原因・改善の方法を報告し合う。そして、わかりやすく説得力のある文章とは、どこがどう優れているのかを具体的に見出す。さらに、実作を通して効果的な書き方を考え、実践力を向上させる。ループリック・ポートフォリオによる評価を行う。																										
授業目標:																										
1. アカデミックライティングとは何か、その目的・種類を理解し、レポート・論文を作成するための方法を考える。 2. レポート・論文作成の実践力を向上させる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション 「アカデミックライティングとは」について説明する 事前自己評価を行う				事前:シラバスを読んでくる 事後:レポートの文体の確認			講義30分、演習60分																		
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について説明する				事前:疑問点を洗い出す 事後:ノート・資料の整理と復習			講義30分、演習60分																		
3	レポートのテーマを考える				事前:関心のある事柄をあげる 事後:情報を集める			講義30分、演習60分																		
4	レポートの構想を練り、情報を集める一情報の集め方ー				事前:なし 事後:情報を集める			講義30分、演習60分																		
5	情報を整理し、レポートの目標を定める				事前:なし 事後:ノート・資料の整理と復習			講義30分、演習60分																		
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた				事前:アウトラインを考える 事後:レポート第一稿完成			講義30分、演習60分																		
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる				事前:レポートの自己点検 事後:レポートの加筆・修正			講義30分、演習60分																		
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する				事前:なし 事後:ノート・資料の整理と復習			講義30分、演習60分																		
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉				事前:小論文の書き方の確認 事後:小論文の自己点検			講義30分、演習60分																		
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉				事前:小論文の書き方の確認 事後:小論文の自己点検			講義30分、演習60分																		
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉				事前:小論文の書き方の確認 事後:小論文の自己点検			講義30分、演習60分																		
12	レポート発表①を行う				事前:レジメ作成 事後:発表コメントをまとめる			講義30分、演習60分																		
13	レポート発表②を行う				事前:レジメ作成 事後:発表コメントをまとめる			講義30分、演習60分																		
14	レポート発表③を行う				事前:レジメ作成 事後:発表コメントをまとめる			講義30分、演習60分																		
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする				事前:ポートフォリオの整理 事後:ノート・資料の整理と復習			講義30分、演習60分																		
教本: 資料とタスクシートを配付する。		参考文献: 大島弥生他(2014)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]—プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ¥1,728																								
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業内容への参加状況等(20%)、提出物・自己評価表(20%)、実作のレポート・小論文(60%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス: レポート・論文の書き方を学びます。能動的にテーマを見つけ、論理的に文章をまとめる技能を身につけます。																										
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	レポートライティング (Essay Writing)					科目分類	専門科目																			
担当教員	横手 拓治																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他	なし																									
授業概要:																										
大学生のレポート作成から社会人としての文章法について、小論文から新聞・雑誌の文章まで幅広く題材にしながら、ライティングの要領を学修する。各パートでは学修をふまえたうえで、実作・発表を通じて文章技術を向上させることを目指す。																										
授業目標:																										
*小論文・レポートライティングの基礎を身につけ、大学生に必要な執筆の技量をより高める。 *ジャーナルライティングの方法を知るとともに、実践することを通して、社会に出て役に立つ「書く力」を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス、およびライティングスキルとは何かの説明。				事前：既自作レポートの再読 事後：リアベ200字			講義45分、応答45分																		
2	導入としてのリーディングスキル				事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践			講義60分、応答30分																		
3	リーディングスキル補足、レポート・論文のライティングの技法①～レポートを書く前に「情報をどう集めるか」について				事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践			講義60分、応答30分																		
4	レポート・論文のライティングの技法②～書くさいの「形式」について				事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践			講義60分、応答30分																		
5	レポート・論文のライティングの技法③～主張の立て方、筋道を立てて書くための方法について				事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践			講義60分、応答30分																		
6	レポートライティングの実践①～身近なテーマで書く ※レポートライティングの追加講義を行う場合がある				事前：ライティングの準備 事後：授業の復習と自主実践			演習60分、応答30分																		
7	レポートライティングの実践②～学術的・社会的テーマで書く				事前：ライティングの準備 事後：授業の復習と自主実践			演習60分、応答30分																		
8	ジャーナルライティング／テーマ提示および素材収集の説明				事前：記事の文章を読む 事後：授業の復習と自主実践			講義60分、応答30分																		
9	ジャーナルライティング・素材編／学生発表① ＊学生同士、学生と教員の意見交換、教員による講評				事前：素材収集の準備 事後：レビューの整理			演習60分、応答30分																		
10	ジャーナルライティング・素材編／学生発表② ＊学生同士、学生と教員の意見交換、教員による講評				事前：素材収集の準備 事後：レビューの整理			演習60分、応答30分																		
11	調整回（学生発表の進捗による） あるいは動画視聴「ドキュメンタリーから題材を学ぶ」①人間				事前：実践準備あるいは復習 事後：リアベ200字			講義30分、演習60分																		
12	ジャーナルライティング 学生発表第1回 ＊は同じ。				事前：ライティングの準備 事後：レビューの整理			演習60分、応答30分																		
13	ジャーナルライティング 学生発表第2回 ＊は同じ 適宜インタビュー法の解説を交える。				事前：ライティングの準備 事後：レビューの整理			演習60分、応答30分																		
14	調整回（学生発表の進捗による） あるいは動画視聴「ドキュメンタリーから題材を学ぶ」②自然				事前：実践準備あるいは復習 事後：リアベ200字			講義30分、演習60分																		
15	まとめの講義と、授業内課題の実施。				事前：全体の復習 事後：全体再復習と自主実践			講義45分、課題45分																		
教本：		参考文献： レジュメを適宜配布する。																								
授業において適宜示し、またコピーを配布する。																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加・発表状況(40%)、レビューシート(40%)、最終試験(20%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
レポート・論文のライティングからはアカデミック・ライティングの技法が、ジャーナルライティングからは小冊子やweb記事に書く技法が身につく。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	労働法 I (Labor Law I)					科目分類	専門科目											
担当教員	福島 崇宏																	
履修条件	前提科目	法学、私法学など法学関連の基礎科目			その他	なし												
授業概要：																		
これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るために有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業の存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。																		
授業目標：																		
1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	労働法を学ぶに当たって（導入） ・社会の中で労働法がどのように機能しているのかを考える。				事前：教本p.2~6精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
2	労働契約関係の特徴と法規制 ・労働法が社会法と呼ばれる所以を理解する。				事前：教本p.6~18精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
3	労働契約上の権利義務 ・労働契約上の主たる義務について理解を深める。				事前：教本p.20~24精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
4	労働基準法による保護 ・労働者及び使用者の概念について議論を深める。				事前：教本p.24~32精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
5	労働条件の決定 ・労働条件の決定を司る規則について理解を深める。				事前：教本p.32~37精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
6	就業規則 ・就業規則の効力について判例を基に議論を深める。				事前：教本p.38~44精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
7	採用の自由 ・採用の自由の意義と制限について理解を深める。				事前：教本p.46~51精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
8	労働契約の成立・取消し ・採用内定にかかる問題について理解を深める。				事前：教本p.52~59精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
9	人事① ・配転、出向、転籍に関する理解を深める。				事前：教本p.60~68精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
10	人事② ・昇進、昇格、降格などにかかる人事制度を理解する。				事前：教本p.68~79精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
11	賃金① ・賃金に関する法体系の特徴を理解する。				事前：教本p.80~88精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
12	賃金② ・賃金の支払いに関する法的規制について議論を深める。				事前：教本p.89~96精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
13	労働時間・休憩・休日① ・労働時間の基本原則を中心に理解を深める。				事前：教本p.98~107精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
14	労働時間・休憩・休日② ・変形労働時間制など柔軟な労働時間制度について理解する。				事前：教本p.107~116精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分										
15	まとめ ・労働法 I の内容を振り返り、理解を深める。				事前：教本p.2~116再読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分										
教本：																		
参考文献： 小畠史子、緒方桂子、竹内（奥野）寿『労働法〔第4版〕』有斐閣、2023年。授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。																		
成績評価の方法、評価基準：																		
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	労働法Ⅱ (Labor Law II)					科目分類	専門科目												
担当教員	福島 崇宏																		
履修条件	前提科目	労働法Ⅰ			その他	なし													
授業概要：																			
これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るために有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業の存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。																			
授業目標：																			
1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	労働法Ⅱを学ぶに当たって（導入） ・労働法Ⅰで学んだ内容を確認する。				事前：教本p.2~116精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
2	休暇・休業① ・育児・介護休業法の概要を理解する。				事前：教本p.117~127精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
3	休暇・休業② ・休暇・休業取得等を理由とする不利益取扱を検討する。				事前：教本p.128~131精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
4	差別禁止の法ルール ・職場における差別を禁止する法制度について理解を深める。				事前：教本p.132~141精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
5	性別を理由とする差別禁止 ・男女雇用機会均等法の特徴について理解を深める。				事前：教本p.142~149精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
6	安全衛生 ・健康で安全に働くための法制度について理解する。				事前：教本p.150~152精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
7	労働災害 ・労災に関する法制度について理解する。				事前：教本p.153~166精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
8	労働契約の終了① ・合意解約・定年制について理解を深める。				事前：教本p.167~180精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
9	労働契約の終了② ・解雇を巡る規制と救済措置について理解を深める。				事前：教本p.181~186精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
10	非典型雇用① ・パートタイム労働と有期労働契約について検討する。				事前：教本p.187~198精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
11	非典型雇用② ・労働者派遣法の特徴と保護について理解を深める。				事前：教本p.199~209精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
12	労働組合 ・労働法の保護を受ける労働組合の特徴を理解する。				事前：教本p.210~219精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
13	不当労働行為 ・労働組合の運営にかかる労使間争議について理解する。				事前：教本p.220~228精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
14	団体交渉 ・団体交渉の意義、機能、実態について理解する。				事前：教本p.229~245精読 事後：演習問題への解答			講義60分、討論30分											
15	まとめ ・労働法Ⅱの内容を振り返り、理解を深める。				事前：教本p.117~245再読 事後：まとめノートの作成			講義60分、討論30分											
教本：																			
参考文献： 小畠史子、緒方桂子、竹内（奥野）寿『労働法〔第4版〕』有斐閣、2023年。授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。																			
成績評価の方法、評価基準：																			
授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝える。																			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習						
授業科目(英文)	演習I (Seminar I)						科目分類	専門科目							
担当教員	石井 みどり														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
日本の歴史と文化について理解を深めることは、自分自身を見つめなおすことにつながります。 古代から現代まで、さまざまなテーマを選び、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションの実践をします。 文献を読むだけでなく、見たり、聞いたり、味わったりとゼミならではの体験の機会を豊富に作りたいと考えています。															
授業目標:															
4年生の卒業論文に向けて、研究方法の基礎を習得することを目的とします。 適宜、合宿や課外学習を行います。先生やゼミの仲間との交流を通して、社会人に必要不可欠なコミュニケーション能力を習得してください。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）															
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養										
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態							
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：大学生の文化			講義 90分							
2	大学生の文化 ①				事前：大学生の文化 事後：大学生の文化			講義 30分 ディスカッション 60分							
3	大学生の文化 ②				事前：大学生の文化 事後：大学生の文化			プレゼンテーション 90分							
4	和食の歴史と文化 ① 和食と調味料				事前：和食の歴史と文化 事後：和食の歴史と文化			講義 60分 ディスカッション 30分							
5	和食の歴史と文化 ② お茶と和菓子				事前：お茶と和菓子の文化 事後：お茶と和菓子の文化			講義 50分 グループワーク 40分							
6	和食の歴史と文化 ③ 調理実習準備				事前：調理実習準備 事後：調理実習準備			グループワーク 90分							
7	和食の歴史と文化 ④ 調理実習				事前：調理実習準備 事後：なし			グループワーク 90分							
8	歴史散策 ① テーマと企画				事前：歴史散策について 事後：テーマと企画			講義 30分 ディスカッション 60分							
9	歴史散策 ② テーマと企画				事前：テーマと企画 事後：テーマと企画			グループワーク 90分							
10	歴史散策 ③ プrezentation				事前：資料収集と発表準備 事後：資料収集と発表準備			プレゼンテーション 90分							
11	歴史散策 ④ プrezentation				事前：資料収集と発表準備 事後：歴史散策のまとめ			プレゼンテーション 90分							
12	歴史散策 ⑤ 「旅のしおり」制作				事前：歴史散策のまとめ 事後：「旅のしおり」制作			グループワーク 90分							
13	歴史散策 ⑥ 「旅のしおり」制作				事前：「旅のしおり」制作 事後：「旅のしおり」制作			グループワーク 90分							
14	歴史散策 ⑦ 課外学習				事前：課外学習準備 事後：なし			グループワーク 90分							
15	前期のまとめ				事前：なし 事後：なし			講義 60分 ディスカッション 30分							

16	日本の神と神社 ① 「古事記」	事前：「古事記」を読む 事後：「古事記」の神と神社	講義 60分 ディスカッション 30分
17	日本の神と神社 ② 「日本書紀」	事前：「日本書紀」を読む 事後：「日本書紀」の神と神社	講義 60分 ディスカッション 30分
18	日本の神と神社 ③ 鎌倉と江ノ島	事前：鎌倉と江ノ島の歴史 事後：鎌倉と江ノ島の神社	講義 50分 ディスカッション 40分
19	日本の神と神社 ④ プレゼンテーション	事前：資料収集と発表準備 事後：資料収集と発表準備	プレゼンテーション 90分
20	日本の神と神社 ⑤ プレゼンテーション	事前：資料収集と発表準備 事後：資料収集と発表準備	プレゼンテーション 90分
21	日本の神と神社 ⑥ 課外学習	事前：資料収集と発表準備 事後：なし	グループワーク 90分
22	シラバスを作って講義をする ①	事前：シラバスを読む 事後：シラバスを作る	講義 60分 ディスカッション 30分
23	シラバスを作って講義をする ②	事前：シラバスを作る 事後：シラバスを作る	講義 30分 ディスカッション 60分
24	シラバスを作って講義をする ③	事前：講義の準備 事後：講義をする	グループワーク 90分
25	シラバスを作って講義をする ④	事前：講義の準備 事後：講義をする	グループワーク 90分
26	シラバスを作って講義をする ⑤	事前：講義の準備 事後：講義をする	グループワーク 90分
27	自由課題 ①	事前：資料収集と発表準備 事後：資料収集と発表準備	講義 30分 グループワーク 60分
28	自由課題 ②	事前：資料収集と発表準備 事後：資料収集と発表準備	グループワーク 90分
29	自由課題 ③	事前：資料収集と発表準備 事後：自由課題の総括	グループワーク 90分
30	後期のまとめ	事前：通年の総括 事後：卒論テーマへの導入	講義 60分 ディスカッション 30分
教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。		参考文献： 適宜、指示します。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%） 授業中の課題、定期試験（50%） 等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。 自分も相手も大切にする表現方法を学んでください。			
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	上地 一郎																									
履修条件	前提科目	私法学 I / 私法学 II / 物権法 / 人的担保法 / 物的担保法など履修していることが望ましい。																								
	その他	多領域の法律科目も履修してもらいたい。																								
授業概要:	<p>民法財産法は、市民社会の取引の基本法として、私たちの生活の大半をカバーしています。ゼミでは、民法財産法の主要な論点や最近の改正をとりあげ、専門書、論文、判例等を検討することで、民法財産法の基礎知識の修得を図り、法的思考を深めることを目的としています。</p> <p>そのため、参加者には、まず自らの課題探しに始まり、設定した課題について法的な論点の抽出、学説や判例の分析をもとに発表を行ってもらいます。そしてゼミ生の間での積極的なディスカッションを通して自らの課題に対してより深く接近してもらいたいと思います。</p>																									
授業目標:	<p>民法財産法の基本的な知識を習得し、その法的な論点はどのようなものかについて説明し、自らの見解と解決方法を説明できるようになること。</p>																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
	○	○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	オリエンテーション 演習の進行について説明する					事前:なし 事後:配布資料の見直し	演習																			
2	前期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前:テーマを考える 事後:テーマを考える	演習																			
3	リーガル・リポートの方法について解説する					事前:テーマを考える 事後:テーマを考える	演習																			
4~13	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前:各自報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
14	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前:報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
15	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前:報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
16	後期役割分担と共通テーマについて話し合う					事前:テーマを考える 事後:テーマを考える	演習																			
17~27	分担者の報告とディスカッションをおこなう					事前:各自報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
28	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前:報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
29	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう					事前:報告の準備 事後:報告の見直し	演習																			
30	まとめーふりかえり					事前:1年間を振り返る。 事後:次年度に向けた改善	演習																			
教本:	<p>参考文献:</p> <p>『民法研究ハンドブック』(有斐閣) ¥2,972+税      民法判例百選 I [第8版] (有斐閣) ¥2,200      民法判例百選 II [第8版] (有斐閣) ¥2,300+税      『リーガル・リサーチ&amp;リポート』(有斐閣) ¥1,600+税</p>																									
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)等で総合評価する。</p>																									
学生へのアドバイス:	<p>大学4年間は長いようでいて、あっという間に過ぎていきますので、在学中にいろいろなことに取り組んでもらいたいと思います。ゼミもその一環です。</p>																									
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																									

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目																		
担当教員	上野 清貴																									
履修条件	前提科目	簿記論 I 簿記論 II 会計学 I 会計学 II			その他	なし																				
<p>授業概要 :</p> <p>会計学の基本的なテキストを選んで、それを輪読する形式で、演習を進めていく。</p>																										
<p>授業目標 :</p> <p>会計学の多領域の基本的なテーマに関し、それらを理論的および論理的に考えることを目的とする。</p> <p>これにより、会計を論理的に思考する能力を涵養し、会計に対する応用力を身につけることを目的とする。</p>																										
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td colspan="2">思考力・判断力・表現力の育成</td><td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td> <td colspan="2" rowspan="2">○</td><td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養						○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成		学びに向かう力・人間性の涵養																							
○	○																									
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ゼミの概要と方法の説明				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
2	くらしと会計 (1) —会計ってなに—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
3	くらしと会計 (2) —会計ってなに—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
4	会計とキャリア教育 (1) —会計にどんな資格があるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
5	会計とキャリア教育 (2) —会計にどんな資格があるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
6	財務分析 (1) —会計はどう利用するの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
7	財務分析 (2) —会計はどう利用するの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
8	財務諸表 (1) —企業の成績はどうやってみるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
9	財務諸表 (2) —企業の成績はどうやってみるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
10	管理会計 (1) —会計は経営にどう役立つの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
11	管理会計 (2) —会計は経営にどう役立つの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
12	原価計算 (1) —モノがいくらでできたかはどうやって決まるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
13	原価計算 (2) —モノがいくらでできたかはどうやって決まるの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
14	制度会計 (1) —会計制度はどうなっているの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		
15	制度会計 (2) —会計制度はどうなっているの—				事前：なし 事後：なし			演習90分																		

16	財務諸表監査 (1) —財務諸表は信頼できるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
17	財務諸表監査 (2) —財務諸表は信頼できるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
18	税務会計 (1) —会社の税金はいくらになるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
19	税務会計 (2) —会社の税金はいくらになるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
20	国際会計 (1) —グローバル経済における会計ルールってなにー	事前：なし 事後：なし	演習90分
21	国際会計 (2) —グローバル経済における会計ルールってなにー	事前：なし 事後：なし	演習90分
22	環境会計・CSR会計 (1) —持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
23	環境会計・CSR会計 (2) —持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
24	NPO会計 (1) —ボランティア活動にも儲けが必要なのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
25	NPO会計 (2) —ボランティア活動にも儲けが必要なのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
26	公会計 (1) —自治体の会計はどうなっているのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
27	公会計 (2) —自治体の会計はどうなっているのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
28	簿記・会計史 (1) 簿記・会計はどこからやってきたのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
29	簿記・会計史 (2) 簿記・会計はどこからやってきたのー	事前：なし 事後：なし	演習90分
30	総括 —会計を全体的に考えようー	事前：なし 事後：なし	演習90分

教本：

参考文献：

上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学（第3版）』同文館出版

成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等（80%）、レポート・授業中の発言等（20%）で総合評価する。

学生へのアドバイス：

会計学に興味がある学生、また税理士や公認会計士に興味のある学生を求める。

簿記原理および会計学の単位を取っておくこと。

なにごとも意欲のある学生を求める。

オフィスマリー：

初回講義日に伝える。

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目		
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要: 観光産業は、政治、経済、産業、歴史、文化など広範囲の知識を必要とする一方、自分の専門分野を持つことが要求されるので、基本的な知識を身に付けた上で、自分の研究テーマを決め、研究し、プレゼンする能力を身につける。									
授業目標: 1. 得意分野をプレゼンできる。 2. 政治・経済・文化・産業に関心を持つようになる。 3. 課題をみつけ、解決することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
<input type="radio"/>			<input type="radio"/>						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：なし			講義 90 分	
2～6	政治、経済研究とディスカッション				事前：時事問題研究 事後：時事問題理解			講義 30 分、演習 60 分	
7～15	プレゼンテーションとディスカッション				事前：専門分野研究 事後：専門分野理解			講義 30 分、演習 60 分	
16～24	企業・産業研究とディスカッション				事前：時事問題研究 事後：時事問題理解			講義 30 分、演習 60 分	
25～30	プレゼンテーションとディスカッション				事前：専門分野研究 事後：専門分野理解			演習	
教本： 適宜プリントを配布する。		参考文献： 高橋秀夫著「クラブツーリズムの秘密」毎日新聞社 ￥1,800+税							
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（80%）レポート等（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会の動きを自分で考え、議論できるようになろう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担当教員	大沢 裕								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要 :	演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざす。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開する。								
授業目標 :	次年度の卒業論文作成に向け、計画を立て、論文作成の基礎能力を育成し、情報収集活動のノウハウを身につけさせる。研究テーマを見つけさせる。この科目は、次世代育成支援等において地域コミュニティづくりに指導的役割が発揮できる人材を養成する科目である。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○ 1つ）									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○		
							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：なし			講義 90 分	
2	文章読解 I 一（短文を読む）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			講義 90 分	
3	文章読解 II 一（新聞を読む）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
4	文章読解 III 一（報告書を読む）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
5	文章読解 IV 一（小論文を読む）				事前：なし 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
6	卒論テーマ検討 I 一（興味・関心をもとに）				事前：自分の興味の整理 事後：学んだことを文書でまとめる			演習 90 分	
7	卒論テーマ検討 II 一（グループディスカッションを通じて）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化			演習 90 分	
8	プレゼンテーション I 一（自己表現とは）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
9	プレゼンテーション II 一（表現の種類）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
10	プレゼンテーション III 一（論理的展開）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
11	文章の書き方 I 一（日本語の特徴）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
12	文章の書き方 II 一（論文の作法）				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	
13	プレゼンテーション IV 一（論理と感情の視点から）				事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省			演習 90 分	
14	プレゼンテーション V 一（説得力ある表現）				事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省			演習 90 分	
15	前期まとめ				事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理			演習 90 分	

16	夏休みの報告	事前：前回のまとめ 事後：	演習 90 分
17	文章読解Vー(子どもに関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
18	文章読解VIー(保育に関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
19	文章読解VIIー(子どもに関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
20	文章読解VIIIー(保育に関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
21	卒論テーマ検討IIIー(図書館を利用して)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことを文書でまとめる	演習 90 分
22	卒論テーマ検討IVー(ネット環境の情報から)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化	演習 90 分
23	プレゼンテーションVIー(PCソフトの使い方)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
24	プレゼンテーションVIIー(自分の主張をデータにまとめるためには)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
25	プレゼンテーションVIIIー(表現技法)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90 分
26	文章の書き方IIIー(文章の基本構成)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
27	文章の書き方IVー(洗練された文章の表現)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習 90 分
28	プレゼンテーションIXー(いかにして他者を説得できるか)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90 分
29	プレゼンテーションXー(自己表現の仕方を振り返る)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習 90 分
30	まとめ	事前：前回のまとめ 事後：今後の課題の整理	演習 90 分
教本： 『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康著（講談社）		参考文献： 授業時に適宜、指示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 絶えず、子ども・保育・教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																			
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目																				
担当教員	小柏 喜久夫																											
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																						
<p>授業概要：</p> <p>組織論の基礎とリーダーシップの諸理論をを学習したうえで、組織文化の視点からリーダーシップにアプローチしていきます。</p>																												
<p>授業目標：</p> <p>卒業論文研究の基礎づくり。</p>																												
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○														
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																										
○	○																											
<p>授業計画・事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習の概要について説明および質疑・応答</td> <td>事前：シラバスおよび演習ガイダンスの精読 事後：シラバスおよび演習ガイダンスに沿って要点を確認する</td> <td>説明 60分、質疑応答 30分</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>輪読の計画を提示、説明</td> <td>事前：配付資料の精読 事後：計画の確認</td> <td>説明 60分、質疑応答 30分</td> </tr> <tr> <td>3～29</td> <td>文献研究一報告と討議</td> <td>事前：報告、討議の準備 事後：報告・討議のまとめ</td> <td>報告 30分、質疑討議 60分</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>春休みの学習計画、四年次への準備について話し合い</td> <td>事前：卒業論文のテーマを考える 事後：卒業論文の構想を練る</td> <td>質疑討議・助言 90分</td> </tr> </tbody> </table>									授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	演習の概要について説明および質疑・応答	事前：シラバスおよび演習ガイダンスの精読 事後：シラバスおよび演習ガイダンスに沿って要点を確認する	説明 60分、質疑応答 30分	2	輪読の計画を提示、説明	事前：配付資料の精読 事後：計画の確認	説明 60分、質疑応答 30分	3～29	文献研究一報告と討議	事前：報告、討議の準備 事後：報告・討議のまとめ	報告 30分、質疑討議 60分	30	春休みの学習計画、四年次への準備について話し合い	事前：卒業論文のテーマを考える 事後：卒業論文の構想を練る	質疑討議・助言 90分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																									
1	演習の概要について説明および質疑・応答	事前：シラバスおよび演習ガイダンスの精読 事後：シラバスおよび演習ガイダンスに沿って要点を確認する	説明 60分、質疑応答 30分																									
2	輪読の計画を提示、説明	事前：配付資料の精読 事後：計画の確認	説明 60分、質疑応答 30分																									
3～29	文献研究一報告と討議	事前：報告、討議の準備 事後：報告・討議のまとめ	報告 30分、質疑討議 60分																									
30	春休みの学習計画、四年次への準備について話し合い	事前：卒業論文のテーマを考える 事後：卒業論文の構想を練る	質疑討議・助言 90分																									
<p>教本：</p> <p>1. 専門基礎の教本は、ゼミ生と相談のうえ決めます 2. 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房、¥2,400+税</p>																												
<p>参考文献：</p> <p>適宜、紹介します。</p>																												
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。</p> <p>授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価します。</p>																												
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>出席率100%への努力を求めます。</p>																												
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>																												

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目													
担当教員	川口 修																				
履修条件	前提科目	簿記論 I・II、管理会計論			その他	なし															
<p>授業概要 :</p> <p>今年度は、前期に簿記・原価計算、後期に管理会計の考え方や経営管理者の役割について考察する。併せて、レポートの書き方を指導する。</p>																					
<p>授業目標 :</p> <p>管理会計の研究 管理会計の基礎にある原価計算を今年度は理解し、併せて、管理会計の考え方を考察する。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	○	○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	会計全般の理解度確認 1				事前：なし 事後：なし			演習													
2	会計全般の理解度確認 2				事前：指定科目の予習 事後：なし			演習													
3	会計全般の理解度確認 3				事前：指定科目の予習 事後：なし			演習													
4	会計全般の理解度確認 4				事前：指定科目の予習 事後：なし			演習													
5	年間スケジュールの作成				事前：なし 事後：なし			演習													
6	論文の書き方 1				事前：論文の作成法概略 事後：なし			演習													
7	論文の書き方 2				事前：論文の作成法概略 事後：なし			演習													
8	経営管理と会計 1				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
9	経営管理と会計 2				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
10	経営管理と会計 3				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
11	経営管理と会計 4				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
12	経営管理と会計 5				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
13	経営管理と会計 6				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
14	経営管理と会計 7				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													
15	経営管理と会計 8				事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習													

16	経営管理と会計9	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
17	経営管理と会計10	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
18	経営管理と会計11	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
19	経営管理と会計12	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
20	レポート作成1	事前：課題発見と調査 事後：資料収集とまとめ	演習
21	レポート作成2	事前：課題発見と調査 事後：資料収集とまとめ	演習
22	各自の課題を発見することの指導1	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
23	各自の課題を発見することの指導2	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
24	各自の課題を発見することの指導3	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
25	論文作成の指導1	事前：収集資料のまとめ1 事後：収集資料のまとめ1	演習
26	論文作成の指導2	事前：収集資料のまとめ2 事後：収集資料のまとめ2	演習
27	論文作成の指導3	事前：収集資料のまとめ3 事後：収集資料のまとめ3	演習
28	論文作成の指導4	事前：収集資料のまとめ4 事後：収集資料のまとめ4	演習
29	論文作成の指導5	事前：収集資料のまとめ5 事後：収集資料のまとめ5	演習
30	論文作成の指導6	事前：収集資料のまとめ6 事後：収集資料のまとめ6	演習
教本： 適宜指示する。		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 夏休みの合宿でまとめを発表してもらう。また、適宜、レポートを要求して総合評価を行う。			
学生へのアドバイス： 学ぶことと考えることの習慣をつけたい。実際の企業等の見学などを考慮し、楽しく学ぶことを考えている。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習										
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目												
担当教員	金 宰郁																		
履修条件	前提科目	なし			その他	なし													
授業概要:	本演習では、情報セキュリティ、および情報教育支援ソフトを支えるコンピュータ技術について、知見を深め、研究へと繋げる。																		
授業目標:	(1) 情報セキュリティ（暗号・認証・セキュリティ）を支えるコンピュータ技術について、事例を通して、実践的に理解する。 (2) 二次元コード、及び情報教育支援ソフトの利用方法、応用ソフトの作成、比較評価などの研究を行う。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得																		
	○		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
授業計画・事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	ガイダンス、及び情報社会、情報セキュリティの概要について説明する。				事前：シラバスを読む。 事後：配布資料を読む。			講義 40分、ディスカッション 50分											
2	情報セキュリティの必要性、対策について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報セキュリティを調べる。 事後：情報セキュリティ基礎を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
3	暗号の歴史、及び暗号概論について学ぶ。その課題を行う。				事前：暗号について調べる。 事後：暗号を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
4	共通鍵暗号、公開鍵暗号について学ぶ。その課題を行う。				事前：共通鍵暗号、公開鍵暗号について調べる。 事後：共通鍵暗号、公開鍵暗号を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
5	パスワードについて学ぶ。その課題を行う。				事前：パスワードについて調べる。 事後：パスワードを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
6	サイバー犯罪について学ぶ。その課題を行う。				事前：サイバー犯罪について調べる。 事後：サイバー犯罪を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
7	情報通信倫理について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報通信倫理について調べる。 事後：情報通信倫理を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
8	ハッカー倫理について学ぶ。その課題を行う。				事前：ハッカー倫理について調べる。 事後：ハッcker倫理を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
9	情報セキュリティ対策について学ぶ。その課題を行う。				事前：情報セキュリティ対策について調べる。 事後：情報セキュリティ対策を纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
10	PGP (Pretty Good Privacy)について学ぶ。その課題を行う。				事前：PGPについて調べる。 事後：PGPを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
11	電子メールのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：電子メールのセキュリティについて調べる。 事後：電子メールのセキュリティを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
12	WEBシステムのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：WEBシステムのセキュリティについて調べる。 事後：WEBシステムのセキュリティを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											
13	無線LANのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。				事前：無線LANのセキュリティについて調べる。 事後：無線LANのセキュリティを纏める。			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分											

14	クラウドのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。	事前：クラウドのセキュリティについて調べる。 事後：クラウドのセキュリティを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
15	スマートフォンのセキュリティについて学ぶ。その課題を行う。	事前：スマートフォンのセキュリティについて調べる。 事後：スマートフォンのセキュリティを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
16	プライバシー、及びネット詐欺と対策について学ぶ。その課題を行う。	事前：プライバシーについて調べる。 事後：プライバシーを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
17	ウィルスの基礎知識について学ぶ。その課題を行う。	事前：ウィルスについて調べる。 事後：ウィルスなどを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
18	ウィルス感染防止・駆除対策について学ぶ。その課題を行う。	事前：ウィルス感染防止について調べる。 事後：ウィルス感染防止・駆除対策を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
19	認証概論について学ぶ。その課題を行う。	事前：認証概論について調べる。 事後：認証概論を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
20	不正攻撃について学ぶ。その後、課題を行う。	事前：不正攻撃について調べる。 事後：不正攻撃を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
21	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。	事前：デジタル認証技術を調べる。 事後：デジタル認証技術を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
22	メッセージ認証子（MAC）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：MACについて調べる。 事後：MACを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
23	ハッシュ（Hash）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：Hashについて調べる。 事後：Hashを纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
24	デジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
25	多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。	事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
26	生体認証について説明し、映像を見ながらディスカションを行い、その課題を行う。	事前：生体認証について調べる。 事後：生体認証を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
27	情報セキュリティ関連の最新話題について説明する。その課題を行う。	事前：情報セキュリティの最新話題を調べる。 事後：情報セキュリティの最新話題を纏める。	講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分
28	論文検索、及び研究調査を行う。	事前：研究計画を作成する。 事後：研究計画をもとに分析を行う。	講義 20分、ディスカッション 70分
29	研究発表を行う。	事前：発表資料を作成する。 事後：問題点を整理する。	発表 60分、ディスカッション 30分
30	まとめとディスカッションを行う。	事前：新たな課題を設定する。 事後：研究する。	講義 30分、ディスカッション 60分

教本：

(授業内で指示)

参考文献：

(授業内で指示)

成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。

授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）で総合評価する。

学生へのアドバイス：

毎回課題点を明らかにして授業に臨んで下さい。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習											
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目												
担当教員	古賀 学																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要：																				
実践活動などを踏まえて、「現場を知る」、「資料を読み込む」、「アイディアを発想する」、「表現する」、そして「報告する」ことの技術習得を行うとともに、通常授業を基礎とした自身の自主的な研究課題解決を図る。地域での活動内容は地域の受入体制等の状況により決定する。現地活動は授業の振り替えで行うものとする。																				
授業目標：																				
1. 観光地域振興の実践的能力の育成。 2. 提案・まとめ・発表能力の育成及び社会人に向けての自立のための意識向上。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
		○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	演習活動の確認：年間テーマ・スケジュール案の検討を確認する。			事前：演習内容の理解 事後：年間スケジュールの調整			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分													
2～4	自身の研究活動の1年間、2年間の課題の設定及び研究手順の検討を行う。 また、論文の書き方について学修する。			各回修正・調整： 事前：年間テーマ、卒論(レポート)内容の検討 事後：年間テーマ、卒論(レポート)内容のまとめ			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分													
5～10	活動地域の候補は、厚木市、神奈川県、新潟県など。その他自身の研究活動のテーマに応じて地域を選定し実施する。時期は調整の上決定			実施前：資料文献調査等により実施地域の現状を理解 実施後：活動内容等のまとめ及び自身の課題解決を図る			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり													
11・12	前期まとめ作業：現地調査のまとめ、資料文献調査など、前期研究活動のまとめを行う。			事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり													
13～15	前期まとめ：前期の活動実績を踏まえた自身の研究活動のまとめを行う。			事前：中間報告書を作成 事後：後学期に向けた作業検討を行う。			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり													
16・17	課題の整理：前期作業を踏まえて、研究課題、研究方法等の修正及び後学期作業スケジュールの確立を行う。			事前：研究テーマのまとめ 事後：研究テーマのまとめ			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり													
18～25	地域において研究活動を行う。実施地域は自身の研究テーマにより決定する。 地域での活動の実施時期は、現地の状況等により決定する。			実施前：資料文献調査等により実施地域の現状を理解。 実施後：現地活動及びヒヤリング内容等のまとめ及び自身の課題解決を図る			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり													
26～27	前期のまとめを踏まえ、1年間の研究成果のまとめを行う。 現地調査のまとめ、資料文献調査などをを行う。			事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義30分、自主作業60分													
28～30	年間テーマのまとめ作業を行う。地域活動・資料文献調査・意見交換等を踏まえ年間テーマのまとめ作業を行う。			各回：事前：意見交換を踏まえ課題解決・内容の整理 事後：まとめ作業を行う			講義30分、自主作業60分													
教本： なし					参考文献： テーマに応じて指示															
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 レポート・PPT等(50%)、地域活動(50%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス： 研究心をもって自主的に勉強する意欲を持つこと。																				
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																				

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目		
担当教員	佐久間 信夫			履修条件	前提科目	なし	その他	なし	
授業概要:	演習のテーマはCSRですが、プレゼンテーションや討論、共同研究などを通して、コミュニケーション能力や協調性、社会性を養っていきます。卒論テーマは各自が自由に決めます。								
授業目標:	論理的に思考し、それを表現することができる。プレゼンテーションや討論での確な受け答えができる。仲間と協力して調査・研究をし、1つの結論を導くことができる。								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の進め方、成績評価の仕方、レジメ作成方法等				事前：なし 事後：配布資料の確認			講義	
2	企業の社会的責任				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
3	企業の社会的責任論				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
4	企業の社会貢献				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
5	会社機関によるコーポレート・ガバナンス				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
6	外部監視によるコーポレート・ガバナンス				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
7	社会的責任投資（SRI）				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
8	企業倫理の制度化				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
9	アメリカにおける企業倫理				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
10	日本における企業倫理				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
11	コンプライアンス・マネジメント				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
12	企業の環境経営				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
13	環境経営戦略				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
14	排出権取引と環境経営				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	
15	企業と環境ビジネス				事前：レジメ作成 事後：内容の考察・修正			プレゼンテーション	

16	授業の進め方、成績評価の仕方、レポート等	事前：なし 事後：配布資料の確認	講義		
17	卒論テーマの発表	事前：レジメ作成 事後：レジメ修正	プレゼンテーション		
18	卒論テーマの発表	事前：レジメ作成 事後：レジメ修正	プレゼンテーション		
19	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
20	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
21	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
22	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
23	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
24	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
25	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
26	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
27	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
28	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
29	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
30	各自の卒論内容をレジメに基づいて発表	事前：レジメ作成 事後：内容の修正	プレゼンテーション		
教本： 佐久間・田中編著『改訂版CSR経営要論』創成社		参考文献：			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（80%）、小テスト・レポート等（20%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： ゼミの仲間と楽しみながら、社会人としての能力を養ってください。大学生の生活で、最も充実しているのがゼミの活動です。積極的に参加してください。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習					
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目						
担当教員	清水 健太													
履修条件	前提科目	経営学総論の単位を修得していること。			その他	なし								
授業概要 :														

経営学の諸問題の中から、各学生の興味・関心のある内容について学習し、最終的には研究成果を外部の研究発表大会にて発表することを目的にする。また、上記の目標を達成した内容をベースに演習Ⅱにおける卒業論文を執筆する基礎力を身につけることも目的とする。

授業目標 :
・経営学の興味・関心のある領域に関する幅広い知識を身につける。
・経営学の学習を通して、プレゼン方法、情報収集能力、コミュニケーション能力といった就職活動で求められる内容についての能力を養う。
卒業論文の研究テーマを決める。

カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)
知識・技能の習得
思考力・判断力・表現力の育成

学びに向かう力・人間性の涵養

○

○

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態
1	オリエンテーション	事前:なし 事後:なし	講義 90分
2	環境変化と多角化経営	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
3	事業変革と革新	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
4	外部環境への適応と新事業創造	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
5	ミッションとビジョン	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
6	事業領域とコアコンピタンス経営	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
7	課題図書の輪読 ① 要約の作成	事前:なし 事後:講義内容の確認	グループワーク 90分
8	課題図書の輪読 ② パワーポイント資料の作成	事前:なし 事後:講義内容の確認	グループワーク 90分
9	課題図書の輪読 ③ プレゼンテーションの方法	事前:なし 事後:講義内容の確認	グループワーク 90分
10	論理的思考や経営学における考え方	事前:なし 事後:講義内容の確認	グループワーク 90分
11	グループ発表 ①	事前:なし 事後:プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
12	グループ発表 ②	事前:なし 事後:プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
13	グループ発表 ③	事前:なし 事後:プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
14	PPM分析	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分
15	金のなる木の衰退と事業の撤退	事前:なし 事後:講義内容の確認	講義 90分

16	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ①	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
17	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ②	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
18	オープン・イノベーションと大企業の新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
19	企業の資料収集方法	事前：なし 事後：情報収集方法の確認	講義 90分		
20	グループ発表 ④	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
21	グループ発表 ⑤	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
22	グループ発表 ⑥	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
23	プレゼン大会への準備 ①	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
24	プレゼン大会への準備 ②	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
25	プレゼン大会への準備 ③	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
26	卒業論文研究テーマの発表 ①	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
27	卒業論文研究テーマの発表 ②	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
28	卒業論文研究テーマの発表 ③	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
29	1年間の振り返り	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分		
30	演習のまとめ	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分		
教本：		参考文献： 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する。			
佐久間信夫編(2024)『入門企業論』法律文化社 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する（特に経営戦略論をベースに検討する）。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 原則、外部の研究発表大会に出場することを求めます。相応の参加意欲がある学生を望みます。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	白石 佳和																									
履修条件	前提科目	日本語関連科目																								
その他																										
授業概要：																										
この授業では、日本近現代文学の作品や作家について分析や考察を行うことを学びます。資料や先行研究の調査のしかた、プレゼンテーション・ディスカッションの技術を習得します。																										
前期はこちらが指定した作家の作品（今年度は温又柔さん）の分析を全員で行い、後期は各自のテーマに沿って分析を行い発表します。																										
授業目標：																										
学生が、自分独自の視点を持ち学術的方法によって、文学作品の分析と考察を行えるようになることを目標とする。																										
1. 関連する資料・先行研究を調査する 2. 自分の分析についての問い合わせ立てる 3. 自分の問い合わせをもとに作品を分析する 4. 発表資料を作成する 5. 質疑応答し、発表を振り返る																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態																			
1	オリエンテーション				事前：好きな作家を調べる 事後：振り返りとまとめ		講義60分、グループワーク20分、発表10分																			
2	作家の分析(1)：指定された作家についての資料を収集する。 資料を読み、疑問点・興味のある点について議論・整理する。				事前：資料を読む 事後：振り返りとまとめ		講義30分、グループワーク30分、議論30分																			
3	作家の分析(2)：作家についての先行研究を調べる。 資料を読み、疑問点・興味のある点について議論・整理する。				事前：資料を読む 事後：振り返りとまとめ		講義30分、グループワーク30分、議論30分																			
4~8	作品の分析(1)：自分が選んだ作品について担当者が報告し、議論を行う。				事前：発表準備、作品を読む 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																			
9	自分の問い合わせを再度整理し、資料や先行研究を調査してまとめる。				事前：発表準備、作品を読む 事後：振り返りとまとめ		発表準備60分、発表30分																			
10~14	作品の分析(2)：自分が選んだ作品について担当者が報告し、議論を行う。				事前：発表準備、作品を読む 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																			
15	作家と作品について改めて議論し、振り返りまとめる。				事前：レポートの作成 事後：レポートの完成		議論60分、まとめ30分																			
16	各自のテーマとする作品または作家について各自発表する。				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																			
17~21	作品の分析(3)：自分が選んだ作品について担当者が報告し、議論を行う。				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																			
22~24	自分のプレゼンテーションをもとに論文を作成する。				事前：論文作成 事後：論文のリライト		講義30分、個人指導60分																			
25~29	作品の分析(4)：自分が選んだ作品について担当者が報告し、議論を行う。				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		発表30分、議論60分																			
30	1年全体を振り返りまとめる。				事前：論文のリライト 事後：論文の完成		振り返り60分、まとめ30分																			
教本： プリントを配布する。		参考文献： 授業で紹介する。																								
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（20%）、提出物・発表（40%）、レポート・論文（40%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
後期は自分が選んだ文学作品を分析します。お互い刺激し合いながら楽しく授業に参加しましょう。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習								
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目									
担当教員	新城 将孝																
履修条件	前提科目 その他	ビジネス法 I・II、企業組織法 I・II (同時履修も含め、好ましい。) なし															
授業概要:																	
企業に関する法について研究を行います。中心となるのは、商法と会社法です。民法、経済法の話にも及びます。今日の経済社会の中で、企業はどうあるべきか、また、どう経営されていくべきか等、法的側面から考察していきます。																	
授業目標:																	
企業法としての商法・会社法について深く考察し、卒業論文につなげていく事を目標とします。																	
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要なに○1つ)																	
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養											
			○			○											
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。企業法の特色を示し、企業法を学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、企業法分野についての事前のチェックをする。企業法とは何かについて考える。			講義 30分、質疑応答 60分。										
2	事業を行うための法形態（企業形態）について概観し、その創意と相違について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：事業を行うための法形態（企業形態）、その課題と活用について確認をする。 事後：事業を行うための法形態（企業形態）、その課題と活用について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
3	会社の権利能力およびその制限について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認する。 事後：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
4	権利能力なき社団について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認する。 事後：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
5	会社の使用人と代理商について概観し、会社の人的施設（事業の補助システム）について深く理解し、会社運営、課題と活用について検討する。			事前：会社の人的施設（事業の補助システム）を確認し、会社運営、課題と活用について考察する。 事後：会社の人的施設（事業の補助システム）を確認し、会社運営、課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
6	会社の事業譲渡について概観し、事業譲渡について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
7	株式会社の特質について概観し、株式会社の特質について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察する 事後：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
8	株式会社の規模等に応じた規制について概観し、株式会社の規模等に応じた規制を深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
9	企業グループに関する規制について概観し、企業グループに関する規制について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
10	変態設立事項について概観し、変態設立事項について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察する 事後：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
11	設立中の会社と発起人組合について概観し、設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：設立中の会社と発起人組合について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
12	違法な会社設立・会社不成立と会社組織に関する訴えについて概観し、違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について考察する。 事後：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
13	会社設立に関する設立関与者等の責任について概観し、会社設立に関する設立関与者等の責任について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										

14	株式と資本金の額との関係について概観し、株式と資本金の額との関係について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について考察する。 事後：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
15	株式の法的性質について概観し、株式の法的性質について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の法的性質について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の法的性質について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
16	株主の監督は正権について概観し、株主の監督は正権について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主の監督は正権について確認し、その課題について考察する。 事後：株主の監督は正権について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
17	株主平等の原則について概観し、株主平等の原則について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主平等の原則について確認し、その課題について考察する。 事後：株主平等の原則について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
18	株主の権利行使に関する利益供与の禁止について概観し、株主の権利行使に関する利益供与の禁止について深く理解し、その課題と対策について検討する。	事前：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
19	自己株式の取得について概観し、自己株式の取得について深く理解し、その課題について検討する。	事前：自己株式の取得について確認し、その課題について考察する。 事後：自己株式の取得について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
20	株式発行による資金調達について概観し、株式発行による資金調達について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式発行による資金調達について確認し、その課題について考察する。 事後：株式発行による資金調達について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
21	株式会社の機関設計に関する規制について概観し、株式会社の機関設計に関する規制について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について考察する。 事後：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
22	株主総会の権限について概観し、株主総会の権限について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の権限について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の権限について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
23	株式の相互保有について概観し、株式の相互保有について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の相互保有について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の相互保有について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
24	株主総会の決議方法と決議の瑕疵について概観し、株主総会の決議方法と決議の瑕疵について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
25	会社の業務執行と代表について概観し、会社の業務執行と代表について深く理解し、その課題について検討する。	事前：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について考察する。 事後：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
26	取締役と会社との関係について概観し、取締役と会社との関係について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役と会社との関係について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役と会社との関係について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
27	会社と取締役の利益相反行為について概観し、会社と取締役の利益相反行為について深く理解し、その課題を検討する。	事前：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を考察する。 事後：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
28	取締役の報酬について概観し、取締役の報酬について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役の報酬について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役の報酬について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
29	取締役の会社に対する責任について概観し、取締役の会社に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
30	取締役の第三者に対する責任について概観し、取締役の第三者に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。

教本：

「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。初回講義日に伝える。

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。

学生へのアドバイス：

テーマを割当、報告することを求めます。授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。

オフィスアワー：

初回講義日に伝えます。

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習															
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目																	
担当教員	高橋 琢也			履修条件	前提科目	なし																		
履修条件	その他	なし	授業概要 :	<p>企業は、日々、利益獲得を目的のひとつとして活動している。そして、活動した結果を、簿記の知識と技術を使って一組の財務諸表を作成し、報告することになる。本演習では、「簿記会計」をテーマとして、これに基づく知識、特に財務会計を中心に理解を深める。</p> <p>また、演習IIで卒業論文を作成することを前提に、演習Iの授業を行っていく。</p>																				
			授業目標 :	<p>演習Iをとおして、演習IIで卒業論文を作成できる知識や能力（心構えを含む）を身につけることを目標とする。</p>																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
<input type="radio"/>			<input type="radio"/>																					
授業計画、事前学習・事後学習、形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	オリエンテーション ゼミの目的の確認、報告事項の確認、報告の順番決め等を行う。					事前：特になし 事後：次回以降のための準備		講義 90分																
2	複式簿記の理解確認 ゼミを行ううえで必要となる簿記の知識を確認する。					事前：報告準備と内容の確認 事後：テーマ内容の追加研究		講義 20分 演習 70分																
3～27	報告（個別論点） それぞれに割り当てた報告事項について報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：テーマ内容の追加研究		報告 50分 質疑 40分																
28～30	報告（卒業論文の下準備） それぞれのテーマに基づいてまとめて報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：内容の再確認と改善		報告 50分 質疑 40分																
教本： 初回の演習時に伝える。		参考文献： 桜井久勝『財務会計講義』（最新版）、中央経済社。																						
成績評価の方法、評価基準：																								
平常点（30%）とレポート・報告（70%）で評価する。																								
学生へのアドバイス：																								
毎回の授業に参加することが必須の条件になる。また、ゼミ生同士で協力するべきときにきちんと協力すること。 なお、シラバスの計画は予定であり、適宜必要に応じて内容を柔軟に変更する。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
英国、アメリカ合衆国について書かれた英語のテキストを読むことを中心に、映像や、音楽なども交えて、演習形式で行います。																										
授業目標:																										
英語文化圏の人々の物の見方や生活様式について、視野を広げ、理解を深めることを目標とします。併せて、CEFR(Common European Framework of Reference)のB2(英検2級レベル)を目指す習得も目標です。																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	The United Kingdom, Why is there no UK football team? College Sports: Multibillion Dollar Amateurs				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
2	Challenges for the UK College sports: Multibillion Dollar Amateurs				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
3	Multicultural Britain: 64 languages in one school The Rise of the Megachurches				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
4	Migration The Rise of the Megachurches				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
5	The UK and the EU, Brexit: The vote and language The Dream of a Colorblind America				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
6	So, why did over 17 million people ignore the advice of experts? The Dream of a colorblind America				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
7	Tea, The social oil America: A Bilingual Country?				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
8	Meals with tea: afternoon tea and high tea America: Bilingual Country?				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
9	Social classes, Class isn't always serious Steve Jobs' Legacy				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
10	Sports, TV, drinks, and clothes all show your social class Steve Jobs' Legacy				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
11	Schools and Education, Britain's school system Disney and Marvel: The Little Mermaid Meets the Incredible Hulk				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
12	Britain's testing culture and challenges Disney and Marvel: The Little Mermaid Meets the Incredible Hulk				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
13	University students and higher education: Today; Social change The Appeal of Aloha				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
14	Paying to be a student The Appeal of Aloha				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		
15	Women in Society: Ladettes and high academic performance New York City: Tragedy, Energy, and Optimism				事前: テクスト 事後: 質問と論点			音読30分 ディスカッション60分																		

16	Politics and Business New York City: Tragedy, Energy, and Optimism	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
17	Science, inventions and business, "Failures are finger posts on the road to achievement." Los Angeles: America's Most Creative City	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
18	R & D and manufacturing Los Angeles: America's Most Creative City	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
19	Politics and Government, Britain's leaders: human in good and bad ways The Grand Canyon: Conservation vs. Development	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
20	Would you like to join a party? The Grand Canyon: Conservation vs. Development	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
21	Food, Convenience food Starbucks: The Third Place	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
22	Britain's favourite foods Starbucks: The Third Place	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
23	Music and fashion, Women rule in the early 21st century Hip Hop: From the Ghetto to the Mainstream	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
24	Pop subcultures come and go Hip Hop: From the Ghetto to the Mainstream	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
25	Fantasy and castles, Britain and Japan linked in fantasy Amazon. Com	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
26	Fantasy and films Amazon. Com	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
27	Language, Language and Social class From Wild Child to Goodwill Ambassador	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
28	Rhyming slang and American English From Wild Child to Goodwill Ambassador	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
29	The arts, Literary, Literary Festivals Facebook: An Almost-Global Phenomenon	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分
30	Homes, gardens and the countryside Facebook: An Almost-Global Phenomenon	事前：テクスト 事後：質問と論点	音読30分 ディスカッション60分

教本：

*Welcome to Britain* T. Knight 鶴見書店  
*Iconic America* J. Miller, T. Kaya 成美堂

参考文献：

*The USA Customs and Institutions*(E. & M. Tiersky)  
A Little History of England (D. Ross & J. Short)

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)等で総合評価する。

学生へのアドバイス：

与えられた課題に積極的に取り組んでください。また、英検2級合格を目指し、英語を楽しく学ぶことを願っています。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習						
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目							
担当教員	深谷 野亞														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要 :															
演習 I では、次年度の卒業論文につながるように基礎知識やスキルの獲得をめざします。主体的にゼミに取り組んでもらうことを通じて、一人一人の成長につなげていきたいと考えています。読む・書く・プレゼンをするといったスキルを身につけていきましょう															
授業目標 :															
来年度の卒業論文のテーマを各自がみつけます。また、卒業論文作成のために必要な基礎力の育成をめざします															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
			○			○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態								
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：授業を通じて何を考えたかまとめる		講義 30分・グループワーク 30分・発表 30分								
2	文章読解 I 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分								
3	文章読解 II 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分								
4	文章読解 III 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分								
5	文章読解 IV 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分								
6	文章読解 V 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合います				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・ディスカッション 30分								
7	卒論テーマの検討 自分が今どういうことに興味関心があるのか話し合い、次年度の卒論テーマの方向性を探ります				事前：自分の興味関心を整理する 事後：授業で何を考えたかまとめる		講義 10分・ディスカッション 60分・発表 20分								
8	プレゼンテーション I テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担していきます				事前：自分の興味関心についての文献をよむ 事後：分担にそって作業		講義 10分・グループワーク 80分								
9	プレゼンテーション II 準備 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討していきます				事前：作業割り当てに沿って準備 事後：プレゼン資料を作成する		グループワーク 90分								
10	プレゼンテーション III 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、互いに改善点を話し合います				事前：プレゼンのシミュレーション 事後：プレゼンで何を改善すべきかをまとめる		発表 60分・ディスカッション 30分								
11	データの読み方 量的調査についてどう理解するかを理解します				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる		講義 70分・ディスカッション 20分								
12	データの活用の仕方：レポートや論文において、各種データをどう活用するか理解します				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる		講義 60分・グループワーク 30分								
13	データの活用の実践 I 各自、データを使ってミニレポートを作成します				事前：配付資料をよむ 事後：レポートの改善点を考える		講義 90分								
14	データの活用の実践 II 各自、データを使ったプレゼンテーションを行います				事前：プレゼン資料を作成 事後：プレゼンの改善点を考える		講義 10分・発表50分・ディスカッション 30分								
15	前期のふりかえり 前期の活動を総括し、自分の成長を理解し、今後の課題を設定します				事前：前期の自分をふりかえっておく 事後：課題をどう実践するか考える		講義 30分・ディスカッション 60分								

16	夏休みの報告 前期の課題を夏休み期間中どう実践したのかを報告し、後期の課題とそのための方策についてまとめます	事前：夏休みの活動を振り返る 事後：どう実践するか考える	講義 20分・発表 50分・ディスカッション 20分
17	文章読解Ⅵ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
18	文章読解Ⅶ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
19	文章読解Ⅷ 各自関心がある領域の文献を読み、話し合います	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義 60分・ディスカッション 30分
20	プレゼンテーションⅣ テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担します	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義 10分・グループワーク 80分
21	プレゼンテーションⅤ 準備 準備グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討します	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク 90分
22	プレゼンテーションⅥ 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、互いに改善点を話し合います	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表 60分・ディスカッション 30分
23	アカデミックライティングの基礎Ⅰ 引用文献のつけかたなど、アカデミックライティングの基礎を理解します	事前：配付資料を読む 事後：配付問題を解く	講義 70分・グループワーク 20分
24	アカデミックライティングの基礎Ⅱ 実際に、いくつかの資料をつかってミニレポートを作成します	事前：前回の復習 事後：書いたレポートを確認	講義 20分・グループワーク 70分
25	アカデミックライティングの基礎Ⅲ 第13回で各自が作成したミニレポートをふりかえり、自分の成長と課題を確認します	事前：ミニレポートを読む 事後：成長と課題をまとめる	講義 30分・発表 20分・グループワーク 40分
26	プレゼンテーションⅦ テーマ設定 テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担します	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義 10分・グループワーク 80分
27	プレゼンテーションⅧ 準備 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討します	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク 90分
28	プレゼンテーションⅨ 発表 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、批評します	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表 60分・ディスカッション 30分
29	卒論テーマの検討Ⅱ 各自自分のテーマについて話し合い、課題をまとめます	事前：テーマ案をまとめる 事後：授業内容をまとめる	発表 60分・講義 30分
30	まとめ 今年度の活動を総括し、各自自分の成長を理解し、次年度の課題を設定します	事前：今年度の自分の活動をふりかえっておく 事後：総括と課題をまとめる	講義 10分・グループワーク 80分

教本： 適宜資料を配付します	参考文献： 授業中に指示します
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (60%)、プレゼンテーション・レポート等 (40%)	
学生へのアドバイス： ゼミは大学生活の集大成ともいえるものです。楽しく仲良く授業をすすめながら、各自問題意識を持って着実に成長しましょう	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目													
担当教員	福島 崇宏																				
履修条件	前提科目	国際関係論 I・II (ビジネススマネジメント学科のみ。経営法学科は特になし)			その他	なし															
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、実社会で企業活動を行う際に必要な国際関係に関する基礎知識の習得とともに、国際関係に関する諸課題について自らの力で考え表現する力を養うことを主軸とする。</p> <p>今日の国際関係を理解するためには、先人たちが築き上げてきた歴史的理解とともに、分析するための理論を身につけることが重要となる。よって、本演習ではまず、指定教科書を基に国際関係に関する基礎知識の習得を目指す。その後、具体的な国際問題に関する諸課題について、どのように解釈すればよいのか見極めるための視点を養う。最終的に、自らの興味関心のあるテーマに関する論点を整理するとともに課題を明らかにし、卒業論文としてまとめる。</p>																					
<p>授業目標：</p> <p>1. 国際関係に関する諸課題について国際関係論または国際公法の視点から分析する力を身につける。 2. 国際関係に関する特定の分野について自らの見解を提示する力を身につける。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	演習 I を履修するに当たって（導入）			事前：教本 pp.2~8精読 事後：論点整理			講義30分 討論60分														
2	国際社会の発展と構造 ①国際社会の基本的構造について理解を深める。			事前：教本 pp.11~30精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
3	国際社会の発展と構造 ②新現代国際社会と新国際秩序について理解を深める。			事前：教本 pp.30~43精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
4	国際社会の発展と構造 ③国際社会の多様化と多元化について理解を深める。			事前：教本 pp.44~49精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
5	国際社会の発展と構造 ④国際社会における主要なアクターについて理解を深める。			事前：教本 pp.49~74精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
6	全人類的課題の実態と検討 ①戦争と平和、安全保障概念の形成について理解を深める。			事前：教本 pp.75~101精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
7	全人類的課題の実態と検討 ②日本の安全保障について理解を深める。			事前：教本 pp.101~120精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
8	全人類的課題の実態と検討 ③開発と発展、南北問題について理解を深める。			事前：教本 pp.121~136精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
9	全人類的課題の実態と検討 ④グローバル化と開発について理解を深める。			事前：教本 pp.136~155精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
10	全人類的課題の実態と検討 ⑤国際社会と個人・人権について理解を深める。			事前：教本 pp.156~173精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
11	全人類的課題の実態と検討 ⑥多国間の枠組みにおける人権外交について理解を深める。			事前：教本 pp.173~198精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
12	全人類的課題の実態と検討 ⑦地球環境保護の歴史について理解を深める。			事前：教本 pp.199~217精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
13	全人類的課題の実態と検討 ⑧環境保護とアクターについて理解を深める。			事前：教本 pp.217~237精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
14	総括—国際社会における法の支配について理解を深める。			事前：教本 pp.240~244精読 事後：まとめノートの作成			講義40分 討論50分														
15	研究計画の作成に当たって ①論文検索方法など資料収集方法を中心に理解を深める。			事前：文献検索資料の精読 事後：報告内容再検討			講義40分 討論50分														

16	研究計画の作成に当たって ②論文作成に当たっての注意事項の確認を行う。	事前：論文作成資料の精読 事後：報告内容再検討	講義40分 討議50分
17	文献資料研究 ①参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
18	文献資料研究 ②参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
19	文献資料研究 ③参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
20	文献資料研究 ④参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
21	文献資料研究 ⑤参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
22	文献資料研究 ⑥参考文献に関する報告及び討議を行う。	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
23	中間報告及び質疑応答①	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
24	中間報告及び質疑応答②	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
25	中間報告及び質疑応答③	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
26	中間報告及び質疑応答④	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
27	中間報告及び質疑応答⑤	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
28	中間報告及び質疑応答⑥	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
29	中間報告及び質疑応答⑦	事前：報告準備 事後：報告内容の再検討	報告40分 討議50分
30	総括及び演習Ⅱに向けた準備事項の確認をする。	事前：これまでの復習 事後：演習Ⅱに向けた準備	講義30分 グループワーク60分
教本：		参考文献： 家正治 他『国際関係〔全訂版〕』世界思想社、2014年。	授業中に適宜指示する。
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、報告レジュメ及び報告内容（30%）、最終レポート（40%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 演習は自らが考え行動することからすべてが始まります。行動無くして単位取得はできないものと考えて下さい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担当教員	古金 悅子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要:	<p>わらべうたや伝承遊び、鬼ごっこなどの「遊び」と絵本や物語、紙芝居、かるたなどの「児童文化財」をテーマに研究します。</p> <p>先行研究を調べたり、実際に遊びを見学したり経験したり、実態を調べたりしながら理解を深めていきます。</p>								
授業目標:	<p>子どもと遊びについて理解し、伝承されてきた児童文化財を知る。</p> <p>先行研究を読み、理解し、自分の考えたことをまとめて発表する。</p> <p>遊びの楽しさが自分の言葉で語れるようになること。</p>								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			<input type="circle"/>			<input type="circle"/>			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：関連文献を探して読む			講義と演習	
2	子どもの文化と児童文化財について文献から学ぶ				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
3	遊びと児童文化について考える				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
4	伝承遊びの種類と内容について考えていく				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
5	発達と遊び（伝承遊びから学ぶこと）について理解する				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
6	わらべうたと鬼ごっこについて文献から学ぶ				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			演習	
7～11	伝承遊びについて（文献を読み意見交換をする） (フィールドワーク)				事前：文献を読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
12	伝承遊びについて（文献から学んだことと自分の経験を基に話し合う）				事前：文献の復習 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
13・14	レポート作成				事前：レポート作成 事後：レポート作成			演習	
15	前期のまとめ（各自の研究成果を発表する）				事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
16	絵本について①（様々な絵本を知る）				事前：様々な絵本を読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
17	絵本について②（子どもの発達と絵本について学ぶ）				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
18	絵本について③（読み聞かせについて考えていく）				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	
19	絵本について④（フィールドワークを行う）				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			演習	
20	紙芝居について学ぶ				事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ			講義と演習	

21	ペーパーサートについて学ぶ	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
22	物語、口演童話について学ぶ	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
23	パネルシアター、エプロンシアターについて学ぶ	事前： 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
24	カルタについて①（百人一首と子どもの遊び）とのかかわりについて学ぶ	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
25	カルタについて②（いろはカルタ）について学ぶ	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
26	カルタについて③（キャラクターなどをテーマにしたカルタ）を調べる	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
27~29	レポート作成	事前：レポート作成 事後：レポート作成	演習
30	まとめと発表	事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
教本： 必要に応じて資料を配付します。		参考文献： 配布資料による。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、レポート・発表等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 機会を捉えて、意識的に子どもの遊びを観察してみましょう。また、子どもの頃親しんだ絵本を読み返したり、図書館などで行なわれている「お話し」をのぞいてみたりしてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
演習 I では、演習 II で卒業論文を作成することを踏まえ、実証的研究方法を学ぶ。研究の進捗状況はゼミノートに記し、指導教員と共有しながら研究を進める。逐次先輩の研究発表会に参加し、4 年次の展望を持てるようする。																										
授業目標：																										
卒業論文の研究計画を立て、予備調査・実験をする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：自分の興味関心の検討 事後：他者の興味関心の参照		演習																		
2・3	心理学研究計画を立てるとはどういうことか：先輩の研究計画発表会に参加する					事前：研究計画をイメージする 事後：今後の展望を持つ		演習																		
4	研究倫理					事前：研究倫理について調べる 事後：研究倫理を理解する		演習																		
5	自分の興味関心を探索する					事前：自分の興味関心の検討 事後：他者の興味関心の参照		演習																		
6	現代のホットな話題を探索する					事前：現代の話題を探索する 事後：さらに考えを深める		演習																		
7～9	興味のある論文を検索し、まとめる					事前：自分の興味関心の再考 事後：検索論文をまとめる		演習																		
10～13	検索した論文の内容を発表する					事前：発表資料の作成 事後：研究テーマを考える		演習																		
14・15	卒業研究を実施するとはどういうことか：先輩の卒業研究中間発表会①に参加する					事前：研究テーマを考える 事後：今後の展望を持つ		演習																		
16	研究のアイディアを絞り込む					事前：自分の興味関心の再考 事後：研究テーマの絞り込み		演習																		
17	リサーチクエスチョンを立てる					事前：RQを考える 事後：RQの修正		演習																		
18	研究方法を考える					事前：研究方法を考える 事後：研究方法の修正		演習																		
19	研究方法のお手本論文を見つける					事前：研究方法をまとめ 事後：検索論文の整理		演習																		
20	重要な先行研究を検索し、整理する					事前：RQ関連論文の検索 事後：検索論文の整理		演習																		
21～23	研究計画を立てる					事前：研究計画を考える 事後：研究計画の修正		演習																		
24・25	卒業研究結果をまとめるとはどういうことか：先輩の卒業研究中間発表会②に参加する					事前：研究方法を考える 事後：今後の展望を持つ		演習																		
26～28	予備調査・実験の実施					事前：予備調査・実験の準備 事後：予備調査・実験結果のまとめ		演習																		
29	研究計画の吟味					事前：予備調査・実験結果のまとめ 事後：研究計画の修正		演習																		
30	卒業論文を作成するとはどういうことか：先輩の卒業論文発表会に参加する					事前：卒業論文をイメージする 事後：今後の展望を持つ		演習																		
教本：																										
参考文献： 『心理学の卒業研究ワークブック 発想から論文完成までの10ステージ』小塩真司・宅香菜子 金子書房 適宜指示する。																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																										
授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
積極的にゼミに参加し、主体的に研究を進めましょう。																										
オフィスアワー：																										
初回授業日に伝える。																										

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目													
担当教員	阿部 美恵																				
履修条件	前提科目	演習Ⅰ			その他	なし															
<p>授業概要 :</p> <p>卒業論文のテーマを決定し、執筆計画を立て、文献や情報の収集を行い、論文を執筆します。適宜、中間発表の機会を設け、論文の質を高めていきます。</p>																					
<p>授業目標 :</p> <p>卒業論文の完成を目指します。また論文執筆によって専門分野への知識を深め、思考力・判断力を育成します。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	○	○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	卒業論文執筆の意味と手順・方法について説明する。			事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする			解説60分・質疑応答30分														
2	テーマを探す			事前：テーマを考える 事後：授業の復習をする			解説30分・個別指導60分														
3	テーマを決定する			事前：テーマを熟考する 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
4	文献目録の作成・先行研究の調査をする			事前：文献収集を行う 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
5	情報収集を行う			事前：情報収集をする 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
6	アウトラインを考える			事前：資料を検討する 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
7	アウトラインを作成する			事前：資料を整理する 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
8	構成を考える			事前：原案を作成する 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
9	中間発表を行う			事前：発表内容を検討する 事後：授業の復習をする			発表60分・ ディスカッション30分														
10	序論の執筆をする			事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
11	第1章の執筆をする			事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
12	第1章の執筆をする			事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
13	第1章の執筆をする			事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
14	第1章を完成する			事前：第1章を推敲する 事後：授業の復習をする			解説20分・個別指導70分														
15	中間発表を行う			事前：発表内容を確認する 事後：授業の復習をする			発表60分・ ディスカッション30分														

## 演習Ⅱ

16	第2章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
17	第2章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
18	第2章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
19	第2章を完成する	事前：第2章を推敲する 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
20	中間発表を行う	事前：発表内容を確認する 事後：授業の復習をする	発表60分・ ディスカッション30分
21	第3章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
22	第3章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
23	第3章の執筆をする	事前：執筆した論文を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
24	第3章を完成する	事前：第3章を推敲する 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
25	結論を執筆する	事前：結論を読む 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
26	結論を完成する	事前：結論を推敲する 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
27	注・引用文献を作成する	事前：注・引用文献の確認 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
28	論文を推敲する	事前：論文全体を確認する 事後：授業の復習をする	解説20分・個別指導70分
29	卒業論文の発表をする	事前：発表内容を確認する 事後：授業の復習をする	発表60分・ ディスカッション30分
30	論文の完成・提出する	事前：最終確認をする 事後：授業の復習をする	個別指導
教本： 授業中に指示します。		参考文献： 授業中に指示します。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、卒業論文（60%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 卒業論文はこれまで学んできたことの集大成です。精一杯頑張って完成させてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																													
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目																														
担当教員	石井 みどり																																					
履修条件	前提科目	演習Ⅰ			その他	なし																																
<p>授業概要：</p> <p>日本の歴史と文化について理解を深めることは、自分自身を見つめなおすことにつながります。</p> <p>各自、興味のある研究テーマを選択し、発表を繰り返しながら、卒業論文の作成に取り組みます。</p>																																						
<p>授業目標：</p> <p>「演習Ⅰ」で理解を深めた日本の歴史と文化の知識、研究方法の基礎をいかしながら、卒業論文（2万字以上）、卒業レポート（1万字以上）を作成します。</p> <p>また、「演習Ⅰ」と同様に、適宜、合宿や課外学習を行います。先生やゼミの仲間との交流を通して、社会人に必要不可欠なコミュニケーション能力を習得してください。</p>																																						
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td colspan="3">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td colspan="6">学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> <tr> <td>○</td> <td colspan="3" rowspan="2">○</td> <td colspan="6" rowspan="2"></td></tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養						○	○																	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																																		
○	○																																					
授業計画、事前学習・事後学習、形式																																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																														
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：テーマを考える			講義 90分																														
2	卒業論文・レポート① テーマの作成				事前：テーマの作成 事後：テーマの作成			講義 60分 個別指導 30分																														
3	卒業論文・レポート② テーマの作成				事前：テーマの作成 事後：テーマの作成			個別指導 90分																														
4	卒業論文・レポート① 資料の収集と分析				事前：テーマの作成 事後：資料の収集と分析			講義 60分 個別指導 30分																														
5	卒業論文・レポート② 資料の収集と分析				事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析			個別指導 90分																														
6	卒業論文・レポート③ 資料の収集と分析				事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析			個別指導 90分																														
7	卒業論文・レポート④ 資料の収集と分析				事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析			個別指導 90分																														
8	卒業論文・レポート⑤ 資料の収集と分析				事前：資料の収集と分析 事後：資料の収集と分析			個別指導 90分																														
9	卒業論文・レポート① 構成と内容				事前：構成と内容 事後：構成と内容			講義 60分 個別指導 30分																														
10	卒業論文・レポート② 構成と内容				事前：構成と内容 事後：構成と内容			個別指導 90分																														
11	卒業論文・レポート③ 構成と内容				事前：構成と内容 事後：構成と内容			個別指導 90分																														
12	歴史散策① テーマと企画				事前：テーマと企画 事後：テーマと企画			講義 30分 グループワーク 60分																														
13	歴史散策② 課外学習準備				事前：課外学習準備 事後：課外学習準備			グループワーク 90分																														
14	歴史散策③ 課外学習				事前：課外学習準備 事後：なし			グループワーク 90分																														
15	前期まとめ 夏休みの卒論添削について				事前：論文進捗状況の報告 事後：卒論・レポートの作成			講義 30分 個別指導 60分																														

16	卒業論文・レポート ① 本論	事前：本論 事後：本論	講義 30分 個別指導 60分
17	卒業論文・レポート ② 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
18	卒業論文・レポート ③ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
19	卒業論文・レポート ④ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
20	卒業論文・レポート ⑤ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
21	卒業論文・レポート ⑥ 本論	事前：本論 事後：本論	個別指導 90分
22	卒業論文・レポート ① 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
23	卒業論文・レポート ② 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
24	卒業論文・レポート ③ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
25	卒業論文・レポート ④ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
26	卒業論文・レポート ⑤ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
27	卒業論文・レポート ⑥ 発表	事前：本論、発表準備 事後：本論、発表準備	発表 90分 適宜、個別指導
28	歴史散策 課外学習準備	事前：テーマと企画 事後：課外学習準備	グループワーク 90分
29	課外学習	事前：課外学習準備 事後：なし	グループワーク 90分
30	後期のまとめ	事前：卒論・レポートの総括 事後：卒業後の取り組み	講義 60分 ディスカッション 30分
教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。		参考文献： 適宜、指示します。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%） 授業中の課題、定期試験（60%） 等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。 自分も相手も大切にする表現方法を学んでください。			
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習								
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目									
担当教員	上地 一郎																
履修条件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／人的担保法／物的担保法など履修していることが望ましい。															
	その他	多領域の法律科目も履修してもらいたい。															
授業概要:	<p>民法財産法は、市民社会の取引の基本法として、私たちの生活の大半をカバーしています。ゼミでは、民法財産法の主要な論点や最近の改正をとりあげ、専門書、論文、判例等を検討することで、民法財産法の基礎知識の修得を図り、法的思考を深めることを目的としています。</p> <p>そのため、参加者には、まず自らの課題探しに始まり、設定した課題について法的な論点の抽出、学説や判例の分析をもとに発表を行ってもらいます。そしてゼミ生の間での積極的なディスカッションを通して自らの課題に対してより深く接近してもらいたいと思います。</p>																
授業目標:	<p>民法財産法の基本的な知識を習得し、その法的な論点はどのようなものかについて説明し、自らの見解と解決方法を説明できるようになること。</p> <p>専門演習の成果として、卒業レポートもしくは卒業論文を完成させること。</p>																
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
	○	○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態										
1	オリエンテーション 演習の進行について説明する			事前：なし 事後：配布資料の見直し			演習										
2・3	各メンバーの今年度の研究計画を発表する			事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
4	前期役割分担と共通テーマについて話し合う			事前：テーマを考える 事後：テーマを考える			演習										
5～12	分担者の報告とディスカッションをおこなう			事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
13・14	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう			事前：報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
15	各メンバーの中間報告とディスカッションをおこなう			事前：報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
16・17	各メンバーの夏期休暇中の成果報告をおこなう			事前：テーマを考える 事後：テーマを考える			演習										
18	後期役割分担と共通テーマについて話し合う			事前：各自報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
19～27	分担者の報告とディスカッションをおこなう			事前：報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
28・29	各メンバーの研究成果報告とディスカッションをおこなう			事前：報告の準備 事後：報告の見直し			演習										
30	まとめ一ふりかえり			事前：1年間を振り返る 事後：次年度に向けた改善			演習										
教本:	<p>参考文献：</p> <p>『民法研究ハンドブック』（有斐閣）￥2,972+税      民法判例百選Ⅰ〔第8版〕（有斐閣）￥2,200      民法判例百選Ⅱ〔第8版〕（有斐閣）￥2,300+税      『リーガル・リサーチ&amp;リポート』（有斐閣）￥1,600+税</p>																
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。</p>																
学生へのアドバイス:	<p>大学4年間は長いようでいて、あっという間に過ぎていきますので、在学中にいろいろなことに取り組んでもらいたいと思います。ゼミもその一環です。</p>																
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目		
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	演習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要:	観光関連の企業・産業研究をした上で、課題を見つけ出し、その解決策を考え出し、プレゼンをする訓練をする。								
授業目標:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 得意分野をプレゼンできる</li> <li>2. 政治・経済・文化・産業に関心を持つようになる</li> <li>3. 課題をみつけ、解決することができる</li> </ol>								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			○						
授業計画・事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：なし		講義 90分		
2～5	企業・産業研究とディスカッション				事前：時事問題研究 事後：時事問題理解		講義 90分または、演習 90分		
6～24	プレゼンテーションとディスカッション				事前：専門分野研究 事後：専門分野研究		講義 90分または、演習 90分		
25～30	レポート研究とディスカッション				事前：専門分野研究 事後：専門分野研究		講義 90分または、演習 90分		
教本：					参考文献： 高橋秀夫著「クラブツーリズムの秘密」毎日新聞社				
適宜プリントを配布する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（80%）レポート等（20%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会の動きを自分で考え、議論できるようになろう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																																																																
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目																																																																	
担当教員	大沢 裕																																																																								
履修条件	前提科目	演習Ⅰ			その他	なし																																																																			
<b>授業概要 :</b> 卒業論文の指導を主たる授業内容とする。研究テーマを確定し、文献などの資料・データの収集、調査を進める。また研究論文の書き方の基本を学び、推敲の仕方も学習する。各回の研究発表では、自身のテーマに関するプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、自身のテーマに関する見識を深め、論文としてまとめていく。																																																																									
<b>授業目標 :</b> 演習Ⅱでは、ゼミ生は、子ども学・保育学・教育学に関する研究を進めるために、知識や能力の基礎を固め、さらに発展させることを目標とする。																																																																									
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○ 1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○																																																										
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
	○	○																																																																							
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">授業回数</th> <th style="width: 50%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width: 20%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>事前：なし 事後：資料の再読</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究発表</td><td>事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>3</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>4</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>5</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>6</td><td>研究発表</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>7</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>8</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>9</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>10</td><td>研究発表</td><td>事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>11</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>12</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>13</td><td>文献講読</td><td>事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>14</td><td>研究発表</td><td>事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討</td><td>演習 90分</td></tr> <tr><td>15</td><td>卒業論文のアウトライン作成</td><td>事前：アウトライン作成 事後：反省点の検討</td><td>演習 90分</td></tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	ガイダンス	事前：なし 事後：資料の再読	演習 90分	2	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分	3	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	4	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	5	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	6	研究発表	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	7	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	8	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	9	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	10	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分	11	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	12	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	13	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分	14	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分	15	卒業論文のアウトライン作成	事前：アウトライン作成 事後：反省点の検討	演習 90分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																						
1	ガイダンス	事前：なし 事後：資料の再読	演習 90分																																																																						
2	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分																																																																						
3	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
4	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
5	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
6	研究発表	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
7	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
8	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
9	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
10	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分																																																																						
11	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
12	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
13	文献講読	事前：資料の読み解き 事後：レジュメ作成	演習 90分																																																																						
14	研究発表	事前：レジュメ作成 事後：反省点の検討	演習 90分																																																																						
15	卒業論文のアウトライン作成	事前：アウトライン作成 事後：反省点の検討	演習 90分																																																																						

16	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
17	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
18	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
19	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
20	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
21	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
22	資料の読解	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
23	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
24	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
25	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
26	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
27	論文の草稿を検討する	事前：論文執筆 事後：推敲	演習 90分
28	論文の推敲	事前：論文の読み直し 事後：論文の読み直し	演習 90分
29	論文の推敲	事前：論文の読み直し 事後：論文の読み直し	演習 90分
30	論文の校正・校閲	事前：論文の読み直し 事後：なし	演習 90分
教本： 『最新版 学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著（講談社）		参考文献： 授業内で適宜指示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業準備をしっかりしてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習								
授業科目(英文)	演習II (Seminar II)						科目分類	専門科目									
担当教員	小柏 喜久夫																
履修条件	前提科目	演習I															
	その他	なし															
授業概要:	自らの選んだテーマの理解を深め、論文を作成します。																
授業目標:	卒業論文として完成することを目指します。																
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○	○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態									
1	ガイダンス				事前：シラバス、計画を確認 事後：配付資料を精読			説明 60分、質疑応答 30分									
2～14	報告発表				事前：報告発表準備 事後：質疑討議の整理			報告 30分、質疑討議 60分									
15	夏休みの研究計画を話し合う				事前：論文進捗状況をチェック、計画調整 事後：夏休みの計画作成			報告、質疑応答、助言 90分									
16	論文作成の進捗状況の確認				事前：できたこと、できなかったことの確認 事後：できなかったことの対策作成			報告、質疑応答、助言 90分									
17～25	論文の発表				事前：発表の準備 事後：質疑応答の整理			発表 30分、質疑応答 60分									
26～30	論文の完成				事前：内容・形式のチェック 事後：執筆・推敲			発表 30分、質疑応答 60分									
教本:	参考文献: 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、適宜、紹介します。 房、￥2,400+税																
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況（40%）、卒業論文（60%）で総合評価します。																
学生へのアドバイス:	わくわくする課題を見つけ、根気よく着実に解決に向けて力を注いでください。締め切りを考え、時間配分にも注意してください。																
オフィスアワー:	初回講義日に伝えます。																

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目													
担当教員	川口 修																				
履修条件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論			その他	なし															
<p>授業概要：</p> <p>今年度は、各自が関心を持った企業を対象にして、その企業の財務諸表を分析する。最終的に論文・レポートにまとめていく。</p>																					
<p>授業目標：</p> <p>管理会計の研究</p> <p>各企業の財務諸表を分析して、基準値や、他社との比較分析を行い、論文、レポートにまとめる。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	◎						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	○	◎																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	財務諸表の入手			事前：なし 事後：なし			演習														
2	財表分析のⅠ（収益性1）			事前：指定科目の予習 事後：なし			演習														
3	財表分析のⅡ（収益性2）			事前：指定科目の予習 事後：なし			演習														
4	財表分析のⅢ（収益性3）			事前：指定科目の予習 事後：なし			演習														
5	財表分析のⅣ（安全性1）			事前：指定科目の予習 事後：なし			演習														
6	財表分析のⅤ（安全性2）			事前：論文の作成法概略 事後：なし			演習														
7	財表分析のⅥ（安全性3）			事前：論文の作成法概略 事後：なし			演習														
8	財表分析のⅦ（生産性1）			事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習														
9	財表分析のⅧ（生産性2）			事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習														
10	財表分析のⅨ（生産性3）			事前：管理会計の予習 事後：レポート作成			演習														
11	財表分析のⅩ（総合評価1）			事前：管理会計の予習 事後：レポート作成			演習														
12	財表分析のⅪ（総合評価2）			事前：管理会計の予習 事後：論文の作成			演習														
13	財表分析のⅫ（総合評価3）			事前：管理会計の予習 事後：論文の作成			演習														
14	レポート・論文の書き方Ⅰ			事前：管理会計の予習 事後：論文の作成			演習														
15	レポート・論文の書き方Ⅱ			事前：管理会計の予習 事後：同復習			演習														

16	レポート・論文の書き方Ⅲ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
17	レポート・論文の書き方Ⅳ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
18	レポート・論文の書き方Ⅴ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
19	レポート・論文の書き方Ⅵ	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
20	各自の課題を発見することの指導1	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
21	各自の課題を発見することの指導2	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
22	各自の課題を発見することの指導3	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
23	論文作成の指導1	事前：収集資料のまとめ1 事後：収集資料のまとめ1	演習
24	論文作成の指導2	事前：収集資料のまとめ2 事後：収集資料のまとめ2	演習
25	論文作成の指導3	事前：収集資料のまとめ3 事後：収集資料のまとめ3	演習
26	論文作成の指導4	事前：収集資料のまとめ4 事後：収集資料のまとめ4	演習
27	論文作成の指導5	事前：収集資料のまとめ5 事後：収集資料のまとめ5	演習
28	論文作成の指導6	事前：収集資料のまとめ6 事後：収集資料のまとめ6	演習
29	論文作成の指導7	事前：収集資料のまとめ7 事後：収集資料のまとめ7	演習
30	論文作成の指導8	事前：収集資料のまとめ8 事後：収集資料のまとめ8	演習
教本： 適宜指示する。		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 夏休みの合宿でまとめを発表してもらう。また、適宜、レポートを要求して総合評価を行う。			
学生へのアドバイス： 学ぶことと学ぶことの習慣をつけたい。実際の企業等の見学などを考慮し、楽しく学ぶことを考えている。			
オフィスアワー： 授業の第1回で指示する。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習II (Seminar II)						科目分類	専門科目													
担当教員	金宰郁																				
履修条件	前提科目	演習I			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> ゼミ生が設定したテーマに関する文献、資料、統計を収集し、サーベイを行い、研究課題を絞り込む。論文全体の骨子を考え、卒業論文の内容を発表する。																					
<b>授業目標 :</b> 演習Iで習得した理論、実証的分析方法と論文の書き方をベースにして、ゼミ生の自由な着想で情報セキュリティ社会の抱えるテーマを見つけ出し、それに沿った卒業論文が書けるように、3年次引き継いで指導する。卒業論文として、情報社会性のある卒論を書くことが到達目標である。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 2px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 2px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">○</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス、及び情報社会、情報セキュリティの概要について説明する。			事前：シラバスを読む 事後：配布資料を読む			講義 40分、ディスカション 50分														
2	研究テーマ設定のための文献・資料・統計の収集とサーベイを行う。			事前：研究テーマの文献を調べる 事後：研究テーマの文献・資料を収集する			講義 40分、ディスカション 50分														
3・4	研究テーマの選定をし、研究テーマを報告する。			事前：研究テーマを用意する 事後：研究テーマを纏める			講義 40分、ディスカション 30分、発表 20分														
5	関連文献の収集と文献リストを作成する。論文作成スケジュールの作成と管理を行う。			事前：論文関連文献を収集する 事後：文献リストを纏める			講義 40分、ディスカション 50分														
6	卒業論文の予備調査の実施を行う。			事前：卒論の予備調査を行う 事後：卒論の予備調査を纏める			講義 40分、ディスカション 50分														
7・8	卒業論文目次の作成、および報告をする。			事前：卒論目次を作成する 事後：卒論目次を纏める			講義 10分、ディスカション 30分、発表 50分														
9・10	卒業論文の進捗状況を発表しながら、討論会を行う。本調査のため、資料を収集し、纏める。			事前：卒論の資料を用意する 事後：卒論の資料を纏める			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
11・12	論文執筆（データ・グラフ整理、作成、および文献資料の整理など）を行う。			事前：卒論資料を整理する 事後：内容を纏める			講義 40分、ディスカション 50分														
13	論文の進捗状況を発表しながら、討論会を行う。			事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：内容を纏める			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
14・15	卒業論文執筆、論文作成の中間報告を行う。各自卒論の方針の確定と夏休みの作業の準備			事前：論文作成の中間報告準備 事後：内容を纏める			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
16・17	夏休みの成果を踏まえた卒論進捗状況を発表する。			事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：内容を纏める			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
18~22	前期の成果の確認と評価、問題意識を再確認する。データ、文献資料の収集と整理する。			事前：卒論資料を整理する 事後：内容を纏める			講義 40分、ディスカション 50分														
23・24	卒論の進捗状況の発表しながら、討論会を行う。プレゼンテーションの技法を習得する。			事前：卒論進捗状況の発表準備 事後：卒業論文を執筆する			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
25~30	各自、卒業論文の作業を行う。卒業論文の作成と中間発表を行う。卒業論文の最終報告をする卒論の完成と発表			事前：発表の準備をする 事後：卒業論文を提出する			講義 10分、ディスカション 40分、発表 40分														
<b>教本 :</b> (授業内で指示)		<b>参考文献 :</b> (授業内で指示)																			
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 論文提出 (50%)、論文中間報告 (20%)、卒業論文の取り組み姿勢 (30%) で総合評価する。																					
<b>学生へのアドバイス :</b> 毎回課題点を明らかにして授業に臨んで下さい。																					
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																					

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	古賀 学																									
履修条件	前提科目	演習Ⅰ																								
その他																										
授業概要：																										
卒論研究を行うことを原則とする。各人の研究テーマを決め、研究活動計画を策定しスケジュールに沿って研究講義・活動を行う。																										
授業目標：																										
1. 観光地域振興の実践的能力の育成。 2. 提案・まとめ・発表能力の育成及び社会人に向けての自立のための意識向上。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			◎																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	演習活動の確認：年間テーマ・スケジュール案の検討を確認する。				事前：演習内容の理解 事後：年間スケジュールの調整			講義60分、ディスカッション30分																		
2～4	研究目標の設定：自身の継続もしくは新たな研究活動の課題の整理及び研究手順の検討を行う。				各回修正・調整 事前：年間テーマ、卒論(レポート) 内容の検討 事後：年間テーマ、卒論(レポート) 内容のまとめ			講義60分、ディスカッション30分																		
5～14	資料文献調査など、前期研究活動のまとめを行う。地域活動がある場合は実践活動により学修する。				事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり																		
15	前学期まとめを行う。				事前：中間報告書の作成 事後：後学期に向けた作業検討を行う			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり																		
16・17	課題の整理：前期作業を踏まえて、研究課題、研究方法等の修正及び後学期作業スケジュールの確立を行う。				事前：研究テーマのまとめ 事後：研究テーマのまとめ			講義40分、ディスカッション20分、自主作業30分、現地実習もあり																		
18～24	卒論・レポートなどの研究成果のまとめを行う。 現地調査のまとめ、資料文献調査などを行う。				事前：まとめ作業を行う 事後：まとめ作業を行う			講義30分、自主作業60分																		
25・26	卒論・レポートなど各人のテーマ発表、意見交換を行う。				事前：まとめ作業を行う 事後：意見交換内容からまとめ作業実施			講義30分、自主作業60分																		
27～29	卒論・レポートなどのまとめ作業：地域活動・資料文献調査・意見交換等を踏まえ年間テーマのまとめ作業を行う。				各回：まとめ内容の完成 事後：まとめ作業を行う			講義30分、自主作業60分																		
30	卒論・レポートなどの内容を検証する。				事前：まとめ内容の完成 事後：内容の反省			講義30分、自主作業60分																		
教本： なし		参考文献： テーマに応じて指示																								
成績評価の方法・評価基準：																										
卒論テーマの目標が達成できたかを評価する。テーマにあった卒論を行おうとするものは演習Ⅱからでも受け入れる。																										
学生へのアドバイス：																										
探求心を持って日々の研究活動を自主的に勉強する意欲を持つこと。段階的に目標の達成を図ること。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習					
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目						
担当教員	佐久間 信夫													
履修条件	前提科目	演習Ⅰを履修していること			その他	なし								
授業概要 :														

各自が卒論テーマを決め、卒論の内容についての発表を行う。担当者がプレゼンを行い、質疑応答により内容を深めていく。

授業目標 :
独自の研究テーマについて、体系的に説明することができる。 討論において、自らの主張を論理的に説明することができる。

カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）
知識・技能の習得
思考力・判断力・表現力の育成

○	◎
---	---

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	授業の進め方、成績評価の仕方、レジメ作成方法など	事前：なし 事後：配布資料の確認	講義
2	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
3	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
4	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
5	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
6	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
7	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
8	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
9	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
10	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
11	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
12	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
13	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
14	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論
15	各自の卒論のテーマと内容の再検討	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論

16	各自の卒論の章立ての発表	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
17	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
18	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
19	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
20	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
21	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
22	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
23	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
24	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
25	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
26	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
27	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
28	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
29	各自の卒論テーマについての報告と討論	事前：レジメの作成 事後：内容の考察と修正	プレゼンと討論		
30	卒論提出	事前：印刷製本等 事後：なし			
教本： なし		参考文献： なし			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、プレゼンの内容等（30%）、卒論の評価（50%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 卒論提出が終わると社会人です。ゼミでの学習を通して社会人としての基本的な能力を身につけましょう。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習					
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目						
担当教員	清水 健太													
履修条件	前提科目	演習Ⅰの単位を修得していること。			その他	なし								
授業概要 :														

経営学の諸問題の中から、各学生の興味・関心のある内容について学習し、最終的には研究成果を外部の研究発表大会にて発表することを目的にする。また、上記の目標を達成した内容をベースに演習Ⅱにおける卒業論文を執筆する基礎力を身につけることも目的とする。

授業目標 :
・経営学の興味・関心のある領域に関する幅広い知識を身につける。
・経営学の学習を通して、プレゼン方法、情報収集能力、コミュニケーション能力といった就職活動で求められる内容についての能力を養う。
卒業論文の研究テーマを決める。

カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	○	○

#### 授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義 90分
2	環境変化と多角化経営	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
3	事業変革と革新	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
4	外部環境への適応と新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
5	ミッションとビジョン	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
6	事業領域とコアコンピタンス経営	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
7	課題図書の輪読① 要約の作成	事前：なし 事後：講義内容の確認	グループワーク 90分
8	課題図書の輪読② パワーポイント資料の作成	事前：なし 事後：講義内容の確認	グループワーク 90分
9	課題図書の輪読③ プrezentーションの方法	事前：なし 事後：講義内容の確認	グループワーク 90分
10	論理的思考や経営学における考え方	事前：なし 事後：講義内容の確認	グループワーク 90分
11	グループ発表①	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
12	グループ発表②	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
13	グループ発表③	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分
14	PPM分析	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分
15	金のなる木の衰退と事業の撤退	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分

16	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング①	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
17	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング②	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
18	オープン・イノベーションと大企業の新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義 90分		
19	企業の資料収集方法	事前：なし 事後：情報収集方法の確認	講義 90分		
20	グループ発表④	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
21	グループ発表⑤	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
22	グループ発表⑥	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク 90分		
23	プレゼン大会への準備①	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
24	プレゼン大会への準備②	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
25	プレゼン大会への準備③	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク 90分		
26	卒業論文研究テーマの発表①	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
27	卒業論文研究テーマの発表②	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
28	卒業論文研究テーマの発表③	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク 90分		
29	1年間の振り返り	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分		
30	演習のまとめ	事前：なし 事後：なし	グループワーク 90分		
教本： 佐久間信夫編(2024)『入門企業論』法律文化社 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する。 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する（特になければ経営戦略論をベースに検討する）。		参考文献： 初回に学生の学びたい内容などを確認し、決定する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 原則、外部の研究発表大会に出場することを求めます。相応の参加意欲がある学生を望みます。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習								
授業科目(英文)	演習 II (Seminar II)						科目分類	専門科目									
担当教員	新城 将孝																
履修条件	前提科目 その他	ビジネス法 I・II、企業組織法 I・II (同時履修も含め、好ましい。)、演習 I なし															
<b>授業概要:</b> 企業に関する法について研究を行います。中心となるのは、商法と会社法です。民法、経済法の話にも及びます。今日の経済社会の中で、企業はどうあるべきか、また、どう経営されていくべきか等、法的側面から考察していきます。																	
<b>授業目標:</b> 企業法としての商法・会社法について深く考察し、卒業論文につなげていく事を目標とします。																	
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要なに○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
	○	○															
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																	
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態										
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。企業法の特色を示し、企業法を学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、企業法分野についての事前のチェックをする。企業法とは何かについて考える。			講義 30分、質疑応答 60分。										
2	事業を行うための法形態（企業形態）について概観し、その創意と相違について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：事業を行うための法形態（企業形態）、その課題と活用について確認をする。 事後：事業を行うための法形態（企業形態）、その課題と活用について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
3	会社の権利能力およびその制限について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認する。 事後：会社の権利能力およびその制限、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
4	権利能力なき社団について概観し、会社の権利能力について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認する。 事後：権利能力なき社団について、その課題と対策について確認し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
5	会社の使用人と代理商について概観し、会社の人的施設（事業の補助システム）について深く理解し、会社運営、課題と活用について検討する。			事前：会社の人的施設（事業の補助システム）を確認し、会社運営、課題と活用について考察する。 事後：会社の人的施設（事業の補助システム）を確認し、会社運営、課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
6	会社の事業譲渡について概観し、事業譲渡について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：事業譲渡について確認し、その課題と活用を考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
7	株式会社の特質について概観し、株式会社の特質について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察する 事後：株式会社の特質について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
8	株式会社の規模等に応じた規制について概観し、株式会社の規模等に応じた規制を深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：株式会社の規模等に応じた規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
9	企業グループに関する規制について概観し、企業グループに関する規制について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察する。 事後：企業グループに関する規制について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
10	変態設立事項について概観し、変態設立事項について深く理解し、その課題と活用について検討する。			事前：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察する 事後：変態設立事項について確認し、その課題と活用について考察し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
11	設立中の会社と発起人組合について概観し、設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討する。			事前：設立中の会社と発起人組合について確認し、その課題と活用を考察する。 事後：設立中の会社と発起人組合について深く理解し、その課題と活用を検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
12	違法な会社設立・会社不成立と会社組織に関する訴えについて概観し、違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について考察する。 事後：違法な会社設立・会社不成立および会社組織に関する訴えについて確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										
13	会社設立に関する設立関与者等の責任について概観し、会社設立に関する設立関与者等の責任について深く理解し、その課題と対策について検討する。			事前：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：会社設立に関する設立関与者等の責任について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。			講義 30分、質疑応答 60分。										

14	株式と資本金の額との関係について概観し、株式と資本金の額との関係について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について考察する。 事後：株式と資本金の額との関係について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
15	株式の法的性質について概観し、株式の法的性質について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の法的性質について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の法的性質について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
16	株主の監督は正権について概観し、株主の監督は正権について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主の監督は正権について確認し、その課題について考察する。 事後：株主の監督は正権について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
17	株主平等の原則について概観し、株主平等の原則について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主平等の原則について確認し、その課題について考察する。 事後：株主平等の原則について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
18	株主の権利行使に関する利益供与の禁止について概観し、株主の権利行使に関する利益供与の禁止について深く理解し、その課題と対策について検討する。	事前：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について考察する。 事後：株主の権利行使に関する利益供与の禁止について確認し、その課題と対策について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
19	自己株式の取得について概観し、自己株式の取得について深く理解し、その課題について検討する。	事前：自己株式の取得について確認し、その課題について考察する。 事後：自己株式の取得について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
20	株式発行による資金調達について概観し、株式発行による資金調達について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式発行による資金調達について確認し、その課題について考察する。 事後：株式発行による資金調達について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
21	株式会社の機関設計に関する規制について概観し、株式会社の機関設計に関する規制について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について考察する。 事後：株式会社の機関設計に関する規制について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
22	株主総会の権限について概観し、株主総会の権限について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の権限について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の権限について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
23	株式の相互保有について概観し、株式の相互保有について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株式の相互保有について確認し、その課題について考察する。 事後：株式の相互保有について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
24	株主総会の決議方法と決議の瑕疵について概観し、株主総会の決議方法と決議の瑕疵について深く理解し、その課題について検討する。	事前：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について考察する。 事後：株主総会の決議方法と決議の瑕疵について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
25	会社の業務執行と代表について概観し、会社の業務執行と代表について深く理解し、その課題について検討する。	事前：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について考察する。 事後：会社の業務執行と代表について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
26	取締役と会社との関係について概観し、取締役と会社との関係について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役と会社との関係について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役と会社との関係について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
27	会社と取締役の利益相反行為について概観し、会社と取締役の利益相反行為について深く理解し、その課題を検討する。	事前：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を考察する。 事後：会社と取締役の利益相反行為について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
28	取締役の報酬について概観し、取締役の報酬について深く理解し、その課題を検討する。	事前：取締役の報酬について確認し、その課題を考察する。 事後：取締役の報酬について確認し、その課題を検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
29	取締役の会社に対する責任について概観し、取締役の会社に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の会社に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。
30	取締役の第三者に対する責任について概観し、取締役の第三者に対する責任について深く理解し、その課題について検討する。	事前：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について考察する。 事後：取締役の第三者に対する責任について確認し、その課題について検討し、ノートにまとめる。	講義 30分、質疑応答 60分。

教本：

「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。初回講義日に伝えます。

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。

学生へのアドバイス：

テーマを割当、報告することを求めます。授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習	
授業科目(英文)	演習 II (Seminar II)					科目分類	専門科目			
担当教員	高橋 琢也									
履修条件	前提科目	演習 I								
	その他	なし								
授業概要:	卒業論文の作成を目標として、各自がテーマに基づいて積極的に研究を行っていく。									
授業目標:	卒業論文の作成を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			○							
授業計画・事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション ゼミの目的の確認、報告事項の確認、報告の順番決め等を行う。					事前：特になし 事後：次回以降のための準備			講義90分	
2～27	報告（卒業論文へ向けての報告） それぞれのテーマに基づいてまとめて報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：内容の再確認と改善			報告50分 質疑40分	
28～30	報告（卒業論文） 卒業論文としてまとめた内容を報告してもらう。					事前：報告準備と内容の確認 事後：内容の再確認と改善			報告50分 質疑40分	
教本：						参考文献：				
桜井久勝「財務会計講義」（最新版）、中央経済社。 (演習 I で使用したものを引き続き使用)						適宜、それぞれのテーマに合わせて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：										
平常点（10%）、レポート・報告（90%）で総合評価する。										
学生へのアドバイス：										
毎回の授業に参加することが必須の条件になる。また、ゼミ生同士で協力するべきときにきちんと協力すること。 なお、シラバスの計画は予定であり、適宜必要に応じて内容を柔軟に変更する。										
オフィスアワー：										
初回講義日に伝える。										

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目													
担当教員	中村 龍一																				
履修条件	前提科目	演習Ⅰ			その他	卒業論文の研究テーマが日本文学・日本文化・国語科教育であること															
<p>授業概要：</p> <p>(1) 卒業論文の指導を主たる授業内容とする      (2) 研究テーマの決定      (3) 文献資料の収集・調査の方法      (4) 研究論文の書き方、校正      (5) 研究中間発表・討議      (6) 個別指導</p>																					
<p>授業目標：</p> <p>日本文学、日本文化、国語教育の専門領域に関するテーマの卒業論文を作成するための助言指導を行う。受講生一人ひとりが主体的に研究を深め論文にまとめる。卒業論文は大学生にとって勉学の成果の集大成である。演習Ⅱは大学生にとって最も重視される講義である。しっかりした心構えで受講すること。</p>																					
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		◎	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
	◎	○																			
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション 日本文化学科における卒業論文の目的と作成計画を理解し、各自の計画を立てる。				事前：なし 事後：計画を提出する		講義 60分、計画作成 30分														
2	卒業論文のテーマ確認Ⅰ 一人ひとり卒論テーマの最終確認をする。				事前：テーマの絞り込み 事後：なし		講義 60分、計画作成 30分														
3	卒業論文のテーマ確認Ⅱ 一人ひとり卒論テーマの最終確認をする。				事前：テーマの絞り込み 事後：なし		テーマ発表 60分、質疑 30分														
4	資料収集とポートフォリオ 資料収集と論文構成についてポートフォリオを知る。				事前：なし 事後：資料を読む		講義 60分、質疑 30分														
5	調査研究の母数等 調査研究における調査母数を理論的に理解する				事前：なし 事後：資料を読む		講義 60分、質疑 30分														
6	卒業論文の構成と小見出しⅠ 各自の卒業論文に小見出しを付け、目次をつくる				事前：小見出しをつける 事後：なし		演習 60分、質疑 30分														
7	卒業論文の構成と小見出しⅡ 各自の卒業論文に小見出しを付け、目次をつくる				事前：小見出しをつける 事後：なし		演習 60分、質疑 30分														
8	卒業論文の主資料の構成Ⅰ 論証に説得性があるかを検討する。反証が想定されないか、例が必要ではないか？ 等				事前：主資料を整序する 事後：なし		演習 60分、質疑 30分														
9	卒業論文の主資料の構成Ⅱ 論証に説得性があるかを検討する。反証が想定されないか、例が必要ではないか？ 等				事前：主資料を整序する 事後：なし		演習 60分、質疑 30分														
10	文献資料の再検討 文献資料の読み解き、信憑性を再検討する				事前：文献再検討 事後：なし		読み解き 60分、質疑検討 30分														
11	文献資料研究Ⅰ 各自の文献資料を講読し検討する。論証の方法としての分析総合と仮説検証を学ぶ				事前：文献再検討 事後：なし		読み解き 60分、質疑検討 30分														
12	文献資料研究Ⅱ 各自の文献資料を講読し検討する。論証の方法としての分析総合と仮説検証を学ぶ				事前：文献再検討 事後：なし		講義 30分、読み解き 30分、質疑検討 30分														
13	文献資料研究Ⅲ 各自の文献資料を講読し検討する。論証の方法としての分析総合と仮説検証を学ぶ				事前：文献再検討 事後：なし		講義 30分、読み解き 30分、質疑検討 30分														
14	文献資料研究Ⅳ 各自の文献資料を講読し検討する。論証の方法としての分析総合と仮説検証を学ぶ				事前：文献再検討 事後：なし		講義 30分、読み解き 30分、質疑検討 30分														
15	文献資料研究Ⅴ 各自の文献資料を講読し検討する。論証の方法としての分析総合と仮説検証を学ぶ				事前：文献再検討 事後：なし		講義 30分、読み解き 30分、質疑検討 30分														

16	全体指導 目次を作成する	事前：目次の作成 事後：論文執筆	演習 90分
17	個別指導I 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
18	個別指導II 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
19	個別指導III 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
20	個別指導IV 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
21	全体指導 卒業論文の最終確認をする	事前：報告事項をまとめる 事後：論文執筆	演習 90分
22	個別指導V 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
23	個別指導VI 個別に指導する	事前：課題の明確化 事後：論文執筆	演習 90分
24	個別指導VII 卒業論文を仮提出する	事前：課題の明確化 事後：論文のまとめ	演習 90分
25	卒業論文発表者選考会I 全員の卒論を読み合い代表者を推薦する。	事前：発表主旨の作成 事後：論文執筆	演習 60分、話し合い 30分
26	卒業論文発表者選考会II 全員の卒論を読み合い代表者を推薦する。	事前：発表原稿の作成 事後：論文執筆	演習 60分、話し合い 30分
27	卒業論文発表会の「リハーサル」をする。	事前：リハーサル 事後：なし	演習 90分
28	卒業論文発表会	事前：なし 事後：なし	発表会 90分
29	講評と課題	事前：なし 事後：なし	講義 90分
30	講評と課題	事前：なし 事後：なし	講義 90分
教本： 教室で指示する		参考文献： 教室で指示します	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、発表・レポート等（20%）、卒業論文（70%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 卒業論文は大学生にとって4年間の勉学の集大成である。演習IIは大学生にとって最も重視される講義である。しっかりした心構えで受講すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習												
授業科目(英文)	演習II (Seminar II)						科目分類	専門科目													
担当教員	深谷 野亞																				
履修条件	前提科目	演習I			その他	なし															
授業概要 :																					
演習IIでは、就職支援とともに、卒業論文にむけて着実に力をつけることをめざします。各自の興味関心に沿った論文をよみ、ディスカッションする形で授業を展開していきます。																					
授業目標 :																					
社会人として必要な知識を身につけ、自覚を高めるとともに卒業論文の完成をめざします。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
			○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：授業を通じて何を考えたかまとめる			講義30分 グループワーク30分 発表30分													
2	文章読解I 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる			講義60分 ディスカッション30分													
3	文章読解II 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる			講義60分 ディスカッション30分													
4	文章読解III 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる			講義60分 ディスカッション30分													
5	文章読解IV 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる			講義60分 ディスカッション30分													
6	文章読解V 各自興味がある領域の文献をよみ、話し合う				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる			講義60分 ディスカッション30分													
7	卒論テーマの検討 自分が今どういうことに興味関心があるのか話し合い、卒論テーマの方向性を探る				事前：自分の興味関心を整理する 事後：授業で何を考えたかまとめる			講義10分 グループワーク60分 発表20分													
8	プレゼンテーションI テーマ設定グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担しておく				事前：自分の興味関心についての文献を読む 事後：分担にそって作業			講義10分 グループワーク80分													
9	プレゼンテーションII 準備グループ毎に素材をもちより、流れをきめ、補足する資料等を検討する				事前：作業割り当てに沿って準備 事後：プレゼン資料を作成する			グループワーク90分													
10	プレゼンテーションIII 発表グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する				事前：プレゼンのシミュレーション 事後：プレゼンで何を改善すべきかをまとめる			発表60分 ディスカッション30分													
11	データの読み方 量的調査についてどう理解するかを理解する				事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる			講義70分 ディスカッション20分													
12	データの活用の仕方： レポートや論文において、各種データをどう活用するか理解する				事前：配付資料を読む 事後：授業内容をまとめる			講義60分 グループワーク30分													
13	データの活用の実践I 各自、データを使ってミニレポートを作成する				事前：配付資料を読む 事後：レポートの改善点を考える			講義90分													
14	データの活用の実践II 各自、データを使ったプレゼンテーションを行う				事前：プレゼン資料を作成 事後：プレゼンの改善点を考える			講義10分 発表50分 ディスカッション30分													
15	前期のふりかえり 前期の活動を総括し、自分の成長を理解し、今後の課題を設定する				事前：前期の自分をふりかえっておく 事後：課題をどう実践するか考える			講義30分 ディスカッション60分													

16	夏休みの報告 前期の課題を夏休み期間中どう実践したのか報告し、後期の課題とための方策についてまとめる	事前：夏休みの活動を振り返る 事後：どう実践するか考える	講義20分 発表50分 ディスカッション20分
17	文章読解VI 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
18	文章読解VII 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
19	文章読解VIII 各自興味がある領域の文献を読み、話し合う	事前：配付資料を読む 事後：考えをまとめる	講義60分 ディスカッション30分
20	プレゼンテーションIV テーマ設定 グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担する	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義10分 グループワーク80分
21	プレゼンテーションV 準備 グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討する	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク90分
22	プレゼンテーションVI 発表 グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	発表60分 ディスカッション30分
23	アカデミックライティングの基礎I 引用文献のかけたなど、アカデミックライティングの基礎を理解する	事前：配付資料を読む 事後：配付問題を解く	講義70分 ディスカッション20分
24	アカデミックライティングの基礎II 実際に、いくつかの資料をつかってミニレポートを作成してみる	事前：前回の復習 事後：書いたレポートを確認	講義20分 ディスカッション70分
25	アカデミックライティングの基礎III 第13回で各自が作成したミニレポートをふりかえり、自分の成長と課題を確認する	事前：ミニレポートを読む 事後：成長と課題をまとめ	講義30分 発表20分 グループワーク40分
26	プレゼンテーションVII テーマ設定 グループに分かれ、それぞれテーマを設定し、作業を分担しておく	事前：テーマ案を考える 事後：分担にそって作業	講義10分 グループワーク80分
27	プレゼンテーションVIII 準備 グループ毎に素材をもちより、補足する資料等を検討する	事前：持ち寄る資料を作成 事後：分担にそって作業	グループワーク90分
28	プレゼンテーションIX 発表 グループ毎にプレゼンテーションをし、批評する	事前：プレゼンのシミュレーション 事後：改善点をまとめる	講義60分 ディスカッション30分
29	卒論についての検討 各自自分のテーマについて話し合い、課題をまとめる	事前：テーマ案をまとめる 事後：授業内容をまとめる	発表60分 講義30分
30	まとめ 今年度の活動を総括し、各自自分の成長を理解する	事前：今年度の自分の活動を振り返っておく 事後：総括と課題をまとめる	講義10分 グループワーク80分

教本：  
適宜資料を配布します

参考文献：  
授業中に指示します

成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。  
授業参加状況等（60%）、プレゼンテーション・レポート等（40%）

学生へのアドバイス：  
ゼミは大学生活の集大成ともいえるものです。楽しく仲良く授業をすすめながら、各自問題意識を持って着実に成長しましょう。

オフィスアワー：  
初回講義日に伝える。

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																																																				
授業科目(英文)	演習II (Seminar II)					科目分類	専門科目																																																						
担当教員	福島 崇宏																																																												
履修条件	前提科目 その他	演習I 国際関係論I・II その他、国際関係関連科目																																																											
<b>授業概要 :</b> 本演習では、実社会で企業活動を行う際に必要な国際関係に関する基礎知識の習得とともに、国際関係に関する諸課題について自らの力で考え表現する力を養うことを主軸とする。 演習Iを通して考察した具体的な国際問題に関する諸課題について理解を深める。最終的に、自らの興味関心のあるテーマに関する論点を整理するとともに課題を明らかにし、卒業論文または最終レポートとしてまとめる。																																																													
<b>授業目標 :</b> 1. 国際関係に関する諸課題について国際関係論または国際公法の視点から分析する力を身につける。 2. 国際関係に関する特定の分野について自らの見解を提示する力を身につける。																																																													
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○																																															
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																											
○	○																																																												
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画 (詳細に記入)</th> <th>事前・事後学習 (学習課題)</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>演習IIを履修するに当たって (導入)</td> <td>事前: 卒論テーマの検討 事後: 論点整理</td> <td>講義 30分、討論 60分</td> </tr> <tr> <td>2・3</td> <td>テーマに関する発表と討論</td> <td>事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り</td> <td>報告 40分、討議 50分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集の仕方を確認する</td> <td>事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成</td> <td>講義 50分、討論 40分</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>先行研究・データの活用法を確認する</td> <td>事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成</td> <td>講義 50分、討論 40分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>論文の組み立て方 (章立て) について確認する</td> <td>事前: 配付資料の精読 事後: まとめノートの作成</td> <td>講義 50分、討論 40分</td> </tr> <tr> <td>8・9</td> <td>中間報告に向けた発表資料の作成</td> <td>事前: 発表資料の収集・整理 事後: 発表資料の推敲</td> <td>資料作成 90分</td> </tr> <tr> <td>10・11</td> <td>資料収集した文献等に関する発表</td> <td>事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り</td> <td>報告 50分、討議 40分</td> </tr> <tr> <td>12~14</td> <td>論文構想発表</td> <td>事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り</td> <td>報告 50分、討議 40分</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前学期のまとめと今後の作業の進め方に関する確認</td> <td>事前: 配付資料精読 事後: 前学期の振り返り</td> <td>講義 50分、討論 40分</td> </tr> <tr> <td>16~26</td> <td>研究テーマに関する発表</td> <td>事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り</td> <td>報告 50分、討議 40分</td> </tr> <tr> <td>27~29</td> <td>卒業研究の総括と卒業論文またはレポートの執筆</td> <td>事前: 原稿の執筆 事後: 原稿の推敲</td> <td>論文執筆 90分</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>卒業研究の総括</td> <td>事前: 原稿の推敲 事後: まとめノートの作成</td> <td>講義 30分、討論 60分</td> </tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態	1	演習IIを履修するに当たって (導入)	事前: 卒論テーマの検討 事後: 論点整理	講義 30分、討論 60分	2・3	テーマに関する発表と討論	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 40分、討議 50分	4	資料収集の仕方を確認する	事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分	5・6	先行研究・データの活用法を確認する	事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分	7	論文の組み立て方 (章立て) について確認する	事前: 配付資料の精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分	8・9	中間報告に向けた発表資料の作成	事前: 発表資料の収集・整理 事後: 発表資料の推敲	資料作成 90分	10・11	資料収集した文献等に関する発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分	12~14	論文構想発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分	15	前学期のまとめと今後の作業の進め方に関する確認	事前: 配付資料精読 事後: 前学期の振り返り	講義 50分、討論 40分	16~26	研究テーマに関する発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分	27~29	卒業研究の総括と卒業論文またはレポートの執筆	事前: 原稿の執筆 事後: 原稿の推敲	論文執筆 90分	30	卒業研究の総括	事前: 原稿の推敲 事後: まとめノートの作成	講義 30分、討論 60分
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																																																										
1	演習IIを履修するに当たって (導入)	事前: 卒論テーマの検討 事後: 論点整理	講義 30分、討論 60分																																																										
2・3	テーマに関する発表と討論	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 40分、討議 50分																																																										
4	資料収集の仕方を確認する	事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分																																																										
5・6	先行研究・データの活用法を確認する	事前: 配付資料精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分																																																										
7	論文の組み立て方 (章立て) について確認する	事前: 配付資料の精読 事後: まとめノートの作成	講義 50分、討論 40分																																																										
8・9	中間報告に向けた発表資料の作成	事前: 発表資料の収集・整理 事後: 発表資料の推敲	資料作成 90分																																																										
10・11	資料収集した文献等に関する発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分																																																										
12~14	論文構想発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分																																																										
15	前学期のまとめと今後の作業の進め方に関する確認	事前: 配付資料精読 事後: 前学期の振り返り	講義 50分、討論 40分																																																										
16~26	研究テーマに関する発表	事前: 報告準備 事後: 発表内容の振り返り	報告 50分、討議 40分																																																										
27~29	卒業研究の総括と卒業論文またはレポートの執筆	事前: 原稿の執筆 事後: 原稿の推敲	論文執筆 90分																																																										
30	卒業研究の総括	事前: 原稿の推敲 事後: まとめノートの作成	講義 30分、討論 60分																																																										
<b>教本 :</b> 特に指定しません。			<b>参考文献 :</b> 論文の書き方に関する文献を中心に授業中に指示する。																																																										
<b>成績評価の方法、評価基準 : 到達目標が達成できたかを評価する。</b> 授業参加状況等 (40%)、卒業論文または卒業レポート (60%) 等で総合評価する。																																																													
<b>学生へのアドバイス :</b> 4年間の学生生活の集大成として松蔭大学に在籍した証を残せるように、ともに頑張りましょう。																																																													
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																																																													

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 II (Seminar II)						科目分類	専門科目	
担当教員	古金 悅子								
履修条件	前提科目	演習 I			その他	なし			

授業概要：

演習IIでは、卒業論文作成を目指す。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開し、論文を書くために必要な力を修得する。

授業目標：

卒業論文作成に向け、計画を立てて、論文作成に取り組む。論文作成に必要な情報収集の方法や資料の活用などを身に付け、論文にまとめていく。

カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）

知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養
	◎	○

授業計画、事前学習・事後学習、形式

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	卒業論文作成に向けての計画を立てる。	事前：演習Iを振り返る 事後：配付資料を読む	講義 30分 演習 60分
2	文章解説I（新聞を読む）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
3	文章解説II（保育に関する書籍を読む）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
4	文章解説III（子どもに関する学術論文を読む）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
5	文章解説IV（保育に関する学術論文を読む）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
6	卒論テーマ検討I（興味・関心をもとに自身の考えを発表する）	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
7	卒論テーマ検討II（グループディスカッションを通じて各自の課題を明確にする）	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
8	文章の書き方I（日本語の特徴について学ぶ）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
9	文章の書き方II（論文の作法について学ぶ）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
10	文章の書き方III（参考資料の活用や引用文献の扱い方について学ぶ）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
11	文章の書き方IV（図書館やインターネットから、資料を検索する方法を学ぶ）	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
12	論文の構成を考えアウトラインを作成する。	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
13	文献資料研究I	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
14	文献資料研究II	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
15	前期まとめとして中間発表を行なう。	事前：発表準備をする 事後：授業の内容を整理する	発表 60分 討議 30分

16	個別に夏休みの進捗状況を聞き、今後の課題を明確にする。	事前：課題の確認をする 事後：配付資料を読む	講義 30分 演習 60分
17	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
18	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
19	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
20	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
21	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
22	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
23	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
24	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
25	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
26	個別指導：論文の草稿を検討する	事前：卒論を執筆する 事後：授業の内容を整理する	演習 90分
27	個別指導：論文のまとめ	事前：卒論の確認をする 事後：卒論の修正を行なう	演習 90分
28	個別指導：論文の最終確認	事前：卒論の修正を行なう 事後：発表要旨をまとめる	演習 90分
29	卒業論文発表会	事前：発表原稿の確認をする 事後：授業を振り返る	発表会
30	まとめ（講評と課題）	事前：卒論の提出準備をする 事後：卒論提出	講義 30分 討議 60分
教本： 必要に応じて資料を配付します。		参考文献： 授業の中で適宜お知らせします。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、レポート・論文・発表等（60%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 主体的に楽しく取り組み、成長することを期待します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	松浦 恵津子																									
履修条件	前提科目	演習Ⅰ																								
	その他	なし																								
授業概要：																										
卒業論文の完成を目指して、演習Ⅰで設定したテーマに関する資料の収集・読み込み、アウトラインの作成、執筆という一連の作業を行う。																										
授業目標：																										
1. 設定したテーマに関する資料を読み、論文作成のための思考力・判断力を養う。 2. 論文の書き方を学ぶ。 3. 卒業論文を完成させる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：テーマ設定と研究計画 事後：各自研究を進める		講義・演習																		
2	日本語等に関する論文を読んで、論文執筆作法を学ぶ					事前：プリントに目を通す 事後：授業内容整理		講義・演習																		
3～7	個別指導					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
8	卒業論文中間報告会					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
9～14	個別指導					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
15	卒業論文中間報告会					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
16	オリエンテーション					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		講義・演習																		
17～21	個別指導					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
22	卒業論文中間報告会					事前：後置詞とは 事後：授業内容整理		講義・演習																		
23～26	個別指導					事前：研究報告準備 事後：各自研究を進める		演習																		
27～30	個別指導、卒業論文の完成と提出					事前：卒業論文を完成させる 事後：卒業論文の提出		演習																		
教本： なし		参考文献： それぞれの研究テーマに応じて考える。																								
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、報告等（20%）、論文（60%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 大学4年間の集大成の時期です。論文作成に取り組むことで、多くの能力が養われます。論文完成を目指していきましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)					科目分類	専門科目																			
担当教員	水本 深喜																									
履修条件	前提科目	演習Ⅰ																								
	その他	なし																								
授業概要:																										
演習Ⅰで立てた研究計画に基づき、卒業論文を作成します。研究の進捗状況はゼミノートに記し、指導教員と共有しながら研究を進める。研究発表会では、ゼミ生同士で意見を述べ、研究内容をブラッシュアップしていく。																										
授業目標:																										
自分の満足のいくような卒業論文を完成させる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態																			
1	オリエンテーション					事前：卒業論文作成の展望を持つ 事後：卒業論文作成の展望を修正する	演習																			
2・3	研究計画発表会					事前：発表資料を作成する 事後：研究計画を修正する	演習																			
4	研究倫理					事前：研究倫理について調べる 事後：研究倫理を理解する	演習																			
5	研究倫理審査申請書の作成					事前：研究倫理審査申請書を作成する 事後：研究倫理審査申請書を提出する	演習																			
6	調査・実験準備					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験の準備	演習																			
7	予備調査・実験の実施					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験方法の修正	演習																			
8・9	調査・実験の実施					事前：調査・実験の準備 事後：調査・実験の実施	演習																			
10・11	データの整理・分析					事前：調査・実験により得られたデータを整理する 事後：データを分析する	演習																			
12・13	分析結果のまとめ					事前：データを分析する 事後：分析結果をまとめ、中間発表資料を作成する	演習																			
14・15	卒業研究中間発表会①					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる	演習																			
16～23	卒業論文の作成					事前：卒業論文を作成する 事後：卒業論文を作成する	演習																			
24・25	卒業研究中間発表会②					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる	演習																			
26～29	卒業論文の作成					事前：卒業論文を作成する 事後：卒業論文を作成する	演習																			
30	卒業論文発表会					事前：発表資料を作成する 事後：いただいた意見をまとめる	演習																			
教本：																										
参考文献： 『心理学の卒業研究ワークブック 発想から論文完成までの10ステージ』 なし 小塙真司・宅香菜子 金子書房																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、卒業論文（60%）で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 積極的にゼミに参加し、主体的に研究を進めましょう。																										
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習												
授業科目(英文)	英語科指導法 I (TEFL I)						科目分類	教職課程科目													
担当教員	廣本 和枝																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要:																					
日本人が英語を学ぶ場合に留意しなければならない点を、音声、語彙、文法の各項目について、具体的にテキストとハンドアウトの英文を用いて考える。この作業をしながら、文部科学省の指導要領で採用している「学校文法」(pedagogic grammar)について理解を深める。生徒を指導できるに十分な英語の運用能力の基礎固めをする。																					
授業目標:																					
英語の教員として自信を持って教壇にたてるようになるために、最低限必要な英語の基礎固めをすることを目標とする。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態													
1	学校文法：名詞・代名詞					事前：Text pp.12-19 事後：シャドウイング		演習 90 分													
2	学校文法：動詞					事前：Text pp.20-23 事後：シャドウイング		演習 90 分													
3	学校文法：助動詞					事前：Text pp.24-27 事後：シャドウイング		演習 90 分													
4	学校文法：形容詞・副詞					事前：Text pp.28-33 事後：シャドウイング		演習 90 分													
5	学校文法：単語の役割と文・文の種類・主述の一致					事前：Text pp.34-47 事後：シャドウイング		演習 90 分													
6	学校文法：現在形と現在進行形					事前：Text pp.48-51 事後：シャドウイング		演習 90 分													
7	学校文法：過去形と現在完了形					事前：Text pp.52-55 事後：シャドウイング		演習 90 分													
8	学校文法：過去進行形と過去完了・動詞の変形					事前：Text pp.56-63 事後：シャドウイング		演習 90 分													
9	学校文法：受動態					事前：Text pp.100-103 事後：シャドウイング		演習 90 分													
10	学校文法：分詞					事前：Text pp.70-73 事後：シャドウイング		演習 90 分													
11	学校文法：関係代名詞・関係副詞					事前：Text pp.74-83 事後：シャドウイング		演習 90 分													
12	学校文法：原級・比較級・最上級					事前：Text pp.84-87 事後：シャドウイング		演習 90 分													
13	学校文法：接続詞・前置詞					事前：Text pp.88-95 事後：シャドウイング		演習 90 分													
14	学校文法：不定詞・動名詞					事前：Text pp.96-99 事後：シャドウイング		演習 90 分													
15	学校文法：仮定法・疑問詞					事前：Text pp.104-111 事後：シャドウイング		演習 90 分													
教本：																					
『TOEIC テスト 書き込みノート 文法編 新形式に対応!』 学研 ¥1,300 税別																					
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）																					
解説：外国語編』 開隆堂 ¥119 税別																					
成績評価の方法、評価基準：																					
授業参加状況（40%）、定期試験（60%）で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
標準的な文法用語を理解できるようになってください。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習				
授業科目(英文)	英語科指導法Ⅱ (TEFL Ⅱ)					科目分類	教職課程科目						
担当教員	廣本 和枝			履修条件	前提科目	なし	その他	なし					
授業概要:	中学・高校での英語教員となるために必要な力を養うために、配布するハンドアウトの項目ごとの'Activities'を実践する。英語の教授法について理解を深め、文部科学省の学習指導要領に基づいて教案作成ができるようになるための基礎知識を学ぶ。												
授業目標:	英語の教員として自信を持って教壇にたてるようになるために、最低限必要な英語教育の基礎固めをすることを目標とする。												
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
○	○												
授業計画・事前学習・事後学習・形式													
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態					
1	学習指導要領(小学校、中学校) 教科書 pp. 27-34					事前: 資料を読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
2	学習指導要領(中学校、高校) 教科書 pp. 34-37					事前: 資料を読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
3	国際基準 Common European Framework of Reference: Can-Do-List 中学校教科書とコースブック Four Corners の実例					事前: 資料を読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
4	教授法 (Language Teaching Methodology: Method, Approach, Design, Procedure) Handouts pp. 1-3, 教科書 pp. 78-79					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
5	教授法の比較 (Language Teaching Methodology: The Table) Handouts pp. 4-5, 教科書 pp. 79-96					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
6	CLT の定義 (the definition of 'communicative approach') Handouts pp. 6-8, 教科書 pp. 89-96					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
7	CLT (Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, 中学校教科書の実例					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
8	Tasks of CLT (Tasks of Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, コースブック Four Corners の実例					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
9	第二言語の習得: 概要 (Second Language Acquisition: Communication) Handout pp. 12, 教科書 pp. 97-101					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
10	第二言語の習得: 動詞 (Second Language Acquisition: How to Deal with Verbs) Handouts pp. 13-14, 教科書 pp. 101-106					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
11	第二言語の習得と自身のシステム (Second Language Acquisition and Your Own System) Handouts pp. 15-17, 教科書 pp. 106-109					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
12	学校文法とコミュニケーション (Pedagogic Grammar and Communication) Handouts pp. 18-19, 教科書 pp. 226-230					事前: 資料を読む 事後: ディスカッション		演習 90 分					
13	学校文法は大雑把 (Pedagogic Grammar as the Rule of Thumbs) Handouts pp. 20-21, 教科書 pp. 230-240					事前: 資料に目を通す 事後: ディスカッション		演習 90 分					
14	学習者の要因 (Learners Factors) 教科書 p. 38-44					事前: 資料に目を通す 事後: ディスカッション		演習 90 分					
15	学習者の方略 (Learners Strategy) 教科書 pp. 44-51					事前: 資料に目を通す 事後: ディスカッション		演習 90 分					
教本:	参考文献: 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 『文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説:外国語編』 開隆堂 ¥119 + 税												
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況(50%)、定期試験(50%)で総合評価する。												
学生へのアドバイス:	副教材として英語で書かれたハンドアウトを配布しますので、教科書の該当するところを参照して、ハンドアウトの'Activities'の要旨を理解するようにしてください。												
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。												

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	英語科指導法Ⅲ (TEFL Ⅲ)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	廣本 和枝																									
履修条件	前提科目 その他	英語科指導法 I・II なし																								
<b>授業概要:</b> 外国語としての英語教育について、演習形式で学ぶ。ハンドアウトの'Activities'についてディスカッションをしながら、要点を明確にしていく。自分の英語学習の体験に基づいて積極的に発言することが望まれる。																										
<b>授業目標:</b> 英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて、文部科学省の学習指導要領に沿った教案を準備できるようにすることが目標である。																										
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 5px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
	○	○																								
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態																		
1	英語教育について 教科書 pp. 3-13					事前: なし 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
2	英語の国際化 教科書 pp. 14-26					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
3	日本の英語教育概観: ハンドアウト 山田雄一郎著『日本の英語教育』抜粋 教科書 p. 26					事前: 教科書を読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
4	語彙: 形態素とイディオム (Lexis: Morphemes and Idioms) Handouts pp. 21-23 教科書 pp. 241-249					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
5	語彙: コロケーション (Lexis: Collocation) Handouts pp. 24-25 教科書 pp. 249-253					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
6	シラバスと教科書 (Syllabus and Coursebook) Handout p. 25 教科書 pp. 213-216					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
7	シラバスと教材 (Syllabus and Materials: Sequencing of Grammar Items) Handout p. 26 教科書 pp. 216-220					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
8	シラバスと教材: 本物らしさ (Syllabus and Materials: A Real-World Interaction) Handouts pp. 27-28 教科書 pp. 220-223					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
9	シラバスと教材の実例 (Syllabus and Materials: Handout, 'Find seven differences') 教科書 pp. 223-225					シラバス		演習 90 分																		
10	教室での談話: 前置き (Classroom and Spoken Discourse: Introduction) Handout p. 29					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
11	教室での談話と談話分析 (Classroom and Spoken Discourse: Analyzing Classroom Discourse) Handouts pp. 30-31					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
12	音韻体系: 調子単位 (Phonology: Tone Unit) Handouts pp. 32-33					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
13	音韻体系: 同時調音・同化・音脱落 (Phonology: Co-articulation, Assimilation and Elision) Handout p. 33					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
14	音韻体系: 音のつながりの要因 (Phonology: Stream factors) Handout p. 34 教科書 p. 145					事前: ハンドアウトを読む 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
15	復習: CLT とタスク (Review: Communicative Language Teaching and Tasks)					事前: ハンドアウト参照 事後: ディスカッション		演習 90 分																		
<b>教本:</b> 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 『文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説: 外国語編』 開隆堂 ¥119 + 税					<b>参考文献:</b> <i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman																					
<b>成績評価の方法、評価基準:</b> 授業参加状況 (50%)、定期試験 (50%) で総合評価する。																										
<b>学生へのアドバイス:</b> 授業毎に次の授業の資料を配布しますので、目を通して授業に臨んでください。																										
<b>オフィスアワー:</b> 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習										
授業科目(英文)	英語科指導法IV (TEFL IV)					科目分類	教職課程科目												
担当教員	廣本 和枝																		
履修条件	前提科目	英語科指導法 I、II、III			その他	なし													
<b>授業概要 :</b> 外国語としての英語教育について、より具体的に、四技能の指導やクラス運営について学ぶ。教材を各自選んで、学んだことを実際に試み、教授法や評価法、あるいは教材そのものについて考察し、ディスカッションする。																			
<b>授業目標 :</b> 英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて文部科学省の学習指導要領に沿った教案を作成し、教室で具体的に実践できるようになることが目標である。																			
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○				
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																	
	○	○																	
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																			
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態											
1	コミュニケーション活動の育成 参考教材例資料 教科書 pp. 110-119					事前:なし 事後:ディスカッション		演習 90 分											
2	リスニングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 120-134					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
3	スピーキングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 135-147					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
4	リーディングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 148-162					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
5	ライティングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 163-177					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
6	チーム・ティーチング(Team Teaching) 教科書 pp. 178-187					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
7	測定と評価 (Testing) Handouts pp. 42-43 教科書 pp. 188-200					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
8	授業運営 (Classroom Management) Handouts pp. 44-46 教科書 pp. 255-258					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
9	授業分析 (Classroom Research and Research Method) Handouts p.35-36 教科書 pp. 258-266					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
10	教員養成 (Teacher Training) およびICTとeラーニング Handouts pp. 47-48 教科書 pp. 52-62					事前:ハンドアウトを読む 事後:ディスカッション		演習 90 分											
11	模擬授業準備 模擬授業使用教科書から実施する課を決定 教科書 pp. 264-266					事前:教科書の課を一つ選ぶ 事後:ディスカッション		演習 90 分											
12	模擬授業準備 教案・教材作成 教科書 pp. 274-282					事前:教材収集・作成 事後:ディスカッション		演習 90 分											
13	第1回模擬授業実施と考察					事前:模擬授業練習 事後:ディスカッション		演習 90 分											
14	模擬授業の教案・教材の修正および追加など					事前:修正授業案の作成 事後:ディスカッション		演習 90 分											
15	第2回模擬授業実施と考察					事前:模擬授業練習 事後:ディスカッション		演習 90 分											
<b>教本 :</b> 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 + 税 『文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説:外国語編』 開隆堂 ¥119 + 税					<b>参考文献 :</b> <i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman														
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況 (50%)、定期試験 (50%) で総合評価する。																			
<b>学生へのアドバイス :</b> 授業毎に次の授業の資料を配布しますので、目を通して授業に臨んでください。																			
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	外国史論 I (History of the World I)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学びの学習法)型授業を通じて生きる力(自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心<感情の知性>、知・徳・体)を育む。インタークションで自己肯定感を高める。2. 多元的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識+討論+思考=独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる)。5. わかりやすい。6. ICT(情報通信技術)でやる気にさせる。7. Albert Bandura の社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢(Dreams come true. 夢が叶う)と目標を達成させる。																		
授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史(世界史)で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めようになることである。																		
授業の目標：1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、2. 外国史の課題を追究させ、解決させ、3. 平和で民主的な公民を育成させる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○つ）																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態											
1	外国史論 I の目次の説明(古代史、中世史、近世史、近代史、現代史)口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：教科書の目次の下読みをする。 事後：教科書の目次をノートに書く。			講義説明 40分。口頭 Q&A 10分。 アンケート 10分。自己紹介 30分。											
2	文明の成立と古代文明の特質について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：文明の成立と古代文明の特質の下読みをする。 事後：文明の成立と古代文明の特質のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。											
3	中央ユーラシアと東アジア世界について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：中央ユーラシアと東アジア世界の下読みをする。 事後：中央ユーラシアと東アジア世界のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。											
4	南アジア世界と東南アジア世界の展開について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：南アジア世界と東南アジア世界の展開の下読みをする。 事後：南アジア世界と東南アジア世界の展開のポイントを書く。			講義説明 10分。口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。課題10分。											
5	西アジアと地中海周辺の国家形成について説明する。口頭Q&Aをする。アンケートをする。第1回小テストを行う。			事前：西アジアと地中海周辺の国家形成の下読みをする。 事後：西アジアと地中海周辺の国家形成のポイントを書く。			講義説明20分。小テスト 60分。 アンケート10分。											
6	イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向の下読みをする。 事後：イスラーム教とヨーロッパ世界と西アジアの動向のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q&A 10分。 課題40分。											
7	ヨーロッパ世界の変容と展開について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：ヨーロッパ世界の変容と展開の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界の変容と展開のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
8	東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代の下読みをする。 事後：東アジア世界の展開とモンゴル帝国と大交易・大交流の時代のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
9	アジアの諸帝国の繁栄について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジアの諸帝国の繁栄の下読みをする。 事後：アジアの諸帝国の繁栄のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
10	近世ヨーロッパ世界の動向について説明する。第2回小テストを行う。			事前：近世ヨーロッパ世界の動向の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の動向のポイントを書く。			講義説明30分。小テスト 60分。											
11	産業革命と環大西洋革命について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：産業革命と環大西洋革命の下読みをする。 事後：産業革命と環大西洋革命のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
12	イギリスの優位と欧米国民国家について説明する。口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：イギリスの優位と欧米国民国家の下読みをする。 事後：イギリスの優位と欧米国民国家のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 ディスカッション40分											
13	アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動揺と帝国主義とアジアの民族運動のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
14	第一次世界大戦と第二次世界大戦について説明する。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：第一次世界大戦と第二次世界大戦の下読みをする。 事後：第一次世界大戦と第二次世界大戦のポイントを書く。			講義説明40分。口頭 Q& A10分。 課題40分。											
15	冷戦と今日の世界について説明する。(基礎) 外国史論 I のまとめをする。			事前：冷戦と今日の世界の下読みをする。 事後：冷戦と今日の世界のポイントをノートに書く。			講義説明60分。口頭 Q& A20分。 アンケート10分。											
教本：																		
参考文献：																		
木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦(著)、『世界史探究 詳説世界史』、川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、『最新世界史図説タペストリ』山川出版社、2023年3月出版、ISBN 978-4-634-70131-1、¥860。 一十七訂版、帝国書院、2019年、¥957。																		
世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年、¥3,080。																		
成績評価の方法、評価基準：																		
第15回目の授業時しめきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点(60%)。																		
学生へのアドバイス：																		
私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。																		
1. 外国史の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。																		
学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習									
授業科目(英文)	外国史論II (History of the World II)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	伊藤 幹彦																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要：																		
応用的な外国史論II。1. アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学びの学習法)型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感(self-efficacy)の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢(Dreams come true. 夢が叶う)と目標を達成させること。																		
授業目標：																		
授業のテーマは、応用レベルの外国史論でグローバル・ヒストリーの世界史(外国史)の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交差した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態											
1	外国史論IIの目次の説明(東アジア史、東南アジア史、西アジア史、欧州史、米国史)口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：教本の目次の下読みをする。 事後：教本の目次をノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。											
2	古代のユーラシアネットワークについて口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：古代のユーラシアネットワークの下読みをする。 事後：古代のユーラシアネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
3	唐帝国とアジアのネットワークについて口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：唐帝国とアジアのネットワークの下読みをする。 事後：唐帝国とアジアのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
4	イスラーム世界のネットワークについて口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：イスラーム世界のネットワークの下読みをする。 事後：イスラーム世界のネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。											
5	アジアのネットワークについて口頭Q&Aをする。アンケートをする。第1回小テストをする。			事前：第1回小テストのネットワークのポイントを覚える。 事後：第1回小テストのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明20分。小テスト60分。アンケート10分。											
6	大モンゴル国とネットワークについて口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：大モンゴル国とネットワークの下読みをする。 事後：大モンゴル国とネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
7	明帝国と清帝国のネットワークについて口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：明帝国と清帝国のネットワークの下読みをする。 事後：明帝国と清帝国のネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
8	東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏について、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏の下読みをする。 事後：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
9	東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易について、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易の下読みをする。 事後：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
10	アジアとヨーロッパのネットワークについて口頭Q&Aをする。第2回小テストをする。			事前：第2回小テストのネットワークのポイントを覚える。 事後：第2回小テストのネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明30分。小テスト60分。											
11	アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて、口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークの下読みをする。 事後：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
12	アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて、口頭Q&Aをする。ディスカッションをする。			事前：アジアとアメリカ合衆国とネットワークの下読みをする。 事後：アジアとアメリカ合衆国とネットワークのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。ディスカッション40分											
13	アジア交流圏とネットワークの形成について口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：アジア交流圏とネットワークの形成の下読みをする。 事後：アジア交流圏とネットワークの形成のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
14	交流圏とネットワークの展開について口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：交流圏とネットワークの展開の下読みをする。 事後：交流圏とネットワークの展開のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。											
15	応用レベルの外国史論IIのまとめ口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：これまでに書いたノートの下読みをする。 事後：これまでに学んだすべての授業内容のポイントを復習する。			講義説明60分。口頭Q&A20分。アンケート10分。											
教本：																		
木村靖二、岸本美緒、小松久男(編)、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。																		
参考文献：																		
世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年。																		
成績評価の方法、評価基準：																		
第15回目の授業時しめきりの期末小論文(40%)、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点(60%)。																		
学生へのアドバイス：																		
1. 外国史の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。																		
学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	教育課程論 (Curriculum Study)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	山本美紀・大沢 裕																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:	この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」に基づき、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について学びます。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラム及びカリキュラム評価の基礎的な考え方を身に付けることを目的とします。																	
授業目標:	①学習指導要領の改訂の変遷とその社会的背景を説明できる。 ②教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明できる。 ③教育課程編成の基本原理を理解し、学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を検討できる。 ④学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。 ⑤カリキュラム評価の基礎的な考え方を述べることができる。																	
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)	知識・技能の習得																	
	思考力・判断力・表現力の育成		○		○		学びに向かう力・人間性の涵養											
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態											
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 教育課程とは何か、について学ぶ。(山本・大沢)				事前:シラバスを読む 事後:ミニッツペーパー		アイスブレイク(10分) 講義(80分)											
2	教育課程とカリキュラムについて学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(90分)											
3	日本における教育課程の基本構造について学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(90分)											
4	教育課程と学習指導要領について学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(90分)											
5	教育課程行政と諸制度について学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(90分)											
6	教科書と学習指導要領について学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:小テストの振り返り		講義(60分) 小テスト(30分)											
7	総合的な学習の時間の背景と変換について学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:レポート課題		講義(70分) シンクペアシェア(20分)											
8	カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。(大沢)				事前:テーマについて下調べ 事後:レポート課題(最終版)		講義(70分) シンクペアシェア(20分)											
9	カリキュラム評価について学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(70分) シンクペアシェア(20分)											
10	高等学校の多様な教育課程について学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(70分) シンクペアシェア(20分)											
11	学習指導要領の変遷(1) 戦後復興からゆとり路線までについて学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)											
12	学習指導要領の変遷(2) グローバル化と学力観の転換について学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(60分) ディスカッション(30分)											
13	日本における教育課程の開発と研究制度について学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:ミニッツペーパー		講義(90分)											
14	多文化共生を目指す教育課程の動向について学ぶ。(山本)				事前:テーマについて下調べ 事後:学びのマップ作成		講義(60分) グループワーク(30分)											
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。(山本)				事前:ポートフォリオの整理 事後:学びの振り返りを行う		講義(40分) 試験(50分)											
教本:	参考文献: 吉田武雄監修・根津朋美編著『MINERVA 初めて学ぶ教職 教育課程』 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 その他、必要に応じて授業内で紹介する。																	
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する	評価ポートフォリオ(ミニッツペーパー、レポート課題、振り返り等):60%、小テスト:10%、(第15回)試験:30%で総合評価する。 ※評価ポートフォリオは、ループリック(評価基準)による自己評価を含む。																	
学生へのアドバイス:	教育課程とカリキュラムについて理解を深めることによって、「何のために学び・教えるか」という問いと答えを見出す機会にしてください。																	
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																	

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	教育原理 (Foundations of Education)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	大沢 裕																	
履修条件	前提科目	なし			その他	なし												
授業概要:																		
教育の理念と意味、教育思想の歴史的変遷、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会の教育のあり方、現代の喫緊の課題などを理解させる。教育の基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動実践原理の体系的な理解を促す。																		
授業目標:																		
教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○○）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	教育の意義			事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
2	教育の目的・理念			事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
3	家庭教育（家族の教育）			事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分											
4	学校教育			事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
5	社会教育			事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
6	諸外国の教育思想と歴史（古代）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
7	諸外国の教育思想と歴史（中世ヒルネッサンス期）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
8	諸外国の教育思想と歴史（近代）			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
9	我が国の教育思想と歴史			事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
10	人権教育			事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分											
11	近代の教育制度・教育法規の基礎			事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
12	教育の内容			事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
13	教育の方法			事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分											
14	教育実践の様々な取り組み			事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分											
15	生涯学習と現代の教育課題			事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：なし			グループ討論 45分、 講義 45分											
教本：																		
教本：『教育の知恵60』（大沢裕編著、一藝社）																		
参考文献：																		
適宜、授業時に掲示する。																		
成績評価の方法、評価基準：																		
教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方方が身についているかを、討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。評価の配分基準：討論の発表内容（10%）、レポート内容（30%）、筆記試験（60%）																		
学生へのアドバイス：																		
絶えず教育の時事的問題に关心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習									
授業科目(英文)	教育実習 I (Practice Teaching I)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	深谷 野亞																	
履修条件	前提科目 その他	なし 教職課程履修生しか受講できません																
<b>授業概要 :</b> 来年度、教育実習に行くことを前提とし、模擬授業を軸に実践的な訓練をしていきます。																		
<b>授業目標 :</b> 教育実習生として必要な知識・資質について改めて自己認識自己評価をし、主体的に学ぶ姿勢を育成していきます。																		
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		○	○			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																
	○	○																
<b>授業計画・事前学習・事後学習、形式</b>																		
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態											
1	オリエンテーション			事前: なし 事後: 次回の配布資料を読む。			講義70分・発表20分											
2	教育実習とは何か 教育実習中の時間の過ごし方を理解すると共に、それぞれ課題を考えてみます。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ディスカッション30分											
3	教育実習生に必要なものとは何か 実習生としてどんな準備が必要だと思うか、具体的に話し合い、自覚を高めています。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ディスカッション30分											
4	教育実習に行くためにI (理想とする教師とは) 実習に行く前に、改めて自分にとって理想とする教師像は何かを確認します。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ディスカッション30分											
5	教育実習に行くためにII (個人情報の取り扱いについて) 個人情報を取り扱う注意点や責任の重さについて考えます。			事前: 個人情報に関連した事件を調べる。 事後: 授業内容をまとめる。			講義60分・ディスカッション30分											
6	子どもの権利条約 実習に行くに当たり、「子どもの権利条約」を理解し、子どもの人権について考えます。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・グループワーク30分											
7	障害者の権利に関する条約 障害者の権利に関する条約を理解し、障害者的人権と「合理的配慮」について理解します。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・グループワーク30分											
8	主体的な学びについて考える 子どもたちが主体的対話的で深い学びとは何かを考え、そのためには何が必要かを考えます。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ディスカッション30分											
9	指導案について学ぶI (生徒観・評価について考える) 指導案の生徒観・評価について、基礎を理解します。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・グループワーク30分											
10	指導案について学ぶII (ワークシート・板書計画について) いくつかの実践例から、どういったワークシート・板書計画が有効かを考えます。			事前: 配布資料を読む。 事後: 配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・グループワーク30分											
11	指導案について学ぶIII (指導案の作成) 前回の指導内容をふまえ、各自指導案を作成してみます。			事前: 配布資料を読む。 事後: 作成した指導案を使い、授業をシミュレートする。			講義10分・グループワーク80分											
12	履修生による模擬授業I			事前: 指導案を作成。 事後: 模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ディスカッション20分											
13	履修生による模擬授業II			事前: 指導案を作成。 事後: 模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ディスカッション20分											
14	履修生による模擬授業III			事前: 指導案を作成。 事後: 模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ディスカッション20分											
15	まとめ			事前: 授業全体のふりかえりをしておく。 事後: 今後の課題をまとめる。			講義30分・グループワーク30分・ディスカッション30分											
<b>教本 :</b> 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめています。																		
<b>参考文献 :</b> 授業中、適宜指示します。																		
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 授業参加状況等 (50%)、レポート・プレゼンテーション等 (50%)																		
<b>学生へのアドバイス :</b> 教育実習生として、自分が何をすべきか、何が課題かがわかれれば、自分がすべきことがわかると思います。																		
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝えます。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	教育社会学 (Sociology of Education)						科目分類	教職課程科目													
担当教員	深谷 野亞																				
履修条件	前提科目	なし			その他	教職課程履修生しか受講できません															
授業概要 :																					
この授業では、現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導く出す姿勢を身につけることを促進していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指します。																					
授業目標 :																					
教育がどのような制度／法律下で子どもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようにすることを目的としている。具体的には以下の5つを目標とする。①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育のかかわりについて理解する③学校改善のための取組について理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校作りへの取組を理解する。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																					
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○		○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態													
1	社会変化と学校 情報化を取り上げながら、社会変化が学校教育にどう影響を与えていたかを考えていきます。				事前：なし 事後：次回の配布資料を読む			講義70分・ ディスカッション20分													
2	家族変化と学校 少子化が子どもの成長・教育に対してどう影響を与えていたかを考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ ディスカッション30分													
3	公教育の原理について考える 公教育としての学校について、日本の学校の特徴や学校教育における公共性の問題を考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ グループワーク30分													
4	日本の教育制度とは何か 明治以降の教育制度の変遷をたどりながら、制度と教育の関連について考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義70分・ グループワーク20分													
5	諸外国の教育改革と課題を考える 諸外国の教育改革を理解し、その上で日本の教育改革の現状と課題を理解します。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ グループワーク30分													
6	教育政策と教育行政 教育政策や教育行政の原理を理解し、課題と改善策を考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義70分・ グループワーク20分													
7	日本国憲法と教育基本法 日本国憲法と教育基本法の関係を理解すると共に、教育基本法がどう改正されたかを考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義80分・ グループワーク10分													
8	学校教育法と関連法規 学校に関連するさまざまな関連法規について理解します。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ ディスカッション30分													
9	学級経営とは何か 生徒たちが主体的に学習する組織にするために、学級経営の在り方について考えていきます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ グループワーク30分													
10	教育評価と学級経営 学級経営を評価し、次年度以降の改善にどうつなげているのか、その方法を理解します。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ グループワーク30分													
11	評価というシステム—PDCAサイクルを理解するー PDCAサイクルを理解し、自ら実践できるようにします。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・ グループワーク50分・発表20分													
12	チームとしての学校という視点 中教審答申を中心に、チームとしての学校という視点を理解します。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ グループワーク30分													
13	開かれた学校Ⅰ（地域の教育力の活用）学校・家庭・地域社会の連携の在り方を理解します。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・グループディスカッション60分・発表10分													
14	開かれた学校Ⅱ（学校評議委員・学社連携の模索） 地域から信頼できる学校作りのための実践例を学習し、課題について考えます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・グループディスカッション60分・発表10分													
15	開かれた学校と安心・安全な学校作り 「開かれた学校」と生徒にとっての安全な学校作りの兼ね合いは非常に難しい。いくつかの実践例から、課題を考えます。				事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			発表60分・講義30分													
教本 :																					
参考文献 :																					
毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。 高妻紳次郎『新・教育制度論：教育制度を考える15の視点』ミネルヴァ書房、2014年。その他授業中に適宜紹介します。																					
成績評価の方法、評価基準 :																					
授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）																					
学生へのアドバイス :																					
社会学的思考を自ら実践できるようになることを目的としています。授業には積極的に参加してください。																					
オフィスアワー :																					
初回講義日に伝えます。																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	教育心理学 (Educational Psychology)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	田村 修一																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要 :																										
幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、心理学的なメカニズムを学ぶことにより、将来、教職に携わる者として必要な発達と学習の支援のあり方について考える。																										
授業目標 :																										
1. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について理解できる。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明) 発達とは何か (成熟と学習の違いについて考える)				事前 : シラバスに目を通す 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
2	発達段階と発達課題 (エリクソンの生涯発達論)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
3	運動と言語の発達				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
4	認知の発達 (ピアジェの認知発達論)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
5	社会性の発達 (ボウルヴィの愛着理論)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
6	思春期・青年期の発達 (アイデンティティの確立)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
7	学習の理論 (条件づけと観察学習)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
8	認知と学習 (記憶のメカニズム)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 45 分・演習 45 分																		
9	学習形態と指導				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
10	動機づけ				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
11	学級のアセスメントと集団づくり (Q-Uの理解と活用)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
12	学習の評価				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
13	発達と教育 (これからの教育に必要なことを考える)				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 60 分・演習 30 分																		
14	発達障害 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム) の理解				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
15	発達障害 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム) の支援				事前 : なし 事後 : 授業の振り返りの記入			講義 90 分																		
教本 :					参考文献 :																					
「学習と発達」内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020年					「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年																					
成績評価の方法、評価基準 :																										
平常点 (授業への参加態度、リアクションペーパー・振り返りレポート) 40% と定期試験 (60%) の総合評価。																										
学生へのアドバイス :																										
「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」などと言われますが、そんなことはありません、しっかり学びましょう。																										
オフィスアワー :																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	教育相談 (Educational Counseling)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	田村 修一																									
履修条件	前提科目 その他	「教育心理学」の授業を履修済であること。 なし																								
授業概要： 本授業では、教職志望者のためのスクール・カウンセリング（①理論、②技法、③アセスメント法）について学ぶ。治療的カウンセリングだけではなく予防・開発的カウンセリングについても学ぶ。そして、生徒理解を深め、効果的な指導・援助ができるように演習を交え体験的に学ぶ。																										
授業目標： 学校現場の大きな課題であるいじめ、不登校、学業不振、特別支援教育などの解決のためには、教師がカウンセリング理論や技法を学んでおく必要がある。そこで本授業では、教師に必要なカウンセリング理論、教育相談の基本的技法、生徒理解を深めるための心理アセスメント法の習得を目標とする。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 学校教育における教育相談の意義				事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
2	学校心理学を基盤とした教育相談の進め方				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
3	カウンセリング理論① 精神分析理論				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
4	カウンセリング理論② 認知行動理論				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
5	カウンセリング理論③ 人間性心理学（パーソン・センタード（来談者中心）アプローチ				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
6	カウンセリングの技法① グループアプローチ： 構成的グループ・エンカウンターの活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義30分・演習60分																		
7	カウンセリングの技法② グループアプローチ： グループワーク・トレーニングの活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			演習90分																		
8	カウンセリングの技法③ 傾聴トレーニング				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			演習90分																		
9	心理教育的アセスメント① 交流分析とエゴグラムの理解と活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義60分・演習30分																		
10	心理教育的アセスメント② 知能検査（WISC）の理解と活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
11	心理教育的アセスメント③ 心理検査（描画法：バウムテスト）の理解と活用				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義60分・演習30分																		
12	事例研究① いじめの理解と援助				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
13	事例研究② 不登校の理解と援助				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
14	事例研究③ 発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）の理解と特別支援教育				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義90分																		
15	事例研究④ 保護者の悩みに対する教育相談				事前：なし 事後：学びの振り返りの記入			講義60分・演習30分																		
教本： 「スクールカウンセリングのこれから」石隈利紀・家近早苗 創元社 2021年					参考文献： 「チーム学校力を高めるカウンセリング」水野治久・田村修一 ぎょうせい い 2022年																					
成績評価の方法、評価基準： 平常点（リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験（60%）の総合評価。																										
学生へのアドバイス： 「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	教育方法論(情報通信技術の活用含む)(The Method of Education(including use of ICT))						科目分類	教職課程科目										
担当教員	山本美紀・鈴木秀頼																	
履修条件	前提科目	なし						その他	なし									
<b>授業概要 :</b> この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に基づき、これから社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、(1)教育の方法論、(2)教育の技術、(3)情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。具体的には、教育方法の基礎的理論と実践を学び、教育の目的に適した指導技術を身に付けます。さらに、ICT(情報通信技術)を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について考え、児童及び生徒に情報活用能力、情報モラルを育成するための指導法を身に付けます。																		
<b>授業目標 :</b> ①社会的背景の変化やICTの発展における教育方法の理論及び方法を概観し、教育とは何か自分の考えを述べることができる。 ②指導と評価の一体化について理解し、学習意欲を高める授業を企画できる。 ③インストラクションナルデザインの考え方を理解し、ICTを活用した授業設計、学習指導案および教材等を開発できる。 ④ICTを効果的に活用し、模擬授業を行うことができる。 ⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○)																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 教育方法論の歴史的背景、学問の体系、方法について学ぶ。(山本)				事前:シラバスを読む 事後:ミニッツペーパー			アイスブレイク(10分) 講義(80分)										
2	教育の方法と技術に関する理論、最近の動向、統合型公務支援システムを含むICTを活用した事例について学ぶ。(山本)				事前:教育ニュースを調べる 事後:ミニッツペーパー			講義(90分)										
3	学力とカリキュラム・教育課程について学ぶ。(山本)				事前:学習指導要領の下調べ 事後:ミニッツペーパー			講義(90分)										
4	インストラクションナルデザインとICTの活用(1) メガーゲーの3つの質問、到達目標について学ぶ。(山本)				事前:IDについて下調べ 事後:授業企画(案)を検討			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)										
5	インストラクションナルデザインとICTの活用(2) 評価方法と評価基準について学ぶ。(山本)				事前:評価について下調べ 事後:学習指導案を検討する			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)										
6	インストラクションナルデザインとICTの活用(3) 授業方略と課題分析について学ぶ。(山本)				事前:学習指導案ルーブリックを読む 事後:学習指導案の作成			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)										
7	インストラクションナルデザインとICTの活用(4) 教材・教具、板書とデジタルコンテンツについて学ぶ。(山本)				事前:教材と教具の下調べ 事後:教材を検討する			講義(60分) 小テスト(30分)										
8	インストラクションナルデザインとICTの活用(5) 学習指導とファシリテーションについて学ぶ。(山本)				事前:学習指導案の自己評価 事後:学習指導案の改善			講義(60分) グループワーク(30分)										
9	学習環境デザイン(1) 一斉授業とアクティブラーニングについて学ぶ。(鈴木)				事前:テーマについて下調べ 事後:教材の作成			講義(60分) ディスカッション(30分)										
10	学習環境デザイン(2) オンライン授業とハイブリッド授業について学ぶ。(鈴木)				事前:テーマについて下調べ 事後:教材の作成			講義(60分) ディスカッション(30分)										
11	統合型公務支援システムを含むICTの活用、情報教育と情報モラル教育の指導法について学ぶ。(鈴木)				事前:テーマについて下調べ 事後:模擬授業の準備			講義(60分) ディスカッション(30分)										
12	教育評価と教育データ(学習履歴、ポートフォリオなど)について学ぶ。(鈴木)				事前:模擬授業ルーブリックを読む 事後:模擬授業の準備			講義(60分) ディスカッション(30分)										
13	ICTの活用と学びを深める授業研究 模擬授業を行う。(山本・鈴木)				事前:なし 事後:模擬授業の振り返り			模擬授業(90分)										
14	ICTの活用と学びを深める授業研究 模擬授業(続き)と模擬授業の振り返りを行う。(山本・鈴木)				事前:なし 事後:模擬授業の振り返り			模擬授業(90分)										
15	まとめと学びの振り返りを行う。 ICTの未来と教育の方法及び技術の展望について考える。(山本)				事前:学びのマップの作成 事後:学びの振り返りを行う			講義(60分) 振り返り(30分)										
<b>教本 :</b> 指定しない。 必要に応じて授業内で資料等を配布する。																		
<b>参考文献 :</b> 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 その他、必要に応じて授業内で紹介する。																		
<b>成績評価の方法、評価基準 :</b> 学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、レポート課題、学習指導案、振り返り等):60%、小テスト:10%、模擬授業(発表):30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ループリック(評価基準)による自己評価を含む。																		
<b>学生へのアドバイス :</b> この授業は、学生の立場と教師の立場の両面に立って議論と実践を行い、教育とは何か、学習とは何かを考え、自分の学びを問う科目でもあります。ぜひ、自分自身が成長する学びの方法を学ぶ機会にしてください。																		
<b>オフィスアワー :</b> 初回講義日に伝える。																		

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	教師論 (The Study of Teacher)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	山本美紀・大沢 裕																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）」に基づき、現代社会において教職に求められる資質・能力を身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方について学びます。具体的には、(1)教職の社会的意義、(2)教員の役割、(3)教員の職務内容、(4)チーム学校への対応など教職に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。																										
授業目標:																										
①今日の学校教育や教職の社会的意義について、自分の考えを述べることができる。 ②教師像の変遷を概観し、今日の教師に求められる役割や、資質・能力を説明できる。 ③教員の職務と義務を理解し、職務遂行のために何が必要かをディスカッションできる。 ④チーム学校への対応を理解し、家庭・学校・社会との連携の必要性を説明できる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 教師を目指すということについて考える。（山本・大沢）				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク(10分) 講義(80分)																		
2	教師の仕事とその魅力について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(70分) シンクペアシェア(20分)																		
3	日本の教職の特徴と専門性について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(70分) シンクペアシェア(20分)																		
4	教師像の変遷について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(70分) シンクペアシェア(20分)																		
5	教師の服務と職務上・身分上の義務について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(90分)																		
6	教員の権利と身分保障について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：小テストの振り返り			講義(60分) 小テスト(30分)																		
7	学び続ける教師と教員研修制度について学ぶ。（山本）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(90分)																		
8	チーム学校とミドルリーダー教師への成長について学ぶ。（大沢）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(90分)																		
9	「学びの場」を生み出す教師について学ぶ。（大沢）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(60分) ディスカッション(30分)																		
10	〈いのち〉を真ん中に据えた学校づくりについて学ぶ。（大沢）				事前：教育ニュースを調べる 事後：レポート課題			講義(60分) ディスカッション(30分)																		
11	いじめに向き合うについて学ぶ。（大沢）				事前：教育ニュースを調べる 事後：レポート課題（最終版）			講義(60分) ディスカッション(30分)																		
12	学校・教師のこれから課題について学ぶ。（大沢）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(60分) ディスカッション(30分)																		
13	「教える」ということの意味について学ぶ。（大沢）				事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義(60分) ディスカッション(30分)																		
14	教師に求められる資質・能力と「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿について学ぶ。（大沢）				事前：テーマについて下調べ 事後：学びのマップ作成			講義(60分) グループワーク(30分)																		
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。教員採用試験の動向について説明する。（山本）				事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う			講義(40分) 試験(50分)																		
教本:		参考文献: 佐久間亜紀・佐伯脅編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。 ISBN : 978-4-623-08536-1																								
成績評価の方法、評価基準:																										
学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、レポート課題、振り返り等）: 60%、小テスト: 10%、（第15回）試験: 30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ループリック（評価基準）による自己評価を含む。																										
学生へのアドバイス:																										
「教育は人なり」といわれます。未来の教師像を見据えて、学び続けるという権利と責任を学ぶ機会にしてください。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習																	
授業科目(英文)	教職実践演習 (Practical Study for Teaching)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	深谷 野々・大沢 裕・石上 七輔・増田 裕彦・山本 美紀																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他 教師になる意欲のある者																										
授業概要： 教職課程の仕上げの授業にあたる。大学4年間で学んだことと教職実習での経験を整理・統合し、教員としての資質の向上を図るものである。授業形態としては講義を減らし討議や発表、現場見学を組み合わせ、実際の教職現場を想定した実践形式での授業を行っていく。																										
授業目標： 教師として必要な資質を各自が確認し、実践的な指導力を有する教員としての資質向上に務める。 具体的な目標としては以下の4点である。 ①教師としての使命感や責任感を持ち、子どもに対する愛情が豊かであるか。②教師として必要な社会性や対人関係能力を身につけているか。③生徒理解や学級運営について、必要な基礎的な能力が身につけているか。④教科内容の基礎的な指導力を身につけているか。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	これまでの学習の振り返りについて			事後：ふりかえり、レポートを作成			講義30分・ディスカッション40分・発表20分																			
2	学校経営についてⅠ			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義40分・ディスカッション30分・発表20分																			
3	学校経営についてⅡ			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義40分・ディスカッション30分・発表20分																			
4	教育相談の方法			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義30分・ロールプレイ30分・ディスカッション30分																			
5	教職の意義：教員の役割			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義40分・ディスカッション30分・発表20分																			
6	児童・生徒とのコミュニケーション			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義40分・ディスカッション30分・発表20分																			
7	いじめ理解について			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義50分・ロールプレイ30分・発表10分																			
8	子ども理解の方法			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義60分・ディスカッション20分・発表10分																			
9	学校現場の見学Ⅰ（森の里中学校）			事前：それぞれ何に着目するか考えておく			見学90分																			
10	学校現場の見学Ⅱ（森の里中学校）			事後：見学から何を考えたかまとめる			見学60分・ディスカッション30分																			
11	模擬授業Ⅰ			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義20分・模擬授業60分・講義10分																			
12	指導力がある教師			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義60分・ディスカッション20分・発表10分																			
13	保護者との応対			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義40分・ロールプレイ20分・ディスカッション30分																			
14	教職の意義・教員の役割			事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う			講義50分・ディスカッション20分・発表20分																			
15	模擬授業Ⅱ			事前：指導案を作成 事後：模擬授業の反省をまとめる			講義20分・模擬授業60分・講義10分																			
教本： 大学で準備した教材をもとに授業をすすめる。					参考文献： 必要に応じて授業時間内に紹介する。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(10%)、授業内試験(50%)等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 欠席しないよう希望する。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	公民科教育法 I (Teaching Approach to the Civics I)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	高乘 智之																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要:																										
高等学校における公民科教育法の意義と現代社会の政治経済問題について述べるとともに、政治経済の基本論理と現代の経済の目標、教える上での教材の研究、指導方法・計画、授業のポイントなど、評価等を学ぶ。																										
授業目標:																										
国際化、IT情報化が急速に進展し、世界情勢が激動するなかで、現代社会の政治・経済の役割は益々重要になってきている。そのような状況の下、公民科教育、とりわけ政治経済の授業が実践でき、生徒にしっかりと理解させるように資質を養い、必要な知識と教育技術を身につける。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要な○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	現代社会における重要課題一公民の視点から				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
2	学習指導要領の解説：公民の中の政治・経済分野に関する歴史的変遷と今後の展開				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
3	政治・経済分野の目標と内容の全体的な構造				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
4	政治分野の内容の指導上の留意点				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
5	経済分野の内容の指導上の留意点				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
6	政治・経済分野の学習評価の視点				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
7	政治・経済分野と関連する学問的領域（政治学、経済学）				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
8	政治・経済分野の発展的な学習の内容				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
9	学習指導案の作成：政治・経済分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
10	政治・経済的分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）				事前：テキスト 事後：テキスト			講義																		
11	模擬授業と振り返り① わが国の政治				事前：模擬授業準備 事後：改善			模擬授業																		
12	模擬授業と振り返り② 國際政治				事前：模擬授業準備 事後：改善			模擬授業																		
13	模擬授業と振り返り③ わが国の経済				事前：模擬授業準備 事後：改善			模擬授業																		
14	模擬授業と振り返り④ 國際経済				事前：模擬授業準備 事後：改善			模擬授業																		
15	全体のまとめ				事前：指導案作成 事後：指導案修正			講義																		
教本：					参考文献： 講義中に適宜指示																					
『高等学校学習指導要領』（最新版） 『詳述 公共』実教出版（最新版）																										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 プレゼンテーション及び質疑応答（30%）、模擬授業（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 自分の授業スタイルを意識し、教育のあるべき姿を常に考えて欲しい。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	公民科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Civics II)					科目分類	教職課程科目																	
担当教員	高乘 智之																							
履修条件	前提科目	公民科教育法 I			その他	なし																		
授業概要 :																								
高等学校学習指導要領解説公民編をもとに教科・科目の目標や内容について理解する。公教育制度における公民科の役割を念頭に置いた授業を展開できるように理解を深める。また、学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。模擬授業を通して授業設計の重要性を理解し、学習指導の技能の基礎を学ぶ。																								
授業目標 :																								
科目の学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などの実践的な技能の習得をする。 公民科教育における様々な指導方法の実践力を身につける。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	高等学校公民科の解説：公民科・各科目の目標と内容					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義																
2	学習指導要領の解説：公民科教育の歴史的変遷と今後の展望					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義																
3	学習指導案の作成：学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：指導書を読む 事後：自ら作成		講義																
4	教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：関連資料を読む 事後：指導案の作成		講義																
5	評価の方法と考え方					事前：関連資料を読む 事後：理解を深める		講義																
6	模擬授業①（現代社会の特質）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
7	模擬授業②（現代社会における青年）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
8	模擬授業③（自己形成と社会とのかかわり）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
9	模擬授業④（哲学と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
10	模擬授業⑤（宗教と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
11	模擬授業⑥（近代科学の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
12	模擬授業⑦（人間の尊厳）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
13	模擬授業⑧（人間性の回復を求めて）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
14	模擬授業⑨（日本の伝統思想の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義																
15	総括（教材研究の重要性・授業改善の取り組みなどを含む）					事前：関連資料を読む 事後：改善点をまとめる		講義																
教本：		参考文献： 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』 『詳述 公共』実教出版（最新版） 濱井修・小寺聰『現代の倫理』山川出版（最新版） その他は講義中に適宜指示																						
成績評価の方法、評価基準：																								
授業参加状況等（30%）、模擬授業・プレゼンテーション等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス：																								
「公民」の育成とは何かを常に模索して欲しい。授業を考える際には、どのような意図をもち、どのような授業展開をしていくのかを考えて欲しい。魅力的な授業を展開できるよう情報に敏感になって欲しい。																								
オフィスアワー：																								
初回講義日に伝え る。																								

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	国語科教育法A (Japanese Language Educational Method A)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	伊藤 高雄																	
履修条件	前提科目	なし						その他	なし									
授業概要:																		
「国語科学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の基礎的な理論と学習指導理論を、現行教科書の教材を用いて具体的に検討し、実践力を身につける。																		
授業目標:																		
「国語科学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の目的、内容と方法、教材づくりと教材研究学習指導理論を学ぶ。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態										
1	国語教師論 これまでどんな教師に出会ってきたか？ どんな教師になりたいか？を話し合い、教師とは何かを考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義60分 話し合い30分										
2	「国語科学習指導要領」の概要 学習指導要領を読み、その法的根拠は何かを考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
3	現代の国語と国語表現に関する目標と内容、全体構造を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
4	現代の国語と国語表現に関する学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
5	現代の国語と国語表現に関する学習評価を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
6	現代の国語と国語表現を考える学習評価を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
7	現代の国語と国語表現に関する発展的な学習内容を発想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
8	古典の国語の学習の目標と内容を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
9	古典の国語の学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
10	古典の国語と学習内容に関する学習評価を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
11	国語とは何か？ 柳田國男の国語観を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
12	国語に関する現代の問題を考える（日本語で生きる）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
13	国語に関する現代の諸問題を考える（グローバル化と日本語と）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
14	作文教育のあり方を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と話し合い										
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義										
教本：					参考文献：													
「中学校国語科学習指導要領」（最新版）																		
「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）																		
成績評価の方法、評価基準：																		
授業参加状況等（30%）、コメント・カード（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス：																		
中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。																		
オフィスアワー：																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	国語科教育法B (Japanese Language Educational Method B)						科目分類	教職課程科目																
担当教員	伊藤 高雄																							
履修条件	前提科目 その他	なし なし																						
授業概要:																								
「国語科学習指導要領」の教科構造にそって、4領域・1事項の言語活動の学習指導の在り方を実践事例から学ぶ。 「思考・判断・表現」を重視した言語活動の単元開発の基礎・基本を実践事例から学ぶ。																								
授業目標:																								
中学・高等学校の国語科の教育目標と教科内容を理解し、「学習指導要綱」の教科構造に沿い、言語と4領域の言語活動についての学習指導のあり方を学ぶ。																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
○			○																					
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態																
1	講義ガイダンス 国語科の授業のあり方を考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義60分 話し合い30分																
2	国語科学習指導案の構想と指導案を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
3	「読むことー説明文・評論文」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
4	「読むことー文学的文章」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
5	「読むことー古典」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
6	「書くことーレポート」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
7	「書くことー創作文」の指導を短歌創作で実践する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
8	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する①					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
9	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する②					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
10	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する①					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
11	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する②					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
12	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する③					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
13	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する④					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
14	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導を連句創作の教材で実践する⑤					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と話し合い																
教本:		参考文献:																						
「中学校国語科学習指導要領」(最新版)																								
「高等学校国語科学習指導要領」(最新版)																								
成績評価の方法、評価基準:																								
授業参加状況等(30%)、コメント・カード(20%)、レポート(50%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス:																								
中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。																								
オフィスアワー:																								
初回講義日に伝える。																								

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習												
授業科目(英文)	国語科教育法C (Japanese Language Educational Method C)			科目分類			教職課程科目														
担当教員	松浦 恵津子																				
履修条件	前提科目	国語学・国文学関連の科目、国語科教育法A・B			その他	教職課程履修者（上記科目を履修していなくても履修できます）															
授業概要：																					
・中学校／高等学校学習指導要領国語科の〈内容〉のうち、 〔知識及び技能〕「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」「(2) 情報の扱い方に関する事項」と、それに関連する 〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の教材を確認し、指導のための分析を行う。 ・指導案を書き、模擬授業を行って改善点を話し合う。（他の国語科教育法との関係で、扱う範囲を変更することもある。）																					
授業目標：																					
1. 教材の内容を把握し、指導のポイントを考えることができる。 2. 授業目標を設定して基本的／効果的な指導案が書ける。問題を予見して対策を講じることができる。 3. 模擬的な教授活動を円滑に行うことができる。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○			○																		
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション 学習指導要領の内容が、どう教科書に落とし込まれているかを見る。				事前：学習指導要領の準備 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
2	学習指導要領との対応を考慮に入れた指導案の書き方を学ぶ。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
3	学習評価（国語）について学ぶ。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
4	「指導計画の作成と内容の取扱い」（学習指導要領・同解説）を確認し、模擬的に教える教材を選ぶ（文法）。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
5	指導書の読み込み、教材分析をする。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 個人／ペアワーク 60分														
6	指導の展開例を見る。学習指導案を作成する。				事前：配付資料を読む 事後：指導案を完成させる		講義 30分 個人／ペアワーク 60分														
7	学習指導案の検討会と補助教材の準備をする。				事前：指導案説明の準備 事後：模擬授業用教材の準備		講義 30分 個人／ペアワーク 60分														
8	模擬授業、反省会1-① 前半グループ				事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分														
9	模擬授業、反省会1-② 後半グループ				事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分														
10	「指導計画の作成と内容の取扱い」（学習指導要領・同解説）を確認し、模擬的に教える教材を選ぶ（語彙・情報）。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
11	指導書の読み込み、教材分析をする。				事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分														
12	指導の展開例を見る。学習指導案を作成する（語彙・情報）。				事前：配付資料を読む 事後：指導案を完成させる		講義 40分 個人／ペアワーク 50分														
13	学習指導案の検討会と補助教材の準備をする。				事前：指導案説明の準備 事後：模擬授業用教材の準備		講義 40分 個人／ペアワーク 50分														
14	模擬授業、反省会2-① 前半グループ				事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分														
15	模擬授業、反省会2-② 後半グループ				事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分														
教本：																					
「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」文部科学省 ￥318					参考文献： 中学校教科書『国語1～3』光村図書出版																
「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」文部科学省 ￥638					高等学校教科書『現代の国語』『言語文化』（出版社は授業で伝えます。）																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																					
授業参加状況等（30%）、コメント・カード（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。																					
学生へのアドバイス：																					
中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。																					
オフィスアワー：																					
初回講義日に伝える。																					

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	国語科教育法D (Japanese Language Educational Method D)						科目分類	教職課程科目														
担当教員	伊藤 高雄																					
履修条件	前提科目	なし			その他	なし																
授業概要：																						
中学校・高等学校教科書の古典教材の講読の授業である。古典講読を通して言語文化、古語、古典文法、敬語法を学ぶ。さらに情報機器及び学習資料の効果的な活用法を身につける。																						
授業目標：																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書掲載の代表的古典教材を購読し、発展単元を学習指導に位置づける。古典講読を通して日本の言語文化、古語、古典文法、敬語法の理解を深める。</li> <li>教育実習に向けて、指導案作成、授業研究により実践力を養う。</li> </ul>																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																	
○		○																				
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス。言語文化と文学国語に関する目標と内容、全体構造を知る				事前：なし 事後：配布資料を読む			講義														
2	言語文化と文学国語に関する学習内容の指導上の留意点を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義														
3	言語文化と文学国語に関する学習評価のあり方について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義														
4	言語文化と文学国語を支える学問領域（文学、言語学、歴史学）と教材（情報機器の活用）を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義														
5	言語文化と文学国語に関する発展的な学習内容に向けて考える				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義														
6	『竹取物語』冒頭 音読と解釈、文法（動詞）について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
7	『竹取物語』末尾 音読と解釈、文法（形容詞その他）について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
8	『竹取物語』冒頭及び末尾の学習指導案の作成の仕方を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
9	『伊勢物語』冒頭 音読と解釈、文法について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
10	『伊勢物語』冒頭の学習指導案の作成の仕方を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
11	『今昔物語』（絵仏師良秀） 音読と解釈、文法について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
12	『今昔物語』（絵仏師良秀）の学習指導案の作成の仕方を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
13	漢文・漢詩の音読と解釈、訓読法（返り点その他）について学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
14	漢文・漢詩の学習指導案の作成の仕方を学ぶ				事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出			講義・演習														
15	まとめ				事前：教材を読んで臨む 事後：復習			講義・演習														
教本：		参考文献：																				
「中学校国語科学習指導要領」（最新版）																						
「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）																						
成績評価の方法、評価基準：																						
授業参加状況等（30%）、ノート提出（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス：																						
毎回必ず予習、復習をしてください。ノート提出があります。指導案の作成・模擬授業も行います。																						
オフィスアワー：																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	社会科教育法 I (Teaching Approach to the Social Studies I)					科目分類	教職課程科目								
担当教員	増田 裕彦			単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
履修条件	前提科目	なし													
	その他	なし													
授業概要:	テキストをもとに社会科と教育の主な理論と中学校社会科の目標・内容（中学校学習指導要領）、授業づくりなどの基礎を学ぶ。														
授業目標:	中学校社会科についての基礎理論と授業づくりの基礎、および現行中学校学習指導要領における中学校社会科の目標・内容、教科指導の在り方などについて理解する。														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	知識・技能の習得														
	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○								
○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態								
1	社会科教育とは。実践知としての社会科 I 社会教育の理論について考える・社会科の思想的、歴史的基盤を探る。					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
2	社会科の理論について ①育てる人間像とは ②社会科と歴史科・地理科・公民科との違い ③社会科の起源 ④日本の社会科の始まり					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
3	社会科の方法原理を探る ①「問題解決」の方法に基づく社会科 ②「理解」 ③「説明」 ④「議論」					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
4	社会科の学力と評価の理論を探る(1) ①基礎、基本とは—学力をめぐる紛争— ②21世紀型能力とは—コンビテンシー—					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
5	社会科の学力と評価の理論を探る(2) ③目標に準拠した評価とは—到達度評価— ④観点別評価とは社会科の方法原理を探る					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
6	社会科の授業づくりの理論を探る(1) ①授業デザイン ②学習指導案のかたち					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
7	社会科の授業づくりの理論を探る(2) ③教材研究の視点と方法 ④授業研究—授業のPDCA—					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
8	社会科の学習指導の方法を探る(1) ①アクティブラーニングの活用 ②教科書の活用					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
9	社会科の学習指導の方法を探る(2) ③ICTの活用 ④野外観察、地域調査1					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
10	II 社会教育の実践について考える 評価の高い実践に学ぶ(1) ①長岡文雄 ②有田和正					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
11	評価の高い実践に学ぶ(2) ③河原和之 ④加藤公明					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
12	現行小学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
13	現行中学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
14	学習指導案について					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
15	まとめ					事前：なし 事後：なし	講義 90分								
教本:															
『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて—』原田智仁編著 教育情報出版 ¥2,497	参考文献: 文部科学省著『中学校学習指導要領』(最新版) 文部科学省著『中学校学習指導要領解説社会編』(最新版)														
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。														
学生へのアドバイス:	レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。														
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。														

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	社会科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Social Studies II)					科目分類	教職課程科目													
担当教員	増田 裕彦																			
履修条件	前提科目	『社会科教育法Ⅰ』を修得済みであること																		
その他																				
授業概要:																				
現在の日本の社会科教育について、学習指導要領社会科解説(最新)をテキストにして、地理的分野、歴史的分野、公民的分野それぞれの目標や内容を学びます。																				
授業目標:																				
学習指導要領社会科の目標や内容について把握し、教員になるためのスキルを向上することが目標です。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態												
1	中学校学習指導要領について ①改訂の経緯及び基本方針 ②社会科総説					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
2	教科の目標及び内容					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
3	中学校学習指導要領地理的分野(1) A 世界と日本の地域構成 B 世界の様々な地域 C 日本の様々な地域					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
4	中学校学習指導要領地理的分野(2) 内容の取扱い A～C の内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
5	中学校学習指導要領地理的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
6	中学校学習指導要領歴史的分野(1) A 歴史との対話 B 近世までの日本とアジア C 近現代の日本と世界					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
7	中学校学習指導要領歴史的分野(2) 内容の取扱い A～C の内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
8	中学校学習指導要領歴史的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
9	中学校学習指導要領公民的分野(1) A 私たちと現代社会 B 私たちと経済 C 私たちと政治 D 私たちと国際社会の諸課題					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
10	中学校学習指導要領公民的分野(2) 内容の取扱い A～D の内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
11	中学校学習指導要領公民的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
12	指導計画の作成と内容の取扱い(1) 指導計画を作成する上の注意点					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
13	内容の取扱いと指導計画のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
14	模擬 学習指導案の作成(1)					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
15	模擬 学習指導案の作成(2) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分												
教本:					参考文献:															
文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）』																				
文部科学省著『社会編 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』																				
成績評価の方法、評価基準:																				
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス:																				
レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Introduction to Sociology)					科目分類	教職課程科目		
担当教員	深谷 野亞			履修条件	前提科目	なし	その他	なし	
授業概要:	社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響をうけているのか(社会化) ③社会学的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。								
授業目標:	社会学的想像力／社会学的思考を身につけることを目標とします。								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要なに○1つ)								
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養					
○	○								
授業計画・事前学習・事後学習、形式	授業計画・事前学習・事後学習、形式								
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション				事前:なし 事後:次回の配布資料を読む			講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分	
3	「社会学的想像力」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会学的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクション』を中心に階層について考えていきます。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分	
5	「社会化」とは何か 社会の中でのわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 60分・ディスカッション 20分・発表 10分	
11	社会学史 I 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分	
12	社会学史 II 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインテラクションズム」といった社会学理論を考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分	
13	社会学的手法 I 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいか考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 20分・グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学的手法 II 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えています。				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 20分・グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ				事前:資料を下読みする 事後:配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義 90分	

教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。	参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。	
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	情報科教育法 I (Educational Methods for Information Studies I)						科目分類	教職課程科目									
担当教員	山本 美紀																
履修条件	前提科目	なし															
	その他	なし															
授業概要:	この授業は、(1)学習指導要領(平成30年告示)に示された教科「情報」における教育目標と教科内容を理解する。(2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とします。																
授業目標:	①情報教育の背景と目的について説明できる。 ②学習指導要領における情報科の構成と目標及び主な内容について説明できる。 ③実践事例の検討を通して、情報通信技術の効果的な活用法と授業設計、教材研究について理解を深め、考察できる。 ④学習指導と学習評価の考え方について説明できる。⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
○	○																
授業計画・事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態									
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 情報教育の背景と目的について学ぶ。				事前: シラバスを読む 事後: ミニッツペーパー			アイスブレイク(10分) 講義(80分)									
2	小学校における情報教育について学ぶ。				事前: 動画(文科省)で学ぶ 事後: ミニッツペーパー			講義(75分) ディスカッション(15分)									
3	中学校における情報教育について学ぶ。				事前: 動画(文科省)で学ぶ 事後: ミニッツペーパー			講義(75分) ディスカッション(15分)									
4	情報科教育の体系と構成について学ぶ。				事前: 学習指導要領の下調べ 事後: ミニッツペーパー			講義(90分)									
5	高等学校における情報教育「情報Ⅰ」及び「情報Ⅱ」について学ぶ。				事前: 学習指導要領の下調べ 事後: ミニッツペーパー			講義(75分) ディスカッション(15分)									
6	情報社会の問題解決と実践事例について学ぶ。				事前: 実践事例を調査する 事後: 小テストの振り返り			講義(60分) 小テスト(30分)									
7	コミュニケーションと情報デザインと実践事例について学ぶ。				事前: 実践事例を調査する 事後: ワークシートの作成			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)									
8	コンピュータとプログラミングと実践事例について学ぶ。				事前: 実践事例を調査する 事後: ワークシートの作成			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)									
9	情報通信ネットワークとデータの活用と実践事例について学ぶ。				事前: 実践事例を調査する 事後: ワークシートの作成			講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)									
10	専門教科情報科(共通の分野)について学ぶ。				事前: テーマに関する下調べ 事後: コンテンツの制作			講義(90分)									
11	専門教科情報科(情報システム分野)について学ぶ。				事前: テーマに関する下調べ 事後: コンテンツの制作			講義(90分)									
12	専門教科情報科(コンテンツ分野)について学ぶ。				事前: テーマに関する下調べ 事後: コンテンツの制作			講義(90分)									
13	専門教科情報科(総合科目)について学ぶ。				事前: テーマに関する下調べ 事後: コンテンツの改善			講義(90分)									
14	学習指導と学習評価について学ぶ。				事前: テーマに関する下調べ 事後: 学びのマップ作成			講義(60分) 振り返り(30分)									
15	授業のまとめと学びの振り返りを行う。 情報科教育法Ⅱについて説明する。				事前: ポートフォリオを整理 事後: 学びの振り返りを行う			講義(60分) グループワーク(30分)									
教本:	参考文献: 鹿野利春・高橋参吉・西野和典編著『これから的情報科教育 情報科教育法』実教出版 ISBN: 978-4-407-35521-5 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』ISBN: 978-4304021633 その他、必要に応じて授業内で紹介する。																
成績評価の方法、評価基準:	学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、ワークシート、振り返り等): 60%、小テスト: 10%、コンテンツの制作(発表): 30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ループリック(評価基準)による自己評価を含む。																
学生へのアドバイス:	この授業は、なぜ、小中高の情報教育においてプログラミング教育を行うのか、プログラミング的思考とは何かを学ぶ科目でもあります。また、高度情報化社会において求められる生きる力について考えます。ぜひ、最近の情報教育の動向を知る機会にしてください。																
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義								
授業科目(英文)	情報科教育法Ⅱ (Educational Methods for Information Studies Ⅱ)						科目分類	教職課程科目									
担当教員	山本 美紀																
履修条件	前提科目	なし															
	その他	なし															
授業概要:	この授業は、情報科教育法Ⅰを踏まえて、情報科教育の内容や方法の理解を深めることを目的とします。具体的には、情報技術の効果的な活用法を理解し、授業設計と学習指導案の作成を体験するとともに、模擬授業を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付けます。																
授業目標:	①学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。 ②情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ③模擬授業を計画し、実施することができる。 ④模擬授業の振り返りを通して、授業改善案を提案することができる。 ⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。																
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○			
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養															
○	○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 学習指導要領と最近の情報教育の動向について学ぶ。			事前: シラバスを読む 事後: ミニッツペーパー			アイスブレイク(10分) 講義(80分)										
2	学習指導のデザインについて学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: ミニッツペーパー			講義(75分) ディスカッション(15分)										
3	学習評価のデザインについて学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: ミニッツペーパー			講義(75分) ディスカッション(15分)										
4	指導と評価の計画について学ぶ。			事前: 学習指導要領の下調べ 事後: 模擬授業を計画する			講義(70分) 個人／ペアワーク(20分)										
5	学習指導案について学ぶ。			事前: 学習指導要領の下調べ 事後: 学習指導案の作成			講義(70分) 個人／ペアワーク(20分)										
6	情報社会の進展と情報技術と実践事例について学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: 小テストの振り返り			講義(60分) 小テスト(30分)										
7	コミュニケーションとコンテンツと実践事例について学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: 学習指導案の改善			講義(60分) 個人／ペアワーク(30分)										
8	情報とデータサイエンスと実践事例について学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: 教材の作成			講義(60分) 個人／ペアワーク(30分)										
9	情報システムとプログラミングと実践事例について学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: 教材の作成			講義(60分) 個人／ペアワーク(30分)										
10	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について学ぶ。			事前: テーマについて下調べ 事後: 模擬授業の準備			講義(60分) 個人／ペアワーク(30分)										
11	模擬授業(1)の実施、授業研究(評価と授業改善)を行う。			事前: 模擬授業の準備 事後: 模擬授業の改善			模擬授業(90分)										
12	模擬授業(2)の実施、授業研究(授業設計と教材研究)を行う。			事前: 模擬授業の準備 事後: 模擬授業の改善			模擬授業(90分)										
13	模擬授業(3)の実施、授業研究(ファシリテーション)を行う。			事前: 模擬授業の準備 事後: 模擬授業の改善			模擬授業(90分)										
14	模擬授業(4)の実施、授業研究(振り返り)を行う。			事前: 模擬授業の準備 事後: 学びのマップ作成			模擬授業(60分) 振り返り(30分)										
15	授業のまとめと学びの振り返りを行う。 これから的情報教育の展望について考える。			事前: ポートフォリオを整理 事後: 学びの振り返りを行う			講義(60分) グループワーク(30分)										
教本:	参考文献: 鹿野利春・高橋参吉・西野和典編著『これからの情報科教育 情報科教育法』実教出版 ISBN: 978-4-407-35521-5 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』ISBN: 978-4304021633																
成績評価の方法、評価基準:	学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、学習指導案、教材、振り返り等): 60%、小テスト: 10%、模擬授業(発表): 30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ループリック(評価基準)による自己評価を含む。																
学生へのアドバイス:	この授業を受講する学生は、教育実習に向けて、学習指導案の作成、教材の作成、模擬授業の実践を通して、具体的な授業場面を体験します。ぜひ、情熱をもって参加してください。																
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	心理学概論 I (General Psychology I)						科目分類	教職課程科目							
担当教員	深澤 伸幸														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
心理学概論 I では主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどの様な心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進めます。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機付け、及びリーダーシップなど、人間理解に必要となる基礎的な心理学的知識を学び、理解する。															
授業目標:															
主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
			○			○									
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。			事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、 ディスカッション 20分								
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、実習 30分、 PBL 20分								
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感觉器の働きを学び、感觉情報の意味を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、 PBL 20分								
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
12	リーダーシップに関する代表的な学説であるPM理論とマネジアアルグリッド理論の主張する内容を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。			事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分								
15	まとめ・全体を振り返る			事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、 ディスカッション 20分								

教本：	参考文献：
授業内で指示	
成績評価の方法、評価基準：	
定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス：	
欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	生徒・進路指導論 (Educational and Career Guidance)						科目分類	教職課程科目												
担当教員	田村 修一																			
履修条件	前提科目	教育心理学を履修済のこと。						その他	なし											
授業概要 :																				
生徒指導と進路指導は、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本授業では、学校心理学の視点から中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、現在の中学生・高校生の実態および発達上の課題を理解し、生徒指導提要に基づく生徒指導の望ましいあり方(生徒指導モデル)と具体的な生徒指導課題に対する理解と指導・援助の基礎を学ぶ。さらに、進路指導の基礎理論およびキャリア教育の概要を理解し、具体的な進路指導の進め方について、事例を交えて考える。																				
授業目標 :																				
1. 現代の中学生・高校生の発達上の課題を理解できる。 2. 学校心理学を基盤とした生徒指導提要の「2軸3類4層構造」の生徒指導・進路指導の進め方の概要を理解できる。 3. 教員のチームによる生徒指導・進路指導の有効性と課題を理解できる。																				
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態												
1	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法の説明) 学校教育における生徒指導の意義				事前: シラバスに目を通す 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
2	現代の中学生・高校生の発達課題と教育課題				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
3	2軸3類4層構造の生徒指導				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
4	チーム学校による生徒指導体制の構築				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
5	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義60分・演習30分												
6	発達支持的生徒指導: 学級経営の工夫				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
7	課題予防的生徒指導: 様々な教育プログラムの工夫				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			演習90分												
8	困難課題対応的生徒指導① いじめの理解と対応				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
9	困難課題対応的生徒指導② 不登校の理解と対応				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
10	困難課題対応的生徒指導③ 発達障害の理解と支援				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
11	進路指導の歴史と基礎理論				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
12	キャリア教育概論				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義90分												
13	基礎的汎用能力の育成				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			演習90分												
14	個に応じた進路指導とキャリア・カウンセリング				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義45分・演習45分												
15	事例研究: キャリア教育の先進校の取り組みに学ぶ				事前: なし 事後: 学びの振り返りの記入			講義15分・演習75分												
教本:					参考文献:															
「生徒指導提要」コンパクト版 文部科学省 ジアース教育新社 2023年					「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年															
成績評価の方法、評価基準:																				
平常点(授業への参加態度、リアクションペーパー、振り返りレポート)40%と期末試験60%の総合評価。																				
学生へのアドバイス:																				
「学校現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。																				
オフィスアワー:																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	政治学概論 I (Introduction to Politics I)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	末次 俊之																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要:	<p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い合わせているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。</p>																									
授業目標:	<p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。</p>																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○		○																								
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	オリエンテーション: 講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことをお話します。					事前: 特になし 事後: 配布物復習	講義と対話																			
2	「政治」とは何か: 「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
3	国家: 国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
4	政治体制: 政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
5	政治制度と政治過程: 政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
6	公共政策: 政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
7	中間テスト: 前半の復習を行います。					事前: 前半の復習 事後: テスト復習	テスト、フィードバック																			
8	議会: 政治過程での議会と行政との関係を中心にお話します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
9	政党: 政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
10	利益団体: 政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
11	選挙制度: 政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
12	投票: 人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
13	マスメディア: マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすか考えます。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
14	国際関係: 国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
15	総括					事前: 配布物精読 事後: 配布物復習	講義 60分 ディスカッション 30分																			
教本:	<p>参考文献: 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>																									
	<p>久米、川出、古城、田中、真渕著『政治学 補訂版』(有斐閣、2011年)、 ¥3,400、を推薦します。</p>																									
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。</p>																									
学生へのアドバイス:	<p>近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。</p>																									
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	政治学概論 II (Introduction to Politics II)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	末次 俊之																									
履修条件	前提科目	なし																								
	その他	なし																								
授業概要:	<p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。そして政治を専門とする「国家」が誕生して以来、各国における「政治」は多様な形を見せています。例えば、我が国にも多大な影響を及ぼすアメリカは、日本と同様に「自由民主主義」の政治の在り方を採用している一方で、人々による政治の進め方は日本とかなり異なるものとなっています。そこで、この授業では、現代アメリカ政治について、大統領の政権運営を、大統領を支持するアメリカ有権者の多様な背景を考えることを通じて、アメリカ政治の現状への理解を深める知識、並びに視点を提供します。</p>																									
授業目標:	<p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. アメリカの政治を理解することを通じて、我が国の政治に対する相対的な視点と能動的な態度を養う。</p>																									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																								
○		○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	オリエンテーション: 講義の概要とともに、我々は「アメリカ」をどのように理解しているか、についてお話しします。				事前: 特になし 事後: 配布物復習			講義と対話																		
2	アメリカの政治体制①: アメリカの統治のルールを定める連邦憲法についてお話しします。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
3	アメリカの政治体制②: 連邦制と厳格な三権分立の役割を学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
4	アメリカの大統領: アメリカの大統領制と、大統領が持つ権限についてお話しします。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
5	アメリカの外交・安全保障政策: アメリカ外交政策の伝統と近年の特徴、並びに軍事・安全保障政策についてお話しします。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
6	アメリカの政治思想: 政治に大きな影響を及ぼす「保守」と「リベラル」の思想の内容と、その歴史的展開を説明します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
7	中間テスト: 前半の復習を行います。				事前: 前半の復習 事後: テスト復習			テスト、フィードバック																		
8	G・W・ブッシュ大統領: ブッシュ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴をお話しします。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
9	ブッシュ大統領の政権運営: ブッシュ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
10	バラク・H・オバマ大統領: オバマ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴を説明します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
11	オバマ大統領の政権運営: オバマ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
12	アメリカのファーストレディ: 歴代の大統領夫人たちの政治的役割を理解します。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
13	ドナルド・J・トランプ大統領: トランプ大統領の家庭環境、職業経歴などをお話しします。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
14	トランプ大統領の政権運営: トランプ大統領が直面した政治課題と問題点を学びます。				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
15	総括				事前: 配布物精読 事後: 配布物復習			講義 60分 ディスカッション 30分																		
教本:	<p>特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>																									
	<p>参考文献: 藤本一美『現代米国政治分析—オバマ政権の課題』(学文社、2013)を挙げておきます。その他の文献は授業で紹介します。</p>																									
成績評価の方法、評価基準:	<p>授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。</p>																									
学生へのアドバイス:	<p>日々のニュースの中でアメリカに関する情報を目にしない日は、ほぼ無いと言えます。そのようなアメリカに関する「情報の氾濫」は、時としてアメリカへの誤解を生むことにも繋がります。そういう誤解を正す知識、視点を身に付けたい学生、またアメリカに興味がある学生は、ぜひ受講してみてください。</p>																									
オフィスアワー:	<p>初回講義日に伝える。</p>																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	総合的な学習の時間の指導法 (Teaching Method for Integrated Studies)						科目分類	教職課程科目											
担当教員	増田 裕彦																		
履修条件	前提科目	なし						その他の履修条件	なし										
	その他	なし																	
授業概要:	総合的な学習の時間について、『総合的な学習の時間の学習指導要領 解説』をもとに、基本的な意義や目標、主な内容を押さえ、学校内外の組織的取組について理解できるようにします。また、確認のため課題を出します。																		
授業目標:	総合的な学習の時間は、これから社会において特に必要とされている諸能力を育てる科目です。具体的には、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えいくための資質・能力の育成を目指します。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成						学びに向かう力・人間性の涵養												
○	○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式	授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態												
1	ガイダンス 総合的な学習の時間について、今までの経験をレポートに作成します					事前:なし 事後:なし	講義 レポート作成												
2	第2章 総合的な学習の時間の目標 学習指導要領にみる3つの目標を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
3	第3章 各学校で定める目標及び内容 学習指導要領にみる7つの配慮すべきことを確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
4	第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて(1) 指導計画の作成に当たっての配慮すべき事項を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
5	第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて(2) 内容の取扱いについての配慮すべき事項を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
6	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成(1) 指導計画及び各学校において定める目標を確認します					事前:なし 事後:なし	講義90分												
7	第5章 総合的な学習の時間の指導計画の作成(2) 各学校において定める内容と全体計画を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
8	第6章 総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の作成(1) 年間指導計画及び単元計画の基本的な考え方を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
9	第6章 総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の作成(2) 年間指導計画・単元計画の運用について確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
10	第7章 総合的な学習の時間の学習指導(1) 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」					事前:なし 事後:なし	講義90分												
11	第7章 総合的な学習の時間の学習指導(2) 探究的な学習の指導のポイントを抑えます。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
12	第8章 総合的な学習の時間の評価 学習・学習状況・教育課程の評価について確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
13	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(1) 学習指導や校内組織の整備について基本的な考え方を理解します。					事前:なし 事後:なし	講義90分												
14	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(2) 年間授業時数や弾力的な授業時数の運用、環境整備について					事前:なし 事後:なし	講義90分												
15	第9章 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(3) 外部との連携の構築について確認します。まとめ					事前:なし 事後:なし	講義90分												
教本:	参考文献: 文部科学省『総合的な学習編 学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』 『学習指導要領(平成29年告示)第5章総合的な学習の時間特別活動編』																		
成績評価の方法・評価基準:	成績評価の方法・評価基準: 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。																		
学生へのアドバイス:	学生へのアドバイス: 教本をもとに進めますが、途中で課題を出します。レポート提出も大切な評価になります。																		
オフィスアワー:	オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																
授業科目(英文)	地理学概論 I (Geography I)					科目分類	教職課程科目																		
担当教員	南 春英																								
履修条件	前提科目	なし																							
	その他	なし																							
授業概要:	地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。																								
授業目標:	空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。																								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)																									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○	◎																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																		
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前:なし 事後:ノート整理	講義																		
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
3	地理情報と表現方法					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
4	地図の概要と地形図の読図					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
5	地球の姿と成り立ち					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
7	世界の地形② 河川と海岸の小地形					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
9	ハザードマップ概要					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
10	わがまちのハザードマップ調査					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
12	資源と産業－工業の立地変化					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
13	世界の人口－世界の人口問題					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
14	生活文化・民俗地理－世界の食肉文化・生活と環境					事前:前回のノートを整理 事後:専門用語の理解	講義																		
15	まとめ					事前:前回のノートを整理 事後:地域理解ができたか	講義																		
教本:	参考文献: なし。必要に応じてプリントを配布します。 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。																								
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス:	欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。																								
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	地理学概論 II (Geography II)					科目分類	教職課程科目												
担当教員	南 春英																		
履修条件	前提科目	地理学概論 I			その他	なし													
授業概要:																			
地理学は地誌学と系統地理学とに大別される。日本や世界はどのような地域から成り立っているのか、そしてそれぞれの地域はどのような特色をもっているかなどの地域差を理解するために、自然的要素や人文・社会的因素を広く紹介する。																			
授業目標:																			
受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指す。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指す。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
			○			○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：講義で扱う地域確認 事後：ノート整理		講義 90 分											
2	地誌学とは 地誌学の目的とアプローチ					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90 分											
3	地誌学と国際理解教育 アジアにおける地誌教育					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90 分											
4	身近な事例 原宿：歴史と若者の街					事前：前回のノート整理 事後：ノート整理		講義 90 分											
5	近隣諸国の中国事例① 中国の多民族と文化の多様性					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
6	近隣諸国の中国事例② 中国の都市化と課題					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
7	世界遺産 DVD鑑賞					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
8	地域差① 北京の歴史と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
9	地域差② 上海の歴史と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
10	地域差③ 自然環境と歴史からうまれた北京人と上海人の省民性					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
11	近隣諸国の韓国事例① 韓国の自然環境と文化					事前：前回のノート整理 事後：地域確認		講義 90 分											
12	近隣諸国の韓国事例② 産業と暮らし					事後：前回のノート整理 事前：発表準備		講義 90 分											
13	受講者による発表① 身近な地域を調べよう					事後：地域確認 事前：発表準備		講義 90 分											
14	受講者による発表② 身近な地域を調べよう					事後：地域確認 事前：発表準備		講義 90 分											
15	まとめ					事前：テスト準備 事後：探求心は身に付いたか		講義 90 分											
教本：					参考文献： なし。必要に応じてプリントを配布します。 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。														
成績評価の方法、評価基準：																			
授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝える。																			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																
授業科目(英文)	哲学 I (Philosophy I)					科目分類	教職課程科目																		
担当教員	金澤 秀嗣																								
履修条件	前提科目 その他	なし 「哲学II」を次学期以降に必ず履修すること。																							
<p>授業概要： 哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>																									
<p>授業目標： 講義「哲学I」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを目指す。</p>																									
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得 ○</td><td>思考力・判断力・表現力の育成 ○</td><td>学びに向かう力・人間性の涵養</td></tr> </table>										知識・技能の習得 ○	思考力・判断力・表現力の育成 ○	学びに向かう力・人間性の涵養													
知識・技能の習得 ○	思考力・判断力・表現力の育成 ○	学びに向かう力・人間性の涵養																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。				事前：特になし 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
2	【古代哲学】存在・「ある」とはどういうことか：ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
3	生成「ある」と「なる」：エレア学派とヘラクレイオスの相違を明らかにする。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか：中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。				事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。			講義 90分																	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。				事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。			講義 90分																	
<p>教本： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。</p>																									
<p>参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>																									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。																									
学生へのアドバイス： 私が提供するのは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。																									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。																									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																																
授業科目(英文)	哲学 II (Philosophy II)					科目分類	教職課程科目																																																																		
担当教員	金澤 秀嗣																																																																								
履修条件	前提科目 その他	「哲学 I」の単位を修得済みであること。 なし																																																																							
<p>授業概要：</p> <p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的嘗為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>																																																																									
<p>授業目標：</p> <p>講義「哲学 II」では、近世・近代以降の哲学に焦点を据え、〈認識論〉の確立過程とその特徴について詳述する。</p>																																																																									
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○																																																											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
○	○																																																																								
<p>授業計画・事前学習・事後学習・形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>【近世・近代哲学】〈存在論〉から〈認識論〉へ</td><td>事前：特になし 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>2</td><td>大陸合理論における精神・物体・神 デカルト① 「我思う、ゆえに我あり。」</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>3</td><td>デカルト② 物体の〈延長〉</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>4</td><td>イギリス経験論による事物認識 ホップズにおける〈コナトゥス〉概念</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>5</td><td>ロック① 〈タブラ・ラサ〉からの出発</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>6</td><td>ロック② 〈真知〉の限界と意義</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>7</td><td>バークリ 「存在とは、知覚されてある、ということである。」</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>8</td><td>ヒューム「知覚の束」</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>9</td><td>【批判哲学とドイツ観念論】 カント『純粹理性批判』① 〈コペルニクス的転回〉とは</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>10</td><td>カント『純粹理性批判』② 時間・空間は〈直觀の形式〉</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>11</td><td>カント『純粹理性批判』③悟性の〈カテゴリー〉</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>12</td><td>カント『実踐理性批判』における要請：〈定言命法〉</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>13</td><td>ヘーゲル『精神現象学』の視座① 存在と認識の一致</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>14</td><td>ヘーゲル『精神現象学』の視座② 哲学〈史〉の意味</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。</td><td>講義 90分</td></tr> <tr><td>15</td><td>ヘーゲルの共同体論：〈真無限〉・〈具体的普遍〉</td><td>事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。</td><td>講義 90分</td></tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	【近世・近代哲学】〈存在論〉から〈認識論〉へ	事前：特になし 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	2	大陸合理論における精神・物体・神 デカルト① 「我思う、ゆえに我あり。」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	3	デカルト② 物体の〈延長〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	4	イギリス経験論による事物認識 ホップズにおける〈コナトゥス〉概念	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	5	ロック① 〈タブラ・ラサ〉からの出発	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	6	ロック② 〈真知〉の限界と意義	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	7	バークリ 「存在とは、知覚されてある、ということである。」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	8	ヒューム「知覚の束」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	9	【批判哲学とドイツ観念論】 カント『純粹理性批判』① 〈コペルニクス的転回〉とは	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	10	カント『純粹理性批判』② 時間・空間は〈直觀の形式〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	11	カント『純粹理性批判』③悟性の〈カテゴリー〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	12	カント『実踐理性批判』における要請：〈定言命法〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	13	ヘーゲル『精神現象学』の視座① 存在と認識の一致	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	14	ヘーゲル『精神現象学』の視座② 哲学〈史〉の意味	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分	15	ヘーゲルの共同体論：〈真無限〉・〈具体的普遍〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。	講義 90分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																						
1	【近世・近代哲学】〈存在論〉から〈認識論〉へ	事前：特になし 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
2	大陸合理論における精神・物体・神 デカルト① 「我思う、ゆえに我あり。」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
3	デカルト② 物体の〈延長〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
4	イギリス経験論による事物認識 ホップズにおける〈コナトゥス〉概念	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
5	ロック① 〈タブラ・ラサ〉からの出発	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
6	ロック② 〈真知〉の限界と意義	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
7	バークリ 「存在とは、知覚されてある、ということである。」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
8	ヒューム「知覚の束」	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
9	【批判哲学とドイツ観念論】 カント『純粹理性批判』① 〈コペルニクス的転回〉とは	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
10	カント『純粹理性批判』② 時間・空間は〈直觀の形式〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
11	カント『純粹理性批判』③悟性の〈カテゴリー〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
12	カント『実踐理性批判』における要請：〈定言命法〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
13	ヘーゲル『精神現象学』の視座① 存在と認識の一致	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
14	ヘーゲル『精神現象学』の視座② 哲学〈史〉の意味	事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。	講義 90分																																																																						
15	ヘーゲルの共同体論：〈真無限〉・〈具体的普遍〉	事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。	講義 90分																																																																						
教本：		参考文献： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）																																																																							
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。</p>																																																																									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するのは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>																																																																									
<p>オフィスアワー：</p> <p>木曜日昼休み。</p>																																																																									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	道徳教育指導法 (Methodology of Moral Education)						科目分類	教職課程科目										
担当教員	深谷 野亞																	
履修条件	前提科目	なし			その他	教職課程履修生しか受講できません												
授業概要：																		
講義の前半は、道徳教育の歴史や学校教育における道徳の在り方等、道徳の基礎的な知識を学習する。後半では、自らが考えた道徳的課題に即して授業を計画し、模擬授業を行うことで実践的な力を育成していきます。																		
授業目標：																		
道徳とは何かを理解し、学校教育の中での生徒の同特定の育成を如何に取り組んでいかを主体的に考えられることができる。下位目標として以下の四点がある。①現代中学生の道徳の現状を確認し、学校教育の中で道徳教育がどう実践されているかを学習する。②道徳の課題について、今日の課題だけではなく歴史的な視点をもって理解できる。③道徳を指導する際の教材の特性を理解し、それを理解した授業が計画できる、指導案作成と模擬授業を通じて実践的な指導力を身につけます。																		
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																		
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																		
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	道徳とは何か			事前：なし 事後：次の配布資料を読む			講義70分・ディスカッション20分											
2	子どもの道徳性の発達－コールバーグを中心に－ コールバーグの理論を中心に、道徳性はどう発達していくのかを理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ディスカッション30分											
3	社会変化と道徳 社会変化に伴い、道徳に関してどのような影響があるかを理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・グループワーク30分											
4	情報化社会と道徳 SNSをつかったいじめなど、さまざまな社会問題が生じている。情報化社会における道徳の在り方を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義70分・グループワーク20分											
5	道徳教育の歴史Ⅰ(修身の時代) 戦前の学校教育柱であった修身のあり方から、公教育における道徳をどう教えるべきかを考えます。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・グループワーク30分											
6	道徳教育の歴史Ⅱ(道徳の時間の時代) 戦前の学校教育への反省から、「道徳の時間」として子どもの道徳をどう育んできたかを理解する。「特別の教科道徳」の意味を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義70分・グループワーク20分											
7	道徳教育の内容Ⅰ(主として自分自身に関すること) この単元の考え方・課題を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義80分・グループワーク10分											
8	道徳教育の内容Ⅱ(主として人との関わりに関すること) この単元の考え方・課題を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・ディスカッション30分											
9	道徳教育の内容Ⅲ(主として集団や社会との関わりに関すること) この単元の考え方・課題を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・グループワーク30分											
10	道徳教育の内容Ⅳ(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること) この単元の考え方・課題を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・グループワーク30分											
11	学校教育全体で、子どもの道徳を育む 全体計画と年間指導計画を理解する。また、道徳における道徳教育推進教師の役割を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・グループワーク50分・発表20分											
12	指導の諸方法 話し合い・読み物・説話・視聴覚教材の特性を理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義60分・グループワーク30分											
13	道徳教育の評価のあり方を考える 記述式の道徳の評価について、どう評価をするべきか、いくつかの実例をもとに理解します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・グループディスカッション60分・発表10分											
14	道徳の指導案の作成 実際に各自が指導案を作成し、互いに指導案を批評・検討し合うことでよりよい指導案を作成する力を育成します。			事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる			講義20分・グループディスカッション60分・発表10分											
15	模擬授業と振り返り－反省を時間の授業に活かす生かすには 前回作成した指導案をもとに、模擬授業をおこなってみる。その上で、それぞれが各自の課題を考えもらいます。			事前：模擬授業として、指導案をシミュレートしてみる 事後：授業全体を振り替えし、今後の課題をまとめる			発表60分・講義30分											
教本：																		
文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳（平成29年告示）」その他、資料を配付します。 授業中に適宜紹介します。																		
成績評価の方法、評価基準：授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）																		
学生へのアドバイス：																		
特別の教科「道徳」は一人一人が主体的に学び、考え、議論する教科を目指しています。積極的に授業に取り組み、道徳への理解を深めましょう。																		
オフィスアワー：初回講義日に伝えます。																		

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	特別活動論 (Methodology of Special Activity)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	増田 裕彦・鈴木 秀顕																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
特別活動の教育課程における意義や目標を歴史的にも考察しつつ、学習指導要領に基づき学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、部活動等について、生徒が主体的に取り組んでいく指導や支援の視点・あり方、指導法を学ぶ。																										
授業目標:																										
生徒会活動や学校行事の意義や目的を理解し、教師の役割を理解できるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
			○			○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習(学習課題)	授業形態																			
1	ガイダンス 科目の説明や学級委員や生徒会活動などの今まで経験してきた特別活動の振り返りを行いレポートにまとめます。					事前:なし 事後:なし	講義 レポート作成																			
2	特別活動の歴史について 過去の特別活動と前回作成したレポートを比較、検討します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
3	教育的意義について「学習指導要領 第5章 特別活動」をよむ 学習指導要領の特別活動を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
4	『学習指導要領解説』にみる特別活動の目標について確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
5	『学習指導要領解説』にみる特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義とはなにか考えます。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
6	各活動・学校行事の目標と内容(1) 学級活動 ①目標 ②内容 具体的な内容を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
7	各活動・学校行事の目標と内容(2) 学級活動 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
8	各活動・学校行事の目標と内容(3) 生徒会活動 ①目標 ②内容 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
9	各活動・学校行事の目標と内容(4) 学校行事 ①目標 ②内容 ③指導計画 ④内容の取扱い 具体的な内容を確認します。					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
10	指導計画の作成と内容の取扱い(1) ①作成に当たっての配慮事項					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
11	指導計画の作成と内容の取扱い(2) ①内容の取扱いについての配慮事項					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
12	年間指導計画の作成 実際に年間指導計画を作成します。					事前:なし 事後:なし	レポート作成 90分																			
13	作成した年間指導計画の発表					事前:なし 事後:なし	レポートの発表 90分																			
14	部活動やボランティアについて					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
15	まとめ					事前:なし 事後:なし	講義90分																			
教本:																										
文部科学省『特別活動編学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』					参考文献:																					
文部科学省『学習指導要領(平成29年告示)第5章特別活動編』					『特別活動・総合的学習の理論と指導法』 関川悦雄・今泉朝雄編 弘文堂 （¥2,200）																					
文部科学省ホームページダウンロードしてプリントアウト又は購入																										
成績評価の方法、評価基準:																										
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス:																										
レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。																										
オフィスアワー:																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	特別の支援を必要とする生徒の理解 (Understanding and Supporting of Children with Special Needs)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	荒木 光																									
履修条件	前提科目	なし																								
授業概要： 全15回の授業の前半から中盤にかけ、特別な支援を必要とする生徒に対する支援理念や教育制度、生徒が抱える障がいの特性や心身の発達に関する基礎知識・支援方法を中心に学習する。後半は、実際の教育現場で直面する様々な課題に対する具体的な支援策について学習する。																										
授業目標： 1. 特別支援教育の基礎を理解し、その必要性を説明できるようになる。 2. 特別な支援を必要とする生徒の特性を理解し、適切な対応を考えられるようになる。 3. 具体的な支援方法を学び、教育現場で活用できる知識を身につける。 4. インクルーシブ教育の意義を理解し、多様な学びの場の重要性を考えられるようになる。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○◎、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	特別の支援を必要とする生徒について事例を通して理解する。					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分																		
2	特別の支援を必要とする生徒を支える理念や教育制度を理解する。					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分																		
3	人の発達過程を理解する。					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分																		
4	ASDの発達特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分																		
5	ADHDの発達特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分																		
6	学習障がいの発達特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分																		
7	知的障がいの発達特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分																		
8	視覚障がいのある生徒の特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分																		
9	聴覚障がいのある生徒の特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分																		
10	肢体不自由のある生徒の特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分																		
11	病弱・身体虚弱のある生徒の特性、学習上・生活上の困難、学習支援を理解する。					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分																		
12	障がいはないが特別の支援を必要とする生徒が抱える困難、支援を理解する。					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分																		
13	特別の支援を組み立てるための具体的な方法を理解する。					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分																		
14	特別支援教育コーディネーター・関係機関・家庭との連携について理解する。					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分																		
15	講義全体のまとめ、理解度の確認を行う。					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分																		
教本： 「特別の支援を必要とする子どもの理解」 建帛社 ¥2,000																										
参考文献： 「通常学級の「特別」ではない支援教育」 東洋館出版社 ¥1,900																										
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 本授業では、特別な支援を必要とする生徒の特性や支援の方法を学びます。一人ひとりに合った関わり方を考え、実践することが、生徒の成長を支えるうえで重要です。主体的に考え、現場で活かす意識を持って学ぶことを期待します。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	日本史概論 I (History of Japan I)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	増田 裕彦																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
日本史概論 I では、旧石器時代から鎌倉時代までを扱う。授業では基本的な事項と日本史全体の流れを理解することを目標とし、各時代における重要な歴史的事件・事象を中心に取り上げ、外国からの影響などにも触れる。																										
授業目標:																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>原始・古代から鎌倉時代までの各時代の特質を考えながら、歴史の大きな流れをつかむ。</li> <li>各時代のターニングポイントに重点を置き、何故時代が変化するのか考える。</li> </ul>																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
<input type="radio"/>			<input type="radio"/>																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
2	日本人のはじまり					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
3	縄文文化と弥生文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
4	東アジアと日本					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
5	古墳時代と大和朝廷					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
6	律令国家の形成と特質					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
7	平城京時代と天平文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
8	平安京と貴族政治					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
9	院政と武士の登場					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
10	平氏と源氏①					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
11	平氏と源氏②					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
12	鎌倉幕府の成立					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
13	執権政治					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
14	幕府の崩壊と蒙古襲来					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
15	まとめ					事前：なし 事後：前回の講義の復習		講義 90分																		
教本：					参考文献： 「詳説 日本史研究」山川出版社																					
基本配布プリント 中学校社会歴史・高校日本史																										
成績評価の方法、評価基準：																										
授業参加状況等（30%）、出席レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス：																										
レポート提出も大きな評価対象。																										
オフィスアワー：																										
初回講義日に伝える。																										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	日本史概論II (History of Japan II)					科目分類	教職課程科目													
担当教員	増田 裕彦																			
履修条件	前提科目	日本史概論I																		
	その他	なし																		
授業概要:	<p>日本史概論IIでは、室町幕府の成立から第二次世界大戦終了までを扱う。 各時代における重要な歴史的事件・事象を中心に取り上げ、外国からの影響などにも触れる。</p>																			
授業目標:	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治史を中心として、各時代の特質を考えながら、ターニングポイントに重点を置き、歴史の大きな流れをつかむ。</li> <li>日本史の基礎知識を習得し、考える力を養うことを目的とする。</li> </ul>																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○						
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																		
○	○																			
授業計画・事前学習・事後学習、形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態												
1	オリエンテーション					事前：なし	講義 90分													
2	室町幕府の成立 南北朝と觀応の擾乱					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
3	室町幕府の衰退と応仁の乱					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
4	戦国時代と織田信長による統一					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
5	豊臣秀吉の天下統一と朝鮮出兵					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
6	戦国時代の終息と江戸幕府の成立					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
7	幕藩体制の展開					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
8	江戸幕府の揺らぎ ベリー来航と開国					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
9	幕末の動乱とその終結					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
10	明治維新と文明開化					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
11	日清・日露戦争					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
12	関東大震災と大正文化					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
13	第一次世界大戦と第二次世界大戦					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
14	第二次世界大戦の終戦とGHQ					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
15	まとめ					事前：なし 事後：前回の講義の復習	講義 90分													
教本:	参考文献: 基本配布プリント 「詳説 日本史研究」山川出版社 中学校社会歴史・高校日本史																			
成績評価の方法、評価基準:	授業参加状況等（30%）、小レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス:	レポート提出も大きな評価対象。																			
オフィスアワー:	初回講義日に伝える。																			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	法学概論 (Introduction to Law)					科目分類	教職課程科目																			
担当教員	上地 一郎																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要：																										
本講義では、法と社会規範の関係とその差異から出発し、法システムの機能、法の強制力、道徳の共通性と違い、法と正義を概観し、日本の裁判員制度、法の効力などを扱います。これらを学習することを通して、法的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。																										
授業目標：																										
基礎法学、実定法、国際法の基礎を中心に法の基本的な知識を習得し、法学的視点と法学の論理を身につけること。																										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○			○																							
授業計画・事前学習・事後学習・形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態																			
1	オリエンテーション 授業の計画、評価などについて解説する			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分																			
2	法とは何か(1) 法の存在形式について解説する			事前：法源とは何かについて調べる。 事後：法の存在形式をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
3	法とは何か(2) 法律と社会規範の関係性を説明する			事前：法と社会規範の違いを調べる。 事後：法と社会規範の違いをまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
4	法システムの機能(1) 法の規範的機能を検討する			事前：法の規範的機能とは何かを調べる。 事後：法の規範的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
5	法システムの機能(2) 法の社会的機能の理解を深める			事前：法の社会的機能とはどのようなものかを調べる。 事後：法の社会的機能をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
6	法と強制(1) 法と強制／犯罪と刑罰の関係を考える			事前：法と強制、犯罪と刑罰について調べる。 事後：法と強制、犯罪と刑罰をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
7	法と強制(2) 刑罰の性質とその正当化は可能かを検討する			事前：刑罰の性質とその正当化について調べる。 事後：法的強制の多様化と変貌をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
8	法と道徳(1) 法と道徳／自然法論と法実証主義の思想を説明する			事前：法と道徳の関係を考える。 事後：自然法論と法実証主義をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
9	法と道徳(2) 法による道徳の強制の問題点を考える			事前：法による道徳の強制は妥当か考える。 事後：バターナリズムと自己決定権についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
10	法と正義(1) 法の目的と正義の関係について説明する			事前：法の目的と正義を考える。 事後：正義観念と法についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
11	法と正義(2) 現代正義論の動向を解説する			事前：正義論について調べる。 事後：現代正義論の動向についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
12	日本の裁判員制度の概要について説明し、その問題点を考える			事前：裁判員制度を調べる。 事後：司法への国民参加をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
13	法の効力(1) 法の形式的効力一段階的構造を解説する			事前：法の効力に必要なことは何かを考える。 事後：法の形式的効力（段階的構造）をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
14	法の効力(2) 憲法と条約／法の効力の範囲について解説する			事前：憲法と条約の関係を調べる。 事後：法の効力の範囲をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
15	効力による法の分類を解説し、全体の総括を行う			事前：一般法と特別法の区別を調べる。 事後：強行法と任意法の区別をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分																			
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																										
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。																										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																										

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	学校経営と学校図書館 (School management and school library)						科目分類	司書教諭科目												
担当教員	石上 七輔																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営に関する諸事項について理解する。</li> <li>学校図書館の経営に関する諸事項を学び、学校図書館の理念や役割、施設・設備のあり方、司書教諭の任務と役割など、必要な基本的内容を理解する。</li> <li>学校図書館の授業利用、サービスの向上、学校図書館の発展と内外の協力体制について学ぶ。</li> </ul>																				
授業目標:																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館の教育的意義や経営など全般的な事項について理解する。</li> <li>学校図書館の歴史と現状に対する理解を深めながら学校図書館の将来的あり方を理解する。</li> </ul>																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	学校の設置、学校の組織と運営について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
2	教育課程について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
3	教職員と学校事務と財務について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
4	教育行政と学校図書館について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
5	学校図書館の歴史と現状について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
6	学校図書館の現状について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
7	学校図書館の理念と教育的意義について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
8	学校教育に果たす図書館の役割について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
9	学校図書館の経営(人、施設、資料、予算、評価等)について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
10	学校図書館メディアの選択と管理、提供について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
11	学校図書館のサービスの向上について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
12	司書教諭の役割と校内の協力体制と研修について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
13	学校図書館活動について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
14	学校図書館の相互協力とネットワークについて				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
15	学校図書館の発展と課題について				事前：教本を読む 事後：授業のノート整理			講義と演習												
教本：					参考文献：															
『学校図書館入門』渡辺暢恵著、ミネルヴァ書房、¥2,625					『学校経営と学校図書館』山本順一著、学文社、¥1,890															
成績評価の方法、評価基準：																				
授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
資格科目なので怠ることなく勉強すること。																				
オフィスアワー：																				
木曜日。総合研究センター(3号館7階、3716)																				

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	学校図書館メディアの構成 (School Libraries and Media)						科目分類	司書教諭科目										
担当教員	鈴木 秀顕																	
履修条件	前提科目 その他	司書教諭資格関連科目を履修済もしくは履修中であること。 なし																
<b>授業概要:</b> 学校図書館司書教諭講習科目。当科目は、学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成、および司書教諭としての基本的な知識を獲得すること。																		
<b>授業目標:</b> 1. 学校図書館メディアの種類と特性を知り、学習目標に対応したコレクション形成ができる 2. 学校図書館で資料をわかりやすく利用させるための組織化(分類・目録)することの基礎を学ぶことができる。 3. 使いやすい学校図書館運用を理解することができる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
○			○															
<b>授業計画・事前学習・事後学習・形式</b>																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態										
1	ガイダンス(情報とメディアの教育的意義と役割)					事前: 精読(9-13) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
2	高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア(学習環境の変化)					事前: 精読(14-18) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
3	学校図書館メディアの種類と特性① (印刷メディア)					事前: 精読(19-22) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
4	学校図書館メディアの種類と特性② (視聴覚メディア、映像メディア、電子メディア、ファイル資料)					事前: 精読(22-27) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
5	学校図書館メディアの種類と特性③ (特別な教育的ニーズに応える学校図書館メディア)					事前: 精読(27-37) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
6	学校経営と学校図書館					事前: 精読(2-10) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
7	教育行政と学校図書館・司書の配置					事前: 精読(11-18) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
8	課題と対策・環境づくり					事前: 精読(19-22) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
9	年間計画・評価と改善					事前: 精読(23-25) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
10	校内の協力体制・研修					事前: 精読(26-29) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
11	図書委員会・図書ボランティア					事前: 精読(30-33) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
12	特別支援学校・他の学校図書館との連携					事前: 精読(34-38) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
13	図書予算の確保					事前: 精読(39-40) 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
14	学校図書館実習					事前: なし 事後: 復習		講義30分 ディスカッション60分										
15	学習図書館実習・報告					事前: 復習 事後: まとめ		講義30分 ディスカッション60分										
<b>教本:</b> 『学校図書館入門』(ミネルヴァ書房)					<b>参考文献:</b> 『学校図書館メディアの構成』(全国学校図書館協議会)													
<b>成績評価の方法、評価基準:</b> 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																		
<b>学生へのアドバイス:</b> 図書館に足を運び、どのように整理されているかを観察するようにしてください。																		
<b>オフィスアワー:</b> 初回講義日に伝える。																		

開講年次	4年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																	
授業科目(英文)	学習指導と学校図書館 (The Course of Study and School Library)					科目分類	司書教諭科目																			
担当教員	石上 七輔																									
履修条件	前提科目	なし																								
その他																										
授業概要:																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館の目的と意義を学ぶ</li> <li>学校図書館メディアの活用例を学び、演習する</li> <li>情報サービスのあり方と司書教諭の役割を学ぶ</li> </ul>																										
授業目標:																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校図書館法」の主旨を認識し、図書館教育の全体計画に生かす</li> <li>「学習情報センター」の機能を生かす環境づくりと司書教諭の役割を学ぶ</li> <li>児童生徒の情報活用能力を育むための実際例を演習で身に付ける</li> </ul>																										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要な○1つ)																										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																				
○						○																				
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態																		
1	学校図書館の意義と目的を学び、学校図書館と学習との関係を学ぶ				事前:なし 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
2	図書館活用教育とはどのようなことか、全体像の具体例				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
3	学校全体で取り組む図書館教育の全体計画(1)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
4	学校全体で取り組む図書館教育の全体計画(2)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
5	「読書センター」と「学習情報センター」の要件				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
6	発達段階に応じた学校図書館メディアのあり方				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、演習30分																		
7	研究校を参観する(VTR)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			演習60分、講評30分																		
8	公共図書館とのネットワーク				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
9	学校図書館メディア活用の実際例1(テーマと情報検索の計画)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
10	学校図書館メディア活用の実際例2(情報・資料の探索・収集)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
11	学校図書館メディア活用の実際例3(情報資料の活用)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
12	学習指導における図書管理用の実際				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
13	学習活動を支える情報サービス(レファレンスサービス)				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
14	学習指導と司書教諭の役割				事前:教材を読んで臨む 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
15	教師への支援と働きかけまとめ				事前:なし 事後:ノートにまとめ提出			講義60分、 話し合い30分																		
教本:					参考文献: 『学習指導・調べ学習と学校図書館』(改訂版、大串夏身 編著 青弓社) 教室で指示します。																					
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等(40%)、ノート等(20%)、定期試験(40%)等で総合評価します。																										
学生へのアドバイス: 教本と中・高等学校国語教科書で教材研究をします。予習でよく読み、毎回のテーマを具体的に論じましょう。																										
オフィスアワー: 木曜日休み 総合研究センター(3号館7階、3716)																										

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
授業科目(英文)	情報メディアの活用 (Using of Medium)					科目分類	司書教諭科目							
担当教員	鈴木 秀顕			単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要:	情報メディア社会は刻々と変化してきており、メディアを通して流れてくる情報は質量ともに増加している。それら情報に対する公正な判断を育成するために学校図書館と情報メディアの分野横断的な活用の基礎を学び、実践力を養う。													
授業目標:	情報社会を理解し、それら活用、教育へ対応する力を養う。													
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）	カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）													
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式	授業計画、事前学習・事後学習、形式													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	ガイダンス（情報化が進展する社会）				事前：精読(14-26) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
2	教育・学習理論と情報メディアの活用				事前：精読(27-46) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
3	教育メディアの歴史(1)				事前：精読(47-57) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
4	教育メディアの歴史(2)				事前：精読(58-66) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
5	情報メディアの種類と特性(1)				事前：精読(67-81) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
6	情報メディアの種類と特性(2)				事前：精読(82-94) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
7	学校におけるICTの活用				事前：精読(95-104) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
8	教育の情報化				事前：精読(8-16) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
9	情報活用能力の育成				事前：精読(18-35) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
10	ICTを活用した教材開発と指導法				事前：精読(36-53) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
11	教育データを活用した評価				事前：精読(54-63) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
12	情報モラル教育				事前：精読(64-80) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
13	ICTを活用した特別支援教育				事前：精読(82-91) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
14	校務の情報化とICT環境の整備				事前：精読(92-109) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
15	遠隔・オンライン教育				事前：精読(110-119) 事後：復習		講義30分 ディスカッション60分							
教本:	参考文献: 『情報メディアの活用』（全国学校図書館協議会） 『情報通信技術を活用した教育の理論および方法』（実教出版） 『高校生が教わる「情報社会」の授業が3時間でわかる本』（翔泳社） 『情報メディア論』（講談社）													
成績評価の方法、評価基準:	成績評価の方法、評価基準: 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。													
学生へのアドバイス:	学生へのアドバイス: 司書教諭の環境はどんどんと変化しています。実例を探求しながらの講義になっていきますので、積極的に参加してください。													
オフィスアワー:	オフィスアワー: 初回講義日に伝える。													

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	生涯学習概論 (Life Learning)					科目分類	学芸員科目														
担当教員	夏目 千恵子																				
履修条件	前提科目 その他	生涯学習概論 I を受講していること なし																			
授業概要：																					
生涯学習と社会教育、学校教育などの関係を明らかにし、次いで、わが国の社会教育の歴史を辿りながら生涯学習の現在ができるだけわかりやすく、できるだけ具体的に解説します。生涯学習の方法や社会教育行政の特質、社会教育計画、生涯各期の教育課題、生涯学習と社会教育をめぐる問題についても概観します。																					
授業目標：																					
(1)生涯学習、社会教育、生涯教育、生涯学習社会等の概念について説明できる。(2)生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育との関係について説明できる。(3)生涯学習推進に関わる法令、行政の仕組み、施策について説明できる。(4)社会教育の意義、内容、方法・形態について説明できる。(5)社会教育関係の指導者としての社会教育主事、司書、学芸員、社会教育委員、公民館主事、青少年教育施設の指導系職員、ボランティア・リーダー等の職務や役割について説明できる。以上5点がこの授業の目標です。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○						○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション授業のテーマや到達目標などについて解説する—				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
2	生涯教育論の登場				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
3	生涯学習と社会教育				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
4	生涯学習と社会教育の歴史(1)				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
5	生涯学習と社会教育の歴史(2)				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
6	生涯学習と学校教育				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
7	生涯学習関連行政の仕組み				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
8	生涯各期の教育課題				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
9	生涯学習と社会教育の計画				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
10	生涯学習の方法と内容				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
11	学習プログラムの編成				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
12	生涯学習と社会教育施設				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
13	生涯学習と社会教育職員				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
14	生涯学習と社会教育をめぐる課題				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
15	まとめ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
教本：					参考文献：																
佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房2020年 第2次改訂版																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%)。																					
学生へのアドバイス： 生涯学習論1を修得した上で、生涯学習論2を履修してください。																					
オフィスアワー： 月曜日のお昼休み																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																												
授業科目(英文)	博物館概論 (Introduction to Museology)						科目分類	学芸員科目																																																													
担当教員	増田 裕彦																																																																				
履修条件	前提科目	なし			その他	高校レベルの世界史、日本史の知識が必要になる。Google Classroomを使用する。																																																															
<b>授業概要:</b> 博物館について包括的に学ぶ。毎回の授業終了前に小テスト/リアクションペーパーを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。																																																																					
<b>授業目標:</b> 1. 博物館の歴史と現状について理解する。 2. 学芸員資格のための基礎を理解する。																																																																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要な○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識・技能の習得</td> <td style="padding: 5px;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																									
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																			
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">授業回数</th> <th style="width: 60%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width: 20%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width: 20%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1章「博物館学とは」：博物館学が対象とする博物館の定義・目的・機能・組織について学ぶ。</td><td>事前：博物館のイメージ 事後：1章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>2</td><td>2章「博物館と学芸員」：日本における博物館の種類と現状について概観した後、学芸員の役割について把握する。</td><td>事前：学芸員の流行 事後：2章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>3</td><td>3章「ヨーロッパと北米における博物館の歴史」：ヨーロッパとアメリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。</td><td>事前：外国の博物館 事後：3章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>4</td><td>4章「アジアとアフリカにおける博物館の歴史」：アジアとアフリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。</td><td>事前：外国の博物館 事後：4章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>5</td><td>5章「日本における博物館の歴史」：日本の博物館の歴史と現状について学ぶ。</td><td>事前：日本の博物館 事後：5章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>6</td><td>6章「博物館展示のメッセージ性」、7章「博物館展示の手法・技術」：博物館展示の意味と伝達と解釈、分類について学ぶ。</td><td>事前：博物館訪問振り返り 事後：6章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>7</td><td>8章「博物館と研究活動」：博物館の調査研究活動や成果公開をめぐる問題について概観する。</td><td>事前：研究のイメージ 事後：8章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>8</td><td>9章「博物館の情報・メディア」：アナログ、デジタルの多様なメディアでの博物館の情報発信について学ぶ。</td><td>事前：デジタルミュージアム 事後：9章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>9</td><td>10章「博物館資料の保存と修復」：博物館資料の予防保存の考え方、要点について学ぶ。</td><td>事前：モノの保存と修復技術 事後：10章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>10</td><td>11章「文化財の保存と活用」：文化保護行政の展開と安全な博物館づくりについて学ぶ。</td><td>事前：文化財のイメージ 事後：11章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>11</td><td>12章「博物館と教育」：博物館の利用者、社会に貢献するために博物館が提供する教育機会について学ぶ。</td><td>事前：教育のイメージ 事後：12章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>12</td><td>13章「博物館と様々な連携」、14章「国際社会における博物館の連携」：博物館と他の機関や専門家等との多様な形態の連携について学ぶ。</td><td>事前：協働 事後：13・14章の復習</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>13</td><td>15章「博物館の現在と未来」：現在の課題と未来に向けての取り組みについて学ぶ。</td><td>事前：ノート整理 事後：テスト準備</td><td>講義 75分 課題 15分</td></tr> <tr><td>14・15</td><td>授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。</td><td>事前：テスト準備 事後：振り返り</td><td>講義 30分 テスト 60分</td></tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	1章「博物館学とは」：博物館学が対象とする博物館の定義・目的・機能・組織について学ぶ。	事前：博物館のイメージ 事後：1章の復習	講義 75分 課題 15分	2	2章「博物館と学芸員」：日本における博物館の種類と現状について概観した後、学芸員の役割について把握する。	事前：学芸員の流行 事後：2章の復習	講義 75分 課題 15分	3	3章「ヨーロッパと北米における博物館の歴史」：ヨーロッパとアメリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：外国の博物館 事後：3章の復習	講義 75分 課題 15分	4	4章「アジアとアフリカにおける博物館の歴史」：アジアとアフリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：外国の博物館 事後：4章の復習	講義 75分 課題 15分	5	5章「日本における博物館の歴史」：日本の博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：日本の博物館 事後：5章の復習	講義 75分 課題 15分	6	6章「博物館展示のメッセージ性」、7章「博物館展示の手法・技術」：博物館展示の意味と伝達と解釈、分類について学ぶ。	事前：博物館訪問振り返り 事後：6章の復習	講義 75分 課題 15分	7	8章「博物館と研究活動」：博物館の調査研究活動や成果公開をめぐる問題について概観する。	事前：研究のイメージ 事後：8章の復習	講義 75分 課題 15分	8	9章「博物館の情報・メディア」：アナログ、デジタルの多様なメディアでの博物館の情報発信について学ぶ。	事前：デジタルミュージアム 事後：9章の復習	講義 75分 課題 15分	9	10章「博物館資料の保存と修復」：博物館資料の予防保存の考え方、要点について学ぶ。	事前：モノの保存と修復技術 事後：10章の復習	講義 75分 課題 15分	10	11章「文化財の保存と活用」：文化保護行政の展開と安全な博物館づくりについて学ぶ。	事前：文化財のイメージ 事後：11章の復習	講義 75分 課題 15分	11	12章「博物館と教育」：博物館の利用者、社会に貢献するために博物館が提供する教育機会について学ぶ。	事前：教育のイメージ 事後：12章の復習	講義 75分 課題 15分	12	13章「博物館と様々な連携」、14章「国際社会における博物館の連携」：博物館と他の機関や専門家等との多様な形態の連携について学ぶ。	事前：協働 事後：13・14章の復習	講義 75分 課題 15分	13	15章「博物館の現在と未来」：現在の課題と未来に向けての取り組みについて学ぶ。	事前：ノート整理 事後：テスト準備	講義 75分 課題 15分	14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義 30分 テスト 60分
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																		
1	1章「博物館学とは」：博物館学が対象とする博物館の定義・目的・機能・組織について学ぶ。	事前：博物館のイメージ 事後：1章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
2	2章「博物館と学芸員」：日本における博物館の種類と現状について概観した後、学芸員の役割について把握する。	事前：学芸員の流行 事後：2章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
3	3章「ヨーロッパと北米における博物館の歴史」：ヨーロッパとアメリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：外国の博物館 事後：3章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
4	4章「アジアとアフリカにおける博物館の歴史」：アジアとアフリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：外国の博物館 事後：4章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
5	5章「日本における博物館の歴史」：日本の博物館の歴史と現状について学ぶ。	事前：日本の博物館 事後：5章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
6	6章「博物館展示のメッセージ性」、7章「博物館展示の手法・技術」：博物館展示の意味と伝達と解釈、分類について学ぶ。	事前：博物館訪問振り返り 事後：6章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
7	8章「博物館と研究活動」：博物館の調査研究活動や成果公開をめぐる問題について概観する。	事前：研究のイメージ 事後：8章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
8	9章「博物館の情報・メディア」：アナログ、デジタルの多様なメディアでの博物館の情報発信について学ぶ。	事前：デジタルミュージアム 事後：9章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
9	10章「博物館資料の保存と修復」：博物館資料の予防保存の考え方、要点について学ぶ。	事前：モノの保存と修復技術 事後：10章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
10	11章「文化財の保存と活用」：文化保護行政の展開と安全な博物館づくりについて学ぶ。	事前：文化財のイメージ 事後：11章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
11	12章「博物館と教育」：博物館の利用者、社会に貢献するために博物館が提供する教育機会について学ぶ。	事前：教育のイメージ 事後：12章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
12	13章「博物館と様々な連携」、14章「国際社会における博物館の連携」：博物館と他の機関や専門家等との多様な形態の連携について学ぶ。	事前：協働 事後：13・14章の復習	講義 75分 課題 15分																																																																		
13	15章「博物館の現在と未来」：現在の課題と未来に向けての取り組みについて学ぶ。	事前：ノート整理 事後：テスト準備	講義 75分 課題 15分																																																																		
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。	事前：テスト準備 事後：振り返り	講義 30分 テスト 60分																																																																		
教本：					参考文献：																																																																
鶴見英成、[新訂]『博物館概論』放送大学教育振興会、2023年、¥3,100+税					そのつど紹介する																																																																
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、最終テスト (50%) 等で総合評価する。遅刻や欠席は原則として認められません。																																																																					
<b>学生へのアドバイス：</b> 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																																																																					
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。																																																																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義													
授業科目(英文)	博物館教育論 (Museum of Education Theory)						科目分類	学芸員科目														
担当教員	安倍 宰																					
履修条件	前提科目	博物館概論			その他	なし																
授業概要:																						
博物館は資料を収集し、展示し、保存する学習機関です。博物館にはどのような教育が可能のか。その利用形態にはどのようなものがあるのか。どのように成果を共有することができるのか。現代社会における博物館のあり方も含めて授業を進める。																						
授業目標:																						
博物館教育に関する具体的な方針を自ら工夫してみること。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○						○																
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	博物館の現代的位置付け				事前：なし 事後：復習			講義90分														
2	博物館教育とは何か				事前：なし 事後：復習			講義90分														
3	博物館法と教育				事前：なし 事後：復習			講義90分														
4	博物館教育についての若干の理論				事前：なし 事後：復習			講義90分														
5	博物館教育のための環境整備				事前：なし 事後：復習			講義90分														
6	博物館教育のための人的資源				事前：なし 事後：復習			講義90分														
7	博物館資料と展示				事前：なし 事後：復習			講義90分														
8	博学共同とは何か				事前：なし 事後：復習			講義90分														
9	教育プログラムの作成				事前：なし 事後：復習			講義90分														
10	教育プログラムの成果と評価				事前：なし 事後：復習			講義90分														
11	博物館教育と地域社会				事前：なし 事後：復習			講義90分														
12	生涯学習の意義と博物館教育				事前：なし 事後：復習			講義90分														
13	自分が考える博物館教育				事前：下調べ 事後：復習			報告とディスカッション90分														
14	自分が考える博物館教育2				事前：下調べ 事後：復習			報告とディスカッション90分														
15	まとめと復習				事前：総合的な復習 事後：なし			レポート作成90分														
教本: なし		参考文献: その都度紹介する。																				
成績評価の方法、評価基準:																						
授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。																						
学生へのアドバイス:																						
最終的なレポートだけではなく、授業半ばで小さなレポートを課すこともあります。																						
オフィスアワー:																						
初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	博物館経営論 (Museum Management)						科目分類	学芸員科目							
担当教員	小林 克														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
博物館の経営基盤がどのように成り立っているのか、実例に基づき解説。博物館経営の目的を明らかにし、博物館における使命・計画・実施・評価の環状の流れについて知り、創造都市論的視座にたち、地域文化の拠点としての博物館の役割を理解する。具体的にはマーケティングの実施、広報、ショップ等の付帯事業、危機管理や倫理規定、市民参加、地域連携等について解説する。															
授業目標:															
現代の博物館では様々な事業を地域と連携して展開していることを、東京都江戸東京博物館等での実務経験に基づいて示し、経営論的視座から解説し、以下を到達目標とする。①博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解する。②ミュージアムマネジメント=博物館経営に関する基礎的な概念を説明できるようとする。③具体的に博物館経営を実践するための基礎的能力を身につける。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
◎			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。現代社会における博物館経営論の必要性を考える。新聞記事の読み込み。			事前：博物館経営についてネットで調べる。 事後：授業の進行、今後の予定等について資料を読み再確認しておく。			講義(70分)、 アンケート(20分)								
2	経営基盤1 博物館の行財政制度 博物館の行財政制度と財務の実態。地方自治体と博物館との関係を示す。			事前：博物館法に目を通しておく。国や地方自治体の予算と決算について調べる。 事後：予算と決算について、まとめておく。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
3	経営基盤2 博物館の施設と設備 施設と設備、予算と建築の関係、ユニバーサル化について解説する。			事前：バリアフリーについて調べる。 事後：バリアフリーと展示手法について。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
4	経営基盤3 博物館の組織・職員 博物館の組織のあり方。業務委託の実態について。			事前：博物館に必要な職種について考える。 事後：博物館スタッフの職種について。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
5	経営基盤4 ミュージアムマネジメント 博物館経営とは何か。運営と経営の違いを考える。			事前：経営と運営について、辞書等を引く。 事後：博物館経営とは何かを確認。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
6	博物館の経営1 PDCAサイクルと評価 PDCAサイクルの必要性、計画、実施・評価について解説する。評価の積み上げと定量評価と定性評価について。			事前：PDCAサイクルとは何か調べる。 事後：博物館経営のPDCAについて			講義(80分)、 小テスト(10分)								
7	博物館の経営2 博物館の危機管理と倫理 防止管理、リスクマネジメントの必要性、博物館の倫理規定と学芸員の行動規範について。			事前：コンプライアンスについて調べる。 事後：授業内容を再確認する。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
8	博物館の経営3 博物館広報 広報と広告について。博物館広報を具体的に例示し、プレスリリース等について。			事前：広告と広報の違いは何か調べる。 事後：広告と広報の違いについて確認する。			講義(30分)、 演習(60分)								
9	博物館の経営4 ミュージアムショップとレストラン これらの施設が博物館経営上重要であることを示す。			事前：好きなショップについて、調べる。 事後：ショップと販売戦略について確認。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
10	博物館の経営5 ミュージアムグッズと収蔵資料 売れるオリジナルグッズの作り方、販売について。			事前：博物館のオリジナルグッズについて、調べておく。 復習：売れるオリジナルグッズの作り方			講義(45分)、 演習(45分)								
11	博物館における連携1 市民参画 ボランティアや友の会について。パートナーシップ制度等。			事前：用語についてネット等で調べる。 事後：ボランティア教育の必要性について。			講義(70分)、 ディスカッション(20分)								
12	博物館における連携2 地域振興と博物館 地域や企業との連携の具体的な事例を解説し、実践について学ぶ。			事前：特別展示のチラシを入手し、協賛や主催、協力の違いについて。 復習：授業の内容を再確認する。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
13	博物館における連携3 都市の再生と芸術文化。創造都市論の中での市場創造活動、環境クラスターについて。			事前：創造都市論について調べる。 復習：授業の内容を再確認する。			講義(70分)、 小レポート作成(20分)								

14	ミュージアムマネジメントの実際。ミュージアムマネジメントの進め方について実践的に学ぶ。	事前：事前配布資料を読み込む。 復習：授業の内容を再確認する。	講義(60分)、 演習(30分)		
15	まとめ 課題レポート内容の発表と提出。全体をまとめた説明。	事前：最終課題について提出物を確認。 復習：全般的な流れと体系を理解する。	講義(45分)、 ディスカッション(45分)		
教本： 小林克『新博物館学—これからの博物館経営—』同成社		参考文献： 上山信一・稲葉郁子『ミュージアムが都市を再生する』日本経済新聞社 フリップ・コトラー、ニール・コトラー『ミュージアムマーケティング』 第一法規			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントから定期試験等は出題します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	3	時間数	60	授業形態	実習																	
授業科目(英文)	博物館実習 (Practical Training in Museum)					科目分類	学芸員科目																			
担当教員	小林 克																									
履修条件	前提科目	博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論、博物館情報・メディア論																								
	その他	授業外の課題として博物館を見学しレポートを提出する。館園実習は5日前後であり必ず参加する																								
授業概要:	博物館資料の記録を作成し資料化し、公表して活用するかを講義し、学生に実技指導する。博物館での学芸員経験をもとに、各種資料の基本的な取り扱い方法と、その基礎知識を習得し、学生が実技を習得する。展覧会の企画立案と実施について講義し、学生が一部を実際に試行する。学芸員業務を理解し、実践・実習するため、博物館を5館以上見学し、一週間程度の館園実習を行う。																									
授業目標:	人文系博物館の主要な資料について、記録化し公開するための基本的な技術を習得し、そのために必要な作業を行えるようにする。人文系博物館に多い各種資料の取り扱いを身につけ、その上で特別展を自ら企画して展示を行うための基礎的かつ実践的な技術を習得する。																									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																										
	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																					
	◎	○																								
授業計画、事前学習・事後学習、形式																										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態																		
1	ガイダンス：授業のテーマである、博物館・学芸員の役割と実務、授業の到達目標と方法について説明。				事前：シラバスを読み、授業で説明できるようにする。 事後：2回目以降必要なものを用意。			講義(70分)、 ディスカッション(20分)																		
2	資料の記録化(1)：資料収集の流れ（収集全体の流れと進め方、その背景について講義）。				事前：博物館の4つの機能と、博物館資料とは何か確認しておくこと。 事後：博物館資料とする手続きとその根拠について博物館法等で確認。			講義(90分)																		
3	資料の記録化(2)：聞き取りと資料カード作成（講義後数人のグループで聞き取りを実際に実行する）。				事前：「資料」について用意し、忘れずに授業に持ってくる。 事後：聞き取り内容を整理。			講義(20分)、 実技(70分)																		
4	資料の記録化(3)：資料カード作成とフィルムカメラでの写真撮影（聞き取りのメモから資料カードを作成。写真の意義と実際に実行して講義）。				事前：カード記入のための辞書等を用意。 事後：写真撮影の手順を再確認。			講義(45分)、 実技(45分)																		
5	資料の記録化(4)：資料の写真撮影 数人のグループで実際にライティングを行い、写真撮影を実施。				事前：フィルムカメラの使用方法を前回の資料を復習し確認。 事後：写真撮影の流れを再度確認しておく。			講義(30分)、 実技(60分)																		
6	資料の記録化(5)：資料の写真撮影と整理（現像した写真の整理と台帳整理。資料カードへの貼付けとカードの完成）。博物館見学の説明。館園実習の説明(1)				事前：資料カード作成方法の復習。 事後：資料カード作成方法の復習。			講義(30分)、 実技(60分)																		
7	博物館見学				事前：エンピツを用意、爪のチェック等。 事後：見学内容をメモに纏める。			講義(80分)、 ディスカッション(10分)																		
8	博物館見学				事前：エンピツを用意、爪のチェック等。 事後：見学内容をメモに纏める。			講義(80分)、 ディスカッション(10分)																		
9	資料の記録化(6)：実測①講義後の実演を見てメモを取り、各自で実測のために方眼紙上に資料を設置。				事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。			講義(50分)、 実技(40分)																		
10	資料の記録化(7)：実測②（実測実技・器形と断面）				事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。			実技指導(20分)、 実技(70分)																		
11	資料の記録化(8)：実測③（実測実技・文様の割付、底面等）				事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。			実技指導(20分)、 実技(70分)																		
12	資料の記録化(9)：拓本①(講義と小林による実演 実技のための事前準備)				事前：拓本についてネット等で調べる。 事後：講義の再確認。			講義(60分)、 実技(30分)																		
13	資料の記録化(10)：拓本②(各自実技) 館園実習の説明(2)				事前：前回の講義を確認し本日の手順確認。 事後：本日の授業のまとめ作成。			実技指導(20分)、 実技(70分)																		

14	資料の記録化(1)：動画撮影の基本と実際にについて講義。	事前：自分のカメラやスマホの動画スペックを確認。 事後：講義の再確認。	講義(60分)、 実技(30分)
15	資料の記録化(2)：作成した動画の整理と利用方法について。	事前：前回配付資料の再確認。 事後：本日の授業のまとめを再確認。	講義(60分)、 実技(30分)
16	資料の取り扱い(1)：陶磁器等 配布資料と板書により講義し、小林が実演する。その後各自で実技。具体的には各種木箱の紐を結べるようにする。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
17	資料の取り扱い(2)：巻子 配布資料と板書。学生がグループで実技。巻子を展示し、収納できるようにする。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
18	資料の取り扱い(3)：掛軸 配布資料と板書。学生が実技。掛け軸を展示、収納できるようにする。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
19	資料の取り扱い(4)：屏風 配布資料と板書する。学生がグループで実技。屏風を展示し、収納できるようにする。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
20	資料の取り扱い(5)：着物・民具等 配布資料と板書。学生が実技。着物や民具について展示し、収納できるようにする。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
21	資料の取り扱い(6)：美術資料、版本や手紙など歴史資料の取り扱いと展示方法について、小林の実演の後、学生が実技。	事前：事前配付資料の確認。 事後：配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(45分)、 実技(45分)
22	資料の取り扱い(7)：今まで実習した資料の取り扱い方についてまとめて確認する。実技テストと小テスト。	事前：事前配付資料の確認とイメージトレーニング。 事後：配付資料の再確認。	講義(20分)、 実技テスト(30分)、 小テスト(30分)
23	展覧会の実務(1) 展示作成の流れと調書作成。講義とパワーポイントによる説明。	事前：実施中の展覧会について調べる。 事後：展示作成の流れと調書を再確認。	講義(90分)
24	展覧会の実務(2) 調書作成。グループで調書作成の実技実施。小林が批評。	事前：調書作成について手順を確認。 事後：調書作成の要点を纏める。	講義(20分)、 実技(70分)
25	展覧会の実務(3) 展示企画案の作成① 展示構成・解説パネル・キャプション等について講義し解説。	事前：実施中の展覧会について調べる。 事後：展示企画案についての構想を練る。	講義(90分)
26	展覧会の実務(4) 展示企画案の作成② 小林が講義した後に学生が企画提案を作成。	事前：展示企画案について検討する。 事後：展示企画案について纏める。	講義(45分)、 実技(45分)
27	展覧会の実務(5) 学生が企画提案書をプレゼンテーション。展示解説系に関する講義。展示作成作業。キャプションや解説系のスタイルを決定。	事前：実施中の展覧会について調べる。 事後：キャプション、解説パネルの内容を作成する。	講義(45分)、 実技(45分)
28	展覧会の実務(6) 解説文・パネル・キャプションの作成。館園実習の説明(3)	事前：キャプション、解説パネルの内容を作成する。 事後：キャプション、解説パネルの修正。	講義(20分)、 実技(70分)
29	展覧会の実務(7) 解説文・パネル・キャプションの作成。小林の実演の後、ハレバネで解説系を作成。	事前：キャプション、解説パネルの修正。 事後：模擬資料の作成。展示の説明を確認。	講義(10分)、 実技(80分)
30	展覧会を作る 陳列作業 展示の一部を再現。模擬資料やキャプション等を並べ、展示の概要を説明する。小テスト実施。館園実習の説明(4)	事前：解説関係の再確認。模擬資料の作成。展示の説明について原稿作成。 事後：館園実習についての予習を行う。	講義(20分)、 実技(70分)

教本：

その都度指示する。

参考文献：

小林 克『新博物館学—これからの博物館経営』同成社

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等 (20%)、実技の習得状況、実習成果物等(40%)、小テスト・レポート等 (40%) 等で総合評価する。

学生へのアドバイス：

資格認定科目であり、出来るだけ休まずに出席すること。実習という性格上、進捗状況により授業内容が変わる場合がある。

オフィスアワー：

初回講義日に伝える。

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習													
授業科目(英文)	博物館情報・メディア論 (Museum Information and Media)						科目分類	学芸員科目														
担当教員	小林 克																					
履修条件	前提科目	なし																				
その他																						
授業概要：																						
博物館における情報の意義と利用方法を理解し、収蔵品のデジタル化の方法とメディアへの保存、デジタル化した情報の発信と保守について理解する。著作権法等の意義を理解し、収蔵資料のデータベース化を行うことで応用を図り、調査研究・情報管理・公開に関する情報の取り扱いについて習得する。その為に様々な博物館の事例を示し、分かりやすく解説する。																						
授業目標：																						
①博物館における情報・視聴覚資料提供の基本的考え方と、用いる情報機器の概要について理解して説明できるようになる。 ②21世紀にはいり格段に進んだ、博物館における情報の提供と活用に関する基礎的能力を得る。																						
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																						
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																
○			○																			
授業計画・事前学習・事後学習・形式																						
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態														
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。現代の生活と情報メディア、博物館との関わりについて				事前：スマホ等で博物館HPを見る 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)														
2	博物館情報とは何か—情報の意義—博物館を取り巻く現代社会における情報の活用について				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
3	博物館と情報の種類。一次資料、二次資料、ストック情報とフロー情報について				事前：収蔵資料を博物館HPで見る 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
4	博物館活動と情報の諸相。資料のドキュメンテーションとデータベース化について				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
5	展示活動と情報—アナログからデジタルへ。常設展示室や教育普及活動での映像やデジタルデータ活用				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
6	資料のデータベース化とその応用。具体的な資料情報システムの意義と活用状況について				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
7	情報公開と広報活動。博物館の広報活動にどのように情報を利用するかその実際について				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
8	資料情報の抽出・記録化。実際に博物館資料からどのように情報を抽出し記録化すか、資料カード作成を実施				事前：チラシ等を博物館HPで見る 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、演習(60分)														
9	博物館と知的財産。博物館における著作権法や様々な知的財産権との関わりや処理の実際について				事前：関連事項を文化庁HPで見る 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
10	発信される博物館情報。インターネットを利用した博物館の情報提供や、各種サービスの実態について				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、演習(45分)														
11	博物館活動の情報化。博物館での調査研究活動、教育普及活動の記録化の歴史とデジタル化の実情				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)														
12	デジタルアーカイブとデジタルミュージアム。幾つかの博物館で実施されている具体例から実態と課題をみる				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)														
13	博物館運営と情報メディア利用の実際。さまざまな博物館の映像から情報メディア利用の実際を確認				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)														
14	インターネットと情報端末の利用。スマホ等を利用した展示・教育普及活動について解説し、課題を提示する				事前：関連事項をネットで検索 事後：課題レポート作成継続			講義(60分)、演習(30分)														
15	まとめ 課題レポート内容の発表と提出。全体をまとめた説明				事前：課題発表の確認 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)														
教本：		参考文献： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。																				
		西岡貞一・篠田謙一2013『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会他にも、その都度提示します。																				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。																						
学生へのアドバイス： 博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席がある場合は追加で課題を出します。																						
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																						

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義											
授業科目(英文)	博物館資料保存論 (Preservation of Museum Collections)			科目分類			学芸員科目													
担当教員	小林 克																			
履修条件	前提科目	なし			その他	なし														
授業概要:																				
博物館における資料保存の意義を確認し、各種博物館資料の保存について、映像を見て分かりやすく示す。必要に応じてプリントを配布し、資料保存の意義について理解してもらう。専門用語も具体的に解説し、資料保存の全体像を把握出来るようにする。																				
授業目標:																				
博物館資料の収蔵・展示等の環境を科学的に捉え、博物館資料を良好な状態で保存・継承していくための基礎的知識・技術を習得する。																				
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																				
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○			○																	
授業計画・事前学習・事後学習・形式																				
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態												
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。博物館における資料保存の重要性と実態について				事前：シラバスの確認 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)												
2	資料保存の目的と意義。博物館にとって資料の保存がどのように大切か、歴史と現状を理解する				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
3	博物館資料とは何か。民俗資料、歴史資料、考古資料、映像資料、複製等の保存と育成等について解説				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
4	経年劣化の原因、種類と対策。資料の属性により異なる経年劣化を理解し、その予防、進行阻止について				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
5	博物館資料の保存① 資料の環境。収蔵庫と展示室、貸出先など。資料を取り巻く具体的な環境				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
6	博物館資料の保存② 温度、湿度、光と照明、振動などが資料に与える影響				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
7	博物館資料の保存③ 空気汚染と生物被害とIPM。燻蒸の変遷と現状、IPMの実施方法との関係				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
8	博物館資料の保存④ 災害の予防と対策。水害、火災、地震、盗難、破壊・汚損行為等について				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
9	博物館資料の保存⑤ 伝統的保存方法の事例を紹介し、その有用性を理解し、方法を学ぶ				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
10	博物館資料の状態調査。展覧会借用時の状態チェック。文化財調査と保存の為の調査と修復				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(40分)、 実習(50分)												
11	修復と保存処理。考古資料、紙資料等の各種資料毎の修復方法と、科学的調査と保存処理について				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小テスト(20分)												
12	資料の梱包と輸送、展示作業。保存を最優先とする梱包や運送の実態について				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
13	建造物の保存、活用と野外博物館、民具。建造物や民具資料の保存と修復、展示方法と各種活用について				事前：指定する参考資料等用語を確認 事後：課題の作成。			講義(70分)、 レポート課題説明(20分)												
14	地域資源・自然環境の保全 景観・街並の保存と活用。「重伝建地区」、「文化的景観」、エコミュージアム等				事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)												
15	まとめ。発表。レポート提出				事前：レポートの発表準備 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、発表、 デスカッション(60分)												
教本：					参考文献：															
石崎武志『博物館資料保存論』講談社￥2,376(税込み)他に資料プリントを適宜配布します。					必要に応じ、その都度提示します。															
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。																				
授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(50%)等で総合評価する。																				
学生へのアドバイス：																				
博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席がある場合は追加で課題を出します。																				
オフィスアワー：																				
初回講義日に伝える。																				

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義															
授業科目(英文)	博物館資料論 (Materials of Museum)					科目分類	学芸員科目																	
担当教員	安倍 宰																							
履修条件	前提科目	博物館概論			その他	なし																		
授業概要:																								
博物館は資料を収集し、展示し、保存する学習機関です。博物館にはどのような資料が求められるのか。その入手形態にはどのようなものがあるのか。どのように共有することができるのか。現代社会における博物館のあり方も含めて授業を進める。																								
授業目標:																								
博物館資料に関する基礎知識を習得してゆくこと。																								
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																								
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養																		
◎						○																		
授業計画・事前学習・事後学習・形式																								
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態																
1	博物館の現代的位置付け					事前：なし 事後：復習		講義90分																
2	博物館資料とは何か					事前：なし 事後：復習		講義90分																
3	博物館法と資料					事前：なし 事後：復習		講義90分																
4	博物館資料の種類					事前：なし 事後：復習		講義90分																
5	野外資料の保存について					事前：なし 事後：復習		講義90分																
6	記憶の中の資料を形にする					事前：なし 事後：復習		講義90分																
7	ジオパークと博物館資料					事前：なし 事後：復習		講義90分																
8	資料情報のネットワーク化					事前：なし 事後：復習		講義90分																
9	「参加」する資料、ハンズオン					事前：なし 事後：復習		講義90分																
10	ビジュアル型の資料の特色					事前：なし 事後：復習		講義90分																
11	写真、映像、コンピューター情報、実物					事前：なし 事後：復習		講義90分																
12	資料収集のあり方					事前：なし 事後：復習		講義90分																
13	「民俗誌」のあり方					事前：なし 事後：復習		講義90分																
14	「民俗誌」を書く					事前：なし 事後：復習		講義90分																
15	まとめと復習					事前：総合的な復習 事後：なし		レポート作成90分																
教本: なし		参考文献: その都度紹介する。																						
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート(50%)等で総合評価する。																								
学生へのアドバイス: 最終的なレポートだけではなく、授業半ばで小さなレポートを課すこともあります。																								
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。																								

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習										
授業科目(英文)	博物館展示論 (Museum Exhibition Theory)						科目分類	学芸員科目											
担当教員	小林 克																		
履修条件	前提科目	「博物館概論」を受講していることが望ましい。																	
その他																			
授業概要:																			
博物館における展示は重要かつ不可欠な表現方法であり、機能である。展示の理論を学び、基礎的な展示技術を理解して習得する。																			
授業目標:																			
① 様々な展示の諸形態に関する理論と展示方法に関する知識を習得。																			
② 展示作成の基礎的な技術を習得。																			
③ 解説文。パネル、展示解説書のあり方と作成方法、その基礎的技術を習得する。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養														
○		○																	
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態											
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法等について。準備学習実施の確認と対応 自己紹介 様々な博物館の概要				事前：様々な展示を見学する 事後：配布資料の内容確認			講義(70分) アンケート(20分)											
2	展示の意義1 展示とは何か 展示の目的、役割、コミュニケーションのあり方				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) ワークシート(30分)											
3	展示の意義2 展覧会の進行 調査研究と展示の関係。具体的な事例 展覧会の進行について説明。				事前：前回資料を確認する 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) 小テスト(30分)											
4	展示の意義3 展示の歴史①ヨーロッパと日本の展示の歴史と社会 デパート展と大規模企画展。巡回展の歴史と実態様々な政治体制と博物館 展示の政治性と社会性				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) ワークシート(30分)											
5	展示の意義4 展示の歴史② 昭和後期から現代まで デパート展と大規模企画展のあり方。巡回展の歴史と実態				事前：前回資料を確認する 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) グループワーク(30分)											
6	展示の意義5 展示の諸形態 常設展示、企画展示（特別展示）、巡回展示、その他の展示 展示手法として テーマ展示、分類・系統展示、通史展示、生態・動態展示				事前：指定する博物館のHPを確認する 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) 小テスト(30分)											
7	展示の実際1 展示制作① 常設展示の制作 構想から基本計画・基本設計 資料収集、複製製作、模型製作、図録製作等				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(70分) ワークシート(20分)											
8	展示の実際2 展示制作② 企画・採用・実施決定のプロセス 企画書 開催要項案、展示構成とレイアウト図、資料リスト 實施計画 評価と実施体制				事前：指定する博物館のHPで企画展示を確認する 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、演習(45分)											
9	展示の実際3 展示制作③ デザイン・技術・施工・印刷 デザインの統一 資料リストと施工図、様々な印刷物（ポスター、チラシ、カタログ、内覧会招待状等）				事前：チラシ等を博物館HPで見る 事後：配布資料の内容確認			講義(70分) ワークシート(20分)											
10	展示の実際4 関係者との様々な協力と連携 他館、所蔵者、専門業者 資料借用 協定書の締結 運搬と設置、返却				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(80分) ワークシート(10分)											
11	展示の実際5 展示の評価と改善・更新 配置計画と動線計画 来館者調査と展示改善 事前評価と事後評価、外部評価				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(60分) ディスカッション(30分)											
12	展示作成1 展示ストーリーラインと資料、解説系 企画書の作成				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、演習(45分)											
13	展示作成2 解説文と解説パネル 展示デザインとパネル・映像 展示解説書 展示図録 パンフレット チラシ				事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認			講義(70分) 小レポート作成(20分)											
14	展示作成3 解説文と解説パネル作成。実際に展示キャプションと解説文を作成する。授業内テスト。				事前：関連事項をネットで検索 事後：課題レポート作成継続			講義(15分)、テスト(75分)											
15	まとめ 全体をまとめた説明。第14回のテストの結果について解説。授業全体について振り返り。質問の受付等。				事前：課題発表の確認 事後：配布資料の内容確認			講義(45分) ディスカッション(45分)											
教本：		参考文献：																	
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。		その都度提示します。																	
成績評価の方法、評価基準：																			
授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス：																			
博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席した場合は追加で課題を出します。																			
オフィスアワー：																			
初回講義日に伝える。																			

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	キャリアデザイン (Career Design)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目													
担当教員	夏目 千恵子																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
キャリアデザインとは、自分の職業人生を自らの手で主体的にデザインすることです。この授業では、主体的にデザインできるスキルを身につけることができるような授業を行います。																					
授業目標：																					
(1)キャリア形成の上での転機の存在を知り、立ち止まって振り返り、修正することが可能であることを理解する。(2)自分の意見や考えを他者に伝えることができる。(3)PDCAサイクルに基づいた行動計画を立てることができる。(4)コミュニケーションを図る上で必要なマナーを習得する。以上4点を本科目の目標とします。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○						○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション キャリアとは何か				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
2	キャリアデザイン1 これまでの自分を振り返る				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
3	キャリアデザイン2 人生における自分の役割				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
4	キャリアデザイン3 未来の自分（ライフイベント・人生の転機）				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
5	社会を知る1 社会と自分のキャリアの関連性				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
6	社会を知る2 働くとは何か				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
7	社会におけるルールのいろいろ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
8	社会人基礎力について				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
9	好感をもたれる人「第一印象」				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
10	言葉遣い				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
11	コミュニケーション「聞く、話す、話し合う」				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
12	電話応対				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
13	訪問のマナー				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
14	文書作成				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
15	まとめ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
教本：					参考文献：																
稻本恵子・北村伊都子・白井弘子・田中美和・太原靖一郎・和田百子著「キャリアデザイントーレーニング～キャリア理論／自己理解／社会人基礎力」(晃洋書房)					なし																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験(60%)、レポート(20%)、平常点(20%)。																					
学生へのアドバイス： 変化の激しい世の中では自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたら良いか、授業を通じて考えていきましょう。																					
オフィスアワー： 月曜日の昼休み																					

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義									
授業科目(英文)	社会教育課題研究 (Studies on Issues in Social Education)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目										
担当教員	増田 裕彦																	
履修条件	前提科目	なし						その他	なし									
授業概要:																		
本授業では、生涯学習支援のための社会教育施設の活動や運営における課題について受講者自らが調べ把握する。受講者は、社会教育施設ごとに分担を決めて、その施設の実態を調べ、その課題を見つけ出し、その課題の解決法を案出する。こうした調査研究をする過程で、グループ・ワークやディスカッションの方法も併せて学ぶ。																		
授業目標:																		
テーマ:社会教育施設の課題と運営																		
授業の到達目標:社会教育施設が生涯学習支援のためにかかる課題を理解し、グループ・ワークやディスカッションを通じ、それらの諸問題について自ら考え発表できる。																		
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)																		
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
			○			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																		
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態										
1	イントロダクション				事前:特になし 事後:振り返りペーパー作成			講義90分										
2	社会教育・生涯教育の法と制度(1)				事前:参考文献の学習 事後:課題の調査			講義90分										
3	社会教育・生涯教育の法と制度(2)				事前:参考文献の学習 事後:課題の調査			講義90分										
4	社会教育職員の仕事と役割				事前:参考文献の学習 事後:課題の調査			講義90分										
5	社会教育施設と指定管理者制度				事前:参考文献の学習 事後:課題の調査			講義90分										
6	社会教育施設をめぐる現状と課題(1) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
7	社会教育施設をめぐる現状と課題(2) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
8	社会教育施設をめぐる現状と課題(3) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
9	社会教育施設をめぐる現状と課題(4) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
10	社会教育施設をめぐる現状と課題(5) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
11	社会教育施設をめぐる現状と課題(6) ～グループ・ワーク～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			ディスカッション90分										
12	課題解決を目指して(1) 一個人研究発表～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			プレゼンテーション90分										
13	課題解決を目指して(2) 一個人研究発表～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			プレゼンテーション90分										
14	課題解決を目指して(3) 一個人研究発表～				事前:参考文献の学習 事後:振り返りペーパー作成講義			プレゼンテーション90分										
15	まとめ				事前:レポート作成 事後:レポート作成			講義90分										
教本:																		
参考文献:																		
堀薰夫・三輪健二「生涯学習と自己実現」放送大学教育振興会、2006年、 ¥2,700																		
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。																		
(1) 授業参加状況等(40%) (2) グループワークへの参加状況(30%) (3) 期末レポート(30%)																		
学生へのアドバイス:																		
学びの楽しさを体験してほしい。																		
オフィスアワー:																		
初回講義日に伝える。																		

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	実習								
授業科目(英文)	社会教育実習 (Social Education Practice)					科目分類	社会教育主事・社会教育士科目										
担当教員	増田 裕彦																
履修条件	前提科目	社会教育経営論Ⅰ・Ⅱ、社会教育支援論Ⅰ・Ⅱを履修していることが好ましい															
	その他	ボランティア論、博物館経営論、高齢化と社会教育を履修していることが好ましい															
授業概要:	実習は社会教育の核であることから実習ノートを書かせ、各施設の担当者とのコミュニケーションを取りながら実習を行う。自宅付近の社会教育施設や大学付近の公民館において実践的な実習を行い。実習終了後に内容の検証や反省、まとめをおこなう。従って、土曜日・日曜日の行事が多い。																
授業目標:	課程運営を通じた大学の社会貢献・地域貢献、アクティブラーニング、サービスラーニングによる主体的に社会で生きる力を育成する。また、社会教育施設に関する基本的知識・能力を実習によって獲得することをねらいとする。従って、多様な社会的領域に対応することができる人材の育成を到達目標とする。																
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																	
知識・技能の習得		思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養												
		○			◎												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																	
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態									
1	社会教育士・主事の仕事と実習について				事前：演習等の科目を復習 事後：各自の予定を確認する			講義									
2	実習を前提とした自宅近隣の社会教育施設を調べ、概要をまとめる。				事前：特になし 事後：施設に実習可能か確認			調査									
3	実習にあたっての注意事項　まとめ				事前：実習内容の調査 事後：実習の注意点を確認			まとめ									
4	実習にあたっての注意事項　発表（パワーポイント）				事前：パワーポイントの準備 事後：実習の準備			発表									
5	近隣施設への実習　1				事前：近隣施設の調査 事後：見学・実習の反省			実習									
6	近隣施設への実習　2				事前：継続して実習 事後：見学・実習の反省			実習									
7	近隣施設への実習　3				事前：継続して実習 事後：見学・実習の反省			実習									
8	近隣施設への実習　結果・まとめ				事前：実習内容のふり返り 事後：反省と記録			まとめ									
9	近隣施設への実習　発表会（パワーポイント）				事前：発表の準備 事後：実習で得たものの確認			発表									
10	社会教育施設実習準備　施設概要等の調査				事前：施設概要の確認 事後：調査内容のまとめ			講義・調査									
11	社会教育施設見学				事前：まとめの確認 事後：見学内容のまとめ			見学・まとめ									
12	森の里公民館実習　1				事前：実習準備 事後：実習内容のふり返りと反省			実習									
13	森の里公民館実習　2				事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省			実習									
14	森の里公民館実習　3				事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省			実習									
15	森の里公民館実習　4				事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省			実習									

16	森の里公民館実習 5	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
17	森の里公民館実習 6	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
18	森の里公民館実習 結果・まとめ	事前：実習全体のふり返りと反省 事後：実習のまとめ	まとめ
19	森の里公民館 発表会（パワーポイント）	事前：まとめに基づき発表準備 事後：実習の課題を確認	発表会
20	厚木南公民館実習準備 施設概要等の調査	事前：施設概要の確認 事後：調査内容のまとめ	調査
21	厚木南公民館見学	事前：まとめの確認 事後：見学内容のまとめ	見学
22	厚木南公民館実習 1	事前：実習準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
23	厚木南公民館実習 2	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
24	厚木南公民館実習 3	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
25	厚木南公民館実習 4	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
26	厚木南公民館実習 5	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
27	厚木南公民館実習 6	事前：反省に基づく準備 事後：実習内容のふり返りと反省	実習
28	厚木南公民館実習 結果・まとめ	事前：実習全体のふり返りと反省 事後：実習のまとめ	まとめ
29	厚木南公民館実習 発表（パワーポイント）	事前：まとめに基づき発表準備 事後：実習の課題を確認	発表会
30	実習に基づき社会教育士・主事についてまとめる	事前：実習における課題の確認 事後：まとめを通して資格確認	まとめ
教本： 特にない		参考文献： 実習中に指示する	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 具体的には①社会貢献・地域貢献をしたか。②社会教育施設の基本的知識・能力がついたか。③多様な領域での活かせるコーディネート力がついたか。 実習状況（50%）、まとめの発表（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 社会教育施設、特に公民館は行事が土日となり、実習も必然的に土日となることが前提となる。またパワーポイントによるまとめの発表も行う。			
オフィスマナー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	生涯学習概論 I (Life Learning I)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目													
担当教員	夏目 千恵子																				
履修条件	前提科目	なし			その他	なし															
授業概要：																					
生涯学習は、わたしたち一人一人が自らすんで行うことを基本とするものであり、できるだけ自分にあったやり方を選びながら生涯を通じて行うものです。また、学校や地域社会の中で行われるだけでなく、わたしたちのスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものです。「生涯学習」について学んでいきます。																					
授業目標：																					
(1)生涯学習・社会教育関係施設の目的・役割等について説明できる。(2)生涯学習・社会教育関係施設における学習成果の活用支援について説明することができる。(3)学習プロセスにおいて提供すべき学習支援情報の種類や留意点等について説明することができる。以上3点が本科目の目標です。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○						○															
授業計画・事前学習・事後学習・形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
2	生涯学習とは何か				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
3	生涯にわたる人間形成				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
4	生涯学習を支える思想				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
5	生涯学習の現代的課題				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
6	生涯学習の多様な学習方法				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
7	行政による生涯学習の振興				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
8	民間団体・機関による生涯学習支援				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
9	生涯学習支援としての大学開放				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
10	生涯学習にかかる人的支援				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
11	施設に基づいた生涯学習活動				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
12	職業能力開発の生涯学習				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
13	伝統として息づく日本の生涯学習				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
14	諸外国の生涯学習				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
15	まとめ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
教本：					参考文献：																
香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編著「よくわかる生涯学習 改訂版」ミネルヴァ書房					なし																
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%)。																					
学生へのアドバイス： できるだけ博物館や美術館を訪問し、学芸員の仕事や社会教育士（主事）の仕事を理解すること。																					
オフィスアワー： 月曜日のお昼休み																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義												
授業科目(英文)	生涯学習概論Ⅱ (Life Learning Ⅱ)					科目分類	社会教育主事・社会教育士科目														
担当教員	夏目 千恵子																				
履修条件	前提科目 その他	生涯学習概論Ⅰを受講していること なし																			
授業概要：																					
生涯学習論1を受けて、生涯学習と社会教育、学校教育などの関係を明らかにし、次いで、わが国の社会教育の歴史を辿りながら生涯学習の現在ができるだけわかりやすく、できるだけ具体的に解説します。生涯学習の方法や社会教育行政の特質、社会教育計画、生涯各期の教育課題、生涯学習と社会教育をめぐる問題についても概観します。																					
授業目標：																					
(1)生涯学習、社会教育、生涯教育、生涯学習社会等の概念について説明できる。(2)生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育との関係について説明できる。(3)生涯学習推進に関わる法令、行政の仕組み、施策について説明できる。(4)社会教育の意義、内容、方法・形態について説明できる。(5)社会教育関係の指導者としての社会教育主事、司書、学芸員、社会教育委員、公民館主事、青少年教育施設の指導系職員、ボランティア・リーダー等の職務や役割について説明できる。以上5点がこの授業の目標です。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養															
○						○															
授業計画、事前学習・事後学習、形式																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態														
1	オリエンテーション —授業のテーマや到達目標などについて解説する—				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
2	生涯教育論の登場				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
3	生涯学習と社会教育				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
4	生涯学習と社会教育の歴史(1)				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
5	生涯学習と社会教育の歴史(2)				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
6	生涯学習と学校教育				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
7	生涯学習関連行政の仕組み				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
8	生涯各期の教育課題				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
9	生涯学習と社会教育の計画				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
10	生涯学習の方法と内容				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
11	学習プログラムの編成				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
12	生涯学習と社会教育施設				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
13	生涯学習と社会教育職員				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
14	生涯学習と社会教育をめぐる課題				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
15	まとめ				事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク50分														
教本：					参考文献：																
佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房2020年 第2次改訂版																					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%)。																					
学生へのアドバイス： 生涯学習論1を修得した上で、生涯学習論2を履修してください。																					
オフィスアワー： 月曜日のお昼休み																					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	生涯学習支援論 I (Support for Lifelong Learning I)					科目分類	社会教育主事・社会教育士科目		
担当教員	中川 洋太			履修条件	前提科目	なし	その他	なし	
授業概要:	生涯学習支援論は、多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、学習プログラムの構成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の内容を扱う授業である。								
	本授業 I は、生涯学習及び社会教育の学習理論を理解することを基本的な学習課題としている。教育学の基礎学習理論、成人教育理論、職業教育、キャリア教育、青少年・高齢者・ボランティア等に関する学習理論の理解を深め、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である社会教育主事として、活動するために必要な考え方や知識、能力、資質の基礎を培うこととする。								
	課題解決学習(以下、PBL) やグループワーク(以下、GW) 中心の授業を行うので継続的な出席が求められる。遅刻は、原則認められない。(予習・復習の必要性)								
	GW を通して課題解決等を進めるため、自身の考え方等を事前に整理(予習)し、振り返り(復習)を行うことが求められる。								
授業目標:	テーマを社会教育主事資格取得希望者のための「生涯学習の支援理論入門」とし、以下三点を到達目標とする。 1. 「生涯学習・社会教育支援のための諸学習理論の考え方や内容・方法」について理解できたか。 2. 多様な「学習者」への効果的な学習支援方法の理解を深め、それをもとに学習者を支援する内容や方法を考えることができたか。 3. さらに今後の「学習者」のための効果的な学習支援方法や「社会参加」の方法や内容について考えることができたか。								
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に○、重要に○1つ)	知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
	○							○	
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1	生涯学習支援のための教育学基礎理論①－生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係				事前: 各教育領域の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
2	生涯学習支援のための教育学基礎理論②－生涯学習理論				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
3	生涯学習支援のための教育学基礎理論③－成人教育の学習理論				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 発表 15 分		
4	生涯学習支援のための教育学基礎理論④－キャリア教育・職業教育理論				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 発表 15 分		
5	生涯学習支援のための社会教育行政組織と財政基盤－国及び地方社会教育組織・財政				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 発表 15 分		
6	生涯学習支援のための社会教育関係職員－社会教育主事・社会教育士・社会教育委員				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
7	社会教育施設 1 - 公民館の歴史・現状・課題				事前: 公民館の役割等調査 事後: PBL の振り返り		現地視察 45 分、PBL 等 30 分 講義 15 分		
8	社会教育施設 2 - 博物館・図書館の歴史・現状・課題				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 発表 15 分		
9	青少年の生涯学習支援理論と施策の展開と課題				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
10	高齢者の生涯学習支援理論と施策の展開と課題				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
11	生涯学習・社会教育と学習者理解・人材育成 1 - ボランティア活動の理論とその実践				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 発表 15 分		
12	生涯学習・社会教育と学習者理解・人材育成 2 - 「大人の生きる力」・「成人力」・「キー・コンピテンシー」理論				事前: 教本の講読 事後: GW の振り返り		講義 45 分、GW 等 30 分 講義 15 分		
13・14	地域住民の生涯学習支援(学校への支援及び学校との連携・協働)とその課題及び課題解決方法考察、生涯学習支援における学校教師の役割と専門性の課題				事前: 協働活動の事例収集 事後: GW 及び PBL の振り返り		講義・PBL 90 分(校外授業) PBL・GW 60 分、発表 15 分、 講義 15 分		
15	生涯学習支援の今後の課題 - 本授業のまとめと将来のための学習課題				事前: 教本の講読 事後: 発表の振り返り		講義 45 分、PBL 等 30 分 発表 15 分		

教本： 鈴木眞理・津田英二 編『生涯学習の支援論』学文社、2003年、 ¥2,300(税別) (必要に応じて、最新の印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。)	参考文献： 佐藤晴雄著『生涯学習概論（第2次改訂版）』学陽書房、2020年 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携』（平成27年度版） 第一法規 文部科学省生涯学習政策局調査企画課編『平成23年度 社会教育調査報告書』文部科学省、2013年 遠藤克也編『地域教育論－生涯学習から社会教育へ－』川島書店、2011年 立田慶裕也著『生涯学習の理論－新たなパースペクティブ－』福村出版、2011年 浅井経子編『生涯学習支援の道具箱』社会通信教育協会、2019年 日本生涯教育学会編『生涯学習研究e事典』日本生涯教育学会、 <a href="http://ejiten.jaea.or.jp/">http://ejiten.jaea.or.jp/</a> 、2005年
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート内容等（25%）、発表内容（50%）で総合評価する。授業参加状況等では、グループワークや授業への寄与度等における主体的な参加態度を重視する。	
学生へのアドバイス： 社会教育主事・社会教育士として求められる資質等の基礎を培うために、講義もさることながらグループワーク・発表を取り入れた授業を行う。そのため、継続的な出席が必要で、遅刻は原則認められない。	
オフィスマリー： 初回講義日に伝える（大学外における視察・演習や授業終了後の待機について）。	

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習												
授業科目(英文)	生涯学習支援論 II (Support for Lifelong Learning II)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目													
担当教員	中川 洋太																				
履修条件	前提科目	生涯学習支援論 I			その他	なし															
<b>授業概要 :</b> 生涯学習支援論は、多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、学習プログラムの構成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の内容を扱う授業である。 本授業 II は、生涯学習及び社会教育の学習理論の理解を深めた「生涯学習支援論 I」を基礎として、その応用と学習プログラムの編成及び参加型学習の実際とファシリテーション技法の習得を学習課題としている。「参加型学習」を中心とした学習プログラムのつくり方や参加型学習のすすめ方を紹介・検討する。また、社会教育、学校教育民間団体や企業などで行われる多様な学習・研修活動の実際を知り、今後の実践活動の支援につなげることに必要な考え方や知識、能力、資質を培うことを目的としている。 課題解決学習(以下、PBL)、グループワーク(以下、GW)を中心の授業を行うので継続的な出席が求められる。遅刻は、原則認められない。(予習・復習の必要性) GWを通して課題解決等を進めるため、自身の考え方等を事前に整理(予習)し、振り返り(復習)を行うことが求められる。																					
<b>授業目標 :</b> テーマを社会教育主事資格取得希望者のための「生涯学習の支援実践の基礎」とし、以下三点を到達目標とする。 1. 「生涯学習・社会教育支援のための諸学習理論の考え方や内容・方法」について理解できたか。 2. 「参加型学習」を中心とした学習プログラムのつくり方や参加型学習のすすめ方を理解し、それをもとに多様な学習者を支援する内容や方法を考えるとともに「参画型学習」の必要性について考えることができたか。 3. ファシリテーション技法の基礎・基本を習得することができたか。																					
<b>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に○、重要に○○1つ)</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width: 33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width: 33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	○							
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																			
○	○																				
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>																					
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)			事前・事後学習(学習課題)			授業形態														
1	I. 学習プログラムの編成、参加型学習の実際 ①学習プログラムのデザイナー学習プログラムのしくみと構造			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
2	②学習プログラムの「企画・立案」力・学習プログラムの「デザイン」力・学習プログラムの「運営」力			事前: 教本の講読 事後: 発表の振り返り			講義15分、PBL等60分、発表15分														
3・4	③④参加型学習の20の手法 - 参加型学習はどのようにすすめられるのか。			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、実習45分、発表15分(×2)														
5・6	⑤⑥参加型学習の目的及び支援策 - 参加者への活動支援策検討及びスタッフの関わり方 -			事前: 参加者と企画者の支援についての考察 事後: PBL・GWの振り返り			現地視察90分 PBL・GW75分 講義15分														
7	⑦参加型学習の全体像 - 3ステージ・4エンジン			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
8・9	II. ファシリテーション技法と参加型学習 ⑧協働を促進するファシリテーションの技術の習得及び参加型学習から参画型学習への考察 ⑨発展するファシリテーション応用分野			事前: 協働活動の調査 事後: PBL・GW・発表の振り返り			現地視察・実習90分 PBL・GW・発表70分 講義20分														
10	⑩場のデザインのスキル一場をつくり、つなげる			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
11	⑪対人関係のスキル - 受け止め、引き出す			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
12	⑫構造化のスキル - かみ合わせ、整理する			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
13	⑬合意形成のスキル - まとめて、分かち合う			事前: 教本の講読 事後: GWの振り返り			講義30分、GW等45分、発表15分														
14・15	⑭⑮参画型学習プログラムの編成と課題解決を考えたファシリテーションの実践に向けて - 本授業のまとめ			事前: プログラム作りに向けての現地状況把握及び支援策の検討 事後: GW・発表の振り返り			講義10分、実習・PBL・GW80分 発表・GW60分 講義30分														

<p>教本： 広瀬隆人 他著『生涯学習支援のための参加型学習（ワークショップ）のすすめ方―「参加」から「参画」へ』ぎょうせい、2000年、¥2,300(税別) (必要に応じて、公共団体が作成した印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。)</p>	<p>参考文献： 佐藤晴雄著『生涯学習概論（第2次改訂版）』学陽書房、2020年 ウイリアム・ロスウェル著『組織における成人学習の基本～成人の特長を理解し、主体的な学習を支援する～(ATD/ASTD グローバルベーシックシリーズ)』ヒューマンパリュー、2017年 中野民雄 他『ファシリテーションの教科書：組織を活性化させるコミュニケーションとリーダーシップ』東洋経済新聞社、2014年</p>
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、発表（50%）で総合評価する。授業参加状況等では、グループワークや授業への寄与度等における主体的な参加態度を重視する。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 社会教育主事・社会教育士として求められる資質等の基礎を培うために、講義もさることながらグループワーク・発表を取り入れた授業を行う。そのため、継続的な出席が必要で、遅刻は原則認められない。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える（大学外における視察・演習や授業終了後の待機について）。</p>	

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習						
授業科目(英文)	博物館経営論 (Museum Management)						科目分類	社会教育主事・社会教育士科目							
担当教員	小林 克														
履修条件	前提科目	なし			その他	なし									
授業概要:															
博物館の経営基盤がどのように成り立っているのか、実例に基づき解説。博物館経営の目的を明らかにし、博物館における使命・計画・実施・評価の環状の流れについて知り、創造都市論的視座にたち、地域文化の拠点としての博物館の役割を理解する。具体的にはマーケティングの実施、広報、ショップ等の付帯事業、危機管理や倫理規定、市民参加、地域連携等について解説する。															
授業目標:															
現代の博物館では様々な事業を地域と連携して展開していることを、東京都江戸東京博物館等での実務経験に基づいて示し、経営論的視座から解説し、以下を到達目標とする。①博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解する。②ミュージアムマネジメント=博物館経営に関する基礎的な概念を説明できるようとする。③具体的に博物館経営を実践するための基礎的能力を身につける。															
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）															
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養									
◎			○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。現代社会における博物館経営論の必要性を考える。新聞記事の読み込み。			事前：博物館経営についてネットで調べる。 事後：授業の進行、今後の予定等について資料を読み再確認しておく。			講義(70分)、 アンケート(20分)								
2	経営基盤1 博物館の行財政制度 博物館の行財政制度と財務の実態。地方自治体と博物館との関係を示す。			事前：博物館法に目を通しておく。国や地方自治体の予算と決算について調べる。 事後：予算と決算について、まとめておく。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
3	経営基盤2 博物館の施設と設備 施設と設備、予算と建築の関係、ユニバーサル化について解説する。			事前：バリアフリーについて調べる。 事後：バリアフリーと展示手法について。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
4	経営基盤3 博物館の組織・職員 博物館の組織のあり方。業務委託の実態について。			事前：博物館に必要な職種について考える。 事後：博物館スタッフの職種について。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
5	経営基盤4 ミュージアムマネジメント 博物館経営とは何か。運営と経営の違いを考える。			事前：経営と運営について、辞書等を引く。 事後：博物館経営とは何かを確認。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
6	博物館の経営1 PDCAサイクルと評価 PDCAサイクルの必要性、計画、実施・評価について解説する。評価の積み上げと定量評価と定性評価について。			事前：PDCAサイクルとは何か調べる。 事後：博物館経営のPDCAについて			講義(80分)、 小テスト(10分)								
7	博物館の経営2 博物館の危機管理と倫理 防止管理、リスクマネジメントの必要性、博物館の倫理規定と学芸員の行動規範について。			事前：コンプライアンスについて調べる。 事後：授業内容を再確認する。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
8	博物館の経営3 博物館広報 広報と広告について。博物館広報を具体的に例示し、プレスリリース等について。			事前：広告と広報の違いは何か調べる。 事後：広告と広報の違いについて確認する。			講義(30分)、 演習(60分)								
9	博物館の経営4 ミュージアムショップとレストラン これらの施設が博物館経営上重要であることを示す。			事前：好きなショップについて、調べる。 事後：ショップと販売戦略について確認。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
10	博物館の経営5 ミュージアムグッズと収蔵資料 売れるオリジナルグッズの作り方、販売について。			事前：博物館のオリジナルグッズについて、調べておく。 復習：売れるオリジナルグッズの作り方			講義(45分)、 演習(45分)								
11	博物館における連携1 市民参画 ボランティアや友の会について。パートナーシップ制度等。			事前：用語についてネット等で調べる。 事後：ボランティア教育の必要性について。			講義(70分)、 ディスカッション(20分)								
12	博物館における連携2 地域振興と博物館 地域や企業との連携の具体的な事例を解説し、実践について学ぶ。			事前：特別展示のチラシを入手し、協賛や主催、協力の違いについて。 復習：授業の内容を再確認する。			講義(80分)、 小テスト(10分)								
13	博物館における連携3 都市の再生と芸術文化 創造都市論の中での市場創造活動、環境クラスターについて。			事前：創造都市論について調べる。 復習：授業の内容を再確認する。			講義(70分)、 小レポート作成(20分)								

14	ミュージアムマネジメントの実際 ミュージアムマネジメントの進め方について実践的に学ぶ。	事前：事前配布資料を読み込む。 復習：授業の内容を再確認する。	講義(60分)、 演習(30分)		
15	まとめ 課題レポート内容の発表と提出。全体をまとめた説明。	事前：最終課題について提出物を確認。 復習：全般的な流れと体系を理解する。	講義(45分)、 ディスカッション(45分)		
教本： 小林克『新博物館学—これからの博物館経営—』同成社		参考文献： 上山信一・稲葉郁子『ミュージアムが都市を再生する』日本経済新聞社 フリップ・コトラー、ニール・コトラー『ミュージアムマーケティング』 第一法規			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。					
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントから定期試験等は出題します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。					

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)					科目分類	社会教育主事・社会教育士科目								
担当教員	仲伯維			履修条件	前提科目	なし	その他	なし							
授業概要:	「ボランティア論」は現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とし、学生たちの自主性と社会参加意思を高める授業である。大きな災害が起きたときは、国や自治体などの公共機関のほかに、ボランティア団体による活動が、被災地の救援や救護、復旧に大きな役割をはたしている。本講義は改めて防災への関心を喚起し、意識を高める必要があるという考え方のもと展開している。また、救急救命講習を受ける学生が増えている現状も鑑み、救援活動の実践的な学習を通じて、ボランティア活動の内容や知識が身に付くよう授業を行う。単なる座学の学習に終わらせず、厚木市社会福祉協議会で登録している大学の任意団体「松蔭大学地域ボランティア」の準隊員として、課外の自由時間で実際にボランティア活動（15時間以上）を体験することを通じてボランティアの世界を味わい、自分なりの「ボランティア論」を作り上げ、21世紀を生きる我々の生き方をともに考えることを目指す。														
授業目標:	松蔭大学建学精神「知行合一」の理解と地域貢献による自分なりの考え方を持ちながら、具体的な達成目標としてはさしあたり次のようなことを考えているので、各自、自分なりの学習目標を設定して受講してください。														
	①ボランティア活動を実際に体験し、その体験を振り返り、自分のボランティア・イメージを検証する ②ボランティアの基本的な理念を理解する ③ボランティアのいくつかの活動分野について知る ④ボランティアを受ける側の考え方とニーズを理解する ⑤ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する ⑥災害と防災に関する基礎知識を修得し災害対応能力の基礎を養う ⑦21世紀におけるボランティアの社会的意義について考える ⑧ボランティアに関する自分なりの考え方を確立する														
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要なに○○1つ）	<table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </table>									知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○		○
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
○		○													
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態								
1	オリエンテーション（開講の趣旨、学習の進め方、約束事） ボランティアの理念を講ずる。			事前：なし 事後：配布資料を次回までざっと読む			講義90分								
2	ボランティアの意義を考える。ボランティアの「四原則+ワン」について理解する。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、 ディスカッション30分								
3	配布資料「ボランティアの楽しさ」を読み考える。 【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、 ディスカッション20分								
4	大学におけるサービスラーニングとボランティア教育			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、 ディスカッション30分								
5	ボランティアの組織作り：P-G-O-Cトレンド			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義60分、 ディスカッション30分								
6	無償ボランティアと有償ボランティア			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義20分、実習50分、 ディスカッション20分								
7	地域ボランティア活動：子ども・若者的心に寄り添う社会教育			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義90分								
8	ワークショップ・クロスロード【授業最後にこの授業の振り返り400字前後を提出する】			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義20分、実習50分、 ディスカッション20分								
9	被災地での活動報告（福島県浪江町、南相馬市、二本松市）			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、 ディスカッション20分								
10	イギリスにおけるギャップイヤー（Gap Year）の成立と発展。日英ギャップイヤー			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、 ディスカッション20分								
11	厚木市消防本部と連携、「救急救命講習」を学習（ゲスト）			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義90分								
12	ワークショップ：避難所運営シミュレーション・HUG			事前：配布資料の事前読む 事後：配布資料の事後読む			講義70分、 ディスカッション20分								
13	ボランティア活動は主体的・自律的で相互実現を図る活動・花田えくぼ氏の詩。最終レポート指示			事前：配布資料の事前読む 事後：発表準備、最終レポート準備			講義50分、 ディスカッション40分								
14	ボランティアについて考えたこと、体験活動成果発表（感じたことをノートにまとめ、復習シート配布）、最終レポート指示			事前：発表準備 事後：発表準備			講義20分、 発表準備70分								
15	ボランティアレポート提出（ボランティア体験活動報告書）			事前：発表準備 事後：最終レポート準備			講義20分、発表70分								

教本： 資料配布	参考文献： ・ケン・アレン、『ボランティアが変える世界』アルク ・金子郁容、『ボランティアーもうひとつの情報社会』岩波新書
成績評価の方法、評価基準：	
1. 授業には極力すべて出席すること 2. ボランティア体験活動（課外活動）が要求しないが、15時間以上行った場合には評価の上加点する。 3. 以下の4項目を参考にしながら、各自の自己評価を尊重して評価する。 ただし、ボランティア体験活動についての評価ではなく、ボランティアについて学んだ内容に関して評価する。	
平常点（実施するミニレポートの内容） 30% ボランティア体験活動報告書（15時間以上の活動量と振り返りの内容） (ボーナスポイント) 最終レポート（1,200字以上の分量と内容） 50% 提出物（学習目標、活動計画書、活動報告、自己評価シート等） 20%	
学生へのアドバイス：	
授業についての質疑、活動の交流・討論など、ボランティア学習にふさわしい受講生の積極的な授業参加を期待する。	
オフィスアワー：	
初回講義日に伝える。	